

平成27年度沖縄振興特別推進市町村交付金事業計画 成果目標(変更)

平成28年3月18日

那覇市	1	嘉手納町	172
宜野湾市	30	北谷町	176
石垣市	39	北中城村	179
浦添市	51	中城村	186
名護市	68	西原町	192
糸満市	75	与那原町	200
沖縄市	83	南風原町	206
豊見城市	96	渡嘉敷村	219
うるま市	103	座間味村	222
宮古島市	113	粟国村	226
南城市	118	渡名喜村	230
国頭村	126	南大東村	232
大宜味村	132	北大東村	235
東村	135	伊平屋村	237
今帰仁村	138	伊是名村	244
本部町	143	久米島町	248
恩納村	148	八重瀬町	253
宜野座村	152	多良間村	262
金武町	156	竹富町	264
伊江村	160	与那国町	270
読谷村	165		

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
1		歴史ある那覇のまち、観光客誘客促進・受入基盤強化事業	H24～H33					
1	1	那覇市伝統工芸ブランド確立事業	H24～H33	個性的な本市の伝統工芸品を国内外にアピールするため、イベントや宣伝等を行うとともに、本市工芸品を展示・販売・体験できる那覇市伝統工芸館の機能強化を行う。	・伝統工芸品のイベント 1回 ・伝統工芸館のイベント 1回 ・特別展示室の企画展 2回 ・伝統工芸館販売所空調設備改良	・イベント 各800人 ・企画展 各1200人(平成25年:837人) ・伝統工芸館販売所環境改善	(今後の展開方針) ・本市伝統工芸品の企画展及び催事の実施継続しながら、県外を対象とした宣伝広告の拡大。 ・本市伝統工芸品認知度普及啓発。 ・機能強化により、イベント回数及び来客数を拡大。	7月変更(計画変更に伴う事業内容変更)
1	2	プラネタリウム番組開発等事業	H24～H27	観光施設として、牧志駅前ほしぞら公民館のプラネタリウムをグレードアップするため、沖縄独自の番組の制作及び有名番組を賃借し投影を行い、観覧者数を増やす。	・オリジナル番組2本を制作 ・有名番組1本を賃借し投影	プラネタリウム年間観覧者数27,000人(基準値:平成23年 22,255人)	(今後の展開方針) オリジナル番組を制作するとともに、プラネタリウム観覧者の満足度96%(H25年度沖縄県観光統計実態調査と同じ)を目指す	
1	3	観光案内所外国人対応スタッフ配置事業	H25～H33	観光案内所を運営する那覇市観光協会に対し、英語、中国語、韓国語の話せるスタッフを配置するための支援を行う。	・英語、中国語、韓国語での観光案内の実施に必要なスタッフ(常勤7名、パート4名)配置のための支援 ・案内所施設に係る光熱水費等の経費を支援 ・アンケートの実施等による利用者の満足度及びニーズの把握	外国人観光客の案内所の利用者:年間8,500人(基準:平成25年度7,472人)	(今後の展開方針) H28～H33:外国語対応スタッフを配置する那覇市観光協会への事業支援実施	
1	4	バス停上屋整備事業	H24～H28	観光都市としてのグレードアップを図るため、観光客等が沖縄の強烈な日差しや風雨を避け快適に公共交通機関を利用してもらえるよう、バス停上屋を整備する。	・バス停上屋の設置:12基	バス停上屋設置率:90%(45/50基)	(今後の展開方針) H28年度 上屋設置(5基) H29年度 利用者意識調査実施 意識調査結果を精査し本事業実施の方針を確定する。	
1	5	交流オアシス整備事業	H24～H29	観光都市としてのグレードアップを図るため、公有地及び道路残地等を活用した小広場、オープンスペース(交流スペース)の整備を行い、観光客と市民との交流・憩いの場を創出する。	・交流スペースの設置:6箇所	交流スペース設置率:29%(6/21箇所)	(今後の展開方針) H28年度 設置工事(7箇所) H29年度 " (8箇所) H30年度 利用者等意識調査実施 意識調査結果を精査し本事業実施の方針を確定する。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1	6	歴史散歩道整備事業	H24 ～ H32	観光都市としての景観・美観の創出・継承のため、歴史的な由来のある散歩道を調査選定し、路面改良、道路緑化・美化を行う。	・歴史散歩道設置：2地区	歴史散歩道設置率：60% (5,560/9,760m)	(今後の展開方針) H28年度 整備工事 (3地区) H29年度 " (2地区) H30年度 ~ " (6地区) H33年度 利用者等意識調査実施 意識調査結果を精査し本事業実施の方針を確定する。	
1	7	亜熱帯庭園都市の道路美化事業	H24 ～ H33	観光都市としての景観・美観の創出・継承のため、幹線市道や観光地周辺市道の街路樹の緑化や美化を推進する。	・幹線道路及び観光地周辺市道の除草18,000㎡発注 ・街路樹の剪定：350本発注 ・上間三原線植栽工事：50本発注 ・天久安里線植栽工事：750㎡発注	道路美化整備率：48% (20/41路線) ただし、剪定除草は含んでいない。 路線全体の整備が完了したものが対象。 天久安里線の中央分離帯緑化整備率：58% (0.94km / 1.6km)	(今後の展開方針) H28年度植栽工事(2路線)54% H29年度植栽工事(2路線)59% H30年度以降(17路線) 幹線道路等を美化・緑化することで、観光都市としての景観・美観が継承され、観光客の満足度(自然と調和したまちづくりだと感じている人の割合等)が高まる。	7月変更 (計画変更に伴う各目標変更)
1	8	ベランダ緑化推進事業	H24 ～ H33	観光都市としての景観・美観の創出・継承のため、ベランダ緑化推進事業としてのブーゲンビリアの苗等の配布を行う。	市花であるブーゲンビリアの育て方等の講習会を行い、市民にブーゲンビリアを育ててもらうことで、魅力的な観光地・まちづくりに官民あわせて取り組む。 ・講習会を10回/年開催し、苗を140鉢配布する。	講習会参加者数：70世帯以上	観光都市としての景観・美観の創出・継承に寄与するため、ブーゲンビリア苗等の配布を推進する。	
1	9	花いっぱい運動推進事業	H24 ～ H33	観光都市としての景観・美観の創出・継承のため、自治会、幼保小中学校、ボランティア団体等へ、市域を花でいっぱいにするための種子、草花苗等の配布を行う。	観光地スポットである福州園前等の花壇を1年を通して、花でいっぱいにし、魅力的な観光地・まちづくりに寄与する。 ・花壇の年間管理：8箇所	1年を通して花壇を花でいっぱいにするべく花壇の年間管理をしている通り沿いの近隣住民等に対し、満足度調査を行う。 ・満足度：70%	満足度調査の結果を今後の事業の展開へ活用し、満足度の向上を図る。 ・H28年度以降：満足度70%以上	
1	10	桜の名所づくり事業	H24 ～ H29	観光都市としての景観・美観の創出・継承のため、平成24年度実施の桜の育成環境調査に基づき、那覇、首里、真和志、小禄地域に桜の名所となる公園を整備する。 なお、今年度は、首里地区を整備する。	首里地区の桜の名所として、寒川緑地を整備する。 ・桜の植栽：約10本	桜の植栽計画：全体本数 177本 H25年度末：桜の植栽率(実績) 約67.8% H27年度末：桜の植栽率(予定) 約75.0%	植栽した桜が開花するには数年かかるため、開花した際には、来園者等への満足度調査等を実施し、事業効果を把握する。	

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1	11		デイゴ・リュウキュウマツ害虫対策事業	H24 ～ H33	観光都市としての景観・美観の創出・継承のため、県花であるデイゴや琉球松を守るための害虫駆除及び予防対策を行う。	・薬剤の樹幹注入：リュウキュウマツ 620本	・年間の枯損本数を5本未満にする。 (平成25年度枯損数6本)	(今後の展開方針) 害虫駆除及び予防のため継続して薬剤の樹幹注入を行う。	
1	12		那覇爬龍船競漕振興事業	H24 ～ H33	伝統に根ざしたイベントの支援強化と観光イベントとしての事業充実を図るため、「那覇ハーリー」で、「爬龍船競漕」を実施している那覇爬龍船振興会への事業支援を行う。	「那覇ハーリー」に対する支援	那覇ハーリー来場者数：200,000人 (基準値：平成23年 192,000人)	(今後の展開方針) H28～H33：那覇爬龍船振興会に対するの事業支援実施。H33まで年平均20万人の来場者数を目標。	
1	13		那覇大綱挽振興事業	H24 ～ H33	伝統に根ざしたイベントの支援強化と観光イベントとしての事業充実を図るため、「那覇大綱まつり」で、「那覇大綱挽」を実施している那覇大綱挽保存会への事業支援を行う。	「那覇大綱挽」に対する支援	「那覇大綱挽」来場者数：280,000人 (基準値：平成26年 273,000人)	(今後の展開方針) H28～H33：那覇大綱挽保存会に対するの事業支援実施。H33まで年平均28万人の来場者数を目標。	
1	14		琉球王朝祭り首里振興事業	H24 ～ H33	伝統に根ざしたイベントの支援強化と観光イベントとしての事業充実を図るため、「琉球王朝祭り首里」を開催している首里振興会への事業支援を行う。	「琉球王朝祭り首里」に対する支援	琉球王朝祭り首里観客動員数：80,000人 (基準値：平成23年 55,000人)	(今後の展開方針) H28～H33：首里振興会に対するの事業支援実施。H33まで年平均8万人の観客動員を目標。	
1	15		首里城祭「琉球王朝絵巻行列」支援事業	H25 ～ H33	本行列を本市の重要な観光資源として活用し、観光振興・観光誘客を図るため、「琉球王朝絵巻行列」を開催している首里城祭実行委員会への事業支援を行う。	首里城祭「琉球王朝絵巻行列」に対する支援	琉球王朝絵巻行列観客動員数：33,000人 (基準値：平成26年 33,000人)	(今後の展開方針) H28～H33：首里城祭実行委員会に対するの事業支援実施。H33まで年平均3万3千人の観客動員を目標。	
1	16		プロ野球キャンプ等支援事業	H24 ～ H33	スポーツコンベンションとして観光地の魅力アップを図るため、読売巨人軍春季キャンプの受入体制強化を図るとともに、公式戦の誘致活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・「那覇の日」誘客キャンペーン実施 ・大型テント設置・撤去業務委託 ・屋外ブルベン及びグラウンド整備等業務委託 ・奥武山野球場会議室等養生業務委託 ・奥武山野球場給排水仮設業務委託 ・陸上競技場・補助競技場整備業務委託 ・キャンプ期間中の警備 ・公式戦の開催支援 	読売巨人軍那覇キャンプ一日平均見学者数 8,000人/日 (平成24年度 5,796人/日)	(今後の展開方針) H28～H33：読売巨人軍春季キャンプの受入体制強化 目標値(指標)：一日平均見学者数：10,000人(H33)	

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1	17	プロ野球キャンプにぎわい創出事業	H24～H33	スポーツコンベンションとしての観光地の魅力アップを図るため、読売巨人軍春季キャンプ会場周辺に、出店、ステージイベント等を拡充して設置する。	・キャンプ期間中ステージイベント等の実施 ・案内施設等の設置・運営(インフォメーションブース、受付ブース、選手ケータリングブース、警備員控室、マスコミ控室、スタッフ控室、ゴミ箱の設置、各種案内看板の設置、夜間警備・キャンプ休養日警備) ・広報活動の実施	・読売巨人軍那覇キャンプー日平均見学者数8,000人/日 (平成24年度 5,796人/日) ・来場者満足度80%以上	(今後の展開方針) H28～H33:読売巨人軍春季キャンプ会場周辺のにぎわい創出 目標値(指標):一日平均見学者数:10,000人(H33)	
1	18	マチグラーのにぎわい事業	H24～H33	ひやみかちマチグラー館を観光施設として充実を図るため、当該施設を拠点としたイベントなどを開催し、当該地域を活性化させる	「ひやみかちマチグラー館を拠点としたイベントなどの実施(週4日以上開館)	集客目標:36,000人(1ヶ月4,000人×9ヶ月)	(今後の展開方針) H27～H33:マチグラーを拠点にイベントを実施	
1	19	国際通りトランジットマイル推進事業	H24～H33	本市産業の振興発展を図るため、国際通りで実施しているトランジットモールの実施主体である那覇市国際通り商店街振興組合連合会に対して事業支援を行う。	・国際通りトランジットモール環境整備の支援	トランジットマイル開催時の通行者数:20,500人/日(平成25年度:18,000人/日)	(今後の展開方針) H27～H33:トランジットマイルの事業支援 目標値(指標):トランジットマイル開催時の通行者数:23,000人(H33)	
1	20	万人エイサー踊り隊推進事業	H24～H33	伝統と文化に根差した観光誘客イベントとして、国際通りにて開催される「万人エイサー踊り隊」事業を推進する。	・国際通りをステージに6千人以上が出演する「万人エイサー踊り隊」の支援	万人エイサー踊り隊来場者数:94,000人(県外22,000人、県内72,000人) (平成25年 93,000人(県内外合計))	(今後の展開方針) H27～H33:万人エイサー踊り隊の事業支援 目標値(指標):来場者数100,000人(H33)	
1	21	那覇まちまーい推進事業	H24～H33	観光地としての魅力アップを図るため、那覇市観光協会が着地型観光メニューとして実施している「那覇まちまーい」事業を推進する。	着地型観光メニューとして実施している「那覇まちまーい」の実施	那覇まちまーいへの参加者数:12,000人(平成25年 9,244人)	(今後の展開方針) H28～H33:「那覇まちまーい」事業の推進。H33までに徐々に参加者数を増やし、自立できる体制を整える。	
1	22	歴史博物館企画展事業	H24～H33	那覇市歴史博物館を観光施設としてグレードアップさせるとともに、観光集客につなげられるよう歴史文化に関する企画展を開催する。	・企画展開催(年間4回) ・チラシ・ポスター作製(チラシ5,000枚×ポスター500枚×大型ポスター1枚)×年間4回 ・企画展パネル作製(年間4回) ・借用資料梱包運搬(年間3回)	歴史博物館来館者数:17,000人 (基準値:平成23年度14,746人)	(今後の展開方針) H27～H33:那覇の歴史文化に関する企画展を開催。 目標値(指標):来館者数20,000人(H33)	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
1	23	観光イベント安全確保事業	H24 ～ H33	伝統に根ざしたイベントの支援強化と、観光客の安全確保等を行うため、「那覇大綱挽まつり」「琉球王朝祭り首里」における雑踏警備を専門会社に委託する。	・那覇ハーリーにおける雑踏警備 ・那覇大綱挽まつり及び琉球王朝祭り首里における雑踏警備	・那覇ハーリー来場者数:210,000人 (平成26年 117,000人) ・「那覇大綱挽」来場者数:280,000人 (平成26年 273,000人) ・琉球王朝祭り首里来場者数:80,000人 (平成26年 85,000人)	(今後の展開方針) H28～H33:各イベントにおける雑踏警備。前年度の警備体制について常に見直しを図り、来場者の安全確保に努める。	
1	24	公衆無線LANサービス提供モデル事業	H24 ～ H29	国際通り等の主要観光スポットにおいて、外国人等観光客を対象に公衆無線LANサービスを提供し、国際観光都市としての魅力向上を図る。	・WIFIサービスの提供 (毎日6:00～25:00) ・アクセスポイント115カ所の運用	H27年度WIFI目標接続数 420,000回(月平均) 平成26年月平均415,396回	H27～H29:Wi-Fiサービスを提供することで、外国人観光客の誘客を図る。 沖縄県観光推進ロードマップ(策定中)の外国人観光客目標数の達成に取り組む。	
1	25	国際通り情報発信大型ビジョン活用事業	H24 ～ H33	国際通りに位置する「那覇てんぶすビジョン」を活用し、観光プロモーション映像等の放映、イベント中継、パブリックビューイング、にぎわい創出イベント等を実施する。	・観光プロモーション映像等の放映 (毎日9:00～20:00に放映) ・那覇大綱挽等のイベント中継(年4回以上) ・てんぶす前広場とビジョンを活用したにぎわい創出イベントの実施(年2回以上)	視聴者測定システムによる集計数 15,600人(月平均) 平成26年実績 14,673人(月平均)	(今後の展開方針) H27～H33:歩行者通行量の減少傾向があることから、H33年度の歩行者通行量11,2078人を目標に取り組む。(H21年度103,776人の8%アップ)	
1	26	景観まちづくり推進事業	H24 ～ H33	『亜熱帯庭園都市』那覇の個性をいかした美しい景観まちづくりと地域(観光)資源である那覇らしい風景の保全、再生、創出を図り、景観形成を促進するため、首里歴史エリア等において、よりよい景観形成を図るための具体的方策の手法を検討するための基礎調査等を行う。 また、「那覇市屋外広告物適正化推進計画」を推進するため、当該計画の位置付けられた施策を実施するための基礎調査等を行う。	・首里地区及び壺屋地区において、魅力ある屋外広告物等の誘導案を作成するための基礎調査等の実施 ・屋外広告物適正化推進計画を推進するための実態調査等の実施	・首里地区及び壺屋地区において、屋外広告物等の誘導案の作成。 ・屋外広告物適正化推進計画を推進するための規制・誘導手法案の作成。	(今後の展開方針) ・H28:誘導案を基に地域と協議 H29:屋外広告物協定地区の指定 ・H28年度:誘導手法案を基に屋外広告物の許可件数を約2割増加させ、良好な屋外広告物景観の向上を図る。(H28年度目標値:160件)	
1	28	首里金城町無電柱化推進事業	H25 ～ H31	王朝時代の佇まいを今に伝える貴重な首里金城町において、当該地域の石畳や石垣などの魅力を高め、更なる観光客等の誘客を図るため、当該地域の無電柱化を実施していく。平成27年度は無電柱化の実現に必要な用地の取得(地上機器設置箇所等)を行う。	・電線類等移設費補償:2路線 ・配線計画図の作成に係る用地取得	電線類等無電柱化率:20%(370/1,850m) ・配線計画図の作成に係る用地取得	(今後の展開方針) H28年度 移設補償金:2路線 H29年度 移設補償金:2路線 H30年度 移設補償金:2路線 H31年度 移設補償金:2路線	3月変更 (計画変更に伴う各目標変更)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1	29	歴史散歩道関連整備事業 (下水道マンホール等設置)	H25 ~ H29	観光都市としての景観・美観の創出・継承のため、歴史的な由来のある散歩道を調査選定し、路面改良、道路緑化・美化を行う「歴史散歩道整備事業」と一体的に、景観等に配慮した下水道マンホール等の設置を行う。	H27計画路線延長:2.0km	整備率80% (H27累計延長5.4km ÷ H29計画総延長6.7km)	(今後の展開方針) H30年度以降も道路整備計画あり。 道路整備事業の進捗状況を考慮し、事業の継続等について検討を行う。	12月変更 (計画変更に伴う各目標変更)
1	30	外国人観光客受入整備事業	H26 ~ H33	外国人観光客増加に伴う観光関連事業所への外国人対応職員の派遣(英語、中国語、韓国語)、クルーズ船入港時の臨時観光案内所開設等の事業を行う。	・まちなか案内サポート:随時 ・サポート要員の店舗・事業所への派遣回数:500件 ・語学講座の開催:40コマ(1.5時間×10回を1コマ) ・クルーズ船臨時観光案内所での観光案内サポート:随時 ・観光マップの増刷:英・中・韓	・サポート要員の派遣により、観光案内した観光客数を把握する。 ・サポート要員を派遣した店舗数:50店舗 ・語学講座受講生の数:延550人	(今後の展開方針) H28~H33:外国人観光客の受入整備を継続して行い、外国人観光客の誘客を図る。沖縄県観光推進ロードマップの外国人観光客目標数の達成に取り組む。	
1	33	マチグラー総合案内所事業	H26 ~ H33	牧志公設市場雑貨部1階に設置された案内所を利用して、中心商店街(マチグラー)を訪れる観光客などの来街者へ向けて、当該地域の情報を集約し、名所や魅力を効果的に発信する。	案内スタッフ 常時1名以上配置 (開所時間9時~20時 年中無休)	案内所利用者数:約12,000人以上/年度 (平成26年月平均1,000人程度)	(今後の展開方針) H27~H33:マチグラー案内所開設歩行者通行量の減少傾向があることから、H33年度の歩行者通行量11,2078人を目標に取り組む。(H21年度103,776人の8%アップ)	
1	34	観光客に快適な都市環境創出事業	H26 ~ H28	市内の観光地周辺(国際通り、若狭海浜公園周辺等)に生息する飼い主のいない猫に不妊去勢手術を実施し、繁殖の抑制を図ることにより、糞尿被害、道路上の轢死等の環境衛生上の問題を軽減し、もって観光客に快適な都市環境を創出する。	市内の観光地周辺に生息する飼い主のいない猫の不妊去勢手術の実施	飼い主のいない猫の不妊去勢手術実施数 オス100匹 メス100匹	3年間実施した事業を総括し、飼い主のいない猫による問題のより効果的な対策を推進する。	
1	35	バリアフリー改装補助事業	H26 ~ H30	障がい者や高齢者が観光を楽しむためには事前にインターネットで観光地の観光施設や宿泊施設、飲食施設のバリアフリーマップの情報収集が不可欠である。これらの多様化した要求に応じ、満足させる観光地を目指すには、既存の施設をバリアフリー化することによって、集客力をより高め、沖縄観光の発展を図る。	店舗等のバリアフリー改装への支援 24件	・観光客を含めた来店者の満足度の向上 (来店者(使用者)からの意見を聴取し効果を検証する)	沖縄県バリアフリー情報マップに登録されている、バリアフリー化された那覇市内の施設245件に対し、その10%の24件を毎年増加させることを目標とする。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1	36	第一牧志公設市場再整備推進事業	H26 ～ H31	観光地としての魅力を高めるため、観光資源であるマチグラーの良さを活かした地域観光に寄与する中核施設として、第一牧志公設市場の再整備を推進する。	・基本構想をベースに、再整備に向けた具体的内容を整理。 ・市場事業者や周辺事業者等への説明会や外部有識者会議等の開催。 ・基本計画の策定。	・再整備後のビジョン(具体的整備方針)の明確化。	(今後の展開方針) H27～H31: 第一牧志公設市場の再整備を完了し、地域観光に寄与する新たな観光施設として、国内外から更なる観光客の集客を目指す。	
1	37	第70期本因坊戦七番勝負那覇市開催関連事業	H27	第70期本因坊戦七番勝負(第2局)を世界遺産「識名園」で開催し、対局記念イベント事業を通して市民文化の振興を図る共に市内の世界遺産のPRに繋げる。	・第70期本因坊戦七番勝負(第2局)を世界文化遺産「識名園」で開催し、対局記念イベント事業を開催。	・識名園入園者数: 86,000人 (基準: 平成25年度実績82,030人)	(事業の展開方針) 事業実施を通して、成果目標に達しない場合は(単年度事業のため)、継続してフォローアップ調査を行い、成果検証を行う。	
1	39	那覇三大祭り支援事業	H27 ～ H33	那覇三大祭りにおける会場設営経費の支援等を行うことにより、祭りの円滑な実施を図る。	・那覇三大祭りに係る会場設営費の支援等	・那覇ハーリー来場者数: 210,000人 (平成26年 117,000人) ・「那覇大綱挽」来場者数: 280,000人 (平成26年 273,000人) ・琉球王朝祭り首里来場者数: 80,000人 (平成26年 85,000人)	(今後の展開方針) H28～H33: 三大祭り支援継続	

H27活動目標(指標): 平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標): 平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
1	40	観光宣伝誘致強化事業	H24 ~ H33	観光情報の発信力を強化するため、市長トップセールスやイベント会場等におけるPRブースの設置などの県外観光PR業務を実施するとともに、本市宿泊客へのアンケートを「那覇市の観光統計 - 観光客の声 - 」としてまとめ、観光客誘致強化のための課題を明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・県外観光PR業務：2都市（神戸市、成田市） （市長・キャンペーンレディの行政、企業等を訪問） （イベント会場等におけるPRブースの設置及びエイサー団体等による芸能文化発信を実施） （PRパンフレット・ビニールバック等の配布） （アンケート等による事業効果測定の実施） ・観光客へのアンケート調査の実施：250件 ・観光統計の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・県外観光PR 那覇市PRブース来場者数 1,500人×2都市 県外現地メディアを活用したパブリシティ効果 2メディア（媒体）×2都市 ・観光施策の評価・検証のための基礎資料の整備 	<p>（今後の展開方針） 本市と直行便で繋がる都市においてプロモーションを実施し、イベント会場におけるPRブースの設置やマスメディアを活用したパブリシティにより、効果的かつ有効的な観光宣伝誘致の強化・充実を図る。また、観光統計によって得られた基礎資料は、本市の観光施策の評価検証（PDCA）に活用する。</p> <p>プロモーションの実施予定 H28：2都市（名古屋市、米子市） H29：2都市（大阪市、新潟市） H30：2都市（静岡市、仙台市） H31：2都市（金沢市、広島市） H32：2都市（神戸市、成田市） H33：2都市（名古屋市、米子市）</p> <p>中間目標値（H30：ブース来場者数1,800人） 最終目標値（H33：ブース来場者数2,000人）</p>	5月変更（事業追加）
1	41	観光イベント等映像発信事業	H25 ~ H33	クルーズ船で訪れる観光客及び祭り・イベント会場の観光客向けに、移動式車載大型ビジョンを活用し、本市の観光情報を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・移動式車載大型ビジョンによるイベント時の現場映像の放映および県外・国外観光客への観光案内・PR等：70回/年 ・クルーズ船の那覇港寄港時の歓送迎：55回 ・那覇大綱挽まつり：2回 ・読売巨人軍那覇キャンプ：キャンプ期間 ・沖縄国際映画祭：1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・クルーズ船の那覇港寄港数：65隻（基準値：平成25年度実績61隻） ・クルーズ船による来客数：81,250人（基準値：平成25年度実績76,457人、1隻平均1,250人） ・読売巨人軍那覇キャンプ一日平均見学者数：8,000人/日（基準値：平成24年度5,796人/日） 	<p>（今後の方針） H28～H33：クルーズ客船セレモニー対応、イベント活用を行う。</p> <p>中間目標値（H30）：クルーズ船対応65回 那覇ハーリー：3回</p> <p>最終目標値（H33）：クルーズ船対応75回</p>	5月変更（事業追加）
1	42	観光情報サイト強化支援事業	H27	（一社）那覇市観光協会の発信する那覇市観光情報サイトである「那覇ナビ」の、全面リニューアルを支援し、観光情報発信の充実・強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「那覇ナビ」全面リニューアルに向けた観光強協会への支援を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・那覇市観光情報発信及び観光ニーズ等の把握の強化 <p>（参考） リニューアル後の1日あたりページビュー数3,800（基準：平成25年度3,557）</p>	<p>（今後の展開方針） ・HPに対する意見をもとに、観光客のニーズを把握し、他の観光事業へ情報を提供する。</p>	5月変更（事業追加）

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1	43	外国人観光客誘客促進事業	H27 ~ H33	平成26年度より那覇クルーズターミナルビルが供用を開始し、年間のクルーズ船寄港数も順調に増加している。クルーズ船寄港時に、歓迎セレモニーや臨時観光案内所を設置するなどの活動を行う「那覇クルーズ促進連絡協議会」を支援し、外国人観光客の満足度を高め、リピーターを含め新たな観光客の受入増を目指す。	クルーズ船寄港時の受入体制を整備する「那覇クルーズ促進連絡協議会」への支援を実施	・クルーズ船の観光客受入体制の強化 ・船会社への満足度調査の実施(満足度:60%) (船会社へアンケートを実施)	(今後の展開方針) H28~H33:那覇クルーズ促進連絡協議会事業の支援。 観光客の満足度の向上(船会社へのアンケート) 中間目標値(H30):満足度70% 最終目標値(H33):満足度80%	5月変更 (事業追加)
1	44	亜熱帯庭園都市の道づくり基礎調査事業	H27 ~ H29	観光都市にふさわしい観光サービスの環境改善に向け、「人にやさしい道づくり」や「誰もが移動しやすい観光サービス道路の整備等」につなげていくための基礎調査を行う。	・環境改善基礎調査:2地域 (那覇・真和志地域)	人にやさしい道づくり等の整備に向けた条件整理 本基礎調査結果を、今後の道路事業(ハード交付金、ソフト交付金、単独費)へと繋げる。	(今後の展開方針) H28年度 首里・小祿地域 H29年度 那覇西・北地域 道路事業の適宜実施	5月変更 (事業追加)
1	45	亜熱帯庭園都市の公園美化事業	H24 ~ H33	観光都市としての景観・美観の創出・継承のため、波の上ビーチシャワー棟の整備および観光地周辺公園の緑化と美化を行う。	・波の上ビーチシャワー棟等整備:1棟 ・植栽整備:10公園発注	・波の上ビーチシャワー棟を完成させる ・公園トイレ整備や植栽整備により苦情件数を50%減少させ満足度を上げる。(平成25年度34件)	(今後の展開方針) トイレ等整備率:50%(整備完了7棟/全体14棟) H27末時点 H28:トイレ等整備57%(8棟/14棟) H29:トイレ等整備64%(9棟/14棟) H30:トイレ等整備71%(10棟/14棟) H31:トイレ等整備78%(11棟/14棟) H32:トイレ等整備85%(12棟/14棟) H33:トイレ等整備100%(14棟/14棟)	7月変更 (事業追加)
1	46	めんそーれ観光キックオフイベント事業	H27	国際通り周辺地域における迷惑行為の是正に向けた取組を、行政と民間が連携して開始するに際し、市民等への周知を図るためのキックオフイベントやアピール行進等を実施する。	・基調講演やキックオフ宣言を内容とするキックオフイベント、国際通りにおけるアピール行進等による広報の実施	・良好な観光環境の維持に向けた市民等の機運の醸成 ・迷惑行為は是正についての周知	(今後の展開方針) H28~:行政と民間の連携による、良好な観光環境の維持に向けた取組の実施	12月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2		那覇市の水産・農業振興活性化推進事業	H24 ～ H33					
2	1	市魚マグロ等水産物流通支援事業	H24 ～ H33	マグロを中心とする近海漁業の振興のため、水産物の流通と観光的観点を絡めたイベント等の開催を行う。	・市魚マグロ等イベント開催：3回 ・高校でのマグロを使用した料理教室の開催3回 ・市内飲食店でのマグロPR及び消費促進キャンペーン：2ヶ月間	・市魚マグロイベント来場者数28,000人 (基準値：平成24年20,000人) ・高校生の食育教室参加生徒：90人 (基準値：平成25年75人) ・泊いゆまちの売上高18億円程度 (基準値：平成24年度16.3億円)	(今後の展開方針) 補助金(イベント等)の活用を工夫し、事業者の独立を促す。業務委託等の事業の充実により、市魚マグロ認知率35%以上を目標とする。	
2	2	漁船近代化機械設置推進事業	H24 ～ H33	本市産業の振興発展を図るため、本市漁船の近代化装備に対する支援を行い、水産業の振興を行う。	漁船近代化機器等の設置経費への支援：20件	漁船の近代化を推進する事によって、操業の安全の確保、就労環境の改善(就労期間の延長)が見込まれ、漁業従事者数(60歳以上100名)の維持確保。	(今後の展開方針) 今後とも操業の安全確保、就労環境の改善を維持する事によって、漁業従事者数の維持確保。	
2	3	地産地消推進事業	H24 ～ H33	本市産業の振興発展を図るため、地産地消コーディネーターを活用して伝統野菜の生産拡大や沖縄伝統野菜のPR活動及び啓蒙活動や利用推進に向け学校給食の需要と地元野菜供給とのマッチングを行う。	・地産地消コーディネーターの産地情報発信、マーケティング等：11カ月間 ・地産地消推進会議：3回 ・農産物展示：1週間 ・産地研修：2回 ・出前授業・生産者との交流：5回 ・地産地消パンフレット配布：4,000部 ・栄養士・調理員向け講習会：1回	・学校給食における地場産物の使用する割合(野菜類)：3.3% (事業開始前H23年度：26.2%) ・沖縄伝統野菜のPR活動及び啓蒙活動(生産者を学校に招いて出前授業の開催)：5校で実施 ・地元野菜PRおよび地産地消推進パンフレット配布：4,000部	学校給食における地場産物の使用する割合(野菜類)が31.0%(H25)から35%以上に向上する。	
2	4	ワッター野菜がジョーター事業	H24 ～ H28	本市産業の振興発展を図るため、那覇の伝統野菜の保存・普及および地元の農家がつくった沖縄の伝統野菜のPR活動及び啓蒙活動や亜熱帯農作物の加工品販売を促進する事業である。	・地元農家が生産した野菜の食材提案会等、PR活動支援 実施回数：5回以上	・地元野菜を活用した食材提案会参加者数：100人(基準値：平成24年度64人)	(今後の展開方針) 市内在住の若手農業者の生産する農作物を中心に地元野菜の食材提案を推進する	
2	5	外国人漁業研修生受入推進事業	H26 ～ H33	市内漁業協同組合が行う外国人漁業研修生受入事業に対し費用の一部を支援する。	外国人研修生確保：25名	マグロ漁の操業漁船45隻の確保維持。 (基準値：平成25年度45隻)	(今後の展開方針) マグロ漁船の確保維持の為、事業支援の継続。	

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
3			沖縄の伝統工芸、地元産業の振興推進事業	H24～H33					
3	1		中小企業事業者の県外・海外向け販路拡大支援事業	H24～H33	本市産業の振興発展を図るため、市内の中小企業事業者が新規開発した商品・サービスを県外・海外へ販路拡大する取り組みに対して支援を行う。	・販路拡大支援 県外 / 10社 海外 / 6社	助成対象期間内における活動目標の16社の商談件数及び成約件数： 商談件数150件 成約件数15件(商談件数に対する成約率10%を目標としている)	(今後の展開方針) ・平成27年度より沖縄大交易会(県内開催)への参加費用等、対象となる経費を助成(1/2)することで出展・商談の支援を検討する。 ・過去2カ年の実績において商談件数に対し成約率が10%であるため、H33年度までには、商談後の成約率をH27目標数値10%から20%以上とし、商談後の成果報告の実施を検討することで事業者の意欲の向上と販路開拓の成果を図る。	
3	2		那覇の物産展事業	H24～H33	本市産業の振興発展を図るため、那覇の物産展を開催する。本市の地場産品の需要拡大と販路の開拓を促進するためPRして、産業の振興を行う。	・市長賞商品の選定 ・那覇の物産展の開催	物産展の売上額:1,232万円 (対前年度売上額の5%増) H25年度売上額:1,174万円	(今後の展開方針) ・那覇市長賞商品のさらなるPR ・H33年度には、地場産品を3品目以上育成。	
3	3		沖縄の産業まつり事業	H25～H33	沖縄の産業まつりで本市の地場産品コーナーを確保し、本市の地場産業の販路拡大を図るとともに、那覇市長賞(最優秀賞、優秀賞、奨励賞)の受賞企業に対し、その商品のPR活動を支援する。	市町村コーナー出展店舗数:10件 (市長賞受賞企業5社、その他5社)	出展業者売上目処額 350万円 (H26実績3,576,653円)	(今後の展開方針) ・那覇の物産展推進事業と連携した地場産品の育成。	
3	4		企業誘致活動サポート事業	H24～H33	本市への企業誘致を推進するため、企業誘致専門家による調査分析並びに誘致方針の検討と各種誘致活動の展開を行う。	意向調査:那覇市の現況や制度等の特色を踏まえ、地域や業種を検討し、3,000社以上に実施 企業訪問:意向調査の結果等を踏まえ立地可能性の高い企業を50社以上訪問 ビジネスマッチング:訪問の結果等をふまえ、15社程度を本市へ引き投資環境としての視察や、沖縄県や那覇港管理組合とも連携して勉強会の実施。	誘致企業:沖縄振興特別措置法、沖縄21世紀ビジョン基本計画に掲げる情報通信関連産業、国際物流関連産業等の成長産業分野に属する企業:2社以上(前年度実績2社)	(今後の展開方針) 様々な角度から誘致にむけたアプローチを実施。情報関連産業の企業立地数は沖縄21世紀ビジョンのH33年度目標数440社のうち50%の220社を目指し活動を展開する。(H23年度136社)その他の産業においては那覇空港第2滑走路の整備状況等周辺環境を踏まえ活動を展開する。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
3	5	市内企業経営基盤強化事業	H27 ～ H33	市内の中小企業の育成と人材育成による経営基盤強化を図るため、経営者等30社(各社1～2名、最大60人程度)を対象に、県外・海外への販路拡大のノウハウ等を学ぶ講座を3回程度実施する。	県外・海外への販路拡大のノウハウ等を学ぶ講座の実施:3回	・経営者・中堅人材等の育成を考える中小企業の参加:30社 ・講座の参加者60名	引き続き講座を実施し、市内中小企業の経営基盤強化を図る。 参加企業:1講座30社最大60名 H33の事業終了後に、市内中小企業の海外における輸出額がH26年度比で10倍に増加することを目指す	
3	6	頑張るマチグラー支援事業	H25 ～ H33	那覇市の中心商店街の活性化に向けた事業を行う団体等の創意工夫による積極的な取組み、提案事業を支援し、観光客及び多くの地元客を呼び戻し、賑わいの創出を図る。	・商店街振興組合等が取り組む、中心商店街の活性化に向けた事業への支援 ・審査委員会による適切な取組採択 ・歩行者通行量調査の実施	・中心市街地の活性化に向けた取組の増加: H26年度から40%増加 (H26:7件 H27:10件) ・中心商店街の平日歩行者通行量 113,997人 (H26年度平日歩行者通行量 112,712人) H33年(7年後)をH26年の8%アップとしていることから、年1.14%アップとしている。	(今後の展開方針) H27～H33:中心商店街で実施するハード整備、誘客活動等の事業支援 歩行者通行量の減少傾向があることから、H33年度の平日歩行者通行量121,729人を目標に取り組む。 (H26年度112,712人の8%アップ)	5月変更 (事業追加) 7月変更 (計画変更に伴う活動目標変更)
4		海外と日本各地を結ぶアジアの国際物流拠点、港湾施設整備事業	H24 ～ H33					
4	1	那覇港総合物流センター整備事業	H25 ～ H29	本県の生活・産業物資の輸送の大部分を担う港湾物流機能を改善し、県全体の物流の効率化を図り、さらに付加価値型ものづくり産業の集積などの国際物流拠点の形成を図るため那覇港総合物流センターを整備する。	総合物流センター基礎工事の着手	地盤改良及びランプウェイ基礎工の完了	(今後の展開方針) H28～29年度:建築工事 H30年度:供用開始 (整備後の活用見込み) 物流の効率化及び保管・流通拠点の形成を図る 那覇港の取扱貨物量:1,013万トン(H30)	5月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
4	2	臨港道路浦添線無電柱化事業	H27 ~ H28	那覇港浦添ふ頭地区の臨港道路浦添線において、観光立県沖縄のウォーターフロント景観の向上及び災害に強い安心安全な港まちづくりに向けて、無電柱化を行う。	臨港道路浦添線整備における無電柱化事業の着手	実施設計の完了	(今後の展開方針) H28:無電柱化工事 (整備後の活用見込み) 観光立県沖縄のウォーターフロント景観の向上及び災害に強い安心安全な港まちづくりを図る。 那覇港臨港道路無電柱化区間: L=1.5km(H29)	12月変更 (事業追加)
5		活き活き人材育成・雇用促進事業	H24 ~ H33					
5	1	なはし就職なんでも相談センター運営事業	H24 ~ H33	市民の就業支援を行うため、民間人材サービス会社のノウハウを最大限に活用した就職相談の実施、各種就職支援セミナーの開催、求人情報の提供等を行う。	・就職相談 600人 ・就職活動支援セミナーの開催1,300人 ・求人情報の提供 3,200人 H25実績データ	なはし就職なんでも相談センターにおける就職に結びついた相談者数:100人 H25実績91人就職	本市の中長期的な事業を実施していく上で、県が掲げる基本施策(雇用対策と多様な人材の確保)にあるH33年の就業者数69万人に向け本市独自の雇用環境改善に向けた取り組みを推進していく。	
5	2	企業立地雇用施策基本指針策定事業	H26 ~ H27	本市雇用環境の改善、雇用施策の充実のため、平成26年度の調査結果を受け、社会的に流動的な雇用情勢に対応する中期的な実施計画を策定する。計画の策定に当たっては、審議会等の外部組織を立ち上げ、策定に向けた審議を行う。	・審議会等外部組織の立ち上げ ・企業立地雇用施策に関する中期的な実施計画の策定に向けた検討作業の実施	・企業立地雇用施策に関する中期的な実施計画の策定	本市の中長期的な事業を実施していく上で、県が掲げる基本施策(雇用対策と多様な人材の確保)にあるH33年の就業者数69万人に向け本市独自の雇用環境改善に向けた取り組みを推進していく。	
5	3	ひとり親等職業自立支援モデル事業	H27	就労が困難なひとり親家庭の親等を雇用した事業主に対し、常用雇用に結びつけるための就労支援の手段として、速やかにトライアル雇用から常用雇用への移行を促し、モデル事業として実施する。	・利用申請1件以上の採択	トライアル雇用から常用雇用への移行を促す環境を整備し、H28年度以降の効果的な事業実施に向けて情報収集を行う。	(今後の展開方針) ・H27年のモデル事業を検証し、より効果が得られるような改善を図る。	7月変更 (事業追加) 3月変更 (計画変更に伴う活動目標変更)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
5	4	活き活き人材育成支援施設整備事業	H26 ～ H30	観光産業分野等で活躍できる人材の育成を図るとともに、地域住民と在住外国人との交流、地域づくりやまちづくりの活動を支援するための拠点施設を整備する。	・基本設計の実施(敷地及び立地条件の調査、施設規模、概算工事費の算出及び住民ニーズ調査、運営方法の検討等施設整備に向けた各種調査実施)	・実施設計等に向けた条件整備の完了	H27年度…基本設計 H28年度…実施設計 H29年度…建設用地の購入、施設整備、研修カリキュラム作成 H30年度…備品整備 当該施設は、年間約11万人の利用を見込んでいる。平成30年度事業終了後も観光事業者等の語学力向上及び外国人向け通訳・ガイドの育成を図っていく。	10月変更(事業追加)
6		なはが好き！子どもの笑顔が輝く教育のまち推進事業	H24 ～ H33					
6	1	基礎学力向上のための学習支援事業	H24 ～ H33	将来の沖縄振興に資する人材育成のため、市内小学校に退職教員等を活用したチーム・ティーチング形式等での小3算数を中心とした学力向上支援を行う。	学習支援員配置数:36人	・全国学力調査の全国との差(過去3年平均正答率) 小学校算数A:-1.3%(H24～H26平均:-1.6%)	(H33事業終了後)全国学力・学習状況調査において小中学校の平均正答率が、全国平均以上に向上する。	
6	2	小学校英語指導員配置事業	H24 ～ H33	将来の沖縄振興に資する人材育成のため、英語指導員を小学校各校に配置し、長期的な英語指導を通じたコミュニケーション能力の育成と国際感覚の涵養を図る。	・英語指導員配置数 外国人:18人、日本人:20人	英語能力判定テストにおける英検4級レベルの生徒割合:32%(H26実績:30%)	(H33事業終了後)英語能力判定テストにおいて、英検4級レベル以上の生徒割合が現状の30%前後から45%に向上する。	
6	3	中学校英語指導員配置事業	H24 ～ H33	将来の沖縄振興に資する人材育成のため、市内中学校に英語指導員を派遣し、長期的な英語指導を通じたコミュニケーション能力の育成と国際感覚の涵養を図る。	・英語指導員配置数 外国人:10人	英語能力判定テストにおける英検4級レベルの生徒割合:32%(H26実績:30%)	(H33事業終了後)英語能力判定テストにおいて、英検4級レベル以上の生徒割合が現状の30%前後から45%に向上する。	
6	4	特別支援教育充実事業(小・中学校)	H24 ～ H33	教育の振興を図るため、特別に支援を要する児童生徒に対し、特別支援員を各学校へ派遣し、臨床心理士や認定就学巡回指導員と連携した支援体制の充実を図る。	・特別支援教育ヘルパー配置数 小中学校:計84人	・支援児童生徒数:300人 ・全国学力調査の全国との差(過去3年平均正答率) 小学校算数A:-1.3%(H24～H26平均:-1.6%) 中学校数学A:-5.4%(H24～H26平均:-6.7%)	(今後の展開方針) 対象となる児童生徒数や状況を見極め、適正なヘルパー配置をとおし、児童生徒の安全性の確保、教育の公平性を確保する。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
6	5	特別支援教育充実事業(幼稚園)	H24 ~ H33	教育の振興を図るため、特別に支援を要する児童生徒に対し、特別支援員を各幼稚園へ派遣し、臨床心理士や認定就学巡回指導員と連携した支援体制の充実を図る。	・特別支援教育ヘルパー配置数:幼稚園48人	・園児の安全性、教育の公平性の確保、子どもの環境適応能力の向上 ・対象児童数:164人	(今後の展開方針) 対象となる園児数や状況を見極め、適正なヘルパー配置をとおし、園児の安全性の確保、教育の公平性を確保する。	
6	6	特別支援教育充実事業(幼稚園預かり保育)	H24 ~ H33	教育の振興を図るため、特別に支援を要する児童生徒に対し、教育課程に係る時間の終了後に行う午後の教育時間に対応した特別支援員を各幼稚園へ派遣する。	・特別支援教育ヘルパー配置数:預かり保育実施幼稚園22人	・園児の安全性、教育の公平性の確保、子どもの環境適応能力の向上 ・対象児童数:98人	(今後の展開方針) 対象となる園児数や状況を見極め、適正なヘルパー配置をとおし、園児の安全性の確保、教育の公平性を確保する。	
6	7	発達支援強化事業(乳幼児期)	H27 ~ H33	将来の沖縄振興に資する人材育成の為、又教育の振興を目的に、特別な支援が必要な児を乳幼児期から健診等を通して早期に把握し、健診後の発達相談や親子教室、育児教室等の事業実施を通して療育へつなげ、その後の幼稚園・学校が実施している特別支援教育へつなげる等の連携をはかりながら切れ目のない支援を行う。	・発達相談:40回実施 ・親子教室:24回実施 ・育児教室等の実施:12回 ・4~5歳児の発達相談の実施:12回 ・母子保健協議会の発達支援部会の開催:3回	乳幼児健診後の精神発達面のフォロー数:578人(平成25年度:194人)	乳幼児健診後の精神発達面のフォローできる数の増加に向け、事業内容を改善しながらH33年度まで支援を継続する。	
6	8	預かり保育推進事業(ソフト交付金)	H25 ~ H34	教育課程に係る教育時間の終了後に行う午後の預かり保育へつなげる教育活動で、各幼稚園の預かり保育指導員1名を臨時職員とし午前中から配置することで、きめ細かに安心安全な保育を実施する。	臨時預かり保育指導員配置園:36園 配置人数:36人	・午前から午後へ保育活動の連続性の確保 ・対象児童数:1635人	(今後の展開方針) 全市立幼稚園で預かり保育を実施。各園に1名の臨時職員を午前から配置して、きめ細やかな保育を実施する。	
6	9	学習支援室(ていんぼう)事業	H24 ~ H33	将来の沖縄振興に資する人材育成のため、不登校等や巡回指導時に支援が必要と判断した児童生徒及び過卒生を対象に、臨時教諭による学習支援を行い、高校進学率の向上に取り組む。	・学習支援員配置数 上半期:2人 下半期:4人	・高等学校進学率:98.0%(平成25年度実績は97.3%)	沖縄県の高等学校進学率は低く全国最下位が続いている。那覇市は96%台から97%台に向上したが、全国平均の98%台後半とすることを平成33年度の目標とする。	
6	10	学習ボランティア支援事業	H24 ~ H33	将来の沖縄振興に資する人材の健全育成と教育の振興・学力向上のため、退職教員等を活用した学習ボランティアによる学習支援の取り組みを行う。	・学習ボランティア実施校数 小学校:15校、中学校:5校	・全国学力調査の全国との差(過去3年平均正答率) 小学校算数A:-1.3%(H24~H26平均:-1.6%) 中学校数学A:-5.4%(H24~H26平均:-6.7%)	(H33事業終了後)全国学力・学習状況調査において小中学校の平均正答率が、全国平均以上に向上する。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
6	11	自立支援教室(きら星学級)事業	H24 ~ H33	将来の沖縄振興に資する人材育成のため、自立支援教室を設置し、遊び・非行傾向等の不登校で学校内では対応が難しい児童生徒に対し、体験学習等を通じた支援を行い登校復帰を促す。	・きら星学級支援員配置数：9人 ・" " 支援事務員配置数：1人	・中学生の不登校に占める遊び・非行傾向の割合：25.0% (平成25年度実績は30.1%)	中学生の不登校に占める遊び・非行傾向の割合は那覇市で30%台であり、全国平均の約10%とすることを平成33年度の目標とする。平成27年度から事業拡充のため、きら星第2学級を新設して支援員も増やし、来所困難な不登校児童生徒のためアウトリーチを開始し、登校支援の更なる強化に努める。	
6	12	教育相談支援事業	H24 ~ H33	将来の沖縄振興に資する人材の健全育成と教育の振興・学力向上のため、教育相談支援員を全小中学校に配置し、不登校及び不登校傾向の児童生徒や保護者の相談・支援に取り組む。	・教育相談支援員配置数(率) 小学校：36人(100%) 中学校：17人(100%)	・小学生の不登校率：0.45% ・中学生の不登校率：3.15% (平成25年度実績小学生は0.52%、 " " 中学生は3.57%)	那覇市小学生の不登校率0.52%を全国平均の0.36%とし、那覇市中学生の不登校率3.58%を全国平均の2.69%とすることを平成33年度の目標とする。	
6	13	メンタルヘルスカウンセリング事業	H24 ~ H33	将来の沖縄振興に資する人材の健全育成と教育の振興・学力向上のため、不登校等の様々な悩みを持つ児童生徒や保護者及び教師に対して、臨床心理士等による教育相談・支援を行う。	・臨床心理士等配置数：9人	・小学生の不登校率：0.45% ・中学生の不登校率：3.15% (平成25年度実績小学生は0.52%、 " " 中学生は3.57%)	那覇市小学生の不登校率0.52%を全国平均の0.36%とし、那覇市中学生の不登校率3.58%を全国平均の2.69%とすることを平成33年度の目標とする。	
6	14	青少年旗頭事業	H24 ~ H33	将来の沖縄振興に資する人材の健全育成のため、那覇の伝統文化である旗頭を活用した文化活動を立ち上げ、青少年の居場所づくりや地域との絆づくり、そして文化の継承・発展に取り組む。	・全小中学校を対象に、旗頭修繕、制作及び演技指導等を実施 (小36校・中18校、全54校) ・旗頭フェスタの開催	旗頭フェスタに参加した児童生徒数：1,230人 (H26実績・参加児童生徒数：945人)	(今後の展開方針) 更なる参加人数の増加を目指し、全小中学校の参加とその定着を目標にするとともに、旗頭をきっかけに地域社会と子どもたちとのつながりを強めていく。	
6	15	街頭指導事業	H24 ~ H33	将来の沖縄振興に資する人材育成のため、指導員による日中及び夜間の巡回指導活動を行い、青少年の非行の未然防止と早期発見・早期対応に取り組む。	・専任指導員配置数：6人 ・青少年指導員配置数：80人	・青少年の深夜徘徊補導人数：11,000人 (平成25年度実績は13,659人)	沖縄県の青少年の深夜徘徊補導人数(人口千人当たり)は多く全国最下位が続いている。那覇市は年間13,659人となっており、8,000人未満にすることを平成33年度の目標とする。	

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
6	16	生徒サポーター派遣事業	H24 ～ H33	将来の沖縄振興に資する人材の健全育成と教育の振興・学力向上のため、学校内教育支援室等を設置して、「あそび・非行」傾向の生徒の居場所を作り、自立支援、学級復帰に取り組む。	・生徒サポーター配置学校数 中学校:17校	・中学生の不登校に占める遊び・非行傾向の割合:25.0%(H25実績:30.1%)	(H33事業終了後)中学生の不登校に占める遊び・非行傾向の割合が、現状の30%台から全国平均の約10%に改善する。	
6	17	児童のスポーツ県外派遣補助金	H24 ～ H33	将来の沖縄振興に資する人材育成のため、市・県を代表する児童及び少年チームのスポーツ活動に対して、支援を行う。	・県外大会派遣児童生徒支援	大会等派遣児童生徒数(年間):385人	(今後の展開方針) 大会等派遣児童生徒数(累計) H33年度:3,800人	
6	18	児童・生徒の県外派遣旅費補助金(大会派遣)	H24 ～ H33	将来の沖縄振興に資する人材育成のため、市・県を代表する児童・生徒の文化活動を含む部活動に対して、支援を行う。	・児童生徒の県外大会派遣支援	大会等派遣児童生徒数(累計):500人	(今後の展開方針) 大会等派遣児童生徒数(累計) H33年度:5,000人	
6	19	離島等自然体験学習事業 自然教室	H24 ～ H33	将来の沖縄振興に資する人材育成のため、市内全小学校5年生を対象に、自然体験活動を行う。	・実施学校数:小学校:34校	・自然体験活動を実施した児童生徒数:3,100人 ・全国学力・学習状況調査(基本的生活習慣、規範意識項目)で前年度ポイントを下回らないこと (小学校:H25:84%、H26:85%)	(今後の展開方針) 自然体験活動実施児童数(累計) H33年度:31,000人	
6	20	小学校施設環境整備事業 (冷房設置)	H24 ～ H29	気温が高い期間が長期にわたる沖縄の亜熱帯気候に対応するため、小学校施設に冷房機を設置する。	・小学校冷房施設整備:14校	・平成27年度の冷房機の整備によって、学習環境の改善が見込まれる児童数:約800人 ・市内小学校36教室への整備による冷房機設置教室の整備率:86% 92%	(今後の展開方針) 平成28年度:小学校9校冷房施設整備 平成29年度:小学校10校冷房施設整備 平成29年度の事業終了時には、未整備教室数が、事業開始当初の230教室から7教室へ減少する見込みである。	
6	21	中学校施設環境整備事業 (冷房設置)	H24 ～ H28	気温が高い期間が長期にわたる沖縄の亜熱帯気候に対応するため、中学校施設に冷房機を設置する。	・中学校冷房施設整備:4校	・平成27年度の冷房機の整備によって、学習環境の改善が見込まれる生徒数:約200人 ・市内中学校6教室への整備による冷房機設置教室の整備率:93% 99%	(今後の展開方針) 平成28年度:中学校4校冷房施設整備 平成28年度の事業終了時には、未整備教室数が、事業開始当初の50教室から0教室に減少する見込みである。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
6	22	小学校施設老朽化抑制事業 (塩害防止・長寿命化)	H24 ～ H33	塩害による学校校舎等の劣化問題に対応するため、小学校校舎外壁の塩害防止・長寿命化のための塗装対応を行う。	・小学校校舎等外壁整備：2校	・全体計画の進捗率：40%	(今後の展開方針) H28年度以降：各年度1校整備 本事業により校舎等の建て替えサイクルが約10年延びることが見込まれ、建て替えサイクルが、約45年に改善される。	
6	23	中学校施設老朽化抑制事業 (塩害防止・長寿命化)	H24 ～ H33	塩害による学校校舎等の劣化問題に対応するため、中学校校舎外壁の塩害防止・長寿命化のための塗装対応を行う。	・中学校校舎等外壁整備：1校	・全体計画の進捗率：40%	(今後の展開方針) H28年度以降：各年度1校整備 本事業により校舎等の建て替えサイクルが約10年延びることが見込まれ、建て替えサイクルが、約45年に改善される。	
6	24	学力向上に向けた調査研究事業	H25 ～ H33	学力調査、満足度調査を小学校で実施し、調査結果の分析を基にした基礎資料を得て、教師や児童生徒の学習への取組の強化を図り、指導法や学習効果を高めるため調査研究を実施する。	小学校第2学年、第4学年の全国規模の学力調査の実施 小学校第2学年、第4学年の上位3校、下位7位の学級満足度に関する調査の実施	・小学校第2学年第4学年の児童の実態、課題の把握 ・学力調査結果で全国平均を超える学校数：20校	平成30年度までに那覇市内36全小学校が全国平均を超えることを目指し、定着を確認するため平成33年度まで毎年実施予定。	
6	25	那覇市小中一貫教育推進事業	H27 ～ H33	将来の沖縄振興に資する人材育成のため、義務教育9年間を連続した期間ととらえ、一貫性のあるカリキュラムで学習指導・生活指導を行う小中一貫教育を導入することにより、中学校入学時の不安を解消し、義務教育9年間を修了するにふさわしい学力の育成、児童生徒の豊かな人間性・社会性の育成を図る。	・市内10中学校小中一貫教育グループに小中一貫教育を導入 小学校：22校、中学校：10校 ・導入グループ全小中学校(32校)における小中合同授業研究会、生徒指導部会、中学校教諭の小学校への乗り入れ指導の実施	・全国学力調査の全国との差(過去3年平均正答率) 小学校算数A：-1.3%(H24～H26平均：-1.6%) 中学校数学A：-5.4%(H24～H26平均：-6.7%) ・小中学校の不登校率 小学校：0.45%(H25：0.52%) 中学校：3.15%(H25：3.57%)	・(H33事業終了後)全国学力・学習状況調査において小中学校の平均正答率が、全国平均以上に向上する。 ・(H33事業終了後)那覇市小学生の不登校率0.52%を全国平均の0.36%とし、那覇市中学生の登校率3.57%を全国平均の2.69%とする。	
6	26	教育用ソフト購入事業	H27 ～ H33	教育環境の充実を図り、将来の沖縄振興に資する人材を育成するため、主要教科のデジタル教科書を市内小中学校に配付し、児童生徒の学習能力の向上を図る。	・教育用ソフト配布学校数 小学校：36校	・全国学力調査の全国との差(過去3年平均正答率) 小学校算数A：-1.3%(H24～H26平均：-1.6%) 小学校国語A：-0.9%(H24～H26平均：-1.2%)	(H33事業終了後)全国学力・学習状況調査において小中学校の平均正答率が、全国平均以上に向上する。	

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
6	27	なは若者人材育成事業	H27 ~ H29	青少年育成団体、青年団体、NPO団体等が活発に事業の実施ができるようにデータの収集や作成などを含めた運営支援を行い効率化のための仕組みづくりを行う。また、地域における若者育成や社会参画のあり方について啓発活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 青少年団体等の活動支援: 20団体 シンポジウム・フォーラムの開催: 2回 若者の社会参画啓発支援: 200人 地域への功績等が認められる青少年の表彰: 30人程度見込み、式典開催1回 各種青少年関係団体について、組織体制や活動状況の調査・把握(アンケートや対面調査(訪問電話含む)データの作成) 各団体の運営に関する支援 団体相互の情報交換、協働ができるための情報提供、交流の機会や場の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 地域を大切に、誇りに思う健全な青少年の育成ができ青年の社会参画活動が活発な社会にする。 活動やイベント等に参加した者による評価: 「満足した」「よかった」の回答5割(アンケートによる集計) 地域への功績等が認められる青少年の表彰: H27年度30人程度(3年間で約100人) 	<ul style="list-style-type: none"> (今後の展開方針) 青少年育成団体、青年団体、NPO団体等への運営支援、ネットワーク形成につながる仕組みづくりを行う。 若者育成や社会参画のあり方について、シンポジウムや表彰等を通じた啓発活動を展開する。 	
6	28	不登校対策等拠点施設長寿命化事業	H27	本市の不登校(児童生徒)対策等において拠点施設となっている真和志庁舎は、亀裂や剥落が多く発生するなど老朽化が進んでいる。しかしながら、建替えなどの根本的な解決策を実施するには、未だ時間を要する見込みである。よって、不登校対策等を継続して実施するため、本事業により当該拠点施設の長寿命化を行う。	設計、工事、工事監理業務 発注	<ul style="list-style-type: none"> 設計、工事、工事監理業務 完了 不登校対策等拠点施設開庁日数 年間257日(基準: H25年度実績259日) 	那覇市小学生の不登校率0.52%を全国平均の0.36%とし、那覇市中学生の不登校率3.57%を全国平均の2.69%とすることを平成33年度の目標とする。	
6	29	中学校校庭拡張工事事業(那覇中学校)	H27	塩分規制以前の海砂使用による学校校舎等の劣化に対応するため、那覇中学校の老朽化校舎を解体撤去し、生徒の安心・安全の確保を図るとともに、解体跡地を運動場として拡張することで、運動場面積を中学校設置基準に近づける。	<ul style="list-style-type: none"> 老朽校舎の解体撤去の実施 解体跡地を運動場として拡張 	<ul style="list-style-type: none"> 老朽校舎撤去により生徒が安心・安全に学べる環境を確保 運動場面積の拡大により設置基準へ近づける(現行: 7,053㎡ 撤去後: 7,323㎡; 設置基準7,400㎡) 	(今後の展開方針) 安心・安全に生徒が学べる学習環境の向上を図る	5月変更(事業追加)
6	30	スポーツ広場整備事業	H24 ~ H27	スポーツコンベンションとしての本市の機能拡充と、スポーツ人口を増加させることを目的とする。	スポーツ広場の機能向上を図るため機具庫を整備する。	スポーツ広場の機具庫整備完了	スポーツ広場整備完了により、今後は、利用者の利便性向上、利用者の増加を目指す。	7月変更(事業追加)

H27活動目標(指標): 平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標): 平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
7		伝統文化と新たな文化創造の発信都市へ！文化のまち推進事業	H24～H33					
7	1	文化芸術ふれあい事業	H24～H33	沖縄振興に資する伝統芸能の継承発展のため著名な文化芸術作品の公演や地域に根ざした文化芸能公演、また、市民ギャラリーの貴重な収蔵作品等を整理し必要な補修を行い、展示会を開催し市民文化の振興を図る。	・沖縄芝居公演を1回開催 ・地域文化芸能公演を1回開催 ・市民ギャラリー収蔵品展示会を1回開催	・来場者数：1,100名(平成26年度実績：1,050名) ・来場者数：1,000名(実績なし) ・来場者数：550名(平成26年度実績：600名)	(今後の展開方針) 事業の実施を通して那覇市の文化の振興を図り、活動の場として施設を提供する。減少傾向にある施設(那覇市民会館、パレット市民劇場、那覇市民ギャラリー)の利用者数を一括交付金事業の実施前から10%増加に繋げたい。 平成23年度29万人 平成33年度32万人(目標)	
7	2	市民文化育成発信事業	H24～H33	沖縄振興に資する伝統文化の継承発展及び市民文化活動の活性化を図るため、児童生徒や一般市民の参加・創造型の自主事業を実施する。	・ふれあいジャズフェスティバル1回開催 ・うちなーぐち講座21回・公演1回開催 ・島くつば語やびら大会1回開催 ・なは市民芸術展1回開催	・ふれあいジャズ公演実施1回、参加校20校、来場者数2,000名(平成26年度実績参加校18校来場者数2,000名) ・講座参加者40名、成果公演来場者400名(平成26年度実績：講座参加者30名、来場者400名) ・来場者数370名(平成26年度実績：350名) ・応募者数190名、芸術展来場者数1,630名(平成26年度実績：181名、来場者数1,550名)	(今後の展開方針) 事業の実施を通して那覇市の文化の振興を図り、活動の場として施設を提供する。減少傾向にある施設(那覇市民会館、パレット市民劇場、那覇市民ギャラリー)の利用者数を一括交付金事業の実施前から10%増加に繋げたい。 平成23年度29万人 平成33年度32万人(目標)	
7	3	市民文化支援事業	H24～H33	沖縄振興に資する市民の実演芸術活動及び地域の伝統文化継承活動をする文化団体等を支援し、担い手の育成並びに保存・継承・普及を図る。	・舞台公演事業に対する支援 ・伝統芸能・文化の継承発展に取組む活動に対する支援	・文化団体等4団体への支援 ・伝統芸能・民俗文化団体10団体への支援	(今後の展開方針) 事業の実施を通して那覇市の文化の振興を図り、活動の場として施設を提供する。減少傾向にある施設(那覇市民会館、パレット市民劇場、那覇市民ギャラリー)の利用者数を一括交付金事業の実施前から10%増加に繋げたい。 平成23年度29万人 平成33年度32万人(目標)	

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
7	4	伝統文化継承種まき事業	H24～H33	沖縄振興に資する伝統文化の発展のため、保育所へ伝統文化の専門講師を派遣して伝統文化の継承に取り組む。	8ヶ所の公立保育所に専門講師を派遣	専門講師派遣回数 288回 ・1年間で専門講師から伝統文化の教授を受ける児童数 557名	各公立保育所において、伝統文化に精通する地域の方々を講師とし、ひと月に3回程度学んでいく。	
7	5	子どもが輝くまちづくり事業	H24～H33	沖縄振興に資する伝統文化の継承発展のため、子ども達の伝統芸能活動等についての発表の場づくりに取り組む。	「子どもフェスタinなは」を開催し、子供達の活動発表の場を創出	子どもフェスタ参加児童生徒数:730人	(今後の展開方針) 参加児童生徒数730人規模の毎年度開催を維持しつつ、参加団体のネットワーク形成につながる、満足度の高いフェスタ運営を目指す。	
7	6	郷土資料整備事業	H24～H33	沖縄振興に資する伝統文化等を継承するため、郷土資料を購入し充実を図る。沖縄関係、地元出版の図書等を豊富にそろえることで、市民、子供たちに郷土についてより多くの情報提供をしていき、地元への関心を高めることによって伝統文化の継承をすすめていく。	郷土関係資料の購入:約1,000点	年間延べ7,000点の貸出数を目標とする。	(今後の展開方針) 郷土資料のうち当該年度出版の沖縄県産本を網羅的に購入する。33年度事業終了後も郷土関係資料収集に力を入れ、年間延べ7,000点の貸出数を目標とし文化の継承につなげる。	
7	7	島クッパ継承・普及小冊子製作事業	H24～H33	沖縄振興に資する伝統文化の継承発展のため、島クッパ小冊子を製作し、小中学校の児童・生徒に配布して、学校及び家庭での積極的な活用を推進する。	・しまくとぅば普及小冊子作成数:3,500冊×2種類	小冊子活用状況調査における小中学校活用率(日常的な活動を通して):67%(H26実績:65%)	(H33事業終了後)小冊子活用状況調査において、日常的な活動を通しての活用率が、現状の70%前後から80%に向上する。	
7	8	新文化芸術発信拠点施設整備事業	H24～H32	沖縄振興に資する文化発信拠点を整備するため、県都である特性を活かした新たな文化の殿堂・沖縄の伝統文化の発信拠点となる新市民会館を建設する。本年度は、建設敷地の拡大に向けた補償物件調査等を実施する。	基本設計の設計者選定業務の実施 補償物件調査業務等の実施	・建設敷地の拡大に向けた隣接地の土地及び建物の補償費用の算定	H28:本体基本設計・既存校舎解体実施設計、用地取得等 H29年度:本体実施設計、既存校舎解体工事、用地取得等 H30～H32:建築工事、供用開始供用後、年間20万人が利用。	12月変更(計画変更に伴う事業内容、各目標変更)
7	9	久茂地地区まちづくり推進事業	H27	久茂地(周辺)地区において、新文化芸術発信拠点施設整備に係る周辺環境整備基礎調査、周辺環境整備計画を踏まえ、地区の勉強会や意見交換会により合意形成を図ったうえで、まちづくり計画案を作成する。	まちづくり計画案の検討	・まちづくり計画案の作成 (例:A地区=住環境保護、B地区=住商混在等) ・上記案をもとに、都市計画決定の変更(案)作成 (例:地区毎に相応の建築用途制限等)	(今後の展開方針) H28:都市計画決定の変更	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
7	10	文化芸術発信拠点施設整備事業(壺屋焼物博物館展示室環境整備)	H27	壺屋焼物博物館を観光施設としての機能を強化するため、展示環境の向上に向けて照明設備を改修する。	・展示室内照明設備の改修の実施	・展示室の展示環境の強化	(今後の展開方針) ・H28年度供用開始 入館者数目標:22,000人 (基準値:平成25年度14,575人)	5月変更 (事業追加)
7	11	御細工所跡緊急発掘調査事業	H27 ~ H30	琉球王府時代の工芸品等を製作していた「御細工所」跡地の発掘調査を実施し、調査結果を将来へ伝える。	「御細工所」跡の発掘調査実施	「御細工所」跡の発掘調査完了	(今後の展開方針) H28~H30:資料整理 H30:報告書作成	5月変更 (事業追加)
8		ちゅい助き助き沖縄のチムグクル福祉のまちづくり事業	H24 ~ H33					
8	1	認可外保育施設的环境整備事業	H24 ~ H33	認可外保育施設の保育の質の向上及び入所児童の処遇向上を目的に、認可外保育施設指導監督基準を満たすよう指導を行い、満たした既存施設の改修整備を行う。また、市内の認可外保育施設の衛生消毒、害虫駆除を行う。	改修施設数 2施設 衛生消毒及び防虫駆除実施施設数 約80施設	・よりよい保育環境の整備	H27年度以降、補助対象施設となり得る施設数は約20、改善指導を行いながら年5施設の改修を行う。(H24~H26年度までに約30施設が改修実施)	3月変更 (計画変更に伴う活動目標変更)
8	2	児童クラブ賃借料補助金	H24 ~ H33	低所得県故の共働き世帯の多さに対応した子育て施策の拡充を行うため、民間施設等を賃借している児童クラブに対して活動支援を行う。	賃借料補助を行う児童クラブ数:30カ所	・公的施設で活動している児童クラブとの格差是正 ・受け入れ児童数:1,260名 (基準値:平成24年度811人)	民間施設等で活動している児童クラブについては今後も補助を継続する。	
8	3	ナハノホイク案内人(ナビィ)設置事業(コンシェルジュ設置)	H25 ~ H28	認可外保育所を含めた本市の保育資源の最大活用のために、保育施設の情報提供をきめ細かに行うための専門的相談員を常駐させる。	保育施設情報相談員の設置(1名)	保育施設情報相談の実施(目標:年間600件)	平成27年度より、保育施設情報総合サイト「ナハノホイク」も統合的に活用しながら情報提供にあたることで、情報の充実・標準化を図るとともに、サイト自体の周知にも寄与させる。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
8	4	認可外保育施設・絵本読み聞かせ実施事業	H25～H33	認可外保育施設において、保育従事者に「絵本等読み聞かせ」を定着させるため、専門講師による研修を行い、絵本等を配付し、保育の質向上を図る。	研修実施 100施設 絵本等配付 3000冊	・保育の質向上	指導監督を直接行っていることから、保育従事者と保育のソフト面についても向き合っていく。	
8	5	ふれあいのまちづくり事業	H27～H33	生活課題を抱える、障がい者や高齢者、生活困窮者等さまざまな人を支援するため、総合相談窓口を設置する。	那覇市社会福祉協議会へ総合相談窓口設置に向けた支援の実施	相談者への支援へ繋げる体制の強化	相談体制を強化していき、早期に適切な支援が受けられる市民の増加を目指していく。	12月変更(計画変更に伴う事業内容、各目標変更)
8	6	ボランティア振興事業	H27～H33	那覇市地域福祉計画では人々が互いに支え合うことで困りごとを解決することを目標としており、隣近所の付き合いが希薄化している本市においては、ボランティアの活性化は非常に重要である。那覇市社会福祉協議会にボランティア支援員を配置することで、本市におけるボランティアの登録、コーディネート機能を強化し、新たなインフォーマルな支援の担い手を養成し、高齢化社会に備える。	那覇市社会福祉協議会へボランティア支援員1名配置	ボランティアのコーディネート件数の増加(年200件 850人) アンケートによりボランティアをしてもらった人の満足度の向上を検証	ボランティアのコーディネート件数を年々増やし、小さな生活課題がボランティアで解決できるようなボランティア風土の醸成した社会を目指していく。	
8	7	発達障がい者サポート事業	H27～H33	本市在住の発達障がい者の本人とその家族からの様々な相談に応じ、指導と助言を行うことで、発達障がい者の円滑な社会生活の促進に資する。	・当事者相談支援の実施 ・ソーシャルスキルトレーニングの実施 ・ストレスマネジメント講座の実施 ・家族会の開催	発達障がい者が、適切な人間関係を構築し、円滑な社会参加を可能にすることにより、発達障がい者のQOL(生活の質)の向上。 (検証方法:受託者と協議して作成するチェックリストで検証を行う)	ペアレントトレーニング及びティーチャートレーニングを実施し、その他ニーズに応じて内容を改善しながら支援事業を継続する。	
9		万国津梁、世界に広がるウチナンチュネットワークの拡充事業	H24～H33					
9	1	海外移住那覇市出身者研修受入事業	H24～H33	本市と歴史的、文化的に関連が深い国や地域と沖縄の振興に資する交流関係を広げるため、南米各国の那覇市民会から推薦された2世・3世らを研修生として受け入れ、民間企業等での研修や沖縄伝統芸能・文化等を学ぶ機会とする。	研修生受入:2名	・研修を通してウチナンチュとしてのアイデンティティを再認識したと感じた研修生2名 ・帰国後にウチナンチュネットワークの構築と発展に寄与する気持ちが強くなった研修生2名	H33年度まで事業を継続し、計20名の研修生を受入れる。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考		
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等		
9	2	那覇長崎平和交流事業	H25 ~ H33	平和に対する意識を高め、今後の沖縄での平和活動に貢献できる人材育成を目的とし、長崎市にて開催される「青少年ピースフォーラム」に中学生8名を派遣する。また、不定期で、長崎県より中学生40名が来沖し、本市中学生40名と合同で平和学習(南部戦跡巡り等)を行う。	事前研修への参加生徒:8人 長崎への平和学習派遣生徒:8人 報告会の開催	平和に対する意識の高揚 (事業参加後に提出する作文で、事業参加前と参加後にどのように意識が変わったのか、今後平和に対してどのような取組を行っていきたいか確認する)	(今後の展開方針) ・沖縄での平和学習 参加生徒数(累計) H25・28・30・32年度:160人 ・長崎への平和学習 派遣生徒数(累計) H25~33年度:72人		
10		未来に羽ばたく臨港型都市再開発事業	H24 ~ H33	全体計画 見直し版 に基づき、平成25、26年度に引き続き、全体計画の周知活動や土地活用に関する勉強会の開催、がじゃんびら通信の発行等による地権者等の「意識醸成」と次世代の会の開催継続、先進地視察の実施、地主会理事会と次世代の会の合同意見交換会の開催など「組織づくり」に向けた取り組み、また、移行期間3年目となることから地権者へのアンケート調査や有識者検討委員会を開催し、第2ステージへの移行に向けて方向性の整理を行う。	・全体計画説明会:1回(参加者数30名) ・地主会等勉強会:2回(参加者数60名) ・情報誌の発行:2回(発行部数2,000部) ・次世代の会の活動:9回(活動参加率80%) ・地主会理事会と次世代の会意見交換会:1回(参加者数15名) ・市民、県民フォーラムの開催:1回(参加者数100名) ・有識者委員会:3回 ・アンケート調査:1回 ・その他必要な取り組み	・第2ステージ(跡地利用計画策定段階)への移行に向けた方向性の整理	(今後の展開方針) ・第2ステージ(跡地利用計画策定段階)への移行 ・第2ステージでの具体的な活動内容の検討		
11		離島があって那覇がある、連携共存共栄事業	H24 ~ H33						
11	1	離島体験学習支援事業	H24 ~ H33	県都・那覇の持つ集客力、情報発信力等を活かして県内離島の振興発展を図るため、市内小中学生及び引率者を対象に、県内離島体験学習に対する支援を行う。	那覇市近隣離島での児童生徒体験学習に対する支援	離島等派遣延べ人数:200人派遣	(今後の展開方針) 離島等派遣人数(累計) H33年度:1,500人		
12		環境共生都市の構築推進事業	H24 ~ H33						

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
12	1	水資源有効利用推進事業	H24 ～ H33	沖縄の豊かな自然環境保全のため、水資源の有効利用及び地下水の涵養に資する雨水貯留・浸透施設の設置を支援する。	雨水施設等設置費補助件数:20件	都市化の進展に伴い雨水の流出量が増大し、ゲリラ豪雨による浸水被害が顕著になってきているため、被害の軽減や流量抑制の寄与	(今後の展開方針) 1.各支所・自治会へのチラシ配布 2.市民の友広報 3.建築士会へのチラシ配布 4.雨水施設等設備量販店にチラシ配布	
12	2	ハブ・衛生害虫等対策事業	H27 ～ H33	ハブ咬症防止の啓発、ハブの捕獲、捕獲器の貸出し等のハブ対策、ネズミやゴキブリ、蚊など衛生動物・衛生害虫の防除及び感染症に関する消毒業務を実施し、市民の安全と衛生的な生活環境の確保を図る。	ハブ咬症防止の啓発、ハブの捕獲、捕獲器の貸出し等のハブ対策、ネズミやゴキブリ、蚊等の衛生動物・衛生害虫の防除、感染症に関する消毒業務を実施する。	捕獲器の設置数 115基 ハブの捕獲数 56匹 ハブに関するパネル展等の開催 2回 衛生害虫等の相談対応件数 105件 衛生害虫重点薬剤散布箇所の調査・散布回数 40回	事業終了年度以降においても恒常的に行う必要のある事業であり、継続して事業を実施することにより市民の安全と衛生的な環境を確保する。	
12	3	天然ガス資源有効利活用調査研究事業	H27	沖縄県が奥武山において実施した天然ガス資源試掘調査報告書をもとに、本市での利活用の方策について調査研究する。	試掘地の公園内施設や周辺地域での需要、採算性、環境負荷、先進地視察等調査研究	公共施設等での利活用に向けた検討を行うための基礎資料を整理し、利活用の方向性を定める	(今後の展開方針) H28:「天然ガス資源有効利活用検討委員会(仮称)」を設置 今回の調査報告書を元に公共施設道での天然ガスの利活用の方向性を定めていく。	5月変更(事業追加)
13		安心安全な防災都市の構築推進事業	H24 ～ H33					
13	1	救命講座普及啓発推進事業	H24 ～ H33	自然災害並びに米軍基地が集中するが故に想定される人為的災害等に強い安心安全なまちづくりを推進するため、応急手当講習を開催するなどして、市民の救命能力の向上と普及啓発に取り組む。	・非常勤職員4人を採用し、定期救命講習、出前救命講習を実施する。 ・応急手当の重要性及び救命講習に関するPR活動を実施	応急手当講習受講者数:6,000人以上を実施する。(H25年度実績6261名)各応急手当講習会の目標数値は以下の通り 入門コース 1500名 普通救命講習 1550名 普通救命講習 280名 上級救命講習 80名 応急手当普及員講習 100名 その他講習 2500名	・定期講習会の実施(年27回) ・出前講座等の条件緩和原則平日開催、条件次第で土日も開催 ・小中学校への入門コースアップローチ ・応急手当普及員講習会強化	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
13	2	地域(防災)案内付き掲示板設置補助事業	H25 ~ H28	地域住民や観光客等の安全安心の向上及び地域の景観形成と自治会活動の活性化を図るため、防災情報に関する情報を取り込んだ沖縄らしいデザインの掲示板を作成する。自治会所有の掲示板について、当該掲示板設置への支援を行う。	・掲示板設置件数 77件 (取替:53件、新設24件)	新設又は改修により防災情報を取り込んだ沖縄らしい掲示板の割合40% H27年度末自治会所有掲示板数見込: 655基 H27年度末の新設・改修した掲示板数: 265基(H26:188基 H27:77基)	(今後の展開方針) 市民防災室と連携を図り、当該事業で製作した掲示板に、本市が作成した防災マップや各地域で作成する防犯マップ等の最新の情報を掲載し、今後の防災行政にも資するものとしていく。また、当該事業により自治会の防災意識の向上を図る。 H28年度:80件(取替:55件、新設25件)	12月変更 (計画変更に伴う各目標変更)
13	3	災害中央ボランティアセンター拠点施設整備事業(那覇市総合福祉センター)	H27 ~ H28	那覇市総合福祉センターは、本市が大規模災害に被災した際には、ボランティアが参集し、那覇市社会福祉協議会のコーディネートのもと、各被災地域へ派遣し活動するための拠点となるため、非常用発電機用の重油タンクを設置し、燃料供給時間を増やすことで、災害時の電源を確保する。	災害中央ボランティアセンター非常用発電機用重油タンク大型化工事の設計	災害中央ボランティアセンター非常用発電機用重油タンク大型化工事の設計完了	非常用発電機用の重油タンクの大型化工事を行い、災害時、円滑なボランティアセンターの立ち上げ判断を可能にする。	10月変更 (事業追加)
14		いい暮らしより楽しい暮らし、更なる沖縄の飛躍促進事業	H24 ~ H33					
14	1	地下壕対策事業	H24 ~ H33	沖縄の抱える様々な特殊事情(地下壕)に対応するため、陥没、落盤等による建築物等の危険度軽減を目的とした壕の埋戻等を行う。	地下壕の埋戻等の実施:4箇所	全体箇所数60箇所のうち、H27年度末までに12箇所において対策実施予定。 (全体箇所に対するH27年度末までの進捗率20%)	(今後の展開方針) 危険な地下壕について順次、埋戻等の対策を行っていく。 H33までに、対応可能な地下壕について対策実施率100%に向け事業の推進を図る。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
14	2	戦略的交通まちづくり推進事業	H24 ～ H33	沖縄の抱える様々な特殊事情(鉄軌道等整備の遅れ)に対応するため、公共交通機関利用についての意識啓発イベントなど、市内交通環境再構築に向けた事業を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・なほモビリティウィーク&カーフリーデーの委託実施 ・公共交通ハンドブック(12,000部)の作成・配布 ・LRT導入の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・カーフリーデーの実施意義への理解80%以上の継続 9/16～22日の1週間、なほモビリティウィーク&カーフリーデーを開催し、車に頼り過ぎない暮らしの社会啓発を行う ・公共交通ハンドブックを作成し市内への転入者へ配布することで、公共交通の利用を促す。 ・LRT導入の検討 市内において、LRT導入に向けた課題及び影響の内容を把握する。 	(今後の展開方針) なほモビリティウィーク&カーフリーデーの実施意義への理解80%以上を継続する。 公共交通ハンドブックの作成・配布を継続する。 LRTの導入方針を取りまとめる。	
14	3	亜熱帯庭園都市形成推進調査(道路)	H24 ～ H33	計画的で健全なまちづくりを推進するため都市計画施設整備の可能性調査、道路や市街地再開発、密集市街地改善、まちなか居住など商業拠点の形成や環境改善の方針を定めるための基礎調査を実施する。	まちづくり基礎調査の委託発注	都市計画道路の変更図書(案)の作成	(今後の展開方針) 本基礎調査結果をベースに地域住民のコンセンサスを得ながら、新たなまちづくりと連動させた道路の整備を推進することにより、密集市街地の生活環境の改善を図る。	
14	4	亜熱帯庭園都市形成推進調査(市街地再生)	H25 ～ H27	沖縄の抱える様々な特殊事情(軍用地接收等により生じたまちづくりの課題)のために、都市機能の更新が進まない中心市街地の区域について、中心市街地の活性化に資する、地域に則したまちづくりを進めるための調査・検討を行う。	対象地区 <ul style="list-style-type: none"> ・栄町市場街区 取り組み内容 <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり勉強会の実施(3回) ・事業スキーム(案)の検討 ・合意形成の推進 	「まちづくり基本構想(案)」の策定	(今後の展開方針) H28年度 基本計画の策定(合意形成、推進組織の検討等含む) H29年度 事業計画(案)の作成(地区計画、B/C他指標、関係機関協議等)	
14	5	アメリカ統治下議会議事録電子化事業	H25 ～ H29	祖国復帰前のアメリカ施政権下における本市議会の記録・議事録(1958年～1961年1月分まで)を電子化し、本土とは異なる政治形態下における議会の記録として市民ならびに沖縄の歴史研究等に提供できるよう整備する。	議事録電子化の実施 対象議事録:約15,000ページ	電子化した議事録をホームページで公開する。 ホームページ(電子書籍ページ)の閲覧者数(1ヶ月):50人	(今後の展開方針) 1958年以前の議事録についても、電子化する。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
14	6	亜熱帯庭園都市形成推進調査(住環境基礎調査事業)	H27 ~ H29	密集住宅市街地における再生重点地区の住宅施策に関する基本構想の策定及びまちなか居住推進方針案に対する具体的施策について、モデル事業による方針案の検証等を行い、住生活基本計画や市営住宅ストック計画に掲げた政策の実現に向けた、住環境基礎調査を実施する。	住宅施策に関する基本構想の策定 まちなか居住の方針案の検証	・基本構想による事業化の推進 ・まちなか居住の方針案作成	(今後の展開方針) 平成28年度 空き家調査及び推進策 平成29年度 老朽マンション実態調査 (調査完了後) 調査結果を活用し、国庫補助事業や各種制度を活用した具体的施策の取り組みを進める。	5月変更 (事業追加)
15		元気いきいき「ちゃーがんじゅう」長寿沖縄の健康づくり事業	H25 ~ H33					
15	1	歯科保健予防対策モデル事業	H25 ~ H27	モデル地区にて校区内の児童生徒や、保護者、地域住民に対して歯みがき教室やフッ化物洗口、食育教室や健康教室の実施を行い、総合的な健康づくりを実施することによって、効果的なう蝕予防や歯科保健の推進を図る。また、那覇市在住の妊婦に対し歯科健診を実施する。	・推進会議・毎月開催 ・歯みがき教室10回、食育教室1回、健康教室1回の実施 ・市内小学校における集団応用によるフッ化物洗口への取組を支援 ・市内歯科診療所にて妊婦歯科健診を実施	・モデル地区のフッ化物洗口会場での1回あたり平均来場者数:25人 (H26年12月現在平均来場者数:20人) ・市内小学校での集団応用によるフッ化物洗口実践校:1校以上(平成26年度:0校) ・妊婦歯科健診の受診率:50%	・市内小学校における集団応用によるフッ化物洗口実践校の増加(H26年度における実践校:0校) ・12歳児DMFT数の減少 ・1.6歳児、3歳児のう蝕有病者率の減少	
15	2	職場が主体的に取り組む健康づくり支援モデル事業	H25 ~ H27	職場の健康づくりの実態調査や健康づくりメニューブックを活かし、職場が主体的に企画・実施する「頑張る職場の健康チャレンジ」事業を実施する。その取り組みの内容を評価、検証し、今後の職場の健康づくりの支援のあり方を検討する。	・公募、審査の実施 ・事業所への取り組みに関する相談支援:9事業所 ・対象事業所の健康状況の把握 ・検討委員会の開催 ・今後の職場の健康づくりのあり方についてをまとめた報告書の作成	・チャレンジ達成事業所:8事業所(対象事業所:9事業所) (平成26年度達成事業所:3事業所(対象事業所:3事業所))	・健康づくりに取り組む事業所の増加 ・壮中年期の健康状態の改善、生活習慣病の発症の抑制	
15	3	那覇市健康ウォーキング推進事業	H26 ~ H33	市民の健康増進、生涯スポーツのまちづくりを目指し、市民健康ウォーキング大会を開催する。	那覇市健康ウォーキング大会の開催	那覇市健康ウォーキング大会参加者数:5,000人	(今後の展開方針) ・ウォーキング大会参加者数 H26年度4,000人からH33年度8,000人に向上	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

那覇市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
15	4	生活習慣病重症化予防モデル事業	H26 ~ H29	<p>本県は肥満率が全国一高いこと、要医療者でありながら受診していない者が多いなどの健康課題があるため、健診結果にもとづく特定保健指導の対象者だけでなく、要医療者や治療コントロール不良等の者に対してもかかりつけ医等と連携して保健指導を実施することで、心疾患や糖尿病等の合併症・重症化を防止、長寿県沖縄復活を目指す事業を実施する。</p> <p>また、30代・40代の国保加入者で3年連続で健診を受けていない者を対象に、自宅で実施できる血液検査の案内を郵送し自分自身の健康状態を確認してもらうことで有所見者を早期に見出し、重症化する前の医療機関受診(治療)につなげ、また健診受診の動機付けとする。</p>	<p>・対象者への保健指導率:80%</p> <p>・通知対象者のうち30代については、10%が検査の申込みを行い、40代については、4%が、検査の申込みを行う。</p>	<p>・要医療者が適正に受診し、血圧・血糖値が改善される人の割合:50%(H25年度改善率42.7%)</p> <p>・定期健診受診者:8割 (H25年度継続受診率68.8%)</p> <p>・申込みを行って、血液検査結果が有所見(D判定)となった者のうち、30代、40代あわせて50人が受療に向けた行動を行う。 有所見判定D判定: 30代:(10,000×10%)×13%=130名、40代:(5,000×4%)×20%=40名</p>	<p>H29年度の事業終了後は、治療中断や未治療者が減少し8割を治療につなげ、重症化を予防。医療機関との連携パスがスムーズに機能し高額医療費の抑制・適正化を図る。 糖尿病性の人工透析患者数の減少。</p>	<p>12月変更(計画変更に伴う事業内容、各種目標変更)</p>
15	5	歯とお口の健康普及啓発推進事業	H27 ~ H33	<p>歯科保健に対する正しい知識やむし歯や歯周病が全身に及ぼす影響、口腔機能の低下によりもたらす誤嚥性肺炎の防止等を市民に対して普及啓発するとともに、歯科疾患の予防に関する適切な習慣の定着を図る。</p>	<p>・市内各地域での実施会場:5会場 ・各会場でアンケート実施</p>	<p>・全会場入場者数:2,210人 (平成26年度:2,101人)</p>	<p>平成27年度のアンケート実施にて、現状を把握し、歯科保健予防に対する重要性の認識が高まったとする来場者を数値化し増加を図る。</p>	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

宜野湾市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考		
パ	細				H27事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等	補足説明等
1			道路景観整備事業	H24 ～ H33	プロ野球キャンプを活用した観光振興を図るため、横浜DeNAベイスターズがキャンプを行う市立野球場及び海浜公園から国道58号線までの市道及び、沖縄コンベンションセンターから国道58号までの市道の景観整備を行う。	・主要観光道路(市道)景観整備	・主要観光道路(市道)景観整備:1路線(歩道等)の約3分の2完了	(今後の展開方針) H33年度までに11路線(15.5km)を整備する予定。		
			はごろも祭り・カチャーシー大会運営事業	H24 ～ H33	市民意識の高揚と親睦を図りつつ、地域活性化及び商工・観光振興の観点から「はごろも祭り・カチャーシー大会」を支援する。	・はごろも祭りプログラム 各イベント数(20イベント) ・カチャーシー大会参加数 子供・団体の部 (20チーム×20名) 個人の部(100名)	はごろも祭り・カチャーシー大会来場者数 来場者数:150,000人 (基準値:H22年度 130,000人)	(今後の展開方針等) コンベンションエリア入域客数 基準値(H21年):430万人 目標値(H33年):900万人		
			企画展開催事業	H24 ～ H33	市民や観光客に宜野湾市への理解を深めてもらうため、普天間飛行場をとりまく歴史を中心に企画展を開催する。	企画展(2本)を開催	企画展の平均入館者数1,400人/1回 (基準値:H23～H25年度平均 1,395人/1回)	(今後の展開方針等) 市民や観光客に宜野湾市の歴史・文化への理解を深めてもらうことを目的に企画展を継続開催し、入館者増とリピーターの確保を図る。		
			宜野湾市産業まつり	H24 ～ H33	市の特産品のPRや産業振興及び観光振興を図るため、宜野湾市産業まつりの開催を支援する。	宜野湾市産業まつりの開催	宜野湾市産業まつり来場者数 平成27年度 来場者数28,000人 基準年度 平成23年度 来場者数10,000人	(今後の展開方針等) 来場者数の増加に向け、まつりの開催時期、内容を改善しながらH33年度まで支援を継続する。 H33年度目標値:来場者数30,000人		
			文化財説明板・標識設置事業	H24 ～ H33	観光振興及び文化教育に資するため、市指定・登録文化財の所在地に標識や説明板を設置するとともに、自治会事務所等に「地域文化財案内板(ふるさと案内板)」を設置する。	文化財標識・説明板設置件数:4件	文化財標識・説明板設置を行い、今後の展開につながる環境が整う。	(今後の展開方針等) 地域文化財案内板を各行政区・自治会ごとに設置する。また指定・登録文化財への標識や説明板設置を進める。市内外の方々の文化財見学などの機会、詳細な情報を提供することで観光振興・文化教育につなげる。		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

宜野湾市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			ぎのわん車いすマラソン大会補助事業	H25 ～ H33	障がい者スポーツの振興及び観光振興を図るため、本市の海浜公園及びその周辺で開催されるぎのわん車いすマラソン大会に対して支援する。	ぎのわん車いすマラソン大会に対しての支援を行う。	大会参加者(実走者)目標数 全体250名(内県外参加者50名)	(今後の展開方針等) 同大会に継続して補助を行い、一層充実したものにしていくことにより、全国的な大会として、より一層認知されるように取り組み、障害者スポーツの振興、本市及び沖縄県のPRにつなげる。 大会参加者(実走者)目標数(H33) 全体260名(内県外参加者55名)	
			琉球海炎祭支援事業	H25 ～ H33	日本で一番早い夏の大花火をキャッチフレーズにしたイベントである。日本の夏の風物詩である花火と沖縄音楽・文化の融合によるオリジナリティーに溢れた沖縄最大の一大イベントであり、本市の観光振興に寄与しているため、当該イベントを支援し、観光・コンベンション機能の充実を図る。	琉球海炎祭実行委員会への支援	琉球海炎祭有料エリア来場客数:13,000人 (内観光客5,100人)	(今後の展開方針等) コンベンションエリア入域客数 基準値(H21年):430万人 目標値(H33年):900万人	
			横浜DeNAベイスターズグリーンコミュニティー事業	H25 ～ H33	プロ野球のキャンプは、温かい沖縄を全国にアピールする絶好の機会であり、横浜DeNAベイスターズのキャンプ地である宜野湾海浜公園を南国沖縄の花で埋め尽くし、美ら島沖縄を全国へ発信し、観光・経済に大きな効果が期待できる。	・植樹する花の苗 (10,000鉢)	・プロ野球キャンプ見学者数 目標値(H27年度):28,000人 基準値(H24年度):22,300人	(今後の展開方針等) コンベンションエリア入域客数 基準値(H21年):430万人 目標値(H33年):900万人	
			トロピカルビーチ賑わい創出事業	H26 ～ H28	本市の観光資源であるトロピカルビーチでミュージックイベント等を開催することにより、市民の憩いの場や観光客の賑わいを創出し、アフターコンベンションの新たな観光スポットとして定着を図る。	イベントの開催	平成27年度 イベント来場者数:4,800人 (参考) 平成26年度 イベント来場者数:4,703人	(今後の展開方針等) コンベンションエリア入域客数 基準値(H21年):430万人 目標値(H33年):900万人	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

宜野湾市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
		エンタテインメント産業支援事業	H26 ～ H28	エンタテインメントを沖縄の成長産業として育成していく試金石として、次世代を担う若年層が世界のエンタテインメントの最前線から直接学ぶ機会を提供するとともに、宜野湾市の新たなイメージを創出するオープンスクールイベント開催を支援する。	オープンスクールイベントの開催	オープンスクールイベント来場者数:700人	(今後の展開方針等) コンベンションエリア入域客数 基準値(H21年):430万人 目標値(H33年):900万人	5月変更 (事業追加)
		博物館機能強化事業	H26 ～ H33	観光振興及び生涯学習に資することを目的に、文化発信拠点である市立博物館の案内板充実など機能強化を実施する。	常設展示室整備実施設計の実施	常設展示室整備実施設計の策定を行うことで、展示工事に向けての準備が整う。	(今後の展開方針) H28:常設展示室整備(展示工事)を行い、H29以降は企画展示室等の機能強化を図る。 入館者数:19,000人	5月変更 (事業追加)
		プロ野球キャンプ野球場施設整備事業	H24 ～ H28	宜野湾市内外に周知されたプロ野球チームのキャンプ地である市立野球場において、キャンプ受入体制を確保するため、市立野球場の施設整備を行う。	市立野球場のラバーフェンスの改修	市立野球場のラバーフェンスの改修完了	(今後の展開方針) プロ野球キャンプの受入体制を確保することにより、継続的なキャンプ誘致を実施し、県内外の観光客の誘客を図る。 H28年度:管理棟外壁補修・塗装 ・プロ野球キャンプ見学者数 目標値(H29年度):28,000人 基準値(H24年度):22,300人	7月変更 (事業追加)
2		スクールカウンセラー活用事業	H24 ～ H33	スクールカウンセラーを市内4小学校に定期的に派遣し、学級担任、児童生徒、保護者との相談(不登校・いじめ・非行・発達に関する問題等)を行い、教育相談の充実を図る。	スクールカウンセラー2名配置 (市内4小学校)	小中学校における不登校出現率 小学校0.35%以内 中学校3.0%以内 (出展)『平成26年度宜野湾市の学校教育』P42に準じた目標値	(今後の展開方針) 児童生徒の不登校やいじめ、その他の問題行動の未然防止、早期発見、早期解決を図るため相談業務を充実させる。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

宜野湾市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
		スクールソーシャルワーカー活用事業	H24 ～ H33	近年の子供たちを取り巻く社会環境が著しく変化するなかで、遊び非行型及び心因性による不登校児童生徒の増加が懸念されている。このようなことから、スクールソーシャルワーカー等を配置し、学校及び関係機関と連携しながら不登校児童生徒の学校復帰に繋げる支援に取り組む。	スクールソーシャルワーカー配置 第一相談室SSWアドバイザー(1名) 第一相談室SSWコーディネーター(4名) 市内小学校SSW(5名) 市内中学校SSW(8名)	学級復帰人数9人	(今後の展開方針) 非行系忌学の不登校、心因性による不登校児童生徒の教育相談・家庭訪問・登校支援などの支援活動を行い、不登校児童の学校復帰、学級復帰に努める。	
		適応指導教室事業	H24 ～ H33	不登校児童生徒の適応指導に関わる調査研究、教育相談を実施し、児童生徒の居場所づくりとして、宿泊・自然体験学習及び他校との交流体験活動を実施するなど不登校児童生徒の学校適応を促進する。	適応指導教室在籍児童生徒数:4名	小中学校における不登校出現率 小学校0.35%以内 中学校3.0%以内 (出展)『平成26年度宜野湾市の学校教育』P42に準じた目標値	(今後の展開方針) 不登校児童生徒の学校適応を促進するため、自然体験活動、制作体験活動、スポーツ活動等の活動を実施し、集団生活に適応するための意識向上やコミュニケーション能力向上を図るための支援を行う。	
		児童生徒相談事業	H24 ～ H33	市内の幼児、児童生徒(18歳未満)及び保護者等の悩みや教育上の問題について、青少年教育相談指導員、臨床心理士を配置し、問題解決を図るために相談業務の充実を図る。	青少年教育相談指導員配置:3名(第二相談室) 臨床心理士配置:2名(第二相談室)	学校復帰人数4人	(今後の展開方針) 心因性による不登校児童生徒の相談支援、登校支援を行うなかで登校に向けての自立心の養成を促す。	
		非行防止等巡回活動事業	H24 ～ H33	児童・生徒の健全育成を図る観点から、関係機関や地域と連携して少年少女の問題行動に対して必要な注意・助言・指導を行うため、夜間街頭指導員を配置する。	深夜はいかいする児童・生徒の指導件数:400件 (基準:H26年度現在436人)	夜間巡回活動の巡回箇所の見直し、指導の強化を図り児童生徒の事件事故等の未然防止に繋げる。	(今後の展開方針) 夜間のはいかい箇所の集約に努め巡回箇所の見直しを図り、児童生徒の犯罪や事故等の未然防止と抑止に繋げる。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

宜野湾市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			学習支援員活用事業	H24 ～ H33	学習に遅れをとっている児童・生徒が自ら学ぶ意欲を高め、基本的な学習内容を理解するため、授業内容をきめ細かにサポートする学習支援員を配置する。	全国学力調査の結果をもとに、次年度の実施に向けて計画の策定を行う。 学習支援員の配置:13校13人 小学校9校9人・中学校4校4人	全国学力・学習状況調査 目標数値(平均正答率) 小学校:国語A 80 国語 B 60 :算数A 80 国語 B 60 中学校:国語A 80 国語 B 70 :算数A 65 算数 B 45	今後の展開方針 H28以降の配置 学習支援委員の配置:13校13人 小学校9校9人、中学校4校4人 巡回指導、研修会を通して、支援方法のスキルアップを図る。	
			派遣費補助金交付事業	H24 ～ H32	児童生徒の文化活動及びスポーツを奨励するため、学校教育の一環として県外に派遣される場合に要する旅費等を支援する。	県外派遣された団体への支援を実施	児童生徒の文化活動およびスポーツ活動において、県外派遣補助金を交付することで、保護者の経済的負担の軽減を図る。	(今後の展開方針) H28～H33の派遣補助団体見込数は、概ね114団体 各年度:19団体	
			スポーツ少年団派遣費補助事業	H25 ～ H33	スポーツ活動による児童生徒の健全育成を図るため、一定の基準を満たすスポーツ少年団等の県外派遣を支援する。	県外派遣された団体への支援を実施	県外派遣補助金を交付することによって、保護者の経済的負担軽減、児童生徒の健全育成を図る。	(今後の展開方針) スポーツ活動による児童生徒の健全育成を図り、H33年度まで支援を継続する。	
3			歴史公文書等整理・活用事業	H24 ～ H33	歴史的価値を有する宜野湾市(村)の公文書等を整理し、今後の市民・利用者の資料要求に迅速に対応することを目的に、公文書等の整理、保存及び、検索システムへの登録や公開にあたっての基準づくりを行う。	・歴史的価値を有する公文書等の整理:250冊 ・公文書の一般公開に向けた取り組みを行う。	・歴史的価値を有する公文書等の利用者数:3人	(今後の展開方針) 歴史的価値を有する公文書等の整理:年間250冊(予定) (H24～H33年度累計2,161冊(予定)) 平成24年度:101冊 平成25年度110冊 平成26年度254冊 平成27年度以降250冊(予定)	
4			平和市民啓発事業	H24 ～ H33	全国の青少年と交流し、命の尊さや平和意識について学ぶため、8/9に長崎で開催される「平和祈念式典」及び「青少年ピースフォーラム」に市内生徒8名を派遣する。 沖縄戦から70年の経過を機に、平和祈念事業を実施することにより、戦争の悲惨さ・平和の大切さを市民に啓発する。	平和学習派遣イベントの実施	命の尊さや平和意識の向上を図る。 イベント集客人数:300人	(今後の展開方針) 【平和学習】 H24～H33年度 各年度8人、累計80人 【平和記念事業(イベント)】 H27年度の実施状況を見て、今後の展開を検討する。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

宜野湾市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			小学校英語教育課程特例校事業	H24 ～ H33	本市は、平成15年度に国の英語教育特区の認定を受け、平成16年度以降、小学校に「英語科」を新設、小中一貫した英語教育を行っている。効果的・継続的な指導のもと、児童生徒の国際化時代に必要な外国人との実践的コミュニケーション能力の基礎を育むため、外国人英語指導助手(ALT)及び日本人英語教師(JTE)を小学校に派遣する。	ALT(外国人英語指導助手)及びJTE(日本人英語教師)を配置 :全小学校(9校) ALT9人 JTE9人	小学校児童英語検定総合平均点数の増 H27年度受験率100% (基準値:H24年度100%) ブロンズコース総合平均85点以上 シルバーコース総合平均80点以上	(今後の展開方針) H33年度 児童英語検定受験率:100% ブロンズコース総合平均90点以上 シルバーコース総合平均85点以上	
			外国人教師招致事業	H24 ～ H33	本市は、平成15年度に国の英語教育特区の認定を受け、平成16年度以降、小学校に「英語科」を新設、小中一貫した英語教育を行っている。効果的・継続的な指導のもと、児童生徒の国際化時代に必要な外国人との実践的コミュニケーション能力の基礎を育むため、外国人英語指導助手(ALT)を中学校に派遣する。	ALT(外国人英語指導助手)の配置 :全中学校(4校) (各中学校1人配置)	中学校英語検定受験者数の増 H27年度受験率:43% (基準値:H24年度:40.2%) 英語検定5級合格率85%	(今後の展開方針) H33年度 英語検定受験率:50% 英語検定5級合格率90%	
			学校ICT活用指導支援事業	H24 ～ H33	児童生徒の情報活用能力向上を図るため、ICTサポート支援員を派遣し、教育用PC、電子黒板及びプロジェクターなどを活用した情報教育授業を実施する。	・ICT活用主任嘱託員1名・補助員1名の配置 ・情報夏期講習会の開催 年8回 ・情報教育研究会検証授業を行う 年12回	ICT機器を活用した授業の支援を行ない、児童生徒の学習理解度を深めることや情報活用能力の向上を図る。	(今後の展開方針) 教師用アンケート「授業にICTを活用して指導できる」率を求め、積極的にICT機器を活用した授業の展開を促進させる。 市内小中学校1学年に1台の電子黒板、又は、プロジェクターの導入を検討し、宜野湾市独自の教育環境を考慮したICT教育の計画、整備を行う。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

宜野湾市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
5	宜野湾市地域防災計画等策定事業	H27	<p>沖縄県は、島しょ県であるとともに、台風等の自然災害を被りやすい地域であることから、住民の生命・財産を守るため、沖縄県で想定されるあらゆる災害に対応できる実効性のある地域防災計画を策定するため現行の地域防災計画の見直しを行う。また、津波・土砂災害ハザードマップに高潮・洪水の危険箇所等を加え総合防災マップを作成し、全世帯へ配布をし周知を図る。更に総合防災マップ(GIS)は市HP上でも公開する。</p>	<p>地域防災計画の策定及び総合防災マップの作成及び全戸配布(約41,000部) また、総合防災マップ(GIS)は市HP上でも公開する。</p>	<p>・総合防災マップを市内全世帯(約41,000部)に配布及び市HP上で公開し、危険箇所や避難所の周知を行い、市民の防災意識の高揚を図る。</p>	<p>(今後の展開方針) ・見直しを行った地域防災計画に基づく、各分野の災害計画等により、大災害に備える。 ・当初配布する全世帯のみならず、配布後に市内へ転入してきた方へも総合防災マップを配布し、今後も全世帯に周知を図る。 ・市報への掲載や防災講演会を利用して参加住民へ周知を図る。 ・避難所の追加など軽微な修正は、GISデータを修正し、市HP上の総合防災マップにおいて周知を図る。 ・総合防災マップを活用した住民参加型の避難訓練を実施し、危険箇所を周知して防災意識の向上を図る。</p>	<p>7月変更(計画変更に伴う事業内容、各目標変更)</p>	
	市民防災事業	H27 ~ H33	<p>沖縄県は、島しょ県であるとともに、台風等の自然災害を被りやすい地域であるため、平常時から災害に対する備えを万全にする必要がある。本事業では、宜野湾市地域防災計画に基づき食糧備蓄や飲料水の確保や津波一時避難ビル表示板の設置や自主防災組織の育成支援を行う。</p>	<p>・4,000食の備蓄食料を備蓄する。 ・津波一時避難ビルとして指定した建物へ25カ所の表示版を設置する ・自主防災組織への資機材整備の支援を行う。 ・海水淡水化装置の整備を行う。</p>	<p>・保存食の備蓄 H26年度備蓄食糧率34% H27年度備蓄食糧率54% ・津波避難ビルの認知度を向上させる。 ・地域の自主防災力の向上を図る。 ・海水淡水化装置導入完了(1機予定の内1機)</p>	<p>(今後の展開方針) ・平成29年度までに目標の2万食の備蓄を行ったあとは、保存期限が過ぎた食糧分の備蓄を年次的に行い、常に2万食を備蓄し、大災害に備える。 ・高台へ避難が困難な要配慮者の方のために、既存の中高層住宅を津波一時避難ビルとして指定していく方針である。 ・市内すべての自治会(23自治会)における自主防災組織の結成を支援し、設立後は資機材整備に係る補助金を交付し、地域の自主防災力の向上を図る。 ・訓練等で海水淡水化装置を使用し平常時から機械操作の訓練を行い災害時に備える。</p>	<p>5月変更(事業追加)</p>	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

宜野湾市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
6	宜野湾市基地返還跡地転用推進基金事業	H24 ~ H33	本市の面積の約3割を占める広大な米軍基地は、住みよいまちづくりをする上で最大の阻害要因となってきた。土地を住民から強制接収した経緯から土地の約9割以上が民有地となっており、公共用地が極端に少ない状況であり、駐留軍用地の返還後の跡地利用推進を図るため、基地返還跡地転用推進基金を設置し、早急に公共用地を確保する。	普天間飛行場の土地を取得する。	普天間飛行場【特定事業の見通し】(80,000㎡)に対し(42,700㎡)を取得する。達成率:53%	(今後の展開方針) 返還後の跡地利用の推進を図るべく、平成33年までの間で、普天間飛行場における必要な土地について100%の取得をめざし、計画的かつ継続的に先行取得を行っていく。		
7	普天間飛行場跡地利用計画策定事業(地権者意向調査)	H24 ~ H33	普天間飛行場の跡地利用推進のため、関係地権者や市民の合意形成に向け、情報提供や意向把握等の調査を行う。また、市民によって構成される「N Bミーティング」や若手地権者等によって構成される「若手の会」の活動を支援し、合意形成についての取り組みを行う。	市民の活動支援及び意向醸成、地権者の活動支援、地権者の意向調査	返還前から関係地権者の意向把握を継続して行う事で、翌年度以降の跡地利用計画の具体化に繋げる。	(今後の展開方針) 合意形成に向け、市全体の将来像(市全体の土地利用、道路網や跡地利用方針等)検討のための「(仮称)普天間飛行場まちづくり協議会」の立ち上げに向けた取組んで行く。		
	普天間飛行場跡地利用計画策定事業(共同事業)	H24 ~ H33	宜野湾市と沖縄県が平成19年5月に策定した「行動計画」に基づき、跡地利用の骨格に係る分野別計画の検討と、市民・県民・地権者等に対して情報発信及び意見の聴取を行い、普天間飛行場跡地利用計画に反映させる。	今後の計画づくりの推進、県民・地権者との合意形成の促進、県内外に向けた「跡地利用情報」の発信	返還前の早い段階での跡地利用計画策定等に係る調査・検討を行う事で翌年度以降の跡地利用計画の具体化に繋げる。	(今後の展開方針) 沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画において、返還時期が示されたことを受け、具体的な跡地利用の取り組みについての行程計画を作成し、跡地利用計画の策定に向け取組んで行く。		
	キャンプ瑞慶覧跡地利用計画策定事業	H24 ~ H33	キャンプ瑞慶覧のうち、返還が合意されている宜野湾市部分について、返還後の跡地利用計画を円滑に促進するために跡地利用計画の策定及び地権者の合意形成活動を行い、地権者全体でまちづくりを推進する体制を実現することを目的に、地権者の跡地利用に対する意識高揚を図る。	跡地利用実施計画(案)検討	跡地利用実施計画(案)作成に向けて課題の把握ができる。	(今後の展開方針) 跡地利用計画の実施に向けて想定されるまちづくり体制上の課題を整理したうえで、施行主体及び地権者まちづくり推進体制等について取組んで行く。		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

宜野湾市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
8			市民会館機能強化事業	H24 ～ H29	宜野湾市民会館は文化活動の拠点として、市民の発表の場や芸術の鑑賞の場として活用されているが、建設から30年経過し老朽化が進んでいる。しかし、普天間飛行場の移設、跡地利用に目途がつかない状況下では、建替計画の策定が難しいため、現在の設備等を改修し、市民がより利用しやすい施設として機能向上を図る。	保全計画策定完了	市民会館保全計画を策定することにより、より効果的な施設整備に向けて環境が整う。	(今後の展開方針) H28年度:保全計画策定を基に展開方針を作成 H28～29年度:消防設備改修、空調設備改修(ケ-リングター-取替含む)、大ホール絨毯、客席取替工事、大ホール舞台機構及び音響設備改修等	
9			中央公民館機能強化事業	H24 ～ H27	宜野湾市中央公民館は社会教育施設の拠点として、講座、教室、講演会等の場に活用されているが、普天間飛行場の移設、跡地利用に目途がつかない間、現在の施設を改修し、より利用しやすい施設として機能向上を図る。	中央公民館舞台機構及び照明設備改修工事設計・監理の業務の実施 中央公民館舞台機構及び照明設備改修工事の実施	スクリーンの移動が可能となること等による舞台利用環境の向上を図る。 舞台照明の高機能コンパクト化等による舞台演出機能の向上を図る。	(今後の展開方針) 機能向上とより安全で利用しやすい施設を周知し、各種講座や教室の開設及び住民の集会その他公共的利用の促進を図る。	
10			被覆資材等導入推進補助事業	H27 ～ H33	本市農業振興を図る為、防風対策施設の設置及び被覆資材等導入にかかる経費に対する支援を行う。	申請件数の増加 9件 (基準:H25年度申請件数 8件)	被覆資材等導入面積の増加を図る。 H25年度実績:7,418㎡ H27年度目標:8,000㎡	台風等の気象災害や害虫による農作物被害を軽減する為、被覆資材等導入にかかる経費に対して支援し、導入面積を上げる事で、安定的な農業生産活動を推進する。	5月変更(事業追加)
11			新設学校給食センター用地購入事業	H27	普天間第二学校給食センター及び真志喜学校給食センターは築30数年経過しており、老朽化が進み衛生管理、安全面に支障をきたす恐れがあるため、両センターの建替え方針に基づき、新設学校給食センター用地購入を行う。	新設学校給食センター用地購入を行う	用地購入を行うことで、給食センターの整備に向けて環境が整う。 用地取得面積:5,729.14㎡	新設学校給食センターの平成29年度供用開始に向けた事業の着実な実施	5月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

石垣市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
バ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			観光誘客プロモーション事業	H24 ～ H33	観光需要の安定化を図るため、県外の主要都市などターゲットとなる対象に出向き石垣島観光の魅力を対面プロモーションで紹介するほか、メディア媒体等を活用したPRや誘客イベントを開催する。	・ターゲット都市での観光プロモーションイベント等(11回) ・観光PRパンフレット作成(23,000部) ・ナベルティーグッズ(10,000個)の作成 ・ラジオ、雑誌等のメディアと連携した観光PR(5媒体)	・閑散期11月-2月期の入域観光客数を2%増 254,397名(H25.11月～H26.2月) 259,485名 (H27.11月～H28.2月) ・繁忙期7月-9月期の入域観光客数を5%増 366,673名(H26.7月～9月) 385,006名(H27.7月～9月)	観光プロモーションの実施により、石垣への観光需要を喚起する。	
1			スポーツ！ウェルカム！石垣島！事業	H24 ～ H33	スポーツツーリズムを推進し離島振興につなげるため、国際大会、プロスポーツキャンプ、体育系教育機関の合宿等の誘致を目的に営業活動を実施する。また、受入環境整備及び受入体制強化のため、選手等への快適な環境づくりと、歓迎装飾やキャンプとタイアップしたイベント等の賑わい創出により地域活性化へつなげる。	・誘致営業活動5カ所、10団体。 ・先進地のスポーツキャンプ受入環境視察。県外1回 ・プロ野球キャンプ受入体制の強化(警備員配置・総合案内所の設置など)。	・プロスポーツキャンプ及び大学等のスポーツクラブのキャンプ新規、継続誘致合わせて3団体以上 H26年実績：プロ(2)、大学(1) ・プロ野球キャンプ期間中を通して来場者数を対前年比3%増 平成26年 18,600名 平成27年 19,000名	・体育施設の有効利用、スポーツツーリズムの情報提供や受入を積極的に行う ・プロ野球キャンプの受入が継続できるように来場者と選手に安全で快適な会場を提供する。	
1			八重山博物館所蔵資料修復及び整理・活用事業	H24 ～ H33	博物館資料の保存・活用等を図るため、博物館所蔵資料のうち、虫食い等により状態の良くない古文書等の修復を行うとともに、修復した資料のデジタル化を行う。	・所蔵資料の修復・及びデジタル化33件	・H.27年度入館者数6,480人 .24年度入館者数比6,400人の1%増	所蔵資料のうち状態の良くない資料を年次的に修復し、デジタル化を図りながら活用にする。また、資料保存管理を図る。	
1			石垣島ミュージックフェスティバル事業	H25 ～ H29	観光ボトム期(閑散期)の観光需要を高めるため、本市の観光魅力をアピールするミュージックフェスティバルを開催する。	・ミュージックフェスティバルの開催	・チケット販売目標数：計7千名 (前回H26.3月実績 4,433名)	イベントへの集客を国内外にアピールすることで、石垣への観光ボトム需要を喚起する。	
1			石垣島シネマフェスティバル事業	H24 ～ H33	八重山諸島で撮影された映画作品を集め上映する事により、映画、ドラマのロケ地としての島の魅力を広く国内外に発信することを目的に最新の上映システムを使用し上映会を開催する。またそれにより映画館の無い当市の市民および観光客にも島の魅力や劇場で鑑賞する映画の楽しさを再認識してもらう。	・シネマフェスティバルの開催	・H27年度の目標入場者数：7,000人 ・H24年度の入場者数：3,733人 ・H25年度の入場者数：6,034人 ・H26年度の入場者数：5,000人	今後の展開方針 ・目標総入場者数8万人(累計) ・目標サスコミ媒体30社以上(年累計)	
1			いしがきの原風景写真等デジタル化事業	H24 ～ H28	市史編集事業で収集してきた写真資料等をデジタル化することにより、歴史的な観光資源についての情報発信を行うとともに閲覧者にデジタル化した写真資料等の活用を促す。	・プリント写真7,000コマ、ネガフィルム8,000コマのデジタル化及びアーカイブ構築	・いしがきの原風景写真等デジタル化実施率 55,000点/75,000点(73%) ・アーカイブ構築率：30%	平成28年度に写真資料等のデジタル化を完了し、平成27年度から「石垣市史アーカイブ(仮称)」で、デジタル化した資料の一部を公開し、観光客や一般市民の利用に供する。	

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

石垣市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考		
バ	細				H27事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等	補足説明等
					H27事業内容					
1			大浜地区歴史遺産活用事業	H25 ～ H28	本市の有する特異な歴史、文化を来訪者に紹介することにより、さらなる観光の推進を図る。大浜地区は、14～15世紀の集落跡と考えられる国指定史跡フルスト原遺跡をはじめ、宇根井戸や大底御嶽など多様な歴史遺産が存する地域である。これらの歴史遺産を連結させる紐帯として遺跡の隣接地に駐車場を整備する。	・駐車場の設計	設計完了	【H28年度】 駐車場整備工事、パンフレット作成 社会教育機関、観光施設等にパンフレットを配備するとともに、遺跡を活用したイベント等を企画し、観光活用を推進する。	12月変更 (計画変更に伴う事業内容、各目標変更)	
1			石垣市民会館設備改修事業	H25 ～ H30	島内外のプロを始めとするアーティスト及び団体による多くの公演の誘致につなげるため会館設備を改修し、良好な環境を提供しやすい施設として整備する。そのことにより、それら公演及びアーティストのファンをイベントツアーで誘客し島の魅力をアピールすることでリピーターとしての新たな観光客の誘致活動を行う。	・石垣市民会館空調設備改修 ・大中ホール用ワイヤレスマイクシステム購入 ・音響設備改修設計業務委託	・室温管理システムの構築 整備前 外気との温度差4度 整備後 室温25 前後に調整可能 ・熱中症の恐れのある環境からの脱却が図れる。 ・ワイヤレスマイクシステムの多チャンネル化 ・音響設備改修設計の完了 ・公演事業の誘致に際し、演じ易く鑑賞し易い環境の整備	今後の実施予定内容等 ・H28年度:照明設備改修工事 ・H29年度:音響設備改修工事 ・H30年度:中央監視盤、非常用発電機設備改修工事 整備完了後:公演数10公演増 利用者数8,000人増	12月変更 (計画変更に伴う各目標変更)	
1			南ぬ島空港観光案内所運営事業	H25 ～ H33	旅行者に観光情報の案内を行うことで観光地としての信頼度と満足度を推進するため、本市の玄関口となる新石垣空港ターミナル内において、観光案内所を運営する。	・観光案内人3名の配置。	・案内所サービスの利用者数:基準年度対比5%増 基準年度(H25年度)44,625人 46,856人	観光客の利便性向上を図るため、観光案内所に寄せられる情報等を観光施策に反映する。		
1			観光地受入基盤強化事業	H26 ～ H31	着地型観光コンテンツの造成や観光地としてのサービス向上による観光満足度を高める仕組みづくりに取り組む。	・石垣旅プランの商品化及びキャンペーンを行う:2商品 ・外国語講座の開催:3か国語、1コース20回開催。 ・着地型イベントへの補助実施:南の島の星まつり・とぅばらーま大会 ・星空学びの部屋の広報を行う。 ・星空資源を向上させる取り組みを行う。 ・二次交通(タクシー)を活用した周遊観光の取り組み及びマナー向上を行う。	・石垣旅プランへの参加者数:200名 ・外国語講座の受講者数:90名 ・南の島の星まつり、とぅばらーま大会開催 ・星空学びの部屋来場者数:5,000名 (基準年度H25年度 2,893名) ・石垣島の星空資源を活用する観光事業者への啓発推進:10件 ・二次交通を活用した周遊観光の造成:1件	着地型コンテンツの造成や、観光諸費額や観光満足度の向上、強化を図る。 通年、季節ごとの観光資源の魅力を活かした仕組みづくりや観光まちづくりに取り組む。		
1			安心・安全なまちづくり推進整備事業	H27 ～ H29	市民や多くの観光客で賑わう繁華街地域における事件事故防止や犯罪の抑止を図るための防犯カメラの設置を行う。	・防犯カメラ設置 2台	・防犯カメラ設置率33%(2台/6台)	美崎町地域等、特に人が集まる場所を中心に防犯カメラを設置し、安心・安全なまちづくりを推進する。 H29年度までに、防犯カメラを6台設置する。	7月変更 (事業追加)	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

石垣市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
1	石垣市内文化財環境整備事業	H27 ~ H33	宮良浜川原のヤラブ並木の剪定及び石垣市内に残る旧家の庭園2カ所の写真測量業務を実施する。	・ヤラブの枝の剪定 ・庭園2カ所の写真測量	・ヤラブ並木の安全面の確保と環境美化 ・庭園詳細図の作成	・指定文化財(天然記念物)を観光資源として活用できる。 ・詳細図を作成することにより、今後、国庫補助等の導入が可能となり、経年劣化した庭園の修復事業ができる。	12月変更(事業追加)	
2	観光施設及びキャンプ場誘客整備事業	H24 ~ H33	観光客の受入れ強化を図るため、観光施設を整備、改修を行う。多くの観光客が観光施設等を利用するが施設の経年劣化が激しいため早急に改修整備し、併せて施設緑化も含めて魅力ある観光施設整備を行う。	・玉取崎周辺施設実施設計の検討	・H29年4月供用開始に向けた実施設計書の完了。	H28年度 玉取崎周辺整備工事。 ・観光客の利便性の向上 ・駐車場収容台数の拡大(大型5台、中型13台)(大型10台、中型25台) H29年度 底地ピーチ設計・工事。		
2	平久保半島エコロード整備調査事業	H25 ~ H28	平久保半島は国立公園区域に指定されている区域であることから、市道平久保半島東線及びその周辺の自然環境に係る情報を収集し、生物多様性の保全に配慮したエコロード整備に対する留意事項の検討を目的とする。	・動植物現地調査の実施(任意観察法、自動撮影法、夜間調査、定点観察法、スウィーピング法等による生息確認。) ・エコロード整備事業に対する留意事項の検討	・平久保半島エコロードの道路整備に向けた自然環境基礎資料の整理(現地調査結果報告書の作成、自然環境情報図の作成) ・上記資料を基にした、エコロード整備に対する留意事項のとりまとめ。	・事業スケジュール H28年度 実施設計 H29年度 工事		
2	亜熱帯都市公園整備促進事業	H25 ~ H30	石垣市の街区公園は、拝所や良好な緑地を有し、独特の景観を残している。また、地域文化の象徴でもあり、重要な観光資源の一つでもある。その街区公園の利活用を目的として、石垣特有の街区公園整備を図る。	用地取得の交渉	全体計画に対する用地取得率16.62%(取得面積1,545㎡)	H27年度~ 用地取得・公園整備		
2	石垣市風景計画改訂検討事業	H27	景観重要樹木及び景観重要公共施設の指定検討のための候補の抽出や景観形成基準の調査や計画策定前と現在の変化を把握する基礎調査を行う。	・景観重要樹木や景観重要公共施設に関する評価、景観形成方針等の作成 ・既存建築物における景観形成基準適合状況の把握。	・石垣市風景計画の改定に向けた基礎資料の整理(石垣市風景計画改定素案の策定)	石垣市風景計画の改訂に向け、平成28年度に住民意見の聴取、平成29年度に法手続きを行う。		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

石垣市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
バ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2			VERAアクセス道路安全安心推進事業	H26 ~ H27	本市の観光スポットである「VERA石垣島観測所(国立天文台)」へのアクセス道路の整備を実施することにより、観光地としての安全・安心・快適を確保し、観光リゾート地の形成を目指す。	工事实施 ・切土工 一式、埋戻工 一式、土砂運搬工 一式 ・排水路工 L=約35m (呑口・吐口工 一式、暗渠工 一式、落差工 一式)	・工事完了	観光地としての安全・安心・快適を確保するため、定期的な現場巡回を実施し、施設の適切な維持管理に努める。	5月変更 (事業追加)
2			石垣市中央運動公園リニューアル事業	H27	市民のスポーツ振興、プロ・アマチュア等のキャンプ誘致を図るため、核となる施設「石垣市中央運動公園」のリニューアルを図る。	・石垣市中央運動公園の再整備構想の策定(運動施設の改築や未利用地の有効活用に向けた基本方針、基本計画)	・都市公園事業の導入に向けた基礎資料の整理(基本方針、基本計画策定)	都市公園事業での改築を目指す。	5月変更 (事業追加)
2			人工ビーチ付帯施設整備事業	H26 ~ H27	石垣港新港地区において整備を進めている、人工ビーチの供用に向け、利用者の利便性の向上のため、ビーチ利用者が遊泳後に使用するシャワー施設・脱衣所・ロッカールーム等を整備する。	・管理棟、男子トイレ・シャワー・ロッカー室、多目的トイレ・女子トイレ・シャワー・ロッカー室を備えた施設(鉄筋コンクリート造1階平屋、床面積249㎡)の建築工事の実施	・ビーチ利用者及び観光利用に向けて、利便施設の整備完了。	平成28年度、人工ビーチ一部供用を行い、ビーチ利用者及び観光客の利便施設として使用していく。 人工ビーチ見込者数:137千人	7月変更 (事業追加)
2			フラワーロード整備事業	H24 ~ H27	観光客が訪れて良かったと感じられるようなまちづくりを推進するため、植樹帯へ花や樹木の植栽を実施する。	臨港道路の植栽改良	臨港道路の植栽改良完了 L=0.8km	観光地としての魅力を保つため、定期的な現場巡回を実施し、施設の適切な維持管理に努める。	10月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

石垣市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
3	石垣市新火葬場建設事業	H27 ～ H28	石垣市火葬場は八重山圏域唯一の火葬場で、定住促進を図る上で必要不可欠な施設である。老朽化が進む石垣市火葬場の機能向上を図ることで、八重山圏域の定住条件の向上や利用者の利便性向上、環境負荷の軽減を目指す。	建築延面積：1,405㎡ 構造：鉄筋コンクリート造 一部2階建 火葬部門：大型炉3基 管理部門：エントランスホール、事務室 男女トイレ、多目的トイレ等 待合部門：待合室2室、畳間	・利便性の向上による利用者負担の軽減。	(今後の展開方針) H28年度：供用開始		
3	石垣市資源循環アイランド推進事業	H25 ～ H30	『環境と共生したエコアイランド』の実現のため、廃棄物系バイオマスを資源として利用し、島内循環システムづくりを行う。	・無加温等による性能調査 ・消化液肥散布による作物の生育調査 ・生ゴミ収集方法の確立のために、先進地の視察	・テストプラントの性能調査を行うことで、より安価な実機の制作に向けた報告書を作成。 ・循環型農業の確立へ向けた報告書を作成。 ・本市に最適な生ゴミ収集方法の基礎資料の把握。	・テストプラントを稼働させ、基礎資料等を収集しながら実機で想定される事などを解決しながら、実機導入へ向けたシステムづくりを目指したい。	5月変更 (事業追加)	
4	ものづくり、マーケティング総合支援事業	H24 ～ H29	製造業及び特産品の振興を図ることを目的に、特産品プロモーション、特産品開発支援、特産品販路拡大ノ開拓支援、特産品ブランド化推進、人材育成、原材料確保支援などを総合的かつ網羅的に展開し全体としての効果の発現を目指す。	(1)国内外の都市における特産品プロモーション実施 2回 (2)開発商品の製造先確保、商品化、販路獲得 3アイテム (3)特産品加工施設の実証稼働 1カ所 (4)Made in 石垣の工芸品の海外販路開拓 (5)ものづくり産業人材育成 2コース(織物・やきもの) (6)やきもの振興のための坯土製造事業者への支援 (7)地域団体商標登録支援 (8)知財リスク管理支援セミナー開催 1コース (9)地域版HACCP制度導入へ向けた勉強会の実施	(1)金沢…物産展での売り上げ200万円(対前年度比187万円増) 台湾…物産展での売り上げ50万円(前年度販売実績なし) (2)石垣市プロデュース特産品(3品目)売り上げ30万円以上 (3)石垣島産バインアップル使用の加工品(2アイテム)売り上げ400万円以上(6ヶ月間) (4)商談会における商談成約件数3件 (5)作品展示会の開催(各1回) (6)石垣島産坯土の生産高対前年比1,100kg増 (7)地域団体商標登録 2アイテム(食品1、非食品1) (8)知財リスク管理支援セミナー参加による民間事業者による商標登録数 3アイテム以上 (9)地域版HACCP制度導入へ向けた勉強会への参加事業者数10事業者	(1)国内外での物産展を継続し、売り上げ対前年度比15%増を目指す (2)品目数を5品目に増やし、平成29年度には売り上げ40万円以上を目指す (3)平成29年度には売り上げ4,000万円以上を目指す (4)台湾輸出は継続し、加えて香港や東南アジア諸国(タイ・シンガポールなど)への販路開拓にも取り組む。 (5)ものづくり産業人材育成事業を継続する (6)坯土製造事業者への補助を継続し、工芸品振興のための総合見本市(仮称)を開催する (7)引き続き取り組む (8)取り組みを継続する (9)検討、協議内容を踏まえた体制づくりを継続する	5月変更 (計画変更に伴う各目標変更)	

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

石垣市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
バ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
4			文化産業創出事業	H25 ～ H28	人材やコンテンツを活かしたクリエイティブ産業の創出や認知度向上を図る為に、ワークショップの実施、国内外へ向けた情報発信強化、活動交流拠点となるコミュニティスペースの創出をおこなう	クリエイターらのPR事業の実施 (EXPO出展、イベント等を3回予定) クリエイター向けワークショップを実施し、コンテンツ造成を図る(5回予定) 活動拠点創出となる場を1カ所確保	・PRIによるクリエイターらへの業務受注 目標件数 / 10件 ・市民向け、観光客向けのコンテンツづくり 目標 / 1プログラムあたり参加者30名程度	PR活動の継続 活動交流拠点に係る運営費の一部を受益者負担による運営にして、持続可能な事業へと発展させていく 台湾との人的交流、文化的交流を更に活発化させていき、インバウンドアウトバウンドなど、観光関連産業の巻き込みを促進していく	
4			社会復帰支援モデル実証事業	H27	生活困窮者及び生活保護受給者に関しては雇用や就労の場から遠のいているのが現状である。本事業により短期就労の受け皿として、本市が行う行事・イベント等開催の清掃、会場設営等の一時的就労の場を確保し、長期就労へ繋げ困窮からの脱却を目指す。	・本市主催事業による行事、イベント等への有償による現業作業員(3名)の派遣(3名×時給788円×1日8時間×月8回×6か月)	・事業対象者による自発的な就労活動 3名	長期就労(雇用)先の確保を行い、被対象者の自立促進につなげていく。	10月変更 (計画変更に伴う活動目標変更)
4			商店街・中心市街地ならびに商業振興事業	H24 ～ H29	本市の中心市街地及び商業振興を図ることを目的に、石垣まちなか活性化戦略計画に基づいて、中心市街地の活性化や域内での商業活動の活性化を通じた商業振興に資する具体的なプランの実施へ向けた事業を展開する。	(1)(仮称)八重山フレッシュマーケットの基本構想、計画づくりと段階的実証の実施、 (2)現公設市場のリニューアルプランづくり (3)駐車場の一元管理及びアンナンシステム構築へ向けた可能性調査の実施	(1)(仮称)八重山フレッシュマーケットの試験的開催及び基本構想の策定、実施体制づくり(マネージメント機能の確保)、参加事業者の掘り起こし (2)公設市場のリニューアルへ向けたコンセンサス形成、利害関係者の意向把握、実行可能なリニューアル実施プランの策定 (3)中心市街地内におけるレンタカーによる駐車場利用状況の把握、公共交通を含む観光客による中心市街地へのアクセス現況についての報告書の作成	(1)実証結果の検証と参画事業者の掘り起こしを実施。将来のハード整備へ向けた実施計画づくりを行う (2)H27のプランニングに基づき新公設市場の基本ならびに実施設計 (3)調査結果に基づき導入可能なシステム構築	5月変更 (事業追加)
5			”石垣産の牛”生産推進事業	H24 ～ H33	肉用牛繁殖農家に対して優良繁殖雌牛の導入費用や淘汰費用の一部を助成し母牛群の更新・改良を図る。また、口蹄疫等の家畜伝染病を未然に防止するため、害虫の予防・駆除や空港・港湾での靴底消毒を徹底し水際対策を強化する。その他石垣牛の宣伝や肥育牛の増頭支援などを実施する。	靴底消毒の実施(空港、離島ターミナル) 優良母牛導入補助の実施 高齢母牛淘汰補助の実施 石垣牛広告を電光掲示 牛舎整備補助の実施 殺虫剤費用の補助の実施	口蹄疫等の侵入リスク低減(発生がないこと) 導入80頭 計画に対する進捗率51% 淘汰200頭 石垣牛ブランドの周知 肥育牛の安定供給体制構築(80頭分の肥育牛牛舎整備補助) 5,000頭への殺虫剤塗布	全項目とも継続する必要がある 水際対策の徹底 目標：H33年度 500頭 実績：H25年度まで97頭 、母牛更新・改良を推進するPRを行い、観光業にも寄与する 今後の観光客増にも対応し得る安定供給体制を支援する。H26:30頭 H27:100頭以上	12月変更 (計画変更に伴う各目標変更)

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

石垣市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
5			水産振興事業	H24 ～ H33	養殖漁業の経営安定化を図るためヤイトハタの種苗の輸送支援を行う。また、沖縄県の三大高級魚であるアカジンを、新たな養殖魚種として確立するための養殖実証試験を行う。	ヤイトハタ種苗の輸送支援 アカジン(スジアラ)養殖実証試験事業の実施	ヤイトハタ種苗輸送数:60,000尾 実証試験の実施によるアカジン(スジアラ)養殖のユグレナ添加餌料投与成長比較データの把握	(今後の展開方針等) ・漁場保全事業:H28～H33まで実施 ・ヤイトハタ輸送費補助事業:H26～H33まで実施 ・本事業の目標:ヤイトハタ生産量を23t(H23)から49t(H33)までの向上に資する。 ・アカジン(スジアラ)養殖実証試験事業:H26～H27まで実施。 ・技術移転等の展開	
5			生鮮水産物流通条件不利性解消事業	H25 ～ H33	生鮮水産物の生産量の増加に向け、石垣市から沖縄本島への出荷する生鮮水産物の輸送が、陸路なみの輸送費となるよう、支援を行う。	・生鮮水産物の輸送支援(沖縄本島)の実施	・生鮮水産物の輸送量(沖縄本島): 平成27年度 132,563kg 平成25年度 93,489kg	(今後の展開方針等) 生鮮水産物流通条件不利性解消事業:H25～H33まで実施 漁協水揚量2,254t(H24)から2,304t(H33)までの向上に資する。	
5			特用植物利活用推進事業	H26 ～ H29	島ハーブの一種であるヒハツモドキ(ビパーチ)の安定生産を図り、特産品加工原料の安定確保を図るため、新技術の導入を実施する。	・種苗購入(2000本) ・新栽培技術実証展示ほの設置2カ所	・展示圃設置2カ所(機械化体系実証圃及び気象感応試験圃)の設置により、生産組織を育成し栽培技術の普及体制を構築する(2組織)	島ハーブ(ビパーチ)の普及と生産性向上のための実証ほを設置し、加工原料の安定確保を図る。 ・栽培施設の整備(10アール)	
5			農水産物プロモーション事業	H27 ～ H29	本市では、国内において最高品質の熱帯果樹や、牛肉、水産物等が生産される。しかし、首都・関西圏の市場から日本一遠隔地にあることや、商品ロットが少ないことから輸送経費が高い。また、最高品質の農林水産物を販売する期間が限定されることから、より効率的なPRが必要である。そこで、首都・関西圏の高級スーパー等において、本市農林水産物の効果的なプロモーションを実施し、販路拡大を図る。	・果樹、野菜、花卉および水産物の販路開拓 ・販売プロモーション実施(3ヶ所)	・商品の新規販路開拓 3ヶ所	定期的な販売フェアを通して、本市農林水産物を少量多品目で販売できるよう体制を強化する。	
6			地域防災力強化育成事業	H24 ～ H28	自主防災組織ごとに救急救助資機材と収納倉庫を整備し地域防災組織の強化と育成を図る	・防災倉庫の整備(10箇所) ・救急救助資機材の整備10箇所(AED、災害多人数用救急箱、救助工具収納箱等)	・自主防災組織に対する防災倉庫と救急救助資機材の整備 進捗率70% (H29までに65箇所目標、H27年度末までに46箇所完了)	平成29年度末までに市内65箇所での自主防災会の組織結成を促し、資機材を配備する。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

石垣市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
6		防災体制整備事業	H24 ～ H33	地震や津波などの自然災害に強いまちづくりを推進するため、防災無線未整備地区や難聴地区への整備及び改善を図る。また、増加している観光客の動態把握を行い避難受入検証と避難所の見直し検討を行い地域防災計画の修正を行うとともに、計画に基づいた食糧等を備蓄する。災害時に実働的な災害対応を行うため、災害対策本部及び避難所運営に必要な環境整備を図る。	・防災無線屋外拡声子局整備:1基 ・防災行政無線増設計画業務 ・食糧4,500食 水6,000 ・災害対策本部・避難所用備品整備 テント2張 ・避難所見直しに伴う地域防災計画の修正	・防災行政無線整備率:80% 54基(目標67基) ・食糧備蓄数率:80% 18,000食(目標22,500食) ・水備蓄率:80% 24,000(目標30,000) ・災害対策本部・避難所用備品整備率 16% ・観光拠点施設周辺の指定避難所の見直し及び指定拡充:2箇所	災害に強いまちづくりとして難聴地域の解消など防災情報伝達手段の多様化多重化整備を図っていく。地域防災計画に定めた食糧等の備蓄を行うとともに、避難所等の運営に必要な備品の整備拡充を図る。また、観光客等の動向検証等を行い避難対策の構築を目指す。	
6		福祉避難所兼ふれあい交流施設整備事業	H24 ～ H28	災害時において高齢者や障がい者等の要援護者が、安心安全に避難生活がおくれるよう「福祉避難所」の整備を行う。また、平常時には要援護者と関係団体や地域が気軽にふれあえる交流施設として活用するとともに、農の福祉力活用に向けた農業との連携を図る事業も推進する。	・福祉避難所の実施設計の実施(建築内容詳細検討、施設規模、設備詳細等)	・H29年の供用開始に向けた事業の着実な実施(実施設計書の完成)	平成28年度:建設工事 平成29年度:供用開始 RC造 2階	5月変更(事業追加)
7		気になる子のすこやかな学び支援事業	H24 ～ H33	特別に支援を要する幼児児童生徒に個別に対応し、専門的立場から支援するために臨床心理士、子育て相談員を雇用し、必要に応じて各学校に派遣し、学校・家庭の支援体制の充実を図る。	・臨床心理士2人配置 ・幼稚園に子育て相談員5人配置	・教育相談件数:70件 ・子育て相談件数:180件	臨床心理士、子育て相談員の支援で、気になる子やその保護者への早期からの一貫した支援が期待できる。事業目標達成のため、臨床心理士は就学支援委員会において相談のある事案について、積極的に相談対応を実施する。 人材確保については、臨床心理士の専門性及び離島という地域性から有資格者の確保に課題があるが、今後課題解決のために一層の努力を行い人材確保に努める。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

石垣市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
7		「学ぶ意欲・わかる授業」を推進する事業	H24～H33	各種学力・学習状況調査の結果が全国や県と比べ低い状況がある。そのため、学力向上を喫緊の課題としている。中でも学力調査の無解答率が高く、学習意欲の向上、一人一人の個に応じた対策が必要である。そこで児童生徒の個に応じたきめ細かな学習を支援するため、学校教育支援員を配置する。また、小学5・6年生による外国語活動が必修科目になったことに伴い、中学校だけでなく、小学校へ外国語学習支援員(ALT)を派遣する。そして、小中学校教諭の指導力、授業力向上のため、学力先進地域視察研修を行う。このような取組から児童生徒の個に応じた学習支援が充実し学力向上が推進できる。	・学校教育支援員支援員配置数 26名 ・外国語学習支援員配置数 小学校:3名、中学校1名 ・学力先進地域視察研修への派遣10名	・沖縄県学力到達度調査(2月実施) 【小学校5年:平均正答率】 平成25年度:国語 県との差 -3.8点 算数 県との差 -0.9点 平成26年度:2月25日実施のため結果なし 平成27年度:国語、算数とも県の正答率を超える。 【中学校2年:平均正答率】 平成26年度:国語 県との差 -1.3点 数学 県との差 -1.7点 英語 県との差 -0.8点 理科 県との差 -2.5点 社会 県との差 -0.6点 平成27年度:全教科で県の正答率を超える。	学校教育支援員の配置やICT機器の活用により、学校の状況に応じた適切な学習や体験活動を行うことが可能になる。 また、教員の指導力・授業力が向上することで学習意欲を高め学力向上が期待できる。 生きた英語に多く触れることにより、英語教育、国際理解教育がより推進され、英語学習のモチベーションの向上とグローバルな時代に対応できる人材育成に寄与する。	
7		児童・生徒派遣費助成事業	H24～H33	市外・県外で開催される大会等へ参加する際に生じる保護者負担を軽減し、離島の児童・生徒が派遣に行きやすい環境づくりを目指すため、市が派遣費の一部を補助する。	・児童生徒の派遣支援	・派遣児童生徒数:3,750人	[H27～H33年度] 各年度3,750人 累計:26,250人 沖縄本島と離島の児童生徒には、派遣に係る保護者の費用負担にかなりの格差がある。 市が派遣費の一部を補助し格差を是正することで、保護者が子供を派遣に行かせやすい環境づくりを目指す。	
7		ユースアドバイザー事業	H24～H33	不登校、引きこもり等の児童・生徒及び社会生活を営むうえで困難を有する若者の自立支援のため、ユースアドバイザーを配置し支援体制を整備する	・ユースアドバイザーの配置:3人	・児童生徒の学校復帰:2名(1名) ・若者の自立(就労等):2名(1名) ()内はH26実績	児童生徒については、年度替わりの支援空白期間の解消を図る。 若者支援については、子ども若者支援地域協議会と連携を密にし、支援の継続、連携を図る	
7		平和推進事業	H24～H33	一般住民を巻き込んだ地上戦を経験した沖縄で、戦争の記憶を風化させないために、次世代を担う児童生徒を対象に、平和について学ぶ機会をつくる。沖縄慰霊の日に『八重山戦争マリア犠牲者追悼式』『全戦没者追悼式並びに平和祈念式』の挙行、『平和を考えるフォーラム』等の開催を通し、石垣市民の平和への願いを市内外へ発信するとともに、後世へ繋ぐため諸事業への取り組みを実施する。	平和フォーラム等開催:3回 広島・長崎への平和大使派遣:4名	平和フォーラム等参加者:800名 派遣後、子どもに変化があったと答えた保護者:100%	『追悼式並びに平和祈念式』、『平和フォーラム』、『平和大使派遣』を継続実施する。特に平成27年度については、戦後70周年事業を行う。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

石垣市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
7			姉妹都市カウアイ郡中学生派遣事業	H27 ~ H33	姉妹都市ハワイ州カウアイ郡へ市内の中学生を派遣し、国際性豊かな人材育成を図る。現地の学校での授業体験やホームステイ、パールハーバー視察等により、英語力の向上を目指すとともに国際交流や異文化体験、平和学習の機会を与える。また、この体験を報告書等により市民に発表することで、次代を担う同世代を中心に国際交流や多文化共生の大切さについて考える機会を与える。	カウアイ郡中学生派遣:3名 報告書作成:2,000部 市主催イベント協力	派遣後、子どもに変化があったと答えた保護者:100% 報告書を見て、英語や外国に以前より興味を持った生徒の割合:70%	カウアイ郡派遣、報告書作成等を継続実施し、派遣者には市主催の多文化共生イベントに協力してもらい、国際化のすそ野を広げることにつなげる。	
7			尖閣諸島関係資料収集事業	H25 ~ H29	尖閣諸島に関するこれまでの動向を概観できるように、戦前・戦後の新聞等から関連する記事を収集し、日付や内容等から目的の記事が検索できるようにデータベースを構築する。	・戦後の地元発行新聞から記事を収集・データベース化。(昭和20年~昭和63年分の整理)	・Web公開に向けたデータベースの整理(戦後発行の八重山毎日新聞、八重山日報から抽出した記事の整理。) 進捗率100%	H25~H27:資料収集、データベース化、一部Web上で公開 H28:H25~H27に収集・データベース化した記事を整理し、Web上で公開。	
7			情報教育充実事業	H24 ~ H31	ICT機器の活用による教育の質の向上を図るため、ICT機器、デジタル教材等、そのICT機器を活用するためのICT支援員を派遣する。 ICT教育環境及び情報教育への機会を充実させ、学力向上に努めることにより、人材育成を図っていく。	・デジタル教科書(小学校20校分、国語・算数・理科・社会、全年生) ・学習プリント作成問題データベースを整備(小学校20校国語・算数・理科・社会、全年生、中学校9校国語・算数・英語・理科・社会、全年生) ・ICT支援員(3名)による各学校への巡回で、ICT機器の利用促進を図る。	・沖縄県学力到達度調査(2月実施) 【小学校5年:平均正答率】 平成26年度:国語 県との差 -2.7点 算数 県との差 -3.6点 平成27年度:国語、算数とも県の正答率を超える。 【中学校2年:平均正答率】 平成26年度:国語 県との差 -1.3点 数学 県との差 -1.7点 英語 県との差 -0.8点 理科 県との差 -2.5点 社会 県との差 -0.6点 平成27年度:全教科で県の正答率を超える。	これまで配備のICT機器(電子黒板やタブレット端末)の活用を図るとともに、ICT支援員を活用し、各学校を巡回し授業を支援していく。 ICT機器整備の基盤となるインフラ環境整備、ICT機器利活用等の整合性、互換性等総合的な運用を検討し、費用対効果の高い事業実施を図り目標達成を実現する。	12月変更 (計画変更に伴う各目標変更)
7			オオゴマダラ地域交流事業	H25 ~ H27	奈良県橿原市の昆虫館と連携して、小学校3年生の教材である「チョウを調べる」単元でオオゴマダラに特化した教材と評価の問題を作成する。また、本市の蝶に指定されているオオゴマダラを温室を利用して育成している奈良県橿原市の昆虫館へ児童を派遣し取材と学びの体験交流を行うことによって、日本の最南西に位置する石垣島の地理と気候の特異性を教材化する。	・オオゴマダラの生態と飼育に関する教材作成。 副読本(観察飼育ノート:600冊) 飼育キット:200個 ・児童が橿原市昆虫館で取材活動を行うための派遣実施。 児童8名、教諭2名、主事2名 ・橿原市昆虫館で学習したことを発表するための報告会の実施。(1回)	・「チョウを調べる」単元でのオオゴマダラ教材の活用率 100% ・昆虫について理解を深めたいと感じ取材と学びの体験交流に応募する児童数 平成27年度:24名 平成26年度:19名	平成27年度まで、オオゴマダラを飼育・観察するための教材を小学校に配布して、観察学習を行う。また、児童・教職員を橿原市昆虫館へ派遣し、学習内容を発表し、取材活動を行い、昆虫への関心・理解を深める。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

石垣市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
7			子ども若者総合相談センター地域協議会運営事業	H26 ～ H33	石垣市に居住する社会生活を円滑に営むうえで困難を有する子ども若者の自立に向け、総合相談窓口を開設してワンストップ相談対応を行うほか、関係機関で構成する「石垣市子ども若者支援地域協議会」の円滑な運営及び支援機関の連携を図り、包括的、継続的な相談並びに支援等の体制を整備する。 また、常に実態やニーズの把握に努め、適切な相談並びに支援体制の整備を図る。	・子ども・若者相談員の配置:1人 ・代表者会議:年2回 ・実務者会議:年4回 ・個別相談会:年4回 ・スーパース:年6回 ・広報啓発:随時 (市広報誌掲載のほか、ポスター、チラシ等を随時作成、配布する)	・相談件数:3件(2件) ・終結件数:3件(1件) ()はH26実績 終結件数とは、相談対応により助言や情報提供で終了する事案、他の専門機関や制度を案内、紹介することで終了する事案を指し、相談受理件数に対する終結件数の割合を持って事業効果を測る。	特にひきこもり等の客観的にみて支援を要するが自発的な援助を求めることができない者等を支援の入り口である総合相談窓口へ誘導する等の早期発見、早期支援体制の整備を図る。 また、対象者抱える課題を解決し、目的達成のために必要な具体的支援やサービスを提供する社会資源の掘り起しを図る。	
7			いきいきスポーツ活動助成事業	H26 ～ H29	地元から県大会や全国大会などに送り出せる体制づくりのためにトップアスリートとしての経験等を有した優れた指導者の活用を行う。また県外市町村の青少年と共通するスポーツを通して交流を図り、交流相手への興味、話題、関心を持つことを促す。	【スポーツ教室】 ・スポーツ教室(各10回) 種目(駅伝・バレーボール) 【友好都市スポーツ交流】 ・受入事業(20名) (団員15名、リーダー1名、指導者4名)	【スポーツ教室】 駅伝・バレーボール競技を実践指導する中、練習法の立案と指導者の人材育成を図り、競技者の底辺拡大を目指し県大会ベスト8入賞を目標とする。 【友好都市スポーツ交流】 民泊及びスポーツ交流を体験し、アンケートを実施する。「興味関心をもった」項目が70%以上を成果目標とする。	優れた指導者の育成と競技者の技術向上及び底辺拡大を図り、県大会優勝、九州大会・全国大会参加を目指す。	
7			冠鷲プロジェクト地域・家庭教育支援事業	H26 ～ H33	スポーツ少年団父母会、PTA有志、退職教員、将来教職を目指している高校生ボランティア等の協力を得て、学校の授業終了後から部活動が始まるまでの隙間時間を利用した学習支援活動を行い、授業に対する予習・復習や家庭学習の習慣化を促進し、本市児童の学力向上に資する。	・事業実施団体数:16団体以上 参加児童数:400人以上	・アンケート実施 「この事業が家庭学習の習慣化に寄与している」70%以上	各地域の自治公民館においても学習支援を実施できるよう、連携・協力を進めていきたい。	
7			石垣市立小中学校学習環境改善事業	H27 ～ H31	夏場の室内温度が文部科学省の環境基準を上回り、過酷な学習環境となっていることから、学力の向上取り組みに向けた学習環境整備のため各教室に冷房機を設置し改善を図る。	・14校47教室の冷房機整備	・14校47教室の冷房機整備完了 ・快適な学習環境の整備	5年間にわたり市内小中学校各教室へ冷房機を整備する。	12月変更(事業追加)
8			国際定期便誘致事業	H24 ～ H33	新石垣空港国際線施設を活かした就航路線の増便及び定期便化を実現するため、台湾、韓国、香港等の東アジア圏域を主な開拓市場とし、また台湾以遠の各国も視野に入れたキャリアセールス及び海外誘客プロモーションを行う。	・ターゲット地での本市PRイベントの実施(1回) ・海外キャリアセールスの実施(台湾2回、韓国1回、香港1回、以遠地1回)	・石垣空港国際線降客者数:対前年比20%増 8,640人 10,368人	・インバウンド誘客増を目指す。 H33年度目標値4万人程度 ・石垣=台湾路線の通年運航を目指した交流基盤の構築に取り組む	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

石垣市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	H27事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
バ 細								
8		新石垣空港国際線旅客施設強化事業	H27	八重山圏域の戦略的な国際観光拠点として、南ぬ島新石垣空港国際線旅客ターミナルを本格整備することによって、外国人観光客受入体制を整える。	ターミナルビル実施設計	ターミナルビル実施設計完了	・H28年度及び29年度ターミナルビル増改築工事	12月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

浦添市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1		浦添市来々来推進事業	H24 ~ H29	市既存の観光資源の活用及び新たな観光資源を創出するため、課題抽出及び取組施策に向けた調査を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 屋富祖・オリオン通り周辺地区 <ul style="list-style-type: none"> ・住民ワークショップの開催(2回) ・屋富祖通り地区の基本構想案をもとに、対象区域、まちづくりコンセプト、道路及び沿道空間の整備方針等について調査検討する。 シンボルロード沿線地区 <ul style="list-style-type: none"> ・前年度調査等で明らかとなった課題を踏まえ、土地利用及び事業導入の可能性について調査検討する。 港川道路シンカー周辺地区 <ul style="list-style-type: none"> ・関連事業の導入を見据え、地区のまちづくりについて調査検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 屋富祖・オリオン通り周辺地区 <ul style="list-style-type: none"> ・今後の道路整備事業手法の選定、また、関係権利者との調整へつなげる基本構想を策定する。 シンボルロード沿線地区 <ul style="list-style-type: none"> ・今後の有効な沿道土地利用へ誘導する整備手法の検討を行うため、基本構想案を作成する。 港川道路シンカー周辺地区 <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり事業の導入に向けた基本構想の策定を行うため、基本構想案を作成する。 	(今後の展開方針) 屋富祖・オリオン通り周辺地区 ・屋富祖通り地区基本構想をもとに、道路及び周辺における整備計画案の作成。(H29年度) シンボルロード沿線地区 ・沿道土地利用についての基本構想の策定。(H29年度) 港川道路シンカー周辺地区 ・まちづくり事業の導入に向けた基本構想の策定。(H28年度) 市街地密集地区 ・市街地密集地区の抽出された課題をもとに、H28年度に基本構想の検討、H29年度に狭隘道路等解消に向けた整備計画を策定。 (整備後の活用見込み) 新たな観光拠点の創出及び既存観光資源との関連を強化につながる環境整備に活用する。	
		てだこの都市・浦添「あまくま歩っちゃん浪漫ウォーク」事業	H24 ~ H33	スポーツツーリズムを推進し、本市の歴史・文化、地域特性を活かした交流の輪を広げ、一人ひとりに合わせた「生きいき生涯健康づくり」を推進するため「てだこウォーク」を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング大会の開催 ・各メディアを活用したプロモーションの推進 ・ポスター・募集要項等製作 ・歴史ガイドによる史跡紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・てだこウォーク参加人数 7,750人(平成25年度 7,678人) 	(今後の展開方針) H28年度以降 ・ウォーキング大会の開催 ・各メディアを活用したプロモーションの推進 ・ポスター・募集要項等製作 中間目標値(大会参加者数) 6,783人(H24) 7,800人(H28) (事業完了後の目標) ・てだこウォーク参加人数目標 8,000人以上を目指す。 ・本市の歴史・文化地域特性を活かした交流の輪を広げ、市民の「生きいき生涯健康づくり」を図る	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

浦添市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			ありんくりんクリーン事業	H24 ～ H33	史跡浦添城跡などの古城跡や中頭方西海道及び普天満参詣道などの歴史の道、石橋、歴史上の人物の墓などのほか、地域の御嶽や湧水等の文化財を観光資源として活用するために環境整備を図る。	1 史跡浦添城跡清掃業務の実施 2 文化財除草等環境整備業務の実施	H27年度文化財見学者数:2,400人	文化財の観光資源としての活用を推進するため清掃・除草等によって安全で快適な空間づくりを継続的に実施していく 〔文化財見学者数〕 基準値:H23年度(2,204人) 中間値:H30年度(2,700人) 目標値:H33年度(3,000人) 参考値(てだこワーク参加人数) H25年度:6,783人 H26年度:7,678人 市内文化財の観光資源として活用され、観光振興に寄与する	
2			地域資源復元推進事業	H24 ～ H33	沖縄の歴史的景観を再生し、沖縄らしい風景づくりを推進するために、地域に所在する文化・観光資源である文化財等の復元及び環境整備などを実施することで、魅力あふれる景観形成を推進し、文化・観光の振興を図る。	用地購入 購入箇所:2箇所(200.22㎡)	・史跡安波茶樋川の整備に向けた用地の確保 ・史跡仲間クバサーヌ御嶽の整備に向けた用地の確保	・歴史の道ルート上へ石畳舗装工事(H28設計、H29～33:整備工事) ・市内指定文化財の復元整備(H28～H30:各1箇所) ・市内文化財の説明板設置(H28～H33:各1箇所) ・文化財整備計画策定(H28) 沖縄らしい魅力あふれる景観形成を推進し、文化・観光資源としての活用を図る	3月変更(計画変更に伴う活動目標変更)
			浦添グスクの城下まちにふさわしい道路美装化事業	H24 ～ H29	浦添グスクの麓に位置する仲間地区は浦添の歴史・文化の拠点として重要な地区であることから、地区内にある主要な道路について、通常舗装(黒舗装)から、コーラル舗装をイメージした「カラーアスファルト舗装」を施し、浦添グスクの城下まちにふさわしい道路景観の創出を図る。	仲間地区主要道路の美装化工事 カラーアスファルト舗装:560㎡	平成27年度末 整備率 76% 全体7,580㎡ H27末時点5,806㎡整備 浦添グスクの城下まちにふさわしい道路景観の創出を図り、個性豊かで魅力ある景観を取り戻すことにより、時間とともに価値が高まり、市民の地元への誇りと愛着を育むことができる。	(今後の展開方針) 沖縄らしい風景づくりを推進するため、道路美装化を継続的に実施していく。 H28: 560㎡、 H29: 1,120㎡ (整備後の活用見込み) 景観地区や地区計画等の指定が期待でき、個性豊かで魅力ある景観を取り戻すことにより市民の地元への誇りと愛着を育むことができる。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの、
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

浦添市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
		てだこ市民によるウラオソイ 風景づくり推進事業	H24 ～ H33	<p>沖縄らしい景観・風景を次世代に守り継ぎ、風土を高める礎とするため、世界遺産の追加登録を目指す「浦添グスク周辺エリア」と基地跡地利用においても重要な役割を担う地区を含む「西海岸周辺エリア」を先導的エリアと位置付けながら、市全域を対象に、景観法・都市計画法に基づく「景観地区」や「地区計画」等の地区指定を図りつつ、普遍的観光資源である地域景観資源を保全・再生や市民のまちづくり活動に対する支援等を行なうことにより「住んでよし、訪れてよし」の浦添市の文化振興や観光振興を含めた地域振興を目指す。</p>	<p>風景づくり推進調査業務による計画策定に向けた検討等(シンボルロード、都市モノ沿線地区等、都市モノ第3・4 駅周辺地区、西海岸周辺地区) 景観整備機構と連携した風景づくり推進に向けた取り組み 緑の風景づくりに向けた基礎調査 風景づくり推進のためのまちなみ景観を修景するための支援 まちづくり活動団体等への支援</p>	<p>対象地区全体について、景観地区指定にむけ景観整備機構と連携し地域住民との合意形成を図りながら街並みのルールをつくる。 指定前の素案作成：1地区 市内の緑の現状を把握し、課題を抽出し要因を探る。 まちなみ景観修景支援数6戸。 まちづくり活動を行う4団体への支援。</p>	<p>(今後の展開方針) 景観地区指定に取り組む 平成33年度(目標値) 景観地区指定 2地区 (基準値:平成24年 0地区) (事業実施後の効果) ・個性豊かで魅力ある景観を取り戻すことにより市民の地元への誇りと愛着を育むことができる。</p>	5月変更 (事業追加)
3		悠々ロマン漆に出会うまち浦添推進事業	H24 ～ H28	<p>浦添市美術館では漆芸の美術館としての特徴を活かし、琉球漆器の歴史や文化、アジアの漆芸文化を紹介する。琉球漆器や美術・工芸に関連した企画展開催や常設展の充実を図るとともに、県内外への情報発信の強化と、展示環境の改善をすることで戦略的観光振興を展開する。</p>	<p>・企画展事業(日本近代洋画への道展、漆芸作家展他) ・企画展調査実施 ・漆キット製作委託事業実施(物産展での活用や、修学旅行生などの来館に繋げるため、琉球漆器紹介ツール(情報発信)) ・広報宣伝事業実施 ・展示室環境改善事業実施 ・収蔵品充実事業(作品購入・修復)実施 ・講演会等実施(周知活動・情報発信)</p>	<p>年間来館者数:80,000人 常設観覧者数:2,500人 参考:平成20～24年度平均値 年間来館者数 75,219.6人 常設展観覧者数 1,972.4人 常設展や企画展を広報宣伝し、国内外の沖縄観光客に美術館と浦添へ立ち寄るきっかけとする。今まで来館したことのない層へのアピールに加え、購入作品や展示環境改善により新たな特色を加え、リピーター増などにより来館者増を図る。</p>	<p>H28:「螺鈿展」「漆芸作家展」実施、作品購入・修復、展示室環境改善、講演会等の実施、広報宣伝実施など (事業実施後の効果) 魅力ある美術館運営により、来館者を増やし観光振興を図る。</p>	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

浦添市		計画 期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業 番号	事業名		H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足 説明等
	9月3日踊り観光・文化振興事業	H24 ～ H28	沖縄に古くから伝わる「組踊」は、世界文化遺産として認定されており、その組踊を絡めたイベント及び鑑賞機会を設け、国立劇場おきなわを拠点に戦略的観光振興を展開するとともに文化振興を行う。	組踊まつりを年に1回(4日)実施する。 映画版組踊の上映会を年に24回実施する。 (参考) H24:5回 H25:2回 (組踊に関連したイベントの回数)	組踊まつり参加人数 1,000人 映画版組踊の上映会の鑑賞人数 2,000人 組踊を通じた上記のイベントを実施することで、観光振興、文化振興を行い、組踊への敷居の高さを取り除くとともに、新たな特色ある観光コースの創出を目標とする。 (参考) H24:2,020人 H25:2,372人 (組踊に関連したイベントでの動員人数)	各年度のイベント参加目標 H27年度:3,000人 H28年度:4,000人 H28取り組み 組踊まつりを年に1回(4日)実施する。 映画版組踊の上映会を年に24回実施する。 (事業実施後の効果) 当市の観光拠点施設の一つである「国立劇場おきなわ」の活用を図るため、組踊を通じた観光振興、文化振興を行い、組踊への敷居の高さを取り除くとともに、新たな特色ある観光コースを創出することで、「組踊の街・浦添市」の認知度向上を図る。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

浦添市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
				4				

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

浦添市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
		来て・見て・楽しい”まるごと浦添”観光情報発信事業	H24 ～ H28	<p>グルメ、アート、スポーツなど観光情報を一元的に発信することを目的に構築したポータルサイトの内容を拡充するため、新たな観光ポイントの掘り起しや市内周遊データの収集等を行う。また、観光コンテンツとしての「スイーツ」の磨き上げを図る目的で、集客イベントを開催し、観光誘客を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観光ポータルサイトの内容の拡充 取材掲載件数230件 集客イベントの開催 市内スポットへの無線端末の設置。 	<ul style="list-style-type: none"> うらそえナビ訪問者数 110,000人 ページビュー 265,000PV 取材掲載件数230件 	<p>(今後の展開方針)</p> <p>H27取り組み 観光ポイントを掘り起し、観光ポータルサイトの内容を拡充することで、観光客への利便性を高め、観光誘客を図る。</p> <p>H28年度(目標値) ・うらそえナビ訪問者数120,000人(基準値:平成25年度103,374人) ・ページビュー 270,000PV 取材掲載件数250件</p> <p>H28取り組み 新たな観光ポイントを掘り起し、観光ポータルサイトの内容の拡充を図る 集客イベントを出店事業者主体で開催し、集客イベントの自動化を図る。</p> <p>(事業実施後の効果) 効果的な情報発信とともに、集客イベントの認知度を高めることで、「観光地:浦添市」が確立をされる。</p>	
		島桑オジー & オバーで観光産業 街おこしプロジェクト	H24 ～ H28	<p>沖縄特有の地域資源である「シマグワ」を活用した産業として、浦添市では桑葉のお茶、桑の実、繭や桑葉を利用した化粧品、養蚕業、製糸等の多角的な特産品の創出に取り組む。高齢者を活用し、簡易労働である桑畑の管理や一次加工までを取り組み、その原料を地域事業者へ安定的供給を行うことで地域の観光・産業の振興を図る。</p>	<p>桑畑拡大・維持管理 桑葉・桑果実収穫 商品加工 商品改良・品種改良 販売促進・プロモーション 養蚕・生糸生産</p>	<p>桑畑の面積値7,800坪 乾燥桑葉量1,600kg、果実収穫量400kg 販売額8,000千円 改良商品の販売額400千円 販売店舗数20店舗、出展回数10回 繭販売量10kg、生糸販売量4kg</p>	<p>(今後の展開方針)</p> <p>H28 8,800坪 乾燥桑葉2,400kg、果実収穫量600kg 販売額12,000千円 改良商品の販売額600千円 販売店舗数30店舗、出店回数15回 マスメディア活用・認知度向上 繭販売量20kg、生糸販売量8kg</p> <p>(事業実施後の効果) 島桑を活用した産業振興を図る。</p>	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

浦添市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
		浦添市農業フェスタ支援事業	H24 ~ H28	浦添市内では産業まつり等がなく、農作物展示即売会や市内及び県内特産品販売等を行っている農協まつりが大規模な産業イベントである。本まつりを活用し、市特産品をPRしながら観光客誘客までを目指すまつりを実施し、産業発信イベント確立を目指す。観光・産業の振興を行う。	農協まつり開催支援 (支援概要) 集客イベント開催:2回 黒糖作りコーナー 会場整備の実施 広報活動	農協まつり来場者数:2,900人 (平成23年:1,800人) まつり来場者数増(市特産品PRの場及び産業イベント確立のため)	(今後の展開方針) H27:来場者数2,900名 H28:来場者数3,000名 H28年度(目標値) 農協まつり来場者数:3,000人 (事業実施後の効果) 野球キャンプ期間での観光客へのまつりの認知を高め、毎年多くの観光客に対しまつり来場からの特産品PRを図り、キャンプ期間中の浦添市産業を発信できるイベント確立を目指す。	
5		創業者等相談事業	H24 ~ H28	新規に事業を起こしたい方及び事業を起こして3年未満の方の経営相談、事業計画相談等に対応するため、インキュベーション・マネージメントを民間事業者等に委託し、創業、経営革新、販路開拓などの相談業務等を行い、企業の拡大・雇用者の増を図る。	創業・経営革新・販路開拓などの相談及び支援の実施:250日	創業・経営革新・販路開拓などの相談及び支援件数 380件	(今後の展開方針) 経営革新などの相談の実施及び販路開拓支援 H28年度(目標値) 起業等相談者数 400件 (事業実施後の効果) 相談・支援業務を実施し、新規市内事業所及び経営者の増加や販路開拓支援による販売増加を図ることで、企業の拡大、市民の雇用創出等の効果が得られる。	
		スーパー・コミュニケーションスクール事業	H24 ~ H28	国際社会に対応できる人材を育成するため、英語と中国語を集中的にマスターするための教育機関として、スーパーコミュニケーションスクールを設置し、人材の育成を図る。	スクールの運営 語学学習 海外研修 企業研修 就職支援 郷土学	・中国語検定試験3級の全員取得及び2級の5割取得 ・TOEICの10%スコア向上 ・卒業生の就職率10割	H28:3期生20人 (事業実施後の目標) スクール卒業生全員の就職を目指す 語学に長けた人材を育成し、観光等の産業振興を図る。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

浦添市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
6		那覇港総合物流センター整備事業	H25 ～ H29	本県の生活・産業物資の輸送の大部分を担う港湾物流機能を改善し、県全体の物流の効率化を図り、さらに付加価値型ものづくり産業の集積などの国際物流拠点の形成を図るため那覇港総合物流センターを整備する。	総合物流センター基礎工事の着手 (総合物流センター延べ面積4.6ha)	平成30年度の供用開始に向けた事業の着実な実施 (総合物流センター基礎工事の完了)	(今後の展開方針) H28～29年度:建築工事 H30年度:供用開始 (整備後の活用見込み) 物流の効率化及び保管・流通拠点の形成を図る 那覇港の取扱貨物量:1,013万トン(H30)	5月変更 (事業追加)
		臨港道路浦添線無電柱化事業	H27 ～ H28	那覇港浦添ふ頭地区の臨港道路浦添線において、観光立県沖縄のウォーターフロント景観の向上及び災害に強い安心安全な港まちづくりに向けて、無電柱化を行う。	臨港道路浦添線整備における無電柱化事業の着手	実施設計の完了	(今後の展開方針) H28:無電柱化工事 (整備後の活用見込み) 観光立県沖縄のウォーターフロント景観の向上及び災害に強い安心安全な港まちづくりを図る。 那覇港臨港道路無電柱化区間: L=1.5km(H29)	12月変更 (事業追加)
7		未来へ翔たく太陽っ子育成事業	H24 ～ H33	スポーツ・文化活動の全国大会で活躍できる体制を強化するため、全国大会(ブロック大会含む。)に参加する児童生徒(大会登録選手に限る)を対象として、大会開催地までの渡航に必要な費用の一部を支援する。	・大会等派遣生徒数:延450人/年間	スポーツ・文化活動の県外等で活躍できる体制を強化し、他県の児童生徒との交流が図られ、技術向上や健全育成を図る。	(今後の展開方針) H27年度～H33年度・年間:延450人 ・事業目標(指標):県外派遣機会の拡充や他県の児童生徒と交流し、技術向上や健全育成を図る。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

浦添市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
8		エコアイランドに向けた人材育成及びキャリア教育事業	H24～H33	市内の小学校5年生が豊かな自然の中で、様々な自然体験を通して、社会性や協調性を養い、将来、エコアイランド沖縄に向けた人材となるよう促す。また、民泊・農業・漁業体験を通し、あらゆる職業に対する理解を深めキャリア教育を推進する。	・農漁村での宿泊体験学習を行う。 (農業体験、漁業体験、自然体験、PA体験、民泊体験等を実施。)	事前(5月)事後(9月)に行うキャリア教育の視点での児童意識調査結果による児童の変容 ・全国学力・学習状況調査[児童質問紙]より、本事業のねらいに即した10項目を抽出し調査を行う。 事業実施後の調査の各項目で「当てはまる」「どちらかと言えばあてはまる」を選択した児童の割合が、実施前に比べ伸びる。 6年生4月実施の全国学力・学習状況調査[児童質問紙]結果での、キャリア教育に関わる項目において「当てはまる」「どちらかと言えばあてはまる」を選択する本市児童の割合が全国水準に並ぶ。	<今後の展開> H27～H33 宿泊体験学習 ・民泊を含む体験活動を充実させる。 ・10年間で計14,500人が参加する。 <事業実施後効果> ・農業や漁業を体験することにより職業に対する視野を広げる。 ・自然に触れることで環境について考える。 ・民泊の体験で温かな心のふれあいを感じることで人間性を豊かにする。 <事業実施効果> ・沖縄振興を支える人材育成を図る。	
		学力等底上げ推進支援事業	H24～H33	各小中学校へ学校教育支援員や日本語教育支援員を配置し、児童生徒の学力の底上げを図る。	学校教育支援員 ・小学校 22名(各校2名) ・中学校 10名(各校2名) 日本語教育支援員 ・3名 ・支援を必要とする児童生徒が在籍する小中学校において日本語支援、学習支援を行う。	学校教育支援員 全国学力調査での全国平均の差 ・小学校 算数 0ポイント(全国平均並み) ・中学校 数学 -5ポイント(2ポイント改善) 4月本調査と9月追調査の正答率30%未満の子の割合 ・小学校:4月の全力学力調査における正答率30%未満の子の割合を9月の追調査では半減させる。 ・中学校:4月の全力学力調査における正答率30%未満の子の割合を9月の追調査では半減させる 日本語教育支援員 ・支援を必要とする児童生徒が、日本語の理解を深め、当該学年の学習についていけるようにする。	<今後の展開> 平成27～33年度 学校教育支援員等の派遣 ・学校教育支援員 H28～H33年度まで学校教育支援員を継続配置し、全国平均との差が継続的に0以上になるように学力の底上げを図ると共に、学力の二極化の改善を図る。 ・日本語教育支援員 支援を必要とする児童生徒数が増加傾向にある。事業を継続し、支援を続けていく。 <事業実施効果> ・沖縄振興を支える人材育成を図る。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

浦添市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
		課題を抱える児童生徒支援事業	H26 ~ H33	教育相談の充実と青少年環境浄化(青少年健全育成に適した環境を整備・改善)を通して、不登校防止と不登校児童生徒の登校復帰を促し、また不登校に占める「あそび・非行」生徒の割合の減少を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理相談員2名 教育相談員6名 青少年相談員10名 教育相談支援員16名 生徒サポーター5名 青少年指導員35名 軽自動車(巡回用) 1台リース 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校未然防止 不登校児童生徒数前年度比10%減 中学校における「あそび非行」児童生徒が不登校に占める割合を前年度比10%減少 	<p>H27～33:各相談員配置。車両リース。</p> <p>「教育相談の充実と、あそび・非行生徒への支援強化による不登校児童生徒の減少」 前年度比10%減少を目標</p> <p>(事業実施後の目標) 不登校児童生徒の出現率及び、中学校の不登校生徒に占める遊び非行型生徒の割合を全国平均以下を目指す。</p>	
		適応教室適応指導員配置事業	H26 ~ H33	不登校児童生徒の学校復帰を支援するため、個々の状況に応じた体験活動や学習指導、教育相談などの支援活動を行う指導員を適応指導教室に配置する。	<ul style="list-style-type: none"> 適応指導教室に適応指導員2名配置 適応指導教室入級児童生徒数:5名 学校・保護者・関係機関との連携を密にするため、年間3回の不登校児童生徒保護者交流会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 適応指導教室入級児童生徒全員を学校に足を向かせる。 不登校児童生徒の現状把握と学校復帰のための環境整備 適応指導教室入級児童生徒の支援期間中の登校率45%以上 【支援登校率 = 支援登校日数 / 総支援日数】 	<p>H28～33:適応指導員2人/年</p> <p>(目標値) 支援期間中の登校率44%(H25) 50%(H33)</p> <p>(事業終了後見込まれる効果) 入級児童生徒半数以上が次年度学校復帰(改善含む)</p>	
		ICTを活用したわかる授業構築を支援するためのIT指導員派遣事業	H26 ~ H33	わかる授業の構築(情報活用能力の向上)を図るため、教育用PC、電子黒板及び、実物投影機、情報端末などのICTを活用した授業を支援するIT指導員を学校に派遣する。	<ul style="list-style-type: none"> IT指導員3名を小中学校5～6校に1人を派遣 各校に年間30日程度IT指導員を派遣 派遣計画の策定 	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校の各学年におけるICTを活用した授業を総時数に対し小学校25%、中学校20%実施 教員の情報活用能力の向上 	<p>H28～33:IT指導員:3人/年度</p> <p>(目標値) ・小中学校の各学年におけるICTを活用した授業を総時数に対し、小学校35% 中学校30% ・ICTを活用して授業を行なった教員 78%(H29) 82%(H33)</p> <p>(事業終了後見込まれる効果) ほとんどの教師がICTを活用して授業を行なうことができる。</p>	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

浦添市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			子どもが主体的に学習するための学校ICT機器整備事業	H27 ~ H30	<p>浦添市の児童生徒が主体的に学習するために、モデル校の2小学校、1中学校、計3校の各普通教室・特別教室への電子黒板、教授用タブレット端末、コンピュータの設置、学校共有の児童生徒用タブレット端末、特別支援用タブレット端末と、それらを連携して使用するためのシステムを導入する。機器導入初年度は、導入校の教師対象の先進地視察を実施する。</p>	<p>・モデル校3校へICT機器を整備する。</p> <p>[小学校2校] タブレット端末43台+特別支援学級分10台 電子黒板+PC等:普通学級+特別教室1~2台</p> <p>[中学校1校] タブレット端末42台×3セット+特別支援学級分10台 電子黒板+PC等:普通学級+特別教室3台</p> <p>・導入校の教師対象の先進地視察を実施する。</p>	<p>ICT機器の整備や先進校の視察により、モデル校3校において、導入したICT機器を活用する授業実施に向けた環境を構築する。</p>	<p>H28: ICT支援員配置 H29: 機器整備、ICT支援員 H30: 機器整備、ICT支援員</p> <p>(最終年度の目標) ・市内全小中学校でICTを活用した授業を小学校で4割、中学校で3割実施する。 ・算数数学の検査結果が全国平均並になる。 ・児童生徒の情報活用能力を向上させる。</p> <p>(事業終了後見込まれる効果) ・児童生徒の学力、情報活用能力、表現力が全国水準となる。</p>	<p>10月変更(事業追加)</p>
9			歴史・文化ガイダンス強化事業	H25 ~ H33	<p>国指定史跡「浦添城跡」や「中頭方西海道及び普天満参詣道」をはじめとする市内の文化財を浦添市の観光資源としての活用推進につなげるため、歴史・文化ガイダンスの充実を図る。具体的には浦添市の歴史・文化を理解しやすくするためにガイダンス施設の展示を充実させ、同展示の説明や市内文化財を紹介するガイドの体制を整え、歴史・文化に関する情報発信の強化を図る。</p>	<p>・歴史・文化情報発信等強化(市内ガイダンス施設へのガイドの配置、歴史ニュースの作成)</p> <p>・文化財案内リーフレット(英語版:2500部)の作成</p>	<p>・市内の歴史・文化ガイダンス施設(浦添グスク・ようどれ館等)と市内の史跡等文化財への見学に対する受入体制の強化を図る</p> <p>・文化財案内マップ(英語版)を作成することで、歴史・文化情報発信の強化につなげる。</p>	<p>H28~30:ガイド委託・展示品・リーフレット H31~H33:ガイド委託・リーフレット施設へのガイドの配置や展示物の作成等(H28~H33)により、観光客の受入体制の強化を実施すると共に、文化財案内の多言語化等(H28~33)により歴史・文化情報の発信の強化を図る。 〔浦添グスク・ようどれ館等入館者数〕 基準値:H24年度(5,563人) 中間値:H30年度(7,600人) 目標値:H33年度(8,200人) 参考値(文化財見学者数) H25年度:2,050人</p> <p>(事業後の効果) 市内文化財の観光資源として活用され、観光振興に寄与する。</p>	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの、
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

浦添市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
10		浦添市南米移住者子弟研修生受入事業	H25 ～ H33	戦前戦後を通して南米へ移住した浦添出身者やその子弟とのネットワークを強化するため、浦添出身の子弟を招聘し日本語研修、文化研修等を通して、本市及び本県と移住先国との友好親善、沖縄文化の振興・発展に貢献しうる人材を育成する。	南米移住者子弟研修生受入:2人 各種研修・交流を実施 ・日本語研修 ・文化研修 ・企業訪問研修 ・県外視察 ・地域との交流	帰国後に、現地市人会及び県人会の行事等の場において、三線や琉舞など沖縄で学んだ成果を報告する。また、積極的に市人会等の活動に参加し、現地における沖縄文化の継承及び本市と移住先国との交流の架け橋として、コミュニティーの発展に貢献。 沖縄滞在期間においては、市民との交流に積極的に参加し、地域の国際化に資する。	(今後の展開方針) 【H28】 フォローアップ研修生6名 世界のウチナンチュ大会に合わせて過去の研修生を招聘し、大会に参加した浦添市出身者の歓迎会での補助や市内観光時のガイドを務めてもらう。沖縄滞在期間には、市民との交流イベントを通して地域の国際化に貢献するとともに、研修生自身もウチナンチュ大会に参加することにより、ウチナーアイデンティティーの継承とウチナンチュとしてのモチベーションの高揚を図る。 【H29～H32】 研修生受入 【H33】 フォローアップ研修生6人 【最終年度目標】 研修生受入 14名 フォローアップ研修生受入人数12名 (事業実施に伴う効果) 帰国した研修生が移住先国において沖縄文化を受け継ぎ、市人会の発展に寄与。本市と移住先国との架け橋として活躍し、ネットワークの強化に貢献。また、沖縄滞在期間における市民との交流を通して、市民の国際化及び国際理解の高揚に資する。	
11		浦添市学童っ子応援プロジェクト	H24 ～ H33	保護者の負担軽減を図り子育て環境を整備するため、公的施設に入居していない放課後児童クラブに対し、公的施設移行までの間、支援を行う。	学童クラブへの家賃補助:11か所	民間施設に入居している学童クラブへ家賃補助を実施することで、保護者の施設利用料の高騰が抑制され、就学支援・子育てしやすい環境整備を図る。	H28年度:13か所 H29～33年度:13か所 (実施後の効果) 子ども達の居場所づくりや環境づくりを図ることで、就労している保護者が安心して学童クラブを利用することができる。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

浦添市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
12	災害時備蓄食糧購入強化促進事業	H24～H28	大規模災害時には、流通機能が一時的に停止し、特に島嶼県である本県は、物資が届きにくくなることが懸念されるため、地域防災計画に基づき食糧を確保することで住民等の安心安全を図る。	収容避難所等(市内小中学校等)に食糧(アルファ米)の備蓄を行なう。 (H27年度合計8,800食) ・浦添小学校 2,200食 ・浦添中学校 2,200食 ・浦西中学校 2,200食 ・仲西中学校 2,200食	H27年度 充足率 約70% 市人口114,000 目標値51,300食 H28.3.31備蓄食料見込約36,000食 【充足率】 浦添市地域防災計画(H22.7)第2章第11節防災備蓄計画に規定する目標値(市人口20分の1の3日分)を充たす割合。	H28年度 4箇所(大平特別支援学校、消防本部、内間出張所、牧港出張所)に備蓄 充足率:100% <目標値> 充足率:約13%(H24) 100%(H28) <事業実施後に目指す効果> 被災者(住民、観光客等)に配給する食糧を100%確保することで、大規模災害に向けた備えを充実させ、市域の安心安全を高める。		
	災害時備蓄食料保管倉庫等整備事業	H24～H28	大規模災害時には、ライフラインが破壊され復旧までに時間を要することが想定されるため、平時より市内の収容避難所等(小中学校等)に備蓄食糧保管倉庫を設置し、発電機、簡易トイレ等の防災資機材の設置等を行なうことで住民等の安心安全を図る。	収容避難所等(市内小中学校等)に防災備蓄倉庫を設置するとともに、発電機、浄水機、簡易トイレ等防災資機材を備蓄する。 (H27:浦添小学校、浦添中学校、浦西中学校、仲西中学校)	H27年度 整備率 約80% 収容避難所等20箇所のうち16箇所が整備完了。 より多くの地域において、防災資機材を活用した避難所運営等の訓練の実施が可能となり、災害時には、被災者(住民、観光客等)に対し、適切な避難所運営を行うことができる。	H28年度 4箇所(大平特別支援学校、消防本部、内間出張所、牧港出張所)整備 整備率:100% <目標値> 充足率:0%(H24) 100%(H28) <事業実施後に目指す効果> 収容避難所等に防災備蓄倉庫及び防災資機材を整備することで、大規模災害に向けた備えを充実させ、市域の安心安全を高める。		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

浦添市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
		浦添市統合型防災情報システム事業	H27 ~ H28	市内全域に音声情報及び文字情報、画像情報を24時間365日、災害情報の収集、防災情報の伝達ができる基盤整備を行う。また、既存設備と統合関係を図り、災害時の情報収集伝達を間断なく瞬時に行えるシステムの構築を行う。	システム構築に係る設計の実施。 (市内全域の伝搬調査、ネットワーク設計、音波設計、停電時対策設計、災害・障害時リカバリ設計、運用設計等)	システムの構築着手に向けた設計の完了。	H27 システム構築に係る設計 H28 システムの構築 < 目標値 > (H26) 音声情報: 市域の4分の1の区域(25%) 文字情報: エリアメール等の対応端末 (H28) 音声情報: 市内全域(100%) 文字情報: メールアドレスを持つすべての端末 画像情報: 災害危険箇所の情報把握(100%) 全災害危険箇所等の情報収集及び伝達 < 事業実施後に目指す効果 > 市内全域に災害情報の収集、防災情報等の伝達できる基盤整備により、大規模災害に向けた備えを充実させ、市域の安心安全を図る。	5月変更 (事業追加)
13		航空機騒音基礎調査事業	H24 ~ H33	普天間飛行場に隣接する本市において、日常的に航空機騒音が発生し、市民生活に大きな影響を与えていることから、市内3箇所に騒音測定器を設置し、騒音被害の具体的なデータを収集分析する。	・昼夜を問わず1年をとおして安定且つ的確にデータを収集する。 ・データの時間別振り分け作業を行う。 ・うるささ指数の把握に努める。	・発生する航空機騒音を数値化することにより、第三者にも客観的に判断できる材料にすることで、航空機騒音を管理する機関等に訴える。	(今後の展開方針) ・航空機が発する低周波音についての基準が整い次第、速やかに測定ができるように努める。 ・収集したデータを分析し、市民や官公庁に対して容易に理解できるような情報の取りまとめを行う。 (事業実施に伴う効果) ・測定データを数値化することで航空機騒音被害の可視化を図り、国・米軍側に対しての騒音軽減の要請活動を実施する際の資料として活用することで、航空機騒音被害を低減することができる。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

浦添市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
		浦添市中学生平和交流事業	H25 ～ H33	<p>平和への願いを風化させることなく次代に引き継ぐため、中学生を対象に平和学習を実施する。県内では沖縄戦及び浦添市の疎開に関する研修を行い、長崎市では原子爆弾の実相を学ぶとともに、平和を希求する心を培う。</p>	<p>市立中学校5校より、中学生10人、教諭1人を浦添市中学生平和交流団とし、県内及び長崎市で平和学習を実施する。</p> <p>【事前研修】 沖縄戦についての学習 【本研修(3泊4日)】 長崎市で開催される「青少年ピースフォーラム」に参加し、全国から集まった平和交流団との意見交換を通しながら平和について考え、被爆の実相を学ぶ。 【事後研修】 研修のまとめ、壁新聞作成 【日向市との交流】 旧浦添国民学校の疎開先であった宮崎県日向市の平和交流団との交流 【浦添市戦没者追悼式】 追悼式にて平和のメッセージを朗読</p>	<p>本研修を修了した団員(市立中学校5校から中学生10人)を「浦添市ピースメッセンジャー」として認定する。</p> <p>(事業実施後のフォローアップ) 長崎市への派遣後は、研修報告を提出させ、報告書としてまとめる。また、報告書と研修中に作成した平和に関する壁新聞や研修報告を市役所内及び市立中学校に展示し、市民や各中学校の生徒に平和について考える機会としてもらう。</p>	<p>・実施予定内容 【H28～H33】 市立中学校5校より、中学生10人、教諭1人を浦添市中学生平和交流団とし、県内及び長崎市で平和学習を実施する。</p> <p>(事業実施後の効果) 研修終了後は浦添市ピースメッセンジャーとして認定し、市が実施する平和に関する行事に積極的に参加し、平和のメッセージを未来に向けて多くの人に語り伝えていく。平和への願いを次代に引き継ぐとともに、本市の平和行政の柱である「平和都市宣言」「核兵器廃絶宣言」の精神を更に高め、市民の平和意識の高揚が図れる。</p>	
		里道及び水路の境界確定復元事業	H24 ～ H27	<p>戦後、地籍が確定されないままに家屋等が建築された箇所等について、境界問題を解決し、公共用地を適正に管理するため、里道及び水路の用地測量を実施し、境界の復元・確定を行う。</p>	<p>・里道及び水路の隣接地権者と境界立会を行い、表示登記をする</p>	<p>・約125kmの里道及び水路の境界復元・確定の延長率:11%目標</p>	<p>(今後の展開方針) 里道及び水路表示登記延長率 H28:12% H29:13% H30:13% H31:13% H32:13% H33:11%</p> <p>(事業実施後の効果) 里道の境界復元・確定を行い、公共用地を適正に管理する。</p>	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

浦添市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
		牧港補給地区跡地利用まちづくり活動支援事業	H24 ～ H33	<p>牧港補給地区の跡地利用を円滑に進めるためには、計画段階から地権者・市民との合意形成を図る必要がある。その中でも、それぞれの組織が自立化できるよう、若手構成員支援する目的で、跡地利用に関する勉強会等を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・牧港補給地区の地主会若手組織による跡地利用まちづくり活動への支援(勉強会3回) ・駐留軍用地先行所得に関する地権者説明会用資料作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・先行取得事業内容説明会の開催 ・地主会若手組織の跡地利用に関する知識の向上 	<p>(今後の展開方針)</p> <p>H28～H33:跡地利用特措法や土地区画整理事業等に関する法令及び制度への理解を深めるための勉強会開催</p> <p>H31～H33:跡地整備に向けた実施計画レベルの知識を勉強会を通して習得</p> <p>(事業実施後の効果)</p> <p>将来を担う若手の代表者を中心とした地主会組織、及び市民の跡地利用についての調査・勉強会などの各種取組を支援することにより、当該組織の跡地利用に向けた活動体制づくりと連携強化を図り、円滑な事業実施に資する。</p>	
		牧港補給地区情報システム事業	H24 ～ H33	<p>平成24年度に構築した牧港補給地区情報システムを活用し、土地所有者等の最新情報を把握することで、跡地利用に関する業務に役立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土地情報の異動判読調査 ・地権者説明会用資料の作成 ・提供施設界の座標を入力し、新たな作業シートを作成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・駐留軍用地の先行取得に伴う優先順位の設定や地権者への説明会を行い、14,100㎡の土地取得を目指す 	<p>(今後の展開方針)</p> <p>H28以降</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地情報の異動判読調査 ・取得土地(14,100㎡)図面シート作成 <p>H28～H33:先行取得の優先順位設定等への活用</p> <p>H31～H33:跡地利用に向けた換地設計基礎データの作成</p> <p>【参考取組】</p> <p>H26年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地情報の異動判読調査 ・先行取得の優先順位設定(案)への活用 <p>・牧港補給地区の跡地利用計画に資す情報の活用(地主会に属していない所有者等の所在を把握し、資料の送付や説明会の案内等に役立てる)</p> <p>(事業実施後の効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共用地の先行取得事業や換地設計の作成等に活用することで、跡地利用に向けた取組みを円滑に行うことができる。 	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

浦添市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
		浦添市「未買収道路用地取得基金」造成事業	H24～H33	戦後及び本土復帰の動乱期において、権利の補償をせずに整備した市道の用地補償措置を計画的及び柔軟に対応するための基金を造成する。	・基金の積み立て2.7億円。 ・土地分筆業務委託を行い、対象土地の面積及び分筆登記資料を作成する。 ・土地価格評価、用地交渉を行い、土地売買契約を締結する。	・土地分筆登記資料の作成:680筆 ・用地取得:8,000㎡	(今後の展開方針) ・用地取得面積 H28:8,000㎡ H29:8,000㎡ H30:8,000㎡ H31:8,000㎡ H32:6,000㎡ H33:2,000㎡ ・土地分筆登記資料作成 H28:680筆 H29:670筆 (事業実施後の効果) 未買収用地取得を行い、道路を適正に管理する。	
		牧港補給地区返還跡地転用推進基金事業	H27～H33	駐留軍用地跡地の有効かつ適切な利用を推進するため、牧港補給地区の土地の先行取得を実施するにあたり、基金を造成する。	公園緑地として土地の先行取得を実施するにあたり、基金の積み立てを行う。	・特定事業の見通しの公表 ・特定事業の用に供する土地の面積(102,000㎡)に対し、30,600㎡を取得する(達成率30%を目標とする)。 達成率:先行取得目標面積(102,000㎡)に対する取得面積	(今後の展開方針) ・H28～H33 基金積立 ・用地取得面積 H28:14,100㎡ H29:14,100㎡ H30:14,100㎡ H31:14,100㎡ H32:14,100㎡ H33: 900㎡ 合計:102,000㎡ (事業実施後の効果) 公園緑地として取得し、市民の憩いの場やレクリエーションの場、災害時の避難場所、都市における潤いの提供等を創出することで、平和なまちづくりを推進する。	5月変更(事業追加) 10月変更(計画変更に伴う成果目標変更)
		施設型共同墓整備事業	H27～H29	住環境や景観に配慮したまちづくりを展開していくため、墓地散在化の抑制及び既存墓地の整理統合に向けて、納骨壇と合葬室を併せ持つ施設型共同墓を整備する。	施設型共同墓整備に係る基本設計の実施(整備位置、施設規模)	施設型共同墓の建設着手に向けた基本設計の完了	(今後の展開方針) 平成28年度:実施設計 平成29年度:建築工事 平成30年度:6月供用開始予定 ・個人墓地禁止区域の拡大(現在、市域の約20%にとどまる個人墓地禁止区域を半分程度まで拡大する。) (事業実施後の効果) ・市街地などへの新たな墓地建設を抑制することで、自然環境の保全及び良好な都市環境の形成が図れる。	5月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

名護市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			名護市特色ある教育環境整備事業	H24 ~ H33					
			学習指導支援者配置事業	H24 ~ H33	児童生徒の学力向上のために、学習指導支援者を配置し、授業にあたる教師と連携を図りながら児童生徒の支援を行うことで教育環境の充実を図る。	学習指導支援者12人の配置 対象：配置小学校3・4年生の算数 対象：配置中学校の数学	沖縄県学力到達度調査における県平均との差 小学校3年生 算数：1ポイント以内 (参考 H25年度 県平均78.0点、本市75.8点) 中学校2年生 数学：4ポイント以内 (参考 H25年度 県平均43.0点、本市37.2点)	(今後の展開方針) ・H33年度まで事業を継続し、沖縄県学力到達度調査(算数・数学)において、沖縄県平均を上回る。	
			生徒指導支援者配置事業	H24 ~ H33	個別の指導や相談を必要とする不登校児童生徒に対応するため、教職員を補佐し、継続的な支援活動や様々な体験活動を通じた個別指導を行う生徒指導支援者を小・中学校へ配置し、児童生徒の自己存在感を育み、自立するための支援体制を構築することで教育環境を充実させ、基礎学力等の向上を図る。	生徒指導支援者6人を配置 登校支援、教育相談 関係機関(教育相談室、適応指導教室)と連携した支援	不登校児童生徒数の減少(前年度比1割減) 小学校の不登校児童数：12名 (参考 H25年度不登校児童数：15名) 中学校の不登校生徒数：56名 (参考 H25年度不登校生徒数：70名)	(今後の展開方針) ・H33年度まで事業を継続し、不登校児童生徒数の減少(前年度比1割減)を目指す。	
			小中学校英語支援員配置事業	H24 ~ H33	小・中学校の英語を中心とした外国語活動の授業における指導補助、教材作成や英語スピーチコンテスト等の指導補助として、各小・中学校に小中学校英語支援員を配置することで教育環境の充実を図り、児童生徒の国際理解やコミュニケーション能力、基礎学力等の向上に繋げる。	小中英語支援員9人を市内公立小・中学校全校にシフト配置 ティームティーチング授業の実施	児童英検(小5~6年生対象)の平均正答率の向上 小学校5年生 ブロンズ：82%(参考 H25年度：80.4%) 小学校6年生 シルバー：78%(参考 H25年度：75.9%) 沖縄県学力到達度調査における県平均との差 中学2年生 英語：2ポイント以内 (参考 H26年度 県48.7%、本市44.5%)	(今後の展開方針) ・H33年度まで事業を継続し、沖縄県学力到達度調査(中学：英語)において県平均を上回る。	
			中学生海外短期留学派遣事業	H24 ~ H33	小さな世界都市をめざす本市の中学生を英語圏に短期間派遣し、英語を学ぶことへの関心・意欲を高め、視野を広げるとともに国際感覚豊かな人材育成を目指す。	派遣生徒選考人数：12人 事前研修会の実施 短期留学の実施 帰国後の研修会及び報告会の実施	短期留学を実施した結果、英語を学ぶ関心・意欲が高まり、視野が広がった生徒の割合：100% 報告会の参加者数：1,520名	(今後の展開方針) ・派遣予定人数 H24年度~H33年度：各年度12人 累計120人 ・派遣留学生のみならず、報告会の実施による波及効果により市内の児童生徒の英語への学習意欲が高める	

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

名護市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			適応指導教室支援員配置事業	H24 ～ H33	適応指導教室に支援員を配置し、不登校児童生徒の個々の状況に応じた体験活動や学習指導、教育相談等の支援活動を行うとともに、人間関係の改善と児童生徒の自立心を高め、社会性を身につけさせることで、学校生活への適応を図り、学校復帰を支援する。	適応指導教室に支援員5人を配置 通級児童生徒に対する学校復帰への支援 不登校児童生徒に対する支援	学校復帰できた児童生徒の率:30% (参考 H25年度:通級児童生徒14人中3人、21.4%) チャレンジ登校のできた児童生徒の率:100% (参考 H25年度:通級児童生徒11人中9人、81.8%)	(今後の展開方針) ・H33年度まで事業を継続し、不登校児童生徒の学校復帰30%以上を目指す。	
			名護市児童生徒等の県外派遣等に関する補助金交付事業	H24 ～ H33	小・中学校の児童生徒等や県立高等学校及び高等専門学校の生徒の県外で開催される運動競技会又は文化関係大会への参加を支援する。	大会等派遣生徒数:80人	文化・スポーツ活動を通じた児童生徒の心と体の健やかな育成を図る。	(今後の展開方針) 児童生徒がスポーツ及び文化活動において全国大会で活躍する機会を増やし、質の高い競技に触れさせることで、児童生徒自身の成長につなげる。	
			小中一貫教育推進事業	H26 ～ H33	小中一貫教育校の開校を目指して取り組んでいる屋我地地域において、児童生徒の学力向上、小中学校の教育課程の研究や小中連携を図るための非常勤講師を配置する。	非常勤講師の配置数:2人	教育課程研究報告書を作成し、児童生徒の学力向上に向けた取組の検討へつなげる。	(今後の展開方針) 平成28年度より、教育課程研究報告書に基づく授業の展開	
			教育用ソフト購入事業	H24 ～ H33	児童の学習意欲を高め、学力の向上を図るため、平成27年度の小学校教科書の改訂に伴う、学習環境を整備する必要があることから、デジタル教科書を購入する。	市内公立小学校13校の4学年から6学年を対象とし、主要教科である国語・算数・理科・社会のデジタル教科書を購入	・学習環境の整備 ・ICTを活用した授業の実施率:70%	(今後の展開方針) H28:中学校の導入 H32:小学校の導入 H33:中学校の導入 ・H33年度まで事業を継続し、沖縄県学力到達度調査(国語・算数)において、沖縄県平均を上回る。	
			ハブ侵入防止フェンス設置事業	H27	ハブの目撃・捕獲・捕殺情報のある学校の外周に、ハブ侵入防止フェンスを設置し、生命を脅かすハブの危険から児童生徒を守り、安心安全な教育環境を整備する。	ハブ侵入防止フェンスL=697m	ハブの侵入防止対策の完了	(今後の展開方針) H28年度以降: 学校におけるハブの口傷被害:0件	12月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

名護市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			教育用コンピューター購入事業	H27	名護市の児童生徒の学力向上を図るため、情報通信技術(ICT)を活用した学びの推進が必要である。市内の全公立小学校13校及び中学校8校の普通教室、特別支援教室、理科室に教育用パソコンを整備する。	教育用パソコン291台の整備 小学校 197台 中学校 94台	沖縄県学力到達度調査における県平均との差 小学校3年生 算数:1ポイント以内 (参考 H26年度 県平均85.2点、本市81.8点) 小学校5年生 理科:2ポイント (参考 H26年度 県平均62.4点 本市64.4点) 中学校2年生 数学:4ポイント以内 (参考 H26年度 県平均42.9点、本市37.2点) 理科:1ポイント以内 (参考 H26年度 県平均43.2点 本市40.8点)	(今後の展開方針) ・H33年度までに沖縄県学力到達度調査(算数・数学)において、沖縄県平均を上回る。	12月変更(事業追加)
2			名護市地域資源と地域特性を生かした観光基盤整備事業	H24 ~ H33					
			ファイターズ・キャンプ支援事業	H24 ~ H33	北海道日本ハムファイターズのキャンプ期間中における、駐車場の確保、球場までのシャトルバスの運行、球場周辺等に警備員・誘導員を配置し、見学者並びに車両を安全スムーズに誘導する。また、人気球団である日本ハムファイターズと連携したイベント「沖縄へ行こう!!名護デー」を札幌ドームで開催し、札幌より観光客誘客を図る。	・プロ野球キャンプ見学者等の誘導・安全確保及び見学者の誘致。(シャトルバスの運行/球場周辺の警備員・誘導員の配置) ・札幌ドームで「名護デー」開催(球場入口にて、名護市観光施設・宿泊施設の案内等の配布/観光と特産品のPRブースの設置/試合前セレモニー	・プロ野球キャンプ見学者数 H27年度目標:23,000人 (H26年度目標:20,000人) (H25年度実績:17,125人) (H24年度実績:17,799人) ・名護デー観覧者数 H27年度目標:25,000人 (H26年度実績:23,243人) (H25年度実績:19,095人)	(今後の展開方針) H28~H33年度:キャンプ支援の実施 名護デーはH25~H27の3年間の実績を踏まえて、実施を検討する。 プロ野球キャンプ見学者数 H28年度目標:30,000人 H30年度目標:34,000人 H33年度目標:40,000人	
			名護市特産品販路拡大支援事業	H25 ~ H27	特産品の販路拡大のため、商品改良(品質表示、加工技術等)、商談会、展示会、販路開拓を実施し、地場産業の育成と観光産業の活性化を図っていく	・展示商談会参加:2回 ・物産フェアの開催:3回(県内1回、県外2回) ・専門家支援	展示商談会出展企業数:4社 展示商談会出品数:8品 物産フェアの来場者数:2,810人 ・県内:1,410人 ・県外:1,400人 物産フェアの売上高:2,810千円 ・県内(1回):1,310千円 ・県外(2回):1,510千円 販路開拓に向けた支援体制の強化	(今後の展開方針) H28年度以降:開拓した販路に地産品を定着	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

名護市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			名護市ICT活用モデル事業「Wi-Fi化整備」	H25 ～ H28	名護市内公共施設等に無料公衆無線LAN環境を構築し、名護市の情報配信など、ICTを活用し、外国人を含む観光客等の来訪者への対応、まちあるき観光等の情報発信を促進するモデル事業を実施する。	市内公共施設等への整備:2拠点 観光施設等への整備:4拠点	無料公衆無線LANの活用に向けた基盤の拡充	(今後の展開方針) H28:環境整備2カ所、サービス開始 フリーWi-Fiスポットの整備により、外国人や観光客等の利便性向上を図る。	12月変更 (計画変更に伴う活動目標変更)
			轟の滝周辺整備事業	H24 ～ H28	貴重な文化財である轟の滝の豊かな自然環境を保全・活用し、魅力ある観光スポットとして、まちの活性化、観光振興に繋げるため、やすらぎと潤いある自然空間の実現に向けて整備する。	・委託業務 2件(資材調査・現場技術業務) ・工事 1件(仮設工、自然体験学習広場整備) ・用地買収 5筆 ・物件補償 1件	・整備に必要な用地取得:(累計100% 8,061m2) ・整備工事の実施 H27年度までの活動の結果、当該整備に必要な用地取得及び自然体験学習広場整備の実施を行うことにより、平成28年度の滝周辺整備へと円滑な事業の実施を図る。	(今後の展開方針) H28年度:滝周辺整備 H29年度:イベント広場整備 H30年度:供用開始予定 県文化財指定の名勝地を自然・景観を活かした貴重な地域資源として効果的に活用する。 H30年度名護市入込客数目標の達成に寄与する	
			嵐山展望台周辺整備事業	H25 ～ H28	羽地内海が見渡せる絶景スポットである嵐山地域を新たに観光エリアとして整備するにあたり、当該地域の周辺整備に係る基本設計及び水源確保のための井戸調査/工事を実施する。	・基本設計 1件 ・井戸調査/工事 1件	基本設計の完了、井戸調査・工事完了	(今後の展開方針) H28年度:実施設計 H29年度:土木工事、建築工事 H30年度:供用開始予定 年間来場者見込み:35千人	
			観光情報発信事業	H25 ～ H27	観光地としてのコンセプトを明確に打ち出した観光宣伝ツールの作成、広告宣伝(マスメディア、イベント等)、セールス誘致活動を行い観光情報発信力を強化し観光客の誘致拡大を目指す。	東京/神戸/札幌への旅行博参加 東京/大阪への旅行社セールス 東京、大阪の旅行社とマスメディアの招請ツアーの実施(1回) メディア媒体への広告実施 (航空機内ビジョンを活用した名護市観光PR放映/機内誌への広告掲載) JAL及びANAでの機内誌広告の実施:1ヶ月(搭乗者約579万人) JAL及びANAでの機内放送の実施:1ヶ月(オンエア約1.9万回) PRグッズの作成	H27ブース来場者数 目標:100社 (H26ブース来場者数 実績:50社) セールス先(訪問数):20社 ツアー参加社数:16社 、 H27年度観光入込目標:5,280,000人(H26年度比+22,384人)H26年度実績:5,257,616人	(今後の展開方針) H28以降 H27までの実績を踏まえて今後の活動を検討する。	5月変更 (事業追加) 12月変更 (計画変更に伴う各目標変更)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

名護市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			やがじ夢の懸け橋事業	H27 ~ H29	<p>屋我地地域において、地域観光産業の振興による定住促進に向け、今後10年を見据えたツーリズムに関する構想及び計画を策定する。より実践的な計画とするため、観光事業者向けのモニターツアー、ワークショップ等の事業も交え、地域内メニューの採算性調査を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住民意見の収集及び計画への反映 ・モニターツアー実施 ・ワークショップ実施 3回 ・地域観光プログラムの検討 ・次年度計画の検討・整理 <p>参考目標 ・実施母体となる協議会(仮)の検討</p>	<p>モニターツアー、ワークショップ等の事業も交えた地域振興計画策定や地域観光プログラムの開発により、屋我地地域の観光産業の振興が図られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域振興計画(基本方針)策定 ・モニターツアー参加者(旅行社等) 5社 ・ワークショップ参加者 90名 ・地域観光プログラムのメニュー化 2件 ・次年度計画のアクションプランの策定 	<p>(今後の展開方針) 2年目以降に前年度の事業及びアクションプログラムを精査し、観光プログラム等の事業展開を図る。</p> <p>H28年度:モニターツアー ワークショップ 地域ルール検討・策定</p> <p>H29年度:モニターツアー ワークショップ エリアマネージメント検討・策定</p> <p>参考目標 ・民泊等観光関連従事者 40戸 (累計)</p>	<p>5月変更 (事業追加)</p>
			真喜屋運動広場整備事業	H24 ~ H28	<p>真喜屋運動広場において様々なスポーツが快適かつ安全に行えるよう拡張整備を実施し、スポーツコンベンションの開催や、合宿利用等にも対応できるよう多目的広場としての利用環境を改善する。</p>	<p>用地買収:2筆</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・H29年4月の供用開始に向けた事業の着実な実施 <p>(用地買収の完了:100% 9,414㎡)</p>	<p>(今後の展開方針) H28年度 整備工事 H29年度 4月供用開始予定 施設利用者数 目標 H29年度 14,000人/年 参考 H24~26年度平均 9,191人/年</p>	<p>7月変更 (事業追加) 12月変更 (計画変更に伴う成果目標変更)</p>
3			名護市自転車まちづくり推進事業	H24 ~ H29	<p>温室効果ガスの排出削減による低炭素社会の構築を目指し、良好な「環境」の創出に寄与する「自転車まちづくり」を推進するため、自転車のモデルレーン(自転車指導レーン)整備を実施する。</p>	<p>自転車レーンの整備率:72% (整備目標総延長:11,920m、H24整備:1,120m、H25整備370m、H26整備4,000m、H27整備目標3,170m)</p>	<p>平成27年度自転車指導レーン整備延長3,170mの整備完了</p>	<p>(今後の展開方針) H28年度整備率:90% H29年度整備率:100% H30年度全面供用開始</p> <p>H30年自転車利用増加率 H24(264台)を基準として51%増</p>	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

名護市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
4	名護市金融・情報特区企業招聘セミナー等広報イベント事業	H24～H30	金融・情報通信関連企業の立地による雇用創出や定住人口増加の基盤となるまちづくりや人材育成・就労支援等を効果的に推進するため、企業招聘セミナーなどの広報イベント・誘致活動を実施し、金融・情報関連企業の誘致を促進する。	・金融・情報通信関連企業の経営者等の招致開催 ・学生・市民向け金融・IT講座の開催：2回 ・沖縄県開催企業誘致イベントへの参加：県外イベント1件、海外イベント1件	招聘セミナー参加企業：20社 学生・一般市民の金融基礎知識の習得：220名 県外イベント来場者数：120名 海外イベント来場者数：200名	(今後の展開方針) H28～H30年度： 金融・情報通信関連企業の経営者等の招致 学生・市民向け金融・IT講座の開催 県外・海外企業誘致イベントへの参加		
5	名護市地場産業の活性化及び6次産業推進事業	H24～H31						
	優良繁殖雌牛導入事業	H27～H31	名護市における畜産業振興のため、市内の肉用牛繁殖農家に対し優良繁殖雌牛の導入を支援することで、繁殖生産基盤の拡充、強化を図る。	優良母牛導入支援 20頭	優良母牛20頭を導入することで、やんばる和牛改良組合の子牛生産基盤の一部強化を図る。 導入目標頭数：20頭 今年度導入率：20%（全導入目標頭数：100頭）	(今後の展開方針) H28年度～H31年度：毎年度20頭合計100頭の導入 老廃母牛更新及び母牛優良化促進により、子牛の生産基盤の強化、安定した農家経営を図る。	5月変更（事業追加）	
	名護市堆肥センター機能高度化施設整備事業	H25～H27	堆肥の活用による田畑の土づくりや、家畜の糞尿処理などの環境保全により、畜産業等と地域との調和を保ち農産物の生産向上に寄与する名護市堆肥センターを整備する。	堆肥工場の建築及び外構工事、ならびに備品購入の実施	畜糞及び汚泥を受け入れ良質なたい肥を提供する施設整備の完了	(今後の展開方針) H28年度：名護市堆肥センターの供用開始 堆肥生産目標：3,270トン 畜糞及び汚泥受入量：12,100t/年間	10月変更（事業追加）	
6	名護市安全・安心のまちづくり事業	H24～H33						

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

名護市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考		
パ	細				H27事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等	補足説明等
					H27事業内容					
			救命処置普及強化支援事業	H27 ~ H31	災害時等や水難事故等において、市民や観光客等に重篤な傷病者が発生した際に、居合わせた方が適切な救命処置を行えるよう全年齢層を対象とした救命入門コースの普及強化や、各種救命講習会開催の増に取り組むとともに24時間営業のコンビニエンスストアにAEDを設置する。事業実施においては、救急救命士等の資格を有する人材を配置展開し、市民やリゾート・観光施設等の救命処置能力向上と応急手当の普及促進に取り組むことで安全安心で観光に強いまちを形成する。	・救命講習普及支援員配置数：2名 ・各種講習会回数 約82回(救命入門コース(新設) 21回) ・コンビニAED設置(29カ所)	講習会受講者数：2,100人 小学校(6年生500人) 中学校(2年生500人) 事業所・一般受講者(1,100人) コンビニAED整備率(100%) まちかど救急ステーション認定事業所(3事業所)	(今後の展開方針) H28～H31年度： 支援員3名/年 各種講習会数 約98回/年 平成31年度 市民の半数(約3万人)が救命講習を受講する。 まちかど救急ステーション認定事業者数23事業者	5月変更(事業追加) 12月変更(計画変更に伴う各目標変更)	
			ハブ対策事業	H27 ~ H33	地域住民の生活圏や観光施設周辺などにおいてタイワンハブ等が多く出没しており、やんばる地域の北限が本市となっている。外来種のやんばる地域への拡散を防ぐため、捕獲器の設置を行う。	ハブ捕獲器の設置・点検：180器	タイワンハブの捕獲・駆除数：200匹	(今後の展開方針) H28～H33年度： ハブ捕獲器の設置点検：1080器 咬傷事故が未然に防がれ、安全・安心なまちづくりが推進される。	5月変更(事業追加)	
7			やがじ交通移送支援モデル事業(仮称)	H27	屋我地地区における交通弱者対策、観光振興及び児童生徒の登下校支援を目的とした公共交通の在り方について検討するためのモデル形成事業を実施する。	屋我地地区の効率的な交通移送手段の検討、移送支援用の車両購入：1台	屋我地地区の効率的な交通移送手段の確立	(今後の展開方針) H28年度以降 地域内の移送手段の課題解決策の一つとして、地域内での効率的な利活用を図る移送サービスを実現し、地域再生の契機とする。	12月変更(事業追加)	

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

糸満市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1		生活感幸(観光)環境づくり事業	H24 ~ H33	観光地としての魅力の向上を図るため各地域の歴史・民俗地図等資料を作成する。本年度は、旧真壁村の8か字について歴史民俗調査を実施し地図原稿を作成する。あわせて、市民等を対象に地域の風土、文化、歴史などについて学ぶ市史講座を開催する。	・旧真壁村8か字での歴史民俗調査 ・市史講座の開催(3回)	・旧真壁村8か字の地図原稿の作成 ・市史講座の参加者数 70人	(今後の展開方針) H28年度:旧糸満町民俗地図印刷 H29年度:旧喜屋武村民俗調査 H30年度:旧真壁村民俗地図印刷 H31年度:旧摩文仁村民俗調査 H32年度:旧喜屋武村民俗地図印刷 H33年度:旧摩文仁村民俗地図印刷	
1		冬場のエコスポーツ拡大事業	H24 ~ H28	冬場(冬季)の観光振興を図るために、全国的なマウンテンバイク競技大会J2公認コース整備とプロモーションを実施する。	マウンテンバイク競技大会の実施	大会来場者数 500人	(今後の展開方針) H28年度:大会来場者数 550人 H28~29年度:日本マウンテンバイク協会公認J2クラス競技を開催する	
1		新しい公共交通検討事業	H24 ~ H31	本市への観光客の誘客を図るため、平成26年度に準備作業を進めていた那覇空港直行バス実証実験と、同年度に計画を作成した地域観光交通(本市中南部地域対象)の実証実験を平成27年度に行う。また、本市北部地域を対象とした地域観光交通運行計画作成にも取り組む。	・那覇空港直行バス 実証実験業務 観光プログラムの実施 利用実態調査 ・地域観光交通 実証実験業務(市中南部) 運行計画作成(市北部)	・観光プログラム 8件実施 ・実証実験中の乗客数 16,000人 ・分析とりまとめ・報告書作成 ・地域観光交通運行計画作成(本市北部地域)	(今後の展開方針) 運行結果報告書を開示し、将来的には空港直行バスの路線化を目指す。 また、実証実験の成果を検証しながら、地域観光交通の本格運行に向けた支援を行う。	
1		サンゴ移植造成事業	H26 ~ H28	市民の環境保全に対する意識の向上及び資源の増大による水産業・観光業の振興を目的に、養殖のサンゴを西崎地先に移植する。その後、経過観察にてサンゴの定着・増殖、それに伴う魚種・魚数の変化等を調査する。また、児童、市民ボランティア等を活用して移植を行うことで、サンゴ礁保全の普及啓発活動を行う。	・移植体験会 ・移植後の調査(1回) ・経過報告、学習会(1回)	・魚種類数…3割増 ・魚の数…10割増 ・サンゴの面積…10割増 ・サンゴ生存率…80%	平成27年度、平成28年度ともに移植後のサンゴの経過観察、経過報告を兼ねた学習会を実施する。	5月変更 (計画変更に伴う事業内容変更)
1		高嶺間切番所跡公園整備事業	H25 ~ H27	高嶺間切番所跡地の歴史的役割等の情報揭示により地域を散策する観光資源を創出し、観光客の誘致につなげるとともに、地域住民の郷土愛を育むため、高嶺間切番所跡地の整備を実施する。	高嶺間切番所跡地の整備	高嶺間切番所跡公園整備し、観光客の地域散策の拠点として活用する。	観光客の地域散策の拠点として活用する。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

糸満市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1		沖縄らしい風景づくり事業	H24 ～ H33	本市は、農村と漁村の風景が残る他に類を見ない地域である。この魅力的な地域の風景を活かした観光地づくり等を進めるため、平成25年度に風景づくり計画を策定し、計画に基づく景観形成重点地区に指定した国道331号沿道地区とジョーグラー地区を、糸満独特の風景とまちなみ創生の整備を図ると同時に、米須集落地区と糸満漁港周辺地区の更なる重点地区指定に向けた取り組みを継続して行う。	・重点地区の施設整備に向け、逐次糸満協議会の開催 ・重点地区景観形成への支援 ・糸満ロータリー周辺施設整備に向けた事業用地取得交渉 ・糸満漁港周辺地区の重点地区指定に向け適宜地域ワークショップ等の開催 ・米須重点地区指定に向けて米須集落部会の継続開催	沖縄らしい風景づくり計画を推進し、観光地づくりを進める。 ・重点地区(ジョーグラー地区)の施設整備1箇所 ・重点地区景観形成基準適合建築物へのリフォーム等支援 4件 奨 ・糸満地区の新たな重点地区指定及び景観重要公共施設の整備方針策定 ・米須重点地区の指定	・重点地区及び米須重点地区における風景・まちなみ創生の整備実現	5月変更(事業追加)
1		糸満市中央市場整備事業	H27 ～ H28	地域商業の活性化並びに安全・安心に暮らせる地域づくりを推進するため、かつて地域住民の台所として地域の消費生活を支えるのみならず、地域に住む人々とともにコミュニティを形成し、暮らしを支える生活基盤でもあった糸満市中央市場の整備を行う。	・基本設計の実施 ・糸満市中央市場整備検討協議会開催:4回	・基本設計の完了 ・糸満市中央市場整備に向けた条件整備	平成28年度:実施設計、用地購入、建物工事 平成29年度:供用開始 地域振興の基盤整備を図る。	5月変更(事業追加)
2		省エネ設備化推進事業	H24 ～ H29	本市の環境にやさしい(CO2削減)取り組みを進めるため、学校を含む公共施設の照明にLED対応器具を導入する。	小学校体育館照明のLED化 1校 中央図書館照明のLED化 西崎運動公園内照明(テニスコート、プール)のLED化	LED設備化により、約102,700kgのCO2を削減する。 【内訳】 ・小学校体育館 8,000kg ・中央図書館 77,600kg ・テニスコート 5,700kg ・プール 11,400kg	(今後の展開方針) H28:西崎運動公園 H29:糸満市消防本部 (CO2削減量:kg/年) H24～26は実績、H27以降は目標 H24:31,938 H25:249,990 H26:372,320 H27以降:536,433	7月変更(計画変更に伴う各目標変更)
2		燃料ごみ処理モデル事業	H24 ～ H29	最終処分場を保有していない本市では、自区内処理ができず、廃棄物の減量化及び資源化を推進する必要があるため、モデル地区の可燃ごみの固形燃料化を支援するとともに、同モデル地区との連携による他自治会への説明会等を行うなど同事業の拡大に取り組む。	・燃料ゴミ収集活動の実施100回/年 ・燃料ゴミ化推進広報の実施10回/年	・再資源化(RPF)量125トン	(今後の展開方針) モデル地区拡大、燃料ごみ(再資源化)量を毎年度3～5トン増、H29年度には135トンを目指す。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの、
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

糸満市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
3	観光地危険生物駆除事業	H25 ～ H30	本市に多くある慰霊碑や塔は、山間部や岩場等ハブなどの危険生物が生息する箇所に多く建立されており、そこを訪れる観光客等のハブ咬傷の危険性を除去し安全を確保するため、ハブ生息地域を把握し、ハブ捕獲・駆除を行う。	ハブ捕獲器の設置 ハブ生息地の調査	ハブ捕獲頭数150匹/年	(今後の展開方針) 平成28～30年度 発生区域の把握、ハブ捕獲器及び注意喚起看板等の設置により、ハブ咬傷被害0件を目標とする。		
3	学校校舎緊急避難施設整備事業	H24 ～ H27	津波災害時の緊急避難施設として活用している学校施設等は、屋上の安全対策など緊急避難施設として未整備な施設があることから、年次的に機能整備を行う必要がある。 今年度は、緊急避難施設に指定している学校校舎屋上に手すり(安全フェンス)を設置し、観光客及び市民にとって安心・安全なまちづくりを推進する。	・西崎中学校屋上手摺設計の実施 ・屋上手摺工事の実施	・西崎中学校屋上手摺設計の完了 ・屋上手摺工事の完了	寝具・炊飯器具ほか必要な防災資器材を整備し、宿泊や給食等の生活機能を確保していく。	10月変更(事業追加)	
4	糸満イベント推進事業	H24 ～ H29	夏場はふるさと祭り、冬場は平和の光(イルミネーション)の各実行委員会の支援を行い、魅力あるイベントを実施することで誘客力を高める。	糸満ふるさと祭りの開催 平和の光イベントの開催	糸満ふるさと祭り来場者 46,000人 平和の光イベント来場者数 91,000人	(今後の展開方針) ふるさと祭来場者数 H29年度:48,000人 平和の光イベント来場者数 H29年度:92,000人		
4	体験交流促進事業	H24 ～ H29	一次産業が盛んで体験型観光の最適地である本市の利点を生かし、観光客・教育旅行等のさらなる誘客を図るため、体験型観光メニューの開発及び実施、民泊受入世帯の開拓・研修に取り組む。	体験交流イベントの開催 2回 民泊受入民家向け講習会の開催数 6回 新規民泊世帯登録支援 体験観光メニュー開発	体験型観光の充実 ・体験観光メニュー開発 5個 ・体験交流事業参加者数 7,500人 ・民泊受入民家向け講習会受講者数 150人 ・民泊受入世帯数 65世帯	(今後の展開方針) H26～H29年度 体験交流指導員等育成 20人(累計) 体験交流事業参加者数 40,000人(累計) 講習会受講者数(延)600人 民泊観光客数 2,000人		
4	糸満漁港整備事業	H25 ～ H27	海水交流の促進による水質の改善及び施設の利便性向上のため、糸満漁港ふれあい地区内ビーチを浚渫するとともに、養浜・通路・波除堤等を整備する。また、観光漁業の推進を図るための調査及び施設整備を行う。	波除堤の整備、養浜、避難通路の整備、浚渫工事に伴う残土処理	糸満漁港ふれあい地区内のビーチに波除堤、養浜、避難通路の整備を行い、機能性向上を図る。	(今後の展開方針) H28年度:養浜工事 H24総入園者数約454千人を5年後を目途に3%増の467千人を目標とする	12月変更(計画変更に伴う各目標変更)	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

糸満市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
4	糸満市観光振興基本計画策定事業	H27	糸満市の観光産業のみならず、各産業が観光産業と連携が図られるか実態調査等を行い、各産業が観光産業とコラボし、観光コンテンツが活かせるよう観光基本計画を策定する。	観光基礎調査 現状分析	観光振興基本計画の策定	観光基本計画の周知、活用	5月変更 (事業追加)	
4	文化交流・情報発信拠点施設整備事業	H25 ～ H33	観光客のさらなる誘客と訪れる観光客の市内回遊を高めるため、地域の歴史的の魅力や文化芸術活動等を内外に発信する文化交流・情報発信拠点施設を設置する。	展示基本設計の策定 建築基本設計の策定 土質調査 など	展示基本設計のとりまとめ完了 建築基本設計のとりまとめ完了	(今後の展開方針) H28年度:用地取得、管理運営実施計画、展示・建築実施設計 H29年度:用地取得、第1期工事(外) H30年度:第1期工事(中)、第2期工事(外) H31年度:第2期工事(中)、第3期工事(外) H32年度:第3期工事(中)、用地取得 H33年度:用地取得	10月変更 (事業追加)	
5	小規模農家支援事業	H24 ～ H29	小規模農家の作業の効率化と農家経営の安定化に向けて、減農薬、減肥料及び鳥獣対策を推進するため、防風ネット、簡易パイプハウスの施設整備支援を行う。	農薬飛散防止ネット整備及び簡易パイプハウス設置	農薬飛散防止ネット整備数 3箇所 整備率:90% (整備予定数127箇所 H24～H26:115箇所【見込み】) 簡易パイプハウス設置数 5箇所 整備率:87% (設置予定数155箇所 H24～H26:111箇所【見込み】)	(今後の展開方針) ・農薬飛散防止ネット整備 H28～29年度:10箇所～/年 H24～29年度:累計127箇所 ・簡易パイプハウス設置 H28～29年度:15箇所～/年 H24～29年度:累計155箇所 H29年度:対象品目出荷量: 1,095t (H23年度:953t)		
5	島ヤサイ生産拡大及び消費拡大事業	H26 ～ H27	沖縄の観光資源にもなっている独特の食文化を継承し、流通及び消費拡大に繋げるとともに農家所得の向上を図るため、島ヤサイ栽培の実証用の防虫対策ハウスの設置と消費拡大に取り組む。	防虫ハウスの設置 料理教室の開催 学校給食への食材提供 レシピ開発 アンケート調査	防虫ハウスの設置:20基 0.7ha 料理教室の開催:5回 参加人数 述べ100人 学校給食等への食材提供:2回 レシピ開発:5品目 アンケート調査:5回	糸満市農業戦略産地連絡協議会において、生産性向上及び消費拡大に向けて活動を行う ・作付面積及び生産量 H24 7.31ha 141.4トン H27 10ha 190トン		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

糸満市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
5			地場産品販路拡大事業	H24 ～ H29	地場産品の販路が脆弱なため、販路拡大を目的として、県内外の消費者及び販売業者に向けた物産展を県内及び姉妹都市・友好都市・大都市圏において開催する。	物産展の開催：5回 糸満フェアの開催：1回	物産交流会参加事業者数(延) 60事業者 物産交流展来場者数(延) 30,000人 商談会実施回数 6件 商談成立 3件 糸満フェア参加事業者数 20事業者 糸満フェア来場者数 26,000人 糸満フェア売上高 1,650,000円	(今後の展開方針) 物産交流展来場者数 H29年度：(延) 79,900人 (商談累計目標) 商談件数 36件、商談成立 18件 フェア来場者数 H25～29年度：120,000人(累計)	
5			糸満和牛群改良整備事業	H24 ～ H29	農家の経営の安定化に向けて、仔牛のブランド化を進めるため、優良母牛導入に向けて支援を行う。	優良母牛のり - ス:25頭	優良母牛導入率：64%	(今後の展開方針) 優良母牛リ - ス計画年度別頭数 H24～26年度：149頭 H27年度：25頭 28～29年度：毎年40頭～ H24～29年度：累計269頭 導入率：H29年度100% H32年度：子牛平均価格450,000円 (H23年度：321,583円)	5月変更 (事業追加)
6			平和学習受入体制整備事業	H24 ～ H29	平和教育・平和観光に役立つ資源として、体験者の証言の映像記録、「平和ガイド」の育成を行い、平和の啓発・発信するため、平和講演会並びにイベントを実施する。また、市内に点在する避難壕や戦争で被害を受けた構築物は、歴史の生きた教材になりうるので本市の平和教育・観光に役立つ資源として活用を検討するための調査、計画、環境整備等の検討を行う。	平和ガイド育成：研修6回、実践1回 平和講演会・イベント1回 戦争体験証言収録 戦争遺構保全活用調査1件	平和ガイドの市関連事業参加率 70% 講演会参加者の行動意識変化 アンケート回答のうち30% 証言の映像化 30人分 基本計画の策定	(今後の展開方針) H28～29 ガイド育成、平和意識の高揚 証言映像化60人分 戦争遺構の環境整備 平和学習利用者 6万人/年	
7			確かな学力を育むサポート事業	H24 ～ H29	学習の遅れからくる劣等感等で不登校になる事案もあり、学習支援や学校生活への不適応の児童生徒を指導するなど学力向上と登校復帰を図るため、学校現場へ学習・自立支援員を配置する。	学習指導等支援員配置数 小学校：10人 中学校：6人	・学習指導等支援児童数 小学校：175人 生徒数 中学校：107人	(今後の展開方針) 学習指導等支援員 H28～H29 毎年度16人配置 ・全国学力学習調査及び標準学力調査において全国との差を縮めていく。	
7			英語指導事業	H24 ～ H29	英語指導を通じたコミュニケーション能力と国際感覚を身につけた人材育成を図るため、小中学校の英語授業における英会話指導、発音指導や学級での質の高い英語指導をサポートする英語指導助手を配置する。	英語指導助手配置数 小学校：4人、中学校：3人	・英語指導助手配置クラス数 小学校：45クラス、中学校：61クラス	(今後の展開方針) 英語指導助手 H28～H29 毎年度7人配置 ・全国学力学習調査及び標準学力調査において全国との差を縮めていく。	

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

糸満市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
バ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
7			適応指導教室設置事業	H25 ～ H29	心理的・情緒的要因による不登校の児童生徒の登校復帰を図るため、適応指導教室を設置し、授業支援・登校支援及び教育相談を実施する。	適応指導教室 主任担当者配置数:1人 補助担当者配置数:1人 教育相談員:2人	サポート児童生徒の平均登校日数:80日	(今後の展開方針) 主任担当者・補助担当者・教育相談員配置 H28～H29 毎年度4人配置	
7			障害児学習環境づくり事業	H24 ～ H29	発達障害を含む様々な障害を持つ児童生徒に支援ヘルパーを配置する。また、保育所等他機関との連携や学校での取り組みなどを多方面からの支援が必要であることから、特別支援教育指導コーディネーターを配置する。	障害児支援ヘルパーの配置 幼稚園:12人、小学校:24人、中学校:1人 特別支援教育指導コーディネーター配置1人	支援園児・児童・生徒数 幼稚園:20人、小学校:49人、中学校:1人 市内幼稚園・小中学校・保育園及び保護者への指導・相談 年120回	(今後の展開方針) 障害児支援ヘルパー H28～H29 毎年度45人程度配置 特別支援教育コーディネーター配置 H28～H29 毎年度1人配置	
7			情報教育環境づくり事業	H25 ～ H29	学校のICT環境整備を行うことでパソコン及び電子黒板等を活用し、より分かりやすい授業の実現、子どもたちの情報活用能力の育成を図るため、情報機器を導入する。また、情報教育の充実を図るため情報教育支援員を派遣する。	情報教育支援員配置1人 教育用コンピュータ整備: 中学校2校(82台) 電子黒板整備: 小学校10校(176台) 中学校 6校(84台) LAN整備: 小学校9校 中学校4校	情報教育支援員による適切な支援 市内小中学校における教育用コンピュータの整備率:61% 小学校の電子黒板整備完了: 普通教室143台、特支教室21台、理科教室12台 中学校の電子黒板整備完了: 普通教室62台、特支教室10台、理科教室12台 電子黒板の整備率:100% 小学校のLAN整備完了 中学校のLAN整備完了	(今後の展開方針) 情報教育支援員配置 H28～H29 毎年度1人配置 教育用コンピュータ整備 H28:中学校3校(123台) H29:小学校2校(67台) 整備総数:498台 中学校教科書改訂にあわせデジタル教科書を整備し、更なるICT環境の充実を図る。	10月変更 (計画変更に伴う事業内容、各目標変更) 12月変更 (計画変更に伴う各目標変更)
7			教育環境整備事業	H25 ～ H29	児童・生徒の教育環境改善を目的に、園舎・校舎屋根断熱防水工事、空調設備設置工事などを行う。	小学校屋根断熱防水施工数:1校 小学校空調機設置数:4校 中学校空調機設置数:4校 幼稚園園舎断熱防水施工数:1園	沖縄の気候的特殊性による本土との教育環境の差を改善する。	(今後の展開方針) H28:(断熱)小1校、中1校、幼1園 (空調)小4校、中3校 H29:(断熱)小1校、中1校、幼1園 (空調)小4校	
8			子育て応援NPO活動支援事業	H24 ～ H33	子育ての困難な親などの養育支援を行うため、NPOを活用して相談や学習会などを開催する。	相談活動、訪問活動、親対象の研修、支援者対象研修	・相談活動 80件 ・訪問活動 70件 ・親対象の学習会 10回 ・支援者対象研修 12回	(今後の展開方針) H28～33年度 ・相談活動 80件/年 ・訪問活動 70件/年 ・親対象の学習会 7回/年 ・支援者対象研修 9回/年 ・要支援家庭に対する定期的・継続的な体験学習(親子) 240回/年	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

糸満市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
8	障がい者就労支援事業	H24～H28	障がいのある方の雇用は極めて厳しい状況にあり、住み慣れた地域での雇用の確保に向けて、障がいのある方が従事する施設で製造する商品等を自ら販売するため、市内数ヶ所に販売所を設置するとともに、商品開発、商品PR等物販に係るノウハウを習得のための支援を行う。	事業所連絡会議の開催 8回 事業所職員研修の開催10回	新商品開発件数:10件	(今後の展開方針) H27～H28年度 市内就労支援事業所への個別支援(市内全17箇所) 商品開発、販路拡大等件数(累計)48件		
8	放課後児童クラブ巡回支援事業	H27～H29	放課後児童クラブ運営の適正化や指導員の資質の向上を図るため、専門員を巡回派遣し各クラブへ指導、助言を行う。	巡回指導員の配置 1人	支援相談 200件/年 研修会参加者 100人/年 放課後児童クラブの資質を向上させ、安心して子育てできる体制を確保する。	(今後の展開方針) H27～H29年度 支援相談 600件(のべ件数) 研修会参加者 300人(のべ人数)		
8	幼稚園児預かり支援事業	H27～H29	幼稚園児を対象にした預かり支援を実施する学童クラブに対して受け入れ体制の充足のため支援を行う。	学童クラブへの支援を行う	対象園児数 160人/月の受け入れ体制を確保	(今後の展開方針) H27～H29年度 対象園児 5,760人(36ヶ月のべ人数)		
9	運動公園・体育施設機能強化事業	H24～H27	本市は、アマチュアスポーツのメッカのまちとしてPRし、合宿や大会参加など県外から多くの選手を受け入れており、スポーツ観光の一層の充実を図るため、本市の拠点施設である運動公園・体育施設の機能強化を図る。	・西崎球場機能強化工事の実施設計 ・西崎球場機能強化工事(スコアボード)の実施 ・西崎球場空調設備設置工事の実施設計 ・西崎球場空調設備設置工事の実施 ・高架下駐車場整備工事の実施設計 ・高架下駐車場整備工事の実施	・西崎球場機能強化工事の実施設計完了 ・西崎球場機能強化工事(スコアボード)の完成 ・西崎球場空調設備設置工事の実施設計完了 ・西崎球場空調設備設置工事の完成 ・高架下駐車場整備工事の実施設計完了 ・高架下駐車場整備工事の完成	(今後の展開方針) 整備予定箇所 H28年度以降:西崎陸上競技場芝管理設備等導入、西崎総合体育館トレーニング機器等導入 来場者数増 H26年度:207,743人(実績)	7月変更(事業追加)	
9	パークゴルフ場整備事業	H27～H28	本市を訪れる方や市民に、身近で手軽に行える運動に触れる機会を提供することで、生涯スポーツ人口の増加に努め、スポーツアイランド沖縄の取り組みを一層充実させるため、生涯スポーツ施設等の整備に取り組む。	・パークゴルフ場整備工事基本計画の検討 ・パークゴルフ場実施設計 ・管理棟実施設計	・パークゴルフ場整備工事基本計画のとりまとめ完了 ・パークゴルフ場実施設計の完了 ・管理棟実施設計の完了	(今後の展開方針) H27年度:パークゴルフ場整備工事の実施設計 H28年度:パークゴルフ場整備工事	7月変更(事業追加) 12月変更(計画変更に伴う各目標変更)	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの、
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

糸満市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
9		西崎運動公園等有効活用整備事業	H26 ～ H29	冬季シーズンに温暖な気候の沖縄県の優位性を生かし、従来より行っていた冬季を中心としたスポーツ団体の合宿や各種大会の更なる誘致を図るとともに、オリンピック・パラリンピック事前合宿等の受入体制の構築を目指し、もってスポーツによる地域の活性化のため、西崎運動公園及び西崎研修センターを一体的かつ有効的に活用できるよう整備計画を作成する。	計画策定検討委員会開催数 5回	西崎運動公園等有効活用整備計画書策定	H28年度:西崎研修センター実施設計、整備工事 H29年度:西崎運動公園実施設計、整備工事	10月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

沖縄市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			k o z aフィルムオフィス事業	H24 ～ H33	伝統文化や景観など本市の魅力ある地域資源を広く内外へ発信するため、映画・ドラマ等の撮影誘致及び撮影サポートを支援する。	誘致活動 2回 撮影支援の実施 エキストラデータベース充実	映画・ドラマ等撮影支援件数 75件 (H25年度実績:69件)	(今後の展開方針) H28～H33:撮影件数の増加に向け、誘致活動や撮影サポートの内容を改善しながらH33年度まで支援を継続する。	
			音楽資源活用事業	H24 ～ H28	音楽資源を活かした観光振興を図るため、沖縄民謡をはじめ、戦後のアメリカ文化の影響によるロックやジャズなど多彩な本市の音楽・芸能資源の収集・整理、収集した資料を活用した企画展の開催、展示室の運営などを行う。また、音楽によるまちづくりの更なる推進のため音楽資料の常設展示(音楽ミュージアム)に向け取り組む。	音楽・芸能資源収集数:100点 企画展の開催:2回 展示室の運営	企画展集客数:1,500人/回 (H26実績:平均1,066人/回) 展示室入場者数:9,000人	(今後の展開方針) H28年度 企画展の開催 (集客数目標:1,600人/回) 展示室の運営 (入場者目標:12,000人) 音楽資料の常設展示(音楽ミュージアム)の計画策定・検討	
			音楽観光誘客事業	H24 ～ H28	本市の音楽資源を活かした観光を振興するため、沖縄市のアーティストやライブハウスなどの音楽情報を広く発信するとともに、ライブハウスを活用した定期イベントや沖縄の伝統音楽および民俗芸能などを中心とした音楽イベントを開催する。また、にぎわいの創出が期待できる音楽イベントに対して支援する。	音楽情報の発信・広報プロモーション 10ヶ月 レギュラーバンド店等ライブ160回 野外音楽イベントおよび沖縄芸能企画展の開催 1回 ワークショップの開催 10回 音楽イベント補助金交付 3件	ライブハウス入場者数(レギュラーバンド店) ライブ160回で6,150人(38人/1回あたり) (H25実績:ライブ375回で10,626人)(28人/1回あたり) ライブハウス集客率 75%(H25実績:69%) 野外音楽イベントおよび沖縄芸能企画展集客数 4,200人(H25実績:3,600人) ワークショップ参加者数 150人(H25実績:130人)	(今後の展開方針) H28年度 音楽情報の発信・広報プロモーション レギュラーバンド店等ライブ 野外音楽イベントおよび沖縄芸能企画展の開催 1回 ワークショップの開催 15回 音楽イベント補助金5件 (目標) ライブハウス入場者数 13,000人 野外イベント集客数 4,400人	
			文化活動拠点施設改修事業	H24 ～ H30	文化の振興および観光誘客の拡大を図るため、伝統芸能や演劇に加え、県外有名アーティストのコンサート等幅広いジャンルで活用される文化活動拠点施設である沖縄市民会館の舞台機構、舞台照明など、設備の機能充実を図る。	設計:2件 中ホール舞台・照明設備改修工事設計 中ホール音響設備工事設計 改修工事:3件 舞台機構改修 舞台照明改修 中ホール音響設備改修 計3件	利用者アンケートによる満足度 5割 改修進捗率 大ホール:約80%達成 中ホール:約50%達成 改修進捗率についてはH30年度までの計画を基に算出。(今後計画見直しの可能性あり)	(今後の展開方針) H28年度 改修工事:中ホール舞台機構(オーケストラピット) 設計:中ホール舞台機構・照明 H29年度 改修工事:中ホール舞台機構・照明改修工事 H30年度 設計:大ホール客席取替え 施設機能強化後目標 施設稼働率:70%、 満足度 6割(H31)	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

沖縄市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			国際交流事業	H24 ～ H28	多様な国籍の住民等が交流できる国際交流の拠点を旨とし、コザインターナショナルプラザにおいて県内関係機関や兄弟姉妹都市等の国際交流協会などとの連携を図り、拠点施設としての機能充実を行う。	コザインターナショナルプラザの運営 語学講座(英・中・スペイン) 週3回 多言語相談窓口(生活・法律)(上記言語) 週3回 日本語交流会 週2回 異文化理解講座 月1回 情報発信(市広報誌、コザインターナショナルプラザフェイスブック)	受講者等人数(人数・件数は述べ) 語学講座(英・中・スペイン) 4,500名(H25実績4,000名) 多言語相談窓口(生活・法律)(上記言語) 120名(120名) 日本語交流会 1,100名(500名) 異文化理解講座 500名(900名) 情報発信5,000件(フェイスブック閲覧件数) 多言語情報広報誌の発行 600部	(今後の展開方針) 28年度 語学講座(英・中・スペイン) 週3回 多言語相談窓口 週3回 日本語交流会 週2回 異文化理解講座 月1回 情報発信	
			エイサーのまち推進事業	H24 ～ H33	エイサーを活用した観光振興および地域活性化を図るため、エイサーによるまちづくりの拠点施設となる(仮称)青年エイサー会館整備に向けた取り組み及びエイサーのまち沖縄市のPR活動等を行うとともに、沖縄全島エイサーまつりの充実に向け取り組む。 また、エイサーファン拡大のため、エイサー検定を支援する。	・エイサー相談窓口の実施 ・エイサー体験メニュー制作の実施 ・エイサー企画展の実施 ・エイサー会館改修基本設計 ・(仮称)青年エイサー会館用建物及び底地の購入 ・エイサーパナーの掲揚 3ヶ月 ・沖縄全島エイサーまつりシャトルバスの運行 2日間 ・沖縄全島エイサーまつり打上花火、レーザーショー等の実施 2日間 ・沖縄全島エイサーまつり60回記念コンテストの開催 ・エイサー検定の支援(沖縄市観光物産振興協会への補助金交付) 3級～1級:常時、特級:2回	・エイサー会館準備室事業利用者数 22,000人(H25年度実績:11,076人) エイサー体験 エイサー相談窓口等 ・エイサーイベント参加者数 384,100人(H25年度実績:351,134人) ・エイサー検定受検者数 9,000人(H25年度実績:8,500人) ・(仮称)青年エイサー会館用建物及び底地の購入完了	(今後の展開方針) H28～H33:エイサーイベント参加者数の増加に向け、エイサーのまち沖縄市のPR方法の改善およびエイサーイベントの魅力・利便性の向上を図る。 エイサー検定受験者数の増加に向け、PR活動を改善しながら、H33年度まで支援を継続する。 エイサーによるまちづくりの拠点施設を整備するため、平成28年度に既存施設の改修を行い、(仮称)青年エイサー会館を開館する。	12月変更 (計画変更に伴う各目標変更)
			伝統文化観光推進事業	H24 ～ H33	伝統文化の継承発展と観光誘客の拡大を図るため、伝統行事である「ンマハラシー(美ら競馬)」の開催および普及活動等を支援する。	ンマハラシーの開催 3回 ンマハラシーの普及活動	ンマハラシー入園者数 6,000名 H25実績(入園者数4,685名)	(今後の展開方針) H28～H33:ンマハラシー観覧者の増加に向け、イベントの魅力向上や誘致・PR活動の改善を図りながらH33年度まで支援を継続する。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

沖縄市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
		地域自然環境調査事業	H24 ～ H28	沖縄市全域の生物の生息状況確認を目指し、これまで十分に調査ができていない市街部に残された緑地や公園等を中心に継続して調査を行うとともに、平成28年度の展示に向けた取り組みを行う。	市街地等の自然調査の実施 市内調査 100回	市内陸域の動植物調査実施率 95% 採集した標本を活用した展示会 来館者 2,000人	(今後の展開方針) 28年度 報告書作成および展示	
		文化財等公開デジタル化事業	H24 ～ H27	沖縄市立郷土博物館が保有する写真資料や収蔵品台帳等の情報を、インターネットを利用したデータ公開システムへ掲載できるよう整理をすすめる。	写真10,000点公開	公開システムを目指しての資料貸出し100件	(今後の展開方針) インターネットを利用したデータ公開システム利用目標 H28以降:毎年100件以上	12月変更 (計画変更に伴う事業内容、各目標変更)
		観光宣伝事業	H25 ～ H33	観光誘客の拡大を図るため、効果的なPR活動等を実施するとともに、観光体験等による誘客活動を支援する。	観光情報誌等の制作 6種類 歓迎バナー等の制作 2種類 ホスピタリティ醸成誌の制作 1種類 映画連携によるPR活動 3種類 観光キャラバン隊の派遣 2回 ガイド養成講座の実施 2種類 モニターツアーの実施 4回 観光メニュー制作の実施 6回	主要イベント来場者数 706,300人 (H25年度実績:633,979人) 主要施設来場者数 2,369,000人 (H25年度実績:2,320,279人) 観光体験メニュー利用者数 7,000人 (H25年度実績:6,847人)	(今後の展開方針) H28～H33:観光誘客の拡大を図るため、戦略的なPR活動および新たな観光資源の創出を図る。 観光体験による誘客拡大を図るため、誘致活動や新メニュー創出等の支援を継続する。	
		自主文化事業	H25 ～ H27	本市独自の魅力ある伝統芸能と観光を連携させ、沖縄市をPRしさらなる誘客を図るため、沖縄市伝統の文化芸能作品の公演を街中で実施する。	フェスティバル実施 1回 ステージ数 6ステージ	有料公演入場者数 約525人 (音楽ステージ:500人収容×70%=350人) (芸能公演:250人収容×70%=175人) 無料公演入場者数 延べ約1,000人 無料公演4公演×250人=1,000人	(今後の展開方針) 平成28年度 フェスティバルの継続実施 公演ステージ 6ステージ	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

沖縄市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
		戦後文化資料等展示事業 (デジタル化)	H24 ～ H29	沖縄市戦後文化資料展示室「ヒストリート」における観光誘客のさらなる拡大を図り、地域の活性化へつなげていくため、本市関係の戦後資料である新聞記事資料のデジタル化を実施する。	・戦後新聞記事データベース作成業務 1974年5月～1980年12月(6年8か月) ・新聞記事デジタル化率 10%	・新聞記事デジタル化率 78%達成 (H24～H27年度累計)	(今後の展開方針) H28年度 ・公開に向けたシステム構築 ・新「ヒストリート」整備工事 ・新聞記事データベース作成業務 1981年～1987年(7年) (新聞記事デジタル化率 88%達成) H29年度 ・新聞記事データベース作成業務 1988年～1995年(8年) (新聞記事デジタル化率 100%達成)	5月変更 (事業追加)
2		スポーツコンベンション 推進事業	H25 ～ H33	スポーツコンベンションシティの推進による観光振興を図るため、プロスポーツ団体等のPRをはじめ、関係団体や地域等とのスポーツ交流・体験およびイベントの開催など、「スポーツコンベンションシティ沖縄市」の定着に向け取り組む。	スポーツ合宿誘致 12ヶ月 プロスポーツ団体等活動支援 4団体 スポーツコンベンション推進協議会開催	スポーツ合宿延べ宿泊者数 13,000人 (H25実績:13,849人) スポーツ合宿団体数 55団体(H25実績:53団体)	(今後の展開方針) H28～H33:スポーツ合宿者の増加に向け、誘致活動の改善および冬季競技団体の誘致活動を強化する。	
		商店街スポーツイベント 等連携促進事業	H25 ～ H28	商店街等とスポーツイベントとの連携を促進し、地域への波及効果を創出する仕組みを構築することで、観光振興による商店街等の活性化を図るため、市内で開催されるスポーツイベントに訪れる観光客等を商店街等に誘導・回遊させるための調査・実証業務を行う。	シャトルバスの運行(沖縄市開催時) まち歩きツアーの実施 6回 商店街等利用ポイントラリーの実施 8ヵ月	来場者に占めるシャトルバス利用者の割合 10%以上(平成25年度 4.9%) まち歩きツアー参加者数:60人 商店街店舗等利用回数(利用ポイント発行数) 5,000回	(今後の展開方針) 対象スポーツであるバスケットボール等の開催シーズンに合わせH28年6月までの期間を実証実験として実施。 H28以降は調査・実証業務の成果等を検証し、今後の展開方針を定める。	7月変更 (計画変更に伴う各目標変更)
		スポーツ推進整備事業	H24 ～ H28	スポーツ環境を活かした観光を推進するため、沖縄市総合運動場における運動器具等の備品を充実し、施設の機能強化を図る。	体成分分析装置一式の購入 陸上合宿向け備品の購入	コザ運動公園体育施設 利用者数 H27年度 685,500人(H25実績:643,875人) スポーツ合宿者延べ数 H27年度 13,000人(H25実績:13,849人)	(今後の展開方針) H28年度 運動器具等購入 スポーツ合宿利用者やプロスポーツ団体の意見を聞き取り、スポーツコンベンションの拠点として強化していく。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

沖縄市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
3			道路景観形成推進事業	H24 ～ H33	観光地周辺の道路の快適性の向上や安全性の確保のため、道路植栽等整備工事、道路照明器具の整備等を行う。	実施設計(道路植栽等)の実施 道路植栽等整備の実施 照明灯LED化の実施	実施設計(道路植栽等) 2路線の完了 道路植栽等整備 2路線の完了 照明灯LED化 取替10基の完了	(今後の展開方針) H28年度 実施設計(道路植栽等) 2路線 道路植栽等整備 2路線 照明灯LED化 取替10基 H29年度～H33年度 実施設計(道路植栽等) 道路植栽等整備 照明灯LED化 主要施設来場者数 H22:219万人 H28:241万人	
			観光地周辺道路整備事業	H24 ～ H28	観光地周辺の道路の快適性の向上や安全性を確保するため、歩行空間におけるサイン等整備に関する実施設計を行う。	観光地の各種案内サイン等整備の検討・設計を行う。	観光地の各種案内サイン等整備の検討・設計完了	(今後の展開方針) H28年度 市道総合グランド通り線における案内サイン等の整備 主要施設来場者数 H22:219万人 H28:241万人	
			モータースポーツ推進事業	H27 ～ H31	本格的なモータースポーツの拠点となる(仮称)沖縄サーキットの整備実現に向け、モータースポーツの振興を図るイベントを実施し、モータースポーツに関する理解と機運を高める。	モータースポーツ振興イベントの実施(2回)	イベント来場者数 延べ20,000人	(今後の展開方針) モータースポーツの振興を図るイベント等を実施することにより、モータースポーツに関する理解と機運を高め、将来的なモータースポーツの拠点となる(仮称)沖縄サーキット建設を実現する。 H28～H31:イベント実施	10月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

沖縄市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
4		こども科学力育成事業	H24 ～ H33	こどもたちが、科学の面白さや学ぶことの楽しさを体験する科学イベントや科学体験プログラムの実施、学校等における出前科学教室の開催や科学クラブの設立に向けた支援を行う。	科学普及イベント開催:3回 科学体験ワークショップ開催 30回 出前科学教室開催 96コマ	科学普及イベント参加者数:14,600人 科学体験ワークショップ参加者数:(50人/1回) ×30回=1,500人 出前科学教室参加者数:(40人/1クラス)×96コマ= 延べ3,840人	(今後の展開方針) H28～33年度 科学普及イベント・ワークショップ開催による意識啓発及び出前科学教室による学力向上を並行的に実施。	
		児童生徒の「わかる・意欲・学ぶ」を支援する事業	H24 ～ H33	児童生徒のわかる・意欲・学ぶを支援するため、学校支援教育補助者、キャリア教育コーディネーター、教科コーディネーター、外国語指導助手等を配置することにより、きめ細やかな指導の充実に取り組む。	キャリア教育コーディネーターの配置 2人 教科コーディネーターの配置 3人 日本語指導員の配置 4人 外国語指導助手の配置 25人 学習支援員の配置 16人	【個別指標】 キャリア教育コーディネーターの配置 2人 目標 対応可能児童生徒数 3,350人 研修会等 2回 教科コーディネーターの配置 3人 目標 対応可能児童生徒数 1,200人 授業日数:206日 学校支援教育補助者の配置 2校(小:1・2年、中:3) 目標 対応可能児童生徒数 260人 授業日数:206日 学習支援員の配置:16人 目標 対応可能児童数2,400人 授業日数:206日 日本語指導員の配置:4人 目標 対応可能生徒数:30人 授業回数:1,630回 外国語指導助手の配置:25人 目標 対応可能生徒数14,814人 授業日数:206日	(今後の展開方針) H28～33年度 コーディネーター及び学習支援員、指導助手等の配置 標準学力調査の実施及びその結果を活用し、沖縄県の総括目標に沿って、H29年度までに全国学力学習状況調査及び沖縄県学力到達度調査の市結果において、正答率の割合を高め全国水準に到達できる活動を推進する。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

沖縄市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
		気になる子等の学びを支援する事業	H24 ～ H33	特別な支援が必要な子に対し、幼稚園、小中学校までの継続的な支援を行う。 また、不登校や学力不振の児童生徒への登校支援、学習支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理士 1人 看護師 1人 幼稚園特別支援学級担当 36人 幼稚園特別支援教育支援員 7人 心理士 2人 保健師 1人 看護師 2人 市スクールカウンセラー 9人 心の教室相談員 8人 市スクールソーシャルワーカー 2人 学校支援教育補助者 15人 特別支援教育補助者 41人 教育相談員 2人 適応指導教室指導員 2人 巡回支援指導員 4人 適応指導教室正式入級数 15人 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理士 1人 園児168名の対応 看護師 1人 園児1名の対応 幼稚園特別支援学級担当 36人 園児69名の対応 幼稚園特別支援教育支援員 7人 園児99名の対応 心理士 2人 目標:検査件数160件 保健師 1人 目標:相談及び指導助言件数60回、健診業務16回 看護師 2人 目標:児童対応数2名 市スクールカウンセラー 9人 目標:カウンセリング実施数650件 心の教室相談員 8人 目標:相談件数650件 市スクールソーシャルワーカー 2人 目標:対応件数150件 学校支援教育補助者 15人 目標:不登校児童生徒数 H23年度215件を基準として毎年20%減(H26:138件) 特別支援教育補助者 41人 目標:支援生徒数110名 教育相談員 2人 目標:相談活動等300件 適応指導教室指導員 2人 目標:適応指導教室正式入級数15名のうち70%を普通教室に通えるよう指導。 巡回支援指導員 4人 目標:巡回支援回数500回以上 	(今後の展開方針) H28～33年度 幼稚園・小学校・中学校へ特別支援担当及び教育補助者の配置 スクールカウンセラーの配置 16校/年 適応指導教室教育相談員及び指導員、巡回支援指導員の配置	
		青少年等支援事業	H25 ～ H29	青少年の非行防止および健全育成を図るため、青少年指導員を配置し、電話・来所・訪問相談、登下校の巡回指導、夜間の街頭指導、キャンプ等の各種体験活動等を行う。 また、若者相談窓口を設置し、困難を有する若者の自立問題や非行問題に関して悩みを抱えている家族等や本人からの相談に対し、関係機関等の情報提供や支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 青少年教育相談指導員配置 8名 青少年指導員配置 126名 若者相談窓口配置 嘱託職員2名 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校の巡回指導 200回 夜間の街頭指導 250回 	(今後の展開方針) H28～29年度 登下校の巡回指導 200回/年 夜間の街頭指導 250回/年	
		中学生海外短期ホームステイ派遣事業	H25 ～ H29	「国際文化観光都市」を宣言している沖縄市では、次代を担い、これからの国際化社会に活躍できる人材を育成することを目的として、市内中学校の生徒を対象に、夏休み期間中の海外ホームステイ活動を支援する。	生徒派遣人数 12名	派遣後、アンケートによる意識調査等により、派遣前英検取得より上位級の取得を促す。 また、本市で主催する行事等において通訳ボランティア補助として活用する。	(今後の展開方針) H28～33年度:短期ホームステイ活動支援 派遣人数 12名/年間	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

沖縄市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			小学校楽器整備事業	H24 ～ H27	児童の音楽に対する興味と表現力を育み、音楽を通じたまちづくりや人材育成を図るため、市内小学校の吹奏楽の楽器を整備する。	楽器整備校数 12校	学校行事を除くイベント等への出演回数 年36回以上(1校当たり3回以上)	(今後の展開方針) 市内小中学校の楽器整備は平成27年度で完了。今後は、さらなる吹奏楽技術の向上や地域イベントへの参加等により、児童生徒の人材育成とともに地域活性化の推進に寄与していく。	
5			若年者就労等支援事業	H24 ～ H28	若年者等の雇用創出および失業者対策を図るため、心因性の理由等により就職が困難な当事者や保護者等を対象に、就労へ向けた生活相談や生活訓練、職業訓練等を実施する。	アウトリーチ(訪問支援) 400件/年 カウンセリング 90回/年 農業実習 48回/年 自立訓練 12回/年 学習支援 240日/年	アウトリーチ人数 480人(述べ) カウンセリング受診者数:270人 農業実習受講者数:240人 自立訓練受講者数:48人 学習支援人数 300人	(今後の展開方針) H28年度 アウトリーチ(想定件数)400件/年 カウンセリング90回/年 学習支援・職業訓練等 農業実習 48回/年 自立訓練 12回/年 学習支援 240日/年	
			就労支援センター運営事業	H25 ～ H28	雇用の対策を図るため、沖縄市就労支援センター等において、求職者を対象に、就労相談や就労支援講座等の開催および職場体験のコーディネート、職業斡旋などをおこなう。	就労相談 約2,000人/年 就労支援講座の開催 11回 職場体験 35件 職業斡旋(想定件数)500件/年	就職決定者数 700人 (H25年度実績:637件)	(今後の展開方針) H28年度 就労相談約 2000人/年 就労支援講座の開催:12回 職場体験:40件 職業斡旋(想定件数)500件/年 就職決定者 750人	
			中小企業人材育成支援事業	H25 ～ H27	市内中小企業者に対し、技術力の向上や能力開発のための人材育成支援をはじめ、在沖米軍発注業務の受注にかかる通訳・翻訳などの契約業務を支援することにより、本業務にかかるノウハウを持った人材を育成し、産業の振興や新たな雇用の創出を図る。	人材育成講座の開催 9回 米軍発注業務受注支援(情報発信) 12ヶ月	人材育成講座受講者数 162人 米軍発注業務受注件数 10件 米軍発注業務受注金額 1億円	(今後の展開方針) これまでの取り組みの成果等を検証し、今後の展開方針を定める。	
			雇用環境基盤検討調査事業	H24 ～ H33	本市の雇用対策を図るため、企業誘致や雇用創出の受け皿となる基盤整備等の調査検討を行う。	・企業誘致に資する交通に関する詳細な検討を行う。 ・企業誘致に資する基盤整備に関する計画の検討を行う。	・交通に関する詳細調査の完了 ・基盤整備に関する基本計画の策定	(今後の展開方針) H28:現地測量 H29:設計 H30:用地購入 H31:基盤整備 H32:上屋整備 H33:企業誘致事業実施後 雇用創出目標:8,023人	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

沖縄市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
		(仮称)雇用促進施設整備事業	H26 ～ H27	中心市街地における大型空き店舗を取得し、企業等へのレンタルオフィスなどを備えた雇用促進施設として再整備することにより、産業振興や雇用創出に寄与する企業等の集積を促進し、地域産業の振興と雇用の創出並びに地域の活性化を図る。	・雇用促進施設としての再整備のため、修繕、改修工事を行う。	・修繕、改修工事の完了(達成率100%)	(今後の展開方針) 事業実施後(概ねH29年度目標) 被雇用者目標:300人 現状約150人	5月変更 (事業追加)
6		地域ブランド推進事業	H24 ～ H29	魅力ある沖縄市ブランドの確立によるものづくり産業を振興するため、市内の優れた地域資源(二次加工品等)を沖縄市ブランドとして認定する沖縄市地域ブランド認定制度等を実施し、広報活動等を行うとともに、新商品の開発または販路開拓等に対し支援する。	地域ブランド認定制度 3商品 地域資源選定制度 10商品 プロモーション活動 10ヶ月 新商品開発等支援 3件/年	コザスター商品認定数 延べ11商品 コザチョイス商品選定数 延べ83商品 新商品開発 3件	(今後の展開方針) H28年度 地域ブランド認定制度 延べ14商品 地域資源選定制度 延べ103商品 プロモーション活動 10ヶ月 新商品開発等支援 3件/年 H29年度 地域ブランド認定制度 延べ17商品 地域資源選定制度 延べ113商品 プロモーション活動 10ヶ月 地域ブランド補助金交付 3件/年	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖繩振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

沖繩市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
7		地域防災対策事業	H24 ～ H33	災害等に備えるため、災害用備蓄品の確保をはじめ、防災行政無線子局のデジタル整備(H26～H28年度)や災害用備蓄倉庫の整備に取組む また、地域防災力を強化するため、継続して自主防災組織の結成促進・育成を実施する。	災害用備蓄品の確保:10,000食 防災無線子局のデジタル化:工事(45箇所) 防災組織の結成:新規5組織 防災組織資機材整備:5組織 防災倉庫整備(8箇所)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害用備蓄品の整備率 100% (備蓄目標 63,000食) H24～H27 63,000食 ・防災行政無線子局のデジタルカバー率 (市面積 49.00km²) 【市街地32.1km²・基地面積 16.9Km²】 H25～H27 カバー率(市街地23.4Km²) 73% 127/172 ・自主防災組織の結成率 51.21% 自主防災組織結成目標数 41組織 H17～H27結成数 21組織 ・自主防災組織資機材整備率 41.46% 資機材整備予定組織数 41組織 H17～H27設置数 17組織 ・防災倉庫整備率 34.61% 27/78 (防災倉庫整備予定数 78箇所 H24～H27 27箇所) 	<p>(今後の展開方針)</p> <p>H28年度 津波避難ビルの基本設計 防災組織の結成:新規5組織 防災組織の資機材整備:新規5組織 防災倉庫整備(8箇所)</p> <p>H29年度～H31年度 津波避難ビルの実施設計 津波避難ビルの工事 防災組織の結成:新規15組織 防災組織の資機材整備:新規15組織 防災倉庫整備(8箇所)</p> <p>H32年度～H33年度 防災倉庫整備(8箇所)</p>	
		災害時緊急避難通路整備事業	H24 ～ H33	自然災害などに対する防災力の向上のため、低地における里道を利用した緊急避難通路を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実施設計の実施 ・用地測量の実施 ・用地購入の実施 ・整備工事の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施設計2ヶ所の完了 ・用地測量3ヶ所(H26年度実施設計箇所)の完了 ・用地購入3ヶ所(H26年度実施設計箇所)の完了 ・整備工事3箇所(H25年度実施設計箇所)の完了 <p>整備工事の完了により、津波時における住民の徒歩による避難通路を確保することができ、自然災害からの被害軽減が図られる。 (整備予定である10路線中3路線の完了)</p>	<p>(今後の展開方針)</p> <p>H28年度 用地測量2ヶ所、用地購入2ヶ所、緊急通路工事3ヶ所</p> <p>H29～H33年度 用地購入及び緊急通路工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所までの避難時間の短縮 整備前:平均15分 整備後:平均8分(7分短縮) ・仮の避難ルート(正式には自主防災組織にて決定)の距離をネット上で計測しているため、おおよその避難時間で算出 	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

沖縄市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			救命処置普及強化事業	H25 ～ H29	災害時等において、市民等に重篤な傷病者が発生した場合、居合わせた方が救急処置をおこなえるよう、救急講習会の開催を増やすとともに、24時間営業のコンビニ等にAEDを設置し、市民等の救命能力の向上と意識啓発に取り組む。	コンビニへのAED設置 新規7店舗 応急講習会の開催 204回	市内コンビニ AED設置率 100% 応急講習会開催 受講者数 4300人(H27年度) (H25年度実績:2,756人)	(今後の展開方針) H28年度 応急講習会 228回 受講者数 4,800人 H29年度 応急講習会 252回 受講者数 5,300人 (応急講習会受講者述べ人数 目標:21,500人)	
			学校安全対策強化事業	H24 ～ H33	安全教育(防災・交通・防犯)で、こどもたちの安全への意識を高めるために土地の標高や避難場所、危険箇所等の情報を盛り込んだハザードマップをこどもたちが普段から活用できる下敷き(各学校区ごとに作成)にして、こどもたちに配布する。	各学校区ごとの安全・防災下敷き作成・配布	市内幼児、児童に配布(約12,000枚) 安全教育授業での活用回数 目標:各学校年2回(新年度:4月、防災の日:9月)	(今後の展開方針) H28～33年度 市内の幼稚園及び小学校に通う児童全員(約12,000人)に配布し、災害時の避難経路、学校周辺の危険箇所を身に付け、安全への意識を高める。	
8			里道および水路の境界確定復元事業	H24 ～ H33	戦後の米軍統治下の影響による不明確な里道および水路の位置を確定するため、境界の確定測量および復元作業をおこなう。	里道の境界確定測量実施 水路の境界確定測量実施	里道 7,720mの境界確定測量完了 (全体に対する整備率 約18.9%) 水路 2,500mの境界確定測量完了 (全体に対する整備率 約47.78%)	(今後の展開方針) H28～33年度 里道の測量 各年度 9,000m 水路の測量 約18,000m	
			沖縄市特定駐留軍用地内土地取得事業基金	H25 ～ H33	特定駐留軍用地の指定を受けたキャンプ瑞慶覧口ウワー・プラザ住宅地区の跡地利用を促進するため、基金に積立をおこない、公有地の先行取得を実施する。	基金の積立 196,000千円 先行取得事業の実施 ・地権者説明会及び跡地利用における情報提供 ・先行取得事業の受付の実施	・返還後の跡地利用を円滑に進めるため、公有地の先行取得を行う。 ・取得目標面積:14,800㎡ (全体計画に対する取得率:約68.20%)	(今後の展開方針) H28～33年度 用地取得 (取得率:100%、目標面積:21,700㎡)	5月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

沖縄市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
9		東部海浜地区開発事業	H25 ～ H28	東部海浜開発地区の防災基本計画検討調査等に取り組むとともに、イベント等を活用したPR業務を行う。 また、東部海浜開発事業を推進するため、東部地域と連携し、地域活性化を推進する業務を行う。	防災計画検討調査の実施 東部海浜開発事業PR業務の実施 東部海浜開発地域活性化推進業務の実施	防災に関する基本計画の検討 事業PRブースへの 来場者目標:2,750人(H26:2,555人)	(今後の展開方針) H28年度 景観計画検討調査 H28年度 東部海浜開発事業PR業務	
10		コミュニティーパーク整備事業	H24 ～ H28	市民の健康づくりや地域住民相互の交流等を促進するため、地域住民の意見・ニーズを伺いながら公園の基本設計を策定し、実施設計および造成工事等をおこなう。	若夏公園:管理棟基本設計及び実施設計 若夏公園:施設整備工事 (仮称)美東公園:施設整備工事	若夏公園:管理棟基本設計及び実施設計の完了 若夏公園:施設整備工事の完了(平成27年度施工分) (仮称)美東公園:施設整備工事の完了	(今後の展開方針) H28年度 若夏公園:施設整備工事 整備後の施設活用した取組 (市民の健康づくり関連) ・スポーツ・レクリエーションを楽しむ、健康づくりのできる場として、園路や多目的広場を利用する。 (地域住民相互の交流等) ・周辺から見通しのきく植栽配置や施設配置、近隣にある公共施設とのスムーズな連絡など安全な利用ができる。	
11		沖縄こどもの国施設整備事業	H24 ～ H33	沖縄県を代表する広域的な児童・青少年のための人材育成拠点である沖縄こどもの国の機能強化のため、動物園の充実を図るとともに、動物展示施設整備を行う。	沖縄こどもの国の機能強化のため、ゾウ舎施設工事を行う。	ゾウ舎施設工事の完了	(今後の展開方針) H28～H33:今後も計画性を持って、沖縄こどもの国の機能強化のため、動物園の充実を図る。	
12		沖縄こどもの国整備計画等策定事業	H27	沖縄県を代表する広域的な児童・青少年のための人材育成拠点である沖縄こどもの国の機能強化のため、既存施設エリアの充実を図るとともに、施設の整備拡充に向けた基本計画を策定する。	沖縄こどもの国の機能強化のため、施設の整備拡充に向けた基本計画について検討を行う。	基本計画策定の完了	(今後の展開方針) H27年度基本計画のなかで策定する事業スケジュールに基づき、適正な事業実施を図る。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

沖縄市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
13		沖縄市優良母牛リース支援事業	H27～H29	肉用牛の改良により畜産農家の経営基盤安定化を図るため、優良繁殖母牛の導入費用を支援する。	優良母牛(20頭)のリース事業を行う団体に対して支援する(20頭の導入支援)	優良母牛を各農家へ全体計画の20%を目標に導入することで、繁殖母牛の若齢化や肉用牛の改良等がすみ改良基盤の安定化が図られる。	(今後の展開方針) H29年度まで継続して優良母牛を導入することで、経営基盤安定化が図られる。 H28:40頭(全体計画60%達成) H29:40頭(全体計画100%達成) 全体計画は、H27～H29までの3年間に100頭の導入支援。	5月変更(事業追加)
14		郷土資料整備事業	H27～H33	沖縄県・沖縄市に関する歴史や文化、産業に関する郷土資料を収集し、本市の伝統文化と異文化が融合した特徴的なコザ文化をはじめとする地域文化を学ぶ環境づくりに努める。	郷土資料の購入 1,294点	郷土資料の購入 1,294点	(今後の展開方針) H28: 2,696点 郷土資料の購入資料の閲覧、貸出等共用開始(H29年1月) H29～H33: 各1,385点 郷土資料の購入・資料の閲覧、貸出	10月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

豊見城市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
1	地域特性を活かした観光振興事業	H24～H33						
1	瀬長島観光拠点整備事業	H24～H28	H24年度策定の「瀬長島観光拠点整備基本計画」を踏まえ、観光拠点の整備を実現するため、必要な施設並びに設備等を整備し、島全体の利便性の向上を図る。	瀬長島内の施設並びに設備等の整備を実施。(委託業務、屋外トイレ棟、無電柱化340m、中道道路250m、防犯灯施設530m)	全体整備計画の76%完了(中道道路、屋外トイレ、無電柱化整備の完了)による瀬長島全体の利便性向上	(今後の展開方針) 平成28年度事業完了に向けた施設整備 瀬長島における将来の来島者数 目標値:160万人 (平成28年度以降)		
	文化観光創出事業	H24～H33	H25年度策定の「豊見城城址跡地利用基本計画」を踏まえ、豊見城城址及びその周辺について、観光資源として活用するため、用地を取得し必要な施設等の設計や整備等を実施する。	・豊見城城址跡地用地(約35,500㎡)の取得と立木等の補償 ・親水空間ゾーン等の園路等施設基本設計 ・園路と雨水排水施設・上下水道施設等の実施設計及び整備	平成30年度中の一部供用開始に向けた事業の着実な実施(用地全体の約60%確保)、園路等の整備)	【今後の展開】 ・用地取得と立木等の補償(～H30年) ・園路等の施設整備 ・駐車場の整備 ・グスクの復元(～H33年)	10月変更(計画変更に伴う各目標変更) 12月変更(計画変更に伴う各目標変更)	
	とみぐすく祭り事業	H26～H33	豊かな自然環境、恵まれた地勢のみならず、歴史文化に育まれた子どもエイサーや棒術や旗頭等の伝統芸能、豊見城ハーリーなど貴重な地域資源を活用した祭りを開催し、本市の成長力、若い力を県内外に広くアピールし、新たな観光の場として誇りと愛着の持てる「ひと・そら・みどりがつなく響むまちとみぐすく」を実現していくことを目的とする。	「とみぐすく祭り」への開催支援	とみぐすく祭りの来場者数:91,000人 基準年(26年):約90,500人	(今後の展開方針) H28年度以降の来場者について、前年度比に対する増を目指す		
	観光振興等支援事業	H25～H29	市観光協会などが実施する観光資源の開発やイベント事業を支援することにより、観光振興や地域振興に取り組む担い手となるまちづくり団体を育成し、観光振興に取り組める環境づくりを図る。また、オフシーズンの誘客対策として新たな特色ある観光事業の誘致や開催を検討する。	豊見城市観光協会等の補助対象団体等への支援により、観光事業の誘致や開催を促進し、地域活性化を促す。	主要観光施設における観光客数 約230万人(H23年度) 約285万人(H27年度)	同事業の周知を広く行い、更なる観光客の誘客促進、地域活性化を図る。 H28入域観光客数:299万人 H29入域観光客数:307.5万人		
	観光振興地域環境美化強化事業	H25～H33	南国沖縄らしい景観や、魅力ある観光地づくりを図るため、豊崎、瀬長地域の市道植樹樹の除草清掃や、美らSUNビーチ、レンタカーステーション、沖縄アウトレットモールあしびなー、ホテルへ繋がる市道沿いに、平成25年度に植栽した花木の管理を引き続き行い、美化強化に努め、魅力ある観光地づくりに取り組む。	植樹樹の除草清掃(1390樹、3回除草清掃) プランターの植栽管理(464個) 防風ネットの設置(238個)	植樹樹の除草清掃、プランターの植栽管理による魅力ある観光地の形成	(今後の展開方針) 植樹樹の除草清掃、花木の植栽管理(灌水等)を継続して行う。		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

豊見城市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			景観計画策定事業	H25 ～ H27	地域独自の風景を活かした景観像を明確にし、観光地にふさわしい景観形成を実現するため、景観計画を策定する。	景観計画の策定 景観条例の制定 景観ガイドラインの策定	地域独自の風景を活かした景観像の明確化 良好な景観形成に向けた施策の決定及び実施	(今後の展開方針) 景観計画及び条例等に基づく届出制度の運用等	
			与根漁港複合施設整備事業	H27 ～ H28	複合施設を設置し、漁港利用者及び遊漁船利用者の利便性を高め、漁業活性化を図る。	与根漁港複合施設整備基本計画の策定(鮮魚直売所、テナント、事務所等の設置及び配置、延床面積488.9㎡)	工事実施に向けた施設等の規模及び内容等の確定	(今後の展開方針) H27基本計画 H28詳細設計 建築工事 遊漁乗客数 基準年(H25) 2,500人 H28 2,600人	
2			持続可能な安全・安心なまちづくり事業	H24 ～ H28					
			防災情報通信設備整備事業	H24 ～ H27	本庁舎と市内沿岸地域、集落地域とを無線で結び、屋外拡声装置を取付けた防災無線子局を当該地域に設置する他、防災無線室など本部機能等の関連施設等を整備して防災無線システムを構築する。	ゆたか小学校、ゆたか幼稚園、豊見城市市民体育館、めぐみの森保育園、沖縄県立豊見城南高等学校と市内8箇所へ屋外拡声子局を設置	必要とされる箇所へのカバー率を100%とする	(今後の展開方針) 平時より防災訓練や試験放送を通して、本システム設置した施設との情報共有を図り、迅速な災害対応を行うようにする。	
			低炭素社会構築事業 (省エネ設備導入促進事業)	H26 ～ H28	積極的な省エネルギー設備の導入により環境負荷の少ない低炭素社会の構築を図るため、防犯灯(水銀灯、蛍光灯)等を環境負荷の少ないLED照明に切り替え、温室効果ガス(CO2)の排出を抑制する。	自治会等所有の防犯灯約900基をLED化	自治会等が設置した防犯灯が排出するCO2約116,915kg減量 基準年度:平成26年度(389,718kg)	[平成28年度] ・自治会防犯灯約900基をLED化 ・市管理照明設備等をLED化 本事業を通して、市民の省エネ意識を向上させ、市民協働による低炭素社会の構築を推進するとともに自治会等が設置した防犯灯のCO2の約30%の削減(対H26年度比)へ向けて活動を行う	
			航空機騒音自動測定機器導入事業	H27	那覇空港は、観光立県を目指す沖縄県の産業振興や交流・物流の拠点として重要な役割を果たしており、空港に近接する本市の観光振興にも大きく貢献している。一方で、頻繁に離発着する航空機(民間機・軍用機)の騒音による住民の生活環境への影響が課題となっている。 快適な住民環境を図るには、那覇空港から発生する航空機騒音の実態を把握する必要があるため、航空機騒音測定機器を購入・設置し、那覇空港周辺地域の航空機騒音を測定する。	航空機騒音測定器1台の購入・設置	那覇空港周辺地域における航空機騒音状況の把握	将来の快適な住民環境形成を目指す 測定結果を市HP等で公表し情報を共有する。 関係機関と連携し改善策等を検討する。	5月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

豊見城市		計画 期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業 番号	事業名		H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足 説明等
3	地域特性を活かした 産業活性化事業	H24 ～ H33					
	とみぐすく産業まつり事業	H25 ～ H33	豊見城市産品を一堂に会したイベントを実施することにより、市民および観光客等に対し、市内の各種産業のPRを行い産業の進行を図る。 また、異業種間での情報交換や交流の場とすることで、産業界間の連携を生み出し新たな産業の創出を図る。	実行委員会が開催する祭りの経費負担	とみぐすく産業まつりの来場者数:33,000人 (基準年:平成26年度約32,000人) 事業所間連携による新商品・サービスの開発 3件	(今後の展開方針) H28年度以降の来場者を前年比+1,000名を目指す。 事業所間連携による新商品・サービスの開発を毎年度3件以上を目指す	
	豊見城産マンゴー 販売促進事業	H24 ～ H27	豊見城産マンゴーは、県の拠点産地に認定されるなど、評価が高いことから産地ブランド化を目指して県内外での販売促進活動を実施する。	豊見城産マンゴー販売促進活動 6回	豊見城産マンゴー県外出荷量 H27:215t (4年目)【H23:211t (基準)】	(今後の展開方針) 平成27年度で事業終了ではあるが引き続き市一般財源において、事業を継続する。	
	県外販路拡大支援事業	H26 ～ H31	市内事業所が開発した商品・サービスの販路拡大を図る目的のため県外・海外において開催される展示会・見本市等への出展に対する支援を行う。	県外・海外で開催される、展示会・見本市等へ出展する事業者への支援 15事業者	市内事業者の県外からの受注件数 3件	市内事業者の県外からの受注件数を毎年度3件以上を目指す	
	衛星船舶電話整備支援事業	H27	衛星船舶電話を整備することにより、漁業操業の安全確保、緊急時の対応、トラブル回避が図れる。	衛星船舶電話の整備 25機	衛星船舶電話の整備による、漁業操業の安全性向上。	漁業操業の安全確保、漁場におけるトラブル回避、海上での事故及び緊急時の対応が可能となり、安心して漁業操業ができる。	
	豊見城産トマト・ 葉野菜販売促進事業	H27 ～ H29	豊見城産トマトは、県の拠点産地に認定されており又、葉野菜は県内有数の産地となっている。 トマト・葉野菜は施設整備が進み生産量も増加傾向にあるが今後、県内外において販売促進のための活動を実施する。	豊見城産トマト・葉野菜 販売促進活動 6回	豊見城産トマト・葉野菜県外出荷量 H27:528t (1年目)【H25:369t (基準)】	(今後の展開方針) 豊見城産トマト・葉野菜県外出荷量 H25:369t(基準) H27:528t(1年目) H28:543t(2年目) H29:563t(3年目)	5月変更 (事業追加)
	優良母牛 導入支援事業	H27 ～ H29	優良母牛の導入を促進し、畜産農家の生産基盤の確立及び経営の安定を図り、農業振興を図ることを目的とする。	優良母牛の導入に対する補助	優良母牛の導入頭数 H27年度:15頭(1年目導入率33%)	(今後の展開方針) 優良母牛導入頭数 H28:15頭(2年目導入率66%) H29:15頭(3年目導入率100%)	7月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

豊見城市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
4			次世代育成支援事業	H24 ～ H33					
			気になる子相談事業	H26 ～ H33	公立・法人・認可外保育施設における「気になる子」への保育の充実ときめ細かい対応及び乳幼児健診、親子教室等の心理相談により「気になる子」の早期発見・早期支援を図るため、臨床心理士の専門指導員を配置し、相談・支援を行う	・公立保育所2ヶ所、法人立認可保育園15ヶ所、認可外保育施設28ヶ所への巡回相談等の実施 ・乳幼児健診、親子教室等の心理相談等	・保育園等への巡回相談・支援件数80件 【参考：H26年66件(1月末時点)】 ・乳幼児健診等の相談件数80件 【参考H26年65件(1月末時点)】 ・親子教室後親子通園移行件数 7組 【参考H26年6組(1月末時点)】	(今後の展開方針) 障害児保育等の実施、健診及び相談支援部門と保育部門の連帯性の確立、保育士に対する普及啓発や研修の実施	
			幼稚園給食導入事業	H26 ～ H27	市内幼稚園では、預かり保育の需要が高まっている状況を考慮し平成27年度から学校給食の導入を行うが、新たに発生する幼稚園への給食配送及び回収業務に対応するため、給食センターのプラットフォームの増設工事を行う。	・給食センタープラットフォームの増設工事(施行面積:23.1㎡)	市立幼稚園への学校給食提供体制の構築	安全、安心な給食の定時提供を行う	
5			生きる力を育む人材育成事業	H24 ～ H33					
			学力向上サポート事業	H24 ～ H33	市内各小中学校への教員の補助として学力向上推進補助員を配置し、きめ細かい支援を行うことで学力向上を図る。	学力向上推進補助員配置数(各学校1人) 小学校:8人 中学校:3人	全国学力調査での全国平均との差 小学校4教科平均 +2.0ポイント(維持) H26年の差 +1.9ポイント 【全国平均(66.2点) 本市(68.1点)】 中学校4教科平均 -6ポイント(0.6ポイント改善) H26年の差 -6.6ポイント 【全国平均(64.4点) 本市(57.8点)】	平成33年度まで事業を維持し、全国平均との差を小学校+2ポイント、中学校0ポイントとする。	
			情報教育補助員派遣事業	H24 ～ H33	ICT教育補助員を派遣し、コンピュータを活用する授業で、教員をサポートしたり、児童生徒の指導を行うことにより、積極的にICTを活用した授業を実施する。	情報教育補助員配置数:3人	ICT機器等活用率:前年比+0.5ポイント (参考:平成25年度 小学生84.16ポイント 中学生49.56ポイント)	平成33年度まで継続的に情報教育補助員の配置を行い、ICT機器等活用率90ポイントとする。	
			適応指導教室学習支援員配置事業	H24 ～ H33	不登校児童生徒やその保護者に対し指導員を配置し、教育相談や適応指導等の適切な支援を行うことにより学校復帰及び社会的自立を支援する。	適応指導教室学習支援員配置数 適応指導教室:2人	学校復帰率:10%(学校復帰した児童生徒/教室に在籍した児童生徒)	平成33年度まで継続的に適応指導教室学習支援員の配置を行い、学校復帰率30%を維持する。	
			自立支援教育指導員配置事業	H25 ～ H33	不登校や問題行動のある児童生徒の日中の居場所を確保し、学級復帰及び社会的自立を支援するため、指導員を配置する。	自立支援教室指導員配置数 中学校:3人(各中学校1人)	市内中学校における問題行動発生率 前年比-5% (平成25年度 小学校:22件、中学校:44件)	平成33年度まで継続的に自立支援教室指導員を配置し、対象生徒数を各学校生徒数の1.5%以内に	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

豊見城市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			スクールソーシャルワーカー配置事業	H27 ～ H33	問題を抱える児童生徒を取り巻く環境の改善のため、スクールソーシャルワーカーを配置し、児童相談所や福祉事務所等の関係機関とのネットワークを構築し、社会福祉の観点から支援を行い、教育相談体制を整備する。	SSW配置数:1人 市内小学校8校、中学校3校への巡回配置	支援対象ケース改善率 3%(改善ケース/支援対象ケース件数)	平成33年度まで継続的にSSWを配置し、関係機関との連携構築を行い、維持する。	
			登校支援員配置事業	H25 ～ H33	不登校や不登校傾向にある児童やその保護者に対し、相談等の支援を充実するため、登校支援員を配置し巡回など行う。	登校支援員配置数 小学校:4人(小学校2校につき1人)	市内小学校における不登校児の学校復帰率10% (復帰人数/利用児童数) (平成26年度(平成27年1月末時点) 復帰率10%)	登校支援員の継続配置を行い、学校復帰率(復帰人数/利用児童数)の改善(平成33年:30%)を図る。	
			学習支援補助員配置事業	H26 ～ H33	市内各中学校等の別室にて不登校(心因性や遊び・非行型)や問題行動のある生徒の生活指導や学習支援等を行うため、学習支援補助員を配置する。(主に中学校、状況に応じて小学校に配置する。)	学習支援補助員配置人数 中学校等:3人(中学校区に1人)	問題行動等改善率:30% (補助員が関わった課題のある児童生徒のうち改善が見られた児童生徒数/補助員が関わった課題のある児童生徒数)	平成33年度まで継続的に学習支援補助員を配置し、問題行動等改善率を30%を維持する。	
			パソコン教室整備事業	H25 ～ H33	パソコンを活用した学習カリキュラムを実施し、生徒の学習への興味、関心を高めながら学力の定着及び向上を図る他、情報端末操作技術の向上等、情報活用能力の向上ため、市内各小中学校におけるパソコン教室に備品(パソコン)を整備する。	2学校のパソコン教室のパソコン整備(サーバー機1台、先生機1台、生徒機42台)	ICT機器等活用率:前年比+0.5ポイント (参考:平成25年度 小学生84.16ポイント 中学生49.56ポイント)	(スケジュール) 平成28年度:とよみ小、伊良波小 平成29年度:長嶺小、座安小 平成30年度:上田小、豊見城小 平成31年度:長嶺小、豊崎小 平成33年度までのICT活用率90ポイントとする。	
			デジタル教科書整備事業	H27	画像、音声及び動画など、マルチメディア資料を豊富に含むデジタル教科書を各小学校へ整備し、パソコン教室や電子黒板で活用するなど、学習環境の向上を図ることにより、児童生徒の学習に対する興味・関心を高める。	市内8小学校へのデジタル教科書の配備(国語、書写、社会、地図、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭科)	全国学力調査での全国平均との差 小学校4教科平均 +2.0ポイント(維持) H26年の差+1.9ポイント 【全国平均(66.2点) 本市(68.1点)】 中学校4教科平均-6ポイント(0.6ポイント改善) H26年の差-6.6ポイント 【全国平均(64.4点) 本市(57.8点)】	(今後の展開方針) H28:中学校のデジタル教科書整備 全国平均との差を小学校+2ポイント、中学校0ポイントとする。	
			外国人英語講師配置事業	H25 ～ H33	児童生徒の英語学習や国際理解教育の向上を図るため、外国人講師を配置する。	外国語英語教師(ALT)の配置数 外国人:4名	児童生徒の英語学習への興味・関心度 66%(アンケート対象:市内小中学校全ての児童生徒) (参考:平成25年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査 沖縄県「英語活動が好き」小中学校 約66%)	外国人英語講師を継続配置し、児童生徒の英語学習および国際理解の向上を図るとともに、県学力到達度テスト県平均±0を目指す。	
			小学校英語活動講師派遣事業	H25 ～ H33	国際化時代に対応できる人材の育成を目的に、小学校の外国語活動や総合的な学習時間に日本人英語教師を派遣する。	英語指導講師派遣校数 小学校:8校	児童の英語学習への興味・関心度75%(アンケート対象:市内小学校全ての児童) (参考:平成25年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査 沖縄県「英語活動が好き」小学校第6学年 約75%)	英語活動講師の継続派遣を行い、小学生の英語に対する興味関心を引き出すとともに、中学校進学後における県学力到達度テスト県平均±0を目指す。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

豊見城市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			児童生徒派遣費補助事業	H25 ～ H33	本市の児童生徒がスポーツ及び文化活動において、県代表として県外大会へ派遣される場合に要する旅費等の支援を行う。	県代表として県外大会へ派遣される児童生徒への支援	H27年度:370名目標 (参考:平成25年度実績276名)	(今後の展開方針) 33年度まで児童生徒の派遣費の支援を行う	
			青少年国際交流事業	H25 ～ H28	市内在住の中学生をハワイ州へ派遣し、英語環境で生活することを通して、英語に対する興味関心を更に高め、主体的、意欲的に学習する機会を提供して、次代を担う国際的な人材を育成する。	市内中学生14名をハワイ州に派遣報告会の開催(1回)	語学力向上等の興味関心度90%以上 (参考:H26「語学力の向上が図られた」93%)	(今後の展開方針) 県内で開催される国際大会(世界のウチナンチュ大会等)にボランティアとして派遣し、語学力を向上させる。	
			電子黒板整備事業	H25 ～ H27	平成25年度、26年度の普通教室、特別支援教室、及び理科等の特別教室への整備に加え、次年度増学級が見込まれる学校へ新たに電子黒板を整備する。	電子黒板12台の整備	電子黒板12台の整備完了	(今後の展開方針) 全国平均との差を小学校+2ポイント、中学校0ポイントとする。	12月変更 (事業追加)
6			文化のまちづくり推進事業	H24 ～ H28					
			文化財説明板設置事業	H24 ～ H27	本市に存する文化財に説明板を設置し、文化財に係る地域住民の理解を深め、保全を促すとともに、新たな文化、観光資源として活用を目指す。	市内文化財説明板設置 設置件数5基 ホームページを活用した文化財説明板設置個所の紹介	見学者が文化財へ訪れやすい環境の整備	(今後の展開方針) 「史跡めぐり」等行事・イベントの開催やホームページ閲覧数の向上等で周知・紹介の機会を増加させる。地域住民には文化財保全の促進を促し、観光客には新たな観光資源の提供として活用していく。	
			「しまくとぅば」普及小冊子作成事業	H27	会話や伝統行事など、日常的に使用する地域の「しまくとぅば」をまとめた小冊子を作成し、市民に配布し、豊見城市独自の「しまくとぅば」の普及促進を図る。	豊見城市の「しまくとぅば」資料収集 小冊子作製 部数15,000部 音声CD作成 数量500枚	収集した「しまくとぅば」の資料化 「しまくとぅば」の学習材整備	(今後の展開方針) 小冊子を活用し、豊見城市独自の「しまくとぅば」の普及促進を図る。児童生徒が「しまくとぅば」で日常的なあいさつ程度を理解・使用出来ることを目指す。 また、一般市民に対し、「しまくとぅば」の普及活動を推進する機運を高めていく。 (把握方法:児童生徒に理解度等に関するアンケートを実施する。一般市民に小冊子受領の動機や活用事例等のアンケートを実施する)	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

豊見城市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
		竈(饒波)修復事業	H27 ~ H28	饒波自治会より本市に「竈」の寄贈を受けたが、現状のままでは虫食いの被害が著しい状況である。そのため、保存処理及び復元等を行い、地域に根差していた、かつての葬制のあり方を後世に伝えるために展示活用を行う。	竈の防腐防虫等の保存処理1基	竈の保存処理完了により復元方法を決定	(今後の展開方針) H28:修復作業1基 H29~:豊見城市歴史民俗資料展示室で常設展示を行い、地域の民俗文化の紹介を通じて、豊見城市の観光資源の厚みにも寄与していく。	
		小中学校「空手」習得事業	H27 ~ H33	沖縄空手会館が本市に建設されることに伴い、沖縄の伝統文化である空手を習得し、演武できる児童生徒を輩出するため、市立小学校において、クラブ活動の時間に「空手」指導、中学校において、体育の授業を活用し、「空手」の指導を行う。	空手指導者の派遣 小学校8校、中学校3校	習得率(演武できる割合) 60%(習得人数/受講児童生徒数)	平成33年まで継続的に講師による授業を展開し、習得率100%を目標とし、沖縄文化を習得した人材(児童生徒)の輩出を行う。	
7		公営墓地整備事業	H27 ~ H31					
		公営墓地整備事業	H27 ~ H31	H24年度策定の「豊見城市墓地基本計画」を踏まえて、公営墓地を整備し、墓地の散在化を防止するため候補地調査を実施する。	公営墓地の候補地選定	・候補地の課題等を把握 ・平成28年度の公営墓地の形態や使用を決定する際の基礎資料を整備	(スケジュール) H28年度:公営墓地の形態や仕様の決定 H29年度:基本設計 H30年度:実施設計 H31年度:工事施工	5月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

うるま市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
1	企業誘致推進業務委託事業	H24～H33	当市への企業立地を効果的に促進するために、企業情報を収集するとともに、本県へ進出を検討している企業に対し企業誘致を働きかけていく。	企業誘致訪問件数:年間120件	目標企業誘致件数:2社以上	H24年度:2社(実績値) H25年度:6社(実績値) H26年度:2社(目標値) H28年度～H33年度 各年2社以上の誘致を目標		
	コンカレントエンジニア人材養成事業	H24～H27	企業立地を促進するためには、技術者などの人材育成が重要であることから、ものづくりに関する人材養成事業(コンカレント人材養成事業など)を実施する。	人材育成 4研修実施 ・モールドエンジニア研修(ME) ・プロジェクトマネージャー研修(PM) ・コンカレントエンジニア研修(PM) ・短期研修	金型技術者人材育成数:32名	人材育成数 H24年:59人(実績) H25年:47人(実績) H26年～H27:32人(目標) 合計:155名		
	商品開発プロモーション事業	H25～H27	市内中小企業の商品開発の強化及び販路拡大を図るため、市産品や特産品、観光土産品の物産展やPR活動を行いながら、市産品の認知度向上に努め、販路拡大・開拓につながるよう事業を実施する。また、市の農水産物を活用した商品等の開発を支援し、売上の拡大等に繋がるようプロモーション活動を実施する。	・物産展出展回数:4回 ・ネット販売調査:1回 ・商品開発にかかるワークショップ実施回数:5回 ・プロモーション関連活動数:2回	・物産展参加企業数:55社 ・物産展売上総額:1,375万円 ・商品開発:2点以上 ・商談成立:2件 ・ネット販売調査による販路開拓方法(ネット販売)の有効性の把握	今後も商品開発をした商品の売り上げにつながるような事業の展開をしていながら、うるま市の特産品の売り上げに効果があるような仕組みを構築していく。		
	EV自動車コミュニティ構築事業	H25～H27	中城湾港新港地区では、エンジニア養成事業を通じて多くの企業間の連携により小型EV自動車及びコンパクトEV車を製造するなど、新たな成果を納めている。「うるま市EVコミュニティ構築事業委員会」を設立し、EV自動車を本地域で製造・普及させるため調査を実施し、そのニーズを把握するための社会実験も合わせて実施することにより、ローカルニッチの新たなビジネスモデルの構築を目指す。	EV普及調査・啓発 EVの製造 EV社会実験の実施等	EV普及のための調査(地域社会でのEVの在り方及び、経済波及効果等の調査) 社会実験により抽出した技術課題の改善 市内の自動車関連企業等によるEV製造、実証実験、改良、普及促進等を図るEV普及促進組合(仮称)の設立を図る。	【今後の展開方針等】 本地域でEVの製造、普及を図り、経済波及効果の調査、地域でのEVのあり方を検討し、新たな産業としてEV普及、製造を促進する。		
2	うるま市地域雇用人材育成事業	H24～H33	当市の厳しい雇用情勢を踏まえ、市内における雇用及び就業機会を創出するため、未就職卒業者を含み失業者に対して、民間企業との連携による人材育成(OJT等)を実施する。また、新たに求職者向けのスキルアップ講座や経営者向けの意識改善講座などを実施し多くの失業者が就労しやすい環境を整える。	民間企業と連携による人材育成研修生の数(実人数):27人 未就労者のスキルアップ講座受講生150人 企業向け意識講座30人(経営者)	H27年度当該事業における新規雇用者数:27人 スキルアップ受講生の満足度(もしくは理解度)80%(アンケートにより把握) 企業向け意識講座受講後における年度内の従業員による離職者の割合20%以内を目標(参加経営者1社ごとに離職者がいたかを年度末アンケートにより把握)	【新規雇用者数】 H24年度:106人(実績) H25年度:100人(実績) H26年度:100人(目標) H27年度～H28年度 毎年27人程度(目標) H27年度以降については、失業者の状況等を勘案し適宜目標人数等を検討する。		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

うるま市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			街角コンタクトセンター設置運営事業	H24 ～ H33	雇用の拡大を図るため、街角コンタクトセンターを設置し、相談員による就業相談、中小企業等の事業主に対する各種支援制度の案内、求人・求職等の情報提供、就業者のスキル向上のための交流事業等を実施するとともに、FM放送局などを活用した求職情報等の発信を実施する。	相談の開設日数 240日 年間相談件数:1,500件	年間利用者数:4,600人 (H27年1月末:4,049人) 新規雇用へつながった失業者数:180人 (H25年度:189人) 失業者と企業の斡旋数:60人 (H26年度(9月開始):28人(H27年1月末時点))	ハローワーク情報端末の連携により斡旋業務の支援体制が整ったことから多くの利用者拡充に向けて広報活動を強化実施する。	
			うるま市グッジョブ連携推進事業	H25 ～ H33	将来のまちづくりの担い手となる児童生徒の勤労観・職業観と学校をはじめ地域全体の連携による雇用問題の解決や商業意識の向上を図るため、ジョブシャドウイングをはじめとするキャリア教育を実施する。	ジョブシャドウイング実施校:18校 中学1・2年生(講座等):10校 受入れ企業数:150社 出前フォーラム市内高校:7校 チャレンジJOBの実施	キャリア教育実施人数 小学6年生・中学1・2年生 約4,200人 出前フォーラム受講生徒の満足度(もしくは理解度)80%(アンケートにより把握) チャレンジJOBの実施:30人	[キャリア教育実施人数] H25年度:1,443人(実績) H26年度:4,460人(実績) H27年度～H33年度 年間4,000人程度(目標)	
3			観光商品開発流通促進事業	H24 ～ H33	地域特性や地域資源を生かした観光振興・地域活性化を図るため、修学旅行等の教育旅行のニーズにも対応しうる体験型観光メニューの開発やモニターツアー等を実施する。	新規体験型観光メニューの造成 モニターツアーの実施数:3回 WEBサイト制作	新規メニュー造成数:10種類 既存商品のブラッシュアップ数:20種類 ワンストップ予約窓口の仕組み構築	販売目標 [平成27年度] 300件 [平成28年度] 600件 [平成29年度] 1200件 [平成30～33年度] 1,500件	
			メディア活用による戦略的観光誘客促進事業	H24 ～ H28	観光地としての魅力を県外向けにPRし、効果的な観光誘客の拡大を図る。雑誌やインターネットなどのメディアを有効活用した観光情報配信等による観光誘客を実施する。	情報誌掲載:3件 うるま市観光情報フェイスブック活用 市民ライター養成講座の実施:5回 ニュースリリースによる記事掲載:20本	うるま市観光情報到達者数:100万人 フェイスブック情報発信記事数:80本 市民ライターの育成:5名	年次ごとに活用メディアの種類や活用方法について検討するとともに、コストパフォーマンスに優れた広報業務の仕組みを構築していく。 [フェイスブック登録者数] H28年度:3,000人	
			うるま発! 冬季観光誘客促進イベント創出支援事業	H25 ～ H29	冬季における新たな観光誘客を図るため、沖縄文化を象徴するチャンプルー文化を進化させ、新しい文化産業の確立を目指した、文化芸能イベント開催への支援を行う。	市内芸能団体の実施するイベント開催にかかる経費の一部支援	イベント来場者数:4,000名 (参考H25年度2,500名) うるま市外来場者:2,000人 市内芸能団体出演数:5組 (参考H25年度3組)	[平成30年度] 来場者数:5,000人	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

うるま市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			ゆいゆいウォーク事業(環金武湾ウォーキングフェスタ)	H25 ~ H33	「健康長寿」と「観光振興」を結びつけた地域活性化の観点から、県内外のウォーカーが集い交流する「環金武湾ウォーキングフェスタ」による西海岸リゾート地域との差別化を図ってきた。プロモーション等による新たな参加者を掘り起し、参加人数を増やすことにより、観光振興及び地域資源の知名度の向上を目指す。	プロモーション活動：6回 (県外2ヶ所、県内4ヶ所) ラジオ放送、新聞広告 ウォーキング大会の2日間開催	参加者2,000名	【イベント参加者数】 H25年度：1,420人(実績) H26年度：2,000人(目標) H28年度～H33年度 3,000人規模のイベントとなるよう取り組んでいく。	
			観光プロデューサー派遣事業	H26 ~ H27	観光物産振興に関する専門的な知識、企画力及び実行力を有するとともにうるま市の観光物産産業を総合的にプロデュースできる優れた人材を招聘し、観光物産振興事業の企画運営のあり方等について指導助言を実施することで、多分野にわたる観光産業の連携の強化、継続的な観光産業の拡大、地域活性化を図る。	観光プロデューサー業務 従事日数150日以上 セミナー・意見交換会等の実施回数：10回 指導助言を行う事業数：5本	セミナー・意見交換会参加者数：500名(延べ数) セミナー・意見交換会参加者アンケート：高評価者(役立つとの評価をした人)の割合80%	平成27年度までの事業効果を精査し、後年の事業展開について検討を行う。	
			うるま市新観光振興ビジョン策定事業	H27 ~ H28	沖縄県では、来訪者数が過去最高を記録しており、今後も更なる伸張が予想される。それに伴い、増加する外国人観光客への対応・観光ニーズの多様化・2020年東京オリンピック開催に伴うスポーツコンベンションの推進等、観光振興に向けて取り組むべき新たな課題も生まれている。うるま市においてもこのような外部環境を取り込み、地域としての戦略的な観光地づくりに向けた計画策定に取り組む必要がある。 本年度においては次期計画の策定にあたり、観光をめぐる情勢、沖縄県の観光を取り巻く情勢、うるま市の観光振興を取り巻く情勢について把握整理や内外の環境変化を踏まえ基礎調査を実施する。	・各種基礎調査の実施 ・観光振興に関する意見交換会の実施 ・うるま市新観光振興ビジョン検討委員会(仮称)の設立を見据えた準備委員会の開催	・各種基礎調査の完了 ・意見交換会参加者数 20人(延べ) ・準備委員会の開催回数 2回	[平成28年度] 1 追加調査の実施 2 うるま市新観光振興ビジョン策定委員会の設立・開催 3 うるま市新観光振興ビジョンの策定	10月変更(事業追加)
4			勝連城跡周辺文化観光拠点整備事業	H24 ~ H33	世界遺産として登録されている勝連城跡は、毎年多くの観光客が来場するものの、周辺施設の整備が不十分であることから観光消費及び地域活性化につながっていない状況にある。 そこで、勝連城跡の世界遺産としての価値を保全しつつ、文化を軸とした観光振興を図るため、体験・交流を含めた複合的な文化観光拠点の整備を実施する。	・不動産鑑定評価 ・物件補償等調査 ・筆界未定地境界確定 ・勝連城跡文化観光拠点複合施設整備基本構想検討(基本理念、運営方針、類似施設調査) ・勝連城跡文化観光拠点周辺環境調査(動植物及び水質等調査)	・整備予定地の不動産鑑定の完了 ・物件報償費等の算出 ・勝連城跡文化観光拠点複合施設整備の基本理念、運営方針の策定 ・勝連城跡文化観光拠点周辺における動植物及び池の活用の方針の策定	【今後の展開方針】 H28～32年度：実施設計、用地取得等 H29～33年度：工事等 H34年度：全部供用開始予定 年間訪問者数20万人を目指す。	

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

うるま市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
		市内文化財総合整備調査活用事業	H24 ～ H28	文化の薫り高いまちづくり推進のために、市内の歴史資産の環境整備を実施する。また、その整備と調査を基に活用事業を実施し、市民に対して歴史遺産への愛着心を醸成し、市民自身が歴史遺産を再評価できる環境の構築に取り組む。	市内文化財環境整備(1箇所) ・市指定文化財:犬名河(インナガー) 市内文化財周知のための企画展開催(1回) 『うるま市の文化財(仮称)』製作及び発刊(1冊)(発刊部数:500部)	市内文化財周知のための企画展入場者数:7,000人 (基準値:H26年 5,303人 (類似文化関連展示会参考))	(今後の展開方針) 市内文化財の環境整備 H28年度:大田坂 企画展の実施	
		南風原文書整理翻刻事業	H24 ～ H28	当市の文化振興、人材育成を図るため、「南風原文書」等の整理、修復及び翻刻等を行い、生涯学習や学校教育の郷土学習教材として提供する。	南風原文書の整理、翻刻作業(総事業量に対する達成率80%) 南風原戦後資料関連企画展の開催(1回) 南風原文書整理翻刻事業報告書の発刊(2冊)(発刊部数:各200部)	企画展入場者数:450人 (基準値 H26年度実績値:397人)	(今後の展開方針) 南風原文書の整理、翻刻作業 ガイドブックの作成 企画展の実施	
		景観調査活用事業	H24 ～ H27	勝連城跡及びその周辺の自然・民俗文化財、具志川及び照間のい草水田、海中道路とその周辺の干潟に依存する生業・伝統行事・生物等を記録・保存し、郷土教育や観光案内に活用できる資料を発刊・提供することにより、教育及び観光の振興を図る。	企画展・総合学習等の開催(25回) 報告書等の発刊(2冊)(発刊部数:200部)	企画展入場者数:16,000人 (基準値 H26年度実績値14,000人) 学校教育に係る入場者数:700人 (基準値 H26年度実績値:500人) 生涯学習に係る入場者数:300人 (基準値 H26年度実績値:200人)	(今後の展開方針) 企画展・総合学習等の開催	
		新沖縄型エンターテインメント事業	H24 ～ H33	沖縄の結婚式で行なわれる「ニーピチ余興」は、ダンスやショートコント、合唱、寸劇、舞踊など様々なジャンルがあり、非常にユニークな取り組みが多い。「ニーピチ余興」は沖縄独自のコンテンツであることから、「ニーピチ余興」をキラーコンテンツとしつつ、うるま市独自の伝統文化芸能コンテンツや、うるま市在住のアーティスト等によるライブイベント等を組み合わせ新たな複合イベントを実施し、観光誘客に取り組む。	本イベント開催:1回(2日間) 県内各地での予選会開催:3回	イベント参加者(予選会へのエントリー数):200名 (H25年度:126人) 来場者数:2000人	「ニーピチ余興王」選手権に加え、うるま市独自の伝統文化を活用したコンテストの実施や、観客参加型イベントを併せて実施するなど、更なる「うるま」発のイベントとしてブラッシュアップを図る。	
		文化財標柱等設置事業	H24 ～ H27	市内の文化財・旧跡等に標柱等を設置し、市民・観光客が広く活用しやすい環境を作る。	文化財標柱等新規設置数(20箇所程度)	標柱整備率:100%	(今後の展開方針) 市内文化財・旧跡等に関する情報発信	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

うるま市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
		生涯学習・文化振興拠点整備事業	H24 ～ H28	当市には、エイサーをはじめ、闘牛、ウステーク、獅子舞、豊年祭など多種多様な伝統文化・行事が残されている。それらは、「うるま市ならではの」地域資源である。それらを活用した文化振興及び生涯学習を振興するための拠点施設を整備する。	生涯学習・文化振興拠点施設の本体建築工事着手	生涯学習・文化振興拠点施設の本体建築工事完成	(今後の展開方針) H28年度:施設機器・外構工事 H29年度:供用開始	5月変更 (事業追加)
5		沖縄らしい風景づくり推進事業	H24 ～ H33	当市の多彩で美しい景観・風景を守り、潤いと癒しのある住みよい住環境の保全・創造を図るため、市内1地区について景観地区の指定、その指定に向けた地域検討会の開催や景観地視察、他市内1地区についてまちなみ景観形成に関する助成事業を実施する。	景観地区等の指定に向けた地域説明会の開催(浜比嘉地区:3回程度) 景観まちなみ助成に関する広報周知 ・広報誌掲載(1回) ・ホームページへの掲載(随時) ・窓口での周知(随時) ・自治会への説明会の開催(1回) まちなみ景観助成	住民向けかわら版の作成・配布(浜比嘉地区300部) 景観地区の指定に関する区域及び行為の制限の設定(浜比嘉地区) まちなみ景観助成(南風原地区:5件)	(景観地区等の指定) H28年度:景観地区等の指定(浜比嘉地区) H29～33年度:景観地区等の指定候補地の選定及び景観地区等の指定に向けた取組の実施(まちなみ景観助成) H28年度:南風原地区 H29～33年度:南風原地区及び他地区(景観重点地区)	
6		島アートプロジェクト事業	H24 ～ H33	島の良さを再発見し、ゆったりとした島の空間を楽しんでもらう新たな観光スタイルの創出と島独自の地域活性化を図るため、若手芸術家や美術家、そして地元住民とのワークショップを開催し、アート(造形物、オブジェ、美術など)による島おこしを実施する。 本年度度は展示会方式ではなく、既存及び新設の屋外アートと融合したイベントを創出する。	屋外アート作品の新規設置:7件 アートイベント実施:1回	来場者数:8,000人(16日開催予定) (H26年度:21,511人(53日開催)) イベント来場者の満足度:70% (アンケートにより)	島しょ地域産品の物販等、地域経済の発展に寄与するイベントとすることを常に念頭に置くとともに、地域住民との意見交換をとおし、住民参加型のイベントとして更なるブラッシュアップを図っていく。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

うるま市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考		
パ	細				H27事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等	補足説明等
			津堅・島おこし支援事業	H24 ～ H27	津堅島において、安心して暮らせる島づくりを推進するために策定した「H24年度島おこし支援事業報告書」に盛り込まれた施策案をフォローアップ事業として着実に実施し、地域資源を活用した島民主体の地域おこしに繋げていく仕掛けづくりとサポートを推進する。 H27年度は、津堅ツーリズムの推進(民泊研修、ガイド養成等)や清掃活動イベントの開催等を実施し、事業の総括及び効果等の検証を行う。 また、フォローアップ事業の終了後も、住民が主体となって地域活性化に資する活動が継続できるように組織の結成を支援する。組織の結成については、津堅島祭り(仮称)のイベントを実施し、そのイベントを通して住民活動組織の結成を図る。	・住民WSや民泊講習会等の開催(3～4回) ・地域住民・行政が一体となった清掃活動イベントの開催 ・津堅島祭り(仮称)の実施に向けた調整及び準備	・住民WSや講習会等への参加人数：延べ45人(H25年度 延べ72人(5回開催)) ・清掃活動イベントへの参加人数：150人(H25年度 150人) ・島の活性化を目的に活動する住民組織の結成	・民泊事業の推進 ・地域の環境美化活動の推進 ・住民主体の活動組織を中心とした地域活性化に資する活動の展開	12月変更(計画変更に伴う事業内容、各目標変更)	
7			農水産業振興戦略構築及び拠点施設整備事業	H24 ～ H28	当市は第1次産業が盛んな地域である。地域特性を發揮し、農水産業の6次産業化を推進するため、マーケットや複合施設の運営等に精通している民間事業者等と連携し、農水産業の戦略的展開を構築するとともに、豊かな農水産物の加工・流通施設、直売所及びレストラン等を併せ持つ複合施設を整備する。	用地取得着手 1,754㎡	用地取得完了	H28年度 建物建設及び外構工事 事業運営者選定 H29年度：供用開始 年間集客者数：69万人	5月変更(事業追加)	
			照間ピーグ活性化プロジェクト事業	H26 ～ H28	生産農家の高齢化による農家数の減少や後継者不足の課題に対し、後継者や担い手等にとって魅力ある産業を目指し、照間ピーグ(い草)ブランドの周知や生産農家の意識向上と高収益商品の開発を生産者と協働で実施していく。	・新商品の製品化 雑貨類・食品類から2種類以上を作成 ・テストマーケティングの実施 (県内・県外各1回)200件 ・ワークショップ開催(3回) ・ブランド構築のための配信ツール開発、及びテスト発信(3回)	・新商品の製品化件数：3アイテム以上 ・テストマーケティングにおけるアンケート分析結果による販路開拓方法の選定	平成28年度 ・持続可能な取組構築 ・多面的機能の創出		
			うるま市農業振興ビジョン策定事業	H27 ～ H28	うるま市は、県内において農業が盛んな地域であるが、その生産高・就農者数は年々減少している。その現状を踏まえて、「市の魅力が生きた農業」を目標とし、その実現に向け農家・農業関係者・市民等による取組を推進するために、同ビジョンを整備する。	ビジョン策定に向けた現状分析及び重点課題の抽出、関係機関・部会等へのヒアリング及び農家へのアンケート調査等の実施。	うるま市の農業の現状と課題の把握	平成28年度：調査によって挙げた課題の解決やこれからの農業振興についての目標を設定し、ビジョンとして策定する。		

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

うるま市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
		肉用牛生産拡大強化事業	H26 ~ H28	市内肉用牛生産農家の所得向上と畜産業振興を図るため、優良繁殖雌牛の導入支援を行う。	年間140頭の優良母牛候補牛導入	・年間140頭の優良母牛候補牛導入 ・予定導入率の70%を目標とする	(今後の展開)平成26年度～平成28年度にかけて400頭の優良母牛候補牛を導入予定	5月変更(事業追加)
8		小学校外国人英語助手派遣事業	H24 ~ H33	国際性豊かな地域振興に向け、国際的視野を持ち外国語によるコミュニケーション能力を備えた人材育成を図るため、小学校に外国人英語助手の派遣を実施する。	英語指導助手配置数 10人	「英語が楽しい」と回答した児童生徒の割合：70%（児童へのアンケートによる）	(今後の展開方針) 平成27年度～平成33年度：英語指導助手配置数 10人（市内小学校(18校)を10人で巡回指導を実施。） 英語助手の研修会を充実させ、指導法の統一を行い、児童に対しての授業の機会均等、異文化理解を図る。	
		中学校外国人英語助手派遣事業	H24 ~ H33	国際性豊かな地域振興に向け、国際的視野を持ち外国語によるコミュニケーション能力を備えた人材育成を図るため、中学校に外国人英語助手の派遣を実施する。	英語指導助手配置数 6人	実用英語技能検定5級～準2級合格者180名以上 (H25年度 合格者数 393人)	(今後の展開方針) 平成27年度～平成33年度：英語指導助手配置数 6人（市内中学校(10校)を6人で巡回指導を実施。） 生徒が自らの考えを表現する機会を提供するとともに、英語助手とのコミュニケーションが円滑に行われるような活動を奨励する。	
9		小学校学力向上対策推進事業	H24 ~ H33	小学校児童に対して、基礎学力の向上を図るため、学習支援員を配置し学習支援を実施する。	学習支援員配置数 33人	沖縄県学力向上到達度調査算数・国語の平均正答率30%未満児童の割合 3年 県平均 -2.0 5年 県平均 -2.0 (基準値：24年度 3年生-0.7 5年生-1.7%)	(今後の展開方針) 平成27年度～平成33年度：学習支援員配置数 33人（市内全小学校へ各2名配置(彩橋小学校除く)） 児童の基礎基本の定着に効果のある取り組みの共有化を図る等、支援員の研修内容を工夫し、指導に活かすことで更なる学力向上を目指す。	

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

うるま市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			中学校学力向上対策推進事業	H24 ～ H33	中学校の生徒に対して、学習の基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着等を図るため、学習支援員を配置し、学習支援を実施する。	学習支援員配置数 17人	沖縄県の平均点との差(中2数学 沖縄県到達度調査) 0 (基準値:24年度 沖縄県の平均点との差(中2数学沖縄県到達度調査 -1.6)	(今後の展開方針) 平成27年度～平成33年度:学習支援員配置数 17人 (市内全中学校へ各2名配置(彩橋中学校・津堅中学校除く)) 生徒の基礎基本の定着に効果のある取り組みの共有化を図る等、支援員の研修内容を工夫し、指導に活かすことで更なる学力向上を目指す。	
			ICTを活用した学習支援・人材育成事業	H26 ～ H29	ICT機器(電子黒板等)を市内小中学校の全教室(403教室)へ設置することにより、ICT機器を活用した授業の頻度を高め、児童生徒の高度情報化社会に対応できる情報活用能力・コミュニケーション能力の育成を目指す。	ICT支援員 2人	・電子黒板の一台あたり使用時間数: 小学校 180時間/年 中学校 70時間/年	(今後の展開方針) 平成27年度～平成29年度:ICT支援員配置数 2人 小中学校へのICT支援員の派遣により、ICT機器を活用した授業構築を支援し児童生徒の情報活用能力の育成を図る	
10			配慮を要する子巡回指導事業	H24 ～ H33	公立・法人・認可外保育施設における「配慮を要する子」への保育の充実ときめ細かい対応を図るため、臨床心理士・認定心理士・保健師等の専門指導員を配置し、保育施設職員に対して、保育等に関する技術的助言・支援を行う。 また、各保育施設の保育の質の向上のため、巡回指導・園訪問と合わせて保育施設職員を対象に研修を企画・実施する。	・巡回指導対象保育施設件数 公立:5ヶ所 法人:26ヶ所 認可外:32ヶ所 ・保育施設職員を対象とした研修会 年4回開催	・巡回指導実施施設数(延数) 50件 (平成25年度 35件) ・園訪問(延数) 120園(平成25年度 56園) ・保育施設職員研修における理解度 85% (平成26年度 97%)	H28～33年度 ・巡回指導実施施設数(延数) 各年度 50件 累計 300件 ・園訪問(延数) 各年度 120園 累計 720園	
			放課後児童クラブ支援事業	H24 ～ H28	学童クラブの運営に関する専門員と保育に関する専門員を担当課に配置し、学童クラブへの訪問指導や指導員の研修などを実施することにより、放課後児童クラブ運営の適正化と指導員の資質向上を図る。	学童クラブ訪問指導員の配置 2人 学童クラブ訪問指導回数 180回 学童クラブ指導員等研修会 5回	放課後児童クラブ指導員等研修 参加人数 300人	今後も訪問指導、研修会の充実を図り「安心して子育てができる環境整備」を図る。 上記事業により、学童クラブへの加入児童数の増加を図る。 平成23年度:950名 平成24年度:1,336名 平成25年度:1,350名 平成26年度:1,400名 平成27年度:1,450名	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

うるま市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			母子家庭生活支援モデル事業	H25 ～ H29	支援が必要な母子家庭の中でも自立する意欲のある家庭に対し、民間アパート等の居室を提供するとともに、就労や児童の学習支援等を実施し、自立に向けた支援を行う。 また、各支援世帯に合った、より細やかな支援計画を作成し、支援の充実を図る。	借り上げ居室部屋数(10部屋) 就労スキルアップ講座開催数(24回) 就労訓練講座への参加人数(2名) 入居者児童学習支援回数(194回)	支援全般に対する満足度(70%) 就労に繋がる資格等取得者数(4名) 学習支援の充実度(70%) (指標の説明) 満足度、充実度については、対象者へのアンケート調査により把握する。	事業を実施していく中で、入居世帯の個別のニーズにあった支援の拡充を図っていく。 県母連やハローワークとも連携し、早期自立へ向けた支援を行う。	
11			中学校教育指導推進事業	H24 ～ H28	教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識や技術を有するスクールソーシャルワーカーを活用し、問題を抱えた生徒に対し、当該生徒が置かれた環境へ働きかけたり、関係機関等とのネットワークを活用したりするなど、多様な支援方法を用いて課題解決への対応を図っていく。	スクールソーシャルワーカー配置数 4人	問題を抱える生徒に対する相談及び支援の件数 2,000件	(今後の展開方針) 平成26～33年度:スクールソーシャルワーカー 4人配置 関係者のSSWに対する認識を深め、連携を行い、生徒への効果的な支援を行う。	
			教育相談事業	H24 ～ H28	教育相談室に嘱託員を配置し、幼児・児童・生徒の不登校や、教師・保護者の教育上の問題や悩み相談に応じ支援する。	教育相談員配置数(8人)	教育相談の目標の件数(1,500件) 基準値 H25年度実績値 1,665件 内訳 来室相談 1,040件 学校訪問相談 625件	(今後の展開方針) ・学校訪問相談の充実を図り、早い段階で相談へ繋ぐことができる体制を作る。 ・多様な相談に対応するため、専門知識のある相談員とチームで対応する。	
			適応指導教室事業	H24 ～ H28	うるま市立小・中学校に在籍する心理的・情緒的要因による不登校児童生徒に対して、個々の状態に応じた指導支援を行い、人間関係の改善を図るとともに、自立心を高め社会性を身につけさせ、学校適応を促進するため、適応指導教室を実施し支援する。	適応指導教室指導員配置数(3人)	・チャレンジ登校の目標割合(60%) 基準値 H25年度実績値 43%(3/7人) ・中学3年生の卒業後の進路支援(進学・就職)や関係機関への引き継ぎの目標割合(100%) 基準値 H25年度 中学3年生4人中4人進学 参考 H26年度 中学3年生8人 12月現在の希望進路 進学4人、就職2人、未定2人	(今後の展開方針) ・原籍校や教育相談員とのケース会議を定例化し、個々の状態に応じた支援方法の検討と共通理解を図り、学校復帰や卒業後の進路に向けて支援する。 (チャレンジ登校とは) 学校への登校復帰へ向けて、登校する時間、居場所、対応する教諭等、児童生徒の状況に配慮して段階的に行う支援	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

うるま市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	H27事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
パ 細								
12		うるま市自主防災組織資機材整備事業	H25 ~ H33	当市の自主防災組織活動カバー率は全国平均80.0%に対し、28.4%であり、全国でも低水準となっていることから防災体制の充実を図る必要がある。市民や地理的情報に乏しい観光客の避難・支援情報提供所としても機能する自主防災組織に対し資機材整備等の支援を実施する。	新たに結成された自主防災組織に対する防災資機材整備補助実施(7団体)	新たに結成された自主防災組織に対する防災資機材整備完了(7団体)	(今後の展開方針) 平成28年度以降:継続して自主防災組織の結成を推進し、各年度において、3団体程度の自主防災組織を結成し、防災資機材を整備する。	7月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

宮古島市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1		災害に強い島づくり事業	H24 ～ H27					
1		池間地区防災センター整備事業	H26 ～ H27	海沿いに面した海拔の低い池間地区に避難施設を整備することにより、津波や風水害等の災害時において地域住民の避難場所を確保する。	・池間地区防災センター建築工事の実施 (RC構造2階建て)	・災害時における市民や観光客の避難場所確保 (池間地区防災センター完成)	・訓練や防災に関する講習会を実施する。	
1		緊急物資備蓄事業	H24 ～ H27	被災時の市民生活を支援するため、緊急物資の備蓄を行う。	非常食・飲料水等の備蓄 ・非常食:7,220食分 ・飲料水:1,100L(2L 550本)	・食料備蓄率 100% 【備蓄目標27,500食、備蓄済20,280食(約74%)】 ・飲料水備蓄率 100% 【備蓄目標5,492L、備蓄済4,392L(約80%)】	食品については賞味期限に注意し、訓練、講習会等で利用しながら防災教育、防災意識向上に役立てて災害に備えていく。	10月変更 (事業追加)
2		観光拠点強化事業	H24 ～ H33					
2		宮古島市neo歴史文化ロード整備事業	H24 ～ H33	現在、平良地区に展開している歴史文化ロード「綾道(あやんつ)」を拠点とし、旧市町村の各地域に所在する「宮古島らしさ」に特化した文化財を中心とする散策コース等の整備を行い、伝説と民話に彩られたロマン溢れる「宮古島特異の歴史と文化」を巡る新たな観光資源の一つとして広く活用する。	・綾道～戦争遺跡コース～の策定 / 1コース ・宮古島市文化財WEB公開システム追加更新 / 1コース分 ・コースマップパンフレットデザイン及び印刷製本 / 12,000部 ・無形民俗文化財資料製作 / 13着 ・案内板・標柱等の設置 / 10箇所 ・毀損物件の復元等(2物件) ・映像資料の制作 / 15件	・新規コース「綾道～戦争遺跡コース～」策定 / (1件/年) ・文化財WEB公開システム閲覧数(5,000アクセス/年) ・案内板及び標柱等の設置(御嶽・戦跡含む) / パンフレットと連動した現地散策が可能 ・パンフレットの作成配布 / 現地案内板及びQRコードと連動した現地散策が可能 ・無形民俗文化財資料の製作 / クイチャーフェスティバル等芸能大会での着用により公開活用 ・毀損物件の復元等完了 / 2物件 ・映像資料の完成 / 15件	・ポータルサイトを核とした情報発信機能の促進と、連動するアプリケーションによる個人観光客層への公開活用。 ・物件整備については、史跡等の毀損物件を中心に復元を行う。	10月変更 (計画変更に伴う各目標変更)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

宮古島市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
2	与那覇湾環境総合整備事業	H24～H33	ラムサール条約に登録された与那覇湾について、豊かな干潟生態系の保全・再生や周辺環境の利活用による「交流・学習」の推進に向け、基本計画に基づいた整備を実施する。	・崎田川親水性向上改良工事(2号石積14㎡・遊歩道29㎡) ・石積突堤改修工事(101.2㎡) ・与那覇湾紹介看板設置業務(1カ所)	・親水性向上改良工事:進捗率100%。(全体151㎡、整備済108㎡) ・石積突堤工事:進捗率100%。(全体101.2㎡) ・看板設置により、与那覇湾の環境についての周知を図る。	・測量設計に基づき、引き続き遊歩道を整備する。 ・自然学習観察館設置向け候補予定地より決定をし、内部展示設備や観察設備、運営体制等の充実を行い、市民や観光客の利用拡大を図る。	10月変更(計画変更に伴う事業内容、各目標変更)	
2	伊良部地区観光地整備総合計画策定委託事業	H27	伊良部大橋開通後の観光資源を最大限に活用するため、牧山公園整備計画を含む伊良部地区の観光地に係る総合的な整備計画を策定する。	・伊良部地区観光地整備総合計画の策定	・伊良部地区の観光資源の現状を把握。	・策定された整備計画に基づいて伊良部地区の観光地を整備する。		
2	スポーツ観光交流拠点整備事業	H24～H28	年間を通して、軽スポーツが楽しめ、地域の伝統文化に親しむことができる全天候型のスポーツ・伝統文化交流拠点施設を整備する。	・スポーツ観光交流拠点施設整備(建築工事・電気設備工事・機械設備工事) 【施設面積】建築面積:5,912㎡、延べ床面積:5,847㎡ ・施設建設工事監理委託業務 ・進入路整備工事 ・現場技術管理	施設整備1期工事分の完了 建築工事:躯体工事完了、鉄骨・屋根材等発注(進捗率70%)を目標 電気設備:建築工事1期分に係る整備(進捗率60%)を目標 機械設備:建築工事1期分に係る整備(進捗率50%)を目標 進入路整備の完了	平成28年度で全ての整備工事を完了し、平成29年4月供用開始を目標とする。 平成28年度は供用開始準備、運営実施体制づくりを進める	5月変更(事業追加) 12月変更(計画変更に伴う各目標変更)	
3	観光地の緑化美化・景観向上事業	H24～H33						
3	観光地アクセス道路環境美化強化事業	H24～H33	美しい島づくりを推進するため、観光地へのアクセス道路の環境美化を図る。	・観光アクセス道路の環境美化作業実施(33路線)	・観光客の受入体制の整備 ・観光アクセス道路の環境美化路線数:33路線	観光地アクセス道路環境の美化強化のため、引き続き取り組みを実施する。		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの、
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

宮古島市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
3	観光地公園環境美化強化事業	H24 ～ H33	美しい島づくりを推進するため、観光地として利用されている公園の環境美化を図る。	・観光地公園の環境美化作業実施対象公園12箇所 定期的美化作業：年4回～年12回(月1程度)を目標	・公園美化により観光客の受入体制の整備を図る ・市民の緑化美化意識の高揚	観光地公園環境の美化強化の為、引き続き取組を実施する。		
4	観光誘客促進事業	H24 ～ H29						
4	宮古島フラダンス全国大会支援事業	H25 ～ H29	現在フラダンスは全国に100万人の愛好家が存在しており、フラダンスの全国大会を宮古島市で開催することにより、観光客の誘致拡大や、地域経済の活性化に寄与する。	カギマナフラin宮古島2015の開催 奉納舞(奉納祈願祭)・ホイケ・ワークショップ・コンペティション(大会)・後夜祭 告知宣伝 パネル展示及び大会ビデオ上映・告知イベント	・来場者数：4,500人(2日間)	誘客促進活動を強化することで、観光振興を図っていく。		
5	エコアイランド宮古島形成事業	H24 ～ H28						
5	バイオエタノール高効率製造・流通事業	H24 ～ H28	当市の基幹作物であるサトウキビのカスケード利用を通じた循環型社会の構築及び沖縄産バイオエタノールの事業化を目指して以下の事業を実施する。 ・バイオエタノールの高効率製造事業 ・バイオ燃料の流通安定化検証 ・付加価値の高いバイオエタノールの用途開発等調査	・事業性評価と見直し ・バイオ燃料の流通安定化検証	・バイオエタノールの製造(50k /年) ・総合的なバイオエタノール製造コストの採算性向上	H28年度：商業生産への準備		

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

宮古島市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業名			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
5		「エコアイランド宮古島」推進事業	H27	「エコアイランド宮古島」を掲げ、島嶼型低炭素社会の島づくりに取り組む本市において、「エコアイランド宮古島周遊エコツアー整備事業」により建設した、エコパーク宮古(エコアイランドPR館)を活用した市民参加型のイベントを開催し、今後のエコアイランド宮古島の推進に向け、市民の意識の高揚に繋げ、島外への情報の発信を行う。	・島内の児童・生徒を含めた市民が参加するイベント等を開催する事で、市民の「エコアイランド宮古島」の取組について認識を深める。(イベント等2回開催) ・イベント等の様子を、各種マスメディア等(地元新聞2社、CATV1社、ラジオ局1社、市ホームページ等)を通じ島外への情報発信を行う。	・イベント等の開催による、市民への「エコアイランド宮古島」に対する意識の高揚に繋げる。 ・島外、及び県外への情報発信による「エコアイランド宮古島」の周知。 ・目標としては、開催するイベント等への参加者を300名とする。	「エコアイランド宮古島」に向けた取組を進めるため、市民参加型のイベントを開催することで、市民の意識の高揚に繋げるとともに、島外への情報発信を行う。	
6		農林水産業活性化事業	H24 ~ H33					
6		生鮮水産物流通条件不利性解消事業	H25 ~ H33	離島という地理的事情から生じる流通条件の不利性を解消し、水産業の活性化を図るため、宮古島市に存する漁業協同組合(宮古島漁業協同組合、伊良部漁業協同組合、池間漁業協同組合)が沖縄本島へ出荷する生鮮水産物の空路輸送に対し支援をする。	・生鮮水産物の沖縄本島出荷に対する支援	・生鮮水産物の沖縄本島への出荷:260トン <基準年数量:250トン(H23)>	沖縄本島への出荷量の増加 H33年目標:280トン	
6		宮古島市海業センター整備事業	H24 ~ H29	水産業の振興に向け、安定的な種苗生産供給体制や養殖業の生産性向上の支援を図るため、その拠点となる海業センターの機能強化を図る。	・取水施設建築工事の実施 (RC構造1階建・A=25㎡)	・H28年度に行う取水管設置工事に向けた着実な事業の実施 (取水施設の完成)	・H28取水管設置工事、研修施設建設 ・H29水槽建築工事・太陽光発電設置工事	5月変更 (事業追加)
7		人材育成強化事業	H24 ~ H33					
7		スクールソーシャルワーカー活用事業	H24 ~ H33	本市児童生徒の個々に応じた支援の充実に向けて、スクールソーシャルワーカーを教育委員会に配置し、学校からの要請に応じて学校及び対象児童生徒宅などを訪問し、保護者を交えた相談活動を通してニーズを把握した上で、学校、関係機関、地域の協力者と連携・協働しながら、児童生徒の生活環境改善のための適切な支援を行う。	・スクールソーシャルワーカーの配置 (要請に応じ校区別担当校に派遣) 教育委員会学校教育課:6人	学校、関係機関等との連携による児童生徒の生活環境改善	(今後の展開方針) 支援の早期対応、早期解決を目指し、定期的な連絡協議会の開催と、組織内の円滑な支援及び連携体制の構築を図る。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

宮古島市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
7			問題行動等学習支援者配置事業	H24 ～ H33	本市の不良行為や不登校等の問題を抱えた児童生徒への適切な指導・支援の取り組み強化に向けて、問題行動等学習支援者を対象児童生徒の在籍する学校に配置する。	・問題行動学習支援者の配置 中学校3人	生徒指導及び学習支援を行い、生活及び学習環境改善に繋げる	(今後の展開方針) 対象生徒を取り巻く環境整備に努め、校内体制の構築、学習支援等の個別計画をもとに支援活動にあたる。	
7			選手派遣補助金交付事業	H24 ～ H33	スポーツ、文化活動など、地区選抜代表選手として、県大会や全国大会へ派遣される児童生徒の旅費を支援することで、島嶼島の離島であるという地域ハンデを是正し、自ら学ぶ意欲の高揚を図る。	・児童生徒の大会派遣(県内・県外)	大会等派遣児童生徒数 小学校 769人 中学校 1,175人	(今後の展開方針) 大会等派遣生徒数 H24年度～H33年度 各年度:1,944人 累計:19,491人	
8			文化振興事業	H24 ～ H28					
8			博物館収蔵品目録等作成事業	H24 ～ H28	本市の博物館には、約8,000点に及ぶ資料が収蔵されており、これらの幅広い活用を図るため、収蔵資料を整理し、データベース化、デジタル化及び図録等を作成し、貴重な資料の半永久的な保存と、情報の共有化を図る。	・「宮古島市の民俗資料編」の目録等の作成(300部)及びデータベース化	・目録作成・データ整備率80%	(今後の展開方針等) H28:宮古島市美術・工芸編の目録等の作成(製本)300部	
9			健康長寿に向けた若い世代における食育事業	H27					
9			健康長寿に向けた若い世代における食育事業	H27	直感的に学べる体験型栄養教育教材「食育SATシステム」を活用した幼児期、学童期、青年期等若い世代における食育事業を展開し、正しい食習慣の確立をめざし本市の肥満率軽減を図る。	・食育SATシステムの購入 ・幼稚園での親子食育指導(約300人)	園児親子指導 約300人 正しい食習慣の理解 300人中240人(8割)	幼稚園、小中学校全校、若者層団体、特定保健指導等5年間で4千人余の指導を目標。最終年度に指導した4千人余の内食習慣改善80%、若年層の肥満率1%減少を図る。	10月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

南城市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			世界遺産「斎場御嶽」周辺整備事業	H24 ~ H27	世界遺産「斎場御嶽」周辺地は琉球王国時代の歴史的遺産を今日まで残す貴重な地域であるが、一部石畳参道が大雨による影響で崩壊し危険な状況である。そのため本事業により石畳参道やウロカーとよばれる拝所等を整備し広く一般公開することにより、世界遺産「斎場御嶽」の更なる魅力を伝え、観光客等誘客促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 石畳参道整備 L=96.5m 木製階段設置 L=55m サイン設置 8基 概要版冊子 10,000冊 	国の重要文化財(史跡、戦争遺跡)指定に向けた復元整備	事業終了後は、琉球王国時代のウロカーや石畳参道、戦争遺跡を世界遺産「斎場御嶽」の周辺巡検ルートとして公開し、歴史・平和学習の場として活用を図る。また、当文化財を国指定史跡への追加指定を目指す。	
			スポーツツーリズム推進事業	H24 ~ H30	本市陸上競技場は、スポーツキャンプ等が数多く開催されており、観光客等の誘客促進及び青少年の健全育成を図るため、天然芝の良質な状態を保持・管理する人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 芝生管理人の雇用(1人) 芝生管理に精通した人材の育成 良質な状態での芝生の維持管理 	サッカーキャンプ等の受け入れ (3チーム)	芝生管理人を継続雇用しながら、芝生を良質な状態で維持管理していき、引き続きプロサッカーチームのキャンプを受け入れていく。プロサッカーチームのキャンプ等の受入を継続していくことにより、観光の閑散期である冬場に市内の宿泊施設などの利用増が見込まれる。	
			観光交流サイン整備事業	H25 ~ H29	来訪者にとってわかりやすい誘導案内や周辺案内、解説板、名称板等のサインを整備することにより、スムーズな案内誘導を進めるとともに都市景観の向上や、歴史文化遺産の顕在化と魅力の充実、市民と来訪者との交流促進、観光の振興を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 道路愛称板の設置工事:10箇所 観光等誘導案内板の整備:10箇所 (集落域文化遺産サイン整備事業) サイン整備調査委託業務完了:15箇所 サイン設置工事完了:2箇所 	<ul style="list-style-type: none"> (道路愛称版の設置) 来訪者の円滑な誘導に資する。 (観光等誘導看板の設置) カーナビゲーションの情報に頼らない景観に配慮した情報を配信することにより来訪者に対するサービスの向上が図られる。 (集落域文化遺産サイン整備事業) 来訪者の文化遺産への理解や到達の利便性の向上 地域住民の地元にある歴史文化遺産の再認識、活用 市民と来訪者の歴史文化遺産を通しての交流促進 	(今後の展開) 集落文化遺産サイン整備 H28年度~H29年度:整備計画に基づき、集落単位でサイン整備を行う。 サイン整備により来訪者の利便性を高めるとともに、同時に整備を通じて住民自らが地元の歴史や文化遺産を再発見し、次世代へ伝えていく。	
			デマンド交通実証実験事業	H24 ~ H27	デマンド交通の運行実施計画案(H24策定)に沿って、試験運行(H25~H27年度)を実施しながら、必要車両台数、運行時間の分析と既存交通機関との連携等について検討し、南城市型の交通システムの確立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通会議の開催:3回 実証実験実施(有償運行) 運行期間:H27.4~H28.3 利用者アンケート等による検証 	<ul style="list-style-type: none"> 乗車人数(1日):100人 運行時間や必要車両台数など、本格運行に向けた運行形態の把握 	H28年度:実証結果に基づき本格運行を実施	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

南城市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			尚巴志活用マスタープラン実施事業	H26 ~ H30	平成25年度で策定された「尚巴志活用マスタープラン」を実施する事業である。尚巴志の普及、尚巴志スピリットの育成、エコミュージアムの基礎を築き、文化資源を活用した観光振興、地域振興を図っていく。	<ul style="list-style-type: none"> 1. 尚巴志の普及・啓発・情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・「紙芝居学校アウトリーチ」市内小学校9校(各1回) ・「文化講演会」1回 ・「尚巴志の絵本制作・刊行」 2. 地域興しの人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ・「尚巴志の語り部育成事業」ワークショップ7回 3. エコミュージアムの創造 <ul style="list-style-type: none"> ・「グスク巡りコンサート」市内国指定史跡4箇所(各1回) ・「地域孫会議事業」市内国指定史跡所在地区公民館4箇所(各1回) ・「琉歌募集事業」市内中学校5校(16回) 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 尚巴志の普及・啓発・情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・「紙芝居学校アウトリーチ」市内小学校9校4年生:460名(久高小は全児童) ・「文化講演会」 ・目標客数:100名 2. 地域興しの人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ・「尚巴志の絵本制作・刊行」完了 ・「尚巴志の語り部育成事業」 ・参加者10名 3. エコミュージアムの創造 <ul style="list-style-type: none"> ・「グスク巡りコンサート」 ・合計観客動員数:200名 ・「地域孫会議事業」 ・参加者30名 ・琉歌募集事業 ・応募者数:150首 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 尚巴志の普及・啓発・情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・H28~30年度:尚巴志グッズの開発、尚巴志副読本の発刊、尚巴志まつりの実施 2. 地域興しの人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ・H28~30年度:海外派遣、地域デザインと人材配置、実践事業 3. エコミュージアムの創造 <ul style="list-style-type: none"> ・H28~30年度:デジタルミュージアム作成、マーケティング <p>H30年度事業完了時、「尚巴志」への認知度・愛着が高まり共通の知識を獲得、市民それぞれが情報を発信していくことで南城市の知名度がアップ、人気が高まり観光客が増える見込み。</p>	10月変更 (計画変更に伴う各目標変更)
			観光振興将来拠点整備事業	H25 ~ H29	本県南部地域及び本市の体験交流・滞在型観光の促進等、新たな観光振興に向け、空港や沖縄自動車道、那覇市からの交通アクセスが大きく改善される南部東道路IC周辺地において、公共駐車場や観光情報施設、台風等の災害時における、観光外来者等の避難の為に防災センターの整備を行うと共に、民間の観光施設(宿泊施設・レンタカー営業所)の誘致、各種イベント等との連携を強化し、観光交流拠点の形成を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・観光振興将来拠点整備にむけた実施設計委託業務の実施 ・観光拠点地用地取得:31,797㎡予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・H28年度の造成整備に向け実施設計の完了 ・用地取得率:92.1% (全体計画面積:71,719㎡) H25:11,148㎡、H26:23,119㎡(予定)、H27:31,797㎡(予定) 	H28年度以降に造成整備(面整備)収容台数 2,000台 事業完了後は、本市が掲げる「見る観光」から「感じる観光」への転換を目指し、事業完了年度に於ける本市主要観光施設利用者数を基本に、対前年度1%増を目指す。	12月変更 (計画変更に伴う各目標変更)
			世界遺産「斎場御嶽」ガイダンス施設整備事業	H26 ~ H27	世界遺産斎場御嶽を3Dデータとして整備し、既存施設「がんじゅう駅・南城」及び「緑の館セーフア」を活用し「斎場御嶽ガイダンス施設」として再整備する。 斎場御嶽の現状をデジタルデータ化することで、斎場御嶽へ入域出来ない観光客へのサービスの向上と災害時の復旧に寄与する。又、歴史的な背景をビジュアル的に演出することにより、斎場御嶽にまつわる伝説や信仰を、“ものがたる”ことによって、本市を起点とする県域観光の促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・備品購入の実施 固定式 <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター3台、スクリーン3機、音響機器3式、パソコン3台、チェア76脚、チェアポータ3台 移動式 <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター1台、スクリーン1機、音響機器1式、パソコン1台 ・施設内装設計・工事の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備が完了し、運用を開始することにより斎場御嶽をはじめ県内世界文化遺産の文化的価値の発信力を高める体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業完了後は斎場御嶽ガイダンス施設の運営を行い、斎場御嶽の文化的価値への理解促進と斎場御嶽とともに、その舞台となった本市の美しい自然をPRすることで自然を資源とした観光促進を目指す。 	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

南城市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			地域Wifiネットワーク整備事業	H27 ~ H29	市内の観光スポットを中心に無線ネットワーク機器(アクセスポイント)を設置することで地域無線インフラの構築を行う。構築後は観光ポータルサイトの連動により観光情報の発信を強化し、外国人をはじめとした観光客の満足度及び周遊性の向上を図る。	・観光ホスピタリティの向上及び観光客の周遊性向上にむけた地域wifi整備計画の検討 ・無線アクセスポイントの整備(8ヵ所)	・地域wifi整備計画の策定 ・無線アクセスポイントの整備完了 ・観光ポータルサイトを利用した観光情報のプッシュ型配信による施設案内の充実	構築後は観光ポータルサイトとの連動により観光情報の発信を行い、斎場御嶽のみではなく、市内の観光スポット等の紹介を行うことで、外国人をはじめとした観光客の満足度及び周遊性の向上を図る。 H28年度~H29年度 ・実施計画に合わせて無線アクセスポイントの増加を行う。	
			南城市産商品販売力及び観光PR強化事業	H27 ~ H29	関東や関西の大都市圏や、国外で開催される全国物産展や祭り等で、南城市産の商品や観光資源を情報発信すると共に、プロスポーツのキャンプや公式戦誘致によるスポーツツーリズムの推進を行う。また、集客のツールとして、南城市公認キャラクターの上記物産展への同行や、南城市オリジナルノベルティグッズの制作を行い、“受け身”でなく“働き掛け”の観光客誘致活動を行なう。	・関東や関西の大都市圏で開催される全国物産展への出店(年2回以上) ・南城市ノベルティグッズの制作(年2種類以上) ・プロスポーツキャンプや公式戦の誘致活動(年1回以上)	・都市圏での物産展参加による南城市や市産商品の認知度の向上 ・オリジナルノベルティグッズを制作し、配布することにより南城市のイメージを広く・長く発信 ・プロスポーツのキャンプや公式戦誘致によるスポーツツーリズムの推進。	・観光客誘客を図るため、プロスポーツキャンプ等誘致活動を継続的に開催する。 ・29年度までにプロスポーツキャンプ等の受入実績の増加を目指す。(1件(基準年度:26年度) 6件)	
			観光交流・防災機能拠点整備事業(ムラヤー構想)	H25 ~ H28	住民と観光客との交流拠点や防災機能拠点施設として整備し、地域の伝統芸能継承、青年会活動などの多様な活動を推進し、観光振興を図る。	南城市知念地区におけるムラヤー建設にむけた基本・実施設計の実施	・H29年度の供用開始に向けた事業の着実な実施(基本・実施設計委託業務の完了)	(今後の展開方針) H28年度建築工事着手 H29年度:体験交流施設の供用開始後は、地域の観光資源を活用した観光客の誘客による地域の活性化を図る。(目標利用者:500名)	
			東御廻り等・体験交流受入整備強化事業	H27 ~ H29	斎場御嶽を拠点に年間約40万人の観光客が訪れることから、集客エリアの安全確保のため、駐車場から斎場御嶽までの歩道整備や市内に点在する史跡の駐車場整備等により受入体制を整え、更なる観光振興を図る。	歩行者の安全対策 ・歩道整備(設計・工事):岬公園から物産館まで ・道路カラー舗装整備工事:知念郵便局から斎場御嶽まで ・国有地購入 久手堅船だまりの船揚げ場の整備	歩行者の安全対策の実施 ・歩道及び道路カラー舗装整備(設計委託業務・工事)の完了 (岬公園から物産館まで、知念郵便局から斎場御嶽まで) ・国有地購入(268.18㎡) 久手堅船だまりの機能強化 ・施設整備工事の完了	歩道と駐車場の整備により、車両と歩行者の安全が確保され、斎場御嶽を拠点とする市内周遊型観光の新たな体験交流事業の考案と地域活性化の取組に繋げる。	5月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

南城市		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
		プロ・サッカーキャンプ等受入施設整備事業	H27 ~ H29	プロサッカーキャンプ受入及び公式戦受入の対応ができる陸上競技場・体育館施設の機能を強化整備し、市民の健康増進に対する意識の向上を推進していく。	基本設計の実施	南城市陸上競技場に関する基本設計の策定	陸上競技場施設整備工事 ・観客席 ・ロッカールーム等 ・会議室・芝の機械管理室 ・貯水タンク設置工事 南城市総合体育館 ・トレーニング機具備品購入	5月変更 (事業追加)
		南城市観光コア施設整備事業	H27 ~ H31	本市の観光情報発信・観光交流、観光振興及び観光客の利便性向上を図るための観光交流拠点整備構想を策定し、情報発信・交流拠点施設整備を行い、更なる観光振興を図る。	基本構想の策定	施策展開に向けた基礎資料を整理し、観光コア施設整備に向けた基本構想の完了	本構想に基づいて基本計画及び実施設計を策定し、施設建設を行う。 また、同時並行で施設の誕生を盛り上げる取り組みを行っていく。	10月変更 (事業追加)
		観光交流施設機能強化事業	H27 ~ H29	市内に点在する観光地(城跡等)を訪れる観光客等の憩いの場として、新たな拠点地づくりを行い、グスクロード公園・知念岬公園(既存施設内)に遊具等を整備し、機能強化することで観光客等利用者の利便性の向上を図る。	実施設計の策定	実施設計の完了 (次年度より年次的に公園の機能強化を図る)	H28年度 グスクロード公園機能強化整備 H29年度 岬公園強化整備 年次的に公園の機能強化を図り、観光客等の憩いの場を創出していく。	10月変更 (事業追加)
2		平和発信プロジェクト事業	H24 ~ H30	戦後70年が経過し、沖縄戦の記憶が薄れている中、改めて市民一人ひとりが平和や命の大切さを考える機会として、南城市独自で制定した平和の日(8月10日)に劇の上映、またイベントを開催する。	・劇の上演 1回 ・イベントの実施 1回 ・ワークショップ開催 3回 ・ハートのまち宣言策定	・劇の上演・イベントの開催 延1000人 ・市民参加のワークショップの開催により、市民の平和への意識の向上 ・ハートのまち宣言策定により、市民の平和への意識の向上	平和な社会の実現を図るため、市内外へハートという市のブランドと共にオンリーワンを発信するイベントを継続的に開催する。 市民一人ひとりが平和について考え、語り合い、行動できるよう平和への意識を高める。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

南城市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			平和学習受入体制強化事業	H25 ~ H27	平和学習の一環として第二次世界大戦の追体験を行っている糸数アブラガマ壕内の緊急時における通報システムの構築及び施設外に保管している日本軍の150mm加農砲等を移設展示し平和学習受入れ体制を強化する。	・通報システム設置 ・加農砲等補修、移設置	・見学者の緊急時における迅速な対応の確保 ・平和学習施設の強化	日本軍の150mm加農砲等を含め沖縄戦における平和学習効果の向上を図る	7月変更(事業追加) 10月変更(計画変更に伴う事業内容、活動目標変更)
3			蔬菜花卉園芸施設整備事業	H24 ~ H28	強風等自然災害による被害を軽減し、農作物の安定生産が図れる施設栽培を奨励するため、既存施設の強化及び防風壁導入を支援する。	既存の農業用施設強化及び防風壁設置を支援	既存の農業用施設等の整備(10ヶ所)	自然災害による被害軽減のため施設を継続して整備する。 ・施設の整備5ヶ所(H28年度) ・定時、定量、定品質の農作物の出荷による農家所得の安定	
			漁港巻上機・施設機能強化事業	H24 ~ H27	水産業の振興を促進するため、台風時において、船の避難をスムーズに行うため巻上機施設の機能強化を実施する。	巻上機の設置:3基 (海野漁港板馬地区・知念船溜まり・具志堅船溜まり)	・漁獲量を向上するための機能強化 ・漁業基盤の整備	H28年度供用開始 台風等荒天時に速やかに陸上避難が行える。また、漁船の修理等陸上作業がスムーズに行える。	
			耐候性野菜栽培施設整備事業	H27 ~ H29	定時・定量・定品質の農作物出荷を行うため、気象条件に生産量を左右されにくい耐候性ハウスを整備し、農家の経営安定及び産地の形成を図る。	耐候性ハウスの整備を支援	耐候性ハウスの整備(10000㎡ 約30棟)	出荷量安定及び産地形成のため、耐候性ハウスを継続して整備する。 H28 6000㎡ H29 6000㎡	
			つくり育てる漁業振興支援事業	H26 ~ H27	獲る漁業からつくり育てる漁業への転換を目指し、養殖業を取り巻く課題解決に向けた対策を支援することで、水産業の振興を図る。	養殖業者への支援	品質向上の強化 モズク網干し柵の設置(1基)	設置後は、販路拡大に向けた品質の向上に繋げていく。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

南城市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			優良繁殖牛リース支援事業	H26 ～ H33	和牛繁殖基盤の改良強化を図るため、農家に対して優良繁殖雌牛を貸し付けるものに対し支援を行う。	優良母牛の導入支援	・導入頭数50頭 ・今年度導入率12.5%(全導入目標頭数:400頭)	H28年度目標 ・母牛の若齢化 ・基本登録時審査成績向上 H29年度目標: ・母牛の分娩間隔短縮 ・出荷子牛のDG向上	7月変更 (事業追加)
			優良乳用牛リース支援事業	H27 ～ H31	乳用牛の改良強化を図るため、農家に対して優良乳用牛を貸し付けるものに対し支援を行う。	優良母牛の導入支援	・導入頭数50頭 ・今年度導入率20%(全導入目標頭数:250頭)	H28年度目標 ・優良乳用牛への更新 H29年度目標: ・生産乳量の増加 ・乳質の向上	7月変更 (事業追加)
4			消防救助艇・牽引車両整備事業	H27	海や川に関する事故・災害等が起こった場合に、迅速かつ確実に対応するため必要な整備をし、消防力の強化に繋げ住民や観光客の安心安全を確保する。	消防救助艇:一艇 牽引車両及びトレーラー(各一台)	水難救助体制の機能強化	消防救助艇・牽引車両及びトレーラーを整備することにより、市町民や国内及び国外からレジャーを楽しむために訪れる人々に安心・安全を与える地域を目指す。	
5			幼小中学校学習教室空調設備整備事業	H24 ～ H27	児童・生徒の感受性豊かな人格形成を図るため、夏場においても、安全・快適な学習環境を保持できるよう空調設備を整備する。	冷房設備の設置 ・大里南幼稚園保育室2台	夏場における安全・快適な学習環境の整備	夏場における安全・快適な学習空間が整い、児童・生徒の学力向上に大きく寄与することが見込まれる。	
			小中学校パソコン機器整備事業	H25 ～ H29	学校教育振興に資する学校教育用パソコンを小・中学校へ導入することで、児童・生徒がICTを活用する上で必要な知識・技能の習得や、また、様々な教科の中でICTを活用した学習活動に取り組むことにより、情報化社会に即応する技能を身につけた人材の育成を図る。	・市立玉城小学校コンピューター教室パソコン機器41台、他周辺機器一式整備 ・市立百名小学校コンピューター教室パソコン機器39台、他周辺機器一式整備 ・市立大里北小学校コンピューター教室パソコン機器36台、他周辺機器一式整備	パソコン教室:パソコン機器等一式整備 ・小学校低学年:パソコンに興味関心を引き出す ・小学校高学年:パソコンの基本操作の習得、各教科の調べ学習の向上 ・中学生:パソコンの技能の習得	・市立小中学校14校PC教室パソコン機器等一式を年次的に整備 H28年度:2中学校整備 H29年度:2小学校整備 ・児童・生徒がICTを活用する上で必要な知識・技能の習得 ・様々な教科の中でICTを活用した学習活動に取り組むことで、学力の向上を図る	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

南城市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			学習支援員配置事業	H25 ~ H29	通常の授業についていけない児童・生徒への学習支援等を目的として、学級担任等の補助者として学習支援員を配置し、対象児童・生徒の習熟の程度に応じた指導や、一人ひとりの学習の定着状況に基づいたきめ細かな指導等、個々の実態に応じた学習支援を行う。	・市立8小学校へ学習支援員8名配置(支援児童数294名:支援員1名当り週35時間授業支援を行う。1授業当たり3名程度の児童を支援する。) ・市立4中学校へ学習支援員4名配置(支援生徒数135名:支援員1名当り週35時間授業支援を行う。1授業当たり3名程度の生徒を支援する。)	・学力到達度調査において無回答率の縮小 小学校 算数 3.0ポイント(0.6ポイント改善) H26年の無回答率 3.6ポイント H26県平均の無回答率 4.3ポイント 中学校 数学 12.0ポイント(0.7ポイント改善) H26年の無回答率 12.7ポイント H26県平均の無回答率 14.9ポイント	H33年度まで事業を継続し、当該調査の無回答率を0に近づける。	
			特別支援教育・障害児ヘルパー配置事業	H25 ~ H29	学校教育法において、障害のある児童生徒等の教育の充実を図るため、小・中学校等に在籍する教育上特別の支援を必要とする児童生徒等に対して、適切な教育(特別支援教育)を行うことが明確に位置付けられ、それにより、障害のある児童生徒等の受け入れ機会が増加しているところであります。そのため、幼・小・中学校へ特別支援教育支援員や障害児ヘルパーを配置し、担任教師と連携の上、適切な特別支援教育を行う。	・市内5幼稚園へ障害児ヘルパー(保育)9名(対象園児13名) ・市内8小学校へ障害児ヘルパー25名配置(対象児童69名) ・市内4中学校へ特別支援教育支援員1名、障害児ヘルパー5名配置(対象生徒13名)	・学習や学校生活面においてのサポート体制を強化し安心して学べる学習環境の構築 ・幼児・児童・生徒個々の特別支援教育支援員・障がい児ヘルパー活用報告書の作成(年2回)	平成28年度~29年度 ・特別支援教育支援員・障害児ヘルパー配置 ・障害のある幼児・児童・生徒の自立や社会参加を促し、「生きる力」を育成する	3月変更(計画変更に伴う活動目標変更)
6			なんじょう歴史文化保存継承事業	H24 ~ H33	本市では神の島「久高島」や世界遺産「斎場御嶽」、国指定文化財「グスク等」の多くの歴史遺産、琉球王朝時代から引き継がれた精神文化が今も数多く残る地域である。これら貴重な文化遺産を後世に引き継ぐことを目的になんじょう歴史文化保存継承事業を実施する。	・『御嶽・グスク編』原稿作成、情報収集、専門委員会の開催、調査 ・『資料集戦争』情報収集、調査 ・『民俗』情報収集、調査、専門委員会等の開催 ・専門委員会議の実施回数 御嶽・グスク 5回(原稿完了むけての検討) 資料集戦争 5回(調査報告) 民俗小委員会 5回(調査報告、方針決定等) 民俗 12回(調査報告)	・『御嶽・グスク編』刊行に向けた原稿作成の完了 ・『資料集戦争』刊行に向けた情報収集、調査の完了 ・『民俗』刊行に向けた方針決定、調査個票の作成	(今後の展開) H28年度:『御嶽・グスク編』刊行 H28年度~H33年度:『民俗』調査、情報収集、整理 H29年度:『資料集戦争』原稿作成 H30年度:『資料集戦争』刊行	
			文化センター機能強化事業	H25 ~ H29	本市における地域伝統文化及び市内イベントの拠点として文化芸術創造の発信を行っている文化センターの機能強化を図るため、床面や付属設備などの整備を行う。	・使用の促進にむけた床面 85.2㎡及び座席シート 510席)の張替などの工事 ・多彩な演目の対応にむけたグランドピアノ等の付属設備の購入	・事業実施によって、より多面的な施設の使用による活用の促進 ・グランドピアノ等の購入により、施設使用者による多彩な公演の促進につなげる	(今後の展開) H28年度:備品等購入 H29年度:備品等購入 ・文化芸術創造発信の拠点として活用 ・県内唯一の音楽専用ホールとしての活用を促進 ・文化芸術のさらなる発展への寄与	10月変更(計画変更に伴う各目標変更)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

南城市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			文化のまちづくり実行委員会支援事業	H24 ~ H33	地域伝統文化の継承及び観光振興を図るため、南城市文化センター・シュガーホールを拠点に、音楽や演劇の公演、バックステージ講習、ボランティア育成事業等の各種公演、研修事業を実施する。	第21回おきでんシュガーホール新人演奏会(1回) シュガーホール発!!地域めぐり出前ステージ(6回) 10th' Jazz in Nanjo(1回) 学校めぐり出前授業(市内9小学校)	第21回おきでんシュガーホール新人演奏会 400名 シュガーホール発!!地域めぐり出前ステージ 1,150名 10th' Jazz in Nanjo 500名 学校めぐり出前授業 480名	(今後の展開方針) シュガーホールを拠点とした多彩な事業を展開し、クラシック音楽のみではない多様な文化芸術創造の場として活用していく。	
7			健康づくり支援調査検証事業	H25 ~ H28	市民の健康づくりを支援するため、健康教室等の開催及び児童生徒生活習慣病予防健診等を実施するとともに、その効果等について調査検証する。	・講演会、健康体操等の実施 18回 ・中学生を対象とした健康調査及び保健指導の実施	・講演会、健康体操等の実施後に、アンケート調査等を行い、事業効果を評価検証し、市民の健康増進意識の向上を図る ・中学生(約500名)を対象とした血液検査を実施・検証し、その結果返しの中で、親子へ保健指導を行い、生活習慣病予防意識の向上を図る	(今後の展開方針) H28年度も引き続き事業効果を検証しながら市民の健康づくりを支援する。健康づくりに無関心な層や未受診者へ、行政・地域・学校等からのアプローチで市民の健康への意識を高める。	3月変更 (計画変更に伴う活動目標変更)
8			企業誘致等促進調査事業	H27 ~ H31	本市の土地利用を含め企業誘致適地箇所及び誘致企業を探り、誘致に向けた課題・問題点等の整理を行ない、本市における企業誘致の可能性調査を実施する。また、本調査の結果を踏まえ、企業誘致を促進するため、企業の受入体制を構築(産業集積拠点地整備)し、企業の集積により本市の産業振興・地域活性化に繋げる。	企業適地調査の実施	企業適地調査の完了 (翌年度に向けた企業適地箇所の条件整理確認)	(今後の展開方針) 企業適地調査に基づき、適地情報の提供と受入体制の構築により、企業の適地箇所への誘導配置。また、企業誘致による雇用創出の実現を目指す。	7月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

国頭村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
1	国頭トレイルランニング大会推進事業	H26～H30	本村の森林資源を活用した新しいスポーツ「トレイルランニング大会」を開催し、国頭村の認知度向上と観光誘客を図る。 スポーツ交流人口を増やし国頭村とのふれあいのなかでリピーターを増やす事により観光客の集客を図る。	国頭トレイルランニング大会の実施	国頭トレイルランニング大会の開催 (大会参加人数:県内1,200人 県外300人) 基準年度:H26年度 県内1,300人 県外200人 トレッキング体験事業参加人数:50人	H28 県内1,130人 県外320人 H29(第5回記念大会) 県内1,150人 県外350人 H30 県内1,100人 県外400人		
1	国頭村観光案内看板整備事業	H27	国頭村西海岸と東海岸側の玄関である場所に村内に訪れる利用者に対し国頭村の魅力やPRし観光誘客を図る。 また、観光客の利便性の向上を図るため辺戸岬園地に村全体の観光案内看板を整備し、観光地としての利活用を図り地域の特色を活かした観光業の振興を図る。	実施設計(委託) 看板設置工事(2基) 看板リニューアル(1基)	村全体観光入り込み H25年度465,000人 H27年度479,000人 観光案内の充実・強化	案内看板を整備することにより村内来訪者の増加が期待できる		
1	国頭村ブランディング推進戦略事業	H26～H27	「やんばるの希少動物」のレアキャラを構築するため、キャラクターのデザイン及びネーミング等を付けて着ぐるみで県内の各種イベント及び関連施設でのロードキル防止のキャンペーンの他、各レアキャラのグッズ開発等、自然の保全を活かした観光づくりへ向けた取り組みと知名度アップを図る。	起業家支援セミナー 1回 推進委員会:2回 キャラバン隊:県内7箇所 キャラバン隊:県外2箇所(8日間) 地域発信型短編映画上映イベント:2回	起業家支援セミナー 1回(2泊3日) 15名参加 推進委員会:2回(委員・アドバイザー参加) キャラバン隊:県内イベントで国頭村PR(累計10,000名に名刺・チラシ配布) キャラバン隊:県外(8日間) 累計20,000名がブース来場、名刺・チラシ配布 地域発信型短編映画上映イベント:累計1,000名が参加 【成果】移住希望者の創業が生まれ、レアキャラを活用した商品開発が起こり、PR効果でヤンバルクイナ目的の入込客増加が見込める。	村全体観光入り込み H25年度465,000人 H27年度479,000人		
1	スポーツコンベンション観光振興事業	H25～H28	本村でのスポーツキャンプによる滞在人口の増加を図り、観光振興に向けて受け入れ施設の充実・強化を図るため、クロスカントリーコース進入路の整備及び野球場の人工芝整備と乗用芝刈機・乗用グラウンド均し機・施設管理車両・ウエイトリフティングトレーニング機材の整備を行う。	実施設計(委託) クロスカントリーコース進入路整備工事 野球場人工芝整備工事 乗用芝刈機購入:1台 乗用グラウンド均し機購入:1台 施設管理車両購入:1台 ウエイトリフティングトレーニング機材:一式	スポーツキャンプ受け入れ体制の強化 村内のスポーツ施設を活用したスポーツキャンプの受け入れ目標 (野球:18団体/年) (陸上:38団体/年)	H28年度:外柵取替工事 H29年度スポーツキャンプの受け入れ目標 (野球:18団体/年) (陸上:40団体/年) (ウエイトリフティング:8団体/年)	10月変更(計画変更に伴う事業内容、活動目標変更) 12月変更(計画変更に伴う事業内容、活動目標変更)	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

国頭村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
バ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			国頭村観光・物産・芸能PR事業	H27	宣伝、周知効果の高い観光・物産・芸能フェアを国頭村主催で開催する事で村が誇る自然や観光地、特産物などを始めとし、村の歴史や芸能、文化等、幅広く村をPRする事が出来る。このフェアを期に県内外から今以上に村への入込数を増やし知名度の向上を図る。	観光・物産・芸能PRイベント:H27年10月 3日間実施 広告、宣伝による国頭村周知・PR	イベント来訪者10,000人	国頭村の観光・物産・芸能PRする事により認知度が向上。 国頭村に興味を示し、村内来訪者の増加が期待できる。	5月変更(事業追加)
2			ヤンバルクイナ生態保全確立事業	H26 ~ H30	平成24年度に策定した構想を下に、「安田くいなふれあい公園」内に設置している「ヤンバルクイナ生態展示学習施設」に展示飼育しているヤンバルクイナの個体の適切な飼育環境を確保する体制を図るため、飼育員の飼育技術育成を図り、種の保存法に基づく保護・増殖の確立を目指した管理体制を構築する。	飼育員の配置1名 人材育成1名	飼育員の育成により、適正な飼育環境維持及び個体の良好な管理体制により保護普及啓発を図る。	H28まで:「人材育成」 H30:「飼育技術員の適正配置:3人」	
3			多自然川づくり事業	H24 ~ H30	中心市街地を流れる普通河川(辺土名川)の整備を図ることにより、治水と自然の営みを共存させた自然再生型事業を実施する。本村の地域資源を有効に活かし、中心市街地の魅力あるまちづくりとリンクさせた地域の活性化を視野に計画を推進する。	物件用地鑑定業務の実施 河川環境等モニタリングの実施 現場技術管理業務の実施 河川工事の実施 用地購入の交渉(4件 184.6m2) 物件補償の交渉(1件)	河川工事 23% 用地取得 全体計画の17.7%の取得 物件補償 全体計画の50%の物件補償	H28年度:河川モニタリング・現場管理業務・用地・河川工事 H29以降:河川モニタリング・現場管理業務・河川工事 H31年度に全区間(L=1,200m)の提供。 多自然川づくりにより、河川が本来有している生物の生息環境や多様な河川風景が保全・再生され、治水安全度の向上や環境教育の場としての活用が図られる。	12月変更(計画変更に伴う各目標変更)
4			平張網掛施設整備事業	H24 ~ H28	本村において、露地栽培の柑橘類にノグチゲラ、ヒヨドリ、コウモリ等による被害が多であり、農家の生産意欲を低下させる要因はかなり大きく産業振興に多大な影響を及ぼしている。農家の果樹地に防鳥ネットを張り、鳥類からの被害を防ぐ平張網掛施設整備工事を行うことによって農家の生産意欲向上を図る。	平張網掛施設の整備実施:6件	農家の生産意欲向上に向けた鳥類被害防止の取組強化 平張網掛施設の設置率:81.3% (設置累計26/設置目標数32) (設置目標数:32件 H24:8件 H25:6件 H26:6件 H27:6件 H28:6件)	平張網掛施設整備件数(累計) H28:6件(累計32件、整備率100%)	
5			国頭村森林公園基本計画作成事業	H27	観光業と連携した国頭村の森林資源を活用した体験型の森林業の拠点施設である森林公園の見直しを行う。	基本計画の検討	基本計画の策定	策定された基本計画に沿った森林公園整備を実施 H28 実施設計	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

国頭村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
バ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
5			森林資源活用推進事業	H24 ~ H28	森林資源のさらなる有効活用のため、新たな国頭型「森林業」創出するとともに、森林の癒し効果を活かした森林セラピーガイド育成、国頭村木材を活かした「木育」推進を行う。	森林セラピー推進協議会・運営委員会の開催(3回) 森林セラピーガイドステップアップ講座の実施(3回) 木育推進人材養成講座の実施(サポーター講座4回、リーダー研修1回) 木育イベント出展(県内5回 県外1回) 森林業・木育推進業務企画・調整・実施員(1名) 木育キャラバンの実施(6回) 森林業創出セミナー等開催(セミナー2回 視察1回) 森林業創出アドバイザーの招聘(6回) 木質内装材試作 有用樹種、有用植物の調査、苗木等育成法調査・研究	森林セラピーガイドの養成:5人 木育サポーターの養成:5人 森林業創出セミナー参加者:20人 木質内装材試作品:1種類 木育イベント・キャラバン参加者数:1,500人 有用樹種、有用植物の苗木育成数:2種、500本 イベント出展、木育キャラバンの実施により、国頭型「森林業」の認知度を高めた	・セラピーガイドの認定を継続して 行い受け入れ体制を充実する 認定目標数H29年度:20人(累計) ・木育サポーター養成を継続して 行い活動基盤を充実する 目標サポーター数H29年度:20人(累計) ・森林業創出事業:3事業(累計) ・有用樹種苗木開発を継続する 目標本数H29年度:3,000本(累計)	
6			国頭村減災地域社会形成事業	H24 ~ H28	昨年度に引き続き、災害対応マニュアルを整備し、災害時の住民と観光客に対する安全対策の確保を図る。	「業務継続計画」の作成 集落別減災計画の作成(3集落)	「業務継続計画」を作成することで、被災時の行政機能喪失の軽減を可能とする。 「集落別減災計画」を作成することで、作成地域における災害時要支援者の把握、地域単独での避難訓練の実施が可能となる。	各種災害対応マニュアルを整備し、また、全集落(20集落)の減災計画を作成する。 H28度:3集落 H29年度以降:H28度までの成果を踏まえ残り11集落の計画を作成	
6			集落別減災地域社会形成事業	H24 ~ H28	桃原地区避難路整備を実施し、災害時の住民と観光客の安全対策の確保を図る。	避難路整備の実施	避難路を整備することにより、本村を訪れる観光客と村民の安心・安全の向上を図る。	H28度:避難路整備が必要な新たな地区の選定及び避難経路の計画 H29年度以降:H28度までの実績を踏まえ避難路整備を検討	
7			学習支援員配置事業	H25 ~ H29	児童生徒の学力向上のために、学習支援員を配置し、授業にあたる教師と連携を図りながら児童生徒の支援を行うことで教育環境を充実させ、基礎学力等の向上を図る。	学習支援員配置数 小学校4人 中学校1人	学習支援員を村内小学校2校(対象児童数232人)、中学校1校(対象生徒数150人)に配置 小学校:標準学力検査2教科平均点 65点(4年) " 55点(6年) 中学校:標準学力検査3教科平均点 50点(2年)	平成28年度、29年度においても5人を継続配置するとともに、同学年における前年標準学力検査平均点を維持する。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。
 H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

国頭村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
7	中学校英語指導員配置事業	H25 ~ H29	中学校の英語を中心とした外国語活動の授業における指導補助、教材作成や英語スピーチコンテスト等の指導補助として、中学校に英語指導員を配置することで教育環境の充実を図り、生徒の国際理解やコミュニケーション能力の向上に資することで、基礎学力の向上に繋げる。	英語指導員配置数：中学校1人 (全校生徒数150人)	英語検定5級取得者：15人 英語検定4級取得者：10人 英語検定3級取得者：5人	平成28年度、29年度においても1人を継続配置するとともに、英語検定合格者を前年度と同人数を維持する。		
7	中学生海外短期留学派遣事業	H25 ~ H29	中学生を英語圏に短期間派遣し、英語を学ぶことへの関心・意欲を高め、視野を広げるとともに国際感覚豊かな人材育成を目指す。	派遣生徒数：2人 ・ホームステイ ・英会話学校通学 ・報告会実施	ホームステイ先での外国文化・習慣の体験による国際感覚の会得、英会話学校にての語学学習による語学力の向上、帰国後の報告会実施による本事業の周知を目標とする。	国際感覚豊かな人材育成を目指し、平成28年度、29年度においても2人を継続派遣し、平成25年度よりの5年間で10人を派遣する。		
7	デジタル教科書教材整備事業	H27	ICT教育の環境の向上を図り、児童の学習に対する興味・関心を高めるため、デジタル教科書及びタブレット端末を小学校に整備する。	デジタル教科書一式×7小学校 国語(1~6年) 社会(3~6年) 地図(4~6年) 算数(1~6年) 理科(3~6年) タブレット端末40台 奥間小学校10台 辺土名小学校15台 ほかへき地校3台×5校	標準学力検査平均正答率において、同学年の前年得点より3点以上上昇することを目的とする。	教員のICT活用指導力の向上を図り、整備2年後より標準学力検査期待得点値を上回る。		
8	幼保連携型総合施設整備事業	H26 ~ H29	子どもの成長支援・子育て支援の充実や環境整備を図るため、就学前の幼児教育・保育を一体的に行う機能を担う「幼保連携型総合施設」を整備する。	・基本設計の実施・開発申請業務 ・実施設計に向け現況測量の実施 ・計画地のボーリング調査の実施 ・造成及び建築本体の詳細設計の実施 ・計画用地取得(18筆) ・計画地の物件鑑定及び物件補償	・実施設計・測量・調査設計に向けた資料の整理(基本設計の完了) ・造成工事・建築工事に向けた資料の整理(実施設計の完了)	H28: 造成工事、建築確認申請業務 H29: 外構工事、建築工事、建築施工管理業務 H30: 供用開始 村内の0歳~5歳までの子どもを受入	10月変更(計画変更に伴う各目標変更)	
9	国頭村立診療所医療機器拡充整備事業	H27	過疎地域である本村において、村民が健やかな生活を送るため「国頭村立診療所」の医療機器等を拡充させることで、疾病の未然防止、早期発見、早期治療などの医療体制の維持・充実を図る。	・X線一般撮影装置 ・超音波画像診断装置 ・血圧脈波検査装置 ・自動身長・体重計 ・電動ベット(3台) ・診断用照明器	医療機器等を拡充させることによる、住民等が安心・安全に暮らせる医療体制の維持・充実	新設置機器の有効な利活用及び良好な管理運営の実施。 これらの機器導入により村民が安心、安全な充実した医療体制の実現を図る。	5月変更(事業追加)	

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

国頭村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
バ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
10			国頭村ブランド牛基盤づくり支援事業	H26 ~ H29	農家の経営安定化に向けて、国頭村ブランド牛基盤づくりの為、優良母牛の導入に対する支援を行う。	優良母牛導入支援	優良母牛導入頭数26頭 予定導入率50%を目標とする。	優良母牛導入による産地基盤整備を図る。(累計) H27:26頭(52頭) H28:26頭(78頭) H29:26頭(104頭)	5月変更(事業追加)
11			環境保全・美化推進事業	H27 ~ H31	ハブ・野ネコ・野犬対策として環境保全作業員による捕獲器の設置・回収を実施し地域住民及び観光客の安全確保や貴重な野生生物の保護を図る。	環境保全作業員の配置(二人) 各対策捕獲器の設置 (ハブ:30台、犬:3台、猫:30台)	ハブ咬傷被害の未然防止 咬傷被害:0件 野生生物の保護	捕獲器の効率的な運用を行い、咬傷被害等の未然防止と、野生生物の保護を継続する。	5月変更(事業追加)
12			奥区地域づくり計画策定事業	H27 ~ H29	本村の奥地区(本島最北端 沖縄県指定2級河川奥川)では、平成19年度に地域住民を主体とした自然再生協議会を結成し「奥川自然再生事業」を行っており、豊かな自然環境を利活用した地域の活性化を図るための施策を実施している。本事業は、自然環境を活かした地域づくりや流域再生を推進するためのモデル事業を本地域において実施し、その成果を国頭村における環境共生型の空間づくり計画に反映させ、村づくりへの施策展開に繋げる。	地域づくり計画検討 ・資源調査の実施(3回) ・振興手法の検討 ・人づくり計画の作成 ・社会実験の計画の作成 ・支援ハード計画の作成 ・住民ワークショップの開催(4回) コイの移植先水路測量設計の実施 (実施箇所:奥ヤンバルの里駐車場横、施設規模:L=120mの水路)	地域づくり計画策定 コイの移植先水路工事にに向けた設計の完了	平成28~29年 策定された計画立案、ワークショップ等をもとに地域活性化を図り、その成果を地域づくりへの施策展開へ繋げる。 コイの移植先水路設計業務をもとに水路の実施に繋げる。事業完了後、第4次国頭村総合計画への反映人づくり計画によって育った人材によるエコツアー等、資源調査によって整理された資源の利活用(文化ふれあい等)コイの移植によって外来種のいなくなった奥川へのリュウキュウアユ放流、隔離されたコイの利活用(奥区のシンボル)	5月変更(事業追加)
13			農業基盤整備促進基本構想策定事業	H27	過疎化が進み、農家の数が大きく減少している国頭村の農業振興を図るため、農業生産基盤整備の遅れによる農業の不利性の過小に向けた新たな農業基盤整備推進する目的により「農業基盤整備促進基本構想」を策定する。	農業基盤整備促進計画の検討(地域の情勢、農村の現況を踏まえとりまとめを行い、アンケート調査及び地域懇談会20集落を開催、課題の整理基本方針基本施策の検討)	本村の現状及び課題を把握し、今後10年間の農業基盤整備に向けた基本施策の決定(農業基盤整備促進計画の策定)	本村の「農業基盤整備促進基本構想」により、村の農業生産環境、生活環境整備の指針を示し平成28年度に実施計画を立案し、平成29年度から村づくり交付金事業等、各種農業基盤整備事業の展開を図る。	5月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

国頭村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	バ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
15		国頭村水道事業管路更新(耐震化)計画策定事業	H27	沖縄本島北部に位置する国頭村は、総面積約195km ² で95%を山林と原野が占めており、沖縄県中南部への水資源の供給源として重要な地域となっている。国頭村の水道事業においても村内に点在する水道施設(本計画においては導水管、送水管、配水管を言う)は老朽化が著しく、更新に併せて耐震化を図る為の計画を策定する。 管路更新・耐震化計画の検討(管路情報の整理、管路整備計画・優先順位)の検討、事業計画書の検討など	住民の定住条件の整備に必要な配水管更新・耐震化に向けた基礎資料の整備 管路更新・耐震化計画の策定	H30以降 他省庁補助金で管路更新・耐震化事業の実施(事業完了後に見込まれる効果) 管路更新事業のスムーズな展開	5月変更(事業追加)	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

大宜味村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			大宜味村観光受入体制強化促進事業						
1			大宜味村観光情報発信整備事業	H24～H30	観光資源(文化財、自然資源、特産品、体験事業)などの情報をより効果的に広く発信するため、大宜味村産業まつりを開催し、誘客を促進する。	・産業まつり誘客イベント開催支援	産業まつり参加者数 5,000名 (参考 H23年度 2,500名)	産業まつり参加者数(累計) H24～H30年度 21,000名	
1			ふるさと河川環境再生・活用整備事業	H26～H31	大宜味村謝名城・喜如嘉地区の魅力あるまちづくりとリンクさせた地域の活性化を図るため、河川敷の空間の有効活用、治水安全度の向上や河川全体の自然環境再生を視野に、大川川とその周辺整備を実施する。	・推進計画の検討 ・実施測量設計(大川川、L=2,600m)	・推進計画の決定 ・実施設計書の完成	推進計画に基づき整備していく。 H28年度 用地測量、補償、工事 H29年度 補償、工事 H30年度 補償、工事 H31年度 工事、台帳整備	
1			世界自然遺産登録推進事業	H27～H28	平成29年度に本村を含む沖縄本島北部3村が世界自然遺産登録を目指すことから、世界自然遺産登録に対応するための、村内の組織体制づくりをはじめとした、観光客増大に対応する受入体制の整備を行う。	・既存生物多様性情報の収集・整理 ・環境教育活動 10回 ・シンポジウムの開催 1回	世界遺産登録に向けた基礎資料の整備と普及啓発を行い、次年度に繋げる。 ・シンポジウムへの参加者数 100名 ・環境教育への参加者数:児童生徒 各10名	・世界自然遺産受入体制の確立 ・入域観光客数 目標 H28年度 150,000人 参考 H25年度 140,000人	
1			大宜味村歴史と文化検証事業	H26～H29	大宜味村史を検証し、自然・沖縄戦・民俗・移民等の資料を新たに編纂し、村を訪れる人たちへ情報提供ツールを作成する。また、沖縄本島最北の築城である根謝銘城址を調査することにより観光資源として活用していく。	・「シマジマ編」発刊 300部 ・根謝銘グスク測量設計	・「シマジマ編」に係る情報提供冊子の完成 ・根謝銘城址の活用範囲の把握	村の歴史に関する様々な資料を収集し、情報提供ツールとして活用していく。 H28年度 移民・出稼ぎ編印刷 H29年度 民俗ことば編調査 H29年度 民族ことば編印刷 H28～H29年度 根謝銘城址調査	12月変更 (計画に伴う各目標変更)
1			大宜味村観光周遊ルート形成整備事業	H24～H27	観光周遊ルートの一体的な形成を図るため、主要拠点である平南川駐車場等整備を行う。また、民泊危機管理計画の策定を行う。	・平南川駐車場等整備工事 (一般車両79台、マイクロバス3台、身障者用2台) ・民泊体験危機管理対策の策定 講演会の実施 3回 マニュアルの作成	・主要拠点の整備完了による観光客受け入れのための整備及び環境整備による観光客の増加 ・受入農家との協働による民泊危機管理体制の構築	・入域観光客数 目標 H28年度 150,000人 参考 H25年度 140,000人 ・民泊利用者数の増加	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

大宜味村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			大宜味村ブル ツーリズム推進体制構築事業	H27～H28	ブル ツーリズムの推進を図るため講演会やプログラム作成、人材育成組織の体制づくりなど、人材育成・組織体制の構築を行う。	・ブルーツーリズム推進協議会体制の検討 ・講習会・ワークショップの実施 12回 ・モニターツアーの実施 2回	・ブルーツーリズム推進協議会(仮称)の設置 ・講習会・ワークショップ参加者数 10人 ・大宜味型ブル ツーリズムプログラムの開発 1件	H28年度 受入体制協議会の構築 ・入域観光客数 目標 H28年度 150,000人 参考 H25年度 140,000人	
2			「ぶながやの里」学力向上推進事業						
2			学習支援員配置事業	H25～H30	将来の大宜味村を担う大宜味村の児童生徒の基礎学力の定着を図る為、村内の小学校4校と中学校1校に学習支援員を配置する。	・小学校 4名(各校1名) ・中学校 1名(各校1名)	・全国学力調査での全国平均との差 小学校 全教科 5ポイント H25年4月(配置直後)の差 6ポイント 全国平均 62点 本村 56点 中学校 全教科 5ポイント H25年4月(配置直後)の差 18ポイント 全国平均 62点 本村 44点	H27年度まで全国平均との差を3ポイント以内とし、今後も差が開かないように事業継続していく。	
2			地域支援員配置事業	H25～H30	学校と地域の連携を充実させ、不登校やいじめ等に対して生徒を支援する地域支援員を配置する。	・地域支援員配置数 村内中学校1人	支援対象者に対するアンケートを行う 「支援の効果は感じられたか」にの設問に対して「効果があったと思う」の回答率 60%以上	不登校者出席率 目標 H30年度 35% 参考 H24年度 27%	
2			「ぶながやの里」地域人材育成支援事業	H25～H28	各社会教育団体の生涯学習活動及び青少年の学校外活動における学習機会の拡充を図り、その活動を通して本村の自然や文化、社会への基礎的な興味関心を培い、地域リーダーとなる人材の育成を図るため、生涯学習活動事業を展開する。	・生涯学習講座 10回開催 ・備品購入(ドームテント) 10セット	・講座受講者数 H27年度 120名	講座受講者数(累計) H25～H28年度 400名	
2			児童生徒等県外派遣支援事業	H26～H33	大宜味村に在住する児童・生徒(小学生・中学生・高校生)に対し、県外で開催される運動競技又は文化関係の大会に、予選及び審査等の結果、代表として参加する際の派遣費用を補助する。	・児童生徒への県外派遣支援	派遣対象生徒の大会派遣率 100%	大会派遣率100%を維持し、H33年度まで支援を継続する。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

大宜味村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
3			災害に強い県土づくり事業						
3			観光道路及び危険箇所減災対策事業	H27 ~ H30	安心安全な観光道路の確保と危険箇所の減少を図るため、村内の観光道路や危険箇所周辺の生い茂った雑木や高木の伐採を行う。	・危険箇所調査計画の策定 ・伐採工事の実施(喜如嘉地区)	・伐採範囲の決定 ・伐採工事実施率 25%(1地区/4地区)	調査計画に基づき事業を行う。 実施率:100%(4地区) H28年度 伐採工事(大宜味地区) H29年度 伐採工事(塩屋地区) H30年度 伐採工事(津波地区)	
3			大宜味村立小・中学校安心安全防災システム導入事業	H27	地震や津波などの自然災害に強い村づくりを推進するため、災害時に児童・生徒の避難誘導等を円滑に行えるように小・中学校へ緊急地震速報端末及び無線機を整備する。	・地震速報等受信機器の設置 小学校、中学校(各1個)	児童生徒の迅速な避難誘導を可能とする基盤整備の完了	防災システムを活用した避難訓練を実施 H28年度～年2回実施	5月変更(事業追加)
3			結の浜安心安全な環境づくり整備事業	H26 ~ H28	結の浜地区における安心・安全を提供するため、「結の浜地区における防災基本計画」及び、「大宜味村防災基本計画調査測量設計」に基づく、結の浜地区の津波1次避難のための、避難路2路線の整備工事を行う。	用地購入17筆 避難路工事の実施	避難路の整備に向けた用地の確保完了 避難路整備率 100%(2箇所/2箇所)	結の浜地区自主防災組織の設立 結の浜地区避難訓練の実施 H28年度 避難広場・駐車場整備工事	10月変更(事業追加)
4			農林水産業活性化推進事業						
4			大宜味村統合型地理情報システム構築モデル事業	H27	農地の確保及び規模拡大を円滑に支援するため、各課所有の土地情報や各法令に係る規制情報を統一し、所有権の変化に対応した情報の把握・管理を目的に、統合型地理情報システム構築モデル事業を実施する。	・統合型地理情報システム構築 ・法務局登記データ取込システム構築	・ワンストップサービスの実現	農地面積 目標 H28年度 140ha 参考 H25年度 128ha	5月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

東村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			東村観光産業人材育成事業	H26 ～ H30	村内の観光関連事業所と連携のもと、観光入込客数の増加及び受入体制の強化を目指し、マリンストラクターや沖縄本島で唯一のプロジェクトアドベンチャー(冒険教育)のインストラクターの技術向上育成を図る。	・マリンストラクター育成 講習会 8回 ・モニターツアー 1回 ・先進地視察研修 1回 ・プロジェクトアドベンチャー(冒険教育)インストラクター育成 講習会 3回 ・実務研修 120日	・マリンストラクター 東村認定インストラクター 5人 ・ブルーーツーリズム入込客数目標 H27年度:400人 基準:77人(H22～25平均) ・プロジェクトアドベンチャー(冒険教育)インストラクター 東村認定インストラクター 1人 ・PA入込客数目標 H27年度:5,500人 基準:5,000人(H22～25平均)	安心・安全・快適な観光案内ができるよう専門的なインストラクター等の人材育成を実施し質の向上に務める。 ブルーーツーリズム入込客数 目標 H30年度:3,000人 プロジェクトアドベンチャー入込客数 目標 H30年度:6,000人	
			東村の魅力PR事業	H27 ～ H30	観光、特産品、移住等に関する東村の魅力を大々的にPR活動を行い、本村への誘客に繋げる活動を展開する。	・県内PRイベントの開催 1回 (2日間開催予定) ・PV(プロモーションビデオ)の制作 イベント用品の整備 (タペストリー3種類、のぼり等)	・県内PRイベント来場者数 3,000人 ・PVの常時上映を行い本村への誘客に向け情報発信を行う。 ・オリジナリティー(東村らしさ)溢れるタペストリー等を活かし東村の魅力周知が図られるようPR事業の着実な実施。	・毎年度PRイベントの開催 (開催場所等の検討) ・PVの常時上映を行い本村への誘客に向け情報発信を行う。	
			東村花いっぱい運動推進事業	H26 ～ H28	地域の景観や魅力向上のため、花いっぱいの村づくりを推進し、東村むらぐるみ花いっぱい運動への参加促進に向けた施策を展開する。	・村内主要幹線道路沿いへのプランターの設置。(200個)	・花いっぱい運動ボランティア作業参加者目標 (基準:H26年 418名 H27年目標 500名)	・花いっぱい運動ボランティア作業参加者の促進を図る施策を展開する。 目標 H27年 500名 H28 550名	
			沖縄やんばるアドベンチャーラリー推進事業	H26 ～ H28	「沖縄やんばるアドベンチャーラリー」は、東村の豊かな自然をフィールドにトレイルランとシカヤックを活用したアドベンチャーレースであり、観光誘客を図るため当該イベントを開催する。	沖縄やんばるアドベンチャーラリーの開催。	大会参加者目標435名 うち県外50名	沖縄やんばるアドベンチャーラリーを継続的に実施し、目標定員達成のための施策を展開する。	
			東村ダムツーリズム推進事業	H27 ～ H29	沖縄県最大の福地ダムの湖面等を活用したプログラムをさらに推進し、ダムツーリズムプログラムの充実・強化を図るため、調査を実施する。	・調査の実施 ・観光スポットの検討 ・プログラムの内容検討 ・管理、運営方法(利用ルール)の検討 ・実施に向けて必要な施設等の検討	調査の完了 基本計画策定のための課題等条件整理	・事業スケジュール H28年度 基本計画の策定 H29年度 基盤整備 H30年度 ダムツーリズム入込客数目標:15,000人 平成25年度自然観察線利用客数 4,620人	5月変更 (事業追加)
			東村つつじ祭り強化事業	H27 ～ H30	本村の一大イベントである東村つつじ祭りを充実させ、本村の魅力を来園者(観光客等)に周知し、観光産業の活性化を図る。	・園内ライトアップの実施 ・ステージイベントの実施	・来園者数 H27年35,000人 (参考 H26年 33,000人)	来園者の増加に向け、まつりの開催時の内容を改善しながらH30年度まで継続する。	12月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

東村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2			東村屋内運動施設機能強化事業	H26 ~ H27	各種競技会・合宿・観光事業等の利便性向上のため、施設の機能強化を図る。	・照明灯、音響設備、浄化槽等機能強化工事 ・倉庫、ミーティングルームの建築 延床面積：250㎡程度	各種競技会・合宿・観光事業等の振興に資するための施設機能強化工事を完了	・H28 供用開始 目標値：20,000人 利用者：13,300人(過去3年平均)	
3			デジタル教科書整備事業	H27 ~ H28	学習環境の向上を図り、児童・生徒の学習に対する興味・関心を高めるため、デジタル教科書を小中学校に整備する。	・村内3小学校にデジタル教科書を整備。 整備する教科書 国語、書写、社会、地図、算数、理科、音楽、図工、家庭	学習に対する興味・関心が高まった児童 30% (児童へのアンケートにより把握)	平成28年度 中学校導入予定 小学校活用率 57.5%	
			幼稚園預かり保育事業	H27 ~ H33	共働き世帯のニーズに対応するために、村内2幼稚園において預かり保育を実施する。	2幼稚園に2名(各幼稚園に1名づつ)預かり保育担当を配置する。	共働き世帯希望者からの受入率100%	H27～H33年度までの幼稚園預かり保育人員配置人数(累計)14名	
			特別支援教育支援員配置事業	H27 ~ H33	教育上、特別な支援を必要とする児童生徒が円滑な学校生活を送れるように、在籍する小中学校において特別支援教育支援員を配置する。	小学校 3名 中学校 3名	・支援が必要な児童生徒の適切な学習環境の保持	・H27～H33年度までの特別支援教育支援員配置人数(累計)42名	
4			東村観光誘客施設(仮称)整備事業	H25 ~ H28	観光振興を図るため、東村が輩出した多彩な人材の功績や経歴、所有品等の紹介・展示等を行う観光拠点・情報発信施設を整備する。	建築実施設計の実施 外構実施設計の実施	平成29年5月の供用開始に向けた事業の着実な実施(実施設計書の完成)	・事業スケジュール H28年度 工事 H29年 5月供用開始予定 ・利用者数 目標 H30年度 23,590人/年	5月変更(事業追加)
5			東村文化交流施設機能強化事業	H26 ~ H27	利用者のニーズに対応するため、施設の舞台周り(舞台照明、音響設備、ホール・舞台カーテン、控入室)の改修を行い、効率良く文化行事及び研修等が行えるよう施設の機能強化を図る。	改修工事の実施	改修工事の完了	H27:改修工事 整備後の利活用 ・民謡ライブの開催 ・文化芸能団による舞台鑑賞会 ・各種団体活動 年間利用者:4,200人(過去3年平均) 年間目標値:5,500人(H28)	7月変更(事業追加)
6			東村村民の森(つつじ園・エコパーク)施設機能強化整備事業	H25 ~ H31	平成25年度に策定した「東村村民の森基本計画」を元に、つつじ園内各施設の機能強化を図り、当該施設の活性化につなげる。	東屋 実施設計の実施	東屋 実施設計の完了	H27年度 東屋実施設計 H28年度 東屋工事 展望台実施設計 H29年度 展望台工事 事務所実施設計 H30年度 事務所工事 観覧施設実施設計 H31年度 観覧施設工事 遊歩道整備	10月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

東村		計画 期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業 番号	事業名		H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足 説明等
7	地域活動拠点活性化事業	H27 ～ H29	地域活動・地域行事(芸能祭等)伝統文化、芸能の場、交流の場としての利用を図り、体験・滞在・交流活動の場となる施設を整備する為の基本構想・基本計画を作成する。	地域活動拠点施設の基本構想・基本計画の作成の実施	地域活動拠点施設の基本構想・基本計画の作成の完了	H28:基本設計・実施設計 H29:建築工事 H30:供用開始	10月変更 (事業追 加)
8	新しい地域公共交通調査事業	H27	本村における今後の交通弱者対策や観光の振興に資する公共交通のあり方について明らかにする為、現状分析や需用調査、村営公共交通の運営に関するシミュレーション等を行う。	調査の実施	調査の完了	本調査の結果を踏まえ、今後の交通弱者対策に関する村の方針決定等に役立てる	10月変更 (事業追 加)
9	東村防災情報伝達手段構築事業	H27	災害時の情報伝達体制を強化する為、防災行政無線の戸別受信機を、土砂災害警戒区域、高潮や浸水被害の発生地域、要配慮者、屋外スピーカーの難聴力所等の住宅等に設置する。	戸別受信機を購入・設置の実施	戸別受信機を購入・設置の完了	土砂災害警戒区域や要配慮者等の安全確保に繋げる	10月変更 (事業追 加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

今帰仁村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
バ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			今帰仁村健康長寿体験滞在型観光の促進事業	H24 ~ H28	今帰仁村の健康につながる様々な資源を取り込み、来訪者に多様な健康づくりと観光活動の機会を提供する。「ヘルストゥリズム」を推進し、民泊事業等による観光の振興を図る。 本事業では、住民からアンケート調査結果や会議を通し長寿の秘訣を探り、健康長寿基本システムを構築することで、体験滞在型観光を促進する。	・健康長寿作戦会議開催(3回) ・健康長寿作戦実施事業(3回) ・ヘルストゥリズムの充実及びモニターツアーの開催(2回)	・地域で共に支えあう健康づくりプログラムの立案と実施 ・モニターツアーの開催(山形県酒田市20名 他東北の1県より20名)	(今後の展開方針) ・H28年度においても、健康長寿作戦会議、健康長寿作戦及びプロジェクトチームの会議を継続し、報告書の作成を行う。	
2			今帰仁村子ども教育充実事業	H24 ~ H33					
2			人材育成事業	H24 ~ H33	小学生を対象に、山形県酒田市と将来の指導者育成の為、交流事業を行う。南国沖縄県にとって、本州の北に位置する東北地方はまさに「異文化」であり、異なる環境で生活している同年代との交流を行うことにより、子供達の視野の広がり及び教養に対する意欲と、将来に向けての刺激を与える。	・派遣生徒数:36人	・酒田市新城小学校との交流会の実施 ・酒田市内での民泊の実施 ・スキー体験の実施 ・報告会の実施(1回)	(今後の展開方針) 派遣生徒数(累計):360人 ・地域及び本村のジュニアリーグの団員として活動 ・北山ていーだの会団員として「現代版組踊北山の風」のメンバーとして活動	
2			東ティモールと本村児童の交流推進事業	H24 ~ H33	東ティモールの児童を招聘し、本村3小学校との交流で国際感覚を育成し、今後、人道的支援を目指し、異文化交流を通して本村児童の人間性の育成や国際貢献できる人材育成を図り、又、本村の小学校校歌の作詞関係者であるソプラノ歌手(講師)を村内の各学校に招聘し、コンサートと東ティモール支援に係る講演会を実施する事によって、本村児童と東ティモールの児童との交流が図られる。	・東ティモールからの受入児童数:4人、引率:2人 ・コンサートの開催(4回) ・講演会の開催(4回)	東ティモールと本村の児童との交流 ・コンサート参加者数700人(H26年度:600人) ・講演会参加者数700人(H26年度:600人)	(今後の展開方針) 研修生受入者数(累計):50人 ・本村の児童生徒を東ティモールの児童との交流を継続的に図り、広い視野と国際的な見地に立てるような優れた人材育成に努める	
2			未来を担う人材育成事業	H24 ~ H33	大学進学に特化した講座を実施し、進学実績の向上と地域に根差した特色ある学校づくりの観点から地域教育資源を活用し学力向上と地域の活性化を目指す。	・大学進学講座の開催 開催期間:7月~2月 開催日数:95日(週3日程度) 開催講座数:190回 (1日あたり90分×2回)	・講座参加人数:10人 (H26年度:10人)	(今後の展開方針) ・参加者数の増加及び参加者の大学合格率の向上を図りながら、大学進学講座を継続して実施する。 ・3年生に限定せず1・2年生も対象に講座へ参加を募り、大学合格率の向上を図りながら、大学進学講座を継続して実施する。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

今帰仁村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
バ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2			教育環境充実事業	H25 ~ H33	児童生徒、個々に応じたきめ細かなサポートを行うため、各幼稚園、小中学校に支援員を配置する。また、幼稚園では預かり保育を実施する人員も確保し、保護者のニーズに対応する。	(支援員(預かり含む)の配置人数) 幼稚園(預)4人(特)0人 小学校(学)3人(特)8人 中学校(学)1人(特)1人	・児童生徒の学力や学習意欲の向上 ・児童生徒が困ることなく、学校生活を送れるようにサポートを行う。	(今後の展開方針) ・幼稚園では今まで午後の預かりを行っておらず、学童保育との二重保育となっていたが、3年後に幼保連携施設を整備するにあたり、幼稚園での預かり人員を3年間継続配置する。	
2			中高生海外語学留学支援事業	H25 ~ H33	英語を学ぶことへの関心・意欲を高めるとともに、「今帰仁村」の将来を担う、国際感覚豊かな人材育成のため、本村今帰仁中学校に在学する中学生2人(ハワイ2週間)及び北山高等学校に在学する本村出身高校生4人(ジョージア州2週間)を対象に、夏季休学中に姉妹校等においてホームステイをする機会を与え、世界に羽ばたく人材を育成する。	・留学生徒数 中学生:2人 高校生:4人	・古宇利ハーフマラソン等で外国人選手との通訳ボランティア活動 ・今帰仁城跡やさくら祭りなどで外国人観光客の通訳及びボランティア活動	(今後の展開方針) ・留学生徒数の増加及び自己負担の軽減を図りながら、留学支援を継続する。 ・留学生徒数累計(中学生:19人 高校生:33人)	
2			児童生徒等の県外派遣事業	H25 ~ H33	小・中学校の児童生徒並びに今帰仁村に所在する県立高等学校の生徒が、各種スポーツ大会や文化関係大会に参加するための県外派遣の費用を支援する。	・村内児童生徒等のスポーツ大会等への派遣費用を補助する。	派遣生徒数 ・県外少年団野球大会 20人 ・県外スポーツ大会 120人	(今後の展開方針) 派遣生徒数(累計):1,746人	
3			今帰仁村観光客受入強化事業	H24 ~ H33					
3			景観形成強化事業	H24 ~ H28	昔ながらの今帰仁村の景観が残る集落内の道路整備を行うことにより、観光客の集落内への受け入れ体制を強化する。 また、村が管理する道路の舗装、粉塵防止、雑草防止、防護柵等を整備し、車輛の安全及び歩行者が安全で歩きやすい歩行空間を確保することで、集落の深部への観光客受入体制を整える。	・観光客等が歩きやすい歩行空間の確保(道路の舗装、粉塵防止、雑草防止、防護柵設置等)	・快適な観光アクセスルートの整備(4.2km、全体計画の26%) 累積整備率(15.3km) 95%	(今後の展開方針) ・全体整備計画 H24~H28の5年間で観光アクセスルートを16.1kmを整備する。 ・H28年度の整備計画 防護柵設置・舗装・張りコン工事	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

今帰仁村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
バ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
3			環境保全美化推進事業	H24 ～ H33	本村の観光拠点となっている今帰仁城跡や観光地及び観光ルートの美化を実施し、観光客受入体制を整える。 また、地域環境の保全、地域住民及び観光客の安全と誘客を図り景観を保全するため、不法投棄パトロール、投棄物処理、ハブ駆除対策、野犬捕獲等の対策を強化する。	・村内の観光地の美化作業の実施。 ・歴史・文化的な松並木の景観保全の実施。 ・花植え付けの実施	・今帰仁城跡及び観光地の美化 ・観光ルートの美化(20路線) 全体美化のうち 美化率10%行う 累積整備率(101路線) 50% ・歴史的・文化的な松並木の景観保全 白アリの防除 55本 全体防除のうち 防除率30%行う 累積防除率(110本) 60% 樹木の強化 50本 全体強化のうち 強化率23%行う 累積強化率(100本) 46% 花の植え付け 10字 全体のうち 実施率52% 行う 植付実施率 52%	(今後の展開方針) ・全体整備計画 H24～H33の10年間で村内201路線(村道104路線 農道97路線)を整備する。・松並木の調査を進めながら、白アリの防除及び樹木の強化を図る。 ・防除全体計画 185本(県指定文化財 仲原馬場、農村公園等の松本数)(H28) ・樹木の強化全体計画 220本(県指定文化財 仲原馬場、農村公園等の松本数)(H29) ・全字19字(H28)	
3			風景づくり推進事業	H24 ～ H28	前年度モデル地区となった今泊地区を除く各字それぞれの景観むらづくりの支援メニューを各字ヒアリング、地域代表者意見交換会を開催しながら検討を行い、各字むらづくり支援メニューの作成を行う。	・地域代表者意見交換会の開催(3回)	・各地域の意向を把握し、プロジェクトチームにおいて景観むらづくり支援の実施に向けた調整、協議を行い景観むらづくり支援メニューの作成	(今後の展開方針) 村の景観を保全・継承するため、H28年度は今帰仁村全体の景観形成におけるハード事業ソフト事業にかかる支援実施要綱等を策定する。	
3			観光力基盤強化事業	H24 ～ H33	今帰仁村の観光地としての知名度アップを図るため、「現代版組踊 北山の風」、総合まつり、ハーリー、さくら祭り、運天港いちゃり場まつりなどのイベントを実施する。また、今帰仁村総合運動公園を高校駅伝やハーフマラソンの拠点とすることで、民泊事業の導入拡大を図り、村観光協会と連携し、観光関連産業の活性化につなげる。	・現代版組踊「北山の風」開催(8月・10月・2月) ・古宇利ハーフマラソン開催(4月) ・今帰仁城跡ライトアップ及び桜まつり開催(1月) ・今帰仁総合まつり開催(10月) ・今帰仁ハーリー開催(8月) ・三村交流事業開催(11月)	・現代版組踊「北山の風」来場数:1,200人(H25実績:1,123人) ・古宇利ハーフマラソン参加者数:3,500人(H25実績:3,354人) ・今帰仁城跡ライトアップ及びさくら祭り来場者:40,000人(H25実績:37,716人) ・今帰仁総合まつり来場者:10,500人(H26実績:9,500人) ・今帰仁ハーリー大会出場者数:825人(H26実績:814人) ・三村交流事業来場者:900人(H26実績:800人)	(今後の展開方針) ・村の活性化を図るため、イベント等の支援を継続して行う。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

今帰仁村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
バ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
3			観光地安全強化事業	H24 ~ H33	主要観光地である世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全の確保を図るため、イベント時に、車輛の誘導及び駐車場、横断歩道等に交通整理員を配置する。	・交通整理員の配置:4人(12月~2月) ・今帰仁城跡来訪者安全対策の実施	・今帰仁城跡来訪者(約266,500名見込み)の安全の確保(12月~2月)	(今後の展開方針) ・イベント時の来訪者の安全対策を図るため、今帰仁城跡に交通整理員を継続して配置する。	
3			今帰仁城跡周辺環境整備事業	H24 ~ H30	今泊集落内を流れる普通河川(今泊港川)の整備を図ることにより、河川敷きなどの空間の有効活用、治水の安全度を図るなど、河川全体の自然環境を最大に活かした河川再生は重要な施策である。今帰仁城跡を訪れる観光客又は海浜を訪れる観光客の安全・安心な河川を再生し観光基盤を強化する。	・今泊港川(延長560m)の下流左岸部分(92m)の工事 ・橋梁設計業務の実施	・全体計画における16%整備 累積整備率 48.5% ・今帰仁城跡付近を流れる今泊港川を整備することで、河川敷きなどの空間を有効利用、治水安全度の向上が図られることはもとより、観光客の安全・安心な観光基盤を構築することができる。 ・橋梁設計書の完成	(今後の展開方針) ・H28~30年度:河川の整備 ・H31年度:供用開始 ・全体整備計画 560m(H30)	
3			今帰仁城跡ガイド強化事業	H25 ~ H33	今帰仁村には世界遺産今帰仁城跡が所在し、今帰仁グスクを学ぶ会によって来城者に無料のガイドが行われている。学ぶ会の更なる充実強化を図ることで、ガイド個々の資質向上が図られ、今帰仁城跡の魅力観光客にアピールすることが出来るためガイドの強化を行う。	・案内に資する知識を得るために講演会(1回)及び研修会(2回)を開催する。	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール ・ガイドによる来訪者の案内 11,700名目標(平成26年度、案内する来訪者数見込数 11,600名)	(今後の展開方針) ・来訪者に今帰仁城跡の歴史等について正しく理解してもらうために、ガイドの資質向上につながる講演会や研修会を継続して開催する。	
3			今帰仁村総合運動公園施設機能強化事業	H24 ~ H28	「体験滞在観光を促進する」「着地型・周遊観光を実施する」を基本方針として、観光振興を強化する。観光客の受入れ体制を整えるため、村内の観光スポットの美化・整備を強化し、住民への景観形成への意識を高め、今帰仁村の観光地としての知名度を上げ、集客につなげる。既存の施設を活用し、スポーツによる交流など今帰仁村を目的地とするよう観光の通年化を図る。	・村営プール改修調査設計委託 ・村営プール改修工事	・村営プール改修調査設計書の完成 ・村営プール改修工事の完了 ・プールを整備することで、他の施設も含めた活用により本村の観光地としての知名度を上げ、観光客等の集客につなげることができる。	(今後の展開方針) ・H28年度:イベント広場の建設工事 ・全体整備計画 10,500㎡ ・年度毎に改修・整備した施設の利用を促進するために、ホームページ等を活用し広報活動を行う。 ・合宿数の基準値(H25 30団体)をH30年度には、40団体の合宿を誘致する。	
3			今帰仁村観光情報発信強化事業	H27	今帰仁村観光関連情報の提供、観光案内板の設置、年間通して行われる各種イベントの周知、村特産品の情報発信を強化し、今帰仁村の観光情報を最大限に活用し、今帰仁村の知名度アップを図る。	・イベント情報案内板の設置(2ヶ所) ・特産品フェアの開催(1回)	・今帰仁村の西地区と東地区に看板を設置し、イベント情報案内の実施 ・今帰仁村特産品のPRを実施	(今後の展開方針) ・村内の観光地及び各種イベント情報等の発信を強化し、着地型・周遊観光推進を継続して実施する。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

今帰仁村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
3	今帰仁城跡機能強化整備事業	H27	今帰仁城跡は平成12年に世界遺産登録され、また、平成19年度から今帰仁グスク桜まつりが始まったことにより、観覧者が大幅に増加した。そのような中で、トイレ等の利用が増加し、現在のトイレ及び浄化槽の規模では処理が追いつかない状況が続いている。よって、トイレ及び浄化槽を新設整備し観光客受入体制の強化を図る。	・トイレ及び浄化槽の設計委託 ・トイレ及び浄化槽の新設工事	・トイレ及び浄化槽の設計書の完成 ・トイレ及び浄化槽の新設工事の完了 ・トイレ及び浄化槽を整備することで、今帰仁城跡における観光客の受入体制の強化及びイメージアップを図ることができる。	(今後の展開方針) ・トイレ及び浄化槽を新設整備し観光客受入体制の強化を図り、今帰仁城跡のイメージアップを図っていく。		
4	今帰仁村優良繁殖雌牛導入支援事業	H26 ~ H33	安定した素牛生産地の確立のため今帰仁村和牛改良組合員が沖縄県農業協同組合の貸付牛を導入する際に、導入牛の価格に対し支援を行う。	・繁殖牛を導入する際に1頭あたり50万円を上限に支援を行う。	繁殖牛 21頭導入 ・全体計画のうち 導入率12%行う ・累積導入率(42頭) 25%	(今後の展開方針) ・今後の母牛の品質向上を図るため、導入した牛から産まれた雌子牛のうち、発育良好な雌牛を保留する。 ・導入全体計画 170頭(H33)		
5	墓地基本計画策定事業	H26 ~ H27	村の景観や住環境に配慮し、墓地の適正配置及び集約を図るため、総合的な指針となる「今帰仁村墓地基本計画」を策定する。	・今帰仁村墓地基本計画の策定	・今帰仁村墓地基本計画の決定 ・墓地基本計画を策定することで、今後の墓地における行政の考え方が示すことができ、住民へ墓地利用に対して的確な対応が可能となる。	(今後の展開方針) ・基本計画を基に、墓地等経営許可の事務処理の実施。		
6	幼保連携一体化施設整備事業	H27 ~ H29	就学前の子どもを持つ家庭の育児支援や連続性のある幼児教育、保育環境を創出し、保育サービスの拡充と地域の子育てニーズや新制度に対応したバランスのとれた総合的な子育て支援を行うため、就学前の幼児教育・保育を一体的に担う「幼保連携一体化施設」の整備を行う。	・基本計画の検討 ・基本設計の検討	・幼保連携一体化の基本的な施策の決定(基本計画の策定) ・施設整備の基本的な方向性の決定(基本設計の策定)	(今後の展開方針) ・H28年度:不動産鑑定、建築設計、用地取得、造成工事 ・H29年度:建築及び外構工事、付帯設備工事、解体工事、施行監理 ・良好な子育て支援環境の充実や効果的な幼児教育、保育の確保の推進を行う。	5月変更(事業追加)	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

本部町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			本部町観光拠点形成事業						
1			花いっぱい運動の推進事業	H24 ~ H28	観光地としての魅力を高めるため、国道及び県道沿い等にプランターの設置や花の植え付けを行う。実施は、本部町観光協会へ委託する。植え付け作業は、町内の各種団体から成る「本部町まちぐるみ花いっぱい推進協議会」で行う。	プランター設置 = 66基	プランター設置率: 93.5% 【5年間の設置目標に対するH27年度までに設置する割合】 (5年間設置目標: 1,008基 H24実績540基 H25実績270基 H26計画66基 H27計画66基)	(今後の展開方針) 5年間で1,008基のプランター設置等を行い、地域ぐるみの花いっぱい運動を推進する。 (今後の設置予定) H28年度66基	
1			ハブ咬傷防止事業	H25 ~ H33	タイワンハブ捕獲トラップの購入及び設置・回収を行うことにより、個体数の減少及び拡大する生息域の抑制を図り、地域住民や観光客の咬傷事件を予防し、安全・安心な観光地づくりを目指す。	ハブ捕獲器を町内約150カ所に設置	ハブ捕獲数年間: 200匹	(今後の展開方針) タイワンハブの分布状況の把握に努め、密集地帯の駆除を重点的にを行い、個体数及び生息域の抑制を図る。	
1			本部町観光プラットフォーム構築事業	H25 ~ H27	近年、観光客のニーズが多様化している中で、今後の観光推進を図るには、それらに対応した観光プラットフォームづくりが必要となる。そこで今回、本事業を本部町観光協会に委託し、観光コンテンツ開発・地域関連事業者との連携・販路開拓などを行う組織づくりを行う。	・地域事業者とのネットワーク構築 ・ビジネスモデルの検証 ・ワークショップの開催 3回 ・モニターツアーの実施 3回	・観光ビジョンの構築 ・ワークショップ参加者 各10名 述べ30名 ・モニターツアー参加者 各20名 述べ60名	(今後の展開方針) ・組織運営体制の強化・ネットワーク拡充 ・収益スキームの開発・検討 ・情報発信(SNS、イベント出展) ・県内外旅行会社との連携	
1			山里山百合増殖普及事業	H25 ~ H27	在来種の山百合(鉄砲百合)を観光資源として活用した地域活性化を図るため、本部町の山里地域に多く自生している山百合の補植を行い、同地域を山百合で溢れる地域にする。	自生山百合の増殖: 70,000株 山里地区でのイベント(山百合祭など)の開催(1回)	イベント実施による観客数: 300人 【3年間の補植目標に対するH27年度までに補植する割合】 山百合の補植率: 100%	(今後の展開方針) 山百合祭などのイベント実施 山百合の補植 H25~27年度で120,000株 H25年度: 20,000株 H26年度: 30,000株 H27年度: 70,000株	

H27活動目標(指標): 平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標): 平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

本部町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考		
パ	細				H27事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等	補足説明等
1			伝統興行観光化事業	H25 ~ H28	沖縄の伝統興行である「闘牛」や「闘山羊」を後世へ継承していくために、ナイター闘牛や闘山羊大会を定期開催することで伝統興行の活性化を図る。また、闘牛舎及び付帯設備を整備することで闘牛文化継承者の負担を軽減し、伝統興行の継承に寄与する。	・伝統興行の実施:3回 ・闘牛舎及び付帯設備(し尿攪拌庫、堆肥舎)の建設	・伝統興行の実施による観客数:1,377人(過去2年間の実績の平均値) ・闘牛舎及び付帯設備(し尿攪拌庫、堆肥舎)建設工事の完了	(今後の展開方針) 伝統興行の実施 H28年度:3回	7月変更 (計画変更に伴う事業内容・各目標変更)	
1			本部町2大まつり事業	H25 ~ H28	本部町の2大まつりである海洋まつりと桜まつりを充実させ、本部町の魅力を観光客に周知し観光産業の活性化を図る。	2大まつりの実施 ・海洋祭り 8月 ・桜祭り 1月	2大まつり来訪者数 ・海洋祭り 10,000人(2日間合計) ・桜まつり 10,000人(期間中1日平均) (参考)過去実績 ・海洋まつり H22年度6,441人、H23年度6,037人、H24年度8,629人、H25年度11,506人、H26年度3,043人 ・桜まつり H22年度8,202人、H23年度9,425人、H24年度9,668人、H25年度10,809人	(今後の展開方針) エーエージェントとの連携を図り、県外からも多くの方が訪れるようなイベントを目指す。		
1			本部町フクギ集落整備事業	H25 ~ H28	本部町の北部地域は、フクギ並木などで有名な観光名所である。今後の観光振興につなげるためにも、地域の集落景観の維持・保全等計画を推進するとともにフクギの剪定や案内板等を整備し、地域自然を有効活用した集落づくりに取り組む。	フクギ集落の排水 舗装・案内板等の整備工事	地域に訪れる観光客の安全・安心(剪定及び散策道改修による歩行者の安全確保)及び地域住民の定住環境改善(フクギ剪定による倒木等の危険性除去や日照確保)に寄与する。	(今後の展開方針) ・町や観光協会とフクギ集落地区のネットワーク強化 ・県内外旅行会社と連携したフクギ集落景観を活かした観光コースの検討		
1			八重岳観光拠点整備事業	H25 ~ H28	日本一早い桜祭りとして有名な八重岳には毎年多くの観光客が訪れるが、今後も本部町の主要観光拠点としてアピールしていくためには、観光客に配慮した拠点整備が必要である。本事業において排水路整備を行うことは、法面崩壊と桜(緋寒桜)の倒木防止になり観光資源の保全と観光客の安全確保が図られる。	排水工事の実施 L= 300m 広場整備工事の実施 A=6,000m2 用地測量及び用地取得 A=4,348m2	排水路及び広場を整備し、法面崩壊や桜の倒木防止等を図り、観光客の安全を確保する。	(今後の展開方針) 八重岳入口河川の親水護岸及び排水路整備の早期完成 新たな拠点(広場)づくりにおける観光客誘客方策の検討		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

本部町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1		本部町景観形成重点地区指定等事業	H26 ~ H27	本部町景観計画の景観形成重点地区に新たに「名護本部線周辺地区」「八重岳桜の森公園地区」の指定に向け景観形成方針・基準の検討を行い、住民ワークショップ等を開催して住民との合意形成を図り、景観審議会の意見も踏まえ景観形成方針・景観形成基準を作成し、景観計画の一部見直しを行い、景観重点地区として指定する。	景観形成方針の検討 景観形成基準の検討 住民ワークショップ等の開催 景観審議会への報告 景観計画の一部見直し 景観重点地区の指定	景観形成方針及び基準を作成し、景観計画の見直しを行う。 景観重点地区の指定箇所数 平成22年度 2か所 平成27年度 4か所	(今後の展開方針) 景観形成方針及び基準をもとに景観指導を行う。	
1		観光漁業実証調査事業	H26 ~ H29	本町の有する水産資源の魅力に触れる体験型観光プログラムの構築を図るため、中層型浮漁礁等を活用した実証試験を行う。観光協会、漁業協同組合と連携し受入体制の強化を図り、「ここでしか味わえない」をキャッチフレーズに観光地としてのブランド力を向上させる。	観光プログラムの実証 ・体験型観光の実施及びデータ収集 観光漁業基盤整備 ・生簀の設置2基	町内水産資源を活かした体験型観光の実施を行い、観光プログラムの構築に向けデータ収集を行う。	(今後の展開方針) 観光協会及び漁業協同組合と連携し事業展開する。	
1		周遊観光実証調査事業	H24 ~ H28	既存のタクシーを活用して、観光客に認知されていない本部町内の穴場的スポットの周遊観光を行う。また、各観光スポットの観光ガイドや各種体験観光サポートを行う人材の育成及び観光スポットの見所などをわかりやすく伝える案内表示設置などの受入環境整備や、町内宿泊施設と連携したパッケージを提案・開発していく。	周遊タクシーの稼働:3台 観光ガイド講習会開催 案内表示、パンフレットの作成等 新パッケージの検討	周遊タクシー利用客:200名 観光ガイド数:4名 案内表示、パンフレットの作成等:3件 新パッケージ:1件	(今後の展開方針) 観光協会による事業の本格稼働・ブラッシュアップ。	5月変更 (事業追加)
1		観光地安全対策事業	H27 ~ H28	本町には、県内最大の観光施設である沖縄美ら海水族館があり、県内外から年間430万人もの観光客が訪れており、安心安全な観光地づくりが課題となっている。そこで、本町の主要道路に防犯カメラを設置し、安心安全な観光地づくりを図る。	防犯カメラの設置:2台	防犯カメラ2台の設置完了	(今後の展開方針) 本部警察署等とも連携し、防犯カメラの利活用を図る。 H28年度 防犯カメラの設置:3台	12月変更 (事業追加)
2		本部町亜熱帯農業生産体制強化事業						

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

本部町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
2	園芸農業防災施設整備事業	H24～H27	沖縄県では台風の襲来や病虫害の発生により農作物の被害が大きくなるため、農家経営に対する不安や生産意欲の減退などの課題がある。そこで、農業生産物の産地化を図るため、台風対策用のハウス等の施設の導入を行う。	ビニールハウスの整備件数:3件	ビニールハウスの活用により生産性の向上の体制整備	(今後の展開方針) ・自然災害による農作物被害の低減 ・施設整備による産地形成		
2	もとぶ自産自消推進モデル構築事業	H24～H28	これまで本町では本地元産食材のまとまった出荷組織がないため、町内ホテルや飲食店等では、地元産食材を活用できずにいました。地元で生産された島ヤサイやそれを活用した加工品などを地元で消費する『自産地消』を推進する直売所モデルを確立し、直売所の自立した運営を図る。	直売所モデル実証・雇用創出 移動集荷・販売モデルの実証 地域連携加工モデル実証 (加工部門の地域連携体制の構築、等) 食育・食農教育モデル実証	・出品登録者数 : 80人 ・町内取引先数 : 40業者 ・もとぶ香ネギソース 平成27年度出荷目標:250パック	(今後の展開方針) H28年度末時点 出品登録者数(累計) : 100人 町内取引先数 : 50業者 もとぶ香ネギソース 平成28年出荷目標:450パック		
2	もとぶブランド牛基盤づくり支援事業	H25～H29	肉用牛生産農家及び農業生産法人のもとぶ牛ブランド化の基盤創出のため、優良母牛の導入に対する支援を行う。	優良母牛導入の支援	優良母牛導入頭数:45頭	(今後の展開方針) 平成27～29年度にかけて 45頭導入し優良系統への更新を進める。		
3	モトブンチュ人材育成事業	H25～H29	沖縄の伝統文化である琉球舞踊、琉球民謡、方言、遊び、エイサー等を通して触れ合う場、学ぶ場を提供し、沖縄独自の伝統文化の継承を図る。	・伝統文化継承教室開催240回 (三線、琉舞、沖縄民謡読み聞かせ、昔遊び、空手、やちむん絵付け、物作り) ・町内イベントでの体験型プレイショップ開催3回	教室目標参加者数 2,600人 体験型プレイショップ目標参加者数 600人	(今後の展開方針) H25～H30延利用者数 15,000人		
4	本部町教育環境整備事業							
4	本部町学力向上学習支援事業	H26～H33	将来の沖縄振興を担う子どもたちの学力向上を図るため、学習支援員の配置を行う。町内小・中学校に学習支援員を配置し、国語及び算数・数学、及び必要に応じその他の主要教科において「授業支援」を行う。また計画的な「放課後支援」を行い学習の遅れている児童生徒へ習熟学習の支援を行い学力向上を図る。	・町立小学校 5校へ配置 ・町立中学校 2校へ配置	・全国学力調査での全国平均との差 小学校 総合点 全国平均以上を維持 H26年の差 +0.6ポイント 全国平均 66.2ポイント 本町 66.8ポイント 中学校 総合点 5ポイント向上 H26年の差 -13.5ポイント 全国平均 64.4ポイント 本町 50.9ポイント	(今後の展開方針) H33年度全国学力・学習状況調査 全国平均以上。		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

本部町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
4		本部っ子短期留学チャレンジ事業	H27 ～ H33	夏休みを利用し、町内の中高生を英語圏へ短期間派遣し、ホームステイを実施する。生きた英語に触れることにより、今後の英語学習への意欲を高め、また異文化体験することにより、広い視野で物事を捉える人材育成を目指す。	町内の中高生を英語圏へ短期間派遣(2週間)	将来を担う中高生を英語圏へ派遣することにより、国際語である英語学習への関心及び意欲向上、異文化を体験することにより、広い視野で物事を捉え、グローバル環境下で積極的にチャレンジする人材育成を目標とする。	(今後の展開方針) 平成27年度から平成33年度まで毎年中高生を英語圏へ短期間派遣	
4		音楽による人材育成・地域振興事業	H27	町内中学校の吹奏楽部に対し吹奏楽器を購入することで、イベント等活動の幅が広がり生徒の活動意欲を高めることができる。 学校行事だけではなく地域行事などにも積極的に参加し、「武本部」の精神を養う人材を育むと共に地域振興にも寄与する。	町内中学校2校 上本部中学校 19個購入 本部中学校 11個購入	演奏の幅が広がり学校行事だけでなく地域行事等でも積極的に演奏し地域住民との繋がりがもて地域振興につなげる。また、生徒の意欲情操向上を図ることを目標とする。 楽器購入後イベント参加回数:3回	(今後の展開方針) 楽器整備後は、町内の祭りや式典イベント等へ積極的に参加し、地域一体となって人材育成や観光振興の向上を図る。	
5		赤土流出防止検討調査事業	H24 ～ H30	本町をはじめ沖縄県内で以前から問題とされている海洋への土壌流出について、本町内での発生源調査や、その発生源に対する土壌面の被覆、ほ場等周辺へのグリーンベルトの植栽配置及び流出源となる河川堆積土砂の浚渫、フィルター材の設置など、流出面から河川へ至る線への対策を実施することで赤土の流出抑制を図る。	流出対策事業(工事) 用地取得(7筆・394㎡)	流出対策事業:調査済流域1箇所 用地取得(7筆・394㎡)の完了	(今後の展開方針) 調査検討業務の成果を活用し、順次町内で対策事業を実施する	5月変更(事業追加) 12月変更(計画変更に伴う各目標変更)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

恩納村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1		ハーリー船購入支援事業	H27	観光資源のひとつとして盛り上がりを見せるハーリー行事を継承することにより沖縄らしい風景の観光のまちづくりによる受け入れ体制の充実を図るため、ハーリー船購入費用を支援する。	ハーリー船購入費の支援：3隻	・前兼久漁港ハーリー行事での活用準備 ・修学旅行等の体験学習での活用	・建造したハーリー船を活用し伝統行事ハーリーを継続的に実施する。 ・体験学習等でハーリー船を活用し、沖縄の伝統行事に触れる機会を生み出す。	
		恩納村「みどりの回廊」整備事業	H24～H28	魅力ある観光地づくりを行うため、保安林に村木であるフクギを植栽することで、風による被害対策をするとともに景観づくりを行う。また国道58号線及び村内景勝地周辺を緑あふれる癒しの沿道景観づくりのほか、海浜における漂着ゴミ等の処理などを行い、観光客の誘客促進を図り地域活性化へ繋げる。	・国道58号線沿道、村内景勝地、保安林等への植栽、剪定等の実施 ・海浜漂着ゴミ除去の実施	魅力ある観光地の形成	・危険木の伐倒等で減少した保安林に植樹をすることで、村内の景観づくりに努める。	
		前兼久漁港防犯施設整備事業	H27	多くのダイビング客が訪れる前兼久漁港南側には照明施設がなく、夜間から早朝にかけての盗難被害が発生しているため、防犯施設に防犯灯及び防犯カメラを設置する。	防犯灯の設置：2基 防犯カメラの設置：1基	安全・安心な観光地の形成	防犯灯や防犯カメラの設置により、観光客等の安全・安心な観光地づくりにつなげる。 盗難被害の件数：0件 (参考 H26年届出件数 3件)	
		恩納村海浜公園構内道路整備事業	H27	恩納村海浜公園構内道路の一部が未舗装であり、不陸により高齢者や身障者の歩行に支障を来しているため、舗装整備を行い、快適な観光施設づくりを実施する。	恩納村海浜公園内の舗装工事：520㎡	高齢者及び身障者の利便性及び安全性の確保	恩納村海浜公園を整備することにより、誰でも利用しやすい観光施設を目指す。	
		恩納村美ら海花火大会事業	H27	トップシーズンに恩納村を訪れている観光客等に対し、恩納村の観光資源である海浜等において大花火大会を実施し、恩納村の魅力を発信することにより観光振興を図る。	・美ら海花火大会の開催 ・シャトルバスの借用：10台 ・PRチラシの作成：35,000枚 ・警備員の配置	同時開催うんなまつり来場者数：16,600人 (基準値：H26年 15,100人)	効果を検証し、開催の継続や時期、内容を検討していく。	
		恩納村旅の案内人配置事業	H27～H33	平成27年4月にオープン予定の恩納村文化情報センター観光情報案内フロアに訪れた観光客等に対し、地域の魅力やイベント等を多言語で紹介できる旅の案内人を配置する。恩納村の魅力を発信することにより観光振興を図る。	嘱託職員(案内人)の配置：2人	・観光情報案内人数：3,000人 (恩納村文化情報センター利用者目標人数：60,000人/年の5%)	H33年度まで配置を継続し、恩納村の魅力を丁寧に説明することにより国内外のリピーターの増加につなげる。 ・文化情報センター利用者数目標：75,000人(H33年度)	

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

恩納村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			恩納村フォトスポット設置事業	H27 ~ H33	リーガルウエディングやリゾートウエディング等で恩納村を訪れる方に「恩納村」らしいフォトスポットを設置し、魅力ある恩納村を発信することにより、更なる国内外への観光客に満足していただける恩納村を目指す。	フォトスポット設置1か所(年4回装飾内容を更新する)	リゾートウエディング(リーガルウエディング含む)受付件数:323件 (平成26年受付件数308件の5%増)	活用状況を収集し、観光発信につなげる。 今後は文化情報センターや万座毛、真栄田岬施設等に拡大していく。	
			万座毛周辺活性化施設整備事業	H24 ~ H30	多くの観光客が訪れる「万座毛」は、施設の整備が行き届いていないため、トイレ、売店、休憩所等の活性化施設及び周辺環境を整備する。	活性化施設整備に向けた(土産品店、トイレ、散策道等)の基本設計の実施 駐車場施設整備に向けた実施設計の実施	活性化施設整備に向けた基本設計書の完成 駐車場施設整備に向けた実施設計図書の完成	・事業スケジュール H28年度:活性化施設実施設計、駐車場工事 H29~H30年度:土産品売店、トイレ等建築工事 H31年度:供用開始 ・万座毛入域客数 目標 H34年度 107万人/年 参考 H23年度 86万人/年	10月変更(計画変更に伴う各目標変更)
			観光地危険生物駆除事業(ハブ駆除事業)	H24 ~ H27	外来種の台湾ハブやタイワンスジコが観光客の多く訪れる真栄田岬や国頭方西海道(歴史の道)の散策者への咬症事故が予測されるため、その周辺を、重点区域とし積極的に駆除する。	・ハブ生息地へのハブ捕獲器設置数:400箇所	・ハブ捕獲数:180匹 (基準値:H24年 184匹)	・ハブ生息地拡大が予測されるため、捕獲器設置エリアの拡大 ・捕獲器設置数の増加 ・拡散防止の強化	
			沖縄関連資料整備事業	H27	沖縄に関連する資料を文化情報センターに揃え、観光客を含めた利用者へ提供することにより、付加価値を高める受け入れ体制の充実を図るため、映像・音楽・図書などの沖縄関連の資料を整備する。	映像・音楽・図書などの沖縄関連資料の購入 ・稀覯書 約 90冊 ・視聴覚資料 約 400点 ・沖縄関連図書 約3,900冊	・観光客等の資料の利用:200冊 ・宿泊施設への貸出:2施設(100冊)	購入した資料を広く活用するため、観光宿泊施設と連携し、継続的な貸出を行う。 ・宿泊施設への貸出:3施設(H28年度) ・今後は宿泊施設等の要望により拡大する。	5月変更(事業追加)
			「谷茶前の浜」整備事業	H27 ~ H28	恩納村を代表する沖縄民謡「谷茶前節」で知られる「谷茶前の浜」周辺を恩納村の文化の発信に寄与する観光地として整備する。	・駐車場等の用地購入 778㎡ ・駐車場及び石碑建立の実施設計 ・メロディロード整備工事 412m	・駐車場等の用地購入の完了 ・H28駐車場及び石碑建立工事にに向けた実施設計の完成 ・新たな観光スポットの形成	H28年度:「谷茶前の浜」駐車場及び石碑の整備完了 新たな観光スポットとして、おんなサンセット海道の活性化につなげる。	5月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

恩納村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			前兼久区交流施設整備事業	H27 ~ H28	前兼久区において、ハーリー等の伝統行事を通じた観光客との交流・体験学習を実施し、伝統芸能継承、各種団体活動などの多様な活動を推進するため、交流施設を整備する。	交流施設整備工事全体の80%の実施	交流施設整備工事全体の80%の完了	H27年度～H28年度建築工事完了 H29年度：供用開始予定 観光メニューづくり等に取り組み、観光客の誘客を図る。 目標利用者数：年間約2,700人	7月変更(事業追加) 10月変更(計画変更に伴う各目標変更)
2			沖縄特殊戸籍電算化事業	H27	沖縄の戸籍は戦後生存者の記憶をもとに申告された重要な書類である。現在でも戸籍訂正の基礎資料として重要な役割を果たしているが、紙媒体による保存のため劣化が著しい。今後も安定かつ継続的な沖縄関係戸籍に係る住民サービスを確保するため電算化を実施する。	沖縄特殊戸籍のイメージ電算化 ・仮戸籍申告書：18,124枚 ・臨時戸籍：3,138枚 ・福岡戸籍：902枚 ・受附帳：2,655枚	・沖縄関係戸籍の電子化率 100% ・情報資産の劣化・滅失防止	沖縄特殊戸籍の電算化により、重要書類の確保及び事務の効率化、住民サービスの向上を図る。	
3			防災倉庫整備事業	H27 ~ H28	地震や津波などの自然災害に強いむらづくりを推進するため、災害時に住民・観光客等が避難する場所に防災資機材や備蓄食糧等の生活物資を保管する備蓄倉庫を整備し、防災活動基盤を整備する。	備蓄倉庫の整備 2か所 防災資機材の整備 2か所 備蓄食糧等の整備 2か所	計画数5カ所、平成27年度完了予定数2カ所 村指定避難場所における整備率 ・防災倉庫の整備率 40% ・防災資機材の整備率 40% ・備蓄食糧等の整備率 40%	H28： 備蓄倉庫の整備 3か所 防災資機材の整備 3か所 備蓄食糧等の整備 3か所 村指定避難場所における備蓄倉庫等の整備率100%を目指す。	
			避難標識等設置事業	H27	津波等各種災害に備え、住民や観光客の安全対策を講じるため、津波避難場所までの案内標識や避難所等を示す標識を設置する。	避難経路標識設置：90カ所 災害時一時避難場所標識設置：40カ所 災害時避難所標識設置：25カ所	・避難経路標識設置完了 ・災害時一時避難場所標識設置完了 ・災害時避難所標識設置完了	初めて訪れる観光客を含め、災害時に対応できる安心・安全な観光地としてのPRを図り、災害発生時の避難誘導体制を確立する。	
4			仲泊校ICT教育機器整備事業	H27	マルチメディア情報を豊富に含むデジタル教材を使用した授業を行うことで、学習内容を教師が具体的に分かりやすく説明することが可能となり、児童生徒の学習への興味関心を高め、学力の向上を図るためICT教育機器を整備する。	可動式コンピュータ63台 電子黒板機能付きプロジェクタ・スクリーン13台 実物投影機8台 パソコン教室用コンピュータ40台 管理サーバ1台 接続用ケーブル式 ソフトウェア一式 フラッシュ教材等デジタル教材一式	沖縄県学力到達度調査における県平均正答率の差 小学校5年生 算数：4%以内 (基準値：H26年度(小4) 県平均68.7% 村平均62.2%) 中学校2年生 数学：2%以内 (基準値：H26年度(中1) 県平均56.1% 村平均52.5%)	平成29年度目標として全国学力学習状況調査において、平均正答率を全国平均まで向上させる。 沖縄県学力到達度調査において全教科、県平均を超える。	

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

恩納村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			仲泊校窓ガラス遮光・遮熱対策事業	H27	多目的スペース窓ガラスからの入り日と普通教室窓ガラスから海面の反射光と西日により、黒板の字が見えづらく、授業に支障をきたしている。また、児童生徒及び教師の健康面、特に眼科疾病等が心配されるため窓ガラスへ遮光・遮熱ロールカーテンを設置することにより太陽光を適切に遮光・遮熱することで快適な学習環境を提供する。	遮光・遮熱ロールカーテン設置 多目的スペース3ヶ所 普通教室 9ヶ所	適切な遮光による快適な学習環境の確保	児童生徒の学習環境が整うことにより、授業への集中力が上がり学力の向上が望める。	
			小学校デジタル教科書整備事業	H27	児童生徒の学習意欲の向上と学力の向上を図るため、従来の教科書と併せてマルチメディア資料を豊富に含むデジタル教科書のメリットを活用したわかりやすい授業を行うための環境整備として、全小学校の全学級へデジタル教科書を整備する。	村内全小学校(5校)へデジタル教科書の整備 小学校国語/1年～6年 小学校書写/1年～6年 小学校社会/4年～6年 小学校音楽/1年～6年 小学校社会/地図帳 小学校算数/1年～6年 小学校理科/1年～6年 小学校図画工作/1年～6年 小学校家庭科/5.6年	沖縄県学力到達度調査における県平均正答率の差 小学校5年生 算数:4%以内 (基準値:H26年度(小4) 県平均68.7% 村平均62.2%) 中学校2年生 数学:2%以内 (基準値:H26年度(中1) 県平均56.1% 村平均52.5%)	村内全小学校(5校)全学年へデジタル教科書を整備し、正答率30%未満の児童生徒・無回答率の改善に向けた授業改善を行い、全国との差を1.0ポイント内に収める。	
5			優良繁殖牛導入支援事業	H27～H28	恩納村内肉用牛生産農家の所得向上と畜産業振興を図るため、優良繁殖雌牛の導入を支援する。	優良繁殖牛の導入支援	優良繁殖牛導入頭数:7頭(導入率50%)	H28年度:7頭導入(導入率100%) 1農家に2カ年で2頭を導入し、所得向上や品質の向上による生産強化を図る。	5月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

宜野座村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			観光振興プロジェクト事業	H24 ～ H33					
1			阪神タイガース春季キャンプ受入事業	H24 ～ H33	阪神春季キャンプの受入態勢の強化を図り、キャンプ中はもちろん年間を通して誘客出来る観光資源として開拓していく。	阪神春季キャンプの受入体制の構築 ・野球場仮設ブルベン、防球ネット、エアアーチ、パワーテント等設置 ・野球場、総合グラウンド黒土搬入	阪神春季キャンプの受入体制を構築することにより、キャンプ誘客増加(1,200人)【H26誘客数63,800人】	関係団体(観光推進協議会、商工会)との連携をして集客と滞在時間の延長を図る。 集客目標 H28:70,000人 H33:80,000人	
1			宜野座村文化のまちづくり魅力発見事業	H24 ～ H33	教育・観光振興、人材育成を図るとともに、宜野座村の魅力アピールし村全体の活性化を図るために、宜野座村文化センターがらまんホールを中心に、文化イベント事業の開催や、お出かけアウトリーチ事業(ホール外の地域内外へ飛び出して、多くの方に芸術の魅力を伝える。また、観光地などの拠点等で開催することにより観光産業、地域振興ともリンクするイベントを行うこと)や国際交流イベント事業を行う。	・芸術文化・伝統芸能公演の開催数(26回) ・お出かけ公演実施数(12公演) ・子ども育成事業(40人) ・国際交流事業(1回)	・芸術文化・伝統芸能公演の集客数(2500名) ・お出かけ公演実対象者数(800名) ・子ども育成事業(ダンス・音楽塾生徒40名のイベント公演への出演) ・国際交流事業(ハワイ県人会、村人会との友好確立、繋がり強化)	(今後の展開方針) H27～H33 ・芸術文化・伝統芸能公演の開催26公演/年 ・お出かけ公演実施:12公演/年 ・子ども育成事業実施:144回/年	10月変更(計画変更に伴う活動目標変更) 12月変更(計画変更に伴う各目標変更)
1			宜野座村着地型観光誘客推進事業	H25 ～ H33	宜野座村の着地型観光を推進するため、本村の地域資源を活用した地域発信の観光事業を展開し、着地型観光商品の事業化に向けた取り組みを推進するとともに、地域企業等との連携を密にし、着地型観光受入の地域コーディネーターの強化、PR活動の必要な情報媒体の整備、イベント事業展開等の支援を行う。	観光誘客プロモーション活動及びイベントの開催(年間) 地域ガイド育成講座開催(6回) 先進地視察研修(1回)	・宜野座村の観光入客数(19万人) 【入客数:H25 15万人、H26 17万人】 ・地域観光ガイド育成(5人) 【ガイド育成講座参加者15人の内3割】 ・視察地で本村の観光PRが発信できる連携を構築する(年間)	(今後の展開方針) 地域ガイドの育成や先進地の取組みを吸収し、誘客プロモーションやイベントを開催して地域資源を活用した着地型観光を継続的に実施していく。 宜野座村観光入客目標 H28:20万人 H33:25万人	
1			リバーパーク整備事業(観光拠点施設整備)	H24 ～ H33	平成23年度に作成した「漢那福地川リバーパーク基本計画」を素案として、検討委員会にて計画実施にむけての細部を協議し、漢那福地川周辺の豊かな自然を活かした観光拠点整備を推進する。昨年度、当該計画地の村有地化(公共空地の購入)が完了し、本年度は、観光情報拠点施設整備に向けて実施設計を行う。	・リバーパーク整備等検討委員会の開催(具体的な実施整備について協議) ・観光拠点施設整備(観光センター)の建築実施設計(22,140)2,600㎡ ・観光拠点施設整備(公園等)の土木実施設計(8,640)・工事(254,340)5,650㎡	・漢那リバーパーク整備施策の作成 ・ゲートゾーン(観光センター及び周辺公園整備など)の整備進捗率(27.1%)	(今後の展開方針) H28:ゲートゾーンの工事 H29:リバーサイドゾーンの施設設計 H30:リバーサイドゾーンの工事 H31:フルーツ・フラワーガーデンゾーンの実施設計 H33:フルーツ・フラワーガーデンゾーンの工事 地域資源を有効活用した観光交流拠点施設を整備することにより、地域の活性化を図る。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

宜野座村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			宜野座村観光振興計画策定事業	H27	宜野座村の観光の現状等を踏まえた観光振興の課題を明らかにし、今後の方向性を示すとともに、具体的・実践的な施策、推進プログラム等を検討することにより、本村の観光資源や観光関連施設並びに地域の産業、人材及びそのネットワーク等を効果的に運動させ、本村の観光振興を推進していくための観光振興計画を策定する。	宜野座村観光振興委員会と、行政内部関係課で構成する検討会を開催し、計画策定に向けて取り組む。	宜野座村観光振興計画策定	計画策定後、観光事業を推進していくために、行政の横断的体制の強化、村内外の関連団体、事業者等との連携を強化するための推進体制を構築する。	10月変更(事業追加)
1			宜野座村文化センターがらまんホール機能強化事業	H27 ~ H31	がらまんホールに、音響、照明、映像等のデジタル機材を設置し、これまで以上の利用促進(利用率UP)、文化振興(自主事業の増)、観光振興(村外からの誘客UP)を図る。	映像、音響、照明、舞台機器の設置	映像、音響、照明、舞台機器の設置の完了	映写会5回(1000名) 国際音楽祭4回(1000名) 演劇祭1回(300名) ホール利用率の5%向上	12月変更(事業追加)
2			学力向上及び教育支援等事業	H24 ~ H33					
2			小学校学力向上対策事業	H24 ~ H33	児童一人一人が確かな学力と生きる力を身につけるとともに、チームティーチングによる指導で判断力、思考力、表現力とねばり強さを育て、学習の基礎・基本の確実な定着を図っていくため、村内小学校に学習支援員配置する。	支援員配置数:6人 支援児童数:445人	沖縄県学力到達度調査正答率の県平均との差 小学校3年・5年 国語・算数:県平均以上 参考 H25年度 国語 3年(-1.6%) 5年(0.6%) 算数 3年(-0.5%) 5年(-2.4%)	沖縄県学力到達度調査小学校3・5年生(国語・算数)において沖縄県平均正答率を上回る。	
2			中学校学力向上対策事業	H24 ~ H33	生徒一人一人が確かな学力と生きる力を身につけるとともに、チームティーチングによる指導で判断力、思考力、表現力とねばり強さを育て、学習の基礎・基本の確実な定着を図っていくため、村内中学校に学習支援員(習熟度別対応支援員)を配置する。	支援員配置数:3人(英語・数学・理科) 支援生徒数:206人	沖縄県学力到達度調査正答率の県平均との差 中学2年 英語、数学、理科:-3%以内 参考 H25年度 英語(-7.9%) 数学(-7.1%) 理科(-7.3%)	沖縄県学力到達度調査中学校2年生(英語・数学・理科)において沖縄県平均正答率を上回る。	
2			幼稚園預かり保育事業	H24 ~ H33	親子が健やかで安心して日常生活を送れるような支援を充実するため、幼稚園において預かり保育を実施する。	預かり保育員配置数:4人	預かり保育希望園児の受入率:100%	H24~H33 預かり保育受け入れ園児率 申し込み園児の100%	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

宜野座村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2			学校ICT機器整備事業	H25 ~ H28	ICT機器の活用による児童生徒一人一人にわかりやすい授業を実施し、児童生徒の理解力を高めるため、小中学校のICT機器を整備する。	宜野座小学校 タブレットPC購入設置:42台 タブレット収納保管庫購入設置:1台 漢那小学校 タブレットPC購入設置:28台 タブレット収納保管庫購入設置:1台 宜野座中学校 タブレットPC購入設置:42台 タブレット収納保管庫購入設置:1台	授業のわかりやすさの向上:児童の高評価70%	(今後の展開方針) ICT機器導入後の活用 デジタル教科書、デジタルドリル等利用した授業に活用	10月変更 (計画変更に伴う活動目標変更)
3			農林水産活性化プロジェクト事業	H24 ~ H33					
3			有機の里宜野座村確立事業	H24 ~ H33	有機の里宜野座村を目指し、推進協議会、部会を開催する。専門技術員による栽培指導を実施し、安定した農産物の生産拡大を図り、エコ農産物の有利販売拡大を行う。	生産者のほ場を巡回し、エコファーマーの認定に向けた農産物の選定栽培技術指導及び生産拡大	エコファーマー認定数6名(平成26年度) エコファーマー認定数2名(平成27年度) エコ農産物販売量 80t(平成26年度計画) エコ農産物販売量110t(平成27年度計画) (前年度比率137%)	エコファーマーの認定数 平成26年度、延べ24名 平成24年度~平成33年度までの 目標認定者数延べ30名) エコ農産物販売目標:230t(平成33年度)	
3			宜野座村農業後継者等育成センター施設整備事業	H27	村内での新規就農を促進し、農業経営の充実・農業意欲の向上を図るとともに、村内外からの体験型農業者等の受け入れのため施設整備を行う。	管理棟等工事の実施	管理棟等工事の完了	(今後の展開方針) 同センターでの農業指導班会議、農業経営に関する講習会等の実施及び同センターで栽培された農作物の集出荷作業等を行うことにより意欲ある新規就農者を育成する。	5月変更 (事業追加)
4			サーバーファーム設備機能高度化事業	H24 ~ H33					
4			サーバーファーム設備機能高度化事業	H25 ~ H28	宜野座サーバーファームについては現在、施設機能の旧式化が課題となっている。そのため平成25年度に実施した基本調査を踏まえ、今年度は既存のスプリンクラー設備からガス消火設備への整備強化を図ることで火災時のサーバーへの直接支障を回避し、バックアップデータセンターとしての施設機能の高度化を図り入居企業の誘致及び支援に寄与する。	ガス消火設備工事 一式 施工対象面積 1,641㎡	災害時におけるサーバーへの支障回避 (水消火からガス消火への機能強化)	(今後の展開方針) H25:基本調査業務 H26:設計業務・空調増設工事 H27:ガス消火設備導入工事 H28:電源設備の機能強化 入居企業の営業展開支援基盤の整備を行い、新規企業進出数の成果に繋げる。 新規企業進出数:1(平成27年度)	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

宜野座村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
5			環境問題対策事業	H27 ~ H33					
5			観光景観向上対策事業	H27 ~ H33	村指定の観光地である松田鍾乳洞に繋がる洞窟等に不法投棄が多く、景観が損なわれているため、監視カメラを設置及び観光地ルートに専属の監視員を配置し、洞窟に放置された不法投棄物の撤去を効率的に実施することで景観の向上を図る。	フォーク付きコンボ1台購入 ユニック付き2t車1台購入 監視カメラ6基設置 人件費(重)1名、(中)1名 不法投棄の回収(100t)	・観光地ルートの景観向上(観光客等から宜野座村の自然環境や景観向上・美しさ等をアンケート調査し、事業成果を取りまとめる。(高評価70%) ・観光地における不法投棄の減少:10件/年	不法投棄を減少させ、景観を向上させることで、観光振興につなげていく	
5			危険生物駆除捕獲事業	H27 ~ H33	外来種のタイワンハブやタイワンスジロ、ハチ等が村内で頻繁に発見されていることから、観光客や修学旅行生の咬傷、刺傷事故が予想されるため、積極的に捕獲・駆除を行うことで、観光地としての安心・安全を図る。	・観光各所のパトロール:12回/月 ・本村では発見されていない外来ハブの進入防御、ハブ捕獲器設置箇所:村境界付近50箇所 人件費(中)2名 ・ハチ等の捕獲・駆除体制の整備	・観光地における、ハブ、ハチ等への苦情件数:0回	・観光客が安心して観光できるよう安全を確保し、入客数が増加するよう努める。	
6			国際交流推進事業	H27 ~ H33					
6	1		世界のギノザンチュ交流事業	H27 ~ H33	宜野座村の青年を宜野座村人会がある南米三カ国(ペルー、アルゼンチン、ブラジル)へ派遣し、村人会並びに南米三カ国との交流を通して宜野座村を担う人材の育成を図るとともに、村民の海外躍進、国際交流思想の高揚並びに海外移住国と宜野座村及び沖縄県との友好親善関係の増進に資することを目的とする。	派遣:2名 報告会の実施	報告会で研修事業への意識調査アンケートを実施。 事業の継続理解度70%	事業を継続し、現地村人会との繋がりを再構築するとともに、宜野座村の将来を担う人材を育成する。また、事業年度後には小学校で国際理解授業の実施(年1回)、平成28年度の世界のウチナンチュ大会に併せ、世界のギノザンチュの集いを企画実施する。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

金武町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			特用林産物・農産物生産促進事業	H26 ～ H31					
			家畜排泄物有効利用事業	H26 ～ H27	「金武町バイオマスタウン構想」のさらなる推進を図るため、液肥を利用した、減化学肥料による環境循環型農業を目指して推進する。畜産農家と耕種農家との耕畜連携強化をするため、バキューム車を導入する。	バキューム車購入 3台	・液肥利用 平成26年度購入分 3台 12か月:9,276t 平成27年度購入分 3台 3か月:2,319t 合計:11,596t	液肥利用18,552t / 6台 今後は別の作物にも液肥利用の拡大を図っていく。	
			金武町優良繁殖雌牛導入事業	H27 ～ H31	安定した素牛生産地の確立のため、優良繁殖雌牛の導入を支援する。	優良繁殖雌牛の導入支援	優良繁殖雌牛導入頭数:12頭	H27～H31年度にかけて60頭の優良繁殖雌牛を導入予定 (今後期待される効果) 導入した優良牛から生まれた優良子牛を保留することにより、肉用牛飼養頭数の増頭及び優良遺伝子牛の生産拡大が図られる。	
			特用林産物(ぶなしめじ)販売促進事業	H26 ～ H27	町内で年間275トン生産される「ぶなしめじ」の販売促進を行うため、冷蔵倉庫を整備し、林業の振興を図る。	冷蔵倉庫の建設	冷蔵倉庫の建設完了	導入した冷蔵車2台及び建設した冷蔵倉庫を活用することにより、金武町の特産物として年間275トンの「ぶなしめじ」の安定的な経営が行われ林業の振興が図られる。	7月変更 (事業追加)
2			金武町雇用対策事業	H25 ～ H31					
			金武町雇用対策事業	H25 ～ H29	ギンバル訓練場跡地利用の進出企業への雇用を促進するため、進出企業が町民を雇用した場合の研修費用等を支援する。	進出企業等が採用した研修者OJT実施を支援 研修者数:5人	平成27年研修者定着率:100% (研修後の継続雇用)	金武町雇用対策事業 平成25～29年度:25人雇用 参考:平成25年度:5人継続雇用 平成26年度:5人継続雇用	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

金武町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
パ	細							
		金武町就職活動支援補助事業	H27 ~ H31	雇用の拡大を図るために就活支援センターを設置し、求職者への相談員による就業相談や、中小企業等に対する各種支援制度の案内、求人・求職等の情報提供を行う。 また、将来の就労予定者である児童生徒に勤労観・職業観と、学校をはじめとする地域全体との連携を図りながら、雇用問題の解決や就業意識の向上を実施するための、キャリア教育を行う。	就活支援センター設置:1箇所 キャリア教育:1校 各種講座の開催:1回 各種講話の実施:1回	就業者目標数:10名	金武町就活支援補助事業 就活支援センター設置:1箇所 キャリア教育:2校 各種講座の開催:2回 各種講話の実施:2回	
3		教育の振興に資する事業	H24 ~ H33					
		小中学校学習等支援事業	H24 ~ H33	学習支援員等による基礎学力の定着や学力向上、電子黒板等による情報化教育の推進に努める。英語教育については、外国人英語指導助手・日本人英語指導員・英語コーディネーターを配置し外国語の音声や基本的な表現能力の育成として英語教育の充実を図る。	学習支援員配置数 小学校:5人(金武小5人) 中学校:3人(金武中3人) 日本人英語指導員 小学校:2人 外国人英語指導助手 小学校:2人 中学校:1人 英語コーディネーター 教育委員会:1人	全国学力調査の平均正答率を全国平均に近づけること 中学校全校生徒の英語検定3級以上 平成26年度現在 3.04% 平成27年度 5%	全国学力調査の平均正答率の割合を全国平均並に底上げを図るため、今後も継続して学習支援員を配置する。 小学校 国語A・算数Aは平成28年度までに全国平均を上回ることを目標とし、国語B・算数Bは平成29年度に全国水準まで高める 中学校 国語Aは平成29年度までに、国語Bは平成30年度までに全国水準まで高め、数学A・Bは平成33年度には全国水準まで高める 中学校生徒の英語検定3級以上 平成33年度までに 25%目標	10月変更(計画変更に伴う各目標変更)
		幼稚園預かり保育事業	H24 ~ H33	子育て環境を改善するために、嘱託職員を配置し、預かり保育の充実を図る。	預かり実施幼稚園:1園 預かり保育支援員:2人	目標:「子育て環境における満足度90%」以上	預かり保育に対するニーズをアンケートを通して把握し、内容の充実を図る。	10月変更(計画変更に伴う活動目標変更)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

金武町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
		特別支援教育支援事業	H24 ~ H33	発達障害等を持つ幼児・生徒の教育については、ノーマライゼーションの理念に基づき、学習生活・学校生活等における困難を改善又は克服するために、適切な指導及び支援を行う。	特別支援教育支援員充足率100% 特別教育支援員配置数 幼稚園:1人 (金武幼1人) 小学校:11人 (金武小6人・中川小1人・嘉芸小4人) 中学校:3人 (金武中3人)	・目標:学校評価における、特別支援教育に関する項目について、「支援を要する幼児児童生徒に対し、適切な支援が行われていると感じる」評価3以上(4段階評価)」を目指す	特別支援教育支援員を今後も継続的に配置し、支援を必要とする児童生徒の学習環境の充実に努め、学校教育における機会均等を図る。	
		ICT教育備品整備事業	H25 ~ H29	児童・生徒への情報教育推進のためにIT教室へパソコンを導入し、各教室へ電子黒板等を整備することにより、情報教育による学力向上を推進する。	IT教室にパソコン31台及び教育用ソフトウェアを整備する。 小学校1校:31台 教室に電子黒板、電子黒板用パソコン及び書画カメラ各5台を整備する。 小学校2校:電子黒板4台、パソコン4台、書画カメラ4台 中学校1校:電子黒板1台、パソコン1台、書画カメラ1台	ICT教育備品を活用し、わかりやすい授業を展開することで、児童生徒の学習意欲を高め、学力の向上を目指す。 学校評価における児童生徒の評価で、授業が楽しさや分かりやすさについての評価項目で「評価3以上」(4段階評価)	平成28年度までにIT教室のパソコン整備率100% 電子黒板において活用できるデジタル教科書を整備する。	10月変更(計画変更に伴う活動目標変更)
		金武中学校・米国ハワイ州カボレイミドルスクール姉妹校交流事業	H25 ~ H33	国際的な視野を持つ、国際性豊かな人材育成を図るため、異文化での日常生活・学校生活の体験を通じた本格的な英語の習得に向けて、海外姉妹校との交流を行う。	ハワイ州カボレイミドルスクール姉妹校交流プログラムを実施し、国際交流の推進を図る。 平成27年8月:金武中学校がカボレイミドルスクールを訪問 平成27年11月:カボレイミドルスクールが金武中学校を訪問	・交流事業参加後、派遣者に対してアンケートを実施 ・目標 「コミュニケーション能力がアップしたと思う」80%以上 「異文化に触れ、他国についてもこれまで以上に興味関心を持つようになったと思う」90%以上	国際性豊かな人材育成を図ることを目的に今後も継続して、国際交流事業を推進する。	
4		金武町青年海外派遣事業	H24 ~ H33	本町と海外移住国との友好親善関係及び人材育成の推進に資することを目的に、金武町の青年2人を南米に派遣する。	派遣人数:2人 帰国後報告会:1回	研修後、派遣者に対してアンケートを実施 ・派遣後、移民史や移住国の沖縄人の生活に興味を持った:100% ・派遣後、自分のコミュニケーション能力が高まったと思う:70% 報告会の参加者にアンケートを実施 ・移民史や移住国の沖縄人の生活に興味を持った:70% ・当該事業に参加したいと思う:70%	・H24~H33で20人派遣 ・派遣国から帰国後、報告会の実施、町内小・中学校で出前授業を実施し、町民、児童・生徒への国際理解教育につなげる。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

金武町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
5		防災情報システム整備事業	H25 ~ H27	大規模災害等の発生に備え、迅速かつ正確な情報を住民や観光客等に伝達するため、防災情報システムを整備することにより、災害に強く安全な町づくりを行う。	ネットワーク整備 屋外拡声子局の整備 8基 防災監視カメラの整備 4基	・屋外拡声子局の整備率 100% ・海岸、河川、土砂災害危険区域等の監視体制強化	災害発生等緊急時は住民等への情報伝達手段として、平時は防災訓練等に使用する。 避難訓練参加率 40%以上	
6		スポーツ施設機能高度化事業	H27 ~ H28	災害時避難所としての防災機能を強化するため、既存の屋根の上に新たに屋根を葺き、防災機能強化を図る。また、照明設備をLED化することで、スポーツ大会や合宿等の受け入れを促進する。	実施設計	施設機能高度化に向けた実施設計完了	H28年度において工事を実施。 ・屋根の防災機能強化 ・屋根の改修に伴う照度確保(LED)	10月変更 (事業追加)
7		ギンバル海浜公園整備事業	H27 ~ H32	平成23年7月に返還されたギンバル訓練場において田園と海と川を活かしたウェルネスの里をテーマに跡地利用のための整備を進めている。そのギンバル訓練場跡地において、地域住民及び観光客等が安全で快適に利用できる海浜公園を整備し誘客を図る事で、跡地利用を促進し、観光リゾートの実現を目指す。	実施設計	海浜公園の整備に向けた実施設計完了	H28～H29年度 造成工事 H30～H32年度 公園整備工事	12月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金(市町村)成果目標一覧【公表版】

伊江村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1		伊江村HPサービス拡充強化事業	H26 ~ H27	観光客の誘客拡大を目指し、村のHPにおいて観光情報や防災情報など国内外に情報発信するため多言語対応や船舶予約システムなどコンテンツ開発やシステム構築を先行の機能拡充強化を図る。	H26構築したシステム ・伊江村HP ・車両航送予約 ・車両航送業務 の機能連携システムの構築と、フェリーの券売機構築(機能連携含む)を行う。	・平成26年度構築システム 伊江村HPシステム 車両航送予約システム 車両航送業務システム ・平成27年度構築システム フェリー券売機システムの構築 上記すべてのシステムの機能連携を行う。	・伊江村HPシステムの構築 (月平均アクセス数 25万PV) ・車両航送予約システムの構築 (日平均Web予約件数 10件) ・車両航送業務システム構築 (混雑時窓口行列人数15人以下) ・フェリー券売機システム構築 (月平均購入者25,000人)	
2		世界のイージマンチュ交流派遣事業	H27 ~ H28	日本有数の移民県である沖縄では、戦前戦後を通じ多くの県民が海外へ雄飛し活躍している。当村からも、北米・南米をはじめ世界各地へ移民するなど、イージマンチュ(伊江島の人々)は注目を集めている。5年に1度の「世界のウチナーンチュ大会」を現地にてPRし、一層盛り上げるとともに世界のイージマンチュの絆を強固にするため、国際交流を図り、移住国との架け橋となる人材を育成する派遣交流事業を実施する。	世界のイージマンチュが双方向で交流することで絆を深め、村出身の子弟らが世界に目を向け、世界で活躍する人材の育成を図る。村人材育成会へ支援し交流事業を実施する。	国際交流本研修で、現地にて学んだことを地域や他児童生徒へ伝えることでお互い国際交流への興味や海外に対する意識が向上し、今後の国際社会へ対応しうる人材の育成を図っていく。	平成28年度にて「世界のウチナーンチュ大会」への参加を促し一層盛り上げる。同時期に「世界のイージマンチュ交流会」を開催する。ボリビア・アルゼンチン・ブラジルなどに居住する1世~4世など幅広いイージマンチュの参加を促進する。	
3		伊江村ハブ対策事業	H27 ~ H30	本村に生息するハブによる健康被害から、村民及び観光客を守るため、生息地となっている観光地や海岸沿いへ捕獲器を設置し、ハブの捕獲駆除に取り組む。 また、村民の要請によるハブの駆除及びハブが住処を作りにくい環境を整備するため生息地の清掃を行う。	・捕獲器を設置する。 ・巡回パトロールによるハブの捕獲。 ・月に1箇所ハブ生息地の清掃を行う。	ハブ咬症による被害件数を0件とする。	危険生物であるハブを駆除する事により、地域住民及び観光客にとって脅威となるハブの健康被害を無くし、安全な生活環境の整備を行う。	
4		明るい村づくり事業	H27 ~ H29	集落内の防犯灯をCO2排出の少ないLED照明灯に取り換え、更に新規設置し、夜間における安心・安全な地域環境整備を推進することにより、村民及び観光客等の防犯対策の抑止効果と地球温暖化対策にも寄与する。	既存街灯100基をLED照明灯に取り換える。 既存街灯の照度等の調査を行う。 新規設置にかかる設計も含めて行う。	村内の集落内等の照度を高める。(3lx以上)	LED照明灯に取り換え、更に新規設置し、既存街灯より照度を高めることにより、村民や観光客等の防犯対策の抑止効果と地球温暖化対策等といった、村民や観光客の安心、安全な村づくりの整備を行う。	10月変更(計画変更に伴う活動目標変更)
5		伊江村自動車航送コスト負担軽減事業	H26 ~ H31	離島である本村は、沖縄本島との交通機関は船に頼らざるを得ず、移動の大きな障害となっている。このため、自動車航送運賃コスト負担の軽減に対する支援を行う。	車両航送に対する補助 年間約1.6万台	車両航送に対する補助により、離島の地理的条件による不利性を軽減し、定住促進を図ることにより、年間車両航送利用者数を維持する。	(今後の展開方針) 車両航送に対する補助により、離島の地理的条件による不利性を軽減することで、定住促進を図ることにより年間車両航送利用者数を維持する。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの、
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

伊江村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
6		伊江村農業振興事業	H27					
		アジア野菜市場調査委託事業	H27	<p>村内で生産される農作物において新規作物を模索する中、本村の気象や土壌特性を考え、冬場でも栽培や出荷が可能な高品質な野菜として、アジア地域から要望が強く、国内の産地として出荷の優位性が期待できるアジア野菜の生産、販売を検討する。専門家による市場調査業務を行い、タイやベトナム、中華料理の外食市場での生鮮素材の動態を確認し、対象野菜の生産拠点となる伊江島ブランドを確立する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市場性を確認、調査し、事業戦略と販売計画を検討する。 ・対象作物毎の肥培管理の体系化や生産者の経営指標の整理を行う。 ・事業実施体制を確立し、加工商品の企画、物流経路とコストの確認、販売先の外食産業の選定と提携を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市場調査を受け、ビジネスモデルと収益構造の整理を行い、販売先を含めた事業スキームを構築する。 ・栽培品目の選定と栽培マニュアルを作成し、出荷養生の整理、商品設計を行う。 ・事業計画と作業工程表を作成し、受発注システムの機能要件や村内の経済効果を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培マニュアルは、作目数を3アイテムとし、栽培出荷の実証実験を行いながら整理する。 ・2年目以降は、組織化と作目を増やして試験栽培を続ける。 ・生産出荷体制を3アイテムについて3年間掛けて取り組み、その他7品目程度を5年間で生産出荷できるように進める。 ・5年間で販売額を15,000万目標にする。 	
		気象観測機器設置整備事業	H27	<p>昨今の台風襲来や干ばつなど激しい気象変動に伴い、本村の農作物に甚大な被害が発生した。本村は気象データを観測する機器を設置しておらず、近隣の本部気象観測所のデータを参考している。海を隔てており場所によって異なった気象が発生し、気象データの適切な管理が困難となる。そのため、気象観測機器を設置してデータを収集し、農作物の管理や被害立証等に役立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観測機器購入（風向風速計、日照計、雨量計等） ・システムネットワーク構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・気象データを活用した、農作物の管理や品質向上に努め、農作物の安定供給をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気象データの情報提供(村外) ・気象データをもとに農作物肥培管理を徹底し、品質向上に努め、また村内で栽培が可能な新規作物を検証 	5月変更(事業追加)
		農作物緊急灌水車両整備事業	H27	<p>干ばつ時や台風時の降雨が少ない場合に、さとうきび・野菜等の農作物に早急な灌水を行い干ばつや潮害から作物を守り、伊江島ブランドとしての農作物の品質維持に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10tダンブトラック灌水車 導入 ・6tユニックダンブトラック灌水車 導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・灌水車を導入する事により、さとうきび生産の過去3期(H23・24・25)の平均単収(4,354t)を基に、20%UP(5,224t)を目標とする。 ・干ばつや台風時の早急な灌水を行い早魃の緩和、潮害の被害を最小限に食い止め、農作物の安定供給をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・干ばつ時や台風後の灌水を継続して行う事により、さとうきびや農作物の生産振興に寄与する。 	5月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

伊江村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
					7				
			優良繁殖雌牛導入事業	H26～H30	伊江村肉用牛繁殖農家経営の更なる向上の取組に基づき、県内・外の家畜セリ市場において優良繁殖素牛(雌)を購入し導入した伊江村和牛改良組合員に対して、支援を行い経営の安定化及び優良遺伝繁殖雌牛の生産を図る。	優良繁殖素牛(雌)の導入 100頭	活動目標指数(年間:100頭導入)の達成(今年度において、優良繁殖雌牛を100頭導入し全体計画のうち20%の導入率を成果目標とする。これにより飼養頭数拡大及び、優良遺伝生産子数の増加が期待され、市場性の向上並びに本村の畜産振興を図る)	(今後の展開方針) H26～H28年度にかけて300頭(100頭×3年)の優良繁殖素牛(雌)を導入予定 (期待される事業効果) 肉用牛飼養頭数の拡大及び優良遺伝子牛の生産を図り、肉用牛子牛生産拠点産地として信頼性のある産地づくりを目指す。また、新規担い手や後継者不足問題の解消に繋がる。	
			乳用牛繁殖雌牛更新事業	H26～H30	伊江村酪農経営の更なる向上の取組に基づき、2産(4歳)以上した母牛を淘汰し地域保留や県外から導入した優良繁殖雌牛(素牛)に対して、予算範囲内で支援を行い安定した生乳出荷を行う事で、信頼性のある産地づくりを図る。	乳用繁殖母牛の更新 20頭	活動目標指数(年間:20頭更新)の達成(今年度において、20頭の乳用経産牛を更新し、全体計画のうち20%の更新率を成果目標とする。またこれにより、泌乳量増加や乳質改善を図られ本村の畜産業の振興に繋げる。)	(今後の展開方針) H26～H28年度にかけて60頭(20頭×3年)の乳用繁殖雌牛を更新予定 (期待される事業効果) 廃用牛の淘汰、優良若雌牛の導入により母牛の更新を図り、子牛繁殖生産率が向上し廃用牛と育成牛の回転率が上昇することで、泌乳量増加や乳質改善が見られ、安定した生乳の供給が見込まれる。	
			肉用牛集出荷施設機能改善事業	H27	家畜市場の老朽化に伴う改修工事並びに、県内家畜市場において本村は唯一家畜誘導ルールシステムが未整備であるため、セリ市開設時の安全面確保のために誘導ルールシステム設置を図る。	家畜誘導ルールシステム設置(一式) 市場機能改善設備工事(屋根・水道管)	誘導ルールシステムを設置することによりセリ市開設時の安全面の確保及び市場機能拡充のため家畜市場を改修することにより、セリ市開設時の運用改善が図られる。	(今後の展開方針) 当該事業により、家畜セリ市場としての機能、安全面の確保を図る。 整備後の目標 セリ市開設時の安全面確保及び施設機能改修を図ることで台風等自然災害時や今後のセリ市開設の際の施設機能の安定確保を図る。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

伊江村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
8			伊江村観光振興事業	H24 ～ H31					
			村花・世界のゆり植栽推進業務	H24 ～ H31	村花であるテッポウユリと世界のゆり球根を植栽し、花の島づくりを推進する。	てっぽうゆり球根 50,000球 世界のゆり球根 20,000球	第20回伊江島ゆり祭り来場者数 33,000人 (H26年31,000人)	品質の良い球根確保とイベント企画による来場者数の増 H32目標 35,000人	
			観光地クリーン事業	H24 ～ H31	観光地の環境美化及び保全をし、観光地の景観形成と観光客の受け入れ態勢を強化する。	観光地環境美化保全作業員14名	観光地美化満足度70%以上	伊江村観光地環境美化満足度調査(アンケート等)を実施し、満足度を達成できるよう、よりよい環境美化及び保全に努める。	
			自然と乗馬ふれあい体験による観光振興事業	H27	森林や海浜など自然の中で乗馬体験を行う新たな観光資源の活用を図るため、調教馬導入支援及び広報活動を行う。	調教馬4頭 導入 パンフレット等による広報活動	乗馬体験者数 H27年2,000人 (参考 H26年1,730人)	PR活動を行い、体験内容を改善しながら体験者数の増加を図る。	5月変更(事業追加)
			観光客誘客環境整備事業	H26 ～ H33	城山や青少年旅行村など観光施設の機能拡充を図るための整備や観光地環境美化保全に取り組む機械を導入する。	・城山アーケード、旅行村進入路等(進入路、駐車場、管理棟)整備工事の実施。 ・旅行村施設等(更衣室、テラス拡張)の実施設設計の実施。 ・湧出展望休憩施設の実施設設計の実施。 ・観光地管理用機械導入(乗用芝刈機、2tトラック)。	・城山アーケード、旅行村進入路等(進入路、駐車場、管理棟)整備工事の完了。 ・旅行村施設等(更衣室、テラス拡張)の実施設設計の完了。 ・湧出展望休憩施設の実施設設計の完了。 ・観光地管理用機械(乗用芝刈機、2tトラック)の整備完了。	地域や観光関連機関から情報収集を行い、観光誘客施設の強化及び充実を図る。 観光客数 H29年 143,000人 (参考 H26年 140,000人)	7月変更(事業追加) 12月変更(計画変更に伴う各目標変更)
9			文化財保全観光地化事業	H27	本村には国の史跡「具志原貝塚」の他、数多くの文化財がある。島に残された貴重な文化遺産である文化財や景勝地の美化保全を進め、地域住民の文化財愛護意識を高めるとともに、観光資源としての活用を進めるうえでの基本構想を策定し、村内文化財(指定、未指定問わず)の整備、環境美化、村内文化財案内の導線ルートなどの方向性を定める。	村内文化財の整備、環境美化、文化財の導線ネットワーク、展示施設に関する基本構想の策定。	村内文化財の整備、環境美化、文化財の導線ネットワーク、展示施設に関する基本構想を策定し、今後の村内文化財整備の方向性を定める。	策定した村内文化財整備の基本構想を基に整備、環境美化などを進め、村の観光振興に寄与する。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金(市町村)成果目標一覧【公表版】

伊江村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
10			伊江村人材育成事業	H25～					
			確かな学力を育む学習支援員配置事業	H25～H33	小、中学校への免許外教科担当者の解消と専科教諭の配置、児童生徒1人1人に「確かな学力」を身につけさせるための学習支援員の配置、更には発達障がいなど様々な障がいがある児童生徒に対し特別支援教育支援員などの配置を行い、自立し生きていくための土台づくりを行う。	・学習支援員配置学校数:3校 ・学習支援員12名配置	・児童生徒(対象数:380人)個々の習熟度に応じた学習支援体制を整えることにより、学習意欲の向上・学力の底上げを図る。 ・県学力到達度調査において、正答率30%未満の児童生徒の割合を小学校で10%以下、中学校で各教科30%以下に減らし、村全体の学力向上を図る。	(今後の展開方針) H26実施事業において、活動目標数(12名)の支援員を配置できなかった。支援体制の不足・不平等が生じないよう、早めの人材確保に努める。 支援児童数(累計)H34年度:3,000	
			各種大会派遣費助成事業	H25～H33	本村の児童生徒のスポーツ、文化活動等において、地区大会や県大会等への派遣旅費について支援する。	・各種大会に児童生徒を派遣するための支援	・各種大会派遣人数:1,000人	(今後の展開方針) 派遣人数(累計) H34年度:10,000人	
11			沖縄らしい風景づくり推進事業	H27～H28	景観法に基づく効果的な景観形成を促進するための景観向上行動計画を策定する。	・現地調査 ・上位関連計画の整理 ・景観構造、景観特性の把握 ・アンケート調査 ・ワークショップ ・景観計画の検討	村民の意向を踏まえ景観計画及び景観条例を策定・制定することで、伊江村らしい風景を保全し発展させ村民1人1人が意識することで良好な景観保持を図る。	H28年度 ・景観計画の策定 ・景観条例の検討及び制定	
12			医療保健センター機能拡充事業	H27～H28	医療保健センター内で運営する村立診療所と歯科医院は島内唯一の医療機関として村民の医療を担っている。1日当たりの平均外来患者数は診療所で104人、歯科医院が35人である。同施設では乳幼児の集団予防接種を年間90日実施し慢性的な駐車場不足が生じ、村民への医療提供に大きな支障をきたしている。駐車場を確保整備することにより安心・安全な医療保健サービスの提供を図る。	・用地購入(1,111㎡)	医療保健センターの駐車場用地を確保することにより交通手段の不安を解消し利用者の利便性の拡充が図られる。	H27年度(駐車場用地取得) H28年度(駐車場整備) 既設駐車台数28台 増台40台 合計68台	10月変更(計画変更に伴う各目標変更) 12月変更(計画変更に伴う活動目標変更)
13			水産物加工施設整備事業	H27	既設のもずく加工施設の内部を整備し、もずくの加工出荷のみならず、ソデイカ等を加工できるようにするための機能充実に図り、衛生面にも考慮した施設を整備する。	・既設加工施設内部整備(実施設計・整備工事)	既存加工施設内部整備の完了	(期待される今後の展開) 衛生設備の充実に伴って作業効率の向上を図り、現在、水揚げのあるもずく加工48t(参考:過去5年間平均値)ソデイカ10t・マグロ5tの良品質で産地の特色を活かした生産加工・販売体制の強化を図る。	5月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

読谷村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1		読谷観光・物産アピールとスポーツコンベンション誘致促進事業	H24 ～ H33	読谷観光・物産アピールとスポーツコンベンション誘致促進事業スポーツコンベンションの誘致、特に冬季におけるプロスポーツキャンプ等のスポーツコンベンションの誘致と、それを起爆剤とした観光誘客を目的に実施する事業である。	・誘致PRイベントにてPR演舞(8回) ・集客イベントの開催(2日) ・観光PRチラシ作成3,000枚	・誘致PRイベントにてPR演舞の観覧者(40,000人) ・集客イベントの来場者数(2,000人)	当事業は平成33年度まで予定しており、今後もスポーツキャンプ継続誘致のため下記のとおり事業を実施予定。 ・伝統芸能の披露 ・観光PR映像の上映 ・読谷村PRブースの設置 ・観光PRチラシ等の配布 ・各プロスポーツチーム等に対する誘致活動 ・読谷村観光大使の活用 ・キャンプ時における各種イベントの開催	
1		危険生物駆除事業	H25 ～ H33	危険生物として駆除の対象となっているハブの咬症被害が、本村においても毎年のように発生し、村民はもとより観光客が被害にあう事例も発生している。また、これまで近隣市町村でのみ捕獲された攻撃性の強いタイワンハブの捕獲事例が本村でも発生しており、その蔓延を防ぐためにも早期の駆除活動の強化が必要である。来村する観光客や行楽客、そして村民をハブ咬症から守るため、捕獲器を設置し継続的なハブの捕獲、駆除により個体数を減らすとともに、より安全な観光地を目指す。	・村内に捕獲器を400器設置 ・2週間を目処に巡回・管理	・ハブ類による咬傷被害数:0件	H33年度まで、設置・巡回・捕獲など事業を継続する。	
1		ヨミタンJOHO発信事業(読谷観光情報等PRラジオ番組制作・放送事業)	H25 ～ H33	那覇から読谷にかけての本島西海岸一帯で聴取可能なコミュニティFM放送局「FMよみたん」を活用し、主にレンタカーを利用する観光客を、国道58号より西側の本村内に誘導することを目的に、観光情報番組を毎日午前中の移動想定時間帯に制作・放送する。 また、周波数を明示した読谷村観光情報紙を空港やレンタカー事業所等に配布し、聴取機会の向上を図る。	FM放送を活用した観光情報の提供 チラシ 100,000枚作成・配布	・視聴者からのメール受信件数 432件/年 平成26年1月末現在の平均×伸び率1.1	H33年度までFM放送番組の製作・放送を継続する予定	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

読谷村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1		世界遺産座喜味城跡管理活用事業	H25 ～ H29	読谷村(沖縄県)には歴史文化の代表的シンボルである世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群(座喜味城跡)」を筆頭に、様々な歴史的文化的遺産が存在する。これらを重層的に活用し、観光客の減少時期の観光客の誘導を狙う。	・座喜味城跡のライトアップの実施(80日) ・城壁清掃の実施(1回) ・座喜味城跡三次元映像コンテンツの作成 ・座喜味城跡入場者計測日数(7日×4回)	・座喜味城跡のライトアップ 来場者数150人/日 ・座喜味城跡三次元映像コンテンツの完成	ライトアップ及び座喜味城跡の美化(H27～H29) コンテンツを活用した誘客を図る	
1		ヨミタンブランドカパワー・アップ大作戦事業	H25 ～ H30	読谷村そのものや読谷村で生産される、ヤチムン、織物等の伝統工芸品や農水産物及び加工品等のいわゆる読谷村の特産品を「よみたんブランド」として認定し、認定された商品のプロモーションを行う。	・よみたんブランドの認定(委員会開催:6回) ・認定商品等のPR(認定商品PRチラシ作成・配布:20,000部 認定商品PRポスターの作成・配布:300部 キャラクターグッズの製作・配布 ストラップ:1,000個、クリアファイル:1,000個)	・ブランド認定件数:10件	H30年度までブランドキャッチコピー、ロゴ、イメージキャラクター等を活用したプロモーション活動を展開する予定	
1		読谷村地域振興センター(仮称)整備事業	H25 ～ H27	読谷補助飛行場跡地における主な課題である「農業を主体とした6次産業化」、「情報の共有と発信による地域振興」の解決を図るため農漁商工の連携による地域振興と交流拠点づくりのため「読谷村地域振興センター(仮称)」を整備する。	建築工事の実施 件名:読谷村地域振興センター(仮称) 新築工事(建築)(電気)(機械) 構造:鉄骨造地上3階 敷地:3592.1㎡ 建築面積:1790.27㎡ 延床面積:3,355㎡	H28年4月供用開始に向けた読谷村地域振興センター(仮称)の完成	(今後の展開方針等) H28年4月オープン予定 観光案内所や、FMラジオ・インターネット動画配信を使った観光情報の発信を行い、観光振興に資する。また、キッチンスタジオ等での村産農産物等を使用した商品開発や、村産品の販売等により年間利用者数168,000人を目指す	
1		残波岬いこいの広場機能強化事業	H24 ～ H28	施設利用者の増加を目的として、残波岬いこいの広場に設置されている東屋の機能強化(壁の増設)工事を実施するための設計業務を行う。	東屋機能強化に係る設計作業の実施	設計の完了	H27年度 設計作業 H28年度 工事・備品整備 ・施設利用者数 目標 H28年度:15,000人以上 (H25年度利用者数:15,000人)	3月変更 (計画変更に伴う事業内容、各目標変更)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

読谷村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1		(仮称)読谷村パークゴルフ場基本設計等支援委託事業	H27	平成24年度に策定された第2次読谷補助飛行場跡地村民センター地区跡地利用計画にて示された(仮称)読谷村パークゴルフ場を整備し、全国からパークゴルフ愛好者を誘客することにより、観光振興を図ると同時に、地域住民の体力増進、高齢者の生きがいの場づくり、駐留軍用地の跡地利用に資するため、基本設計を行う。	(仮称)読谷村パークゴルフ場の基本設計(施設の検討、基本設計図作成、概算工事費算出)	(仮称)読谷村パークゴルフ場整備に向けた基本設計の完了	以下、今後検討する H28～29実施設計 工事 H30:供用開始 年間利用者数16,000人を見込む。		
1		景観形成事業	H24～H28	近年、景気回復の足音とともに開発圧力が強まっており、地域バランスを無視した中高層建築物の建築が風光明媚な自然海岸沿いや海を臨む集落地内で進んでおり、景観をはじめとする地域環境の悪化が懸念されている。 そのような中、改めて本村の景観資源について認識し、景観法に基づく景観計画のもと、地域性にあった景観づくりの方針を明らかにし、良好な景観づくりを推進する。	(ヤチムンの里地区) 景観地区運用マニュアル概要版の検討。 (座喜味城跡周辺地区) 都市計画決定図書及び景観地区運用マニュアルの検討。	(ヤチムンの里地区) 景観地区運用マニュアル概要版の作成。 (座喜味城跡周辺地区) 都市計画決定図書及び景観地区運用マニュアルの作成。	ヤチムンの里地区・座喜味城跡周辺地区を景観地区に指定し、適正に運用できるように周知を行っている。 また、その他の景観形成重点地区についても、景観を守るための手法を検討していく。	5月変更(事業追加)	
2		小中学校情報教育支援員配置事業	H24～H33	島しょ県であるハンディを克服し、国際性豊かな人材育成と情報教育を活用した学力向上への環境を整えるため、読谷村内の小中学校に情報教育支援員を配置する。 平成25年度で導入した電子黒板等ICT機器を活用しての授業を展開するために、教員・生徒への支援を行う。	情報教育支援員配置 小学校(5校):2名 中学校(2校):1名	・情報機器を活用する教員のサポート体制の強化構築	・情報教育支援員を配置することにより、ICT機器を活用した「分かりやすい授業」「参加する授業」を目指す。		
2		日本語教育支援員配置事業	H24～H33	二重国籍や帰国児童等、日本語を習得していない児童に対し、小学校の授業時に通訳や内容説明、他児童との交流の仲介等を行い、小学校生活に順応できるように支援を行う。また、児童の保護者に対しても学校との連絡調整の場(家庭訪問・三者面談・各通知の英訳)で支援を行う。	日本語教育支援員配置 小学校(5校):3名	・要支援児童へ柔軟な支援体制の構築	・学校生活に順応できる日本語習得の向上を図る。		
2		小中学校学習支援員配置事業	H26～H33	小中学校において学習に遅れが生じている児童・生徒を対象に、自ら学ぶ意欲を高め、基本的な学習内容を理解し、確かな学力の定着を図るため、授業内容をきめ細やかにサポートする学習支援員を配置する。	学習支援員配置 小学校(5校):5名 中学校(2校):2名	・算数、数学の基本学力の定着	・算数、数学の学力を全国平均に近づける		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

読谷村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2			特別支援教育支援員配置事業	H26 ～ H33	幼稚園・小中学校に在籍し、心身に障害を持つ幼児児童生徒に対し個々に応じた適切な支援、並びに発達障害(ADHD・LD・高機能自閉症・アスペルガー症候群等)のため、個別支援の必要な幼児児童生徒の実情にあった、具体的かつ適切な支援を行うため、各校に特別支援教育支援員を配置し支援体制の拡充と質の向上を図る。	・特別支援教育支援員 幼稚園(5園): 5名 小学校(5校): 10名 中学校(2校): 4名 ・特別支援教育専門指導員: 1名 ・特別支援教育推進員: 1名	・要支援幼児・児童生徒への支援体制の構築	・困り感のある児童に対し、きめ細かい支援を行うことで自立と社会適応能力を高める。	
2			幼稚園園舎耐震診断事業	H27	園舎の耐震化を促進し、安全で安心な環境を構築するため、昭和56年以前に設計された旧耐震基準の建物(村立幼稚園園舎)について、耐震診断を行う。	幼稚園 3園 4棟の耐震診断を行う。 読谷幼稚園 : 1棟 喜名幼稚園 : 2棟 古堅南幼稚園: 1棟	幼稚園の耐震診断率 現在42.9% 完了時点100% 耐震診断が必要な幼稚園: 4棟	安全安心な教育環境づくりを構築するため、耐震性がないと判断された場合は、耐震化を図るため、耐震補強設計を行い、耐震補強工事等の計画を推進する。	5月変更(事業追加)
2			ICT教育強化事業	H27 ～ H28	児童・生徒の学力向上を図るため、デジタル教科書、デジタル教材を配付し、ICT機器を有効活用した教育環境の整備を行う。	デジタル教科書の整備 村内: 5小学校	・デジタル教科書(9教科)の整備完了	中学校デジタル教科書を整備予定(教科書改訂)	7月変更(事業追加)
3			バス停上屋整備事業	H27 ～ H28	今業務における対象区域は、嘉手納弾薬庫一部返還跡地沿いである。当該地区周辺では、大湾東土地区画整理事業や民間開発によるゴルフ場が建設されている。今後は大湾東土地区画整理事業が進むことで、当該地区周辺の人口が増加し公共交通機関の利用者も併せて増加すると見込まれることから、強烈な日差しや風雨を避け快適に公共交通機関を利用してもらえるよう、バス停上屋を整備する。	バス停上屋実施設計(4箇所)	・バス停上屋実施設計完了	H28年度 整備工事の実施	12月変更(計画変更に伴う各目標変更)
3			地域資源を活用した農業振興等促進基本計画策定事業	H27	読谷村では、SACO合意等を受け、読谷補助飛行場・瀬名波通信施設等の駐留軍用地が返還されております。特に、読谷補助飛行場については、読谷補助飛行場跡地利用実施計画において農業振興を図りながら旧地主への農地の払い下げをすることが戦後処理と示されております。戦後処理を加速化させるためには、更なる農業振興や地域活性化の推進が肝要であることから、今回、地域にある未活用バイオマスを利用した農業振興及び地域活性化の展開を行うために基本計画を策定する。	・地域資源を活用した農業振興等促進基本計画の検討(未活用バイオマスの既存調査)	・地域資源を活用した農業振興等促進基本計画の策定(未活用バイオマスの把握、今後の活用方針の決定)	以下今後検討する。 H28年度 実施設計の策定 H29年度 工事 H30年度 利用開始予定	12月変更(計画変更に伴う事業内容変更)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

読谷村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
3			読谷補助飛行場跡地伊良皆地区広場整備事業	H27	平成26年度に実施した「読谷補助飛行場跡地地区広場実施設計等支援委託業務」に基づき、読谷補助飛行場跡地伊良皆地区広場の整備を実施する。	読谷村補助飛行場跡地伊良皆地区広場の整備工事の実施	読谷村補助飛行場跡地伊良皆地区広場の整備工事の完了	(今後の展開方針等) 近隣住民による利用管理を行い、地域コミュニティの再生及び地域振興を図る。	7月変更(事業追加)
4			ユンタンザフィールドミュージアム構築事業	H24 ~ H28	村民の文化的生活の向上や人材育成、地域活性化、観光振興に役立てるため、読谷村の自然・歴史・文化資源等を調査・整理し、さらに集めた情報を共有・発信・活用できるように再整理する。	自然・歴史・文化資源等の調査 :4地区 文化財ガイドマップ板設置 :4箇所 文化財ガイドマップタブロイド版印刷 :3000部	地域、学校、観光施設等へ配布・活用及びHPで公開	各字文化財ガイドマップ設置数 H24:3箇所 H25:3箇所 H26:3箇所 H27:4箇所 H28:4箇所(合計17箇所)	
4			読谷村移民・出稼ぎ調査編集事業	H24 ~ H29	国内外へ読谷村をアピールし、県外・海外からの観光客の誘客や交流を図るため、移民・出稼ぎについて調査・整理し、集めた情報を共有・発信・活用できるようHPを活用して情報発信を行うとともに、多言語の小冊子にまとめる。	・平成26年度調査報告書作成 ・被調査者の調査 八重山現地調査(2回目)。南米(ブラジル・ボリビア)現地調査。 ・記録テープ反訳等の整理	・八重山・南米における移民者の歩みの把握 ・H29のHP公開に向けた事業の着実な実施	平成28年度:南米(アルゼンチン他)現地調査、全体まとめ 平成29年度:HPより情報発信・小冊子の作成	
4			沖縄語(しまくとぅば)保存継承事業	H25 ~ H29	沖縄独特の口承文化や歌詞を支えてきたのは沖縄の風土から生まれしてきた沖縄語である。しかし今では沖縄語を継承する世代は減り、言葉の意味さえ失われちゃうおそれがある。この事業は生まれ育った地域の沖縄語で伝承されてきた民話や琉歌を調査、整理し、沖縄語に親しめる媒体(絵本やDVD等)を製作し、沖縄語になじみの薄い幼児や児童生徒らに沖縄語の教材を提供し、沖縄語に関心をもってもらい、沖縄語の保存継承に寄与するものである。	・民話調査・整理 ・民話絵本「読谷山物語(5話)」の発刊 ・民話紙芝居DVD「読谷山物語(5話)」の発刊	村内小中学校等へ配布・活用及びHPで公開	平成29年度までに民話絵本5種、民話紙芝居DVD5種の製作	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

読谷村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
4			沖縄戦後教育史・復帰関連資料整理活用事業	H26 ~ H27	本村はこれまで、沖縄における戦後教育や復帰運動に関する資料の収集を積極的に行ってきた。特に戦後教育と復帰運動の端緒を開いた屋良朝苗氏が残した資料(行政主席・知事時代の日記や所持品、書籍等)の充実を図り、米軍統治や復帰運動を後世に伝えるものとして学習や展示会に活用してきた。これら資料とあわせ、昨年寄贈を受けた戦後教育及び復帰に纏わる歴史資料を効果的に展示・公開できるように、資料の整理・修復、デジタル化を行い、沖縄の戦後史に関する学習や調査研究の機会充実を図る。	・資料の整理 ・資料の修復(脱酸性化処理を含む) 1000枚 ・スキャンニング 260箱	整理資料の公開	継続的に公開するとともに、適正は管理を行う	
4			ユンタンザミュージアム建設事業	H26 ~ H29	世界遺産座喜味城跡公園内に新読谷村立歴史民俗資料館(仮称ユンタンザミュージアム)を建設(本館改築と別館機能強化)し、世界遺産ビジターセンターとして機能拡充と強化を図るもので、世界遺産と連携した魅力ある施設を建設し、観光振興・地域振興、文化振興につながる整備を行う。	実施設計の実施(H26基本設計に基づいた詳細設計の実施)	・実施設計書の完成 ・H30年の供用開始に向けた事業の着実な実施	H28~29年度:工事開始及び完了(予定)	
5			中学生海外ホームステイ派遣事業	H25 ~ H33	本村の教育目標である「創造性・国際性に富み社会に貢献できる人材の育成と生涯学習の振興」の実現の為、村内の中学生12人を夏休みの1ヶ月間を利用し、英語圏に短期間派遣し、ホームステイを実施することにより、英語を学ぶことへの関心・意欲を高め、視野を広げるとともに国際性豊かな人材育成を目指す。	短期留学費の支援:12人	・行った結果、生徒に変化があったと応えた保護者:12人	・国際性豊かな人材育成と、英語への興味関心意欲の向上を図るとともに、ホームステイ成果を他の生徒と共有する。	
6			読谷村防災情報システム基本計画策定事業	H27	自然災害時における情報伝達手段である防災行政無線のあり方を整理分析し、難聴地区への整備・改善を図るため、読谷村防災情報システム基本計画を策定する。	防災情報システム整備基本計画の策定(既存防災行政無線の現状の把握及び分析、補完システムの導入検討、情報伝達手段の多重化・多様化の検討など)	・難聴地域の把握 ・防災行政無線の方針決定 ・補完システムの決定	・策定された基本計画を基に実施設計を行う(H28) ・実施設計に伴う工事・システムの導入(H29~H30)	
6			読谷村総合福祉センター耐震診断調査事業	H27	地震や津波などの自然災害に強いむらづくりを推進するため、災害時に住民等が避難する読谷村総合福祉センター施設の耐震診断を実施するため読谷村社会福祉協議会に対し支援を行う。	耐震診断調査支援	・耐震診断調査の実施(耐震状況の把握)	耐震性がないと判断された場合は、耐震化を図るため、耐震補強設計を行い、耐震補強工事等の計画を推進し、避難所の安全性の確保に努める。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

読谷村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
7			地産地消推進を図る生産施設設置事業	H25 ~ H29	年間を通した多様な野菜を安定的に生産できる環境の構築により、地域の消費需要(直売所、ホテル、飲食店など)への対応や、「食と農」を通した地域観光のイメージアップや農業振興を図ることを目的として、JA等が設置する栽培施設の設置費の一部を支援する。	栽培施設設置支援	・栽培施設の設置:面積2,480㎡(予定) ・導入農家:5人(予定)	葉茎菜類等の増産を目指している。	
7			優良母牛導入事業	H27 ~ H29	経営安定化・質の高い肉用牛の改良を進めるため、県内外のセリ市場から黒毛和種優良繁殖雌牛を導入し、肉用牛生産農家へ優良種を普及させ、優良子牛の生産を図る。	・優良母牛の導入支援	・今年度導入率33%(全導入目標頭数99頭)	・平成27年度~平成29年度にかけて各年度目標導入頭数33頭、合計99頭の優良母牛を導入予定	5月変更(事業追加)
7			読谷村農業関係施設機能強化促進基本計画策定事業	H27	村内の農業関係施設の機能強化を図ることで地域内農林水産物の利用促進と新たな雇用の創設を図るために、読谷村農業関係施設機能強化基本計画策定事業を実施する。	・読谷村農業関係施設機能強化促進基本計画の検討(機能強化に向けたニーズ調査等)	・読谷村農業関係施設機能強化促進基本計画の完了(整備に向けた現状の把握、方針の決定)	・以下今後検討する H28年度 実施設計の策定 H29年度 工事 H30年度 利用開始予定	5月変更(事業追加)
8			地域にあったものづくり支援事業	H26 ~ H28	読谷村の特産品や商品を県内外へPRするために物産展等への出展し販路拡大を図るとともに、本村地域資源を活用した新たな特産品づくりを調査するため、読谷村商工会へ支援を行う。	県内外物産展への出店支援 新商品の調査支援	出店数:5件 開発支援5件	・村産品の販路拡大と新たな特産品づくりを目指し、県内外物産展への出展及び調査補助を引き続き行う。 ・過年度において開発(調査含む)を行った試作品の商品化を目指し、フォローアップを行う。	
9			読谷村工芸品県外プロモーション戦略事業	H26 ~ H33	読谷村では、1978年に策定した「ヤチムンの里」基本構想により、村づくりの中でヤチムン(琉球陶器)の振興を位置づけ、ヤチムンの里づくりを推進してきた。現在読谷山焼等から60余りの工房が新たに独立している。今後のヤチムンの持続的発展をめざし、県外マーケットにおいてマーケティングを行うとともに、若手作家の作品を中心にプロモーションを行い、販路拡大や人材育成する。又村内にはヤチムンの他にも工芸品として花織り・琉球ガラスがあり併せて販路拡大を図る。	テストマーケティングの実施(周知を目的とした)展示会の出店支援(2回)	・次年度以降のプロモーション戦略等効果検証 ・販路把握、顧客の獲得 ・ブース来場者(2,000人)	村内工芸品の販路拡大、人材育成を目指し、展示会への出展支援を継続する。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

嘉手納町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			観光史跡等説明板整備事業	H24 ～ H28	魅力ある観光地づくりを目指し、地域資源、文化資源を活用した観光振興を図るため、町内に点在する史跡、旧跡等への多言語表記した史跡等説明板を設置する。	町内の観光史跡等に説明板を設置(2箇所)	観光史跡等説明板の整備率88%	(今後の展開方針) H28:設置工事(2箇所) 整備率:100%	
			うたの日コンサート事業	H25 ～ H27	沖縄出身のトップアーティスト「BEGIN」が主体となって開催している「うたの日コンサート」において開催を支援し、同コンサートを誘致することで多くの観光客を誘客し、町の活性化を図る。	うたの日コンサートの開催支援	・うたの日コンサートへの来客数:5,000人 (平成26年度主催者発表来客数:9,000人)	今後のイベント等に町の特産品等の出店し、PRしていく。	
			嘉手納町観光客受入体制整備事業	H26 ～ H27	嘉手納町は多くの地域資源があるが、資源間のつながりが弱い。観光客の回遊性が乏しい。通過型観光になっている。本事業では、地域資源の観光地化を行い、資源間をつなぎ、情報発信を行うためのおもてなし観光ガイドを実施するとともに、必要となる専門的な助言や運営のサポートを行い、観光客誘客の促進を図る。	・派遣期間:58日 ・ホームページの作成 ・観光情報カードの作成	・観光ガイドによる観光客の受入:30回	嘉手納町観光受入態勢の強化していく。	
			水釜護岸景観整備事業	H27 ～ H33	水釜護岸には町内外から多数の観光客や町民の方々が訪れる観光スポットとなっている。新しい観光地としての可能性を再発見し、嘉手納町の独自性を生かした新しい観光地の創出を目的とする。	・現地踏査 ・ワークショップの実施(2回)	・本町の現況把握 ・今後の基本設計等を実施する上での基礎となる基本計画の策定	(今後の展開方針) H28:関係機関との調整期間 H29:基本設計 H30:実施設計 H31～33:整備工事	
			かでな文化センター機能向上事業	H24 ～ H27	観光振興促進を図るため、音楽や芸能、講演会など様々な催事に対応できるよう、かでな文化センター施設の機能向上を図る。	・バリアフリートイレの整備(3箇所) ・段差解消及びエレベーターの整備(1基) ・ホール内客席通路手すり設置(144箇所) ・事務室移設 ・ホワイエカーペット張替え	バリアフリー化により、施設内の移動を円滑にし、利便性の向上を図る。	(今後の展開方針) 利用者数基準値(過去5年平均値):44,000人 平成28年度:供用開始 利用者数目標値(平成28年度):50,000人	5月変更(事業追加) 10月変更(計画変更に伴う活動目標変更)
			屋良東部地区地域振興施設機能拡充事業	H25 ～ H30	屋良東部地区地域振興施設は、年間約50万人の観光客が来場するが、展望場で米軍基地を展望した後、すぐ施設を退館する通過型の施設になっている。このような課題を解決し、観光誘客施設としての魅力を高めるため、平成26年度に策定した道の駅かでな機能拡充基本計画を基に基本設計を行う。	屋良東部地区地域振興施設機能拡充基本設計 (・施設計画の検討、策定、・庁内検討委員会、審議委員会の運営、・既存建物の調査、設計図作成、・構造基本計画の作成、・設備基本計画の作成)	平成28年度実施設計に向けた事業の着実な実施(基本設計の完了)	(今後の展開方針等) H28実施設計 H29～30年度:工事 H31年度:供用開始 目標利用者数:H31年約60万人(H25年約50万人)。	5月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

嘉手納町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
		屋良城跡公園総合再整備事業	H25 ～ H27	観光資源に乏しい本町において、屋良城跡公園は比謝川を活用したエコツアーや川祭りの会場として大きな可能性を持っており、観光入客数の増加や地域の活性化に向け、屋良城跡公園の総合再整備を行う。	屋良城跡公園総合再整備基本設計検討 ・測量業務(基準点測量・現地測量) ・公園基本設計(現地調査・与条件の細部検討・諸施設の検討及び設計・基本設計図の作成・鳥瞰図及び透視図の作成)	平成28年度実施設計に向けた事業の着実な実施 (基本設計の完了)	(今後の展開方針等) 整備後の活用:YOU遊比謝川河童祭及びカーン体験等、自然を活用したイベントの開催と地域住民の利活用促進を図る。	5月変更 (事業追加)
		兼久海浜公園リニューアル事業	H26 ～ H28	新たにスポーツ等の観戦客や公園を利用する町外からの入域数の増加を図るため、これまでの施設利用方法、利用者層及び公園ニーズについて再検証し公園施設の再検討を行うとともに、その結果を基に公園のリニューアル整備を行う。	施設整備計画の検討 事業計画の検討 ・ワークショップの実施(2回程度) ・庁内検討会議開催(2回程度)	平成28年度基本設計に向けた事業の着実な実施 (基本計画の完了)	(今後の展開方針) H28:基本設計 整備後の活用:個施設利用効果を高め、利用者誘客を図る。	5月変更 (事業追加)
2		学習支援員配置事業	H24 ～ H33	算数、数学、国語の基礎学力定着のため、教師と連携を図りながらチームティーチング、習熟度別授業を行い、また、長期休業における個別指導及び放課後の補習授業を行う学習支援員を配置する。	学習支援員配置数 小学校:4人、中学校:1人	県到達度調査正答率において、 (小学校) 国語(-1.3)、算数(+0.9)を県平均値以上にする (中学校) 国語(+1.7)、数学(-5.8)の差を「0」にする ()内の数値は、現状値と県平均値との差	県到達度調査における国語算数正答率を各学年とも県平均以上とする	
		英語力強化事業	H24 ～ H33	教育課程特例校としての特典を生かし、英語力を向上させるため、ネイティブスピーカーの講師の活用で、小学校では英語に親しむ環境をつくり、中学校では臨場感のある実用的な英語を学ぶ指導補助として、また英語科に英語指導員を配置することで、生徒への個別の学習支援、英語検定取得のための支援を行い、英語力の向上に繋げる。	英会話指導員配置数 小学校:3人、中学校:2人 英語指導員配置数 中学校:1人	(小学校) 各学年のターゲットフレーズ(日常会話4項目～5項目)の習得率が前年度を上回る。 (中学校) 英語検定受検者合格率27%を上回る。	(小学校) 英会話が好きな児童の割合の増加 (中学校) 英検受験への挑戦を促し、英検対策指導の実施	
		ICT活用事業	H24 ～ H33	情報活用能力の育成や学校における情報化を推進するため、パソコン指導員を配置する。また、授業でのPC活用を推進するためフラッシュ教材を活用した授業支援も行う。	パソコン指導員配置数 小学校:2人、中学校:1人	(小学校) キーボード検定サイトにおいて学年目標級を達成する。(達成率60%) (中学校) ・オフィス系のソフト活用力の向上 ・パソコン検定にむけての指導 1・2年:5～4級、3年:3級(前年度を上回る受検率)	(小学校) 学習の成果物として、作文、プレゼン等を作成する。 (中学校)パソコン検定目標級の達成 1・2年 5～4級、 3年 3級	
		不登校対策生徒指導支援員配置事業	H24 ～ H33	不登校の生徒に対応するため、継続的な支援活動を行う生徒指導支援員を中学校へ配置する。	生徒指導支援員配置数 中学校:2人	不登校生徒数を全生徒数の出現率を4.0%以下 (平成25年度:出現率4.1%)	不登校生徒数を全生徒数を出現率3.3%(県平均)以下にする。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金(市町村)成果目標一覧【公表版】

嘉手納町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			スクールカウンセラー活用事業	H25 ～ H33	青少年センターにスクールカウンセラー(臨床心理士)を配置し、児童生徒と保護者の相談業務を行い、教職員に対しては障害等への対応に関する研修会を実施する。また、適応教室相談員に助言や児童生徒のカウンセリングを通して学校復帰を支援する。	スクールカウンセラー配置数:1人	・サポートした児童生徒の学校生活への適応や学校復帰等改善が確認できた人数:3人 (平成25年度:復帰等改善が確認できた人数3名)	サポートした児童生徒の学校生活への適応や学校復帰等改善が確認できた人数の目標設定を3人として継続して実施する。	
			秋田交流学習体験事業	H26 ～ H30	教育先進地である秋田県大館市へ小中学生・教師を派遣し、小中学生は授業をとおして学習規律、授業への参加する準備・構えを体験し、教師は指導法や授業作りについて学ぶことで本町の学力向上を図る。また、秋田県の教師を招聘し授業の実践や授業改善等の研修を行う。	・授業規律の確立 ・積極的授業参加(発言、発表回数)の増加を図るための指導法の充実) ・各校における報告会の実施 ・報告書の作成	・交流後の報告会、公開授業後に意識調査を実施し、授業改善・指導法の工夫を図っている教師の割合60%以上 ・アンケート調査で「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」で「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」割合 中学校55%以上、小学校50%以上	・授業規律の徹底、分かる授業・参加する授業を構築し、児童生徒の学力の向上に資する。	
			学校ICT機器整備事業	H26 ～ H28	ICT機器の活用を図り、魅力的でわかりやすい授業展開・効率的な知識の習得に繋げるため、デジタル教科書を整備し学習意欲の向上に資する。	デジタル教科書整備の実施 ・整備学年:小学校1年～6年 教科:国語(書写含む)、算数、理科、社会(地図含む)、音楽 ・整備学年:小学校1年～2年 教科:生活科 ・学校数:2校	アンケートで「授業のわかりやすくなった」と答えた生徒の割合65%	デジタル教科書整備(H28年度:中学校)日常的にICT機器を活用する授業展開の実現を目指す。平成27年度10月、3月にアンケート実施予定。	
3			雇用促進事業	H25 ～ H29	全国に比べ失業率の高い沖縄において雇用情勢の改善を図るため、就職相談窓口を開設する。就職相談窓口により求人・求職者を結び就労支援を行い、求職者へ就職意識の高揚と事業者の雇用拡大に繋げていく。	相談窓口開設(毎週火・金曜日) セミナーの開催(毎週金曜日)	就職人数:2人 相談人数:100人	就職相談窓口の相談件数及び就職人数において、年度毎の数値の増を図る。	
4			廃棄物リサイクル事業	H25 ～ H33	本町で排出されている草木を回収、チップ化し再資源化することで、本町が策定する一般廃棄物処理基本計画の推進を図り、リサイクルを促進しながら町全体の美化環境の保全を行っていく。	・木くず等の回収 ・木くず等の再資源化(チップ化)	・ごみの減量化(対前年度比:年間約5%減量)	草木のチップの堆肥化による農業の振興、バイオマス等などのエコエネルギーに利活用が可能か検討していく。	
5			嘉手納町防犯灯・街路灯LED化事業	H26 ～ H29	低炭素島しょ社会の実現と自然豊かな環境に配慮した町づくりの推進を図るため、町内に設置されている水銀街灯のLED化事業を実施する。	防犯灯・街路灯500基のLED化	平成26年度比で町内の防犯灯消費電力・CO2排出量の56%削減を目指す(防犯灯使用電力の発電に伴う沖縄電力のCO2排出量) H26年度CO2排出量:約450t/年(概算値) H27年度CO2排出量:約252t/年(概算値)56%減	防犯灯・街路灯のLED化工事を行い、平成28年度において、平成26年度比で消費電力の86%削減、CO2排出量の86%削減を目標とする。 平成27年度:56%減 平成28年度:86%減	10月変更(計画変更に伴う各目標変更)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

嘉手納町		計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業名		H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
6	食育まんが啓発推進事業	H26 ~ H28	地域の高齢者から長寿と言われる戦前の食生活を聞き取りまんがを制作する。食育まんがを普及、啓発することにより長寿の知恵を次世代へ継承し、健やか長寿のまちかでの実現を図る。	2作品制作 配布数:3,000部/作品 対象者:保育所保護者、幼、小、中学生	保育所保護者の「食育の日」周知度 7.7% 20% (H25年度) (H27年度)	・H28年度新規2本のまんがを配布。 ・H28年度「食育の日」周知度40%を目標とする。	
7	嘉手納町密集市街地地区改善事業	H27 ~ H29	本町は、町の総面積が15.04km ² あるが、町域の約83%を米軍基地に接収され、残された約17%の狭隘な地域での生活を余儀なくされている。市街地については、沖縄戦後の混乱期から住宅や商店、事務所、工場等が混在立地し、今日の狭隘、無秩序な市街地が形成されてきた。そのため、狭隘道路問題をはじめ接道要件を満たさない建物や消防困難区域もあり、様々な問題を抱える密集市街地となっている地区もある。本事業では、この密集市街地地区において土地所有者・家屋所有者・居住者と協働し地区整備の方向性を定め整備することを目的とする。	・地区のまちづくりの方向性の検討 ・まちづくりの推進に向けた課題整理 ・地域懇談会1回 ・アンケート1回 ・まちづくりニュース発行3回程度	・権利者(居住者・地権者)個別カルテの作成(50%) (地域住民および地権者の個別意向を把握するための資料として重要。資料作成における人的経費及び分析等に多くの時間を要する。本年度業務の大部分であり、成果として足ると判断する。) ・地元組織(まちづくり協議会)発足のための合意形成(10%)	H28:まちづくり計画案の策定 H29:まちづくり計画確定・活動支援	
8	嘉手納町住環境整備事業	H27 ~ H28	本町は、町の総面積が15.04km ² あるが、町域の約83%を米軍基地に接収され、残された約17%の狭隘な地域での生活を余儀なくされている。市街地については、沖縄戦後の混乱期から住宅や商店、事務所、工場等が混在立地し、今日の狭隘、無秩序な市街地が形成されてきた。そのため、新たな住宅・宅地の確保が難しくなっている。本事業では、住環境を改善するため、本町に必要な住宅政策を把握し、本町の状況に特化した効果的かつ実効性のある制度の確立及び推進を図る。	・住民意向調査(町内全域) ・現地・現況調査(町内全域) ・課題の整理	・本町の現況・課題の把握 ・本町における住宅政策の制度策定に向けた基礎資料の作成	H28:制度等策定 H29~:適時制度実施	
9	航空機騒音測定業務強化事業	H27	嘉手納飛行場周辺における航空機騒音被害について、より詳細なデータ収集を行うため、既存の騒音測定装置の近傍に気象情報測定器を整備し、風向・風速などの各種気象情報を観測する。さらに苦情連絡時における騒音発生ポイントでの騒音レベル測定用に携帯型騒音計を整備する。	気象情報測定器の設置(一式) 携帯型騒音計の購入(1台)	風向・風速等を加味した航空機騒音の詳細なデータの把握:毎日測定	分析手法の確立、より多くの騒音データ収集を図り、今後の基地政策につなげていく。	5月変更(事業追加)
10	避難施設防災機能強化整備事業	H27	嘉手納町内の防災・減災の強化の実現に向けて、避難所において、防災機能強化として、非常食料の備蓄、生活必需品の備蓄、避難所設置応急対策備品の確保を図り、避難所の防災機能を強化する。合わせて、保管用の備蓄倉庫を設置する。また、避難所等へAEDを整備し、避難施設の機能強化を図る。	町内の避難所へ備蓄品等の配置及び保管用備蓄倉庫の設置(3か所) 町内の避難所等へAEDの整備(33箇所中33箇所)	避難所3か所の備蓄体制の確立(備蓄品等の配置、倉庫設置) 町内の避難所等へAEDの整備(整備率:100%)	今後も避難所への備蓄品等の設置をしていく。AEDについては、コンビニエンスストア等に設置していく。	12月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

北谷町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			北谷町観光物産プロモーション事業	H24 ～ H33	北谷町の知名度を一層向上させ、本町への観光客誘客推進と地域特産品の交流を図るため、県外、国外における、観光誘致対策事業、誘客プロモーション事業を展開する。	(1)国内プロモーション 2箇所実施 (2)海外プロモーション 1箇所実施 (3)観光情報誌への本町観光情報の掲載 (4)マスコットキャラクター開発業務実施	町内入域観光客数の増加 (1)観光情報センターにおける窓口対応件数(年間) 20,500件(H26) 25,000(H27) 4,500件増 (2)観光情報センターにおける外国人対応件数(年間) 10,800件(H26) 12,000(H27) 1,200件増	沖縄観光の入客数及び経済的効果の底上げを図るべく、継続的に本町の魅力の発信を展開していく。	
1			観光振興地域活性化事業	H25 ～ H27	観光拠点地域の景観を育成し新たな観光資源を創出する。また、本町におけるエンターテインメント事業を創出し、観光拠点において継続的に事業展開し、観光客誘客推進を図る。併せて、観光客誘客推進のため、あらゆる媒体を活用した広報宣伝を展開し、事業をプロモーションする。	・イルミネーション装飾日数:100日 ・エンターテインメントイベント開催:2回	町内入域観光客数の増加 (1)観光情報センターにおける窓口対応件数(年間) 20,500件(H26) 25,000(H27) 4,500件増 (2)観光情報センターにおける外国人対応件数(年間) 10,800件(H26) 12,000(H27) 1,200件増 多言語コンテンツ (1)利用者数の目標指標:5000アクセス/4か月	地域と連携した魅力ある着地型観光の定着化を図るため、継続的に事業実施する。	
1			宮城海岸マリレジャーゾーン整備事業	H24 ～ H27	県内有数のダイビングスポット、サーフスポットである宮城海岸において、居心地の良い空間を提供し観光客の満足度を高めマリ産業の振興を図るため、宮城海岸マリレジャーゾーンとして海岸護岸の舗装の整備をする。H24年度からの継続事業で、H27年度は同事業の最終年度となる。	インターロッキングブロック舗装 A=520m2	年間利用者数 36,000名/年(観光客含む。)	沖縄県発注の宮城海岸高潮対策整備事業が完了次第、当事業に着手し早期完了を目指す。	
1			北谷町文化発信拠点整備事業	H24 ～ H30	キャンプ桑江北側米軍基地の返還に伴い発見された「伊礼原遺跡」は約7,000年前から連綿と続く集落跡として、国史跡として指定された。今後縄文時代に生活空間の具現化をテーマとし、住民の憩いの場、観光資源として公園整備を行う。また、隣接地に伊礼原遺跡の出土品等を含む町内に点在する文化財の公開活用を行うため、町立博物館を建設する。H27年度は、伊礼原遺跡保存整備事業、博物館整備事業の基本設計を策定する。	・伊礼原遺跡整備・復元住居基本設計の検討 ・町立博物館建築・展示基本設計の検討 ・周辺整備工事基本設計の検討	伊礼原遺跡整備・復元住居基本設計の完了 町立博物館建築・展示基本設計の完了 周辺整備工事基本設計の完了	(今後の展開方針) ○博物館整備事業 H28年度:実施設計 H29～30年度:施設建設、公開準備 H31年度:供用開始(年間来館見込15,000人) ○伊礼原遺跡保存整備事業 H28年度:実施設計 H29～30年度:建設工事、公開準備(年間来園見込50,000人)	
1			コミュニティバス導入調査検討事業	H26 ～ H28	観光客・町民の移動利便性を高めるコミュニティバスの導入に向けて、利用ニーズや本町の交通特性、関係機関との協議等を踏まえ、コミュニティバス実証運行計画(案)を策定する。	コミュニティバスの実証運行計画(案)の策定	コミュニティバスの実証運行に係る運行経路、ダイヤ、バス停等の案の決定	・コミュニティバス実証運行計画の策定及び関係機関への許認可申請 ・実証運行の実施	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

北谷町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			海業振興事業	H25 ~ H29	観光客誘客を図る施設整備の一環として景観性向上を図るため西防波堤等景観整備を引き続き実施する。また、海上係留施設の改良を行うことにより、利用者の利便性を向上させる。 さらに、海業振興センターのイベントを行うことにより、利用者の増加を図る。	西防波堤景観整備、護岸緑地整備、係留施設改良(防舷材取付) 海業振興センターPRイベント委託	・地区内観光客数(目標値) 20万人(現状:約15万人) ・地区内進出企業(目標値) 10社(現状:6社)	(今後の展開方針) 今回実施する景観整備や中核ホテルの開業と合わせ、観光客及び当該地域への進出企業の誘致を図る。	5月変更(事業追加) 7月変更(計画変更に伴う事業内容、活動目標変更)
1			北谷公園(ビーチ等)活性化事業	H25 ~ H28	既存のサンセットビーチの隣接地に新たな商業施設やホテルの開業が進んでいる。観光資源であるビーチへの歩行動線やビーチ施設、北谷公園施設を観光客に利用しやすい施設へと機能強化することで質の高い北谷観光を実現する事を目的とする。また、観光客の多様なニーズに対応できる施設整備を行うことで観光客の増加を目指す。 今年度はプール機能強化実施設計を行う。	機能強化実施設計の実施	機能強化実施設計の完了	平成26年度利用者数 ○7,799人(機能強化前実績値) 平成29年度利用者数 ○20,000人(機能強化後目標値)	7月変更(事業追加)
1			可視光(LED)通信実証実験事業	H27 ~ H29	美浜公共駐車場及びその周辺において、可視光(LED)通信機器を用いた駐車場管理システムや無料公衆WiFiを整備し、駐車場案内、地域情報や観光情報、災害情報の発信等の情報サービスの利用に関する検証に加え、商用電源を使わない自立型通信(多機能型)による検証を行う。 また、新たな通信技術である可視光(LED)通信サービスの提供を実現する技術についても実証を行う。	美浜公共駐車場に可視光通信機器を活用した、多機能型LED通信を11基設置し、その機能の実証実験を行う。	可視光通信機器やこれを活用する各機能の効果を検証する。	(今後の展開方針) 実証実験の結果を基に、事業範囲の拡大を検討する。	12月変更(事業追加)
2	1		英語指導助手派遣事業	H24 ~ H33	国際化に対応し、産業振興・観光振興に貢献できる資質・能力を持つ人材を育成するため、各小中学校に1人の英語指導助手を派遣する。	英語指導助手(AET)配置数6人: 全小中学校に各1人	小学校:日本英語検定協会主催シルバー児童英検の正答率が前年度と比較し1%向上。 中学校:沖縄県達成度調査(英語)の正答率が県平均を上回る。	(今後の展開方針) H33年度 小学校:日本英語検定協会主催シルバー児童英検の正答率の教育課程特例区平均レベル達成。 中学校:沖縄県達成度調査(英語)の正答率の県平均レベル達成。	
2	2		日本語指導学習支援員派遣事業	H25 ~ H33	日本語指導学習支援員を学校に配置し、日本語が十分に理解できない外国籍児童生徒や帰国児童生徒等への学習支援を行う。	日本語指導学習支援員配置数:1人	・指導を受ける児童全てが2年間で日本語を習得し、通級終了できるようにする。	(今後の展開方針) 日本語指導が必要な児童生徒が今後増加した場合、日本語指導学習支援員配置人数を2人へ増員。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

北谷町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2	3		学力向上学習支援員派遣事業	H26 ~ H33	学習に遅れをとっている児童生徒に対して、授業内容をきめ細やかにサポートする学習支援員を配置し、自ら学ぶ意欲を高め、基礎的、基本的な学習内容を理解させることで、学習環境の充実・強化を図る。	学力向上学習支援員配置数6人： 全小中学校に各1人	・沖縄県到達度調査における正答率30%未満の児童生徒 小学校：5.2%以下 中学校：16%以下	(今後の展開方針) H28年度 ・沖縄県達成度調査の県平均レベル達成と無答率の半減。	
2	4		スクールソーシャルワーカー派遣事業	H26 ~ H33	スクールソーシャルワーカーを配置し、児童生徒のおかれた様々な環境の問題(家庭、友人環境等)に働きかけ、問題を抱える児童に対して問題行動の未然防止、早期発見、早期対応に努める。	スクールソーシャルワーカー配置数：1人	・学校内外で問題を抱える児童生徒への細やかな支援の強化	(今後の展開方針) ・全中学校区に各1人と、青少年センターに1人を配置を目指す。	
2	5		北谷町ハワイ短期留学派遣事業	H25 ~ H29	ハワイでの語学学習やホームステイを通して英語力の向上を図りながら、ハワイの町人会との交流会を実施し、海外で活躍しているウチナーンチュとの親睦を図り世界的な視野を持った人材を育てる。 また、ハワイの文化・歴史関連施設等を視察学習することにより、異文化の国際理解や郷土文化の良さを再認識して相互理解を図る。	派遣生徒数：15人	派遣後の英語検定上級取得率30%	(今後の展開方針) ハワイ短期派遣生徒数 H27年度：15人 H28年度：15人 H29年度：15人	
3			跡地利用推進事業	H24 ~ H33	「キャンプ桑江南側」、「キャンプ瑞慶覧(施設技術部地区内の倉庫地区の一部)」の有効かつ適切な跡地利用計画の策定に向けて、「キャンプ桑江南側」においては、将来の斜面緑地の保全・活用を踏まえた情報提供の実施、「キャンプ瑞慶覧(施設技術部地区内の倉庫地区の一部)」においては、北谷城を含む国指定文化財予定地とその周辺の利活用基礎調査及び地権者説明会を実施する。	・地権者説明会の実施：1回 ・キャンプ瑞慶覧(施設技術部地区内の倉庫地区の一部)における跡地開発手法の検討	跡地利用に対する地権者の理解促進及び意向把握	・跡地利用に対する地権者等の意向醸成促進及び意見聴取 ・地権者の合意を前提とした跡地利用計画策定	12月変更 (計画変更に伴う事業内容、活動目標変更)
4			北谷町特定駐留軍用地内土地取得基金事業	H25 ~ H33	駐留軍用地跡地の有効かつ適切な跡地利用を推進するため、沖縄振興特別推進市町村交付金を財源とした基金を活用して特定駐留軍用地内の土地の先行取得を実施する。	・公共用地15,200㎡の取得	・公共用地取得率：約21.7% (総取得予定面積：70,000㎡) (うち 学校用地：45,000㎡、緑地・公園：25,000㎡)	・地権者からの買取申出に弾力的に対応するため、基金を最大限に活用し今後も安定的かつ確実な土地の取得を行う。	5月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

北中城村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			ツーリズム「北中城」促進事業	H24 ～ H33					
			あやかりの杜滞在型施設活用事業	H24 ～ H28	長期滞在型のある宿泊施設、キャンプ場等がある「あやかりの杜」を活用した、野外活動や沖縄の自然や伝統文化の学習等を実施する。	・体験交流事業:15事業	・体験交流人数:500人	(今後の展開方針) 体験交流人数目標(H28):750人 (延べ人数)	
			歴史文化散策路ネットワーク整備事業	H24 ～ H29	誘客を図るため、世界遺産「中城城跡」を核として、村内にある歴史文化遺産の活用と、村の魅力発信するとともに、徒歩で周遊できる散策遊歩道整備を実施する。散策遊歩道整備の実施箇所は、重点地区となっている喜舎場・仲順地区とする。	・散策路案内カラー舗装(L=1,300m、570m2) ・里道整備の実施 1路線(L=128m、188m2)	・喜舎場地区の散策が可能となり徒歩で周遊できる環境基盤の整備	(今後の展開方針) ・H28年度:第3期工事・AR検討 ・H29年度:AR導入	
			北中城まつり活性化事業	H24 ～ H33	県内外の誘客及び村民コミュニケーション醸成を図るため、夏場の祭りとして、沖縄の伝統文化である「青年エイサー」、秋場の「北中城まつり」の開催、そして冬場の祭りとして、沖縄の温暖な気候を活かした日本一早い「ひまわりまつりin北中城」を開催する。	・まつりの実施:3回 ・まつり開催日数:19日	三大祭りにおける来場者数:11.5万人(H25:11.1万人) ・地元産業事業者及び村内団体出店参画数:60事業所(H25:51事業所及び団体) ・県外ツアー受入れ1社以上	(今後の展開方針) 各まつりにて、村内事業所及び観光施設のPRを実施するブース及び特産品販売ブースを設置する。三大祭りにおける来場者数目標(H33):11.5万人 基準年(H23):9万7千人	
			荻道・大城湧水群周辺環境整備事業	H24 ～ H28	平成の名水百選に選ばれた湧水群について、新たな観光資源としての活用を目指し、水質の調査や、世界遺産「中城城跡」のすぐ近くに点在するという環境を活かし、湧水群周辺整備を実施する。	・亀裂箇所補修工法検討調査 ・雨水地下浸透施設の整備実施:5件(住宅) ・雨水地下浸透施設の整備実施:1件(公共)	・補修工法の決定 ・井戸の湧水量確保に向けた雨水地下浸透施設整備完了(公共施設1件、住宅地5件)	(今後の展開方針) H28年度以降 ・実施設計(予定) ・用地取得(予定) ・整備・運用開始(予定)	12月変更 (計画変更に伴う各目標変更)
			地域活性化キャラクター活用事業	H25 ～ H33	本村の認知度向上と地域資源の情報発信・観光客誘客強化を図るため、平成25年度に誕生した地活キャラ及びARアプリを活用し、村内地域イベント、県内外でのキャラクターを介したイベントに積極的に参加し、PR活動を行う。また、本村14字自治会、青年会、婦人会、老人会等各種団体のイベントでの活用を行うと共に運用する人材の育成を行う。また、まつりやイベントでの特産品などの販促を推進するための広告塔として活躍させる。	・キャラクター実働回数:60回 ・他市町村等キャラクターとの対面による話題作り(6回) ・県外イベントへの参加(1回) ・PR用ハルティークズの開発(5アイテム)	・イベント参加、PR活動による北中城村の認知度向上 (三大まつり来場者数4%増 基準値H25:11.1万人)	(今後の展開方針) 村内外のイベントへの参加を通して、本村のPRを強化すると共に、来村頂いた方々から意見を集約しながら、キャラの展開及びアプリ活用の充実を図る。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

北中城村		計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業名		H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
	中城城跡へのアクセス(大城登又線)整備事業	H26 ~ H27	世界遺産「中城城跡」を核とした県営中城公園整備が進んでいる中で、当該公園北側に接する村道大城登又線の拡幅工事を推進し、観光客等誘客を図る。	・基本設計:1箇所(1工区) L=約300m	・実施設計策定に向けた事業の着実な実施	(今後の展開方針) H28年度 実施設計 H29年度 事業説明会、用地買収	
	東海岸まちづくり整備事業	H24 ~ H27	本村の東海岸地域における低未利用地(遊休農地等)の有効的な土地利用を図るため、津波等の災害に強い防災基盤施設等の整備と併せて、魅力ある「食」の資源を活かした特色ある観光地として都市的基盤整備を行う。	・減災対策を加味したまちづくり整備基本計画策定の検討 ・関係機関協議 ・地権者合意形成	・減災対策を加味したまちづくり整備基本計画の策定	(今後の展開方針) ・H28用地取得 ・H29区画整理事業等による整備	
	観光情報発信拠点推進事業	H26 ~ H28	「イオンモール沖縄ライカム」内に設置した、観光情報発信の拠点となる北中城村観光案内所(仮称)を積極的に運用し、北中城村のみならず、沖縄県内全域の観光案内・情報発信等のサービスを提供するとともに、当該商業施設を訪れる観光客等のおもてなしを充実させ、村内各所へ誘導して村内飲食店等の活性化も狙う。平成27年度以降には観光協会や商工会、県内ホテル等との連携による観光商品(ツアー、イベント等)商品開発を行う。	・観光案内所の案内業務の開始 ・観光商品(ツアー等含む)の開発(2アイテム)	・村内各所への誘客:案内所利用者の5割 ・観光商品の開発:2アイテム以上 ・年間案内所利用者数目標値:7,500人	(今後の展開方針) ・観光協会、商工会、県内ホテル等と連携し、より良い観光情報の送受信所として活用する。	
	アワセゴルフ場周辺まちづくり整備事業	H27 ~ H29	アワセゴルフ場跡地は、土地区画整理事業により整備が進められ観光交流拠点にふさわしい街となる。また将来においては、アワセゴルフ場跡地に隣接するライカム・ローワ地区も返還され、この周辺一帯は新しい市街地を形成することになる。しかし、この両跡地に近い土地(プラザハウス周辺)は米軍基地に接していたため整備ができず老朽化した住宅が細街路で接続された状況となっていることから、本地区の再開発を目的に、一体性を連ねる観光交流拠点として活用するための調査・検討を行う。	・現況・周辺影響調査の実施 ・アワセゴルフ場周辺まちづくり勉強会(関係機関)の実施(2回)	・現況調査、周辺影響調査等を行い、目指すまちづくり案の検討にむけた課題の把握。	(今後の展開方針) H28 目指すまちづくり案の検討 H29 基本計画策定 H30 再開発の導入に向けて実施段階へ移行する。	
	公営墓地整備事業	H24 ~ H30	沖縄独特の墓地散在化の抑制と整理、景観的な配慮や住環境の改善を図るため、公営墓地用地の取得を行う。	・公営墓地用地の取得(7,722.27㎡)	・公営墓地用地の取得率:84% 全体計画14,338.13㎡(H26取得:4349.73㎡)	(今後の展開方針) ・平成28年度・取付道路部分の用地取得 ・平成29年度公営墓地整備・取付道路整備 ・平成30年度納骨堂建築工事	10月変更(計画変更に伴う各目標変更)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

北中城村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2			駐留軍用地跡地等利活用事業	H24 ～ H30					
			アワセゴルフ場地区観光拠点づくり事業	H24 ～ H28	観光客誘客が期待される駐留軍用地跡地である「アワセゴルフ場地区」の観光拠点まちづくり及び安心安全なまちづくりを推進し、災害にも強く魅力ある観光まちづくりを目指すため、災害時の一時避難所（商業施設）と医療施設の施設に係る連携体制構築に向けた調査・整備方針の検討を行う。	・一時避難所と医療施設往來に必要な施設に関する調査・整備検討	・一時避難所と医療施設を結ぶ整備方針の決定	(今後の展開方針) H28年度:施設の基本設計(予定) H29年度以降:実施設計(予定)	
			アワセゴルフ場地区歴史・まちづくり映像保存事業	H24 ～ H30	アワセゴルフ場地区は、戦前は肥沃な土地に恵まれた比嘉集落が形成され、自作農で生産性も高く豊かな集落であったが、戦後、強制的に土地が収用され60年余あまりにわたって米軍娯楽施設のゴルフ場として使用され、平成22年7月に返還された。そのような戦前の営みからゴルフ場利用、返還合意から土地利用までの歴史文化の継承を図るため、映像記録、編集を実施する。	・まちびらきの映像撮影 ・住宅地造成や医療施設の建設等 記録映像の撮影時間:3時間	・記録映像の作成(進捗率:60%)	(今後の展開方針) H28年度～H30年度 引き続き、記録映像の作成・保存(3時間×5年)を行いH30年度に取りまとめを行う。	
			アワセゴルフ場地区公共用地取得マネジメント事業	H26 ～ H28	アワセゴルフ場跡地は、平成22年7月に返還され都市計画決定及び県条例における環境影響評価を行い、平成25年度より造成工事が開始されており、造成工事の進捗に合わせ平成26年度より公共用地の取得準備を開始する。 跡地利用の計画的な進捗には、公共用地の取得も計画的に進める必要があり、そのために、用地アセスメントから買収・登記まで一連して計画的に進めるために用地取得マネジメントを行い跡地利用の迅速な推進を図る。	・対象49筆のうち25筆以上と売買契約締結	・H29年度整備に向けた事業の着実な実施	(今後の展開方針) 平成28年度:用地取得完了 平成29年度以降:整備・健康スポーツ施設活用	
			喜舎場ハウジング地区跡地利用推進事業	H25 ～ H29	駐留軍用地キャンブ瑞慶覧「喜舎場ハウジング地区」内における跡地利用推進計画として、喜舎場スマートICのフルインター化に向け、インターチェンジのレイアウト(案)の検討、道路構造、跡地利用などの調査を実施する。	・スマートインターチェンジレイアウト案作成 ・スマートインター地区協議会作業部会の開催(2回) ・概算費用の算出 ・交通量調査	・スマートインター整備に係る課題の把握 ・関係機関との情報共有	(今後の展開方針) ・喜舎場スマートICの形式検討の絞り込み及び早期返還に向けた取組みと関係機関協議を行う。	10月変更(計画変更に伴う活動目標変更)
			キャンブ瑞慶覧特定駐留軍用地推進基金事業	H25 ～ H29	キャンブ瑞慶覧ロワープラザ住宅地区の跡地利用を促進するための基金を創設し、公有地の先行取得を行う。	・公有地の買取り実施(4,500㎡)	・用地取得率:47% (取得目標:9,500㎡ H27年度取得:4,500㎡)	(今後の展開方針) H25年度～H27年度 ・基金の積立 H27～H30年度 ・用地取得	5月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

北中城村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
3	雇用対策事業	H24 ～ H33						
	雇用サポートセンター事業	H24 ～ H33	活力ある地域づくりを目指し、高い水準で推移している失業率の改善を図るため、若者や退職期を迎えた団塊の世代の再就職希望対応など、雇用サポートセンターでの継続した雇用支援を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 登録企業の開拓 求職者のマナー等指導実施(随時) 事業活動の周知拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 失業者のマッチング人数:30人(H25:27人) 新規求人数:150件(H25:69件) 新規登録事業所数:53社(H25:53) 	(今後の展開方針) 登録企業の開拓を周辺市町村へ広げ、職種の幅を広げ、求職者の選択肢を広げる。 マッチング目標:年間30人 登録企業目標:年間:60社		
	グジョブ連携推進事業	H27 ～ H33	将来のまちづくりの担い手となる児童生徒の勤労観・職業観と学校をはじめ地域全体の連携による雇用問題の解決や就業意識の向上を図るため、ジョブシャドウイングをはじめとする包括的なキャリア教育を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 教職員への講習会の開催 ジョブシャドウイング・職場体験の実施及び実施の为一連の取り組みの実施(小学校2校・中学校1校) 講習会、講演会等の開催(3回) 	<ul style="list-style-type: none"> 就業意識向上把握 低学年から高学年、中学校への就業意識変遷 	(今後の展開方針) 同事業の実施を村内高校まで拡大することも視野に入れた事業展開を行う。		
4	農水産アクティビティ事業	H24 ～ H33						
	農業経営改善支援事業	H24 ～ H33	生産性の向上と後継者不足及び耕作放棄地の解消を目指し、農業者の技術支援及び助言と、就農を希望する若者の人材育成のため、農業経営改善支援員を派遣する。	<ul style="list-style-type: none"> 農家への経営指導及び技術支援の実施(40件) 	<ul style="list-style-type: none"> 認定農業者の認定数:1件 	(今後の展開方針) 引き続き農家へ指導を行い、認定を受ける農業者の増加を目指す。		
	地域ブランド構築事業	H24 ～ H33	H26年度までに考案した商品のさらなるブラッシュアップを行うとともに、特産品と合わせて販売拡大や県外物産フェアへの出店を行う。また、村内事業所の自主性を高めるために公募型の商品開発も行う。地域ブランド発信事業者を増やす取り組みを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 公募型商品開発の募集 既存製品のブラッシュアップ(随時) 県外商談1回 PR活動回数:2回 パンフレット作成:2万部 	<ul style="list-style-type: none"> 販路拡大の為の県外物産フェア参加(6品目販売モニター調査、販売額目標40万円) 新商品の開発4アイテム ポータルサイトアクセス数10%増(H25年度60,000アクセス) 	(今後の展開方針) H28年度以降: 生産量、売上高等の中長期の成果目標等を設定し、フォローアップの結果を継続的に把握できるようにする。 H32年度までにアンテナショップ等での売上100%増(基準額H26年度:10,656千円)、入込み客数100%増(基準H26年度:15,600人)		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

北中城村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
5			災害対策強化事業	H24 ～ H28					
			災害時要援護者避難支援事業	H24 ～ H28	観光客を含む災害時要援護者の円滑な避難を図るため、避難支援事業及び自主防災組織等への災害時の要援護者支援に活用する防災資機材を整備し、支援体制の整備・強化を行う。	・要援護者個別支援計画の新規策定 件数:30件 ・自主防災組織設立:1団体 ・防災資機材整備:1団体	・災害時要援護者支援体制の強化	(今後の展開方針) H26年度に立ち上げた自主防災組織の活動支援と、引き続き個別支援計画の策定及び見直しを継続していく。また、防災資機材の整備を拡大していく。	
6			エコアクション推進事業	H24 ～ H33					
			全村植物公苑化推進事業	H24 ～ H33	本村まちづくりの基本目標の1つである「全村植物公苑づくり」のもと、村全体を植物公苑とみため、観光拠点周辺の地域緑化を行う。	・村内主要道路等の美化・緑化実施: 2,000㎡	・村内を訪れる観光客、来村者へ快適な環境を提供	(今後の展開方針) ・公共・観光施設管理者及び道路管理者との連携を図る。 村内団体へ緑化ボランティアの呼びかけを実施する。 緑化・美化協力団体数 目標(H33):5団体	
			公共施設等エコアクション推進事業	H24 ～ H29	北中城村全体でCO2削減に向けたエコアクションの先駆けとして、省エネルギー化のため、村道へのLED新設と、自治会管理の既存照明機器等をLEDへ切り替えを行う。	・LED街灯設置 6箇所 ・既存の蛍光灯街灯をLEDへ切替え (741箇所) ・自治会単位でのエコ活動の普及	・実施箇所の自治会(自治会長)へアンケートを実施し、LED化への取組の評価(賛同75%以上) ・各自治会施設内でのLED切り替え自治会数(14自治会のうち5自治会)	(今後の展開方針) 設置1箇所、LED街灯3本設置 LED街灯取替え247箇所 平成29年度:LED街灯取替え247箇所	
7			国際化・ICT人材教育推進事業	H24 ～ H33					
			総合英会話指導支援事業	H24 ～ H33	英語を母国語とする外国人や英会話能力の優れた講師による英会話指導を実施し、生きた英語に触れることで、外国語教育の充実と国際性豊かな人材育成を図る。	・英会話指導員配置数 小学校:1人 中学校:1人 幼小兼務:1人	・英語検定の受検促進 (H26:348人 H27:380人) ・英語検定合格率の向上 (H26:54% H27:55%)	(今後の展開方針) H28年度～H33年度 人材育成と英語力スキルアップの 為さらなる合格率向上を目指す (60%)	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

北中城村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			アメリカ教育機関ネットワーク形成事業	H24 ～ H33	WEBシステムによるライブ授業を開設し、小学生の高学年から中学生を中心に米国のワシントン州立大学教員による集中講座を行い、英会話力・英作文力・英文読解力を習得させ、国際化社会に対応できるように人材を育成する。	・中学生クラス:64回(前期32回・後期32回) ・小学生クラス:64回(前期32回・後期32回)	英会話力・英作文力・英文読解力の習得 ・基礎英語レベル1修了:7名 ・基礎英語レベル2A修了:5名 ・基礎英語レベル2修了:12名	(今後の展開方針) H28～H33年度 受講生人数(累計):210人 H33以降 人材育成のため事業継続予定	
			海外子弟青年交流事業	H24 ～ H33	友好親善と国際交流の推進を図るため、本村出身者が多く経済発展を遂げている南米3カ国(ペルー、アルゼンチン・ブラジル)及び交流可能な海外村人会に研修生を派遣する。また、世代交代がする海外子弟の青年に、沖縄の文化・伝統芸能の習得によるウチナンチュとしてのルーツを再確認してもらうとともに、本村及び研修修了生を交えた「交流ネットワーク会議」を立ち上げ海外と本村を結ぶ懸け橋となる人材育成を図る。	・海外子弟受入人数:3人 ・海外村人会派遣:2人 ・研修報告会の開催(各研修1回)	・(受入者)現地村人会の活性化に寄与する ・(派遣者)友好親善の推進を図るため、受入生と派遣生(過年度派遣生も含む)とで交流の場を構築する	(今後の展開方針) H28～H33年度 受入人数:18人 派遣人数:12人 海外と本村を結ぶ懸け橋となる人材育成を図る。 新たな世代間同士での交流環境の整備を図り、交流ネットワーク会議等を検討する。	
8			歴史文化継承基盤整備事業	H24 ～ H29					
			琉球歴史風致資産調査	H24 ～ H29	過年度調査分の歴史風致資産について、より詳細な情報を収集・記述するため、文献資料による補足調査を行うとともに、村内で行われている伝統的な民俗祭祀行事について、専門的見地から内容を記録・解説するため、映像記録の作成・編集、聞き取り調査及び関連史料の収集・分析を実施する。 また、過年度整理分の民具等の収蔵台帳データベースをウェブを通して広く発信するために文化財情報ポータルサイト(仮)の仕様設計を実施する。	・過年度分補足調査 200箇所 ・民俗祭祀行事調査 20件 ・文化財情報ポータルサイト(仮)の仕様検討。	・過年度分補足調査 歴史風致資産の情報発信及び歴史まちづくり計画策定作業への活用に向けた詳細資料の完成(200箇所分、進捗率42%)。 ・民俗祭祀行事調査 伝統祭祀の紹介解説へ向けた資料の完成(調査所見レポート20件、進捗率88%) ・文化財情報ポータルサイト(仮)開設に向けた仕様設計の完成	(今後の展開方針) 次年度以降は、現地調査と並行しながら、過年度調査分成果の整理作業を進める。 また、28年度から文化財情報ポータルサイト(仮)の公開・共用開始を目指す。 将来的には、歴史風致を踏まえたまちづくり計画を策定する。	
			中城間切ノ口関係資料集作成事業	H24 ～ H29	「中城間切ノ口関係資料集(仮)」の発刊に向け、これまで収集した資料及び調査成果をもとに、「島袋ノ口文書」の解説原稿及び本巻論述編の仮原稿を執筆し、また、上記原稿執筆にあたり必要な補足追加資料の収集も随時実施する。	・原稿執筆(島袋ノ口文書解説) 50点 ・原稿執筆(論述部分) 6項目 ・原稿の方針・執筆内容に関する専門部会及び執筆者による合同検討会 3回	歴史文化の発信へ向けた史料分析(資料集発刊等)の着実な実施 ・島袋ノ口文書解説原稿 50点(進捗率50%) ・論述部分における仮原稿 6項目(進捗率30%) ・原稿執筆方針・内容の決定	(今後の展開方針) H28年度:「中城間切ノ口関係資料集(仮)」の発刊に向けた各種原稿執筆に着手。 H29年度:「中城間切ノ口関係資料集(仮)」の発刊。 ・当該資料集の発刊により、本村独自の歴史を広く発信することができる。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

北中城村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
9		教育環境充実サポート事業	H25 ～ H33					
		特別支援教育支援員配置事業	H25 ～ H33	村立幼稚園、小学校、中学校に在籍し、障害を持った子や発達が気になる子に対し、身辺自立の介助や対人関係の手助け、学習補助などの支援を行うことで、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みづくりを図る。	・特別支援教育支援員配置数 小学校:11名 中学校:4名 幼稚園:4名	・支援を必要とする幼児児童生徒へのきめ細かな支援体制の構築 ・障害のある者とない者が共に学ぶ環境づくりの整備	(今後の展開方針) H28～H33 引き続き支援員ひとりにつき最大2名の幼児児童生徒とすることで、早期から一貫した支援体制の整備を行い、障害のあるなしに関わらず、教育における平等な機会付与を図る。	
		学習支援員配置事業	H27 ～ H33	学習の遅れがちな児童生徒に対し、基礎的・基本的知識や技能の習得に向けた支援を実践することで、幅広く活躍できる人材育成の土台作りを図る。	・学習支援員配置数 小学校:2人 中学校:1人	・全国学力・学習状況調査における平均正答率の向上 ・平均正答率の向上(全国学力・学習状況調査) 小学校:全国平均との差の縮小(各教科2ポイント以内) 現状【国語:全国(72.9) 村(70.6)】 【算数:全国(58.2) 村(55.4)】 中学校:県平均との差の縮小(各教科2ポイント以内) 現状【国語:県(74.1) 村(73.1)】 【数学:県(50.3) 村(45.0)】	(今後の展開方針) 全国平均正答率(全国学力・学習状況調査)の達成及び更なる向上を目指し、継続した学習支援員の配置による基礎的知識の習得を図る。	
10		健康長寿のまちづくりアクション事業	H26 ～ H28	本村は平成26年3月、村民一人ひとりの健康づくりを通して「村民の楽しみ・生きがい増」「村民の所得増」「産業振興・観光振興」等、様々な良い効果が出ることを目標とした「北中城村 健康長寿のまちづくり計画」を策定した。本年度においては、「女性長寿日本一のPR事業」や「健康づくり村民会議」を実施するとともに、26年度に策定したアクションプランを念頭に村民の食生活と健康調査を行い健康習慣の啓発に繋げる。	・健康長寿のまちづくり村民会議等の開催(3回) ・大学との共同による調査 ・他課との連携事業 ・自治会或いは各種団体への活動説明の実施(4回)	・特定検診率の向上(前年度より2%) ・特定保健指導実施率の向上(前年度より5%)	(今後の展開方針) 平成27年度以降 ・策定したアクションプランをもとに、村内各団体等とが連携しての健康長寿のまちづくり事業の実施・推進を図る。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

中城村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			護佐丸が村を守るグスク整備事業	H26 ~ H30					
1			防災行政無線機能強化事業	H27 ~ H29	防災基盤整備の一環として屋外子局を増設し難聴地域の解消を図る。また、現在3局ある有線子局及び15局あるアナログ子局について、デジタル化及び相互通報システムを整備し、情報伝達手段の機能強化を図る。	・デジタル子局の新設 2箇所 ・有線子局のデジタル子局化 3箇所	・デジタル子局(相互通報システム)の整備率 25% (H27年度未整備済 5箇所 / 全体計画 20箇所)	(今後の展開方針) ・H28:アナログ子局8局をデジタル化 整備率65% ・H29:アナログ子局7局をデジタル化 整備率100% ・導通訓練 2回/1年	
1			防災体制整備事業	H26 ~ H30	災害に強く、安心して暮らせる村づくりを推進するため、災害時に村民や観光客等が避難所生活を送ることとなった際に、物資の搬送が開始されるまでの非常食や生活物資等の備蓄整備を行う。 また、災害時に効率的・実働的な災害対応を図るために必要な災害対策本部の備品を整備する。さらに、コンビニ等にAEDを設置し、人命を救う「時間」と「場所」を拡充する。	・非常食 1,500食 ・災害時用生活用品(下着) 400着 ・災害対策本部備品の拡充(発電機、担架、救助工具等) ・災害対策本部消耗品の拡充(帽子、雨合羽、長靴) ・AED設置箇所 13カ所	・非常食 整備率52.6% (H27年度未整備率 4,500食 / 全体計画 8,550食) ・生活物資 整備率40% ・災害対策本部備品 整備率40% ・災害対策本部消耗品 整備率40% ・AED設置率 100% (H27年度未整備率 13箇所 / 全体計画13箇所)	(今後の展開方針) ・非常食:H28~H30で毎年1,500食ずつ整備し、目標値の8,550食の確保 ・生活物資:簡易トイレ、おむつ等 災害時用生活用品、災害対策本部備品の整備拡充を図る。	
1			災害関係表示板設置事業	H26 ~ H28	災害に強く安心して暮らせる村づくりを推進するため、ふだんから目につく場所に災害関係の表示板や避難場所標識、避難場所までの誘導表示板等を設置し、地域住民や観光客等の防災意識高揚を図る。 平成27年度については、土砂災害警戒区域の周知看板を設置する。	・土砂災害警戒区域周知看板の設置箇所:21カ所(各自治会につき1カ所)	・各自治会への土砂災害警戒区域周知看板の設置率100% (H27年度未整備率 21箇所 / 全体計画 21箇所)	(今後の展開方針) H28については避難所標識、避難ルート表示板を設置する。	
2			観光客誘客促進・受入基盤強化整備事業	H25 ~ H33					
2			キャンプ誘致施設整備事業	H25 ~ H33	プロサッカーチームの一時キャンプやプロバスケットボールチームの練習場として利用されている吉の浦公園各種施設への今後更なるキャンプ誘致に向けて、公園内の各種施設の機能強化整備を行うとともに、県内でも数少ないサッカー専用の芝生を有するサッカー場の適正管理を行い、スポーツコンベンションの推進を図る。	・ごさまる陸上競技場内芝生適正管理 8,360㎡	・プロサッカーチームのキャンプ誘致:2チーム(平成25年度2チーム、平成26年度4チーム)	(今後の展開方針) スポーツキャンプ継続誘致に向けた受入体制の強化を図る。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

中城村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2			中城城跡プロジェクションマッピング事業	H25～H33	風光明媚な世界遺産「中城城跡」の観光客集客増を目指すため、世界遺産と伝統芸能を活かした中城城跡プロジェクションマッピング事業を実施する。	・プロジェクションマッピング事業 1回/年実施	・プロジェクションマッピングイベント来場者数 H27:10,000人 (基準年:H25 5,352人)	(今後の展開方針) イベント内容を強化し、日没後の観光メニューの構築を図る。 (参考目標) 城跡入場者数 H28年度:15万人	
2			プロサッカーキャンプ支援事業	H25～H33	本村や沖縄県のスポーツツーリズムの推進に向け、スポーツコンベンションとしての観光地の魅力アップを図るため、プロサッカーチームのキャンプ受入体制を強化する。	・プロサッカーチームのキャンプ誘致活動 2回/年 ・キャンプの支援事業実施 (歓迎セレモニー、場内警備)	・プロサッカーチームキャンプ誘致及び支援目標:2チーム (平成25年度2チーム、平成26年度4チーム)	(今後の展開方針) キャンプ受入体制を強化し、継続的なキャンプ誘致を図る。 目標見学者数 平成28年度 3,000人 平成30年度 5,000人	
2			歴史の道整備事業	H27～H28	本村を通る旧ハンタ道を整備した「歴史の道」の一部が崩落の危険性がある。歴史的観点や観光資源としても活用されている歴史の道を安全・安心に歩行できるよう整備・機能強化を図る。	・歴史の道整備工事に係る設計委託業務の実施	・平成29年度歴史の道供用開始に向けた設計委託業務の完了	(今後の展開方針) 平成28年度:整備工事 平成29年度:供用開始 (参考目標) 城跡入場者数 H28年度:15万人 (参考イベント参加者数) 平成26年度 護佐丸ウォーキング 225名 平成25年度 てだこウォーク213名	
2			中城村グスクの響き！事業	H27～H33	世界遺産に登録されている県内のグスク所在地域の伝統エイサーとファッションショーのコラボレーションイベントを実施し、本村の伝統芸能の発展に寄与するとともに、世界遺産を活かした観光振興を促進するため、中城村グスクの響き！実行委員会へ支援を行う。	中城村グスクの響き実行委員会への支援の実施	中城村グスクの響き！来場者数:5,000人 目標:15万人/年 参考:平成26年度約12万人	来場者数の増加に向け、イベント開催時期や内容を改善しながら世界遺産中城城跡年間来場者数の増加につなげる。 目標:15万人/年 参考:平成26年度約12万人	10月変更(事業追加)
2			護佐丸観光資源制作事業	H27～H30	世界遺産「中城城跡」を観光振興の目玉として更に推進するため、中城城跡と城主「護佐丸」をPRするコンテンツを制作する。中城城の歴史や護佐丸の生涯を紹介する情報紙、ホームページを制作して中城城跡の魅力やそこに伝わる伝説を周知するツールとして活用する。情報紙とホームページは村内の観光情報も取り入れインターネットでアーカイブ化する。	情報紙、ホームページの制作	情報紙、ホームページにおける中城城跡、護佐丸のPRの実施	整備した情報紙とホームページを活用して中城城跡の来場者増を目指す。 ホームページアクセス目標数 平成28年度 3万6千 平成29年度 4万8千 平成30年度 6万 中城城跡来場者数 目標:15万人/年 参考:平成26年度約12万人	10月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの、
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

中城村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
3	海外移住者子弟研修生受入事業	H25～H33	南米等に移住した中城村出身者の子弟を研修生として受け入れ、日本語研修、ウチナーグチ、沖縄の歴史や三線、琉球舞踊、エイサーなどの伝統文化を取得し、企業等での技術研修や村民との交流を通して、社会の発展に寄与する人材を育成するとともに、移住国との友好親善に資することを目的として実施する。	・受入研修生数：年間3名	・日系社会における自己の活動を3つ以上計画した研修生数 3名/3名 ・研修報告会の報告を聞き、自分も中城村と交流したいと感じた村系人の割合 75%	(今後の展開方針) ・各国日系社会のコミュニティの強化と沖縄と各国の相互交流につなげる。 ・「世界のウチナーンチュ大会」における中城村交流会への参加者数(村関係者・一般参加を除く)目標 第6回大会(H28) 121名 第7回大会(H33予定)136名 参考 第5回大会(H23) 109名 第4回大会(H18) 93名 ・受入研修生数(H33累計):27人		
4	教育環境づくり整備事業	H24～H33						
4	中城の歴史と文化を学ぶプロジェクト	H24～H33	「郷土の歴史・文化についての学習」の充実を図るため、小学校で「中城ごさまる科」副読本のデジタル教材化を行うとともに、小中学校において授業運営等についての教材研究会を実施する。	・小学校デジタル教材を企画、作成する。 ・小中学校で教材研究会を実施する。(小学校9回、中学校3回)	・小学校「中城ごさまる科」3・4・6年副読本デジタル教材の整備完了 ・児童アンケートにおいて、中城ごさまる科への興味関心度70%以上	(今後の展開方針) ・H28年度：デジタル教材の活用、教材研究会の実施。 ・H29年度：小学校副読本改訂版の編集、出版。 ・指導教材の充実を図る。		
4	学校ICT環境整備等による学習意欲学力向上推進事業	H24～H33	児童生徒がコンピュータや情報通信ネットワークに慣れ親しみ適切に活用できるよう、情報教育補助員を配置し、授業支援や環境整備を行う。	・情報教育補助員 1人 ・年200時間の授業支援 ・情報教育研修会の開催(教員向け)年4回	・ICT機器の授業への活用率：週5時間以上の活用 80%	(今後の展開方針) 学校において情報機器を整備し、情報機器ネットワークに慣れ親しみ、ITスキルの向上を図る。		
4	きめ細かな児童生徒支援事業	H24～H33	特別な支援を必要とする児童生徒に対し、個に応じた支援を行うため、特別支援員を配置する。また、不登校や発達障害等の課題解決を図るため、教育相談員と心理相談員を配置する。	・特別支援員配置 15人 小学校 9人 中学校 3人 幼稚園 3人 ・相談員の配置 教育相談員 3人 心理相談員 1人	特別支援員 ・保護者アンケート(満足度70%) 教育相談員・心理相談員 ・来室相談 約300件 ・電話相談 約110件	(今後の展開方針) 特別支援員の資質向上のため研修会等を行うとともに、日常的な教育相談活動を通して不登校児童等の減少へと繋げ安全な教育環境の提供を図る。		

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。
H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

中城村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
4		国際理解人材育成事業	H24 ～ H33	沖縄振興の発展に重要な国際的感覚や視点を身に付ける人材育成のため、英語指導の補助員を配置し、学校の外国語活動及び国際理解教育を充実させる。	・英語指導員配置 中学校 1人 ・授業支援 中学校 490時間	・英語への興味関心が高まった生徒 70%	(今後の展開方針) ・国際社会に対応する能力を身に付ける人材育成を推進する。 ・英検受験者数 平成26年度130人	
4		ごさまる学力パワーアップ事業	H25 ～ H28	生徒の学習意欲を引き出し、確かな学力を身につけるためには、その日の学びの定着や繰り返し学習が必要である。そのため、「学習定着のための機会」の場を提供することにより、中学生の補習を中心に本事業を実施する。	・平日講座の実施 (年間40回) ・定期テスト前講座の実施 (5日×5回=25回) ・長期休業中補習講座 (10日)	・受講人数 平日、定期テスト前講座:50人 長期休業中補習講座:60人	(今後の展開方針) 講座を生徒の実態に合った内容に改善し、より充実した学習の場を提供することにより、学習意欲を引き出し、学力の向上につなげる。	
4		ハブ対策防除整備事業	H27 ～ H28	村内に頻繁にハブが発見されることから、学校内でのハブによる咬傷被害が予測され、児童の安心安全な学習環境を確保するために、ハブ防除としてハブの侵入を防止する防除壁及びフェンスを設置する。	ハブ防除壁及びフェンス設置を行うための基礎資料等の作成	・H29年度供用開始に向けた事業の着実な実施 (設計・測量・地質調査委託業務の完了)	(今後の展開方針) 委託発注での成果品等を基礎資料として、平成28年度内に工事完了を目指す。 平成27年度 委託業務及び事業説明等の完了 平成28年度 工事完了	10月変更 (事業追加)
5		地域特性を活かした産業活性化事業	H24 ～ H33					
5		とよむ中城産業まつり事業	H24 ～ H33	中城村内で生産、製造又は提供される産業製品を村内外にPRし、知名度の向上を目指して開催される「とよむ中城産業まつり」を支援する。	・とよむ中城産業まつり実行委員会を支援する	・とよむ中城産業まつり来場者数 H27:5千人 (基準値:H24 約3,000人)	(今後の展開方針) ・村内の各種産業をPRし、産業の振興、地域活性の起爆剤となるまつり開催に向けて支援する。そのため、出店数を前回より多くする。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの、
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

中城村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
5			島ニンジン栽培研究事業	H27 ~ H31	中城村で古くから生産されてきた伝統野菜「島ニンジン」の品質向上を図るため、品質改善及び栽培方法の確立を目的とした調査研究をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・在来集団(既存の島ニンジン集団)における特性調査の実施 ・根色その他主要形質の遺伝及び環境による変異調査の実施 ・在来集団の選抜、集団構成及び採種 ・播種期が島ニンジンの収量及び品質に及ぼす影響の調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境要因が島ニンジンの着色及びその他主要形質に与える影響の把握 ・選抜した在来集団から改良集団を獲得 	(今後の展開方針) ・島ニンジンの形質平均値 長さ 重量 幅 現況値 38.3cm 134.5cm 2.6cm (H26年度) 目標値 43cm 175cm 3cm (H31年度) (今後の研究内容) H28年度 ・根色その他主要形質の遺伝及び環境変異調査の継続 ・前年度選抜集団の評価 ・更なる改良集団の選抜、集団構成及び採種 H29年度 ・前年度の調査研究の継続 ・改良集団の小規模での試作 H30年度 ・前年度の調査研究の継続 ・改良集団の実用的規模での試作 H31年度 ・前年度の調査研究の継続 ・作付け体系・栽培方法の検討	
6			文化財悉皆調査事業	H25 ~ H29	村民の文化財保護意識高揚と活用を図るため、文化財調査員(囀託員)による村内文化財の悉皆調査を行い文化財の位置や現況を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各集落での聞き取り調査の実施: 4カ字 ・調査概報(各字パンフレット)の作成: 4カ字 	<ul style="list-style-type: none"> ・悉皆調査率 38% (H27年度末調査済 7字/全体計画 18字) 	(今後の展開方針) H29年度:中城村民俗誌の発刊(一般普及用) ・調査成果を基に講座やイベントを開催し、村民の文化財保護意識高揚を図る。	
7			(仮称)護佐丸歴史資料図書館の整備事業	H24 ~ H32					
7			(仮称)護佐丸歴史資料図書館整備事業	H24 ~ H27	沖縄や中城村の歴史、文化、世界遺産等について学べる場所であり、それらを村内外に広く知らしめる情報発信拠点として、また、災害時の安全を確保するため防災タワーも兼ねた複合施設として、(仮称)護佐丸歴史資料図書館の整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)護佐丸歴史資料図書館の建設工事の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・H28年(仮称)護佐丸歴史資料図書館供用開始に向けた事業の着実な実施(建築工事の完了) 	(今後の展開方針) 平成28年:供用開始 施設利用者数 H28:80,256人 H33:91,300人	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの、
 H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

中城村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
7		(仮称)護佐丸歴史資料図書館ソフト整備事業	H27 ~ H32	(仮称)護佐丸歴史資料図書館の整備を行うとともに、平成28年度の資料館開館に向けた、施設内の各種システムの構築や備品購入等、施設のソフト面の整備を実施する。	・地域情報システムの構築 ・歴史文化資料管理システムの構築 ・中城城跡CGデータ化 ・郷土資料及び歴史文化資料収集	・H28年(仮称)護佐丸歴史資料図書館供用開始に向けた事業の着実な実施 (システム構築等施設内部の整備完了)	(今後の展開方針) 平成28年:供用開始 郷土の歴史・文化に関連する資料 図書館の収集 郷土資料・歴史文化資料 施設利用者数 H28:7,000人 H33:8,300人	5月変更 (事業追加)	
8		世代間交流・人材育成・防災避難拠点施設整備事業	H26 ~ H28	有形・無形の文化遺産を次世代へ継承していきながら、「地域の子は地域で育てる」という意識を養い、各世代の特性を生かした子育て支援を行える環境を整備し、地域防災や避難等の意識向上を図るため、世代間交流・人材育成・防災避難拠点施設の実施を行う。	・代間交流・人材育成・防災避難拠点施設実施設計の実施	・H29年度供用開始に向けた事業の着実な実施 (設計委託業務の完了)	(今後の展開方針) 平成28年度:建築工事の実施 平成29年度:供用開始 文化継承、人材育成、高齢者の 生きがいづくりの場として活用す る。 目標利用者数:10~80名/1イベント	5月変更 (事業追加)	
9		海外移住者交流振興事業	H27	海外在住の県人会や村人会との交流や、村の振興に寄与する団体を海外公演に派遣し、国際交流を図りながら中城村の魅力発信するため、観光推進協議会に支援を行う。	・観光推進協議会へ支援の実施 ・中城村の魅力発信パンフレット配布 10,000冊	海外公演 1回 県系人、村系人との交流 報告会の開催	(今後の展開方針) ・「世界のウチナーンチュ大会」に おける中城村交流会への参加者 数(村関係者・一般参加を除く)	5月変更 (事業追加)	
10		中城村緑化推進施設整備事業	H27	観光推進を図るため、ハウスや肥料小屋等の苗の生産施設を整備し、村花(ハイビスカス)・村木(黒木)・ツツブキを中心とした苗の生産を行い、その苗を地域の緑化活動を行っている団体等に配付し、観光地を中心に村内の各地域に植栽する。それにより、沖縄らしい美しい景観形成を図り、地域の活性化また、更なる観光客誘致を目指す。	苗の生産施設の整備	H28年度からの苗の生産開始に向けた事業の着 実な実施(苗の生産施設の整備完了)	生産した苗を村内の観光施設や 各地域に植栽し、沖縄らしい景観 形成を図り、更なる観光客の誘致 を目指す。 【観光客数】 現況:H26年度 12万人/年 目標:H28年度 15万人/年	10月変更 (事業追加)	
11		新しい公共交通モデル事業	H27	村における交通弱者対策、観光振興及び児童生徒の登下校支援を目的とした公共交通の在り方について検討するためのモデル形成事業を実施する。	新しい公共交通の実施に向けた運営 方法・運行ルート等の検討 バス2台購入	新しい公共交通の実施に向けた運営方法・運行 ルート等の策定	モデル事業の検証及び公共交通 体制の確立	10月変更 (事業追加)	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金(市町村)成果目標一覧【公表版】

西原町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1		西原町観光客受入基盤強化事業	H24～H33					
1		公園樹木等環境整備事業	H24～H28	観光振興の観点から、沖縄らしい風景・景観等を保全するため、観光地形成促進地域内の公園樹木の環境整備を行う。	町内公園の美化・緑化実施:3箇所(発注) 西原運動公園 東崎公園 東崎都市緑地	【施設利用者数】 西原運動公園・・・サッカーキャンプ誘致 H25 100,000人 H27 120,000人(目標) 東崎公園 東崎都市緑地>マリノパーク周辺整備 H23 500,000人 H27 545,000人(目標)	(今後の展開方針) 平成28年度:利用者調査 町内主要観光施設利用者数(西原マリノパーク)500,000人(H23)550,000人(H28)	
1		文化財及び文化財周辺環境美化・整備事業	H25～H33	観光振興及び文化財保護の観点から、町内に散在する文化財及び文化財周辺域の環境美化・整備を実施する。 また、今後これら文化財の活用を図るため、文化財ガイドの育成を図る。	・文化財及び文化財周辺の環境美化・整備の実施:24箇所 ・町指定天然記念物「内間御殿のサワフジ(サガリバナ)」の診察 ・文化財ガイドの育成 ・勉強会:12回(月1回)、文化財巡り等イベント開催:2回	・文化財巡り等イベント参加者:計70名	文化財の基礎的環境整備、町及びガイド団体等の人材育成を継続しつつ、文化財の案内ルートを作成し、活用及び周知を行う。	
1		文化財保存活用事業	H26～H33	文化財は各地域において長い歴史を経て育まれてきたものである。沖縄県ひいては町固有の文化財を継承していくためには、その価値を把握し、指定等により保護していくことが必要とされている。 文化財の記録保存と保存活用のための方針として、基本構想や保存管理計画書を策定し、整備を図る。	・歴史文化基本構想素案(前編)5/8項目を作成する。 ・主要文化財4カ所の現状を記録する。 ・測量調査した旧西原村役場跡跡の地域資源としての価値を見出し、保存活用に向けて検討する。	・歴史文化基本構想素案(前編)の作成の着実な実施 ・主要文化財(4/10カ所)測量記録による保存整備資料の完了 ・旧西原村役場を町文化財に指定する	・歴史文化基本構想素案(後編)の作成(H28年度) ・主要文化財5/10カ所の記録保存を行う(H28～H29年度) ・記録保存された主要文化財の保存活用のための整備を行う(H29～H33年度)	
1		沖縄らしい風景づくり推進事業	H24～H27	本町の地域特性を活かし、自然と文化、都市が調和した沖縄らしい風景・景観を保全するため、景観法に基づく景観計画を策定する。	景観条例案の検討	景観条例案の策定	・景観条例の施行 本町の地域特性と魅力が活かせる景観まちづくりを推進し、自然・歴史・文化・風土等と暮らしが調和する多様な景観形成を図る。	
1		農水産物流通・加工・観光拠点施設整備事業	H25～H29	地域特産品販売・消費できる農水産物直売所を中心に伝統文化等の地域資源の展示・紹介・イベント広場等の施設及び加工所並びにレストラン等の諸施設を集約し、地域振興の拠点施設として活用を図りながら集客と観光資源の情報を発信し本町の地域活性化を図る。	・基本・実施設計の策定 ・用地取得(面積:7,701㎡)	H29年度末供用開始に向けた事業の着実な実施(基本・実施設計の完了、用地取得)	H26年度 基本計画 H27年度 基本・実施設計・用地取得 H28年度 建築工事、用地取得 H29年度 建築工事 H29年度末 供用開始見込み	10月変更(計画変更に伴う各目標変更) 12月変更(計画変更に伴う各目標変更)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの、
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金(市町村)成果目標一覧【公表版】

西原町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
1	尚円王生誕600年記念事業	H27	現在整備がすすめられている国指定史跡「内間御殿」は、第2尚氏初代の王・尚円王の旧宅跡であり西原町の歴史文化を語る上でも重要な文化財となっている。平成27年度は、尚円王生誕600年を迎えることから、本事業では尚円王を題材にした新作組踊上演会や、連続講座及びシンポジウムを開催することで、町民ひいては沖縄県民に周知をはかり、集客の場を設ける。	・連続講座受講者数:6回 ・シンポジウム開催:1回 ・展示会開催:1回 ・組踊「内間御鎖金丸」上演 ・伊是名村との児童交流事業開催:1回	・連続講座受講者数:延べ300名 ・シンポジウム来場者数:300名 ・展示会来場者数:100名 ・組踊「内間御鎖金丸」観客数:500名 ・伊是名村との児童交流事業参加者:1回×20名	5年後の在位550年記念事業にむけた周知活動として、今後も組踊を上演していく。		
1	西原まつり運営事業	H27	町民相互の親善交流・融和を通し、より一層の町民意識の高揚及び地域産業・芸能・文化の振興を図り、県内外からの誘客に繋げるため、第20回西原まつりを開催し、地域の活性化を図る。	西原まつりの開催	まつり来場者数 37,000人 (参考H23 35,000人)	まつりを通して地域産業・芸能・文化の振興を図り、地域活性化に資する		
1	西原町観光振興事業	H27 ~ H31	西原町観光キャラクターを活用した西原町のPR活動を展開する。また、県内外において顕著な活動をし、本町の認知度の向上などの本町の観光振興に寄与する個人や団体に対し活動を支援する。	キャラクターテーマソング・ダンスの製作 観光振興の活動団体支援 1団体	各種イベント出演回数 60回/年 活動支援団体のイベント出演 年5回	西原まつり等の各種イベントに参加することで本町の観光振興及び町民の郷土愛を醸成する。	5月変更加 (事業追加)	
2	次代を担う人材育成事業	H24 ~ H33						
2	小学校英語活動指導員派遣事業	H24 ~ H33	幼い頃から英語に触れ、学ぶことは、将来国際性を身につける上でも大変貴重な体験となり、英語を学ぶことにより、国際的視点、感覚への足掛かりとなる。 児童の国際感覚を育むため、町立小学校に英語活動指導員を派遣し、英語教育の充実を図る。	英語指導員2名配置	・英語の授業が「好き」と答えた児童が70%以上	・英語の授業が「好き」な児童の増加 H27:75% H28:80% H29:80%		
2	中学校英語活動指導員派遣事業	H26 ~ H33	生徒の英語発音やコミュニケーション能力並びに国際理解教育の向上を目的に、英語活動支援員を配置し、英語教育の充実を図る。	英語指導員2名配置 資質向上のために、町内研修を実施(2回)	中学校3年の卒業の段階で、英検3級の実力を有する生徒が10%	町内中学校における沖縄県学力到達度調査の平均正答率向上 ・英検取得率の向上 H27:10% H28:13% H29:16%		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの、
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

西原町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2		教育相談員配置事業	H24 ~ H33	学校教育に悩みを抱える児童生徒及び青少年やその保護者等に対する相談窓口として、また、学校及び教育委員会等のパイプ役として、町教育委員会教育相談室に教育相談員を配置する。	教育相談員配置数:4人 学校訪問を継続し、活動の確認や情報共有の場として、定期的に教育委員会と調整会議を持つ(4回)	・教育相談員への相談件数:700件 ・教育相談をした児童生徒・保護者等の30%が、個々に抱える課題が改善されたと思う	(今後の展開方針) ・学校教育に関する個々の課題について改善されたと思う人の増加 H27:30% H28:35% H29:40%	
2		学習支援員配置事業	H25 ~ H33	全国学習状況調査で、全国最下位という結果が続く本県において、児童生徒の学力向上及び人材育成を図るため、町内小中学校に学習支援員を配置する。	学習支援員配置数(全小中学校配置) 小学校:12人 中学校:6人	・全国学習状況調査で 小学校:町平均点が全国平均以上 (参考 H26実績:全国平均) 中学校:町平均点が全国平均の5%以内 (参考 H26実績:全国平均 - 7%)	(今後の展開方針) 学力状況調査等で、学力向上に努める。	
2		特別支援教育支援員配置事業	H25 ~ H33	教育振興の観点から、特別な支援を要する児童生徒に対し、個に応じたきめ細やかな支援を行うため町内小中学校に特別支援教育支援員を配置し、支援体制の拡充と質の向上を図る。	・特別支援教育支援員配置数 小学校:10人 中学校:3人 ・支援員の資質向上のために、町内研修を実施(2回)	・特別な支援を要する児童・生徒に応じたきめ細やかな支援の充実	(今後の展開方針) 個に応じた支援を行い、支援体制の拡充と質の向上を図る。	12月変更 (計画変更に伴う活動目標変更)
2		幼稚園特別支援教育支援員配置事業	H26 ~ H33	心身の発達に支援を必要とする幼児を幼稚園に受け入れ、集団保育の中で支援児に対する適切な指導を実施するために必要な幼稚園特別支援教育支援員を配置する。	・特別支援対象児の人数に応じた支援員の配置:9人 ・支援員を対象とした研修会を実施	・特別な支援を要する幼児に応じた支援対応の充実	特別な支援を必要とする幼児は年々増加傾向にあるが、幼児が充実した園生活を送れるように一人ひとりの幼児に応じたきめ細やかな支援を行い、教諭の資質向上を図りながら教育体制の充実を図る。	
2		児童生徒県外派遣支援事業	H26 ~ H33	将来の沖縄振興に資する人材育成のため、沖縄県を代表して派遣される児童生徒の運動競技や文化活動の大会等に対し、県外大会派遣費用の支援を行う。	大会等派遣生徒数:200人	・県外派遣支援による経済的負担の軽減	(今後の展開方針) 大会等派遣生徒数(累計) H33年度(1,600人)	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

西原町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
2	西原町中学生海外短期留学派遣事業	H26～H33	西原町の中学生を海外に派遣し、教育・文化・歴史・産業等の視察学習及びホームステイ等の活動を通して、国際的視野を広めるとともに、海外青少年との友情を深め、国際性を身につけ、21世紀の国際社会に対応できる青少年の育成を図る。	海外短期留学派遣生徒数：8人 帰国報告会の実施（1回）	町スキットコンテストへの参加 国際社会への意識の向上 （帰国報告会の中で、今後の取り組みを発表させて、検証する）	海外短期留学派遣生徒数(累計) H33年度：64人 事業内容と帰国報告会の内容の充実		
2	教育情報化支援事業	H25～H30	ICT機器を活用した「わかる授業」を円滑に行うことができるよう、各小中学校にICT支援員を派遣する。また、平成27年度版小学校教科書に合わせたデジタル教科書を購入する。積極的にICTを活用した授業を重ねることにより普段の授業の理解度を高め、将来の沖縄振興に資する人材育成及び児童生徒の学力・情報活用能力等の向上につなげる。	・ICT活用支援の実施 ・デジタル教科書の導入	・授業の分かりやすさの向上 （アンケート 50%以上）	（今後の展開方針） ・活動報告やアンケート等の結果を踏まえて、各小中学校の状況に合わせた支援を行う。		
2	しまくとぅば継承・推進事業	H26～H28	大人から幼時までしまくとぅばを話せるようにするために、町内の幼稚園・小学生・中学生・高校生（学生と教師）・自治会・老人会を募り、うちなー芝居へ出演する。これにより、うちなー芝居を見に来た人に興味や良さを認識してもらい、自らしまくとぅばを話したい、学びたいという意識高揚も図り、沖縄のことうば文化を大切に継承していくことを目指す。	・うちなー芝居の講座の開催 48回 ・講座終了後に成果発表会の開催1回 ・劇団のうちなー芝居の上演 1回	・しまくとぅば講座受講生 40人 （参考H26年度24人） ・成果発表会来場者数 450人 （参考H26年度386人） ・来場者にしまくとぅばを日常会話で話す割合 14% （H26年度アンケート 11%）	・定期的なうちなー芝居の上演によるしまくとぅばの関心度の向上。成果発表会来場者数H28年度は500人。しまくとぅば講座受講生をH28年度は50人・しまくとぅばを日常会話で話す割合がH28年度は17%を目指す。		
2	学校給食衛生管理機能拡充事業	H27	沖縄県は高温多湿な気候のため、食中毒病原菌の発育至適温度帯になりやすく、真空冷却機を設置し調理時間の短縮によって安全性を確保し、安心安全な給食の提供を確保する。	真空冷却機の設置 1台	学校給食での安心・安全な給食提供の確保ができる。	食中毒の発生温度帯を避けるとともに、調理時間の短縮化が図られ、美味しい給食の献立計画と安心安全な学校給食の提供が推進できる。		
2	登校支援員配置事業	H27～H33	毎年度文部科学省が実施する問題行動調査において、沖縄県の不登校児童生徒の数は全国と比較して多い状況がある。本町においても、不登校児童生徒及び10日から29日の欠席児童生徒の数が多いため、そこで、登校支援員を配置し、不登校の児童生徒の学校復帰を支援していく。	登校支援員6名配置 小学校（4校）に各1名 中学校（2校）に各1名	不登校児童生徒の減少に取り組む	不登校の児童生徒の学校復帰の支援を行うことで不登校児童生徒の減少に取り組む		

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの、
H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金(市町村)成果目標一覧【公表版】

西原町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
3			ICT技術を活用した観光振興・人材育成推進事業	H24 ~ H27	ICT技術を活用した観光振興を図るため、観光サイトに動画投稿型サイトを追加し、観光アプリにおいては観光キャラクターを活用することで魅力を強化する。そして、従来からの映像祭及びそれに係る人材育成とこれらの取組を通して本町の観光情報を広く発信していく。	映像アーカイブサイト公開 1サイト 観光キャラクター情報追加 1アプリ 動画作成講座の開催 1回 動画発表会(映像祭)の開催 1回	映像アーカイブサイトへの動画投稿数 10本 ポータルサイトPV数 5,000件/月 アプリ DL数 50本 映像祭への応募動画 10件 人材育成数 15名	事業の最終年度となることから27年度の実績をもとに事業の継続、拡大、内容の充実等を実施すべきか検討する。	
4			西原町平和推進プロジェクト事業	H25 ~ H29	第二次世界大戦で唯一地上戦となった沖縄戦の実情を風化させることなく後世へ継承し、平和思想を世界に発信するため、西原町平和音楽祭や平和講演会を開催する。	西原町平和音楽祭の開催	西原町平和音楽祭観客動員数1,700人 (参考H26実績 1,650人)	西原町平和音楽祭観客動員数: H28年度:1,800人 H29年度:1,900人	
5			子育て世代ゆいまーる支援事業	H25 ~ H28					
5			認可外保育施設支援事業	H25 ~ H28	認可外保育施設において安心して子どもを預けられるようにするため、支援員を派遣し、保育士の事務負担を軽減し、もって保育業務に専念できる環境を整備するとともに、認可外保育施設の各クラスの定員空き状況の集約や施設相互の情報交換等の連携補助を支援員が行うことにより、町民への迅速な情報提供体制の構築及び施設の質の向上を図る。	・支援員配置数:1人 ・町内認可外保育施設(10箇所)に対し、支援員の巡回の実施	・役場窓口にて認可外保育施設の空き状況、保育料、保育方針等の最新情報の提供。 ・各認可外保育施設からの提出書類等の迅速化と保育従事者の保育従事時間の確保。	(今後の展開方針) ・私立保育連絡協議会の充実 ・窓口にての認可外保育施設の情報提供	
5			西原町放課後児童クラブ障がい児保育支援事業	H26 ~ H33	西原町内にある学童クラブに対し、潜在的障がい児童を把握しその児童に携わる支援員を配置することで、障がい児童の学童保育ニーズにこたえられることのできる放課後児童クラブの実現を目指す。	・コーディネーター:1人 ・臨床心理士:1人 ・支援員配置数:8人 ・町内学童(8箇所)に支援員を派遣	・サポートプラン(個別指導計画)の作成・支援実施を強化、整備率の向上 50% 平成26年度実績(3月現在) 児童数:29名 サポートプラン整備13名 整備率:44.8% ・学童クラブ間の支援対象児受入管理の仕組み作り検討	・引き続き次世代を担う子どもの安心安全な子育て環境の整備や共稼ぎ世帯を中心とした子育て支援に寄与する。 ・サポートプラン(個別指導計画)の整備へ理解を得るため、利用児父母へ事業の説明に努める。 ・利用者や支援員にアンケート等を取り、成果を確認、次年度への指標に活用する	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金(市町村)成果目標一覧【公表版】

西原町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
5			西原町放課後児童クラブ事務支援事業	H27 ~ H29	安心して子どもを預けられる学童を整備するため、支援員を派遣し、学童の会計・事務管理の支援を図る。これにより学童の指導員の事務的・精神的負担を大幅に軽減し、もって指導員が保育業務に専念できる環境を提供することで、児童の健全育成を図る。また、各学童クラブの定員空き状況の集約や施設相互の情報交換等の連携補助を支援員が行うことにより、町民への迅速な情報提供体制の構築及び施設の質の向上を図る。	・支援員配置数:1人 ・町内学童(10箇所)に対し、支援員の巡回の実施	・指導員の保育業務向上を図れる環境整備 ・各学童の施設情報・空き状況の情報提供	・保育業務に専念できる支援を検討する。 ・役場窓口にて各学童クラブの情報提供	
6			地域健康づくりモデル事業	H26 ~ H28	沖縄の健康課題である肥満を解決するために、フードモデルを活用した体験型栄養教育を行い、住民が自らの力で肥満を予防するための食を選択できるスキルの習得を目指す。	・管理栄養士の配置:1名 ・健康教育の実施:7回	事業の前後にアンケートを実施し評価 ・事業後に自分の適正体重を維持する事が出来る食事がわからない人の減少 (現状:5% 目標値:3%未満) ・自分の食事に対して改善意欲がある人の増加。 (現状:60% 目標値:80%)	管理栄養士嘱託員の配置、食育SATシステムを用い、幅広い年代(学童期~高齢期)への事業の実施。また、モデル地域を選定し介入を行う。	
7			農水産アクティビティー事業	H26 ~ H31					
7			農家経営安定支援事業	H26 ~ H31	栽培技術指導・農業経営相談のための営農指導員を配置することにより、既存農家の栽培技術向上による高品質農産物の安定生産と農業経営の改善による農家経営の安定を図るとともに農業後継者の育成を図る。	指導員の配置2名 栽培講習会の実施(年4回程度)	農家経営・栽培指導台帳の整備(指導農家数)	(今後の展開方針) 地域農業者の栽培技術向上の支援を行う	
7			農産物生産性向上対策支援事業	H27	都市近郊農業の推進と地産池消推進、地域限定ブランド化の推進を図るため、農産物の安定生産や小規模農家や既存農家の負担軽減などにより、地域の消費需要に対応した多様な品目の生産に取組むため、JA他、町長が認める団体が導入する農業用施設に対する費用の一部を支援することで農業生産の向上を図る。	パイプハウス 5箇所	導入施設での葉茎菜類の生産 37,000kg (2年目以降は生産量の増加)	農業用施設の導入により、農家の経営安定を図り、町の計画している直売所への生産物の安定供給を図る。	5月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金(市町村)成果目標一覧【公表版】

西原町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
8			災害に強いまちづくり事業	H27 ~ H29					
8			災害時等避難情報提供掲示板設置事業	H27 ~ H28	ハザードマップの周知、および津波・地震などの災害時に住民や町への来訪者等が速やかに安全な場所に避難できるようにするために住民等が集まりやすい(気づきやすい)場所に、避難所・経路、行政情報等を記載・掲示する防災掲示板を設置し、防災情報の提供と周知を図る。これにより防災体制の強化を図る。	掲示板の設置場所の選定、掲示板記載情報等デザイン・設計発注	H28掲示板設置の着実な実施(掲示板設計書の完了)	H28 設置工事	
8			災害時備蓄食糧・保管倉庫等整備事業	H27	大規模災害には食糧等物資の到着が遅れることが想定され食糧不足が懸念される。平時より避難所である各小中学校等に食糧等を備蓄し、備蓄食糧を保管する倉庫の設置も併せて行う。	備蓄(食糧16,000食、飲料水16,000本)の購入発注 災害時備蓄食糧等保管倉庫の購入発注(町内4小学校、2中学校へ設置)	小・中学校の避難所体制確立(備蓄食糧等保管庫を設置することにより小中学校が指定避難所であるということを周知できる。児童生徒への防災意識の高揚を図ることができる)	備蓄食糧は消費期限内に定期的な「防災訓練」を実施する	
8			災害時避難所施設整備事業	H27 ~ H29	東日本大震災の津波被害により防災意識の高揚が叫ばれる中、本町では自主防災組織結成等「自助」を強化する必要性が急務である。そのため地域住民の自主防災力(自助)を強化するため、自主防災組織の組織力向上や啓発活動を行う場として施設整備し、地域の防災力向上を図る。(災害資料館や防災講演会を行う場の建設)	基本設計の検討 用地鑑定業務の実施	H30年供用開始に向けた事業の着実な実施(基本設計完了・用地鑑定業務の完了)	H28実施設計、用地購入 H29建設工事の実施	
9			沖縄特殊戸籍システム導入事業	H27	沖縄戦で消失した戸籍簿の代替として整備された仮戸籍等(仮戸籍申告書、福岡戸籍、臨時戸籍)を電子化することにより長期保存可能な状態にする。	仮戸籍申告書3,087戸の電子化 臨時戸籍2,465戸の電子化 福岡戸籍540戸の電子化	原本の劣化を防止し、代替物により長期保存を可能とする	仮戸籍等を電子化することにより、現行帳簿の劣化を防止するとともに長期の保存が可能になる。また、データの検索及び証明発行が迅速化を図るとともに詳細にわたる検索(探索)機能を活用する。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金(市町村)成果目標一覧【公表版】

西原町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考		
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等	
10			里道及び水路の境界確定復元事業	H27	戦後、地積が確定されないままに家屋等が建築された箇所が多々あり、境界確定復元の基準点測量を実施し、現況と公図が合致して居ない箇所を把握することで公共用地の適正な管理を図る。	境界確定の基準点確定測量調査 1級基準点三角点8 2級基準点三角点42 3級基準点三角点226	今後、4級基準点及び里道及び水路の地積測量実施の条件整備完了	平成28年度 4級基準点及び里道及び水路の地積測量図作成 平成29年度 測量図を基に整備計画図の作成 平成30年度 整備計画図を基に施工する。		
11			町民交流センター施設活性化事業	H27 ~ H29	町民の文化・芸術活動の創造、発表、鑑賞の場の交流拠点として整備された、西原町町民交流センターにおいて、各種イベントを計画及び実施し、施設の活性化を図る。また、様々なイベントの演出等に対応できるよう、町民交流センター施設の備品整備を行い、音響や照明等の機能強化を実施する。	・イベント計画・実施(年3回) ・音響や照明設備の整備による機能強化の実施	・イベント実施による集客数 1,350人	自主事業を実施し、集客数の増加を図る	5月変更(事業追加)	
12			西原町雇用促進プロジェクト事業	H27 ~ H31						
12			西原町雇用サポートセンター活性化事業	H27 ~ H31	求職者ひとりひとりに寄り添う形での就職支援を行うとともに、就職セミナーやスキルアップ講座などを定期的に関催し、ひとりでも多くの町民がなるべく町内で就業できるよう支援していく。 また、町内事業所に呼びかけて「町民雇用サポート隊(仮称)」を結成し、隠れた求人ニーズの掘り起こしを行い、町内企業の活性化を図りながら町民と企業の結びつきを密にするような求職サポートを行っていく。	求職者と企業のマッチング 10件 スキルアップ講座等 10回 町内企業訪問 100社	新規就業者 5人 スキルアップ講座受講者数 延べ30人 求人情報の掘り起こし 5件 町民雇用サポート隊の認定企業数 10社	求職者、求人企業の両社とも掘り起こし、一人でも多くの町民が就業につながるような雇用サポート業務を行っていく	5月変更(事業追加)	
12			地域型就業意識向上支援事業	H27 ~ H31	本町に在住する高校生及び大学生が共に連携協力し、産(西原町商工会)官(西原町役場産業課)学(琉球大学農学部)の包括連携協定を活用して就業意識を向上するための商品販売活動や県外での視察研修や学生との交流などを実施する。この活動を通じ、高校生・大学生には企画力、問題解決能力などの自己研鑽能力の向上はもとより、「西原町」を深く理解し愛着を持つ郷土愛の醸成を育てていく。 また、小中学生の就業意識向上を図るために地域の企業が講師となるお仕事体験イベント「グッジョブにしはら わくわくワーク」を開催する。	物産詰め合わせ「Sギフト」の協力企業数 4社 県外実習研修 2回 グッジョブにしはら わくわくワークの開催 1回	高校生、大学生への就業意識向上(アンケート調査実施) グッジョブにしはら わくわくワークの来場者 600名 わくわくワークでの小中学生の就業意識向上(アンケート調査実施)	・就業意識向上の調査	5月変更(事業追加)	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

与那原町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			与那原町観光振興事業	H24 ～ H33					
1			地域活性化イベント支援事業	H24 ～ H33	観光振興と商工業振興を図るため、商店街大通りに おいて開催されるイベント実施に要する経費の助成 を行う。	・ちゃんぶる～市開催 年6回 ・軽便市開催 年6回	集客数5,000人(基準値:H25年2400人)	・町のイベントとの共催により、集 客力を高める。 ・他の事業と連携により、まちある きや民泊、特産品の紹介・販売等 を行い地域活性化につなげる。	
1			滞在型観光構築推進事業	H25 ～ H33	観光振興による地域の活性化に向け観光ガイド養成、地域の情報発信及び民泊受入家庭の発掘等を行 い、地域への波及効果を創出する仕組みを構築 する。	・新規観光ガイド養成数:5人 ・町内事業者等を活用した町歩き コースの開発:2コース ・町のイベントと連動したモニターツ アーの開催(2回) ・民泊家庭の発掘:6軒	・H27まち歩き参加者目標数:180名 (参考 H26まち歩き参加者90名) ・H27町内宿泊者目標数:500名 (参考 H26町内宿泊者数400名)	(今後の展開方針) ・平成33年度までに町内観光観光 ガイド養成数:50人 ・体験メニュー開発数:20メニュー ・平成33年度までに民泊受入家庭 数:50軒	
1			商工会青年部南北交流支援 事業	H24 ～ H33	若年交流を通して沖縄のPRを図るとともに、将来の リピーターを生み出すことで、誘客と観光振興につ なげることを目的として、本商工会青年部と北海道 浜中町商工会青年部が共同して行う「南北少年少 女体験交流」への支援を実施する。	・交流派遣者数24人 ・浜中町交流団25名受入	・交流事業以外で27年度中に浜中町から本町を 訪れる観光客数30名	児童の交流を通して町のPRを行 い、また青年部の交流により町の 特産品にPR販売を浜中町で行う ことにより、観光客の誘客と特産品 販売を促進する。	
1			地域特産品開発・販路開拓 支援事業	H26 ～ H28	本町の周遊・滞在型観光を促進するため、地域資源 を活用した特産品の開発と販売促進、販路開拓を 図る活動支援を行う。	試作品開発支援 2品 一般向け試食会の開催 4回 専門家向け試食会の開催 2回	・ブラッシュアップした既存商品の売上を30% アップ ・新商品の開発(2品)	平成28年度 ・開発商品の取り扱い店舗の開拓 ・取扱い店舗の売上25年度比5% アップ ・29年度以降は改良した特産品を 滞在型観光構築推進事業と連携し て、まちあるき・民泊利用者に活用 し、町内飲食店で同様のメニューを 提供することにより、観光客の誘客 を図る。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

与那原町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			観光地美化・緑化きれいなまちづくり事業	H24 ～ H29	町内散策コースの美化・緑化を促進し、観光客が安心・安全で気持ちよく町内を回遊できるように環境美化・整備を行い観光振興を図る。	・散策コース(10km)環境美化 5名 ・散策コース花々、樹木の植栽 1.0km	・観光客が安心安全に、沖縄らしい風景を楽しみながら回遊できる環境の整備 ・植栽工事進捗率 71% (全体計画7km、うち完了5km)	(今後の展開方針) 平成27～29年度・美化清掃にて回遊箇所緑化及び植栽工事を実施	
1			与那原町魅力発信事業	H26 ～ H33	与那原町の魅力を県内外に発信するため、また観光客の誘致を図る為、各種事業により整備した新たな観光資源等を活用し、各種イベントを実施する。	・軽便与那原駅舎をPRするイベントの開催(1回) ・来訪者と町民の交流施設をPRするイベントの開催(1回) ・ヨナバルマジックPR看板の設置(1基)	・軽便与那原駅舎をPRするイベント 150名参加 ・来訪者と町民の交流施設をPRするイベント 600名参加 ・ヨナバルマジックPR看板設置による与那原町の魅力発信	(今後の展開方針) 継続して魅力を発信する事業を実施し、与那原町の魅力を県内外に発信し続けることで、与那原町に訪れる観光客を増やす。	12月変更 (計画変更に伴う各目標変更)
2			来訪者と町民の交流施設整備事業	H24 ～ H27	来訪者と町民が親睦を深める交流会等の開催が可能な施設を整備し、将来のリピーターを生み出し持続可能な観光振興を図る。また、台風や地震といった災害時には来訪者の避難施設として活用し、安全安心な観光受け入れ体制を整備し本町の観光振興を図る。	観光交流施設の必要備品整備 ・体育器具・緞帳・カーテン ・事務器具 ・トレーニング器具・舞台音響照明 ・ピアノ等	・観光交流施設の運用開始 平成27年度 10月～3月 来場者数 45,000人	(今後の展開方針) 平成27年度より備品整備を中心に、平成27年度10月オープンを目指す。 年間来場者数 : 90,000人目標	
3			軽便鉄道与那原駅跡公園整備事業	H24 ～ H27	与那原駅跡を復元し、軽便鉄道の歴史を感じる和那原町の新しい観光スポットとして公園、外構、内部展示室及び施設案内板設置等の整備を行い、本町の観光振興を図る。	・展示品の作成(写真等を展示用として加工する) 20点 ・外構整備 607㎡ ・施設案内板の設置	平成27年度来場者数 目標9,000人	(今後の展開方針) 施設を県内外にPRし、多くの観光客が訪れる施設となるよう取り組みを行う。 年間来場者数:9000人を目標	7月変更 (計画変更に伴う事業内容変更)
4			次代を担う人材育成事業	H24 ～ H33					
4			学校ICT環境整備等による学習意欲学力向上推進事業	H24 ～ H33	児童生徒の学力向上及び人材育成を目指し、わかりやすい授業を行う為の電子黒板等ICT機器を、中学校の全教室に整備する。また教師のICTを活用した授業改善及び児童生徒のICT活用を支援する情報教育支援員を、各小学校へ配置する。	・電子黒板一式 21台(設置教室への遮光フィルム整備) ・情報支援員 2人 ・個に応じた情報教育の充実 (長期休業中の情報教育講座の実施全10講座 受講生80名) ・デジタル教科書購入	・パソコンの基本操作習得目標到達率 60%以上 習得目標到達率・・・各学年ごとに習得すべき基本操作項目を目標として設定し判定する。 ・全国学力・学習状況調査での全国平均との差 小学校(6年生) H26年+0.2 H27年+0.4 中学校(3年生) H26年-6.2 H27年-6.0	(今後の展開方針) H30までにパソコンの基本操作目標の到達率を90%以上に高める ・小学校の未充足分の整備 (小学校全教室の電子黒板設備)	12月変更 (計画変更に伴う活動目標変更)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

与那原町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
4			きめ細かな児童生徒支援事業	H24 ～ H33	特別な支援を要する児童生徒に対し、早期からの支援や適切な支援を行う為の特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラーの配置を行い、学習の遅れ気味な児童生徒に対し、個に応じたきめ細かな支援を行う為の学習支援員・特別支援員を配置する。また放課後の児童の学びのサポートとして、放課後学習支援員を配置する。	・特別支援教育コーディネーター1人配置(対応回数 30回) ・スクールカウンセラー1人配置(対応回数175回) ・学習支援員 20人配置(支援日数週5日) ・特別支援教育支援員 20人配置(支援日数週5日) ・放課後学習支援員4人配置(対応児童数1,000名)	・全国学力・学習状況調査での全国平均との差 小学校(6年生) H26年+0.2 H27年+0.4 中学校(3年生) H26年-6.2 H27年-6.0	(今後の展開方針) ・学習支援員、特別支援員、スクールカウンセラーの人員確保 不登校者数の人数減	
4			国際理解人材育成事業	H24 ～ H33	沖縄振興の発展に重要な国際的感覚や視点を身に付ける人材育成の為に、英語指導員(ALT)の他に英語指導の補助員を配置し、外国語活動及び国際理解教育を充実させる。 また、放課後や休日に児童生徒がスポーツ等好きなことを通して、生きた英会話や国際感覚を身につける、スポーツイングリッシュスクールを開講する。	・英語指導助手の配置 2人 ・スポーツイングリッシュスクールの開講 21回	・英語検定取得(1～4級) 145人(平成27年度中) (参考年度実績 平成24年度116人)	(今後の展開方針) ・H24～33 英検前年度取得者数 年間10人増 ・英語指導助手の人員確保	
4			町立学校運動環境整備事業	H27	児童生徒の学習環境向上を図る為、潮風・太陽の照りつけでの砂埃・暑さの状況改善の整備を行う。	・スプリンクラー購入 6台 ・芝張り工事 2校	スプリンクラー購入及び芝張り工事による学習環境の向上	児童生徒の学習環境の改善を図り、砂埃の飛散軽減に努める	12月変更(事業追加)
5			ほっとハート子育て応援事業	H24 ～ H33	0歳児児童の待機児童対策を目的に、児童を安全に受け入れるため看護師を雇用する認可保育所を支援する。	・認可保育園への看護師配置 4施設(各1名) ・看護師配置による受入定員の増 25名	0歳児待機児童数 H26(10月)38名 H27(10月)23名	・看護師配置施設の増 H26(3カ所) H33(6カ所) 法人保育園全園へ看護師を配置することで0歳児を年間33名(H33)の受入増を図る。	
6			与那原町景観形成強化事業	H24 ～ H27	本町は、沖縄らしい風景を象徴する赤瓦の県内唯一の生産地であることから、赤瓦を利用した与那原町らしいまちづくりを促進し観光振興を図る為、景観計画を策定する。	・与那原町景観計画策定(策定委員会の開催4回、パブリックコメントの開催など) ・与那原町景観条例(案)の作成(景観まちづくりサポーター会議の開催4回、住民説明会の開催など)	景観条例制定に向けた条件整備(景観計画、景観条例(案)の策定)	本事業で策定した景観計画を基に、平成28年度景観条例の策定に向けて取り組む。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

与那原町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
7			与那原町墓地整備事業	H26 ～ H33	本町では狭隘な土地と急速な人口増加により市街地と墓地区域が混在・近接しており、優良な市街地の形成と新たな土地開発、景観形成を推進するため墓地の集積に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 墓地整備実施計画策定 委員会開催 5回 計画策定 (公営墓地建設の方向性、墓地建設の規制、基本計画の周知方法) 公営墓地整備基本計画 委員会開催 5回 計画策定 (建設場所の選定、規模、規格、数量、付属施設等の計画) 	<ul style="list-style-type: none"> 墓地の規制、集積方法、公営墓地整備の方向性の整理(「与那原町墓地整備実施計画」の策定) 墓地の集積に向けた具体的な公営墓地のあり方の整理(「与那原町公営墓地整備基本計画」を策定) 	<ul style="list-style-type: none"> 公営墓地概算設計(H28) 公営墓地詳細設計(H29) 用地買収(H30～31) 公営墓地造成・整備工事(H31～33) 	
8			地球温暖化を防止するための循環型社会形成事業	H26 ～ H28	異常気象の要因や、生態系への影響が懸念される地球温暖化への対策として策定された「与那原町地球温暖化防止実行計画」を達成する取組みの一つとして、町内全域の防犯灯、街路灯をLED化するとともに、気象講演会の開催、フラグの掲示を行い、町全体として温室効果ガスである二酸化炭素の排出抑制に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 防犯灯LED化 600基 地球温暖化防止実行計画説明会及び気象講演会開催 1回 	<ul style="list-style-type: none"> 防犯灯のLED化による二酸化炭素排出量抑制 3,600kg 説明会及び気象講演会参加者 100名 町全体での地球温暖化対策推進に向けた環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> 街路灯(交通安全灯)約250基のLED化(H28) 「与那原町地球温暖化防止実行計画」をさらに推進し、目標値である平成19年度の基準値952,424kgの排出値達成を目指す 	
9			「御新下り」関連史跡復元・周辺整備・歴史資料館(仮称)整備事業	H27 ～ H29	歴史・文化を後世に継承し、歴史文化を発信する為、「御新下り」関連の史跡等を復元し、歴史資産を構築し、新たな観光資源としての活用を図る。更に安全に来訪者を迎えるため周辺整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 整備基本計画の策定(課題の整理、基本方針・基本施策の決定など) 	<ul style="list-style-type: none"> 施設整備に向けた方向性の整理(整備基本計画の策定) 	<ul style="list-style-type: none"> 事業スケジュール H27年度 整備基本計画策定 H28年度 実施計画の策定・誘客計画の策定 H29年度 着工・完成 H30年度 5月供用開始 	
10			与那原町AEDステーション設置事業	H27	救助者にとって目印となり利用しやすい24時間営業店舗に自動体外式除細動器(AED)を設置し、町民の救命能力の向上と意識啓発に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> AED設置 7箇所 普通救急救命講習受講促進(設置施設:7施設) 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態発生時に救急車が到着するまでAEDを使用した救命処置が行える体制の整備。 	<ul style="list-style-type: none"> AED設置場所の周知 普通救急救命講習受講の継続(設置施設) 一般町民への教育、訓練 	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

与那原町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
11		来訪者と町民の避難誘導円滑化事業	H27 ~ H28					
11		防災情報システム整備事業	H27 ~ H28	来訪者及び町民への災害情報伝達手段の多様化・重層化を図るため、本町の地勢にあった防災情報システムの整備・構築を図る。	・基本計画書の策定 (システム導入/構築費用概算内訳作成、ランニング費用(15年間)の作成、工事別概略工程表の作成など)	・実施設計に向けた基礎資料の整理完了	(今後の展開方針) ・H28年度 実施設計、システム導入の完了 ・来訪者が安心して訪れることのできまの創出	
11		避難誘導情報サイン整備事業	H27 ~ H28	来訪者や町民への適正な避難誘導を促し、ひいては「歩いて楽しむ観光」を推進するため、避難誘導標識システム構築を目指し、ユニバーサルデザインを踏まえた基本計画及び実施設計を策定する。	・避難誘導サイン基本計画の策定 (配置計画・標識・意匠・概算金額等) ・サイン整備実施設計の策定 (実施図面・構造計算書等)	・サイン整備に向けた資料の整理完了	(今後の展開方針) ・H28年度 サインの制作、設置 円滑な避難誘導システム(しくみ)の構築	
12		与那原町「記憶資源」保存活用事業	H27 ~ H28	既存の網走資料館の現状と課題を洗い出し、資料展示の刷新を行う。与那原町の魅力を町内外へ発信する展示活動と、来客数増加計画策定及び活動のため必要な資料・情報の収集並びに調査研究活動を実施する。町内の高齢者や情報提供者・協力者とのネットワークを構築し、地域を巻き込んだ調査活動を展開する。	・聞き取り調査50件 ・資料館の活動改善、企画展示計画の策定 ・ホームページ作成	・高齢者と連携した調査による文化と生活史の記録保存 ・資料館の円滑な企画展活動の実施 年間来館者数2,000人 ・HPアクセス目標：月50件	収集した資料及び聞き取り証言、高齢者と連携した調査をもとにした展示活動・出前授業を実施し、文化と生活史の保存・次世代へ継承、文化資源の情報提供・展示活動を通じた観光資源の創出を図る。	
13		与那原町海外友好親善大使人材育成事業	H27 ~ H33	文化交流を推進するため、与那原町出身の海外移住者子弟を本町で研修生として受け入れ、日本語研修及び文化研修等を通して、本町及び本県と移住先国とのネットワークを強化し、PR大使として友好親善並びに沖縄文化の振興・発展に貢献しうる人材を育成する。	・海外移住者子弟研修生受入 (国際交流PR大使の任命):2人 ・児童生徒・町民との交流会:2回 ・帰国後の研修報告会:1回	・与那原町での交流会でのアンケート 国際交流に関心がある人の割合:70% ・帰国後の研修報告会でのアンケート 沖縄・与那原に関心がある人の割合:70% ・PR大使としての活動	今後は研修生の派遣を行い、各国町人会及び県会との連携を強化を図る。過去の研修生においては、その役割を認識させるためフォローアップ研修を定期的に実施。派遣、受入研修生は合わせて町及び県移住先国との友好親善に寄与する。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

与那原町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
14		与那原町沖縄関係戸籍電算化事業	H27	<p>戦災滅失した戸籍を再製するために作成された町保管の仮戸籍申告書、臨時戸籍及び福岡戸籍を電子化することで、原本の汚損、破損、による滅失、散逸を防ぎ、貴重な行政証明の資料及び、歴史的な文書として永続的な保管を実施する。また、電子化することにより円滑な検索、証明発行ができるようにする。</p>	H27年度中に仮戸籍申告書、臨時戸籍及び福岡戸籍を電算化する。	仮戸籍申告書、臨時戸籍、福岡戸籍の電子化率100%	行政証明や戸籍訂正の重要な資料を検索システムにより速やかに提供できるようにしつつ、電子化することにより、永続的に保管、管理を行う。	
15		与那原町ウォーターフロント整備事業	H25～H28	<p>中城湾港マリンタウンプロジェクトにより造成された東浜地区と既成市街地との間の東浜水路を新たな観光資源として活用するため、東浜水路沿いに修景施設等の整備及び憩いの広場の造成工事等を進める。</p>	<p>(東浜水路憩い広場整備事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用地取得(7筆・1,079㎡) ・東屋1基・便所1基 ・3,400㎡の憩いの広場整備工事(造成工事、植栽工事、建築工事) ・カヌー倉庫建築設計 (護岸修景施設整備) ・修景施設(東屋)5基 	東浜水路の観光活用に向けた基盤整備率70%	<p>(今後の展開方針)</p> <p>H28年度に一部供用開始し、水路を活かしたカヌー等のウォーターレジャーを行う。</p>	<p>5月変更(事業追加)</p> <p>10月変更(計画変更に伴う各目標変更)</p> <p>12月変更(計画変更に伴う事業内容、各目標変更)</p>
16		公立幼稚園保育環境整備事業	H27～H33	<p>働きながらも安心して子育て出来る与那原町をめざし、保護者の就労形態に対応できる幼稚園保育を充実させるため、保育時間の延長と給食の提供を開始する(平成28年度～)、それらに伴う保育環境整備を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・冷房設備整備 ・給食保管庫コンテナ購入 ・配膳台購入 	保育時間延長と給食開始に伴う保育環境整備、完了	<p>快適な環境整備の中で保育時間の延長と給食提供を開始する。(平成28年度～)また、給食開始に当たっては安全に提供できるよう配膳支援員の配置を検討する。</p>	12月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

南風原町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			南風原町人材育成事業	H24 ~ H33					
1			青少年国際交流事業	H24 ~ H33	町内の青少年リーダーを海外へ派遣し、教育・文化・歴史産業などの視察研修、そして現地の学校への体験入学、ホームステイを実施する。研修を通して国際的視野を広め、国際化時代に対応する青少年リーダーの育成を図る。また、参加した青少年達に対して事後活動を定期的に行い、地域で自主的な活動を行えるようサポートする。	・交流事業派遣生徒数:10名 ・研修後報告会の開催	・報告会の実施などを通じた参加者の意識向上(内容)アンケート実施。外国語や海外文化、移民への興味を持った生徒の割合 70%を目指す。	(今後の展開方針) 本研修および事後研修の充実 OB会による定期的な国際交流事業の啓発活動や、地域でのイベント企画	
1			小学校英語指導助手配置事業	H24 ~ H33	小学生のうちから英会話に触れさせ、外国の言語や文化について興味を持たせ英語力を向上させる為に、外国語に精通した日本人を各小学校に配置する。	小学校英語指導助手配置数:4人	英語を話す児童の割合60%以上(アンケート)	(今後の展開方針) 今後も引き続き小学校4校に英語指導助手を配置する。進んで英語が話すことができるよう、授業内容を改善していく。	
1			学力調査等事業	H24 ~ H33	学力が低い沖縄県において、本町を担う児童生徒の学力向上に向け、個々の児童生徒の学力、課題を把握するため学力調査等を行う。	標準学力調査の実施 小学校4校中4校 (国語・算数・5年生理科) 中学校2校中2校 (国語・数学・理科・社会・英語)	調査結果を基に実態把握し指導 調査結果を基にきめ細やかな指導に向けた個々の児童生徒の学力実態の把握	(今後の展開方針) 引き続き学力調査を実施し、調査結果を基に個々の課題克服のために活用していく。	
1			学習支援員配置事業	H24 ~ H33	南風原町児童生徒の学力向上に向け、通常の授業ではついていけない児童生徒に対し学習支援員を配置し、授業の理解を深める。	・学習支援員配置数 小学校:9人、中学校:6人	標準学力調査全国平均標準スコアとの差 【小学校】 (1年)H26 0 H27 0 (現状維持) (2年)H26 -0.1 H27 0 (3年)H26 -0.4 H27 -0.3 (4年)H26 -1.1 H27 -1.0 (5年)H26 -1.9 H27 -1.8 (6年)H26 -2.2 H27 -2.1 【中学校】 (1年)H26 -6.2 H27 -6.1 (2年)H26 -5.1 H27 -5.0 (3年)H26 -1.8 H27 -1.8	(今後の展開方針) 引き続き全小中学校に学習支援員を配置し、基礎学力向上に努める。	5月変更 (計画変更に伴う活動目標変更) 10月変更 (計画変更に伴う各目標変更)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

南風原町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			特別支援教育支援員配置事業	H24 ～ H33	児童生徒の総合的な学力向上を目的として、教室内で授業中に全体の指導についていけない子ども(学習障害者や注意欠陥多動性障害者など学習や生活面の特別な教育的補助を必要とする児童生徒)の個別指導や授業外の補習、円滑に学習を行うためのサポート(介助や安全確保)などを教師と連携して行う補助員を配置する。	・特別支援教育支援員配置数 幼稚園:12人、小学校:33人 中学校:6人	標準学力調査全国平均標準スコアとの差 【小学校】 (1年)H26 0 H27 0 (現状維持) (2年)H26 -0.1 H27 0 (3年)H26 -0.4 H27 -0.3 (4年)H26 -1.1 H27 -1.0 (5年)H26 -1.9 H27 -1.8 (6年)H26 -2.2 H27 -2.1 【中学校】 (1年)H26 -6.2 H27 -6.1 (2年)H26 -5.1 H27 -5.0 (3年)H26 -1.8 H27 -1.8	(今後の展開方針) 引き続き全小中学校に特別支援教育補助員を配置し、基礎学力向上に努める。	10月変更 (計画変更に伴う成果目標変更)
1			学校ICT推進事業	H24 ～ H33	学校においてパソコン等機器を充実させ、わかりやすい授業を行なうことで、教育の質の向上を図り、学力向上やより良い人材の育成を行うための環境を整備する。また、ICT機器を活用した魅力ある授業を支援するため、ICT支援員を配置する。	・電子黒板(理科室、少人数教室) 小学校:10台 中学校:9台 ・書画カメラ 小学校:24台(6学年×4校) 中学校:6台(3学年×2台×2校) ・タブレットPC 小学校:72式 中学校:20式 ・デジタル教科書 中学校2校 小学校4校 ・ICT支援員 3名	標準学力調査全国平均標準スコアとの差 【小学校】 (1年)H26 0 H27 0 (現状維持) (2年)H26 -0.1 H27 0 (3年)H26 -0.4 H27 -0.3 (4年)H26 -1.1 H27 -1.0 (5年)H26 -1.9 H27 -1.8 (6年)H26 -2.2 H27 -2.1 【中学校】 (1年)H26 -6.2 H27 -6.1 (2年)H26 -5.1 H27 -5.0 (3年)H26 -1.8 H27 -1.8	(今後の展開方針) 【電子黒板】H27～H28年度にかけて特別教室および特別クラスへの整備を行う。 【デジタル教科書】小中学校の教科書改訂年度に合わせて整備を行う。 【その他】ICT機器や取組について他市町村の良い例を参考に検討を行っていく。	5月変更 (計画変更に伴う活動目標変更) 10月変更 (計画変更に伴う各目標変更)
1			児童生徒健全育成事業	H24 ～ H33	怠学や問題行動・暴力行為等の不登校生徒の居場所として自立支援教室を設置、専任の指導員を配置し、よりきめ細やかな対応、均等な学習指導を行う。また、怠学等の児童生徒の校外指導を行うため校外指導員を配置する。	・自立支援教室指導員(中学校):2人 ・生徒校外指導員(中学校):6人	・怠学の原因を究明分析し、学校・福祉分野・地域との連携した結果を報告する。(連携事業の報告) ・自立支援教室指導員・教育相談員等にアンケートを実施し、「生活態度や登校日数が改善された」との回答を60%にする。	(今後の展開方針) 引き続き全小中学校に自立支援教室指導員・生徒校外指導員を配置し、基礎学力向上に努める。	
1			教育相談支援事業	H24 ～ H33	不登校または不登校傾向にある児童生徒や、子どもへの対応に悩みを持つ保護者に対する支援を充実させるため、教育相談員などを小中学校に配置する。	・町教育相談員配置数:1人 ・心の教室相談員配置数:4人 ・発達支援心理士配置数:1人	・不登校の原因を究明分析し、学校・福祉分野・地域との連携した結果を報告する。(連携事業の報告) ・相談員にアンケートを実施し、「生活態度や登校日数が改善された」との回答を60%にする。	(今後の展開方針) 今後も生徒校外指導員、自立支援教室指導員と連携を密にし支援体制を強化していく。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

南風原町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
1	中学校外国人英語指導助手配置事業	H24 ～ H33	中学校英語教育の充実と国際理解教育推進に資するため、外国人英語指導員を中学校へ派遣する。	・外国人英語指導助手配置数：1人	標準学力調査全国平均標準スコアとの差（英語） 【中学校】 (2年)H26 -5.8 H27 -5.7 (3年)H26 -3.1 H27 -3.0	(今後の展開方針) 今後も引き続き、外国人英語指導助手を配置し、小学校英語指導助手との連携を密にし、小学校英語から中学校英語へ、抵抗なく移行するようにし、生徒が英会話に対し苦手意識を持たせないようにする。		
1	南風原町青年海外派遣事業	H25 ～ H33	本町の青年達を、特に移民先の南米やハワイへ派遣し、町人会や、移民の次世代の青年たちとの交流を深める。言語、文化理解をはじめ、移民の歴史や現在の状況、世界のあらゆる動きの中で同じ町の人として励まし合い、助け合う繋がりを構築できる人材を育成する。その成果を今後の町の将来を担うリーダーとしての自覚を持って活動をしてもらう。	・南米へ青年2人を派遣 ・南風原町人会、海外移住者子弟研修生OBとの交流 ・帰国後の報告会の開催	研修後、派遣者に対してアンケートを実施 ・派遣後、移民史や海外の沖縄人の生活に興味を持った：100% ・派遣後、自分のコミュニケーション能力が高まったと思う：70%	(今後の展開方針) 平成25年度～33年度 各年度2人 累計18人		
1	南風原町各種大会派遣支援事業	H25 ～ H33	小・中学校の児童生徒が、県外で開催される運動競技大会又は文化関係大会に参加する際の派遣費の支援をする。	児童生徒大会派遣の支援	大会派遣児童・生徒数：31人	(今後の展開方針) 今後も児童生徒人材育成のため県大会派遣を継続する。		
1	南風原町県外等派遣支援事業	H25 ～ H33	将来の沖縄振興に資する人材育成のため、町内に在住する小学生・中学生及び地域青年会等が運動競技及び文化活動参加のため県外等へ派遣される場合に対して必要な派遣費用の支援を行う。	児童・生徒及び青年会等大会派遣の支援	派遣児童・生徒数及び派遣青年会数(累計)：140人	(今後の展開方針) 最終年度(派遣児童・生徒数及び派遣青年会数累計)：1,260人		
1	魅力的な体験学習事業	H25 ～ H33	サイエンスショーを開催し、机上の学習だけではなく体験学習を取り入れた授業を行うことで、児童の探究心や想像力を育て、学ぶことに対する「興味」「楽しさ」を実感してもらい、沖縄振興に資する人材育成を図る。	小学生を対象としたサイエンスショーの開催	・理科への関心度：10%増加(鑑賞前 鑑賞後) (評価方法) サイエンスショー鑑賞前と鑑賞後に理科への興味・関心度に関するアンケートを実施。理科への関心度の変化を確認する。	(今後の展開方針) H27年度～H33年度 ・サイエンスショーの開催 ・来場者数 各年度850人		
1	南風原町児童生徒県外交流事業	H25 ～ H33	県外の山間地域に児童生徒を派遣し、南風原町にない自然文化を体験し現地の中学校交流と民泊を実施することで幅広い視野を持った人材を育成する為に派遣費を補助する。具体的には徳島県つるぎ町に南風原町の小学校高学年及び中学生を派遣し、徳島県つるぎ町の半田中学校での交流・民泊交流、登山等を体験する。	徳島県つるぎ町立半田中学校へ中学生10名、小学生12名を派遣	・派遣者にアンケートや報告書(感想文)を実施し集計結果や分析を報告。 「楽しかったこと・びっくりしたこと」の答えの50%以上に民泊交流・中学校交流が入るようにする。 「次回も継続して欲しいこと」の答えの50%以上に民泊交流・中学校交流が入るようにする。	(今後の展開方針) 徳島県との交流を継続し、平和教育や、観光振興などの担い手となる人材を育成する。		

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

南風原町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2			観光・産業振興事業	H24 ～ H33					
2			南風原町観光景観美化整備事業	H24 ～ H33	本県は亜熱帯性の固有な自然環境であり、年間を通して植物の繁茂がある。町内の観光ルート等の環境美化を町内の求職者を雇用して実施し、クリーンな南風原町を目指す。	景観美化作業員：4人	・観光ルートの町道を草木の伐採等により景観美化を実施(延長L=12,600m)	(今後の展開方針) 南部の交通網の拠点となっている本町の道路の景観美化を保つため、引き続き美化作業を実施して観光立県沖縄に寄与します。	
2			かすりの道活性化プロジェクト	H24 ～ H33	「かすりの道」を活用した魅力的な観光地づくり、まちづくりを促進するため地域住民参加による緑化活動、道並などの美化を行う。さらにイベントを開催することで認知度を高める。また、観光客やイベント参加者の受入体制の整備として、便益施設を整備する。	・イベント開催：6回 ・かすりの道緑化活動：10回 ・トイレ整備：1ヶ所	・イベント参加者：180人 ・かすりの道散策ツアー参加者360人 (H25年実績250人) ・H28年4月の利用開始に向けた事業の着実な実施(トイレ整備の完成)	(今後の展開方針) 【イベント参加者】H28年：360人 【緑化活動】H28年：10回	10月変更 (計画変更に伴う事業内容変更、成果目標変更)
2			無料職業紹介所整備事業	H27 ～ H33	沖縄県は完全失業率が全国最下位であり、本町においても失業率は8.9%(H22国勢調査)と高い失業率となっていることから、求職者や企業に対して、より充実した雇用支援が必要である。そのため、町内の求職者に対して、就職だけでなく福祉や税等の面からも、身近な場所でより必要な支援が提供でき、スピーディーに企業に求職者を斡旋できるマッチングシステムを整備する。	・職業紹介所従事者の人材育成：1名 ・職業紹介所の広報 ・求職者と求人企業のマッチング ・職業紹介所の備品購入(机、イス、書類棚)	・雇用マッチング 5件	(今後の展開方針) ・職業紹介所の体制整備を図り、本町の求職者・求人企業のマッチング体制を確立する。	
2			デザイン・くくり担い手育成事業	H24 ～ H33	本町の琉球絣は伝統工芸品として有名であり、その生産体制は分業体制で行われている。生産工程の一つである「デザイン・くくり」の技術者が現在少ない状況にあり、このままでは技術が失われる可能性があるため、「デザイン・くくり」の技術者を育成する。	・工房の即戦力となるデザイン・くくりの技術者を育成する。 絣の基礎知識の学習 視察研修 パソコン講習 デザイン製作 デザイン・くくり技術の実践	・2年目計画達成率80%以上 2年目計画達成率・・・2年目は、1年目に習得した1ロット(3反分)から、1ロット(10反分)のデザイン・くくりの技術を習得する事を目標に、その技術をどれだけ習得しているかの達成率	(今後の展開方針) 平成26年度～平成28年度 ・デザイン・くくり技術者 4名育成 ・デザイン・くくりの技術者を育成して、後継者育成を図り、琉球絣の継承に寄与する。	
2			危険生物駆除事業	H27 ～ H28	来訪者等を沖縄特有の生物であるハブから守るため、町内でハブが生息している箇所にはハブトラップを設置し、積極的に駆除を行うことにより安心・安全な観光地を目指す。	・捕獲器30器を設置 ・囃託員による巡回：1名	ハブ捕獲数50匹	(今後の展開方針) ハブ出没地点のバトロールをおこない、捕獲状況を分析してより効率的にハブを駆除できるよう努める。また町民や観光客等に注意喚起を行い、ハブ咬傷被害のない安全な観光地作りを目指す。	

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

南風原町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
2	南風原名人制度創設事業	H25 ～ H27	南風原町の地域人材を活用し、「得意なこと」を観光体験ツールで活用するため、「南風原名人制度」をつくる。 さらに、制度を活用し、滞在型観光に繋げていく。	・名人発掘活動(各種団体6回/年) ・名人発掘活動(HP掲載/通年) ・名人作品展・実践/1回	・体験学習プログラム数:6件(H25実績4件) ・名人登録者(累計):45人(H25実績10人) ・体験者数:60名 ・作品展来場者:220人	(今後の展開方針) 【プログラム数】H28年:8件 【名人登録数】H28年:維持		
2	民泊啓発推進事業	H25 ～ H33	南風原町には宿泊施設がないため、滞在型観光の振興の妨げとなっている。宿泊体験の推進を図り、滞在型観光を促進するため、企画・運営職員を配置し、宿泊体験家庭の開拓やシステムの構築などを行って、観光推進体制を強化していく。	・宿泊体験登録家庭数:20家庭 ・修学旅行誘致営業:1回	・宿泊体験受入数:90名 H26受入人数84人 ・新規受入学校:1校	(今後の展開方針) 【修学旅行受入】H33年:一家庭2回以上(年間受入目標:100人) 【民泊家庭登録者数】H27年:20件		
2	南風原地域発信力強化事業	H24 ～ H33	へちま生産日本一を誇る南風原町。本町では南風原産へちまの愛称を「南風原美瓜(びゅうりー)」と名付け、ブランド化を図っている。そのへちまを観光物産として元気、若いという良いイメージを付けて魅力を町内外に発信するため、ビュウリーズというダンスユニットを結成し、活動する。	・町PR活動イベント出演:5回	・新聞等へ活動掲載:5回 ・ラジオへの出演5回	(今後の展開方針) ・ダンススクール受講者(累計) H33年度:200名 ・イベント等で、南風原ブースでの販売促進と南風原の観光コンテンツPRを行う。		
2	ヒーローのまちづくり事業	H25 ～ H33	本町の観光振興、地域活性化のため、全国的ヒーローや、南風原町が輩出した多彩な人材の功績や経歴、所有品等の観光情報発信を行うためイベントなどを定期的に行い、観光客を本町へ誘導する。	・イベント開催:1回 ・フォーラムの開催:1回 ・脚本賞:1回	・イベント来客者数:500人 ・フォーラムの参加人数:500人 (H25実績:827人) ・脚本賞のイベント参加人数:1,000人	(今後の展開方針) 継続して脚本賞開催 町民による実写化(舞台や映画) 他ヒーローの検討		
2	シマじまガイド事業	H24 ～ H33	訪問客に地元の魅力をあますところなく伝え、南風原町の魅力を知っていただくため、着地型観光メニューとして「シマじまガイド」(名所案内巡り)を実施し、町内外からの観光客等を受け入れるシステム構築をし、観光振興を図る。	・ガイド養成10名 シマじまガイド開催:12回	・ガイド回数:1回/人 ・シマじまガイド事業 年間利用者数:1,450人(H25年実績:1,458人)	(今後の展開方針) 事業利用者数:H30年:1,550人		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

南風原町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
2	黄金森公園スポ - ツ施設活性化事業	H25 ~ H33	良好なスポ - ツ・トレ - ニング環境の提供により観光と結びつけたスポ - ツコンベンションの誘致、開催を図るため、黄金森公園スポ - ツ施設の機能強化と受入体制等の整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 黄金森公園陸上競技場フィールド芝生の整備委託 芝生整備嘱託員:1名 備品の整備(芝刈機:1台、スーパー:1台、肥料散布機:2台) Jリーグキャンプ等支援委託(南風原町イメージ動画作成・町内青年会エイサー派遣、町PRパンフレット、グッズ作成・名古屋グランパス春期キャンプ受入に係る警備・テント設営・観客送迎バス運行など一式) 人工芝、ラインカー、スコアボード、人工芝台車購入 	<ul style="list-style-type: none"> 陸上、サッカー - 合宿利用者数:550人(H27.4~H28.3)【H25実績:528名】 キャンプ見学者数:10,000人【H26年度実績:約10,000人】 	<p>(今後の展開方針)</p> <p>スポーツコンベンションの誘致活動を継続的に行い、キャンプ・合宿等の定着化を図る。</p> <p>合宿利用者数:H30年:600人</p>	7月変更(計画変更に伴う事業内容、各目標変更)	
2	南風原町中小企業現状調査分析事業	H27	「南風原町中小企業・小規模企業振興基本条例」に基づき、町内の中小企業、小規模企業の振興を図るために、町内の事業所の現状や課題を把握する為の調査を行う。	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査:1,200事業者 アンケート結果の分析 	町内事業所の現状や課題の把握	<p>(今後の展開方針)</p> <p>調査によって把握した町内事業所の現状や課題の分析をしたデータを基に、行政と中小企業者、小規模企業者の協働参画による振興会議において、中小企業、小規模企業に対する支援施策や政策を検討し、行政に対し、提案、提言を行う。</p> <p>提案、提言を基に支援施策の有効性や効果を検証し、有効と考えられる施策等を立案し実施する。</p>		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

南風原町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2		南風原町地域ブランド構築・展開プロジェクト	H24 ～ H29	南風原町の特産品を通じた地域振興を図るため、主に町特産の農産品等を活用し異業種間の連携を促進しつつ、本町特産品の良さを引き出すための調査・研究及び、本町特産品のブランド化を図るための組織づくりを行い、ブランド認証スキームを確立するとともに、南風原ブランドの新商品の開発、販路開拓を行う。	調査研究の実施 地域ブランド認証審査会開催：2回 商品開発サポート事業者、団体：10箇所 販路開拓、拡大、テスト販売：3回	地域ブランドの定義の確定 地域ブランド戦略の策定 ブランド認証スキームの構築 南風原町ブランド認証：2件 商品開発：2品 既存商品のブラッシュアップ：2品 H26年度までに開発した商品の販売個数 マドレーヌ：170個×10ヶ月（4月～1月）=1,700個 （H26実績：1,641個） 美瓜カレー：70食×5ヶ月（8月～12月）=350食 （H26実績：180食）	(今後の展開方針) 地域における商品開発・販路開拓は、これまでの活動における課題解消や商品の改良・改善を含めて販路開拓やテスト販売を試みる。また南風原町地域ブランドの定義と認証スキームを構築することで、地域ブランド推進事業(知的財産保護、活用等)を立上げ、更なる地域振興と地域経済への波及を画策する。 平成28年度：ブランド認証2件、既存商品のブラッシュアップ2品 マドレーヌ：2,000個 美瓜カレー：450食 平成29年度：取扱店舗の開拓2件、ブランド認証2件 マドレーヌ：2,300個 美瓜カレー：600食	5月変更(事業追加)
2		南風原町観光PR促進事業	H25 ～ H33	本町の観光、文化、特産品を紹介する観光物産展を開催する。特産品の販売等を行い、特産品の販路拡大、観光PRを実施する。 さらに、本町の認知度向上と地域資源の情報発信・観光客誘客強化を図るため、イメージキャラクターを本町のPRツールとして活用する。	・イメージキャラクターによる観光PR活動(1年で100回) ・物産展の開催	・はえるん等利用申請数：60件(H26実績56件) ・はえるんファンクラブ加入：900人(H26実績700人) ・物産展来場者：12,000人(H26実績11,000人)、 ・南風原町観光案内所の利用者数10,000人(4月～3月の12ヶ月間) (H26実績：5,557人 H26.10～H27.3)	(今後の展開方針) 物産展の定期的な開催 観光案内所整備後は、ホームページや各種イベント等で周知を行い、観光スポットへの案内や休憩所・物産販売所として運営していく。	5月変更(事業追加)

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

南風原町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2			南風原観光発信施設整備事業	H27 ~ H29	観光振興を図るため、南風原町が輩出した多彩な人材の功績や経歴、所有品等の紹介・展示等を行う観光情報発信施設を整備する。観光発信施設は、南風原町の観光拠点のひとつとして、字津嘉山に金城哲夫氏の資料展示やその他偉人等の常設展示をした観光地としての役割をもつ部分と一体的に整備し、来訪者の動向やニーズを的確に捉えた上で、観光戦略を総合的に展開し、来訪者のもてなしや満足感を与える「おもてなし活動」を行うため観光協会を中心とした観光、歴史・文化、交通等地域の魅力や情報を発信し誘客を行う交流機能も備える観光発信施設を整備する。	・南風原町観光発信施設基本構想の検討	・H30年5月の供用開始に向けた事業の着実な実施 ・観光発信施設の基本構想の策定	(今後の展開方針) 金城哲夫氏の書斎の再現と作品の劣化防止を中心に行う。県内外からの観光客を受け入れる体制をつくり、観光振興に利用する観光発信施設を整備する。 ・事業スケジュール H27年度 基本構想 H28年度 基本設計・実施設計等の 策定、建設用地取得(1,198㎡予定) H29年度 工事 H30年 5月供用開始予定 ・施設利用者数 目標 H30年度 2,000人/年	5月変更(事業追加)
2			南風原町和牛改良支援事業	H27 ~ H33	農家の経営安定化に向け、仔牛の品質の向上により高値での出荷が行えるよう、系統の良い優良母牛導入経費への一部を支援する。	・優良母牛の導入支援	・今年度導入頭数:6頭 ・今年度導入率:14.2%(全導入目標頭数:42頭)	(今後の展開方針) H27~H33累計42頭導入	5月変更(事業追加)
2			南風原町農産物販売促進事業	H27 ~ H29	生産量県内一位を誇る南風原産ヘチマと拠点産地認定を受けたスターフルーツを南風原町の特産品と位置づけ、広く県内外へPRを図り消費拡大を推進するため販売促進を行う。	・ヘチマ販促(県外2回・県内4回) ・スターフルーツ販促(県外1回・県内3回) ・県外物産イベントにて、ヘチマ料理講習会 ・ヘチマレシビコンテスト開催	・ヘチマ販促イベント販売(累計320,000円) ・スターフルーツ販促イベント販売(累計720,000円) ・県外イベント講習会開催によるヘチマ・スターフルーツ販売(220,000円) ・ヘチマレシビコンテスト応募総数100件	(今後の展開方針) 取扱店商談成立目標(平成29年度) ヘチマ 県外取扱店舗3~5社 スターフルーツ 県外取扱店舗3~5社	5月変更(事業追加)
3			環境にやさしいまちづくり事業	H24 ~ H28					
3			はえばりサイクルループ事業	H24 ~ H28	町内で発生する食品廃棄物(生ごみ、廃食用油含む)を分別回収し、養豚用飼料や堆肥、バイオディーゼル燃料を生産する。また、生産された飼料を活用した養豚や、生産した堆肥、ディーゼル燃料の活用を図り食品廃棄物の循環利用体制を構築する。	食品廃棄物の循環利用の実施	生ごみ(家庭系)の年間資源化量:40トン 【平成25年度実績】:32トン	(今後の展開方針) 生ごみ(家庭系)の年間資源化量 H28年度:40トン	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

南風原町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
3			環境学習支援事業	H24 ～ H28	時代を担う子どもたちの環境倫理の醸成のため、児童館や学校、教育委員会等と連携し、小学4、5年生を対象に、専門家による「体験型」の環境教育・環境学習を実施する。	・町内4小学校の4、5年生を対象に環境学習「買い物ゲーム」の実施 実施回数:15回 ・環境学習「買い物ゲーム」体験者数:440人	・小学生が環境学習を通じて、ごみ減量やリサイクルの重要性を学ぶ ごみ減量やリサイクルへの関心度:50%増加(学習前 学習後)	(今後の展開方針) 環境学習を経験した生徒からのアンケートを分析し、次の学習の際には更なる効果を上げていく。 環境学習「買い物ゲーム」体験者数(累計)H28年度:2,217人	
3			草木リサイクル事業	H24 ～ H28	町内から排出される草木を回収し、堆肥化を行う。その堆肥を農地等で活用することで、草木廃棄物のリサイクルができる「循環のシステム」を構築する。	草木廃棄物の循環利用の実施	草木のリサイクル量(堆肥化):440トン 【平成25年度実績】:347トン	(今後の展開方針) 今後も町内から発生する草木をすべて資源化していけるよう効率的に事業をすすめていく	
3			低炭素社会化事業(省エネ設備導入事業)	H27 ～ H29	省エネルギー設備の導入により環境負荷の少ない低炭素社会の実現を図るため、防犯灯(水銀灯、蛍光灯)等を環境負荷の少ないLED照明に切り替え、温室効果ガス(CO ₂)の排出を抑制する。	実施設計(既設防犯灯1,500灯の調査含む)	平成28年度～29年度の工事に向けて、実施設計の完了	防犯灯の工事 平成28年度 750灯 平成29年度 750灯	10月変更(事業追加)
4			災害に強いまちづくり事業	H24 ～ H33					
4			防災体制強化事業	H24 ～ H28	亜熱帯気候である沖縄県では毎年多くの台風が接近・襲来している。そのため、島しょ県である沖縄は、大規模災害時には物資の補給が困難となり、孤立してしまう恐れがある。そのことから、町独自で長期保存ができる食料等の備蓄を行い、防災体制の強化を図る。	備蓄品の購入 (1)パン入り缶詰:13箱(312食) (2)災害時用米:60箱(3,000食) (3)保存水:150箱(1.5リットル 1,200本) (4)粉ミルク:12缶 (5)防災毛布:50枚 (6)緊急対策用トイレ袋:150箱(3,000回分) (7)災害時用トイレトイレットペーパー:12セット(288個) (8)災害時用保存食(カレー):75箱(1800食) (9)発熱セット(カレー-の加熱材):19箱(456個)	・南風原町地域防災計画の「食料等備蓄計画」の目標備蓄数16,200食(36,000人×1/20×3日分×3食)に対する充足率:81.8% (H26充足率:70%)	(今後の展開方針) 食料等備蓄品充足率 H28年度:100%	
4			災害時等避難施設改修事業	H24 ～ H29	台風等の自然災害による被害が多発しているため、台風などの災害や不発弾処理等非常時の避難施設である地域公民館や集会施設の整備を行う。	避難所(区、自治会)の防水改修工事(施設整備)補助:5件	・避難所(区、自治会)の改修整備割合:52%(全避難所19ヶ所中10ヶ所整備完了)	(今後の展開方針) H33年度までに全19避難所(区、自治会)を整備。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

南風原町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
4	北丘小学校西側避難通路整備事業	H26 ~ H29	北丘小学校は災害時の避難所として指定されているが、避難通路となっている小学校の西側に面している階段は築30年以上経過しており、通路や法面に滑りが見られコンクリート舗装や擁壁に亀裂などを起こしている。そのため避難通路として、安全に活用できるよう整備を行う。	北丘小学校西側避難通路の基本設計の実施(工事場所:北丘小学校西側階段 整備面積:5,014㎡)	・避難通路整備設置基本設計書の完了	(今後の展開方針) H28年度:監理委託・工事 H29年度:監理委託・工事		
4	津嘉山小学校南側避難通路整備事業	H26 ~ H29	津嘉山小学校は災害時に避難所として指定されており、小学校の南側集落からの避難通路としては未整備となっているため、災害時にも安全に活用できるよう整備を行う。	津嘉山小学校南側避難通路の基本設計の実施(工事場所:津嘉山小学校南側通路 整備:149.1m)	・避難通路整備設置基本設計書の完了	(今後の展開方針) H28年度:用地・監理委託・工事 H29年度:監理委託・工事		
4	位置伝達手段整備事業	H27	安心で安全に暮らせる環境は生活条件の基礎である。そのため、緊急的な出来事が発生した際にもいかに対応していくかが大事であり、事前の防止や発生後の対策が有事の際のライフラインに直結し、安心して暮らすことに繋がってくる。 本事業では、もし交通事故や災害等で動けなくなった時に自分の現在地を特定できる目印等がない場合、消防や警察へ自分自身の現在地を伝えられるように位置情報が瞬時に分かる表示物を整備する。	・表示件数30件	・緊急の際に、迅速な初動対応が可能になるように、消防と連携した初動体制の強化	(今後の展開方針) 特定目印の設置により、土地改良区内の安全管理に努めていく。	10月変更 (事業追加)	
5	子育て世代支援事業	H24 ~ H33						
5	放課後児童の居場所づくり支援事業	H24 ~ H33	本町の学童クラブのうち、民間の賃貸住宅を利用している学童クラブに対して家賃支援をする。また、学童クラブがひとり親家庭等の学童利用者に対し学童保育料を減免した場合の支援を実施する。本事業により、子育て環境の整備、学童クラブ運営の安定化を図り、保育の質を高め、子ども達の安心・安全な放課後の居場所を作り、充実させることを目的とする。	(1)家賃支援 基準値(H27):7ヶ所 (2)ひとり親家庭等学童クラブ利用支援 基準値(H27):67人分	保育の質の向上 【評価指標】 学童クラブの年間行事数で保育の質の向上を評価する。 ・学童クラブの行事数:39回(7ヶ所) (実績:H25行事数:33回(5ヶ所)) (基準値:H23行事数:18回(4ヶ所))	(今後の展開方針) 今後も引き続き町内の学童クラブに対し家賃支援を行う。また、ひとり親家庭等学童クラブ利用支援を行い、保育の質を高め、子ども達の安心・安全な放課後の居場所作りを行う。		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

南風原町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
5			幼稚園保育充実支援員配置事業	H25 ～ H33	町立幼稚園の保育時間の延長に伴い開始される給食を、園児に安心・安全に提供できる体制を整えるため支援員を配置する。また、平成28年4月より幼稚園での4歳児保育を開始し給食提供を実施するため共同調理場、幼稚園の備品、配送車、食缶等給食提供に係る設備を整備する。	・充実支援員配置数:2名 ・給食関係消耗品、備品整備	・給食支援を配置することにより、配膳時における安全性の確保 配膳時の事故件数 0件 ・幼稚園4歳保育児童への給食提供環境整備完了	(今後の展開方針) 安心・安全な給食時間を提供するため、給食支援員の配置を行う。 また、平成28年度より幼稚園4歳保育児童への給食提供を行う。	10月変更 (計画変更に伴う事業内容変更、各目標変更)
5			認可外保育施設環境整備事業	H25 ～ H27	子育て世代の人口増に伴い待機児童が増え続けていることから、待機児童の受け皿となっている認可外保育園の施設整備に対して支援を行うことにより保育環境を向上させる。	認可外保育施設整備に対する支援: 4カ所	児童が安心安全に過ごせるよう建物の安全性・快適性を確保することにより、児童の健やかな成長を促す。 【評価指標】 施設整備後に認可外保育園に対してアンケートを実施 ・午睡環境の改善が図られた割合:100%	(今後の展開方針) 子育て世代の人口増に伴い待機児童が増え続けていることから、待機児童の受け皿となっている認可外保育施設の施設整備を行い保育環境を向上させる。	
6			南風原文化・歴史・伝統継承事業	H24 ～ H33					
6			陸軍病院壕公開活用事業	H24 ～ H33	沖縄戦時に構築・使用された沖縄陸軍病院壕跡を平和学習のために公開活用して、戦争と平和を考えて命の尊さを学ぶ取り組みを行う。	開壕日数:308日	見学者数10,000人 (H25年度実績 9,498人) (H24年度実績10,000人) (H23年度実績 9,804人)	(今後の展開方針) H26年度に再現した戦中における壕内の臭気を用いて、視覚・聴覚・嗅覚を使った追体験で、より具体的に沖縄戦を学ぶ場として活用していく。	
6			資料の公開活用事業	H24 ～ H29	南風原文化センターに収蔵されている貴重な歴史資料をデータベース化して整理し、公開活用の幅を広げつつ後世へ継承していく。	データベース化実施点数:5,500点	データベース化済み割合:87% (総点数125,000点中、データベース化済点数109,000点)	(今後の展開方針) 収蔵資料総点数125,000点を分類ごとにデータベース化して利活用を推進する。	
6			子ども平和学習交流事業	H24 ～ H33	子どもたちが仲間づくりを通じ、戦争や平和、差別や人権などについて交流や研修を通して平和について広く学習を深めることを目的に、子ども平和学習交流事業を行う。	・子ども平和学習交流事業参加者数:24人 ・事前学習、本研修後報告会を開催	・参加児童の保護者へのアンケートで、子どもにより変化が見られた:95% ・参加後、平和や戦争、人権や差別について社会の問題に興味があった児童:95%	(今後の展開方針) ・OB会との連携、事後学習の充実 ・ネットワークづくりや課題を設定したイベントの開催など 平成24年度～平成33年度: 各年度12人～24人 累計136人	5月変更 (計画変更に伴う活動目標変更)
6			伝統芸能保存育成事業	H24 ～ H33	町内には数多くの伝統芸能があり、各字・自治会の伝統芸能の保存や継承への取り組みに対し支援を行うことで伝統芸能継承を推進する。	・伝統芸能保存育成支援件数:6件	・年中行事等での伝統芸能上演等回数 H27年度:67回 (H25実績:67回)	(今後の展開方針) 伝統芸能を後生に継承するために保存会、自治会と連携し保存、育成継承・記録していく。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

南風原町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
バ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
6			南風原町海外移住者子弟研修生受入事業	H24 ～ H33	移民の文化・歴史交流を推進するため、南風原町出身の海外移住者子弟を南風原町に研修生として受け入れ、移民の歴史はもちろん、相互の文化と歴史を学習させる。帰国後は自国の研修生仲間たちと連携し南風原町とのパイプ役として活動する。	・受け入れ国の数:3カ国 (米国ハワイ、南米3カ国ペルー、ブラジル、アルゼンチンのうち2カ国) ・受け入れ研修生の数:5人 ・研修成果の報告会を開催	研修後、研修生に対してアンケートを実施 ・研修終了後、移民史に興味があった:80% ・日本語をさらに習得したい:80% ・日本や沖縄の文化や歴史に以前より関心を持つようになった:80%	(今後の展開方針) 各国の研修生が研修後もネットワークを作り、南風原町の若者たちと交流を深める。	
6			南風原町民俗芸能交流会開催事業	H26 ～ H33	町内各地にある伝統芸能を披露する場、他地域と交流する場を設け、新たな世代へ地域の伝統芸能を継承し、地域活性化を図るため南風原町民俗芸能交流会を行う。	・第27回民俗芸能交流会の開催	・交流会参加者数 450人以上	(今後の展開方針) 各町の伝統芸能の情報収集、記録保存に力を入れ、各地との交流の中で後継者の育成に力を入れる。	
6			プロジェクトヒュート支援事業	H26 ～ H33	新たな地域活性化、人と人との交流を生み出すために南風原町の伝説、課題や話題などをモチーフにしたショーを通して、多くの人々に町の伝承文化や行事などの普及に努めている「チームTHE飛勇人(ひゅうと)」の活動に対して支援を行う。	・学校等公演の充実と強化 ・年間公演回数:5回 ・オリジナル教材の開発(学校の授業で使用)	・町内各町の伝承文化の啓発を図る。 ・イベントやショー後にアンケートを実施 ・地域の伝説や民話の理解を深めた:60% ・新しいキャラクターに楽しさや親しみを覚えた:60%	(今後の展開方針) プロジェクトヒュートとしての仲間づくりを基本とし、地域の課題や伝説、話題を取り上げたショーを展開し、親しみやすいローカルヒーローとして南風原町をアピールする。	
6			戦争証言資料管理システム導入事業	H26 ～ H27	悲惨な戦争体験を風化させず後世に語り継ぐことができるよう、援護業務で得られた戦時中の生の証言資料を整理し、平和事業や平和学習に活用するため、南風原町で保管する紙ベースの戦没者台帳をデータベース化し戦没者遺族等から得られた戦没時の悲惨な実態証言を加えたシステムを構築し管理する。	・戦争証言資料管理システム基礎データの整備 (戦没者約2,300名分のデータ) ・戦争証言資料の整備(約455件) ・データ入力作業員3人	・戦争証言資料管理システムデータ整備率:100%(基礎データ整備及び証言資料の整備をもって100%とする。)	(今後の展開方針) 戦争証言資料管理システムの整備後は、文化センター等において平和事業や平和学習に活用する。	
6			南風原町クサティ森等保全事業	H25 ～ H30	文化財の保全継承及び文化資源を活用した観光振興を図るため、南風原町の集落及び集落のクサティ森等に存する史跡等の修復、説明施設等の整備を行う。さらに活用を促進するための散策道、休養施設等の整備及び整備のための用地取得を行う。	・散策道(約250m)、便所(1棟)及び集落内広場(約800㎡)等の工事の実施 ・集落内広場(約800㎡)の実施設計の実施(整備施設及び規模)	・平成28年度一部共用に向けた事業の着実な実施(散策道約250m、便所1棟及び集落内広場約800㎡等の一部工事並びに集落内広場約800㎡の実施設計の完了)	(今後の展開方針) H28:クサティ森等の実施設計 H28:集落内広場完了し共用する。 H29:津嘉山の殿(トン)周辺の整備を完了し、歴史学習及び観光施設として共用する。 H29以降:引き続きクサティ森等整備工事	5月変更(事業追加)
6			地域振興資料館整備事業	H27 ～ H29	伝統芸能の保存継承のため資料館を整備し、文化・歴史・伝統芸能の保全継承並びに文化資源を活用した地域振興を図る。また、災害時の緊急避難所としての機能も有し、避難施設としても活用する。	資料館建設基本設計の実施 1階840㎡、2階351㎡、倉庫31㎡	H28年の資料館建築に向けた事業の着実な実施(設計書の完了)	(今後の展開方針) 資料館整備後は、郷土文化や歴史学習の場としての活用。また、避難施設としても防災活動と地域のコミュニティの活動を組み合わせ、地域の文化振興と防災力強化を図る。	5月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

南風原町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
6		沖縄県人カナダ移民115周年記念式典派遣事業	H27	カナダアルバータ州レスブリッジ市で開催される沖縄県人カナダ移民115周年記念式典へ町内の伝統芸能団体を派遣し、沖縄の伝統文化のPRを行うと同時に、ウチナーネットワークを構築する。	・伝統芸能公演回数：2回 ・伝統芸能団体の派遣：20名 ・現地での県人会との交流活動	・派遣報告会の開催 ・現地団体との伝統芸能交流の実施	(今後の展開方針) 伝統芸能交流を行った団体と、伝統芸能を通じた交流を続け、国外におけるウチナーネットワークの強化へつなげる。	5月変更 (事業追加)
6		平和の日推進事業	H27 ～ H33	10月12日の「町民平和の日」にあわせて平和を祈念し、町民の平和意識の高揚を図るために音楽コンサートを開催する。	・平和コンサートの開催	・平和コンサート開催 観客動員数300人	(今後の展開方針) ・平和コンサート開催観客動員数 H28 350人 H29 380人 H30 410人	7月変更 (事業追加)
6		「南風原の学童疎開」映像製作事業	H27	南風原の学童疎開について、疎開地の様子、体験者の語りを含めその概要と現状を紹介する映像DVDを2種類製作する。一つは記録映像で、証言者の語りなどをできるだけ記録したものと、学校の授業で使えるよう教育普及版として映像資料を製作する。	来年度の活用に向けて、「南風原の学童疎開」についての情報記録を整理し、映像記録DVDを2種類製作する。	平和学習資料、あるいは授業で活用できる教材として、来年度から他の資料と共に、文化センターでの上映、貸し出し用として活用する。	DVDの活用回数を増やし、内容の普及に役立てる。	10月変更 (事業追加)
7		健康長寿復活事業	H25 ～ H30					
7		長寿県復活食の応援事業	H25 ～ H30	「健康長寿おきなわ」の復活に向けて、生活習慣病の発症や重症化を予防するために、町民へ食習慣の実態や課題を伝え、個々人の食事の基準量を伝える。食品に含まれる油の量を伝える。油を使わない料理、野菜の摂取を増やすための料理を伝えていく。具体的な方法として、健康レシピカレンダーを世帯と事業所に配布し、保健センターの壁面にラッピングし、町民への周知と普及を図る。	・健康レシピカレンダーの作成： 世帯配布用12,000部 事業所配布用1,000部 ・壁面ラッピングの作成	乳幼児健診時、特定健診結果説明時においてアンケートを実施する。 ・健康レシピ 野菜の摂取を増やす方法が分かった人 各健診受診者の30% ・壁面ラッピング 野菜の基準量が分かった人 各健診受診者の30%	(今後の展開方針) 健康レシピカレンダー等を保健指導、栄養指導等へ活用する。特に青壮年層へのアプローチとして、町内事業所へも配布していく。	

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

渡嘉敷村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			渡嘉敷村観光推進事業	H24 ～ H33					
1			渡嘉敷村観光客誘致促進及びPR促進事業	H24 ～ H33	継続的な観光振興を推進するため、県外からの修学旅行受け入れ活動の強化、県内外で開催される観光イベント等でのPR活動、広告媒体を活用した観光情報の発信及び外国人観光客に対応するため多言語観光パンフレットを印刷配布する。	・修学旅行PR事業展開(県外) ・離島フェア等各種イベントで島のPR活動展開(県内外) ・観光パンフレット(5言語)印刷、配付 ・観光情報誌等への広告掲載	・県外高校修学旅行受け入れ数 20校 (H26年度19校) ・離島フェアブース来場者数 3,000人 ・アイランタブース来場者数 2,000人	(今後の展開方針) 観光入域客数の増加を図るため、県内外で行われるイベント会場において、イベントPRうちわやポストカード、観光パンフレットの配布を行う。	
1			渡嘉敷村美化清掃事業	H24 ～ H33	観光地としてのイメージアップを図るため、村内の海浜、道路、公園などの清掃作業及び花木等の植栽を実施し、景観浄化に努める。	観光地及びその周辺の公衆トイレ清掃、除草等の清掃作業 8箇所	環境整備の行き届いた美しい観光地の形成	(今後の展開方針) 観光地としてのイメージアップを図り、美しい観光地づくりのため、引き続き美化清掃を行う。	
1			渡嘉敷村観光施設整備事業	H26 ～ H27	観光客等利用者の利便性の向上及び施設内の安全確保を図るため、渡嘉敷村青少年旅行村施設内の歩道、照明設備の設置・改修、トイレ改修等を整備する。	・村青少年旅行村照明設備改善工事 ・村青少年旅行村トイレ更衣室建具改修工事 ・村青少年旅行村トイレ改善(和式洋式3器)工事	観光関連施設活用に向けた利便性の向上、安全性の確保	(今後の展開方針) 老朽化した観光関連施設の改善を進めることにより、利用者の安全及び利便性の向上を図る。	
1			渡嘉敷村観光受入体制整備事業	H26 ～ H33	観光客受け入れ体制整備のため、慶良間諸島間内航路運航を実施し、交通手段を確保する。また、増加傾向にある外国人入域者への対応として、ビーチ利用時の注意呼びかけ等を案内し、安心・安全に利用できる多言語音声案内及び表示板の整備を行う。	・渡嘉敷～座間味内航船運航 ・多言語音声案内設備及び表示板制作	・内航船運航による慶良間諸島周遊観光の利用者数 4,000人(平成26年度3,000人) ・阿波連ビーチでの利用案内の周知設備の確保	(今後の展開方針) 内航船運航を広くPRし、慶良間諸島観光の利用増を図る。利用客のニーズに合った利用形態及び質の高いサービスの提供、外国人観光客の入域増につなげる。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

渡嘉敷村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
1	渡嘉敷村交通コスト負担軽減事業	H25 ~ H33	渡嘉敷村営定期船の欠航、または予定運航時刻に変更が生じた場合の補完的移動手段として、那覇空港～渡嘉敷ヘリポート間のヘリコプターチャーター便の利用者に対し、料金の半額を支援する。	チャーターヘリ利用者に対する運賃支援	・運航回数及び搭乗人数 110回、385人	(今後の展開方針) 宿泊施設やHP、船舶予約窓口でのPRにより利用人数の増加を図る。		
2	渡嘉敷村農地保全事業	H24 ~ H33	イノシシによる農作物への被害拡大を防ぎ、農家に安心安全に農産物を生産させ、農家の生産意欲を衰退させないため、イノシシの捕獲駆除を引き続き実施する。	・イノシシの捕獲駆除実施 120頭	・イノシシによる農作物被害件数 10件	(今後の展開方針) H28年度～H33年度 害獣による農作物被害の減少を図り、農家の生産意欲をさせないように引き続き駆除作業を実施する。		
3	渡嘉敷村教育振興事業	H24 ~ H33						
3	小学校学習支援員配置事業	H24 ~ H33	村内2校の小学校は、児童数の減少により複式学級となっているが、子ども達の学力向上の推進及び教職員の負担を軽減するため、学習支援員を配置する。	・学習支援員配置 渡嘉敷小学校 1名 阿波連小学校 1名	・村内小学校への支援者派遣率:100% ・児童生徒の学力を全国水準に高める (全国学力・学習状況調査における無回答率を半減させ、正答率40%未満の児童生徒の割合を無くし、個人差を10ポイント以内に改善する)	(今後の展開方針) 児童の学力向上及び教職員の負担軽減を図る。		
3	児童・生徒派遣支援事業	H25 ~ H33	村外で実施されるスポーツ大会や文化事業発表会などの各種教育活動に参加し、小規模校では体験出来ない貴重な経験を積むことにより、離島の教育的なハンディを克服する。	各種スポーツ大会及び文化活動派遣(小学校2校・中学校1校)	派遣児童・生徒数(累計):210人	(今後の展開方針) 離島の教育的ハンディの克服及び教育意欲の向上を図る。		
4	渡嘉敷村学校施設環境整備事業	H27	亜熱帯地域である沖縄においては、1年のうち高温・多湿の状況が長期的である。沖縄の地理的特殊性に起因する学校施設の学習環境を改善するため、未整備となっている小中学校の普通教室等に冷房設備を設置する。	・冷房設備設置工事 渡嘉敷小中学校(6教室)	快適な学習環境の確保(室内温度28度)	(今後の展開方針) 夏季における教室内の快適な学習環境の維持や児童生徒の健康が保持されることで、授業における集中力が増し学力の向上を図る。		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

渡嘉敷村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
6	渡嘉敷村観光資源創出事業	H27	渡嘉敷島の豊かな自然環境を伝える新たな観光資源を創出し、観光客等の更なる誘致促進を図るため、渡嘉敷島で発見されたゴマファザラの全身剥製標本と骨格標本を作製し、全身剥製標本は港待合所に展示し、歴史的に貴重な骨格標本は村立民俗資料館に展示する。	ゴマファザラの全身剥製標本と骨格標本の作成	ゴマファザラの全身剥製標本と骨格剥製標本を作製し、歴史民俗資料館で保管、展示することにより、入館者の増加を図る。	(今後の展開方針) 沖縄地方に生息しないゴマファザラが、渡嘉敷島で発見されたという歴史的に貴重な出来事を、後世に伝え残していく。全身剥製標本と骨格剥製標本を展示することにより、来島する観光客へのPRと、入館者の増加に繋げていく。	12月変更(計画変更に伴う事業内容、各目標変更)	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

座間味村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			座間味村観光産業活性化事業	H24 ~ H33					
1			座間味村海域安全隊事業	H24 ~ H33	村内指定の3ビーチにおいて、観光トップシーズンから修学旅行受入期間中、海洋事故防止及び安全確保を図るためライフセーバー員等を配置する。	ライフセーバー員等各ビーチ(古座間味ビーチ、阿真ビーチ、北浜ビーチ)2名体制の配置 期間 GW期間 7月~10月	海水浴客等の海洋事故防止と安全確保	事業を継続し、海難防止、海難事故"ゼロ"を目指す	
1			座間味村がんばる観光支援事業	H24 ~ H33	観光客誘致とリピーター確保のため、既存イベントの強化拡充及び県内外周知活動、県外アミューズメント施設での誘致活動等を実施し、県内外へ広くPRする。	各種イベントの支援(5件) 県内外PRイベントの実施(2ヵ所)	・ホエールウォッチングフェスタ 7000名 ・ヨットレース:参加35艇 500名 ・座間味島祭りの参加者増、周知強化(800名) ・慶留間島祭りの参加者増、周知強化(300名) ・サバニレース:参加40艇(700名) ・県外水族館等でのPR活動の実施	座間味村観光客入域数の増加に向け内容を改善しながら支援事業を継続する。 H33度目標:10万人 H22~26年:平均77,261人	
1			座間味村観光受入拠点事業	H24 ~ H33	年中無休の観光案内業務とタイムリーな観光情報発信及びマリンスポーツ事業者や民宿事業者への取り次ぎ案内などをスムーズに行い、外国人を含めた観光客誘客に向け、企画立案と事業展開を実施する観光協会へ支援を行い観光客の誘客と満足度向上を図る。	・観光案内所開設 365日 ・イベント等における観光客誘客PR活動 3回/年 ・観光事業者向けスキルアップ講座 2回/月	・観光案内所利用者数 延べ8万人(H26年度7万人) ・イベント来場者数 1万人 ・入域観光客数 9万5千人(H26年9万人) ・観光事業者向けスキルアップ講座参加者数 30人(H26年14人)	座間味村観光客入域数の増加と満足度を向上に向け内容を改善しながら支事業援を継続する。 H33度目標:10万人 H22~26年:平均77,261人	
1			座間味村美ら島づくり花の森整備事業	H24 ~ H28	国立公園である本村の自然を生かした魅力ある観光地形成と集落内の景観促進のため、座間味・阿嘉・慶留間島の実施設計を策定し、植栽整備を行う。	・阿嘉・慶留真区の実施設計の策定 ・座間味区(座間味港・高月山周辺) 高木・低木・草花植栽 ・阿佐区(ウハマコテージ) 高木・低木植栽・花のコンテナ ・阿嘉区(港周辺) 高木・低木植栽・花のコンテナ	・各区の植栽実施 ・H27年から観光協会、港にアンケート調査実施(満足度 H27年度50%)	阿嘉・慶留間島の植栽 村全域のサイン計画・設計の実施	
1			阿嘉地区観光道路整備事業	H26 ~ H29	観光客の国際化や多様なニーズに対応するためハブが息息していない、国指定天然記念物ケラマジカが息息している地域特性を活用した昼夜問わず安心して魅力ある癒しの山林観光道路を整備する。	阿嘉地区観光道路整備事業の整備(L=310m)	・山林観光道路を整備し、観光客の山林散策を安全かつ快適に楽しみたいというニーズに対応する。 ・長期安定的なリピーターを掘り出し島の活性化につなげる(L=310m)	H27 請負工事L=310m H28 供用開始 入域客数 H29年95000名 H30年以降 100000名以上を目指す。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金(市町村)成果目標一覧【公表版】

座間味村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考		
パ	細				H27事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等	補足説明等
					H27事業内容					
1			ダイバーズ・エッグ・プロジェクト	H26 ~ H28	ダイビング観光客誘客と若年層のダイバーを育てるため、閑散期に(冬場)トライアルプログラム実証調査事業(内容:体験ダイビング)としてダイバーのタマゴを育てその効果や調査を行うことにより、今後のダイビング産業の活性化につなげる。	・体験ダイビング 受入人数 500名 ・アンケート調査 500件 ・プロモーション活動	・体験ダイビング後、また来たいと答えた10~30代 90%、ライセンスを取りたいと答えた10~30代 70% ・座間味村ダイバーズエッグクラブ会員数800名	実証調査した内容を反映させ、ダイビング産業の若年層化、活性化を目指す。		
1			阿嘉漁港タ-ミナル機能強化事業	H25 ~ H27	観光客受入態勢の整備として村の玄関口である阿嘉港タ-ミナルに全天候の屋根付き歩道を整備し、快適な観光地を形成する。	屋根付き歩道の整備 (L=25.5m)	・雨天時や炎天下でも観光客が快適に利用できる受入態勢を強化する。(L=25.5m)	H27 請負工事 L=25.5m H28 供用開始 入域客数 H29年95000名 H30年以降 100000名以上を目指す。		
1			座間味村歴史文化・健康づくり拠点整備事業	H24 ~ H29	本村の新たな観光客の受け入れ体制の整備と満足度向上を図るため座間味港緑地公園内にビジタセンターを建築する。	・建築工事の実施 (PC造1階建吹き抜けバリアフリー対応 建築面積390.8㎡) ・施工管理の実施 (月2回重点管理)	・平成30年4月の共用開始に向けた着実な実施(建屋A棟 ホール・研修室・ギャラリー・トイレ・ロッカー室等の完成))	・事業スケジュール H27:建築工事(A棟) H28:建築工事(B棟) H29:外構工事(園路・ステージ等) H30:4月供用開始 ・利用者数 目標 H30年度10,000人/年	5月変更(事業追加)	
2			座間味村農林水産産業振興事業	H24 ~ H33						
2			座間味村鮮魚美食事業	H24 ~ H29	村内における漁獲物の付加価値向上を図る為、生産者の顔が見える販売に取組み、地産地消を推進する。H26年度に開設した阿嘉鮮魚直売所及び、座間味鮮魚直売所の2カ所で直接販売に取り組み、また、魚食普及の推進をする為、稚魚の放流を行う。	鮮魚販売所における直接販売2カ所 稚魚の放流、成魚の試食会 1回	27年度の鮮魚直売所の売り上げ目標 阿嘉直売所150万円 座間味直売所450万円 計600万円(参考H26年351万円) 稚魚の放流、成魚の試食会 参加者 50人(地域の人を集めイベントを行う)	観光客や住民に地元産の鮮魚や加工品を安定的に提供し、島内における魚食普及に向け、内容を改善しながらH29年度までに支援を継続する。		
2			座間味村サンゴ(海の花)育成・植付事業	H24 ~ H33	サンゴ礁海域の回復に向け、地元漁協職員を臨海研究所へ派遣し、サンゴの種苗の養殖と育成及び海への植付に係る生育活動のノウハウを学び、人材を育てるための活動の支援を行う。また、村所有の種苗センターを活用することで種苗の生産本数の増加を図る。	・サンゴが減少、少ない海域への植付を実施 2回 ・種苗の生産の拡大 2,000本	・派遣職員の植付技術の習得(人材育成プログラムにより植付技術の習得)	・派遣職員の植付技術、管理技術、保全指導技術の習得 ・種苗の生産本数の増加		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

座間味村		計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業名		H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
3	座間味村定住条件整備事業	H24 ~ H33					
3	座間味村島ちゃび解消移動手段安定化対策事業	H24 ~ H33	離島交通ネットワーク手段の確保として、船の欠航時やダイヤ変更時に、チャーターヘリコプターを利用した場合、運賃の一部を支援する。	村営船舶航路欠航等によるヘリコプターチャーター支援	那覇空港～座間味村フライト数290回	関係機関との連携により事業の効率化や利用度向上を図りたい。	
3	座間味村村内運航に係る対策事業	H24 ~ H33	離島と離島を結ぶ海上交通手段として、小型船舶の資格を有する賃金職員2名を採用し、座間味島と阿嘉島間を定時運航、渡嘉敷村と座間味島の諸島間新規運航を実施し離島交通の足の確保と観光振興を図る。	定期船運航 座間味～阿嘉:1日4便 (目標運航1460回) 座間味～渡嘉敷:1日2便 (目標運航730回)	H24 実績 11,983人(7月開始) H25 実績 18,587人 H26 見込 23,571 (4月～11月は実績、12月～3月は見込み) H27 目標 25,000人	本村の重要な交通手段の船舶運航を強化し、利便性の向上を図る。	
3	慶留間・阿嘉地区避難道路整備事業	H26 ~ H27	地震・津波発生時において村内で孤立する集落及び観光客の安全確保を図るため、山頂へ通じる旧道を活用した避難道路整備を行い災害につよい村づくりを図る。	慶留間阿嘉地区避難道路の整備(L=520m)	・災害時に孤立する集落及び観光客の安全を守る避難道路整備を完了する。 ・医療機関への迅速な搬送や食料・物資等を確保することにより、住民、観光客の精神的な安心につなげることができる。(L=520m)	H26 請負工事L=260m H27 請負工事L=520m H28 供用開始 案内図の設置 年1回の避難訓練	
3	座間味村自動車航送運賃低減化事業	H25 ~ H33	離島住民の利便性向上を確保するため、高額である本島 座間味村間のフェリー車両航送に係る運賃の一部を支援し、高い交通コストの改善を図る。	自動車航送運賃を低減するための支援	支援台数 342台(H25年度実績 223台(7月開始))	定住促進のために、経済的、精神的負担を軽減し住みよい環境を整備することで、村の総合計画にて目標としている人口増加に努める。	
3	座間味村海拔表示板等設置事業	H27 ~ H28	災害発生時に、住民や地理に不慣れな観光客が迅速かつ安全に避難場所へ移動できるよう、住民、観光客の安心・安全を図るため、海拔表示板や低地から避難所に向けて避難誘導標識を設置する。	台帳の作成(海拔現地調査・避難誘導路等の調査など)	・村内の海拔の把握 ・海拔表示板等の設置場所記載の台帳の完成	H27に作成した海拔表示板等の台帳に沿ってH28に設置工事を行う。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金(市町村)成果目標一覧【公表版】

座間味村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
3		多用途住宅整備事業	H27 ~ H28	本村が依頼しているALT等や出向している各種団体職員においては住宅環境が整っていない為、招聘が困難な状況にある。生活の基盤である住宅を整備し、安定した人材の確保を行う。	地質調査の実施 基本設計の実施 実施設計の実施	2LDK 4世帯の基本設計・実施設計完成	H28年度 工事・入居 4世帯入居	5月変更(事業追加) 10月変更(計画変更に伴う各目標変更)
4		座間味村環境保全整備事業	H24 ~ H33					
4		座間味村外来植物討伐事業	H24 ~ H33	村内至るところに自生するが外来種「モクマオウ・ギンネム」等の抑制を目標に討伐し、観光地としての景観・安全性が保たれるよう事業の実施を図る。	委託事業の実施(2地区予定) ・人件費として24人活用(月)	外来植物の討伐(村内一円) 討伐本数年間500本(モクマオウ木、ギンネム木)	観光地・道路等の景観保全・安全性への配慮が当面必要であり事業継続を要する。(外来種討伐にあたり安全確保のための倒木周辺等の整理清掃も行い、広く住民・観光客の安全性への利用も含めた事業展開に臨みたい。)	
4		環境衛生処理事業	H26 ~ H27	本村では、可燃ごみと生ごみを別々に分けて収集しており、生ごみについては堆肥化を図り循環型社会の形成を図ってきた。しかし処理中に発生する臭気やそ族昆虫の発生により衛生面の問題があるため、生ごみを低コストかつ衛生的に処理ができる環境を構築する。	建屋の整備(建築面積 42.64㎡) 生ゴミ処理機の設置	座間味島の生ごみ処理体制の確立	生ごみ処理機を稼働することにより、臭気を抑制し、環境への負担を軽減させる。	7月変更(計画変更に伴う活動目標変更)
5		電子黒板等整備事業	H27 ~ H28	将来を担う児童生徒の人材育成及び学力・情報活用能力等の向上を図るため、各小中学校に電子黒板を整備し、児童生徒の興味関心を引き出し集中力を高める、分かりやすい授業環境を整える。	電子黒板購入 小学校4台 デジタル教科書購入 (国語、算数、理科、社会)	全国学力・学習状況調査において全国平均との差 小学校6年生 平均 - 3ポイント(0.9ポイント改善) H26年度の差 - 3.9ポイント 全国平均 66.2点 本村平均 62.3点 デジタル教科書対象学年 小学校1学生~6年生 ・主要4教科(国語、算数、理科、社会) ・他教科(音楽、図画、家庭、保健、書写等)学年により必要な教科)学力の向上を図る。	講師への講習等を行う。 目標:学力5ポイントアップを図る。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。
H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

粟国村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
					1	観光受入支援・整備事業			
			環境美化促進事業	H24 ～ H33	観光地の景観を維持していくために観光地及び観光地へのアクセス道路などの美化・緑化活動を重点的に実施する。	・観光地及びアクセス道路の美化 20カ所	・観光地及びアクセス道路の美化 20カ所 ・植栽により、粟国の玄関口である港や空港等にて彩りのもてなしを行い、景観整備を図る。	粟国村観光振興計画で設定している平成32年度の観光入域客数1万人を目指して、継続的な環境美化活動を実施する。	
			あくにデジタルアーカイブ化事業	H25 ～ H26	島の豊かな自然や伝統文化等、島にまつわる多種多様な資料をデジタル化し、それらを管理システムに集約・管理し、利便性を向上させることで、村民及び観光客の郷土学習に付加価値をつけ、粟国観光の質を高める。	・追加コンテンツ制作および展示会の開催。	追加コンテンツ制作 ・バーチャル古民家1棟 ・デジタル紙芝居26話 ・戦前の関係記事のデジタル化 展示会開催 ・那覇で1回、粟国で1回	観光振興を目的とし、アクセス数を増やすためのコンテンツ拡充を定期的に行い、郷土教育に寄与できるよう展示会を継続して行う。	
			粟国村「ア」のくにづくり推進事業	H26 ～ H28	島の自然や伝統文化などの地域資源として広めていくため、マスコミやマスメディアを活用し、イベント等への誘客を図り、イベントの開催、観光ツアーを実施する。	・イベント開催1回 ・観光ツアー1回 ・ラッピングカーの活用による村内外へのPR活動	・イベント来場者数:800人 ・PRのグッズ制作(2点) ・観光ツアー参加者満足度調査:満足と答えた人70% ・ラッピングカーでの出勤回数(10回)	粟国村観光振興計画で設定している平成32年度の観光入域客数1万人を目指して、県内外へ情報発信をし、観光客数の入客数の増加に取り組んでいく。 ・観光イベント参加者目標800名(H26:約700名の参加)	
			観光ガイドブック制作事業	H27	観光振興を図るため、観光情報の発信及び県内外のみならず外国人観光客に対応するための日本語版、英語版、中国語版、韓国語版の観光ガイドブックを作成する。	・ガイドブック14,000部作成(日本語10,000部英語1,000部韓国語1,000部中国語、簡体1,000部 繁体1,000部)	・外国人観光客が利用する場所に配置:5箇所 ・村外イベントなどで配布:3箇所	村内の観光、歴史、文化をわかりやすく紹介することにより、国内外からの観光客の増加を図る。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

栗国村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
		「シタリー節」歌碑建立事業	H27	本村で教訓歌として受け継がれている「シタリー節」を新たな観光資源として活用するため、歌碑を建立する。	・「シタリー節」歌碑建立 ・パンフレットの作成200部	・「シタリー節」歌碑建立完了 ・パンフレットの配布や村広報・村HP周知活動 ・教育現場での活用	村内外へシタリー節を広める行事や新たな観光スポットの定着に向けてPRを行う。	
		栗国村偉人顕彰碑建立事業	H27	本村を代表する偉人4名の功績を顕彰碑として建立することにより、新たな観光資源として村内外に広めることを目的とする。	・本村偉人顕彰碑建立 4箇所 ・パンフレットの作成200部	・本村偉人顕彰碑建立 4箇所完了 ・パンフレットの配布や村広報・村HP周知活動 ・教育現場での活用	本村偉人の功績を広めるための活動や新たな観光スポットの定着に向けてPRを行う。	
		観光サイン整備事業	H27 ～ H28	地域の文化資源を適切でわかりやすく情報提供するための誘導案内や、解説板を整備することにより、適切な案内誘導を進めるとともに、歴史や文化の学習の機会となるなど、村民と観光客の交流促進や観光振興の充実を図る。	・観光サイン整備計画の策定	誘導サイン及び解説板の設置場所や解説案内を盛り込んだサイン整備計画を策定完了。	事業スケジュール ・H27年度 サイン整備計画策定及び ・H28年度 サイン整備計画に基づいた誘導サイン・解説板の設置	
		照喜名原地区整備事業	H27 ～ H28	村の南東海岸に約1kmの長さで分布するウエグの浜を含む照喜名原地区を観光地として活用するための基本計画を策定する。	・照喜名原地区整備基本計画の策定	・照喜名原地区整備基本計画の策定完了	事業スケジュール ・H27年度 整備基本計画の策定 ・H28年度も整備計画に基づき整備を行う。	
		洞寺環境整備事業	H27	本村の観光スポットである洞寺は、鍾乳洞で、内部には遊歩道も整備されているが、鍾乳洞入り口の門や鍾乳洞寺内の照明の劣化、鍾乳洞内での緊急連絡体制の構築の必要から、利用客の安全性・利便性向上に向け整備することにより魅力ある観光交流拠点としての充実を図り、誘客を図る。	・鍾乳洞入り口門・鍾乳洞内照明(LED化)の改修、非常ベル通信システムの設置	H28年4月の供用開始に向けた着実な実施完了を行い、改修した門、鍾乳洞寺内の照明、非常ベル通信システムの設置により安全面・環境面が改善され、魅力的な観光スポットとして定着を図る。	・事業スケジュール H27年度 実施設計の策定及び工事 H28年度 4月供用開始予定 ・利用者数 観光入域客数の半数が施設を利用することを目標とする。(参考:H25観光入域客数:3,900人)	7月変更 (計画変更に伴う事業内容変更)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

粟国村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			大正池公園機能拡充事業	H27 ～ H28	本村の観光スポットである大正池公園は年中を通して多くの野鳥が訪れるエリアであるが、公園内の階段が劣化しており、利用客の安全性・利便性向上に向け整備し、野鳥観察施設を設置することにより魅力ある観光交流拠点としての充実を図り、誘客を図る。	・撤去工事・測量設計	・バードウォッチングのスポットとして公園機能の拡充	・事業スケジュール H27年度 撤去工事・実施設計の策定 H28年度以降 階段整備工事 H29年4月 供用開始 ・利用者数:1,950人 観光入域客数の半数が施設を利用することを目標(参考:H25観光入域客数:3,900人)	5月変更 (事業追加) 3月変更 (計画変更に伴う各目標の変更)
2			教育振興事業	H27 ～ H33					
			国際交流支援事業	H27 ～ H33	村内の中学生を対象に、欧米への語学研修の支援を行い、海外での生活体験を通して外国語への学習意欲の向上と豊かな国際性を身につけた人材の育成を図る。	・海外ホームステイ生徒派遣 3名	・行った結果の報告を、英文でレポート提出 ・英検の受検 ・英語スピーチコンテストへ出場	・派遣予定数 H27年度～H33年度:各年度3名 合計21名	
			学力向上支援事業	H27 ～ H33	離島という地理的条件による教育環境格差を解消するため、村営塾を開催するとともに、小学校及び中学校の学習支援のため、学習支援員を配置し、児童生徒の学力向上を図る。	・村営塾の実施 小・中学生週2～3日 ・小学校及び中学校へ学習支援員を配置 2名	・全国学力調査で県平均を上回る	・効果的に学習できる環境を整える。 ・村営学習塾(小4～小6)受講率 平成27年度 50%以上 ・村営学習塾(中1～中3)受講率 平成27年度50%以上	7月変更 (計画変更に伴う事業内容変更)
			粟国村キャリア教育支援事業	H27 ～ H33	村内の小中学生を対象に多種多様な職業を見学・体験をする機会を設け職業観の幅を広げ、就業観を形成することにより、学習の意欲の向上を図ることによって本村の人材育成を行う。	・研修講演 1回 ・沖縄本島での職業見学・体験 1回	・児童生徒に対する研修講演 ・沖縄本島での職場見学体験 中学生21名(中学1～3年生) 小学生 名(小学5～6年生)	H33年度まで事業を継続し、キャリア教育を行う。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

粟国村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
		児童・生徒派遣支援事業	H27 ～ H33	離島である本村の児童生徒の諸教育活動への派遣費を支援する。	・大会及び教育活動への派遣	・大会等派遣児童・生徒数 50人	・派遣予定数 児童・生徒数各年度約50人	
3		粟国村グリーンエコアイランド化推進事業	H27 ～ H28	低炭素島しょ社会の実現と自然豊かな環境に配慮した島づくりの推進を図るため、村内に設置されている蛍光灯・ナトリウム灯のLED化事業を実施する。	村内の防犯灯の調査及び新たな設置と撤去について聞き取り調査を行い、LED化へ向けた工事設計を行う。	・村内防犯灯のLED設置箇所の決定 ・撤去する防犯灯の決定	H28年度に村内防犯灯のLED設置及び撤去を行う。	
4		和牛改良支援事業	H25 ～ H28	本村の畜産業の支援のため、付加価値の高い仔牛が生産できるよう県内外からの優良仔牛(母牛になる素牛)の導入を支援し、仔牛の付加価値を高めしていくことで、畜産業の振興を図る。	・和牛導入支援頭数 15頭	・優良仔牛(母牛になる素牛)導入率60%(H25～H27累計)	・優良仔牛(母牛になる素牛)約50頭導入(H25～H28累計) 地域内母牛の更新及び改良を行い、付加価値の高い仔牛の出荷の拡大を図る ・仔牛の島外出荷数 ・H28年度見込150頭 (H24年度実績113頭)	5月変更 (事業追加)
5		粟国村交通移動手段安定化対策事業	H27	離島交通ネットワーク手段を確保するため、定期航空路線が再開されるまでの間、チャーターヘリコプターを利用した場合の運賃を一部支援する。	・島民及び観光客のチャーターヘリ利用料金を支援	・定期航空路再開までの間の島民及び観光客の移動手段の確保	・那覇空港・粟国間を結ぶ定期航空路の再開までの間、当該事業実施	10月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

渡名喜村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1		環境保全・美化推進事業	H24 ～ H34	島の自然と人文の調和を基調とした魅力的な観光地づくりを推進するため、集落内や観光スポット周辺等の緑化及び美化活動を実施するとともに、外来植物(ギンネム等)の駆除及び在来植物の保全育成を図る。	・緑化及び美化活動(作業員12人) ・外来植物駆除(作業員6人) ・在来植物保全育成実施(作業員6人) ・集落内美化清掃(作業員6人)	緑化及び美化活動実施箇所: 28箇所 外来植物駆除実施箇所: 8箇所 在来植物保全育成実施箇所: 14箇所	安全・安心・快適な観光地づくりを推進するため、集落内や観光スポット周辺等の緑化及び美化活動を継続的に実施していく。	
2		離島苦解消移動手段安定化対策事業	H25 ～ H33	離島観光の利便性及び離島住民の交通基盤の向上を図るため、フェリーが悪天候などにより欠航し沖縄本島と本村間におけるチャーターヘリを利用した場合、事業所に対し利用者の運賃の一部を支援する。	悪天候における船舶航路が欠航となった場合のチャーターヘリ利用者に対する運賃の支援	渡名喜村ヘリポート～那覇空港間フライト回数: 50回	(今後の展開方針) 事業の周知徹底を図り、利用者の利便性向上拡大に努める。毎年50回程度を想定し月別実績も考慮に入れ事業を継続していく。	
3		渡名喜村多目的拠点施設整備事業	H26 ～ H28	村民の子育て環境の整備、健康増進、観光振興に加え、村民や観光客を自然災害から守るため、子ども預り所、老人福祉施設、歴史民俗資料館、災害時避難施設などからなる多目的拠点施設を整備する。	・実施設計 ・解体設計 ・測量土質調査 ・施工管理 ・解体工事の実施 ・資料収納倉庫の建設	平成29年4月1日の供用開始に向けた事業の着実な実施(実施設計書の完成、解体工事の完了、資料収納倉庫の建設完了)	(今後の展開方針) 多目的拠点施設の整備に向け平成28年度、建築工事を行う。施設を整備することにより、災害時を想定した避難訓練や幼児・児童と老人との異世代間交流及び福祉関係に関する祭り並びに資料館を使用した渡名喜村の歴史を知るための観光イベントなどを実施していく。	10月変更 (計画変更に伴う各目標変更)
4		地域行事継承事業	H27	地域の伝統文化の継承と観光地としての評価される魅力ある地域づくりに向け「海神祭」、「水上運動会」等で使用するハーリー船を新造する。	・ハーリー船の新造 3隻	・ハーリー船の新造などによる地域文化の継承に向けた体制の構築	H27ハーリー船(3隻)を新造する。H28年度から使用を開始し、これまで以上に祭りを盛り上げ地域行事を継承していく。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

渡名喜村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
5	児童・生徒の教育活動助成事業	H26 ～ H33	離島のハンディを克服するため、児童生徒の村外での教育諸活動(スポーツ・文化)及び交流学習への派遣費用等を支援する。	小中学生の教育諸活動及び交流学習に係る補助の実施	・スポーツ大会参加(小学生26名、中学生56名) ・文化発表会等(小学生16名、中学生17名) ・交流学習(小学生13名、中学生9名)	(今後の展開方針) 人数の多い学校での交流学習や本島地区での大会へ参加する事により、多くの児童生徒と交流することができ、コミュニケーションの向上や、学習意欲の喚起を図る。		
6	パークゴルフ場整備事業	H27	観光客の誘致促進・受け入れの強化と地域住民の体力増進及び高齢者の生きがいの場の創設のため、新たなスポーツレクリエーション施設としてのパークゴルフ場を整備する。	・消耗品等購入 ・芝管理委託業務委託 ・備品購入(競技用備品、管理事務用機器) ・芝管理賃金 2人 ・軽トラック購入 1台 ・散水管布設工事	パークゴルフ場の運営体制の構築完了	(今後の展開方針) パークゴルフ場の整備により、滞在型観光が推進され、観光客の誘客促進が期待される。また、生涯スポーツの推進と地域住民と観光客との交流の場としての役割としても期待される。そのために今後パークゴルフ場の供給開始のPRをHPやフェイスブック等を用い周知して、今後の当該施設利用客増加に努める。	5月変更(計画変更に伴う活動目標変更) 7月変更(計画変更に伴う各目標変更) 10月変更(計画変更に伴う成果目標変更)	
7	多目的活動施設機能強化整備事業	H27	多目的活動施設は、本村唯一の社会教育施設として、映画や講演会等各種イベントを年間を通して利用されている。近年のOA機器の発達に伴い、現在の音響機器では、対応できないことが多々あり各種イベントの開催に支障をきたしていることから音響機器の機能強化を図る。また、照明機器が旧式のため、舞台やホールが薄暗くイベントの開催に支障がある。舞台の照明点灯時には、電球から熱が発生し出演者に負担をかけている。会場内も薄暗く観客が舞台上に集中できるよう照明機器の機能強化を図る。	音響設備機能強化実施 照明機器の機能強化実施	音響設備機能強化完了 照明機器の機能強化完了	(今後の展開方針) H27:機能強化実施 整備後の利活用 ・映画の上映 ・芸能公演の実施 ・地域の行事の実施 年間利用者:1,900人(H26) 年間目標値:2,300人(H28)	5月変更(事業追加) 12月変更(計画変更に伴う事業内容、各目標変更)	
8	観光振興整備事業	H27	村内には、施設や観光スポットがいくつかあるが施設の整備や観光ルートの整備等が進んでなく観光客への対応が不十分である。年々増えつつある観光客が安心・安全・快適に観光できるよう観光ルート(案内板等)や観光施設(トイレ等)を整備するための基本設計を実施する。	・観光振興に向けた観光ルート及び観光地の整備等に関する基本設計業務委託	観光ルートや観光施設の整備等に関する基本設計の完了	(今後の展開方針) H32:整備後の利活用 渡名喜ファンを増やし、今後の観光振興等に寄与する。 年間利用者:1,900人(H26) 年間目標値:2,300人(H32)	12月変更(事業追加)	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（南大東村）成果目標一覧【公表版】

南大東村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考		
パ	細				H27事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等	補足説明等
1			南大東村定住促進事業	H24 ～ H33						
			健康診査用機材搬送事業	H24 ～ H33	特定健診等の集団健診に使用する健診機材及び胸部レントゲン車の海上移送船運賃及び荷役料、検査技師等の来島渡航費の負担軽減を図り、住民健診が安定的に実施できる環境を整えることにより定住促進を図る。	1. 集団健診機材の海上輸送運賃の補助 2. 検査技師等スタッフ来島渡航費の補助	集団健診受診者数: 360人 (41.0%)	(今後の展開方針) ・平成27年度 受診率を維持する。		
			専門病院受診渡航費助成事業	H25 ～ H33	沖縄本島で専門の治療や検査の受診を余儀なくされている住民の経済的負担を軽減するため、渡航費を支援する。	専門病院受診渡航費助成の実施	専門病院受診者 155人 付添人 45人	(今後の展開方針) ・平成25年度以降継続的に渡航費の負担軽減を行う。		
			南大東村多目的交流拠点施設整備事業	H25 ～ H28	村民交流、伝統文化継承や人材育成、農漁村を中心とした各種研修をはじめ、観光客との交流を図るとともに、災害時には、村民及び観光客の避難施設として活用するため、村の多目的拠点施設を整備する。	建築工事実施	建築工事を完了し、多目的拠点整備を推進する。	(今後の展開方針等) ・H27年度: 建設工事 ・H28年度: 外構工事 ・H29年度: 供用開始	10月変更 (計画変更に伴う各目標変更)	
			屋根付相撲場整備文化継承事業	H27 ～ H28	南大東島は、八丈島出身の方によって、開拓が始まり、しばらくたって、大東島の境内で豊年祭のときには、江戸相撲と沖縄角力の奉納相撲が行われてきた。平成26年には、奉納相撲が行われてから100周年目を迎えた。このように伝統ある江戸相撲、沖縄相撲をこれからも伝承していく必要がある。その為に、練習場及び試合場を整備し、雨天でも常時使用できる屋根付場を設置し、伝統文化継承を図ることにより南大東村振興を推進する。	委託設計実施	委託設計を実施し建設整備の条件を整える。	(今後の展開方針等) ・H27年度: 実施設計 ・H28年度: 建設工事 ・H29年度: 供用開始		

H27活動目標(指標): 平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標): 平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（南大東村）成果目標一覧【公表版】

南大東村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2			南大東村観光振興事業	H24 ～ H33					
			花いっぱいクリーン環境整備事業	H25 ～ H33	観光地としての魅力向上を図るため、観光客が訪れる観光地や施設、観光地へのアクセス道路等の美化清掃を行う。	・観光地及び観光地へのアクセス道路の植栽・美化清掃(観光地 5箇所、アクセス道路 1,500m)	・観光地へのアクセス道路の植栽による景観の向上 ・観光施設の清掃による利用度の向上	(今後の展開方針) ・H25年度以降継続的に美化清掃、植栽を行う。	
			大池地区水辺環境保全事業	H24 ～ H28	本村最大規模のカルスト湖である大池は、水草が繁茂し景観を損なうだけでなく、生態系への影響が懸念されるなど、観光分野や環境保全の点から課題となっている。その課題を解決するために、水草除去、水路浚渫、危険防止の橋梁を新設し、大池にカヌー体験プログラムを導入するなどして、新たな観光資源の開発を図る。	大池地区水辺環境の保全・再生 水草の除去 水路汚泥浚渫	水草の除去によるカヌーの安全航路の確保 水路汚泥浚渫による水流の再生 浚渫区間L=80m水草除去L=1.5km面積A=29,520㎡	(今後の展開方針) ・H29年度:全面供用開始	7月変更 (計画変更に伴う成果目標変更)
			シュガートレイン復活夢実現事業	H25 ～ H29	島の歴史と共に、のどかで活気あふれる時代を走った"さとうきび列車"は、近代産業遺産として島の象徴であり、復活することが島民の夢である。その夢を実現するとともに、全国の鉄道ファン(100万人)等観光客を誘客するため、シュガートレインを整備する。	実施設計	・実施設計の完了	(今後の展開方針等) ・H27年度:実施設計 ・H28～29年度:建設工事 ・H30年度:供用開始 *観光入域客数増:H24 3,924人	7月変更 (事業追加)
3			生きがいづくり安心安全強化対策事業	H26 ～ H27	介護・福祉サービスの拠点である高齢者福祉センターのバリアフリー化と緊急災害時の避難誘導路を整備して高齢者、要介護者の安心安全と福祉サービスの充実を確保し、生きがいある社会福祉づくりをめざす。	高齢者福祉センター内のバリアフリー工事 避難通路の設置工事	高齢者福祉センター機能強化により、福祉サービスの充実を図る。	(今後の展開方針) ・H27年度:設置工事	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（南大東村）成果目標一覧【公表版】

南大東村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
4			南大東村人材育成事業	H25 ～ H33					
			人材育成派遣事業	H26 ～ H33	子供達の多様な能力と心身の発達や育成を図るため、島外で開催される各種大会の派遣費を支援する。	吹奏楽コンクール12名 アンサンブル・リコーダー5名 英語関係派遣6名 地区夏季・県中体連46名 地区陸上・駅伝大会26名	・各大会等派遣(95名)で練習の成果を発揮し、多くの生徒と交流を図り文武両道の精神を養う。	(今後の展開方針) ・H30年度まで事業を継続する。派遣申請のある児童生徒の派遣費を補助し人材育成を推進する。	
			人材育成環境強化事業	H27 ～ H33	村営学習支援塾に講師を配置して、細かな学習支援を行い、質の高い確かな学習を習得させて、情報化社会に対応できる人材育成と学ぶ環境を整備する。	学習支援センター学習支援員1名	支援センターで学習している児童生徒が、自己学習能力を身につけ、自ら課題に取り組み、学力の向上を図る。	H32年度まで事業を継続し、全国平均との差を0とする。	
5			南大東村安らぎ空間整備事業	H24 ～ H27	墓地管理の利便性を高めるとともに、参拝者や墓地利用者の安らぎの空間づくりに繋げるため、墓地整備計画に基づき、墓地内(合葬墓)を整備する。また、区画整理を実施する墓地の霊園化に向けた基礎づくりとする。	・合葬墓施設の整備開始	・合葬墓施設の完成	策定された南大東村霊園整備計画に沿って各年度毎で施設整備を実施し、H29年4月の供用開始を目指す。 H27年合葬墓施設の整備 H28年南大東村霊園墓地整備 H29年3月南大東村霊園墓地完了 H29年4月供用開始予定	7月変更 (計画変更に伴う各目標変更)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

北大東村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			魅力的な観光地づくり促進事業	H24 ～ H33					
1			地域の観光文化資源の担い手育成事業	H24 ～ H33	島の文化資源である『八丈太鼓』の担い手を育成すると共に、県外等での交流発表を開催し、観光誘客を促進する。	・大東太鼓担い手育成練習回数(延べ数):9～10日/年 ・演奏備品購入:太鼓(1台)・鉦(1本) ・文化交流イベントの開催:5回(県外:1回・県内:4回)	・文化資源の担い手育成数:1人 ・文化交流のイベント演奏参加者数:40人(1回)	(今後の展開方針) 文化資源の担い手育成と他団体との文化交流事業を継続	
1			観光アクセス道路美化緑化推進事業	H24 ～ H33	島の観光に重要なアクセス道路や周回道路等の修景及び美化の重点的な実施を行い、魅力的な観光地づくりを促進する。	・アクセス道路及び周回道路の美化実施:清掃員2名	・アクセス道路及び周回道路の美化実施:2,500m	(今後の展開方針) ・修景及び美化の実施雇用を最終年度まで継続	
2			オンライン双方向授業支援モデル事業	H25 ～ H33	遠隔地である離島において、課題となっている教育環境格差を解消する為、都市部と同様の学習環境を提供できるオンライン双方向授業を行う。	・オンライン双方向授業講師:4人 ・オンライン双方向授業受講生徒:35人	・全国学力状況調査における全国平均との差正答率の差を縮小 小学校(4ポイント改善) 北大東村 59点 全国平均 63点 中学校(6ポイント改善) 北大東村 46点 全国平均 52点	(今後の展開方針) 学力向上と教育環境格差の解消を継続	
3			定住条件特別対策事業	H24 ～ H33					
3			離島の定住促進に向けた子育て基盤構築事業	H24 ～ H33	子育て基盤の構築に向け、2歳児を含む未就学園児に対する幼稚園の預かり保育を強化する。また、村営塾を充実させるため、学習支援員を配置する。	・幼稚園児の預かり保育の実施のための支援員の配置:2人 ・学習支援員の配置:1人	・預かり保育を利用する園児数:10人 ・村営塾受講者数:50人	(今後の展開方針) 預かり保育・特別支援・学習支援配置を継続	
3			離島の児童の交流促進事業	H24 ～ H33	離島の不利益を克服し、児童生徒の島外・県外交流を促進するため、スポーツや交流学習における渡航費の支援を行う。	・渡航助成の実施	・スポーツや交流学習等の為に派遣する児童生徒数(延べ数):30人	(今後の展開方針) スポーツや交流学習派遣を継続	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

北大東村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
3			離島特別医療質確保推進事業	H24 ～ H33	離島の不利益を克服し、妊婦・特定重病患者等の健康を守るため、妊婦検診や島内で対応できない医療サービスを受ける際の渡航費の支援を行う。	・妊婦検診助成の実施 ・特定重病患者の検診助成の実施	・妊婦検診助成回数(延べ数):50回 H26年度:6回/1人 ・特定重病患者(延べ数):16回	(今後の展開方針) 妊婦検診の際の渡航費・滞在費助成を継続	
4			北大東村景観形成事業	H26 ～ H33	北大東村特有の地域性にあった景観づくりに向けて、海岸道路沿いの周辺環境に配慮した景観整備を行う。	・村一周海岸道路の植樹環境整備 監理・工事の実施:400m	・村一周海岸道路の植樹環境整備 監理・工事の完了:400m(進捗率 4.4%(全長9,000m)) ・雑木伐採等の完了:400m(進捗率 4.4%(全長9,000m))	(今後の展開方針) ・村特有の岩礁や風景を活かした景観形成を行う事で、観光客の誘致、観光産業の振興に繋げる	
5			北大東島内街路灯・歩道照明設置事業	H27	島を訪れる観光客や車両運転手・歩道歩行者等からの街路灯・歩道照明の不足や老朽化が指摘されており、防災・防犯・安全や景観整備の観点から街路灯・歩道照明の設置整備を行う。	・島内主要道路・歩道の街灯照明設置:街路灯:104箇所・歩道照明:1,290個 設計監理・工事の実施	・島内主要道路の街路灯・歩道照明設置の完了:26,000m	(今後の展開方針) ・主要道路の街路灯・歩道照明を設置し、防災・防犯・安全や景観整備し、車両運転手・歩行者の利用に繋げる	
6			北大東島内観光案内板設置事業	H27	北大東島を観光で訪れる観光客への受入体制に向け、観光案内板の設置整備を行う。	・島内観光箇所への案内板の設置:島内12箇所 設計監理・工事の実施	・島内観光箇所への案内板の設置の完了:観光客誘致体制の構築(島内12箇所)	(今後の展開方針) ・各箇所・観光名所等への案内板を設置し、観光振興への観光誘致に繋げる	
7			北大東村コミュニティ施設周辺整備事業	H27 ～ H29	北大東村内で毎年行われる祭り行事において、県内・県外から、多くの関係者や観光客が訪れている。水産・観光業の発展を図る近隣場所として、歴史継承や文化的景観の保全・活用の為、コミュニティ施設周辺の整備を行う。	・コミュニティ施設周辺の整備:公衆トイレ(25㎡)・駐車場(1,500㎡)・行事観覧席 設計監理・工事の実施	・コミュニティ施設周辺の公衆トイレ、駐車場、行事観覧席の整備完了	(今後の展開方針) ・施設周辺の駐車場・公衆トイレ・観覧席等を整備し、産業・観光振興への観光誘致に繋げる	5月変更 (事業追加)
8			墓地公園周辺環境整備事業	H27	本村の墓地公園や火葬施設は、村内唯一箇所にあり、村内・村外からの関係者・親族等の墓参りや火葬施設の利用者にとって必要不可欠な施設である。しかし、駐車場が狭隘で、公衆トイレの老朽化が指摘されている。そこで、祖先・親戚縁者と語らえる休憩所等も含め、墓地公園周辺の環境形成と機能強化を図り、住民負担の軽減と定住条件の向上に取り組む。	・墓地公園周辺の整備:駐車場(3,000㎡)・公衆トイレ(25㎡)・休憩所 設計監理・工事の実施	・墓地公園周辺の駐車場、公衆トイレ・休憩所の整備完了	(今後の展開方針) ・施設周辺の駐車場・公衆トイレ・休憩所等を整備し、地域住民への生活環境保全・形成を図り、安心・安らぎと交通の利便性を提供する	5月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

伊平屋村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1		伊平屋島観光商工業活性化事業	H24 ～ H33					
1		商工観光産業支援事業	H24 ～ H28	伊平屋島の安住を支える重要な産業である観光を振興するため、島内サービス産業の支援強化や、各種イベントの開発能力の向上を図る。それにより、リピーター及び新規顧客の獲得による観光消費額の増大を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 観光推進協議会職員の雇用(3名) 視察研修(年2回) 業務調整(旅館業取得民家30民家) 人材育成講座開催(3回) 集客誘致活動(年2回) 旅館業取得民家との業務調整 	<ul style="list-style-type: none"> 旅館業取得民家の増加 11戸 平成27年3月 19戸 人材バンクの増加 3人 平成27年3月 7人 	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源を活用した商品・サービスの開発と販売 各種プログラムの品質管理、安全管理 行政への企画提案と情報共有 国・県等からの外部資金調達等 	
1		観光地イメージアップ推進事業	H24 ～ H33	魅力的な観光地づくりの推進を目的とし、海浜、道路、公園など観光客が利用する公共施設等の美化、清掃や花木の植栽などを実施する。	環境美化作業員16名	観光アクセス道路の美化清掃:29.5km 観光関連施設の美化作業 5カ所	観光客数増 H26年観光客数17,642人(1月～12月)	
1		誘客イベント推進事業	H24 ～ H28	村のメインイベントである「いへやまつり」「伊平屋ムーンライトマラソン」や村の自然資源等を活用した、イベント並びに、島外において「伊平屋村」をPRするイベントを開催することにより、伊平屋村の認知度を高め、入域観光客数の増加を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> イベント開催委託 10件 イベント開催支援 3件 観光コーディネーター 1名 備品購入 立ちこぎカヤック 5艇 パドル 20個 ライフジャケット30枚設置 	「対象イベント等誘客数 平成27年度 7,589名」 (平成26年度7,514名 入域観光客数2,4,5,7,10月入域観光客数より算出) 「キャンプツアーを含む誘客受入体制の構築」	入域観光客数を毎年、前年度比1%増を目標とし、H33年には21,000人を超えることを目標としている。	
1		観光マップ入りイメージアップ手提げ袋制作事業	H27	村内の観光マップを掲載した手提げ袋を制作し、お土産袋により村の情報発信を行う。同時に、村内においては、エコバッグを制作し、情報の共有・発信を図る	<ul style="list-style-type: none"> 観光マップ入り土産袋作成(30,000部) 観光マップ入りエコバッグ作成(2,000部) 	土産袋、エコバッグの全配布	各種団体と協議し、土産袋、エコバッグの積極的活用による村情報発信	5月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

伊平屋村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
1	海浜公園植栽及び緑化体制整備事業	H24～H28	村のキャンプ場として位置づけられる米崎海浜公園の利便性、快適性の向上や良好な景観形成に向け、公園内の植栽をおこなうと共に島内の緑化推進に向け、中核となる人材の育成を図り、村民参画による島内緑化推進体制の整備を行う。	フクギ等植栽 1,700本程度 視察研修、植栽実施研修の実施	・植栽木の成長により、緑陰機能の回復が図られ、利便性、快適性の向上 ・村民参画による緑化推進体制の整備	(今後の展開方針) 平成24年度：緑陰植物植栽整備(東側) 平成26年度：緑陰植物植栽整備(南側) 平成27年度：緑陰植物植栽整備(西側) 平成28年度：供用開始 H33年度：観光客数3万人		
1	集落散策マップ「おさんばいへや」制作事業	H27	各集落別の名所・旧跡の概要を網羅したマップ(ペーパーベース、スマホデータベース)を作成し、「車から降りた観光」に活用できるようなアイテムを観光客に提供し、伊平屋村で観光客が、独自のプランで、散策できるような仕組みを構築する	・集落散策マップ10,000部作成 ・各ページ毎にQRコード(英語・中国語・台湾語・韓国語 翻訳機能を有したコード)を15コード作成	・集落内の散策基盤の構築 ・外国人観光客への島内案内、集落案内の充実	・観光客に提供し島の滞在時間の有効活用並びに滞在時間の増加		
1	伊平屋村スマホでスタンプラリー	H27	観光スポットにQRコードを設置し、スマートフォンでのスタンプラリーを実施できる仕組みを作り、観光客が個々で、散策しながら観光地を周遊する仕組みを構築する。	アプリ作成、QRコード作成、QRコード配置図作成、紹介ポスター作成。	携帯端末を活用した観光案内等による観光客へ取り込み促進	観光客数増 H26年観光客数17,642人(1月～12月)	7月変更(事業追加)	
2	伊平屋島農林水産業振興事業	H24～H30						
2	病害虫防除事業	H24～H27	作物の生産性の向上と農家所得の向上を目指し、さとうきびの収量低下の原因となっている病害虫の被害を防ぐため防除駆除を実施する。	フェロモンチューブの設置:150ha	・病害虫の防除等によるサトウキビ生産環境整備を整え安定的な生産量の確保を図る。 H23年度 1,758t H27年度 4,000t	(今後の展開方針) さとうきび反収量 目標値(H27年度):4.0t 基準値(H23年度):2.2t		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

伊平屋村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2			輪作・転作等促進農業用排水施設整備事業	H25 ～ H27	台風等の風災害により、減少した2期作農家を支援するため、輪作・転作が可能な水田排水施設の整備をする。この地区を農業モデルほ場とし若者等の参入を図ると共に農業生産性の向上を図る。	水田の輪作・転作対応工事設計 輪作・転作対応配水工事(1ha)	輪作・転作に対応できる基盤整備の完了	(今後の展開方針) 施設整備による作物生産の安定化及び営農組織立上等の推進 1年間の検証を行う 翌年から補助事業とし検討する。 ・農業従事者数(地区水稻農家) 目標値:現在8人将来10人	
2			伊平屋村漁協活魚輸送機能強化事業	H27	平成12年に事業整備した活魚車が老朽化し、耐用年数も超えていることから活魚運搬中の事故等が懸念されている。一時期停滞していたマイトハタ等の県内外への出荷も年々増え、今後も増加が見込めることから活魚車を新たに導入し併せて機能強化を図ることで、輸送中の酸素不足や水温上昇等による斃死を削減する。	活魚運搬車の購入 1台	活魚出荷体制の強化	(今後の展開方針) H25年度出荷実績(年間) 19回 7.9t H28年度目標(年間) 25回 12.5t	5月変更 (事業追加)
2			伊平屋村優良繁殖牛導入事業	H26 ～ H30	本村の畜産業の振興を図る為、計画的に優良繁殖雌牛を導入し、肉用牛繁殖農家へ導入費用の一部を助成することで肉用牛の増頭と飼育農家の経営安定化を図る。	優良繁殖雌牛導入頭数 15頭	優良繁殖雌牛の飼育頭数の増 H27年度(導入率40%) 184頭 194頭	(今後の展開方針) H28年度:15頭(導入率60%) H29年度:15頭(導入率80%) H30年度:15頭(導入率100%) を年次的に導入する。	7月変更 (事業追加)
3			伊平屋島人材育成強化事業	H24 ～ H33					
3			伝統文化継承支援事業	H24 ～ H28	島への誇りと愛着を醸成し、次世代を担う健全な人材を育成するため、伝統文化、伝統芸能について、老人会等との連携による課外講座の実施や保存会等の活動を支援する。	・伝統文化教室の開催:11教室/11回 ・島内芸能保存団体支援:8団体	・伝統文化教室の参加者数:100名 ・地謡(三線)継承者の育成5名	(今後の展開方針) 伝統文化教室開講数 目標値(H28年度):14教室 基準値(H24年度):11教室	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

伊平屋村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
3	特別支援教育支援員配置事業	H25 ～ H33	村立幼稚園での特別支援が必要な園児に対し特別支援員を配置するとともに、中学校での習熟度に遅れのある通級児童生徒を対象に学習支援員を配置し、授業のサポートや課外学習として、中学3年生を対象に村営塾を開講し個々にあったきめ細かい学習支援を図る。	・伊平屋幼稚園 特別支援員:1名 ・伊平屋中学校 学習支援員(村営塾の講師を兼任):2名(外部委託)	・学力テストにおける無回答率の減少(5教科平均無回答率) H26年度10.1% H27年度8.0% ・特別支援学級における個々の学習環境の充実	(今後の展開方針) H25年度～H29年度 安定的に幼稚園に1名、伊平屋中学校に2程度配置する	10月変更(計画変更に伴う事業内容、各目標変更)	
3	英語学習支援事業	H25 ～ H33	グローバルな時代に適応できる国際性豊かな人材を育成するため、小中学生を対象としたイングリッシュキャンプの開催による動機付けや、本村の中学生を海外に派遣し、異文化体験する機会を与え、将来の本村及び地域社会へ貢献できる人材の育成を図る。	・海外短期留学(アメリカ):3名 ・イングリッシュキャンプ:40名	・英語検定合格者の増加 H25年度25名 H27年度30名 ・留学終了後のムーンライトマラソン等のボランティア協力及び実践発表会開催 ・島外英語スピーチコンテストへの派遣:3名	(今後の展開方針) H25年度～H29年度 海外短期留学 3名 サマ-キャンプ 40名		
3	伊平屋島児童・生徒島外派遣等支援事業	H26 ～ H33	村外で実施されるスポーツ大会及び交流や文化交流等各種教育活動に積極的に参加し、離島の小規模校では経験できない他地域校の児童生徒等との交流や各種スポーツ大会、交流等による児童生徒の意識の向上やスポーツの技術向上等様々な面で離島の抱える教育的なハンディを克服する。	・島外開催イベント及びスポーツ大会、文化交流等への参加 小学校:5回 中学校:6回 ・対象児童生徒 小学校:児童110名 中学校:生徒62名	補助の実施による保護者の経済的負担の軽減	(今後の展開方針) 毎年10回程度の派遣助成をする。 また、実績に応じた助成等も行っていく		
3	学校ICT推進事業	H27 ～ H28	小・中学校の教育用パソコン、電子黒板等のICT環境を整備し、児童生徒の情報活用能力を育成するとともに「分かりやすい授業」を実践し「確かな学力」を定着させ、将来を担う人材育成を図っていく。	伊平屋中学校・野甫小中学校児童生徒用パソコン等の整備 ・デスクトップパソコン:39台 ・タブレット端末:4台 ・プリンター10台	・パソコン検定合格者の増加 H25年度:1名 H27年度3名	(今後の展開方針) H28年度～H29年度 ・各学校ネットワーク工事 ・電子黒板等導入		
3	伊平屋島起業家人材育成事業	H26 ～ H30	本村は離島村という地理的条件下、中学を卒業すると高校進学等もあり、子供達は村外へと巣立っていくという必然的な状況がある。また、島の将来を担う子供達の多数は帰郷すること無く島外、県外での就職等で島の産業等を活性化させる人材が少ない状況となっている。そのため、島の活性化に欠かせない人材育成を中学卒業までの間に実践及び経験等を交え、島での産業発掘をテーマに起業する力を身につけさせる。	起業家人材育成中学1年生18名 中学2年生21名 計39名	・プレゼン力の向上 パワーポイント活用者中学1,2年生徒39名 発表会開催(生徒による、パワーポイントを活用した発表)	・島内での起業展開意識の萌芽 ・村内資源の再認識		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

伊平屋村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
3			学校環境整備事業	H27	小・中学校の普通教室及び特別教室における学習環境の改善を図るため、空調設備を整備する。	村内小中学校空調設備整備 伊平屋小学校 3教室 伊平屋中学校 2教室 野甫小学校 3教室 野甫中学校 5教室	空調設備の整備により、学習環境の改善を図る。	児童生徒の学校環境のさらなる充実	7月変更 (事業追加)
4			伊平屋島定住条件整備事業	H24 ~ H33					
4			幼稚園預かり保育支援事業	H24 ~ H28	伊平屋島の定住条件を整備するため、幼稚園預かり保育強化として嘱託保育士を配置する。	嘱託保育士の配置:1名	共働き世帯の負担軽減、園児の健全育成の推進	(今後の展開方針) 定住人口 目標値(H33年度):1,500人 基準値(H23年度):1,290人	
4			慢性疾患児童等通院時渡航費助成事業	H25 ~ H33	専門医療健診の受診促進のため、通院に要する船賃、宿泊費等を助成。	慢性疾患児童等通院時渡航を支援する。60回	専門医通院治療に係る住民負担の軽減	(今後の展開方針) 定住人口 目標値(H33年度):1,500人 基準値(H23年度):1,290人	
4			ウェルネスいへや推進事業	H27 ~ H33	高齢化社会や地理的要因から生ずる医療格差に対応するためには、病気にかからない予防対策が非常に重要である。 そこで、健康づくりは自ら行い、地域で支え合う環境を整備するため、各字公民館にフィットネスプログラム映像機器設置(CG映像を活用した運動メニューの提供)や、各地域ウォーキングコース等を設置する。	・フィットネスプログラム映像機器を5集落に設置 ・フィットネスプログラムを活用した健康教室の開催 年間12回 ・ウォーキングコースマップ5000部作成	・住民健診の受診率の向上 H26年度 59.9% H27年度 65.0% ・1人当たりの運動習慣の向上 H26年度 41% H27年度 50%	(今後の展開方針) 定住人口 目標値(H33年度):1,500人 基準値(H23年度):1,290人	5月変更 (事業追加)
4			住民健診フォローアップ推進事業	H27 ~ H33	住民健診の結果により、がん検診等において要精密検査となった者やメタボリック・シンドローム及びその予備軍を対象とした二次健診の受診に掛かる渡航費を支援。	住民検診等による精密検査等再検査の渡航費支援 60人	精査等未受診率の減 H26年度 未受診率 51% 平成27年度 30%	(今後の展開方針) 定住人口 目標値(H33年度):1,500人 基準値(H23年度):1,290人	5月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

伊平屋村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
4		地域自立支援推進事業	H24 ～ H27	行政と住民が協働して行う島づくりの体制の構築に向けて平成26年度に策定した行動計画を着実に実施していくための地域活動を支援する。	行動計画の成果確認 (ワークショップ10回) 地域住民向け地域活動講演会の実施 1回	行政と住民が協働で行う島づくり体制の強化 作成した行動計画の着実な実施	(今後の展開方針) H28 ワークショップの開催・講演会の実施 H29 ワークショップの開催・講演会の実施 地域住民の参加率 H29 5割	
4		集落環境整備事業	H25 ～ H29	地域住民による自助、共助、公助の仕組みづくりを推進するため、集落環境整備計画の策定と協働による主体的な取り組みについて助成を行う。	実施計画 1. 地域住民による美化・緑化活動 (集落内公園等や集落道の環境及び美化作業) 2. 地域住民による集落景観の保全、危険箇所の改善(集落内の排水路、不在住宅及び敷地の補修等) 3. 地域文化の保全、社会教育活動の推進(豊年祭、スポーツイベント等) 4. 地域住民による、自助、協助、公助の推進に係る取組 上記 1.2.3 に係る 5. 地域防災体制の構築に係る取組(地域防災計画に基づく点検作業)	行政と住民が協働で行う島づくり体制の強化 作成した行動計画の着実な実施	(今後の展開方針) 計画に基づき計画的な地域環境等の整備の推進 活動への地域住民の参加率 H28 4割 H29 5割	
4		自動車航送コスト負担軽減事業	H24 ～ H33	島と島外を結ぶ唯一の交通手段である村営フェリーにおいて、特に移動の大きな支障及び住民生活を圧迫する要因となっている自動車航送運賃コストを軽減するため、その一部を助成する。	自動車航送運賃の低減 H27年度:年間4,380台(H25年度: 3,772台)	車両航送運賃の補助による定住環境の改善	(今後の展開方針) 自動車航送費運賃の低減による定住条件の改善 H33年度目標 年間 4,000台	3月変更 (計画変更に伴う活動目標変更)
4		高齢者福祉施設整備事業	H24 ～ H27	島内に一箇所しかない高齢者福祉施設の需要増加によるデイス・ビス時のトイレや洗面等の待ち時間を解消するため既存施設の改修を行う。また、ショートステイや緊急避難時の在宅介護者の受入に対応するため、既存事務所や倉庫の増改築により、8名分の増床を行うとともに事務所及び相談室を新たに増設する。	・既設給湯システムの機能強化 (共有型から個別型への切り替え) ・居住ヶ所のスライディングドア改修 20ヶ所	・効率的な給湯システムの構築完了 ・施設の安全性及び利便性の向上(沖縄県福祉のまちづくり条例に適合)	(今後の展開方針) 定住人口 目標値(H33年度):1,500人 基準値(H23年度):1,290人	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

伊平屋村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
4	伊平屋村火葬場機能強化事業	H26 ～ H28	本村の火葬場は整備後24年が経過し老朽化が進んでおり、斎場としてのスペースが無く、トイレ・待合室などもバリアフリーとなっていない。そのため、葬儀に係る住民負担の軽減と定住条件の向上に向け、火葬場の機能強化の為に改修及び増築を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 葬斎場建築工事監理業務委託 葬斎場建築工事(祭事スペースの建築)A=161.50㎡ 備品購入 一式 	<ul style="list-style-type: none"> 葬祭場建築工事管理業務委託の完了 葬祭場建築工事の完了 備品一式の購入完了 	(今後の展開方針) H28: 火葬場内部改修工事及び工事管理業務	10月変更(計画変更に伴う事業内容、成果目標変更)	
4	伊平屋村スポーツコンベンション拠点施設整備事業	H26 ～ H27	村民の健康増進や生涯スポーツの拠点のみならず、ムーンライトマラソンのメイン会場や県内アマチュア団体の合宿、各プロスポーツ団体との交流イベント、講習会の開催場所として活用している友愛と健康の広場を本村のスポーツコンベンション推進拠点施設と位置づけ、さらに取り組みを強化するため、施設の機能強化を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 磁気探査の実施 照明施設改修工事の実施 グラウンド等改修工事の実施 附帯施設整備工事の実施 外構改修工事の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 磁気探査の完了 照明施設改修工事の完了 グラウンド等改修工事の完了 附帯施設整備工事の完了 外構改修工事の完了 	(今後の展開方針) スポーツツーリズム、健康増進施策の推進及び関係団体の育成による年間利用者数の増 H26年度:7,000人 H28年度:8,500人	7月変更(事業追加)	
4	障がい者自立支援事業	H25 ～ H29	本村の障害者活動団体の支援を月8回程度行いながら、就労支援に向けた信頼関係を深め、絆を構築しながら年間活動を行っていく。又、就労支援施設整備に向けた障がい者拠点施設基本計画を策定する。	<ul style="list-style-type: none"> サービス管理責任者の人材育成 障がい者拠点施設基本計画の検討 	<ul style="list-style-type: none"> サービス管理責任者の人材育成 1名 障がい者拠点施設基本計画策定の完了 	(今後の展開方針) H28: 施設建設工事 H29就労支援施設開設予定	7月変更(事業追加)	
5	伊平屋島「災害に強い村づくり」推進事業	H25 ～ H28						
5	伊平屋島災害時避難施設整備事業	H26 ～ H28	地震や津波、台風などの自然災害に強いむらづくりを推進するため、災害時に住民・観光客等が避難する避難指定場所のライフライン等の機能強化により、避難者が安全に安心して避難できる施設の整備を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 村内各避難施設の施設強化工事 島尻区 避難施設(バリアフリー工事等) 田名区 避難施設(防風施設工事等) 	地震や津波、台風などの自然災害に強いむらづくりを推進する	(今後の展開方針) 村内避難施設の基盤整備 H27: 前泊区 防風施設工事 H28: 村内非常用電源施設整備		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

伊是名村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			伊是名島観光振興事業	H24 ～ H33					
			観光地等クリーンアップ事業	H24 ～ H33	本村に数多く点在する史跡や文化財を地域資源として活用していくため、村内の各種イベントで使用する会場や観光施設、観光ルート等と併せて草刈作業や花壇等の環境整備を行いながら花木の植栽など美化活動を強化する。さらに島全体を観光地として環境整備を行い緑化活動を推進する。	・観光ルート等の雑草の除去及び花木の植栽、肥培管理の実施 ・まつり会場(1カ所)、フットパスコース(1カ所)、集落内外(5カ所)、フラワーロード(4カ所)、観光施設等(4カ所)	美化緑化(15カ所)により観光客受入態勢を整備する。	成果目標を達成すべく、美化緑化活動を推進する。	
			いげな88トライアスロン大会支援事業	H25 ～ H33	いげな88トライアスロン大会については大会選手・関係者をあわせて1,000名あまりが来島し大会を盛り上げているが受入体制の強化、さらなるイメージアップをめざして通年をととして安定的な観光誘客の促進を図る。	いげな88トライアスロン大会の支援	・トライアスロン参加選手:600名 ・ボランティア・関係者及び観戦者:400名	(今後の展開方針) コースの安全面の確認や選手誘導看板の設置による受入体制の強化	
			「尚円王(金丸)生誕の村」整備事業	H24 ～ H28	本村は、第一尚氏王統の元祖及び第二尚氏王統の始祖尚円王生誕の地であり、数々の王家ゆかりの史跡・文化遺産が多く残されている。平成27年度に尚円王生誕600年を迎えるため、尚円王に関する史跡等の整備・復元や「いげな尚円王まつり」等の関連行事を開催し、本村から琉球の歴史及びいげな島の魅力を県内外へ発信することで更なる誘客による観光振興を図る。	「-尚円王生誕600年記念-いげな尚円王まつり」や史劇「尚円王～松金がゆく～」、史曲「尚円」の取り組み、通水節公園整備、観光ガイド等養成講座の実施、伊是名村PR活動。	「-尚円王生誕600年記念-いげな尚円王まつり」の来場者数:延べ2,000名 また、観光ガイド、インストラクター等養成講座実施により観光人材を育成する(5人)。	平成28年度 観光入域者数:35,000人 平成28年度～ 尚円王関連文化財等調査・再整備	5月変更 (計画変更 に伴う各 目標変更)
			伊是名モータースポーツ支援事業	H26 ～ H33	場外離着陸場を活用した新たなイベント事業として、モータースポーツ大会を誘致し、選手をはじめそのサポーターや観光客の誘致を促進するため、モータースポーツ大会開催を支援する。	・ドラックレース大会の開催支援 ・スーパードリフト大会の開催支援 ・エキサイティング・ジムカーナ大会の開催支援	・ドラックレース大会来場者数:200名(2回) ・スーパードリフト大会来場者数:400名(4回) ・エキサイティング・ジムカーナ大会来場者数:100名(1回)	規模を徐々に拡大していき、モータースポーツのメッカとしての地位を築くことで観光誘客につなげていく。	12月変更 (計画変更 に伴う成 果目標変 更)
			いいな運天港いちゃり場まつり支援事業	H26 ～ H33	伊是名村・伊平屋村・今帰仁村の三村交流事業である「いいな運天港いちゃり場まつり」を支援する。	「いいな運天港いちゃり場まつり」の支援	「いいな運天港いちゃり場まつり」の実施による三村の交流。	伊平屋・伊是名・今帰仁三村の広域連携事業として、継続して開催する。	
			沖縄らしい風景づくり推進事業	H26 ～ H33	本村の魅力ある自然や文化・景観等を保全・活用による人と自然が共生するむらづくりを推進し、地域と一体となった魅力的な景観形成を推進するため、個人が実施する外観形成に有効な赤瓦屋根の新設または葺き替え、サンゴ石垣による敷地囲い等に要する経費を支援する。また、地域での景観形成活動を行う団体にも活動費の一部を支援する。	・景観形成取り組みへの支援	景観形成への支援 ・団体支援 5団体	・赤瓦支援進捗率 H28・25% 景観重点地区指定により住民がこれまで以上に景観形成に取り組むことで、観光地としての魅力が増大し、観光誘客が期待される。	12月変更 (計画変更 に伴う成 果目標変 更)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

伊是名村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			観光情報発信事業	H26 ～ H33	観光振興を図ることを目的に、お土産袋、観光カレンダー等を制作し観光情報発信の推進を図り、受入体制を強化する。	・お土産袋制作 ・観光カレンダー制作	・お土産袋制作・配布(配布率100%) ・観光カレンダー制作・配布(配布率100%)	民泊受入体制を整備し、民泊推進を図る。	
2			伊是名島定住条件整備事業	H24 ～ H33					
			伊是名村自動車航送コスト負担軽減事業	H24 ～ H33	離島の定住条件の向上を図るため、沖縄本島の今帰仁村運天港を結ぶフェリーの自動車航送運賃を軽減する。	伊是名発自動車航送往復運賃の負担軽減	自動車航送運賃助成による定住条件確保:5,000台	(今後の展開方針) 自動車航送コスト負担軽減数 H33年度:6,000台	
			妊婦健診渡航費助成事業	H24 ～ H33	14回の妊婦健康診査時の渡航費等及び宿泊料や36週以降の滞在時の宿泊料の一部を支援する。	妊婦健診に要する渡航費・交通費及び宿泊費の支援	妊婦健診に要する経費の支援 ・渡航費・交通費支援・・・168件 ・滞在費支援・・・2人	1)産後の健診時の助成 1ヶ月健診時の渡航費及び宿泊費の支援 一ヶ月健診までの滞在費の支援 2)配偶者同行時の配偶者への支援	
			人工透析医療受給者助成事業	H24 ～ H33	本村は、沖縄本島との交通機関は船に頼らざるを得ず、移動の大きな支障となっている。村内の人工透析医療受給者が医療受診のための通院等に要する本島移動費及び宿泊費の支援を行うことで、定住条件を改善を図っていく。	人工透析に係る交通費・宿泊費の支援。透析治療開始対象者の把握と手続き等を円滑に実施する。	人工透析に係る交通費・宿泊費の支援件数:2人 事業の実施によって、受診者の経済的・精神的不安の解消を行い、住み慣れた地域で生活することができ、治療に専念することができる。	2日に1回の透析通院は高齢者にとって非常に負担となっており、少しでも軽減できるよう対策を検討する。	12月変更 (計画変更に伴う成果目標変更)
			伊是名らしい古民家修復・復元事業	H25 ～ H29	本村における貴重な資源である古民家の修復や、古民家が消失し空き屋敷となっている敷地に古民家(赤瓦屋根・サンゴ石垣・屋敷林)を復元し、Uターン・Iターン者向け定住住宅として定住促進を図るとともに観光地としてのイメージアップを図る。	・古民家改修(1棟)	・古民家修復をおこない、Uターン・Iターン者向け定住住宅1世帯を提供	(今後の展開方針) 近年の建築事情を鑑み、改修もしくは復元のどちらかを単年度で整備する。	
			火葬場整備事業	H27 ～ H28	島内に一カ所しかない火葬場であるが、昭和58年度に建設されてから30年が経過し、火葬炉の老朽化が著しいため、既存施設を利用しながら火葬炉棟の機能強化を図る。	・火葬炉等設計業務	火葬炉の老朽化に伴う機能強化を図り、安心して暮らせる島を提供することで、定住条件に大きく寄与する。	住民サービス向上につながり、住み慣れた島で安心して暮らすことが可能となる。	
			地域活動拠点活性化事業	H27 ～ H30	地域との連携の下、地域住民に拠点地域活動・地域行事(芸能祭)等伝統文化・芸能の場や食文化を利用した都市及び観光客との交流と体験を提供する地域活動拠点施設の整備に向け、施設整備の基本的な考え方、施設建設の方針、運営体制などの基本計画を定める。	・地域活動拠点施設基本計画策定業務委託	施設整備の基本的な考え方、施設建設の方針、運営体制などの基本的な考え方をまとめることにより、充実した施設利用の計画が策定できる。 (基本計画策定完了)	(今後の展開方針) ・H28:基本設計 ・H29:実施設計 ・H30:実施(建築) ・H31:供用開始	10月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

伊是名村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考		
パ	細				H27事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等	補足説明等
					H27事業内容					
3			尚円王の里人材育成事業	H24 ～ H33						
			人材育成事業(日高小との交流事業)	H24 ～ H33	沖縄と北海道という異なる生活圏で暮らす子ども達が、それぞれの地域を訪れ、その地域の自然や歴史、生活に触れ、体験学習・交流学习を通して友情を育むことで、広い視野と協調の精神を養う。	日高小学校との交流・体験学習の実施	児童:12人 引率者:5人		21回を経過したことで、これまでの事業内容等を精査した上で、より効果的な事業展開を図る。	
			児童生徒島外諸教育活動支援事業	H24 ～ H33	離島である本村から、児童生徒の島外での諸教育活動への派遣費を支援し、本村から本島への移動をスムーズに行えるよう実施する。	島外教育活動への派遣	島外教育活動への派遣 児童生徒数:90名		引き続き大会等に参加できる機会を増やし、意欲や能力の向上を図っていく。	
			学習支援員配置事業	H24 ～ H33	本村の未来を担う児童の人材の育成を図る観点から、小学校における教育活動の支援及び学習に遅れのある児童生徒への学習支援を実施する。	学習支援員の配置:2人	充実した学習支援体制の確保		小中一貫した支援を行うため今年度から中学校へも1名配置し、きめ細かな指導を行っていく。	
			幼稚園預かり保育支援事業	H24 ～ H33	離島である本村では、学童保育所がないため保護者が安心して仕事ができる環境整備として教育課程に係る教育時間終了後に幼稚園預かり保育の強化として嘱託保育士を配置する。	保育士の雇用	預かり保育を利用する幼児数:16人		夫婦共働き世帯が多く、保護者から時間延長の要望があることから引き続き継続していく。	
			学校外学習支援事業	H25 ～ H33	高校受験対策の一環として、生徒の学校外での学習を支援することにより、学校の授業でカバーできないきめ細かい学習を支援するため、村営の学習塾を開設する。	学習塾の設置及び講師の雇用	学習塾利用生徒数:55人		高校受験に向け、中学3年生については個々の学力に応じたグループ分けを行い、よりきめ細かな支援を行っていく。	
			グッジョブ連携推進事業	H27 ～ H33	小中学校において、児童生徒に自己理解・自己実現を図る意欲を向上させ、目的意識の高揚や就業意識の向上を高める必要がある。そのためには、学校と体験学習受入事業所、経済団体といった関係機関との連携・協力体制を構築して活動を効果的に推進していく。また、家庭・地域・行政が互いに連携し地域資源を活用し、学校支援活動の強化につなげることを目的に、小学校ではジョブシャドウイング、中学校では職場体験などキャリア教育を実施する。	・ジョブシャドウイング・職場体験学習の実施(小学校1校・中学校1校) ・キャリア教育講演会の開催:1回	・キャリア教育の実施人数 小学校5年生:11人 中学校2年生:16人 ・関係機関との連携協力体制の構築		・島内外での多種多様な職場体験企業の発掘。 ・事業継続により、学びの興味や関心に対する希薄さの解消及び体験、経験することによる意欲の向上を図る。	5月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

伊是名村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
				4				
		伊是名村土づくり支援事業	H24 ~ H33	肉用繁殖牛の減少に伴う堆肥の原料不足を補うため、沖縄本島からの堆肥原料購入費用及び輸送費用を支援することにより、安定的な有機肥料の供給による土づくりの促進及び農作物の生産性の向上を目指す。	農家補助用堆肥の確保	堆肥導入数量:2,000t さとうきびの反収増 目標年度:平成29年度 現状:3.6t/10a 目標:6.0t/10a	堆肥散布することで地力増強につながることを農家へ周知し、土づくりを促進することによる生産性の向上を図る。	
		分蜜糖製糖施設近代化事業	H27	本村の基幹作物であるさとうきびは、台風等の自然災害等の影響を受けやすいため原料の安定確保が困難なことや、離島地域であり地理的に不利な状況であること等により製糖業の経営状況は厳しい状況である。そこで、製糖事業者が行う経営体質強化のための製造コストの低減、品質向上及び衛生管理の徹底等のため施設整備を支援し、安定操業を確保することにより、「さとうきび・糖業」の振興を図る。	製糖工場外構工事設計業務委託 製糖工場外構工事の実施 製糖工場外構工事現場技術業務委託	食の安全確保のため侵入防止策の設置及び原料等搬入搬出ゲートの設置を行う。 製糖工場進入路及び周辺雨水側溝を整備し、衛生環境を改善する。 風による異物混入の低減を図るため、工場敷地内の舗装を行い、衛生的な環境を整備する。	外構施設整備を行うことにより食の安全の確保及び衛生環境の改善が図られることによる原料や製品の品質向上が図られる。	10月変更 (計画変更に伴う活動目標変更)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

久米島町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			久米島農林水産業活性化推進事業	H24 ～ H33					
1			海洋深層水冷熱利用野菜栽培実証事業	H24 ～ H27	久米島の地域資源である海洋深層水の冷熱利用により、既に確立された夏場の野菜栽培技術の商用化に向けた実証実験を行う。	・実証施設の整備 ・実証事業の実施	10アール当たりの収穫量把握 生産コスト等の課題抽出	・平成27年度に実用化開始 ・直営にて実証事業を行う。	
1			漁港施設機能強化事業	H25 ～ H30	本町の基幹産業である水産業の振興を図るため、主要漁港に製氷施設及び漁船巻揚機(ウインチ)を設置するを行う団体へ支援を行う。	製氷施設の整備 漁船巻き上げ機(2基)の導入	製氷施設整備率100% 巻き上げ機整備率(全体12基)50%	平成28年度供用開始 製氷施設整備による利便性の向上及び荒天時(台風等)に大型漁船を避難できる体制を整備し、漁民の労働負担や経費負担を軽減する。	
1			久米島町循環型農業促進事業	H25 ～ H28	本町の地域資源を有効活用した循環型農業の構築するため、町営堆肥センターの生産性の向上を図り、堆肥活用促進の機能強化を行う。	・運搬車両(1台)の導入 ・堆肥すじ撒き機(1機)の導入	農業機械導入(2台)による堆肥活用促進体制の確立	(今後の展開方針) H28年度 袋詰め機導入	
1			優良雌牛導入事業	H26 ～ H33	本町の繁殖雌牛の生産基盤の拡充・改良を促進し「くめじま牛」のブランド化を図り畜産業の振興につなげるため、優良遺伝繁殖雌牛の導入事業を行う団体へ支援を行う。	・優良雌牛導入 54頭	・優良雌牛導入率:35% (導入予定:240頭)	(今後の展開方針) 助成件数(累計) H33年度:240頭	
1			くめじま山羊振興活性化事業	H25 ～ H27	本町の山羊食文化及び山羊肉の地産地消の推進を図るため、優良品種山羊の導入と普及、山羊牧場の建設、「くめじま山羊」のブランド化を確立し全町的な肉用山羊生産供給体制の整備を行う。	優良品種導入(15頭) 家畜計量機(1台) 人工授精用保管器(1台)	優良品種導入率:100%	(今後の展開方針) ・優良品種の増頭 ・農家への普及	10月変更 (事業追加)
1			農産物出荷貯蔵施設整備事業	H26 ～ H27	本町の露地野菜の生産体制強化を図るためプレハブ冷蔵庫の設置を行う。	野菜用プレハブ冷蔵庫の整備	・出荷商品の品質保持体制の確立	平成28年度供用開始 冷蔵保管により商品の品質を保ち出荷し農家所得向上に繋げる。	10月変更 (事業追加)
2			久米島特産品開発・販路開拓事業	H24 ～ H33					
2			久米島紬販売促進事業	H24 ～ H33	久米島紬の付加価値を高め販路拡大を図るため、消費者ニーズに即した商品開発や新商品の展示会やファッションショーの開催、問屋呉服店への販即訪問等を支援する。	島外での展示会開催数 5回 商品開発試作品製作数 5点	・反物売上額 7,000万円 ・小物売上額 1,000万円	久米島紬の伝統技能を保持しつつ現代のニーズにあった商品を開発販売することにより、伝統工芸品としての久米島紬を受け継いでいく。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

久米島町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
2	海洋深層水全国展開事業	H24 ～ H28	海洋深層水関連商品の販路拡大を図るため、首都圏において開催される商談会への参加及びPR用パンフレットの作成を行う。	・商談会への参加社数 2社 ・パンフレットの配布数 500部 ・商談会面談者数 200名	・商談会面談者数 200人 ・商談(取引)成立数 3件	県外の販路開拓を行える体制を構築する。		
2	久米島特産品販路開拓事業	H24 ～ H33	本町特産品の販路拡大及び若手後継者の育成を図るため、流通・商品開発のコーディネーターを配置する他、既存商品の改良や知名度向上のため県内・県外で開催される物産展への定期的な出店やビジネス戦略等の研修会を実施する。	・物産展の開催・参加 10回 ・講習会・勉強会の開催 10回 ・既存商品改良参加事業所 4社 ・ブラッシュアップ参加事業所 9社 ・アンテナショップ設置及びコーディネーター配置 1名	・物産展等における販売額 2,500万円 ・ビジネス戦略・マーケティング戦略勉強会 7社受講 ・既存商品改良数 4点 ・ブラッシュアップ商品数 5点 ・アンテナショップ販売額(久米島関連商品) 1,200万円	・3年計画で、久米島の製造事業所の支援を行う。 ・本事業で開発された商品のブランド化に繋げる。 ・既存商品改良の販売額 H30年度:110万円 ・ブラッシュアップ商品販売額 H30年度:400万円 ・アンテナショップ販売額(久米島関連商品) H30年度:2,300万円	5月変更 (計画変更に伴う事業内容、各目標変更) 7月変更 (計画変更に伴う事業内容、各目標変更)	
3	久米島観光誘客促進事業	H24 ～ H33						
3	久米島観光誘客支援事業	H24 ～ H33	久米島の良さを効果的に伝え観光客の誘客を促進するため、島の魅力を活かした旅行商品の企画、各種イベントの開催や広報活動、閑散期対策として団体ツアー商品造成等を実施し、観光産業の振興を図る。	観光案内人2名配置 イベント開催(3件) 広報推進事業 広報活動 7件 団体ツアー商品造成 40件	観光情報案内及びニーズを把握し、観光満足度向上を図る。 ・入域観光客数 H26年92,721人(基準年) 今年度99,000人 ・イベント参加人数 H26年度758人(基準年) 今年度880人 ・広報推進事業 広報活動 7件/久米島の認知度向上	H27～H33 観光案内人2名配置 イベント開催 H28年度(中間年)参加者 920人 H33年度(最終年)参加者 1,070人	7月変更 (計画変更に伴う各目標変更) 10月変更 (計画変更に伴う事業内容、活動目標変更)	
3	久米島観光プロモーション事業	H25 ～ H33	本町の観光誘客の課題である知名度不足の解消を図るため、大手IT企業を活用した観光プロモーションを実施する。	・国内大手の旅行及び宿泊予約サイトを活用した誘客促進 ・観光PR映像を活用した誘客促進	・WEBプロモーション件数:2社 ・テレビ番組県外放映:1件	国内大手のWEBエージェントにて久米島の春夏秋冬の情報を4回発信する。併せてマスメディアによるPRを行う。情報の拡散効果を図るためFacebookも活用する。		
3	体験交流型観光商品開発販売促進事業	H26 ～ H28	本町の観光入域客数を増加させ観光産業の振興を図るため、修学旅行受入促進のための旅行商品の開発、販売促進事業を実施する団体へ支援を行う。	・民泊の営業許可の取得件数 10軒 ・体験プログラム・開発・改良件数10件	・修学旅行入域者数 800人 ・体験プログラム利用者数 1,200人	修学旅行 H28年度(中間年)入域目標 900名 H33年度(最終年)入域目標 1,800名		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

久米島町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
3	スポーツ合宿誘致事業	H26～H33	観光客が減少する冬季の誘客促進を図るため、スポーツ合宿の誘致活動を実施し、スポーツコンベンションの推進を図る。	陸上合宿誘致 パークゴルフ大会誘致	陸上合宿 4件 パークゴルフ大会 1件(島外参加者数100人)	温暖な気候を生かした冬季におけるスポーツ合宿やパークゴルフ大会を誘致する。 H28年度 19件(継続を含めて)		
3	航空路線拡充対策事業	H26～H33	伸び悩む観光入域誘客の増加に繋げるため、チャーター便や新規航空会社の誘致を行い、航空路の充実・強化を図る。	チャーター便実現の為、久米島空港での給油を行う。 新規航空会社の誘致及び誘致に係る調査及び活動を行う。	チャーター便運航数:38便 要請及び調査活動:4回 新規航空会社誘致体制の確立	H28年度(中間年) チャーター便運航数:40便 要請及び調査活動:6回 H33年度(最終年) チャーター便運航数:40便 新規参入航空会社 1社		
4	久米島観光客受入体制整備事業	H24～H28						
4	スポーツコンベンション施設機能強化事業	H24～H27	プロスポーツ等のキャンプ誘致を促進し観光産業の振興を図るため、現在、受入施設として使用している、久米島野球場関連施設の整備を実施する。	久米島野球場バックネット改修工事	久米島野球場施設使用 6団体	H27年度供用開始 スポーツ関連施設を充実させ、プロスポーツ等キャンプの継続及び新規誘致に繋げる。		
4	安心安全な観光まちづくり事業	H25～H28	安心安全な観光まちづくりを目指し、主要避難場所である具志川農村改善センターに非常用電源を整備する。	非常用発電機 1基	避難所の防災体制強化	(今後の展開方針) H28年度:避難所及び避難道の測量設計調査 H29年度:避難所及び避難道の整備		
4	バス停上屋整備事業	H26～H28	快適な観光地づくりを目指し、観光施設周辺のバス停の雨天及び直射日光の強い日差し対策としてバス停上屋の整備を行う。	バス停上屋を3カ所整備	バス停上屋整備率:83% (整備予定:6カ所)	(今後の展開方針) H28年度:1カ所(整備率100%)	7月変更 (事業追加)	
5	久米島環境保全・美化推進事業	H24～H28						
5	球美の島エコアイランド化推進事業	H24～H28	低炭素島しょ社会の実現と自然豊かな環境に配慮した島づくりの推進を図るため、町内に設置されている水銀街灯のLED化事業等を実施する。	約400灯のLED防犯灯を整備・設置	LED防犯灯整備率:70% (導入予定:1,650灯)	H28年度:500灯設置		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

久米島町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
バ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
5			球美の島緑化推進事業	H24 ~ H27	久米島に自生している花や花木(クメノサクラ、ツツジ、椿、ショウキズイセン等)の保全を図るために、島の在来花木を年中楽しむことができる公園整備を実施する。	・ツツジゾーン、ツバキゾーン造成及び植栽工事の実施 ・品種登録を行い園芸振興による知名度向上を図る。	ツツジゾーン、ツバキゾーン造成及び植栽工事の完了 ・品種登録を行い園芸振興による知名度向上を図る。	平成28年4月全面供用開始登録品種を増殖し花の名所とする。	12月変更(計画変更に伴う活動目標変更)
6			久米島地域資源発掘・活用促進事業	H24 ~ H33					
6			沖縄らしい風景づくり推進事業	H24 ~ H33	本町の優れた景観を次世代に受け継ぎ独自の景観形成を推進するため、町景観条例に基づく景観形成に取り組む団体及び個人が実施する屋根等の外観の景観形成に有効な部分の新設及び改良に要する経費の一部を支援する。	・景観活動団体支援3団体 ・景観形成支援2戸	・景観活動団体の支援 ・景観形成の推進	(今後の展開方針) 助成件数(累計):H33年度 ・景観活動団体支援 18団体 ・景観形成支援 18戸	
6			個性豊かな文化の振興事業	H24 ~ H33	伝統芸能の保存及び後継者育成を推進し地域伝統文化の振興を図るため、文化振興の活動を行っている団体の行う保存継承イベント開催を支援する。	・民俗芸能の保存・継承・後継者育成 ・民俗芸能発表会の開催 ・民俗芸能団体の交流事業	・3団体(山里、仲村渠、兼城)の強化 ・出演者130名、来場者600名 ・民俗芸能団体の交流事業(八重山)27名	団体の掘りおこし ・H28年度 育成団体 累計22 ・H33年度 育成団体 累計27 発表会出演団体数 ・H28年度 累計41 ・H33年度 累計81	
6			文化遺産保存活用事業	H24 ~ H33	豊かな自然とともに、数多く残されている地域色豊かな歴史文化等の文化遺産を活かした観光振興を図るため古文書(博物館資料)の修復及び貴重生物のはく製の制作を行う。	・古文書の修復、翻刻、口語訳した件数:160件 ・写真資料デジタル化:40,000点	・古文書の修復、翻刻、口語訳した割合28%(1625件中455件(累計)の修復) ・写真資料デジタル化率:100%	H28年度(中間年) 修復、翻刻、口語訳した割合40% H33年度(最終年) 修復、翻刻、口語訳した割合100%	
6			久米島現代版組踊り創作事業	H24 ~ H28	若い世代の地域づくりへの積極的な参加を促進し魅力ある観光地形成を図るため、久米島の歴史的遺産にスポットをあてた創作現代版組踊りを実演する。	若い世代による創作現代版の組踊り作成 40名~50名参加	・ふるさとの歴史や文化を地域の人々が再発見し、その誇りと魅力を自発的に発信していく新たな歴史的な文化観光資源を創出する。	久米島でのイベント等での公演や島外での公演を行なうことで久米島の魅力のアピールを行なう。中高生が文化の担い手として文化歴史を紹介するガイドの育成に繋げる。	
7			久米島教育環境の充実・整備事業	H24 ~ H33					
7			英語指導員配置事業	H24 ~ H33	小学校における外国語活動及び国際理解教育を充実させるために英語指導員を配置する。	英語指導員配置数:小学校1名 小学校3年生から6年生(3、4年生120時間、5、6年生210時間)で実施する。	英語指導員の配置 小学校:1名 町内全6小学校の児童が英語を活用してコミュニケーション力を図る。	中学校の外国語教諭と連携を密にし授業改善(内容・単語・センテンス等)について検討する。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

久米島町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
7		基礎学力向上学習支援員配置事業	H26 ~ H33	確かな学力を身につける教育の推進を図るため、学習未定着率の高い小学校へ補助指導員を配置し、国語・算数を中心とした基礎学力向上支援を行う。	基礎学力向上学習支援員配置数：小学校2校に各1名。	基礎学力向上学習支援員を小学校へ2名配置し、県到達度調査や全国学力学習状況調査等、正答率30%未満の児童生徒の数を減少させる。	担任と学習支援員が連携を密にし、授業改善(内容、発展等)について検討する。	
7		特別支援教育支援員配置事業	H26 ~ H33	特別に支援を要する児童に対し個別指導や放課後の補習、介助や安全確保等教師と連携した支援体制の充実を図るため、特別支援員を各学校へ派遣する。	特別支援教育支援員配置数：小学校11名、中学校3名	児童生徒の総合的な学力向上に繋げる。県到達度調査や全国学力学習状況調査等、正答率30%未満の児童生徒の数を減少させる。	担任と特別支援教育支援員が連携を密にし、授業改善(内容、基礎力徹底等)について検討する。	
7		児童・生徒各種大会派遣支援事業	H27 ~ H33	児童・生徒の多様な能力と心身の発達や育成を図るため、課外活動として島外で開催される各種大会への派遣旅費について支援を行う。	管内中学校生徒 876名参加	生徒派遣(876名)により多様な能力と心身の発達や育成を図る。	・遠征費に係る補助割合の検証 ・参加することができなかった生徒の検証 ・大会参加者の目標・成果の検証	
7		教育ソフト導入事業	H27 ~ H28	小学校において主要教科のデジタル教科書及び操作性に優れたノートPCを購入し、デジタルテレビや電子黒板を活用し、児童の理解度を高め、わかる授業で学習意欲を高め学力向上を図る。	・ソフトウェア購入 6小学校×6学年×4教科 ・操作端末購入 ノート型PC 39台	児童生徒の総合的な学力向上に繋げる。沖縄県到達度調査の正答率過去3年間平均値との差。 国語(過去平均)66.4 (目標値)67.0 算数(過去平均)67.1 (目標値)67.5	教諭の研修などを行い、よりわかりやすい授業を展開する。	
7		久米島町地域支援交流学習センター整備事業	H27	将来を担う人材育成、地域活性化、人口増及び生徒の学力向上を目的とした久米島町地域支援交流学習センターを整備し、島外から多くの留学生を受入れることで地元出身の生徒及び地域との交流を通じてお互いに刺激し合う環境を構築する。	地域支援交流学習センターの設計・施工監理 改修工事 土地・建物購入 備品購入	整備により 島留学生受入体制の確保 人材育成拠点施設の確保	平成28年度供用開始 島留学者数：8名/年 通塾生徒数：60名/年 交流学習会：12回/年 交流学習者数：180名/年	5月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

八重瀬町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			八重瀬町外国語指導強化事業	H24 ～ H33	小学校・幼稚園において国際化に柔軟に対応できる力を養うため、通常の授業とは別に、夏休みや冬休みを利用した特別英語教室を開催する。	・外国語指導助手 4園4小(3人は園・小兼務) ・英語指導助手:2人 2中へそれぞれ配置	・H26年度受講者数 4幼稚園269人、4小学校(5・6年生)646人、及び 2中学校938人受講。 ・英語検定受験者中8割合格目標	H33年までに幼稚園3,271人、小学校5,964人(5・6年対象)、中学校8,589人計17,824人の児童生徒に外国語をふれ合う機会を与える。	
1			八重瀬町パソコン指導強化事業	H24 ～ H33	迅速に進むIT社会へのニーズに伴うべく、パソコン操作の能力向上を義務教育で強化するため、ITに特化した指導員を町内の小中学校に配置する。	パソコン指導員配置数 小学校に2人配置(2名兼務) 中学校に2人配置	・H26年度受講者数 4小学校1,940人、2中学校938人受講。 ・ワープロ検定等、受験者中8割合格を目標	H33年までに幼稚園3,271人、小学校17,483人、中学校8,589人計29,343人の児童生徒に情報の基本操作及び情報活用能力を養う。	
1			八重瀬町学力向上支援事業	H25 ～ H33	小・中学校に児童生徒の学力向上のために、学習支援員を配置し、授業にあたる教師と連携を図りながら児童生徒の支援を行うことで学校及び学級の運営を円滑に行い教育環境の充実を図る。	学習支援員配置数 小学校:10人 中学校6人	・各小学校:年間の授業及び補習時間:980時間(年間平均値) ・各中学校:年間の授業及び補習時間:1,077時間(年間平均値)	今後も同様な人数の確保及び増員をさせて、学習意欲の向上に努める。	
1			八重瀬町伝統芸能文化の継承事業	H24 ～ H33	中学校において、伝統芸能の特別授業を行い八重瀬町の伝統文化の継承を図るため、組踊、三線、エイサー等の講演会を開催する。	中学校への講師招聘:30人	特別授業終了後の発表会参加生徒数:642人	H33までに中学校6,392人の生徒に地域の伝統文化の継承と地域の方達との交流を学ぶ。	
1			八重瀬町国際交流人材育成事業	H24 ～ H33	教育・文化・歴史・産業などの視察研修や青少年団体との交流及びホームステイ等の活動を通して、国際的視野を広め、友情を深め、国際化時代に対応しうる青少年の育成を図るため、青少年リーダーを海外に派遣する。	海外短期派遣生徒数:12人	・現地での研修を体験することにより、国際的視野を広めると共に、コミュニケーション能力の向上と国際化意識の醸成、国際性豊かな人材の育成。 ・事後報告書:英文・日本語での感想等を掲載した冊子(50冊)	海外短期派遣生徒数(累計) H33年度:120人	
1			八重瀬町少年少女人材育成交流事業	H26 ～ H33	風土、文化の違い他県の子どもたちと交流することにより、幅広い視野を育み、自然の中での体験活動や集団生活を通して、規律・協調・友愛・奉仕等の精神を身につけ、心身ともに健やかな少年少女の健全育成を図る。	生徒派遣者数 58人 (高知:12人、山梨46人)	生徒派遣者数 58人 (高知:12人、山梨46人) 事後報告会を開催し、報告書(100冊)を作成する。	H26～H33 延派遣者数 406人	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

八重瀬町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1		切磋琢磨学力パワーアップ事業	H26～H28	県教育委員会の学力向上の主要施策「にぬふぁ星プラン」のもと推進されてきたが、未だ全国学力・学習状況調査では全国と大きな差がある。そこで教育委員会は学力向上の下支えとなる中学生の補習補中心に本事業を行い学力向上を図る。	土曜講座 (平成27年6月～平成28年2月末まで) 長期休業中 20日間 定期テスト前対策 2週間前 4回	土曜講座 東風平地区120人 具志頭地区40人 長期休業中 東風平地区120人 具志頭地区40人 定期テスト前対策 東風平地区120人 具志頭地区40人	基礎的・基本的な事項の定着を図り、学習意欲を向上させる。全国テストが全国平均のマイナス10ポイント以上の差があるため、その差をできるだけ無くす事を目指す。	
1		渡嘉敷リーダー研修事業	H26～H33	風土、文化の異なる、多文化圏での活動を通じ、幅広い視野を育み、自然の中での体験活動や集団生活により規律・協調・友愛・奉仕等の精神を養い、心身ともにすこやかな青少年の健全育成を図る。	渡嘉敷リーダー研修 1回実施	研修を通じ、親元を離れ自立を促し、これからの沖縄を牽引する人材育成に寄与する。	(今後の展開方針) 研修を継続して行う事で、毎年100人以上(4人×34支部=136人)のリーダーを輩出し、人材育成に寄与する。	
1		ICT教育強化事業	H26～H27	H26年度に小中学校へ電子黒板を配置したが、クラス増分、特別教室に設置するPC11台及び電子黒板を設置する。また各校に児童生徒発表用1台を追加する。ICT活用状況のレベルアップを図りさらなる学力向上を目指す。	・未設置教室への電子黒板及びPC設置 ・生徒発表用PCの各校への設置	電子黒板及び黒板用PC設置 (11台) 生徒発表用PC 各校1台設置 (計6台)	(今後の展開方針) 各学級に公平に電子黒板及びパソコンを設置する事により、児童生徒の情報活用能力の向上に繋がる。ICT活用の拡大を図り、児童生徒の情報活用能力の向上を図る。	5月変更(事業追加)
1		八重瀬町特別支援員配置事業	H27～H33	小学校において心身に障害を持つ児童生徒に対し、適切な支援並びに発達障害(ADHD等)のための個別支援の必要な児童生徒への支援を行うため、各小中学校に特別支援員を配置し支援体制の充実を図る。	町内の公立小中学校へ配置 小学校18名 中学校2名 合計20名の支援員を配置	支援員を確実に配置し、日常生活の介助、学習活動上の支援を行うとともに、学校及び学級運営のサポート体制を強化し学習環境の構築する	学校教育法において、障害のある児童生徒等の教育の充実を図るため、小中学校に在籍する教育上特別の支援を必要とする児童生徒に対して、適切な教育(特別支援教育)を行うことが明確に位置付けられているため適切な支援を継続する必要がある。	7月変更(事業追加)
2		八重瀬町イベント事業	H24～H33	観光客誘客を図るため、町特有の地域資源を活用したイベントを行い、国内外へ情報を発信することで観光地の集客を図り、地域特産物等のPR等を実施する。	・八重瀬桜まつり開催支援 ・こいのぼりあしび開催支援 ・青年エイサー祭り開催支援	・八重瀬桜祭り来場者数 5,000人 ・こいのぼりあしび来場者数 2,500人 ・青年エイサー祭り来場者数 10,000人	H27～33年度: 八重瀬桜祭り開催 こいのぼりあしび開催 エイサー祭り開催 H29・H33年度: 八重瀬祭り開催	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

八重瀬町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
2	八重瀬町観光地美化作業事業	H24～H33	観光地としての魅力向上を図るため、観光客が訪れる観光地や施設及び観光地へのアクセス道路等の美化清掃を行う。	観光地や施設及びアクセス道路の美化作業を行う。	・観光地：8箇所 ・アクセス道路：40路線	(今後の展開方針) H27～33年度:美化作業 H27年度以降:美化作業・緑化作業		
2	八重瀬さくらのまち整備事業	H25～H33	八重瀬公園を主として、町内各施設のさくらの整備、重点的な維持管理を行い、南部のさくらの名所としてアピールすることで地域の知名度向上と観光地としての魅力向上をはかる。	八重瀬公園内一円のさくらの育苗保全を行う。	八重瀬公園内傾斜地に生育しているさくらの、根本土流出保護のため、土留め壁工事を行う。また、それと並行して全体の施肥・枝打ち等の育苗保全を進める。	枯れて倒木しているさくらの撤去及び新木の植樹を行う。 整備完了後: さくらまつり来場者数 7,000人(目標)		
2	破名城の郷整備事業	H24～H28	破名城の浜を整備することにより、観光施設の充実を図り、町のイベントや浜で自然体験等を行うことにより観光振興につなげるため、遊歩道整備工事及び遊歩道用地取得を行う	遊歩道の整備 用地取得 1196㎡	遊歩道の整備進捗率 80% L=420m (全体計画 L=520m) 用地取得率 75% 平成27年度 6筆取得予定1,290㎡ (全体計画 8筆取得予定)	H27年度 遊歩道の整備 H28年度 管理棟、倉庫等の整備	10月変更 (計画変更に伴う活動目標変更)	
2	八重瀬町戦跡整備事業	H25～H27	八重瀬町の地域資源を活用するため、町内で確認されている戦争遺跡を整備し歴史・平和学習等へ活用する。	遊歩道、休憩所の設計及び整備の実施	遊歩道及び休憩所の整備完了	供用開始後の年間施設利用者数: (目標)2万人		
2	運動公園施設等整備事業	H24～H28	スポーツキャンプを誘致、開催するため、サッカー場の芝について、高い品質を確保し、また、ピッチングブルペンカバーを配備し、スポーツキャンプの受け入れ体制を確保する。また、施設案内サイン(看板)の整備を行う。	・ピッチングブルペンカバー整備 ・芝生整備 ・案内板設置工事	県外からの野球チーム(2チーム)、サッカーチーム(3チーム)のスポーツキャンプを受入 案内板設置の完了	H25年度:スポーツキャンプ受入 H26年度～:スポーツキャンプ継続 運動公園を訪れる方に、迷うことなく快適に移動できるような環境を整えることにより観光の振興を図る。	10月変更 (計画変更に伴う事業内容、各目標変更)	
2	資料館観光活用事業	H24～H27	既存資料館を教育的な観光施設として活用を図るため、パンフレット、ワークシートなどを作成し展示を活かした観光客の誘致を図る。	・パンフレット等の作成 ・ガイドブックの作成 ・ワークシートの作成	具志頭資料館入館者数の増 3,313人(過去5年平均) 4,000人	・資料館観覧者及び観光施設、宿泊施設へのパンフレット等の配布 ・資料館ガイドブックの観光施設及び民泊受入家庭への配布 ・資料館観覧者へワークシートの配布		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

八重瀬町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2		港川フッシャー遺跡整備事業	H24 ～ H29	町内から出土した「港川人」を含む更新世化石人骨は東アジアでも発見されているが、保存がよく全体の形態がわかるのは港川人だけであり、貴重な資料として位置づけられている。町では出土地の「港川フッシャー遺跡」を整備し、公開することで、教育や観光資源としての活用を図る。	・公園整備計画の策定(課題の整理、基本方針・基本施策の決定など) ・ボーリング調査、測量	・公園整備に向けて現状、課題の把握 ・公園整備設計に向けてボーリング調査と測量調査の完了	(今後の展開方針) 策定された計画に沿って公園整備を実施し、町のさらなる観光振興を目指す。	
2		八重瀬町コンビニAED設置事業	H26 ～ H28	災害時等において、住民や本町を訪れる観光客等に重篤な傷病者が発生した場合に、その場に居合わせた方がAEDを利用して救急措置が行えるようにするため、町内で24時間営業しているコンビニエンスストアへAEDを設置する。	未設置箇所への設置 AED予備分の追加購入	H27AED設置予定箇所新設2店舗(2台) AED予備機 1台 町内コンビニ数:12店舗 (設置済店舗数10店舗)設置率83.3% 目標設置率 100%	24時間営業しているコンビニエンスストアにAEDを設置することにより、夜間や休日においても重篤な傷病者が発生した場合でもAEDを利用し救急措置を行うことができる。観光立県の観点からも住民及び観光客に安心・安全な八重瀬町を目指す。	5月変更 (事業追加)
2		八重瀬町観光拠点施設整備事業	H27	八重瀬町観光振興基本計画に基づき、本町の観光を推進する拠点機能としての観光インフォメーション施設、特産品等の販売施設、体験型・交流型観光推進施設等の観光振興機能の導入を検討すると共に、沖縄南部観光における中継地点として、道路休憩施設等の設計を実施する。	観光拠点施設の基本設計 観光拠点施設建築設計の実施 観光拠点施設造成測量設計の実施	観光拠点施設建設基本設計の策定 観光拠点施設建築設計の策定 観光拠点施設造成測量設計の策定	平成28年度 観光拠点施設建設目標(施設利用者) :H35年度 300,000人/年	5月変更 (事業追加) 12月変更 (計画変更に伴う各目標変更)
2		八重瀬町サッカーキャンプ事業	H26 ～ H30	観光事業が落ち込む冬場に注目度の高いJリーグ加盟のサッカーチームキャンプを誘致し、観光誘客を図る。	・Jリーグチームの誘致活動 ・地域交流 ・イベント開催、参加	・Jチーム3チーム以上の誘致 ・地域交流:サッカースクール町内小学生50名 ・イベント:ファン感謝まつり等開催 ・キャンプ来客数:8,000人(H24～H26年度平均来客数5,000人)	・継続したJチームのキャンプ開催 ・地域交流事業の開催	7月変更 (事業追加)
2		富盛石彫大獅子(勢理城)周辺整備事業	H24 ～ H27	沖縄県指定有形民俗文化財で県の村落獅子として最大で最古である富盛の石彫大獅子が鎮座する勢理城(ジリグスク)の観光に対し、安全で利便性を高める目的で、富盛の石彫大獅子及び石獅子の立地する勢理城公園の整備工事を行う。	周辺整備工事の実施	周辺整備工事完了	H28年度 観光客数 500人 (基準年:H25年度 約100人)	10月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

八重瀬町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
3			八重瀬町観光ブランド魅力創出事業	H24 ~ H33	本町の地域資源を魅力ある観光資源として提供するために、地域資源の調査・ブラッシュアップを実施し、魅力を伝えるためのプロモーション、体験観光イベントの開催、地域との協働による受け入れ体制の仕組み創り、まち歩き等観光資源の商品プログラム作成を行う。また修学旅行等の受入にむけて体験滞在型プログラムの作成やその仕組みづくりを構築する。	県外観光プロモーションの実施 3回 まちあるきプログラムの開発 3回 体験観光の実証イベント 1回 修学旅行等誘客プロモーション 3回 体験滞在型観光の仕組み創り	体験観光の実証イベント 来客数 500人 まちあるきプログラムモニタリング 3回 体験滞在型観光プログラムの作成 3回 観光プロモーション 3回	八重瀬町の魅力ある観光ブランドを創出し誘客を行っていくために、地域との合意形成を図りながら受け入れ体制の構築とプロモーションを同時に図り、体験滞在型の観光振興を実施していく。 体験滞在観光プログラムの作成目標年度 平成29年度 体験交流人口の増加 1,000人 修学旅行の受入 5回/年	10月変更 (計画変更に伴う事業内容、各目標変更)
3			八重瀬ブランド販路構築支援事業	H24 ~ H33	販路拡大及び地域活性化を図るため、地域ブランドとして「八重瀬カラベジブランド」を用いた販路構築の取り組みを支援する。併せて、八重瀬ブランドの全体的な底上げに向けて、専門家によるハンズオン支援を通して、商品開発等を実施し、八重瀬町の新たなリーディング事業者を育成する。	事業者ハンズオン育成 事業者フォローアップ 移動販売車輦等による販路構築支援 販路構築支援講習会	参画事業者のハンズオン育成 1件 参画事業者のフォローアップ 2件 販路構築支援講習会 4回 新規商品の開発 3件	新規に開発した商品の目標売上額 (平成31年度)1,950千円	10月変更 (計画変更に伴う事業内容、各目標変更)
3			八重瀬町観光プロモーション事業	H26 ~ H33	八重瀬町の観光振興を推進するにあたり、観光施策を構築し積極的な観光プロモーションを実施するため、観光プロモーションの管理業務支援員の配置、発地への観光プロモーション等の旅費、観光パンフレットの作成及びやえせのシーちゃんの着ぐるみの製作及び地域情報発信映画の制作を行う。	プロモーション支援員 2人配置 観光パンフレット作成 観光プロモーション 3回 観光キャラクター製作 1体 地域情報発信映画の制作	観光パンフレットの設置 県内30か所 八重瀬町プロモーションの企画提案実施 5回 県外観光客誘客プロモーション 3回 地域情報発信映画上映会の開催 1回 出演予定回数 40回	八重瀬町の認知度向上を図るために県内外に観光プロモーションを実施し、観光パンフレット等必要な施策を効果的に構築させることにより魅力ある八重瀬町を観光プロモーションしていく。	5月変更 (計画変更に伴う事業内容、各目標変更) 7月変更 (計画変更に伴う事業内容、各目標変更)
3			体験観光受入施設強化事業	H26 ~ H27	八重瀬町には2万2000年前の港川人をはじめ、沖縄県最大最古の村落獅子 富盛の石彫大獅子、平和教育に活用できるガマ等、観光資源が豊富な地域である。しかし、それらを活用するための人材育成の研修施設及び宿泊施設を兼ね備えた拠点施設が無い。ため、これまでセミナーハウスとして活用していた施設を新たに観光及び人材育成研修拠点施設としてリニューアルする。	体験観光受入強化施設機能強化の実施	観光及び人材育成の拠点施設供用開始により、体験交流及び研修の受入体制の確保	目標年度(平成28年度) 体験交流人口の増加:1,000人 (H24年度:0人) 人材育成研修・・・15回/年 (H24年度:3回/年)	7月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

八重瀬町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
4	八重瀬町地産地消フェア事業	H26 ~ H30	本町にて拠点産地に指定されている農作物等や畜産物・水産物及びそれらを使用した加工品等について、イベント開催を通じて地場産業の情報発信や展示販売等を実施し、農林水産業の振興を図る。	・地産地消フェア開催支援(2箇所) ・農作物のPR	・地産地消フェア来場者数:2,000人	・八重瀬町の認知度向上、農作物のPR効果を測定し、今後の事業展開を適切に見直していく。		
4	八重瀬町和牛改良支援事業	H26 ~ H30	農家の経営安定化・質の高い食用牛の改良を進めるため、優良母牛導入に向けて支援を行う。 種雄牛の育種価の脂肪交雑がAランク以上の産肉能力があり、導入時の体高が平均値以上または登録審査時の審査得点が80点以上を見込める雌牛の導入の実施。	優良母牛導入頭数:30頭	優良母牛導入率:40%	H26~H30 優良母牛150頭導入(累計)	7月変更 (事業追加)	
4	ぐしちゃんいい菜栽培体系実証事業	H27 ~ H28	八重瀬町で栽培されている島野菜(カンダバー・ぐしちゃんいい菜)の施設栽培実証実験を行うことにより、施設栽培体系の確立や有効性を明らかにして、施設整備事業の導入を検討し、安定生産及び産地化並びに農業経営の安定化を図る。	施設栽培体系実証実験施設整備の実施	施設栽培体系実証実験施設整備の完了	施設栽培体系の有効性を明らかにし、その成果を踏まえて施設整備事業の導入。安定生産及び産地化並びに農業経営の安定化の促進。	10月変更 (事業追加)	
4	八重瀬町「農と緑」地域活性化推進事業	H26 ~ H28	亜熱帯に適する花、観葉植物、果樹等の苗を種苗ハウス内で育成し、公共施設や住民に配布し、農業の普及・担い手の育成を図る。また、地域農業の活性化に体験農場や農業塾・教室を開き農業体験を通じて農業後継者や新規就農者の育成を図る。	用地購入(2筆:6,591㎡) 造成工事	・用地購入取得率:100% ・造成工事竣工	農業・農村がはぐくむ自然環境・田園環境を目的とし四季の草花や花木類が咲き誇る景観づくりを実施する。緑化の重要性の理解を促し農業体験・学習の場を設け推進していく。	10月変更 (事業追加)	
5	救助艇・牽引車両整備事業	H27	海や川に関する事故・災害等が起こった場合に、迅速かつ確実に対応するため必要な整備を整備し、消防力の強化に繋げ住民や観光客の安心安全を確保する。	消防救助艇:一艇 牽引車両及びトレッラー(各一台)	水難救助体制の機能強化	消防救助艇・牽引車両及びトレッラーを整備することにより、市町民や国内及び国外からレジャーを楽しむために訪れる人々に安心・安全を与える地域を目指す。		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

八重瀬町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
5			八重瀬町地域防災計画策定事業	H26 ~ H27	本町には海岸、河川沿いに面した集落があるが、本町地域防災計画において津波に対する考えが十分ではなく、想定外の被害をもたらした東日本大震災のような大規模災害に備え、住民と本町を訪れる観光客の安心・安全を確保するため、国の防災基本計画や沖縄県地域防災計画を踏まえ、災害対応「初動マニュアル」及び「災害対応時マニュアル」を作成し地域防災計画の強化を図る。	八重瀬町地域防災計画の検討 (各種災害マニュアルの検討)	八重瀬町地域防災計画の策定 (各種災害マニュアル作成)	防災マニュアルを作成することにより災害発生時に迅速・的確な災害対応を行うことができ町民や観光客に安心・安全を与える地域とする。	
5			防災備蓄品整備事業	H26 ~ H28	亜熱帯気候である沖縄県では毎年大きな台風が接近・襲来しており、平成26年度にいたっては、特別警報が発表されるほどの猛烈な台風が襲来している。また島しょ県である沖縄は、大規模災害時には物資の補給が困難となり、孤立してしまう恐れがあります。そのため、町独自で災害に備え、避難所へ避難してきた住民に対し災害用トイレ袋、トイレトイレットペーパー、毛布等の備蓄品を供給できるようにする。	防災備蓄品の購入 災害用トイレ袋 4,000枚 トイレトイレットペーパー 384個 毛布 450枚	目標備蓄数に対する達成率(平成27年度) 災害用トイレ袋 : 66% トイレトイレットペーパー : 68% 毛布 : 67%	平成28年度100%	
6			ハーレー振興事業	H26 ~ H27	毎年、旧暦の5月4日(ユッカヌヒー)に行われる港川ハーレー(爬竜船競争)は、海人(ウミンチュ)の豊漁と航海の安全、集落の安泰を祈願して行われています。しかし、ハーレー舟の老朽化や保管場所がないため、新たにハーレー舟の造船、ハーレー舟保管の格納庫を整備する。	ハーレー舟の造船 保管格納庫の整備	ハーレー舟の新造船 3隻 ハーレー舟保管格納庫整備	伝統行事の保存継承及び本町、地域の活性化を図る。	
7			沖縄戦関係資料公開事業	H27	本町は沖縄戦末期、近くに日本軍の司令部が置かれ、激戦地となったことで、町は壊滅状態となり人口の5割近くが犠牲になった。戦中は、日本軍によって町内に陣地が構築され、白梅学徒隊が動員された野戦病院も置かれた。町では既存の資料館に、これまで収集した白梅学徒隊の資料をパネルにし公開する。また、元郵便局長の戦前から戦後までの日記資料の冊子を作成し公開する。	・白梅学徒隊関連パネル作成 ・仲本日記資料作成 200部	・戦争の悲惨さ、平和の尊さへの意識の向上を図る ・仲本日記資料の県内教育機関、町内教育機関への配布 200部 ・白梅学徒隊関連資料のパネルを既存資料館への設置	具志頭資料館にて、戦争資料展を開催する。	
8			謝花昇顕彰事業	H27 ~ H32	八重瀬町の偉人である自由民権運動の父「謝花昇」の生誕150周年の節目でありこの機会に町民にその功績を広め偉人顕彰に対する気運を高める。また全国的に謝花昇先生の認知度を高めることにより八重瀬町のPRにもなる。	・謝花昇顕彰事業「墓前祭」の開催 ・町内児童生徒を対象とした謝花昇演劇上演会の実施 ・シンポジウムの開催	墓前祭の実施 約50名 謝花昇演劇上演 (町内中学校×2校、小学校×4校 約3,800名) 謝花昇関連シンポジウムの開催 約200名	謝花昇を顕彰することにより、謝花昇の功績を知り、住民が町の偉人に対する愛着心を醸成し、考え行動する機会になる。	5月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

八重瀬町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
8		謝花昇関係資料活用事業	H27	本町出身の謝花昇は自由民権運動の父と呼ばれ、明治時代、沖縄で参政権運動を行い活躍した。謝花昇関連資料をとおして沖縄近代史を学ぶ取り組みを行う。	・「謝花昇ガイドブック製作」 ・「謝花昇資料展」の開催 ・「謝花昇ゆかりの地を歩く」の開催	謝花昇ガイドブック制作 10,000部 謝花昇資料展の開催 600名 「謝花昇ゆかりの地を歩く」の開催 25名	貴重資料をとおした沖縄近代史の学習効果を図る。 資料館で展示会を開催し、一般への資料の公開を行う。	5月変更 (事業追加)
9		「夢・未来」スポーツレベルアップ事業	H27 ～ H29	八重瀬町民のスポーツへの意識を高めるとともに、沖縄県及び全国レベルの各種競技大会での八重瀬町出身選手の活躍を支援する。	・トップアスリートによるスポーツ教室 ・競技力向上を目的とした講演会の開催 ・児童生徒の県外派遣費の支援	トップアスリート「夢・未来」サッカースクールの開催 競技力向上メンタルトレーニング講習会の開催 児童生徒の県外派遣費用に関する派遣支援によるスポーツ促進 教室参加者数 100名 講習会参加者数 200名	高いレベルの技術に直接触れることにより「夢・希望」を持たせる。未来を担う人材育成を図り、また指導者の資質向上を図る。町内の児童生徒が県外大会へ参加する際に必要な派遣費を助成し、競技スポーツ参加への意識啓発の拡大を図る。	5月変更 (事業追加)
10		子育て世代ゆいまーる支援事業	H27 ～ H33	低所得故に共働き世代が多い沖縄県においては、待機児童も多く、この受皿となる保育施設の充実や子育て支援の充実は特に必要であるため、これに関連する各種施策を実施する。	・町内6カ所の放課後児童クラブへの巡回事務支援 ・各学童クラブ空き状況の集約 ・各学童クラブの情報交換の連携補助	指導員が保育業務向上を図れる環境整備。 各学童クラブの施設情報・空き状況の情報管理及び窓口での情報提供。	今後も指導員の保育業務向上を図れる環境整備を進めるとともに、学童クラブの施設情報・空き状況の情報管理及び窓口での情報提供に努める。	5月変更 (事業追加)
11		教育施設省エネ化推進事業	H25 ～ H27	環境にやさしい教育施設を推進するため、照明設備をLED化し省エネ化を図る。公立学校施設の照明設備LED取替工事を行う。	LED取替工事の実施	東風平小 改修後CO2排出量 11,618kg (改修前CO2排出量 22,704kg) 具志頭中 改修後CO2排出量 9,055kg (改修前CO2排出量 15,076kg)	CO2の削減により、地球温暖化防止に期待される。 現在使用照明とLED照明の置き換え消費電力を比較した場合に省エネ効果が期待できる。	7月変更 (事業追加)
11		公立学校環境整備事業	H27	各小中学校のプールへ、紫外線対策の日除けネットを設置する。	プール日除け設置工事の実施 小学校 2校 中学校 2校 中学校 2校	小学校 2校 中学校 2校 設置率 100%	児童生徒を熱中症や日焼け等の健康被害から防ぎ、夏季の安心な屋外プール教育が推進できる。	10月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

八重瀬町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
11		八重瀬町中央公民館耐震診断事業	H27	自然災害や人為的災害から守るための災害時に住民等が避難する場所である当施設が老朽化しており、安全性の確保が必要であるため当施設の耐震診断調査を実施する。	耐震診断の実施	耐震診断結果の検証	防災拠点施設の耐震診断調査を実施することにより、防災力の強化が図られる。また、災害に強いまちづくりも推進され、住民等の精神的な安心につながる事が期待できる。	10月変更(事業追加)
11		幼稚園環境整備事業	H27	具志頭幼稚園と具志頭小学校の間にある法面は、崩落の危険性があることやハブの生息地となっていることから、園児や児童の安全を確保するため整備を行う。	法面整備工事の実施	法面整備工事の完了	災害時の避難場所である、両施設間の法面を整備することにより、法面崩壊を防ぎ安全に幼児や児童が災害時に安全に避難することができる。また、ハブの生息も根絶され安心な教育環境が期待できる。	12月変更(事業追加)
12		浮魚礁設置補助事業	H27	新たに中層浮魚礁を設置することによってマグロ、カツオ等の水揚げ量も増え漁業者、遊漁船の経営の安定化を図るため、中層浮魚礁を設置する。	中層浮魚礁設置 1基	既存の表層浮魚礁は、台風等で流失の確立が高く漁獲に支障をきたす為、流失の確立が低い中層浮魚礁を設置して漁業、遊漁等の安定した操業を目指す。	H27年度に整備した中層浮魚礁の漁獲量等を検証し、今後の浮魚礁の増設について検討を行う。	7月変更(事業追加)
13		健康いきいきウォーキングマップ作成事業	H26 ~ H30	ウォーキングは「歩く」という誰にでも参加しやすい運動で町民のスポーツ参加のきっかけを促進し、また内外から多くの参加者を集めることができ、観光面や経済効果といった波及の側面も持ち合わせている。ウォーキングマップを作成し、楽しさを実感、習慣化させることで「健康長寿沖縄県・八重瀬町」を復活させ、また、八重瀬町を健康スポーツ活動拠点として内外に発信し、地域活性化を図る。	ウォーキングマップの作成:2,000部	ウォーキングコースを設定し、マップの作成・配布をすることでウォーキングに取り組みやすい環境を整える。	健康を脅かしている生活環境の変化に対応し、日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支える活動に参画させ、「健康増進」「青少年の健全育成」「地域社会の再生」「経済発展への寄与」「国際交流」等の効果をねらう。	7月変更(事業追加)
14		やえせのシーちゃん広場整備事業	H27 ~ H28	八重瀬町では土地区画整理事業による総合的な魅力を持った交流拠点としての整備により、新たな中心市街地の形成を目指しており、新しい中心地に「やえせのシーちゃん広場」を整備することで、にぎわいを創出し本町の活性化を図る。	シーちゃん広場設計委託の実施	シーちゃん広場設計書作成の完了	広域的な交流拠点として、多くの人やもの等のにぎわいが創出され、本町の新しい中心地としての活性化に期待ができる。	10月変更(事業追加)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

多良間村		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
バ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			観光関連施設整備事業(東屋等)	H25 ~ H27	本村の地域資源を活かした観光産業の振興を図るため、観光関連施設等に東屋等を整備し快適な環境づくりによる観光地形成を推進する。	観光関連施設へ東屋等の整備	観光関連施設に東屋等を整備する。 ミッジ公園:1棟 前泊地区:1棟	公園等を整備することにより、新たな観光メニューを整備し、観光客を誘致する。	
1			美化緑化推進事業	H25 ~ H33	観光地形成に向け、公園・道路等の主要施設の環境美化を行い、観光関連施設の緑化推進を図る。	年間をとおして美しい環境で利用できるようにする。	観光関連施設及びアクセス道路の美化・緑化の実施 農村公園、ふるさと海浜公園、八重山遠見台、ミッジ公園等8箇所	年間をとおして美化・緑化の行き届いた施設を利用して観光客誘致を進める。	
1			観光関連施設整備事業(食事・土産品施設)	H27 ~ H29	本村の地域資源を活かした観光産業の振興を図るため、観光客への食事・お土産品の提供の場を整備し快適な環境づくりによる観光地形成を推進する。	食事・土産品施設の基本計画の策定の実施	食事・土産品施設の基本計画の策定の完了	施設等を整備することにより、観光客の増加と観光産業の振興を図る。 ・供用開始後の利用者見込み 4,200人	10月変更(事業追加)
1			八重山遠見台展望塔機能強化整備事業	H27	本村の地域資源を活かした観光産業の振興を図るため、八重山遠見台展望塔の機能強化を行い、観光客等利用者の利便性の向上及び安全確保を図り、快適な環境づくりによる観光地形成を推進する。	八重山遠見台展望塔の機能強化のための実施設計及び整備の実施	八重山遠見台展望塔の機能強化のための実施設計及び整備の完了	施設等を整備することにより、観光客の増加と観光産業の振興を図る。 ・利用者見込みH28年度:3,500人 (参考 H26年度:3,150人)	10月変更(事業追加)
2			多良間村観光振興基本計画策定事業	H27 ~ H28	多良間村は、農業を中心とする村であるが、これからの若者の定住を図るためには、観光産業の振興は不可欠である。その柱となる振興計画を策定する。	観光振興基本計画の策定	村の観光振興にかかる課題の把握及び指針の整理 ・計画に基づく新たな観光メニューの開発 ・計画に基づく、ハード、ソフト事業の整備 ・計画に基づく、地域資源の把握と利活用	総合計画を策定し、計画に基づき事業を実施する。	
3			イネヨトウかく乱法防除事業(フェロモンチュウブ)	H25 ~ H29	さとうきび生産安定と品質向上を図るため、フェロモンチュウブを設置し、雌を探す雄の行動を阻害し、交尾率をていかささせることにより、イネヨトウの次世代密度低下を図る。	さとうきびのイネヨトウ被害を防ぐためフェロモンチュウブ設置による防除を行う。 フェロモンチュウブ設置対象面積 A = 381ha	イネヨトウを防除することで、さとうきびの生産安定と品質向上を図ることで、地域の農業振興の発展に繋がる。	(今後の展開方針) イネヨトウの繁殖、被害状況等を調査しながら今後も実施していく。	
3			多良間新製糖工場整備事業	H27 ~ H28	当村の基幹産業であるさとうきび・糖業の安定した生産体制の確立をはかるため、農家の生産意欲を高め製糖事業者の製糖コストの軽減、製品の品質向上及び安心・安全な製品の確保を図るため、含みつ製糖施設を整備する。	不発弾事前探査委託業務、用地造成工事調査測量設計委託業務、用地造成工事の実施	不発弾事前探査委託業務、用地造成工事調査測量設計委託業務、用地造成工事の完了	(今後の展開方針) ・平成29年度供用開始	
4			小学校空調設備設置事業	H27	亜熱帯気候である沖縄県は、年間をとおして高温多湿な状況が長期間続くことから、児童の学習環境を改善し、学習に集中できる環境を整備するため空調設備を整備する。	小学校空調設備の整備	小学校空調設備の完了 普通教室3年生から6年生の4教室に各1台ずつ設置する。	(今後の展開方針) 学習環境の改善による、学力向上を図る。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

多良間村		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
4	児童生徒島外教育諸活動助成事業	H27～H33	島外で実施されるスポーツ大会、文化交流会等、各種教育活動に積極的に参加し、離島の小規模校では体験できない他地域の児童生徒との交流で意識の高揚、スポーツの技術力向上等、未来を拓く子ども達の能力向上を図る。	各種大会への児童生徒派遣	児童生徒の派遣による交流推進と意識高揚	(今後の展開方針)引き続き各種大会へ派遣し、児童生徒の意識高揚、能力向上を図る。		
4	ふるさと文化担い手継承事業	H27	学校教育において、児童生徒に対応した教育プログラムを充実し、生涯学習機会の提供などの学べる環境づくりを図るため副読本を作成する。	副読本の作成 作成予定数量:700冊	副読本の活用による地域の産業・文化等を学べる環境づくりを確保 地域社会を学ぶ教材として活用しながら、地域住民も学べる資料と位置づけて作成する。	(今後の展開方針)副読本の活用による生涯学習をすることで、郷土に誇りと愛情をもてる人材を育成する。 副読本を活用して子どもから大人まで地域を学ぶことで、郷土に誇りと愛情を持てる人材育成に繋がる。		
4	学力向上推進ALT活用事業	H27～H33	学校教育において、国際化社会に対応できる児童生徒の学力向上を図るため、ALTを招聘し国際感覚を養いながら児童生徒の英語力の向上を図る。	ALT活用による英語力の向上	ALTを招聘して児童生徒の英語力向上を図り、国際化社会に対応できる人材を育成する。	ALTを活用して国際化社会に対応できる国際感覚を養いながら児童生徒の学力の向上を図る。	10月変更(事業追加)	
5	優良繁殖雌牛導入支援事業	H27～H31	生産農家の経営の安定化及び良質な肉用牛の改良推進を図る為、優良繁殖雌牛導入を支援する。 優良繁殖雌牛を導入する際に購入費の税抜き価格の1/2以内で最高30万円までを支援する。それにより母牛の更新及び改良の推進を図る。	優良繁殖雌牛の導入頭数:15頭	H27～H31の5年間で75頭 H27優良繁殖雌牛導入率:20%	H27～H31の5年間で75頭(15頭×5年)の優良繁殖雌牛を導入予定	7月変更(事業追加)	
6	定住環境促進事業	H27	急激な人口減少と少子高齢化対策として、多様な担い手・後継者・Uターン者等の住まいを確保するための多用途住宅を整備する。	定住促進住宅整備	定住促進住宅整備の完了	住宅の確保をすることで、Uターン者の受け入れが可能となり定住人口の増加に繋げる。	7月変更(事業追加)	
7	多良間村自動車航走コスト負担軽減事業	H27～H33	離島住民の利便性向上を確保するため、高額である宮古島・多良間島間のフェリー自動車航送に係る運賃補助を実施し、自動車航送運賃コストを軽減を図る。	宮古島 多良間島間の自動車航走コスト負担の軽減	自動車航走コスト負担軽減による、定住環境の改善	自動車航走コストの負担軽減により、離島の地理的条件の不利性を軽減し定住環境の改善に繋げる。	7月変更(事業追加)	
8	資源循環型農業推進事業	H27	流木、家庭から出る剪定樹木、基盤整備促進事業、防風林施設整備事業等により発生する雑木等を利用して木材破砕機でチップ化し、肥料の副資材として活用することで資源循環型農業を推進するため、木材破砕機、関連機械を整備する。	木材の堆肥化のための備品購入 木材破砕機 油圧ショベル ホイールローダ 運搬車	堆肥施設の機能拡充	有機肥料を活用した資源循環型農業を推進する。	10月変更(事業追加)	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

竹富町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			定住条件整備プラン	H24 ～ H33					
1			子育て支援事業	H24 ～ H27	育児サポーターを養成し、地域の中で子どもを預けられる仕組みを支援し、安心して子育てできる環境を整備する。	・スキルアップ研修:1回 ・会員相互の交流会:1回 ・育児サポーター養成講座開催:1回	・養成講座修了者数:6名 ・会員相互の技術向上を図る研修会/交流会の参加10名	・竹富町ファミリーサポートセンターの利用促進	
1			妊婦支援事業	H24 ～ H33	妊婦が安心して出産が迎えられるよう妊娠出産にかかる経済的負担軽減を図るため、妊婦が船舶及び航空機を利用した場合における運賃並びに出産待機宿泊費について支援する。	・妊婦旅費支援人数 50人(350回) ・妊婦宿泊支援人数 20人(400日)	・妊娠中に母子共に健やかに過ごせる環境及び安心して出産できる環境の確保	・妊婦支援による定住促進を図る	
1			健康診査用機材搬送事業	H26 ～ H33	集団検診(住民健診・胃がん検診・婦人がん検診)時における検診車の海上輸送運賃の負担軽減を行い、健康診査受診の促進を図る。	・検診機材搬送年3回実施 (検診3回×6島=18件)	・3検診の総受診者数 1,600名	・健康診査受診の促進を図る	
1			竹富町お出かけサポートモデル事業	H26 ～ H27	高齢者や障害者等の外出機会の増加による自立生活の助長を図るためのお出かけサポート事業を西表西部地区を対象に実施する。また利用実績等を基に、他地区への展開について検証する。	・送迎サービスの実施 4月～3月 ・アンケートの実施	・年間利用者数見込み:延べ人数500人 ・本格運行に向けた利用料金及び利用状況の把握	・アンケートおよび利用実績等を分析検討し、28年度以降他地区へ展開していく。	
1			黒島・大原間定期航路運行モデル事業	H27	定期航路のない島間を就航し、これをモデル事業として島間を往来する利用者の利便性向上・島間航路の確保を行い、交流人口の増加による地域振興を図る。	・島間航路の確保(1日2往復)	・本航路の島間移動の利用者の把握及び、島間航路の確保による利便性の向上。 ・利用者見込み数:年間1,600人	・島間航路の増設による生活の利便性を高め、観光商品の造成を合わせて行うことにより地域振興を図る。	5月変更(事業追加)
1			竹富町民等船賃負担軽減事業	H27 ～ H33	島々を結ぶ高速船の船賃をJR料金並みにすることで、竹富町民等の交通費に要していた負担を軽減すると共に、生活の利便性を高める。	・町民等の船賃の支援	・対象航路の利用客数の増加 74,700人(基準年度H25) 93,400人(25%増)	・竹富町民等の交通費に要していた負担を軽減し、利用者の増加とともに生活の利便性を高め、定住条件の整備を図る。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

竹富町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1		複合型福祉施設整備事業	H27 ～ H33	本町での、質の高い幼児期の学校教育・保育及び地域の子ども・子育て支援事業と、各地区の高齢者等を対象とした介護予防等の活動拠点となる福祉施設を、地域に即した「複合型福祉施設」として整備するための基本計画を策定し、それに基づいた各地区の拠点整備を実施する。	・基本計画策定(波照間島・小浜島・西表島上原)	・複合型福祉施設整備を目指す本町7地区のうち、3地区(波照間島・小浜島・西表島上原)での基本計画の策定完了。	・策定された基本計画を基礎とし、3地区(波照間島・小浜島・西表島上原)への複合型福祉施設の整備を進める。また、残りの4地区(西表島2地区・竹富島・黒島)についても、順次基本計画を策定していく。	10月変更(事業追加)
2		観光整備プラン	H24 ～ H29					
2		うなり崎公園整備事業	H24 ～ H27	旧太陽の村(観光施設)跡地の公園整備を図り、優れた景観を活かし新たな観光スポットとして活用を図る。	・公園等整備工事の実施(3工区) 駐車場1,000㎡、芝公園9,000㎡、園路1,000m	・公園等整備工事完了(整備率:100%)	・H28年度 供用開始 年間2,000名の利用を目標とする	
2		観光誘客・受入対策事業	H26 ～ H29	本町の滞在型観光を促進することを目的とした誘客宣伝活動及び受け入れ体制強化・整備する。	・宿泊支援システムの導入10箇所追加 ・滞在型観光関連3講義×4=12回 ・誘客宣伝6会場(国内)	・宿泊システムを導入した民宿等の宿泊者(各宿の平成26年度実績を基準)5%増 ・観光客誘致活動(イベント等)での来場者数 8万人 ・竹富町入域観光客数115万人	・H29年度までに平均滞在日数を+0.3泊(=1.0泊)に延伸	
2		小浜島観光関連事業	H27 ～ H28	小浜島へ訪れる数多くの観光客に安心、安全で快適な観光誘客を図っていくために、西大岳展望所への遊歩道の整備と大型バス対応の駐車場の整備を行う。	・遊歩道100m、駐車場300㎡の設計の実施	・H28整備に向けた遊歩道・駐車場の設計の完了	・H27年度:委託設計 ・H28年度:遊歩道・駐車場整備 ・登岳の安全性向上に資する。	
2		波照間観光関連事業	H27 ～ H28	波照間島へ訪れる観光客の増加に伴い、観光スポットへの通行の利便性、新たな観光地の整備、観光客への印象向上を図るため、進入道路等の整備を行う。	設計の実施 ・高那崎:進入道路450m、駐車場600㎡ ・星空観測ター-:進入道路40m、駐車場600㎡ ・ニシ浜ビーチ:進入道路110m、駐車場600㎡	・H28整備に向けた進入道路、駐車場の設計の完了	・H27年度:委託設計 ・H28年度:進入道路・駐車場整備 ・観光客受入体制の充実	12月変更(計画変更に伴う活動目標変更)

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

竹富町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2		忘勿石進入道路等整備事業	H26 ~ H28	西表東部の南風見田海岸にある忘勿石之碑へ続く歩道は未整備であり、観光客が立ち寄りにくい現状にあるのでこれを改善するため、駐車場と進入路、遊歩道の整備を行う。	・用地の選定と取得 ・忘勿石之碑への遊歩道89mの整備着手	・用地取得および遊歩道89mの整備完了	・H27～28年度・遊歩道及び進入道路・駐車場の整備 ・H29年度 供用開始 ・平和学習や団体ツアーの観光地として活用	
2		竹富町フリーWi-Fi環境整備事業	H24 ~ H27	本町に訪れる観光客等の利便性向上と地域住民への新たな行政サービスの展開を図るため、平成25年度で整備した町内の公共施設、主要観光スポット等のフリーWi-Fiエリア拡充に向けた基盤整備を行う。	・新規フリーWi-Fi整備：7箇所	・新規フリーWi-Fi整備完了	・観光客等の利便性向上と展開に取り組む	
2		竹富島観光関連事業	H27 ~ H28	竹富島には年間40万人余りの観光客が訪れ、その多くの方々が、星砂で有名なカイジ浜にて観光を楽しんでいる。しかし、周辺には休憩施設等が無く、多くの方が不便をきたしている現状がある。ついては、安心、安全で快適な観光が出来、これまで以上に観光満足度を向上させ、さらなる誘客を図っていくためにもこのカイジ浜周辺に休憩施設等整備を行う。	・休憩施設等の設計実施 ・用地取得	・休憩施設等の設計完了	・H27年度：委託設計、用地取得 ・H28年度：休憩施設等整備	7月変更 (事業追加)
2		ムシャーマ公園整備事業	H27 ~ H28	波照間島の中央に位置するムシャーマ公園は、島の伝統行事「ムシャーマ」の会場として多くの地域住民及び観光客等が利用する。また、祭日以外の日においても波照間島を訪れる多くの観光客の立ち寄り場所でもある。しかし、周辺には公衆トイレ及び休憩所等がなく、訪れる多くの方が不便をきたしている現状がある。そのため、さらなる観光満足度及び利便性向上を目指すためにムシャーマ公園内に公衆トイレ等を整備する。	・ムシャーマ公園のトイレ休憩所等の設計実施	・トイレ休憩所等の設計完了	・平成28年度：トイレ休憩所等整備	10月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

竹富町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2			小浜島結願祭会場整備事業	H27 ~ H28	小浜島の結願祭は、国の重要無形民俗文化財の指定を受けている「小浜島の盆、結願祭、種子取祭の芸能」の一つで、その現地公開は嘉保根御嶽にて行われており、毎年多くの人々が参加している。しかし、会場にあるトイレの老朽化により、地域住民及び観光客等に不便をきたしている。祭事へ参加する地域住民及び見学に訪れる観光客の利便性等を向上を目指すためにも、会場内にトイレの整備を行う。	・結願祭会場のトイレ設計実施	・トイレの設計完了	・平成28年度：トイレ等整備	10月変更 (事業追加)
2			竹富町観光受入施設安全対策推進事業	H27	広範囲に点在する16の有人・無人の島々からなる島嶼型自治体の竹富町では、島々の玄関口である港湾等を利用し多くの観光客及び地域住民が行き来しており、入域客数は年間115万人を突破している。こうした多くの人々が往来する本町において、安心・安全な観光地形成及び暮らしを維持するため、島々の玄関口である港湾等の主要なカ所に防犯カメラを整備する。	・各港湾施設等への防犯カメラの設置工事	・防犯カメラ設置の完了	・防犯カメラを活用した本町においての防災・防犯の意識向上	10月変更 (事業追加)
3			教育促進プラン	H24 ~ H33					
3			読書支援事業	H24 ~ H33	図書館設置が困難な地理的条件にある本町の幼児、児童生徒を含む地域住民への生涯学習支援として学校図書館を地域へ開放する取り組みとして、学校図書館へ人員を配置し活発な読書支援を図る。	・学校図書室の地域解放 ・保育所等への読み聞かせ実施(月1回) ・地域への広報(図書館だより)配布 ・掲示	・読み聞かせ児童 100名/年 ・黒島 学校図書館利用人数(地域住民) 75人/年 ・小浜 学校図書館利用人数(地域住民) 100人/年	図書支援員の巡回 各15回/月(黒島校・小浜校)	
3			児童生徒派遣費支援事業	H24 ~ H33	児童生徒のスポーツ等の各種大会等への派遣費を支援し、負担軽減や各種大会等での貴重な体験経験を活かした人材育成等、沖縄本島との離島の格差是正を図る。	・児童生徒選手等派遣支援	・児童生徒選手等派遣人数 : 470人	・H28年度 児童生徒選手等派遣人数 : 470人 【基準年度: H24年度(476人)】	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

竹富町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考		
パ	細				H27事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等	補足説明等
					H27事業内容					
3			学校ICT支援員派遣事業	H26 ～ H30	児童・生徒の学習意欲等の向上を目指し、教育用PC・電子黒板・タブレットPC等のICT機器を効果的に活用した分かりやすい授業の実現を支援するため、各小中学校へICT支援員を派遣する。	・各学校、月に1回の派遣 ・ICT支援員による教職員向け研修 小中学校13校×2回	・2日に1回以上授業でICT機器を使用する教職員数：80%以上	・H26年度～H30年度 各年度1名支援員派遣 ・教職員のICT機器使用率100%		
3			デジタル教科書整備事業	H27 ～ H28	ICT教育環境の向上を図り、児童の学習への興味関心を高めるため、デジタル教科書を各小学校へ整備する。	デジタル教科書の導入 小学校11校 7教科	・デジタル教科書の導入完了 (授業でのデジタル教科書の充足率100%) ・指導単元ごとの活用率100%	デジタル教科書を活用した学習機会の増加を図り、授業でのICT機器の活用を促進する。		
3			外国語指導助手派遣事業	H27 ～ H31	生きた外国語や外国文化・生活に触れる機会を提供し、外国語によるコミュニケーション能力の向上と国際感覚の養成を図る。	・外国語指導助手の派遣 150回/年 小学校11校 幼稚園3園	児童のコミュニケーション能力向上について担当教諭へアンケート調査を行い、各学年80%以上を目指す。 幼稚園：初歩的な外国語を聞きまねることができる。 小低学年：初歩的な外国語を聞き理解することができる。 小中学年：初歩的な外国語を聞き理解し、答えることができる。 小高学年：初歩的な外国語の運用(質問したり、答えたり)ができる。	H27年度～H31年度 各年度1人外国語指導助手派遣		
3			教育環境整備事業	H26 ～ H28	気温が高い期間が長期にわたる沖縄の亜熱帯気候に対応するため、教育施設の空調設備の整備を行う。	空調設備の設置 ・小学校5校：普通教室21教室 ・中学校3校：普通教室7教室	・全体計画17校57教室のうち、H27末時点で整備目標：10校35教室 (全体計画の進捗率：約60%)	・H28の空調設置 小学校3校12教室 中学校4校10教室		
3			芸術文化体験事業	H27 ～ H31	離島・へき地である竹富町においては、普段の生活圏ではクラシック音楽等を鑑賞する機会が極端に少ない。本町の各島にてクラシックコンサートを開催し、地域の子どもからお年寄りまでが体験することにより、生涯教育の推進と町民生活の質の向上を図る。	・西表島でのクラシックコンサートの開催	・西表島クラシックコンサート開催での参加者200名	・竹富島、小浜島、黒島、波照間島等竹富町の各島々でのクラシックコンサートの開催	10月変更 (事業追加)	
4			環境保全と産業振興プラン	H24 ～ H33						

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

竹富町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
4	竹富町和牛生産推進事業	H24 ~ H33	優良母牛の導入支援(購入費の1/2以内上限30万円)及び口蹄疫の進入防止対策を実施し、本町の基幹産業である農業畜産の生産基盤整備、環境整備を強化することで産業の振興を図る。	・離島港湾靴底消毒用マット設置4カ所(竹富・小浜・黒島・波照間) ・優良遺伝繁殖雌牛導入支援	・口蹄疫等の侵入リスク低減 ・優良遺伝繁殖雌牛導入助成頭数142頭(進捗率 69.8%) (H33年度迄導入目標750頭: H24~26年199頭導入)	・H33年度: 子牛平均価格380,000円 基準年度 (H23年度:327,000円)	10月変更 (計画変更に伴う成果目標変更)	
4	竹富町ペット適正飼養推進事業	H24 ~ H33	西表島の貴重な生態系の保全、特に絶滅危惧種であるイリオモテヤマネコの生息、生育を保全するため、西表島におけるペット適正飼養を推進する。	・逸出ペットの保護収容 ・収容個体の各種ウイルス検査等 ・ペット適正飼養推進会議の開催 1回 ・適正飼養普及啓発講演会の開催 4回	・各検査や適正飼養に関する啓蒙活動を展開し、逸出ペットの発生を年間10頭以内に抑制	・継続拡大して竹富町ネコ適正飼養条例の普及啓発を図る		
4	観光道路美化推進事業	H24 ~ H33	魅力的な観光地づくりの推進を図るため、観光客が特に往来する観光道路の美化清掃と植栽を実施する。	観光道路(4路線)の美化および植栽整備 ・竹富一周線:3,285m ・細崎線:3,033m ・住吉1号線:2,512m、 ・波照間海岸線:4,078m	・魅力溢れる観光地の形成	・継続して清掃を行うとともに、地域の方も自主的に取り組むよう啓発を行う。		
4	文化財保全事業	H24 ~ H33	本町が有する文化財の美化保全を推進し、本町の特有の歴史文化や景観を観光資源として活用し観光産業の振興を図る。	文化財美化保全実施箇所数 ・国指定文化財:4箇所 ・県指定文化財:1箇所 ・町指定文化財:8箇所	・地域の歴史や文化にふれる事のできる環境の充実化	・観光等の利用状況により、清掃箇所や時期を検討する。		
4	ビサダ道保存整備事業	H26 ~ H27	西表祖納集落に隣接するビサダ道は、高台に集落が位置していた時代に利用されていた歴史の道である。当該文化財の保存のために補修工事を行うとともに、津波災害時に高台に避難する道路としても利用できるよう整備を行う。	・保存修理工事の実施	保存修理工事の完了 ・破損箇所の修復 ・排水施設の整備 ・手摺の整備	・H27年度共用開始	5月変更 (事業追加)	
4	文化財説明板整備事業	H27 ~ H30	国内外から訪れる観光客等に町内に所在する指定文化財を分かりやすく説明するため、多言語(日本語、英語、中国語)による説明板を整備し、本町の文化財を活用する事によって観光振興を図る。	・文化財説明板2箇所の設置	・文化財説明板2箇所の設置完了	・平成27年度の実績を参考とし毎年度4箇所程整備していく。	10月変更 (事業追加)	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

与那国町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H27活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
1	観光客等誘致促進・受入体制強化事業	H24 ~ H33						
1	地域振興対策事業	H24 ~ H33	「日本最西端与那国島国際カジキ釣り大会」及び「与那国島一周マラソン大会」に、これまでの入賞者やゲスト等を招くことにより既存の観光イベントへの参加促進を図る。また、夜間のイベントとして、島内では滅多に行われない花火の打ち上げ、他の体験型観光メニューへの参加者の招待などの企画もを行い、既に定着しているイベントとの連携を図る。このような複合かつ多様な「イベント」の連携を図り、かつ、内容の「情報発信」を行うことで、観光客等の誘客と滞在時間の長期化を促進し、地域振興に結び付けるための支援を行う。	カジキ釣り大会の支援(7月) 一周マラソン大会の支援(11月)	イベント開催月入域観光客数 H27年度 カジキ釣り大会:2,400人(7月) 一周マラソン大会:3,000人(11月) 合計:5,400人	(今後の展開方針) イベント開催月入域観光客数 H33年度:6,000人 H24実績:5,100人 H25実績:5,200人 H26実績:5,300人 H27目標:5,400人		
1	与那国島特産品アピール力強化事業	H25 ~ H29	離島地区であり、日頃より触れる機会の少ない与那国町の特産品の良さを知らせてもらう為に、県内及び県外の物産展などの集客力を利用し出展を行い、特産品のPRを行って県内及び県外への販路開拓を図る。また、前年度に引き続き参加事業所には更なるレベルアップした店舗レイアウトや陳列方法、POPの作成方法などの専門家による事前講習を行い、より魅力を伝える事の出来る特産品のアピールを目指す。	講習会の開催、特産品の県内及び県外の物産展への出展 講習会4回 県内出展1回、県外出展1回	販売促進及びPRの向上、物産展出展による特産品販路拡大 前年度とのレイアウト及びディスプレイ等での評価及び実績	(今後の展開方針) H29年度:出店数:15業者 H29年度:物産展出展数:15業者 H25実績:8事業者 H26実績:10事業者 H27目標:11事業者		
2	農水産業活性化事業	H24 ~ H33						
2	与那国町農業用水対策事業	H24 ~ H27	安定した農業生産基盤を構築するため、農業用水を年間を通して確保するため、かんがい排水施設を整備し生産効率の向上を図るため近代生産施設の導入を実施する。	かんがい施設整備の実施 かんがい施設整備箇所数:1箇所 桃田原地区受益面積:34,499㎡ 桃原地区受益面積:35,505㎡	稲作における生産高の伸び率 前年度比5パーセント増 H26年度玄米生産高:57,904kg H27年度玄米生産目標:60,799kg	(今後の展開方針) 基準年(H23):玄米生産高 93t H28年度:玄米生産高 120t		
2	与那国町さとうきびイネネットウ防除事業	H25 ~ H29	さとうきびの安定生産を図ることを目的に、夏植え60ha、春植え10ha、株出し20haを対象に農薬購入に対し支援を行う。	農薬購入費の支援の実施	農薬購入費の支援の実施 補助農家数:98農家 基準年(H24)平均単収:4t H27年度目標単収:6t	(今後の展開方針) 基準年(H24)平均単収:4t さとうきび収穫反収向上 H29年度 1haあたり:平均反収6トン		

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

与那国町		事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業番号	パ 細			H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2		優良牛繁殖雌牛導入事業	H25 ~ H33	与那国町の和牛生産を推進すると共に、繁殖雌牛の生産基盤の拡充・強化を図り、改良を促進し、肉用牛の資質向上を図るために、与那国町の農業従事者団体に対して、優良繁殖雌牛購入費用の一部を支援し、購入費用の1/2以内、1頭当たり300千円を上限として助成するものとする。与那国町の繁殖雌牛頭数800頭の約10%で見込んだ80頭(年間20頭)を目標に4年計画で導入する。	優良牛繁殖雌牛導入の実施	優良牛繁殖雌牛を、20頭以上導入	(今後の展開方針) 基準年(H23):子牛平均価格 300,000円 H33年度:子牛平均価格350,000円	
2		水産物輸送コスト負担軽減事業	H25 ~ H33	与那国町は、離島のさらに離島であるが為、地理的不利性を解消し、水産業の活性化を図るため、与那国町漁業協同組合が沖縄本島へ出荷する生鮮水産物の空路輸送料に対し支援を行う。	生鮮水産物の空路輸送費支援の実施	生鮮水産物の出荷量 27年度2.6トン(25年度2.4トン)	(今後の展開方針) 基準年(H25):平均漁獲高: 2,500,000円 H33年度:平均漁獲高:3,000,000円	
2		与那国町漁業担い手育成プラン実施事業	H26 ~ H33	小規模離島である与那国町では漁業は重要な産業の一つである。しかし、近年漁業従事者の高齢化が進むとともに、過疎化も進んでいることから、島内外から次世代の担い手を積極的に育成することが極めて重要である。そのために、与那国町の漁業従事者団体に支援を行い、新規・既存漁業者に漁業設備の貸出をすることで漁業経営の安定化を図る。	漁業従事者団体が、操業に必要な漁船等を新規・既存漁業者に貸し付ける場合の購入に対し支援の実施	漁業経営の安定確保 既存漁業従事者数の維持確保:32人	(今後の展開方針) 基準年(H25)漁業従事者:32人 H33年度漁業従事者数:40人	
2		与那国新製糖工場整備事業	H27	沖縄県含みつ糖製糖施設近代化事業を活用し、与那国製糖工場を新工場へと建て替えを計画している。しかし、沖縄県含みつ糖製糖施設近代化事業では、本体のみの工事となるため、事業敷地工事として必要な敷地内整備に係る工事(敷地内の舗装、排水、擁壁等の工事)を本事業にて実施する。	与那国町新製糖工場敷地の整備の実施(敷地整備面積:5,115㎡)	安全・安心で高品質な黒糖の生産 現状処理量 100t/日量 施設整備後処理量 50t/日量	(今後の展開方針) 平成28年度供用開始 基準年(H25)平均単収:4.4t さとうきび収穫反収向上 H27年度さとうきび生産量目標値: 5,300t H29年度 10aあたり:平均反収6トン	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

与那国町		計画 期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業 番号	事業名		H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足 説明等
3	教育環境充実事業	H24 ～ H33					
3	家庭学習支援モデル事業	H24 ～ H33	<p>本事業では、小中学生を対象とする家庭学習支援のため、既存の複合型公共施設に設置されているWeb会議システムを用いたオンライン双方向授業を行う「町営学習塾」を開設する。</p> <p>授業は現役東大生を講師とし、日本最高峰の学びを与那国の子供たちへ提供することにより、単に知識のみでなく、勉強の方法や学ぶ姿勢を身につける場を提供し、教育環境格差の大きい離島の地において、中央と同じ授業を受けることが可能な環境を整備する。これにより、U・ターンを阻害する要因である中央との教育環境の格差を解消し、人口の増加と地域の活性化を担う人材の育成を図る。</p>	<p>・学習塾受講率(中学生)H27年度: 60%(21名)全生徒35名 *基準年(H23):40%</p> <p>・学習塾受講率(小学生)H27年度: 60%(23名)全児童39名 *基準年(H23):0%</p>	<p>・各種学力テスト等において全国平均値の達成を目指す</p> <p>・平成26年度小学校全国学力学習状況調査結果(国語A'本町63.6 全国72.9 数学本町71全国78.1)</p> <p>・平成26年度中学校全国学力学習状況調査結果(国語A'本町81.7 全国79.4 数学本町65全国67.4)</p>	(今後の展開方針) ・受講率の向上により各種学力テストにおいて全国平均値を上回る環境の整備を図る。	
3	教育諸活動助成事業	H24 ～ H33	<p>本事業は、町内の児童生徒の各種大会派遣費(航空運賃等)を助成することにより、与那国に住む子供たちが持つ多様な能力・才能を発揮する機会を提供する。この住民負担の軽減により、貴重な経験を得ることができる機会をより多く提供し、本町の未来を拓く子供たちの能力向上を図る。</p>	<p>各種大会児童・生徒派遣費助成実施 小学校150人・中学校180人 基準年(H25) 小学校116人 中学校174人</p>	<p>各種大会児童・生徒派遣費助成実施 ・小学校150人(延べ数) ・中学校180人(延べ数)</p>	(今後の展開方針) 各種大会派遣費助成の実施 H27年度:330人(延べ数) H33年度:400人(延べ数) 各種大会への参加を通じ能力の向上を図る	
3	地域国際交流事業	H24 ～ H33	<p>本事業では、本町の姉妹都市である台湾・花蓮市への小学生のホームステイを行い、島の次世代を担う青少年に異文化交流と体験学習を深めることにより、国際的な広い視野と高い語学力を持つ人材を育成を図る。</p>	<p>・台湾「花蓮市」へホームステイ児童13人を派遣</p>	<p>・派遣語、アンケートによる意識調査。(小6年生13名)</p> <p>・学力向上推進実践報告会:ホームステイ報告</p> <p>・異文化に対する理解力、適応力、外国人とのコミュニケーション能力を備えた人材の育成</p> <p>・アンケート調査等の実施により意識の向上を図る。</p>	(今後の展開方針) ・ホームステイ派遣生徒数(累計)H33年度:130人 ・異文化とのふれあいを通じ国際的な視野を持つ人材の育成を図る	
3	与那国町ジュニア海外語学研修派遣事業	H24 ～ H33	<p>本事業は、町内の中学生を対象として、ジュニア期の早い時期に欧米への語学研修(短期ホームステイ)の支援を行う。ジュニア期の語学研修は、海外での生活体験を通して外国語への学習意欲を喚起する。また、国際交流を通して地域文化を見つめ直す機会を提供することになり、豊かな国際感覚を身につけた人材の育成、及び町の将来を担う人材の育成を図る。</p>	<p>海外語学研修派遣生徒数:4人(アメリカ)</p>	<p>・派遣語、アンケートによる意識調査、進路先調査の実施(中学生4名派遣)</p> <p>・異文化に対する理解力、適応力、外国人とのコミュニケーション能力を備えた人材の育成</p>	(今後の展開方針) 帰国後の体験発表会を通して英語学習の意欲向上、異文化への関心等について町内中学生への波及を図る。	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

与那国町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
パ	細				H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
4			地域文化の継承と生涯学習支援事業	H24 ～ H29					
4			与那国方言保存継承支援事業	H24 ～ H29	本事業は、2009年UNESCOに消滅危機言語として登録された与那国語の記録保存と伝承、再活性化を目的とし、主として辞書作成を行う。並行して、保存継承のための企画を展開して衰退しつつある言語の使用を推奨する。	方言辞典作成に向けた資料の収集、保存、記録活動、方言イベント2回、講座(講演会)6回、わらべ唄CD作成。	・方言資料の集約 ・方言イベント200人(100人×2回) ・基準年度:H26年度40人(方言カルタ大会) ・講座(講演会)180人(30×6回) ・基準年度:H26年度120人(講演会、ワークショップ)	(今後の展開方針) 方言を次世代に継承する能力を備えた人材を育成し、町民が主体となって、辞書作成、言語、人、文化の記録、方言の保存・継承を展開する。	
4			与那国島歴史文化交流支援事業	H25 ～ H27	台湾花蓮市との様々な交流の歩みを記録まとめ、現存している与那国島の明治時代から現代までの記録写真を展示するなど、与那国島に関する多種多様な資料を島内外へアピールすることを目的とする資料館及び観光の拠点施設として「与那国島歴史文化・交流資料館」(仮称)を整備する。	・与那国島歴史文化交流資料館の建設工事(鉄筋RC造、一部木造、平屋建・敷地面積:2,543.13㎡、建築面積:579.52㎡) ・建築工事、電気設備工事、機械設備工事、人材育成業務、監理業務、展示設備工事、備品購入	前年度に引き続き整備工事を実施しH27年度末の供用開始を目指し新たな観光交流資料館としてスタートする。 ・施設整備工事の継続実施 ・年度内に供用開始 ・ラボ体験スタッフの育成 ・与那国島歴史文化交流資料館の建設工事:1棟 ・与那国島歴史文化交流資料館の完成:1棟 ・建築工事、電気設備工事、機械設備工事、展示設備、備品購入完了 ・27年度中に供用開始	(今後の展開方針) 平成27年度中に供用開始 与那国島の歴史的背景から他にはない文化や、国境の島としてそこに生活してきた人びとの足跡を発信する場を整える。	7月変更 (計画変更に伴う各目標変更)
5			安心・安全のまちづくり支援事業	H25 ～ H33	就学前児童及び生徒を対象として、教育課程に係る教育時間終了後に公共施設の一室を利用して、子どもにとって安心・安全な場所を設け、遊びの場を提供し、保護者の子育て支援する。	子育て支援臨時職員の雇用 臨時職員雇用:2人	・預かり人数 27名以上 (平成26年度 25名～27名)	(今後の展開方針) 保護者の子育てを支援し定住促進を図る。	
6			少子高齢化対策事業	H24 ～ H33	本町唯一の医療機関である与那国診療所には、各専門医がないため、出産または専門医療を受けるためには、海で離れた石垣島の病院へ通院する必要がある。そのため妊娠から出産までに必要となる渡航費等の費用について支援を行う。	妊産婦定期健診の実施 妊産婦一人当たり受診回数:12回/人	・支援人数 20名 (平成26年度 19名)	(今後の展開方針) 一人でも多い子供を産み育てる環境を整える。 平成33年25名程度	

H27活動目標(指標):平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H27成果目標(指標):平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成27年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

与那国町		計画 期間	事業概要		H27成果目標(指標)	備考	
事業 番号	事業名		H27事業内容	H27活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足 説明等
7	離島定住条件基盤整備事業	H24 ～ H33					
7	公共交通路線支援事業	H24 ～ H33	本事業は、地方バス運営に必要な費用を支援することにより、生活路線バスの安定的な運営を維持し、定住するための必要な条件整備すると共に、来島者の利便性向上を図る。	公共交通路線バス運行費用への支援	公共交通路線バス運行便数：2,555便/8,000人/年 H25年度2,540便/7,867人	(今後の展開方針) 安定的な運営を維持し、住民並びに来島者(観光客等)への利便性向上を図る。	
7	与那国町古民家活用型定住促進事業	H26 ～ H29	平成26年度与那国町古民家活用型定住促進モデル実施計画の成果に基づき、古民家解体並びに解体古材資源活用マニュアルの作成を実施し、町内建設事業者の関与を促進すべく、技能研修機会を事業に盛り込む。古材を重視した耐震補強、部材修理等を含め、古い建築技術と現代の建築技術を融合させた設計監理業務、定住促進住宅整備工事を実施する。	・古民家活用型定住促進体験住宅の建築 ・古民家解体及び移築設計マニュアルの作成	・本年度は、実施計画に沿って古民家解体マニュアル作成、設計管理業務、促進住宅整備工事を完成する。 ・古民家活用型定住促進体験住宅を完成させ次年度の実施に向けて整備をつなげる。	(今後の展開方針) 実施計画にのっとり、体験用住宅1棟、定住促進型(グループシェア用住宅)1棟、定住促進型(家族定着用住宅)1棟の整備図り、1ターン・Uターンの受け皿、及び交流型観光に繋げる。	
8	防災安全基盤強化事業	H27					
8	与那国町緊急車両(消防車)導入事業	H27	町内で発生する災害への町消防団の対応力を強化し、被害状況の解消、または拡大抑制のため当町の実情に合わせた装備を整備すると共に、在任者・来島者の災害時の不安解消を図る。	緊急車両(消防車)の導入	緊急車両(消防車)導入完了：1台	(今後の展開方針) 地域防災の強化による住民及び観光客等の安心・安全の確保を図る。 平成28年度配備	10月変更 (事業追加)
8	与那国町災害時非常用発電装置導入事業	H27	台風接近等の災害警戒時又は災害発生時の長期停電に対する電源確保、災害警戒(対策)本部の設置される庁舎と住民への災害情報伝達に最も使用される町防災無線設備に非常用発電機を整備する。	非常用発電装置の導入	非常用発電装置の導入完了 ・与那国町役場庁舎内：1基 ・久部良岳町防災無線設備：1基	(今後の展開方針) 地域防災の強化による住民及び観光客等の安心・安全の確保を図る。	12月変更 (事業追加)

H27活動目標(指標)：平成27年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを。

H27成果目標(指標)：平成27年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。